『真の生命の書』

神の師の教え

第VII巻

教え 175～207

『真の生命の書』出版事業

全12巻からなる『Libro de la Vida Verdadera（真の生命の書）』は、全人類への遺産であり、メキシコシティの「Secretaría de Educación
Pública」に、登録番号26002、20111、83848として登録されています。

スペイン語版原著に関する詳細情報：
アソシアシオン・デ・エストゥディオス・エスピリチュアレス・ヴィダ・ヴェルダデラ、A.C.
Apartado Postal 888, México, D.F., - C.P. 06000

ドイツ語訳およびドイツ語版の序文の責任者：
解説、脚注、
注釈および解説の責任者：
ヴァルター・マイヤーおよびトラウゴット・ゲルテンボート。

2017年1月現在

編集（新正書法およびレイアウト）：
Buchdienst zum Leben
マンフレッド・ベーゼ
キルヒヴェーク5
D-88521 エルティンゲン

電話：+49 (0) 7371 929 66 42
Eメール：manfredbaese@gmx.de

『真の生命の書』は、この版を基にDeepL Translatorを用いて多くの言語に翻訳されています。

これらは、ゴットホルト・ゲルテンボートによって翻訳され、ライヒル出版社から出版された、著作権を有する真正かつオリジナルの著作物です。これらは本来の純粋な形で保存されなければならず、改変してはなりません。改変することは罪であり、神の裁きを招くことになります。

キリストは、これらの書物がすべての民族や国々に利用できるようになるために、著作権は存在してはならないと告げられました。

この取り組みの責任者は、これらの著作物の所有者である主イエス・キリスト、すなわち私たちの神の委任を受けたアンナ・マリア・ホスタです。

（Eメール：hoanna64@yahoo.com　）

DeepL - ダウンロードリンク：www.DeepL.com/Translator（ビジネス版）

DeepLは現在100以上の言語に対応しており、デスクトップにダウンロード可能です。翻訳にはインターネット接続が必要で。

Bookmundo出版社より刊行
第2号 - 2026年
ISBN:

目次

『真の生命の書』 1
教え 175 10
教え 176 22
教え 177 33
教え 178 43
教え 179 55
教え 180 69
教え 181 82
教え 182 95
教え 183 107
教え 184 118
教え 185 127
教え 186 136
教え 187 146
教え 188 157
教え 189 169
教え 190 181
教え 191 192
教え 192 204
教え 193 215
教え 194 225

教え 195 236
教え 196 249
教え 197 260
教え 198 270
教え 199 281
教え 200 292
教え 201 302
教え 202 311
教え 203 320
教え 204 331
教え 205 342
教え 206 352
教え 207 361
目次 373
メキシコにおける神の教え 1866-1950 382

序文

神は、その限りない愛をもって、いつの時代も人々に御自身を現し、霊的成長への道を示してこられました。聖書の時代、すなわち「第一の時代」には預言者たちを通して、第二の時代にはイエス・キリストとその使徒たちを通して、そして現代である「第三の時代」には、いわゆる「御声の伝達者」――つまり、神を信じる素朴な人々――を通してです。 その準備は1866年にメキシコで始まり、1884年からは庶民の人々が集まり、質素な集会所で毎週日曜日、神の御言葉に耳を傾けるようになりました。

当初は、たった一か所に集まるほんの一握りの人々でした。1950年の終わり頃には、メキシコ国内の100か所以上の異なる集会所で、毎週日曜日に神の御霊が現れるようになりました。

この種の啓示は、以前から幾度も予告されていた通り、1950年12月31日に終焉を迎えました。過去15年間、主のこれらの御言葉は速記され、記録として残されてきました。

この膨大な数の記録の中から、1950年以降に計366件が選定され、1960年代初頭に全12巻からなる『*Libro de la Vida Verdadera*（*真の生命の書*）』として刊行された。

メキシコにおける神の啓示の誕生に関する詳細情報や歴史的背景については、同著作の第1巻、およびユニコン財団の著書『*「真の生命の書」入門*』に記載されています。

以下に紹介する原文の抜粋は、読者の皆様に本書の重要なテーマのいくつかを初めて垣間見てもらうものです：

私は、戦争の報せや出来事、そして私の到来を予告していた兆しの中にあって、人々のもとに戻ってきました。それにもかかわらず、人々は私を感じ取ることができませんでした。 この静寂と貧しさ、この地の片隅（メキシコ）において、私は今、人間の知性を通じて私の言葉を響かせ、人々を呼び寄せ、彼らを新しい命へと目覚めさせ、私の説得力に満ちた愛に満ちた教えによって彼らを刷新し、彼らの内に眠る能力を呼び覚まし、主を従う道へと彼らを高めようとしている。

私は、この時代、かつてないほど激しい宗教的狂信と偶像崇拝に囚われているあなた方を見出し、同時に、あなた方の魂がこれまで以上に美徳に乏しい状態にあることを、告げざるを得ない。
さて、あなたがたは年々、この啓示を通じて私を聞いてきたが、今、私は問う。私が自分の人生の指針を破壊したと感じる者はいるか

。混乱を感じている、あるいは自分のキリスト教の信仰が破壊されたと見なしている者はいるか。まことに、私はあなたがたに告げる。私がかつて明らかにした事柄を、あなたがたが忘れてしまったり、歪めてしまったりしていたため、ただそれを思い出させたに過ぎないのだ。 人々があなた方から隠していたことを、私は明るみに出し、私の秘蔵の宝庫に保管されていたものを、あなた方に明らかにした。この時代は、霊的な自由の時代である。人々は自らの霊によって啓発され、確かな道を選ぶことを理解するようになるだろう。（188、33-35）

この啓示を、人々が自らの意志で作り出すもの――ある者は科学に、ある者は好奇心に、またある者は迷信的な考えに駆られて作り出すもの――と混同してはならない。（188, 45）

わたし、父は、愛と赦しの懐から誰一人として拒絶したことはない。誘惑に惑わされ、深淵へと転落した者たちでさえもだ。わたしは誰一人として呪ったことはない。地上においても、「霊的な谷」においても、守られることのない存在などいない。 あなたがたのうち、誰が罪人であり、私の慈悲を受けるに値しないという理由で、私の懐から追い出されることがあろうか。私は、良心の声による呼びかけに耳を傾けなかったために、私の神聖な御霊の光を受け入れることができなかった、頑なな罪人の心の中にさえも生きているのだ。 あなたがたは、その者の悪行の連鎖のために、私が彼から遠ざかったと思うのか？ いいえ、決してそうではない。私はすべての被造物の父であり、私の子供たちを一人たりとも拒むことはない。私は愛そのものであり、慈愛に満ちた父として、私の民である誰一人として見捨てたりはしない。

迷える者のために祈り、私の霊の光がその魂を照らし、彼が目覚め、誘惑の束縛を断ち切り、彼を盲目にしてきた闇を追い払うよう願い求めるのは、あなた方の役目である。（206、36-37）

霊性主義の良き種蒔き人たちは、決して外見的なものや物質的なもので際立つことはない。彼らには、見せかけの振る舞いや徽章、あるいは特別な話し方などはない。 彼らの振る舞いのすべては、質素で簡素なものとなるだろう。とはいえ――もし彼らが何かによって際立つとすれば、それは彼らの実践的な隣人愛と、その霊性によってである。 スピリチュアリズムの真の説教者たちは、雄弁さによってではなく、その言葉の知恵と簡素さによって、そして何よりも、彼らの行いの真実さと、その生活の正義によって際立つことになる。

私が地上で、大勢の人々の心を捉えるために、外見的に美しい話し方を必要としなかったことを思い出してください。むしろ、私は愛と真実、癒しの力、そして知恵によって彼らの心に届くことを知っていたのです。これこそが、私の意志に従って、あなたがたが心に留め、従うべき模範なのです。 また、私はあなたがたが信仰の実践を物質的な礼拝の場に限定することを望まない。そうすれば、あなたがたは自らの魂を束縛し、永遠を勝ち取るためにその翼を広げることを許さなくなるからだ。

私があなたがたに残し、私が期待する礼拝を捧げるための祭壇とは、いかなる制限もなく、あらゆる宗派、あらゆる教会や分派を超越した「生」そのものである。なぜなら、それは霊的なもの、永遠なるもの、神聖なものに根ざしているからである。（194, 24-28）

私は、魂にとって神へと至る道となる宗教が地上に存在することを許してきた。善と愛を教え、慈悲を称えるあらゆる宗教は、光と真理を含んでいるゆえに良いものである。しかし、人々がその中で萎縮し、本来善であったものを悪へと変質させてしまうならば、その道は物質主義と罪の下で失われてしまう。

それゆえ、私はこの時代に、道であり、生命の真髄であり、法である私の真理を、改めてあなたがたに示す。それは、あなたがたが、形式や儀式を超え、あらゆる人間的なものを超えて、灯台であり導きの星であるこの法を求めるためである。このように私を求める者は、スピリチュアリストとなるであろう。（197、10-11）

人々の精神が物質主義、伝統、偏見、そして狂信を超越したとき、宗教の統合が訪れるだろう。その時、人々は一つの礼拝、すなわち神と隣人への愛に基づく善の礼拝において、霊的に一つとなるだろう。 これが実現すれば、人類は完成への時代へと踏み出すことになる。それゆえ、私はあなたがたに、善く、誠実な行いを通じて私の業を示すことを求める。

あなたがたが、これらすべての実現をこの目で見届けることはできなくなるとしても、それを悲しむ必要はない。しかし、あなたがたは間違いなく、平和の王国を築くために自らの種を蒔き、それに貢献したという満足感を得ることになるだろう――その種は、来るべき世代の心の中で実を結ぶことになるのだ。（187, 43）

私は、あらゆる場所、あらゆる国、あらゆる大陸に光が現れる時が来るだろうと、皆さんに伝えてきました。 その光は、人間の霊的修養に応じて輝きを放つでしょう。しかし、それによって、創造に関する新しく、より的確な観念、すなわち霊性に関する新た

な概念が形成されることになります。このようにして、霊的・精神的発展の新たな段階が始まるのです。（200, 41）

教え 175

1. わが霊の光は、あなたがたの本質に宿るあらゆる賜物を明らかにするために到来した――あなたがたが、その起源から気づかぬまま内に抱いてきたすべてのものを。今こそ、あなたがたが真に自分自身を認識し、自らを発見し、自らの遺産が何であるかを体験し、それによって霊的に偉大となる時が来たことを、わたしはあなたがたに知らせた。

2. 時折、私はあなた方に啓示を与えてきました。最初は律法であり、その後、私の教えであり、そして最後に、あなた方の霊的使命に関する完全な知識でした。

3. あなたがたは、私が三度、人々の間に現れたと言うが、正しいのは、私が常にあなたがたと共にいたということである。私は、第一の時代に人々に正義の律法を啓示し、第二の時代に御子イエスにおいて「御言葉」を人として現し、そして今、霊的にこの世に自らを現している、その父である。 こうして私は、時代を超えて、あなた方に神聖なたとえ話を与えました。その真意は、あなた方の霊的成長に語りかけ、あらゆる時代にあなた方に語りかけてきた存在が、ただひとりの神、ただひとりの霊、そしてただひとりの父であったことを知らせるものです。

4. あなたがたは、私がこの時代の人類に霊的に現れることで、何を成し遂げようとしているのかと私に問う。それに対し、私はこう答える。私が求めるのは、あなたがたが光へと目覚め、霊化され、そして、あらゆる時代において分裂していたあなたがたが一つになることである。 というのも、ある者たちが霊の宝を追い求めてきた一方で、他の者たちはこの世の富への愛に没頭してきたからです――霊性主義と物質主義は絶え間ない争いを繰り広げており、霊性主義者と物質主義者は互いに理解し合うことが決してできなかったのです。

5. 思い出してください。イスラエルがメシアを待ち望んでいたとき、その姿を
、私の真理を信じる者と否定する者に分裂した。その理由は単純だ。霊によって私を待ち望んだ者たちが信者であり、「肉」の感覚によって私を待ち望んだ者たちが私を否定したのである。

6. この二つの力は、この葛藤から真理が明らかになるまで、再び対立せざるを得ないだろう。その戦いは熾烈なものとなるだろう。なぜなら、時が経てば経つほど、人々は地上のものをますます愛するようになるからだ。彼らの科学や発見は、*自分たちが*独自の

王国、自分たちで作り出した世界に住んでいるという感覚を彼らに与えているからである。

7. 今日の人々は、その影響力を拡大し、地球全体を支配し、縦横無尽に駆け巡っている。もはや未知の大陸、国、海など存在しない（ ）。彼らは陸、海、空に道を開いた。しかし、自分たちの惑星に受け継いだものに満足することなく、さらに広大な支配領域を渇望して、大空を探検し、探求し続けている。

8. 私は子供たちの知識への渇望を祝福し、彼らが賢く、偉大で、強くなろうとするその努力を、心から喜んでいる。しかし、私の正義が容認しないのは、彼らの野心的な目標の根底にしばしばある虚栄心、あるいは時折彼らが追求する利己的な目的である。

9. 私は、人々が知識を増やすことを妨げることもなければ、科学の光を彼らから隠すこともない。 私が人間の種を大地に植え、成長し、増えよと命じたとき、私はまた、人間に「地を支配せよ」とも告げた。すなわち、人間は、周囲に存在するあらゆる被造物の中で、人間の法と神の正義を知り、美徳を育む意識ある存在となり、すべての被造物と元素が調和してその周りを巡るようになる、と。

10. 人間は、この地上での歩みを始めて以来、どれほど調和からかけ離れた生活を送ってきたことか！ そのことは、絶え間ない転落、耐え忍んできた尽きることのない苦難の杯、そして平安の欠如によって証明されている。

11. 今、私はすべての人類に向けた新たな教訓を授ける。私の到来を待ち望んで祈ってきた者は皆ではない。しかし、苦しみこそが彼らを目覚めさせ、私を受け入れる準備を整えてきたのである。

人類はすでに、第二の時代以来、イスラエルの民が残した経験を持っている。それゆえ、誰も神の正義を疑うような意図を抱くことはないだろう。 主の到来を切望し、主から希望と知識の光を受け取ろうとした「霊的に貧しい者たち」に、預言の賜物、神聖な知恵、そして霊的な力が与えられたことを、あなたがたは知らないのか。

もしあなたがたが、それらの魂たちの行方を私に尋ねるならば、私はこう答えるだろう。彼らは今や、この惑星に存在するあらゆる壮大なものが、彼らの目にはただの土の塵のように映る住処に住んでいる、と。 しかし、もしあなたがたが、私の言葉や約束が貧弱に見えたために私の王国を受け入れなかった者たちに何が起きたのかと私に問うならば、私はこう答えるだろう。彼らは、魂が完

全に発達するまで転生と輪廻を繰り返す者たちの一員である、と。なぜなら、彼らは金と権力を求めたからであり、 、彼らの霊的な償いとして、疑わしい富と偽りの権力に満ちたこの世界が、当然のことながら彼らに与えられたのである。彼らは神の正義によって罰せられたが、真実の王国へと続く救いの道から決して追放されたわけではない。

それゆえ、今日、私があなたがたに私の霊の光を豊かに注ぐこの時、私は彼らをたゆまず探し求め、彼らに、彼らに課せられた試練の時はもう十分であることを理解させ、今こそ「第三の時代」、すなわち、私がユダヤ民族の裁きについて語った際に言及した「時代が終わりを迎える時」であることを悟らせるつもりである。

12. あなたがたは皆、わたしとの「約束」を持っており、わたしに耳を傾けるために集まらなければならない。なぜなら、あなたがたは皆、わたしの言葉に耳を傾けなければならないからだ。

13. すべては、まだ裁かれていないすべての行いが量られる、私の正義の天秤の上に載せられる。私の臨在と私の力は、かつてないほどに顕著に現れるだろう。なぜなら、混沌の後に、すべてのものは正しい軌道へと戻らなければならないからである。

14. 民よ、不意を突かれないよう、絶えず祈り、見張っていなさい。しかし、まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが見張り、この世のために祈るならば、あなたがたを護る目に見えない外套が現れるだろう。それは、あなたがたが隣人を愛し、その痛みを自分のことのように感じてきたからである。

15. もう一度言っておくが、わたしは自分の臨在と力と正義を、はっきりと感じさせるであろう。もし、人間がその邪悪さゆえに、人生における聖なるものをすべて冒涜することを許したとしても、わたしは彼らの堕落に一線を引くであろう。 私が、人間の自由意志の道に沿って彼を歩ませたのであれば、私は彼に、彼に関するすべてには「ここまでで、それ以上は許されない」という限界があることを証明してやる。私が、彼がこの世で権力と偉大さを追求することを許したのであれば、私はその道の途中で彼を止め、彼が自分の行いを良心を通じて見つめ直し、私の問いに答えられるようにする。

16. 私は、痛み、破壊、そして死があなた方の生活の中で実感されることを許した。それは、こうした苦い果実を通じて、あなた方が育ててきた木の種類を理解させるためである。 しかし、私はまた、その痛みが消え去り、魂が安らぎと省察を取り戻せるよう導く。なぜなら、そこから創造主への愛の賛歌が湧き上がるべきだ

からである。「人々が互いに愛し合い、その精神を『 』の白い昇華の衣で包む日が来る」と語られ、また書き記されてきた。

17. すべての者が救われ、すべての者が赦され、すべての者が慰められる。それでは、死とはどこにあるのか。永遠の破滅や果てしない地獄とはどこにあるのか。

18. わたしは死も地獄も創造しなかった。なぜなら、わたしの霊が創造の思念を抱いたとき、わたしが感じたのは愛だけであり、わたしの懐からは生命のみが生まれたからである。もし死や地獄が存在するとすれば、それは人間の業に他ならないだろう。なぜなら、それらは哀れなものだからだ。そして、人間的なものは何一つ永遠ではないことを、あなたがたはすでに知っている。

19. まことに、わたしがあなたがたに告げる。わたしの言葉が声の媒体を通じて聞こえるその瞬間、この民の霊だけでなく、「霊的な谷」において同様に神の光を必要としているすべての存在たちもまた、震え上がるのである。

20. 彼らには人間の言葉の音は届かないが、私のメッセージの意味と霊感は確かに届く。なぜなら、私の声は普遍的であり、その反響は、神の子が住むすべての世界や住処に届くからである。

21. わたしはあらゆる世界へと、わたしの光の一筋を送り出している。あなたがたには、この光を人間の言葉という形で送ったが、他の住処には、霊感を通じて届くのである。

22. この神聖な光の輝きの中で、今やすべての魂は一つに結ばれるだろう。彼らはその光から天への梯子を作り、それによって、私の神性の霊的な一粒であるあなたがたすべてに約束されている霊界へと導かれるのである。

23. 地上においてあなた方と物質的なつながりを持っていた、そして今やこの世の彼方で生きているすべての存在たちが、自分たちの声が地上でも聞こえていることを知ったとき、どれほど歓喜するかを想像してみてください。彼らはあなた方から背を向けたわけでも、あなた方を忘れたわけでもなく、この地上の谷間にまだしばらく留まっている人々のために祈ることを怠ることもありません。 彼らの慈愛と祝福は、常にあなた方と共にあります。

24. そこには、かつてはあなたの両親、子供、兄弟姉妹、配偶者、友人、あるいは恩人であった者たちが住んでおり、今や霊的存在として、単にあなたの兄弟姉妹となっているのです。しかし、あなたへの彼らの愛は以前と変わらず、あるいはさらに深まっており、あなたを助け、守る力も同様です。

25. 皆さん、彼らのために祈ってください。彼らを愛し、彼らのことを思い続けることを決してやめないでください。なぜなら、皆さんの思いやりと祈りは、彼らの苦闘における甘美な慰めとなるからです。 決して、彼らが動揺していたり、暗闇の中に住んでいると想像してはなりません。それは、あたかもあなたがたが彼らに対して な裁きを下す権限を持っているかのように感じることに他ならないからです。この地上の人々は概して、隣人の事柄を正しく判断するにはあまりにも不完全で不公正なのです――それなのに、どうして彼らが霊的存在に対して裁きを下すことができるというのでしょうか？

26. もう一度言っておくが、あなたがたにふさわしいのは、この世での祈りと善行を通じて彼らを支えることだけである。

27. 彼らが、脳を使うにせよ、その他の方法にせよ、何らかの物質的な形であなた方の生活の中に現れることを求める必要はない。そうすることは、私があなた方に教えた霊性を否定することになるからだ。また、彼らを呼び求めるために、一年のうち特定の日にこだわる必要もない。 霊的な世界は地上の時間とは無関係に存在していることを心に留めておきなさい。それゆえ、あらゆる瞬間が、霊的な祈りを通じて彼らに近づくのにふさわしい時となり得るのです。

28. あなたがたがしばしば「苦難に遭っている」と信じてきた存在たちのうち、どれほど多くの者が、地上にいたときには自ら見つけることができなかったこの光への道を、あなたがたに近づけるために戦ってきた者たちであるか。 ですから、彼らのために泣いてはなりません。ましてや、彼らが「霊界」へと旅立ったからといって、悲しむべきではありません。彼らは「死んだ」のではなく、ただ、*あなたがたが*旅立たなければならないその時より、ほんの少し先に進んだに過ぎないのです。彼らがあなたがたのために道を整えることができるよう、私はそう定めたのです。

29. 民よ、私は本当に、あなたがたに「墓地には行くべきではない」と、また「墓の前で流す涙は、無知と物質主義、そして頑固さから来る涙である」と告げなければならないのだろうか。

30. あなたがたが泣いている人々の魂は生きている。しかし、あなたがたは、地中に消え去ったあの肉体の中にいる彼らを、死んだものだと固く信じ込んでいる。 あなたがたは彼らを「失われた」と見なしているが、彼らは愛に満ちてあなたがたを待ち、真理と命について証しをしようとしているのだ。あなたがたは、彼らが遠く離れていたり、あなたがたの苦闘や苦難に対して無感情で無関

心であると思い込んでいるが、彼らがあなたがたのためにどれほど多くの障害を取り除き、どれほど多くの危険から救い出しているかを知らないのだ。

31. 無知は、あなた方を自分自身や他者に対して無情に、さらには残酷にさえさせます。しかし、私はこう言わざるを得ません。私の教えの説教を一つでも聞いた者が、どうしてまだ無知であり得るでしょうか。

32. わたしの言葉は、あなたがたすべてを包み込み、あなたがたがわたしの愛の炎の中で一つであり続けるための光の束である。あなたがたがこれを聞いて信じ、実践するならば、 その瞬間から、わたしを愛し、わたしを信じ、わたしを賛美するすべての人々と一つとなるだろう。

33. わたしは教えの中で、地上の生活は魂の苦難の道であり、地上の存在の終わりは魂のゴルゴタであると語った。それは、あなたがたがわたしの模範となる行いを手本として、わたしに従うよう努めるためである。

34. 信仰と徳をもって頂点に到達する魂たちは幸いである。なぜなら、彼らが肉体を脱ぎ捨てるその瞬間、彼らの強さと愛への報いとして、父の愛撫を受けるからである。これこそが、つまずくことなく永遠へと入っていく者たちである。

35. この時代におけるわたしの言葉は、人々がわたしの律法と教えの真意を理解する助けとなるだろう。人類から与えられるかもしれない称賛は、彼らに至福や心の安らぎ、魂の平安をもたらすことはない。なぜなら、完全な幸福は、魂が本来属すべき故郷においてのみ見出されるからである。 あなたがたには、善を行い、隣人のために役立つ機会がどれほど多くあることか！どの家庭も、わたしの種を蒔くのにふさわしい畑である。どの都市も、どの民族も、慈愛と愛を渇望する土壌のようで、わたしはあなたがたを種蒔き人として、愛と慰めをもって世界を潤し、平和の種を蒔くようにしたいと願っている。

36. 行い、言葉、そして祈り――これらは、あなたがたが同胞に奉仕し、彼らを愛するという使命を果たすために、用いることができ、また用いるべき手段である。

37. わたしは、あなたがたに完全な祈りを教えた。それは御霊の真の言葉であり、人間をわたしと直接結びつけるものである。

38. わたしは、霊の中に存在する光と、心の中に結ばれる愛の表現である「言葉」という賜物を、あなたがたに与えた。

39. わたしに耳を傾ける民よ。わたしがあなた方に求めすぎているなどと言ってはならない。あなた方が何ができるかについては、あなた方自身よりも、わたしの方がよく知っているからだ。今日、あなた方は自分自身の内面を見つめ、他者の痛みに共感できない多くの弱さや欠点を見出し、弱く、不器用で、無力で、ふさわしくないと感じている。 しかし、私はまずあなた方を癒やし、私の平安を感じさせて、あなた方の心を強め、あなた方の道を整えてあげよう。そうすれば、あなた方はもはや恐れも、疑いも、無力感も感じなくなるだろう。

40. それゆえ、私はあなたがたに、私の声を聞き、私の言葉によって徐々に力を得るための時間を与えてきた。まだ、あなたがたの使命を果たすために、広大な地へ に送り出すことはしていない。しかし、あなたがたの霊が私の本質で満たされたとき、旅立つために証拠やしるしを待つ必要はない。なぜなら、霊はインスピレーションを通じて、何をすべきかを受け取るからである。

41. 民よ、祈りなさい。あなたがたが祈る間、わたしは地上のすべての民に平安を降らせ、あなたがたの家を祝福し、あなたがたの道を照らすであろう。

42. わたしがあなたがたに約束したことはすべて真実であることを、その証拠をあなたがたに示そう。それはどのような証拠だろうか。それは、あなたがたが長い間待ち望んできたこと――ある人々にとっては決して手に入れることのできないようなこと――が、あなたがたの人生において現実のものとなるのを見ることである。 私が授けるその恵みは、ある者たちにはすぐに届くでしょうが、他の者たちにはまだ待たせることになるでしょう。しかし、まことに、あなたがたに言います。私の愛の証しを受け取らない者は、一人もいないのです。その恵みがあなたがた一人ひとりに届いたとき、あなたがたは私の言葉を思い出し、信仰はさらに深まるでしょう。

43. 絶望してはならない。涙を流してはならない。私の教えに従って生き、祈り、見張りを続けながら、その時を待つことを学べ。

44. あなたがたが魂を高揚させるこれらの瞬間に、苦しみは忘れ去られ、わたしの平安に満たされるのを見ないか。常にわたしのそばにいるよう心がけ、わたしの教えに従いなさい。そうすれば、あなたがたの運命の試練や苦難の上に、わたしの平安と光が勝利することを目にするだろう。

45. あなたがたの苦しみは無駄ではないことを理解しなさい。あなたがたには、私の種を蒔く者たちの仲間入りができるよう、心と体を律するという使命があるのだ。

46. 人々に慰めをもたらし、倒れた者を立ち上がらせ、弱き者に力を与える者たちは、経験の光に照らされ、闘いと試練の中で強くなっていなければならない。 いかなる苦痛の姿にも怯えてはならず、隣人の不幸の前で震えてはならず、慈悲を懇願して人々が手を差し伸べてくる時、いかなる痛みからも退いてはならない。

47. そこで、悪徳と苦痛によって心が硬くなってしまった人々の間でも、再生と精神化を渇望して、多くの者が光へと立ち上がるのを見ることになるだろう。しかし、そのインスピレーションが彼らに届くためには、あなたがたは彼らの心に、真の兄弟愛の証しを植え付けなければならない。それは、そうした人々の闇を照らす一筋の光となるような行いである。

48. ですから、さまざまな形であなた方を伴ってきた苦しみこそが、困難な使命を遂行するために、あなた方の魂を内面から形作ってきた彫刻刀であったことを理解しなさい。

49. 私がこの第三の時代にあなたがたに与えた教えは、過去の時代の教えと結びつくべき新しい契約である。― なぜなら、これら三つは一つの啓示を成しているからである。

50. 私の光は、私の教えすべてをたった一冊の本にまとめ上げるよう定められている人々の知性を照らすであろう。

51. 私の霊的な僕たちは、その書物に一点の欠点も存在しないよう、選ばれた者たちの手を導くであろう。

52. この信仰共同体で生じてきた対立、議論、そして不和は、あなたがたがその書の研究に没頭し、わが業の真理を理解するようになれば、消え去るであろう。

53. 今日、あなたがたは、その不和が自分たちにどのような結果をもたらすか、まだ気づいていない。しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。明日、あなたがたはそのことを嘆き悲しむことになるだろう。わたしは、あなたがたに、考えと行動、そして魂の一致を何度求めてきたことか。それにもかかわらず、あなたがたは、そのたびに、わたしの神聖な助言に耳を傾けなかったのだ！

54. わたしは、あなたがたがひとつの民となるよう導き、あなたがたに「新しいイスラエル」という名を授けた。わたしは、あなたがたが人生の道程や闘いにおいて、必要なすべてのものを備えられるよう、さまざまな任務と使命を与えた。それは、約束の地を

慕って荒野を旅した「最初の時代」のイスラエルに起こったことと同じである。 しかし、あなたがたはこれまで、わたしの使命を理解しようともしなかったし、あの民が文書として残した団結の模範――消えることのない模範――に目を向けようともしなかった。なぜなら、その道中で遭遇した逆境を打ち破ることができたのは、まさに彼らの調和と結束のおかげだったからだ。

55. 新たな「約束の地」があなた方を待っているが、まだそこからは遠い。あなた方は依然として広大な砂漠を旅しており、「ファラオ」の隷属から脱し、すでに律法を受け取っている。それにもかかわらず、あなた方は偶像崇拝を完全に捨て去ったわけではなく、自覚することなく「黄金の子牛」を崇拝している。

56. あなたがたが眠りから目覚めるためには、まず試練や抵抗、迫害に遭遇しなければならない。 そうして初めて、あなたがたは私の使命を果たす準備が整い、私があなたがたに啓示した業を見守ることに熱心に努めるようになるでしょう。 かつてイスラエルの民が律法を守るために幕屋と契約の箱を造ったように。なぜなら、試練こそが彼らを光へと目覚めさせたからです。

57. 今や、あなたがたの魂こそが幕屋となり、御霊こそが契約の箱となるべきである。そこにおいて、わたしの律法は主の民の道を照らすであろう。

58. この時代、モーセのようにこの民の先頭に立ち、奇跡によって彼らの信仰を強めるような人物は現れていない。しかし、ほんの少しの準備さえあれば、あなたがたは、この旅路においてあなたがたを導き、励まし、インスピレーションを与えてくれるエリヤの霊的な臨在を感じることができるだろう。

59. 私の言葉に耳を傾ける群衆は、今、涙を流している。彼らの嘆きの原因を知っているのは私だけであり、彼らがその道のりで遭遇し、足を止めさせられているあらゆる障害や困難を知っているのも私だけである。

60. 群衆よ、揺るぎなく立ち続け、わたしに忠実でありなさい。そうすれば、障害が取り除かれていくのを見るだろう。 ますます大きな誠実さ、純粋さ、そして完全さをもって祈り、働きなさい。そうすれば、あなたがたは使命を遂行する中で、人生の浮き沈みを乗り越えるための慰めと必要な力を見出すことができるだろう。そのように生きれば、あなたがたが最も予期しない時に、道が開け、つまずきの石が消え去るのを見るだろう。

61. あなたがたは、現在、小麦と雑草が隣り合って生えている私の畑である。刈り取りの時はまだ来ていない。しかし、その時

が来れば、あなたがた一人ひとりの行いが裁かれることになる。その時、私は地上の良き弟子たちを残し、一致と霊性の実を結ばなかった者たちをこの世から取り去るであろう。

62. 目を覚まし、わたしの言葉に耳を傾けなさい。わたしの極めて重大な任務と使命を授かったからといって、わたしの裁きが決して自分たちに及ぶことはないと思い込み、独善的になってはならない。 ダビデとソロモンを思い起こせ。彼らは民の目には偉大に見えたが、その偉大さに安住し、律法に背き、父に深く愛されているからには決して父の裁きを受けることはないと思い込んでいたが、やがて容赦なく、かつ賢明なわたしの神の正義が彼らに下るのを目の当たりにしたのである。

63. おお、民よ、新しい世代のことを考えよ。あなたの子供たちのことを考えよ。かつて、メシアの到来を受け入れることができるよう、その民を準備させた先祖たちがそうしたように。

64. 子孫たちのために祈り、思いやりと愛をもって彼らの道を整えなさい。彼らは、あなた方よりもさらに高き使命を に果たさなければならないこと、そして、彼らが従うことのできる霊性の道筋を見出せれば、それは良いことであることを理解しなさい。

65. その道しるべとは何でしょうか。それは、あなた方の生き方、あなた方の行いそのものです。

66. すべての魂は、その父に対して大きな罪を負っている。わたしがあなたがたに注ぐ愛と正義は、あなたがたに、この地上でわたしに対して自らの過ちを正し、霊的に償い、清められ、次の住まいへと進むことができるよう、新たな機会を与えたのである。

67. ああ、祝福された第三の時代よ、汝は、世界がその束縛から救われるために必要とするすべてのものの使者である。汝の光を利用する者たちは幸いである。彼らは救いを見出すであろう。

68. あなたがたの霊的な人生の旅路全体を通じて、わたしはあなたがたを導き、試練を与え、この時代の啓示に備えさせてきた。新しいイスラエルの民を立ち上げるのは人間ではない。それを形作り、清め、高め、その使命を果たすために世に送り出すのは、わたしである。 この民が成長し、準備を整える間、私はその前進のために道を整え、扉を開き、障害を取り除いていく。私がイスラエルをエジプトから救い出し、海と荒野を導いたときにも、まさにそうであった。

69. この民には、人類を霊的に目覚めさせるという使命がある。しかし、彼らがその使命を果たし、人々が自分たちが生きる時代を自覚するようになれば、あなたがたは、彼らの心から光への渇

望が、そして彼らの精神から向上への理想が湧き上がるのを見るだろう。それは、人間の生活の根幹を揺るがし、世界を一変させることになる。

70. 良心は聞き入れられ、従われるようになり、霊の呼びかけは理解され、魂の欲求は配慮され、尊重されるようになる。そして至る所で、神を知り、神を感じ、神に近づき、神の真理を広めたいという燃えるような願いが輝き出すだろう。

71. これらの預言は、人々の霊的な飢えと渇きが彼らの忍耐力の限界まで達したとき、彼らが謙虚な誇りをもって主の前で自らの罪を告白したとき、彼らが、私を無視しようとし、私を裁き、否定してきた王座や裁判官の席、栄誉の座から降り、 そして、自らの過ちを悔い改め、彼らは私へと目を向け、まるで子供のように私に語りかけるだろう――何世紀にもわたって彼らを待ち続けてきた父へと。

72. 人間は、いかに深く唯物主義の深みへと堕ちてしまったことか。ついには、万物を創造された御方を否定するに至ったのだ！ 人間の知性は、どうしてこれほどまでに曇ってしまっていたのか？ なぜ、あなたがたの科学は、私を否定し、生命と自然を冒涜するようなことを、あのように行えたのか？

73. あなたがたの科学が発見するあらゆる事象の中に、私は存在している。あらゆる事象において、私の法則が明らかにされ、私の声が聞こえるはずである。どうしてこれらの人々は、感じず、見ず、聞かないのだろうか。 私の存在、私の愛、そして私の正義を否定することが、果たして進歩や文明の証なのだろうか？ それならば、あなた方は、あらゆる自然の力や自然の奇跡の中に、神聖で、高尚で、賢明で、公正で、力強い存在の業を見出し、存在するすべてのものの中のあらゆる善をその存在に帰し、それゆえにそれを崇拝していた原始人よりも、一歩も進んでいないことになる。

74. 彼らは、高まる知性によって、肉体の感覚が捉えたものを理解しようと努めた。彼らが私に捧げ得た崇拝など、どれほど不完全なものだっただろうか。彼らが真理について、どのような理解を持てただろうか。それにもかかわらず、彼らの驚嘆、信仰、そして崇敬は、私の霊が時代を超えて耕すべき広大な畑の最初の実として、私によって受け入れられたのである。

75. あの時から今日に至るまで――私は人類にどれほどの教えを与え、どれほどの啓示を授けてきたことか！ それにもかかわらず――人類はとっくに理解の頂点に達し、その宗教的実践も完全であるべきであるにもかかわらず、彼らの利己的で傲慢かつ非人間

的な科学は、わたしを否定するために肥大化し、既存の宗教的儀式は、慣習と伝統という眠りの中に沈んでいる。

76. 私はあなたがたに自由意志という賜物を与え、私の子供たちに授けたこの祝福された自由を尊重してきた。しかし、私はあなたがたの本質の中に、良心という神聖な光も宿らせた。それは、あなたがたがその光に導かれて、自らの能力を正しい道へと向かわせるためである。 しかし、私はあなたがたに告げる。魂と物質との戦いにおいて、魂は敗北を喫し、痛ましい転落を遂げ、それによって真理の源からますます遠ざかってしまったのだ。

77. しかし、その敗北は決定的なものではなく、一時的なものに過ぎない。なぜなら、魂が自らの飢え、渇き、裸同然の状態、そして闇をこれ以上耐えられなくなったとき、 、深淵の底から立ち上がるからである。 なぜなら、その苦痛こそが彼女の救いとなるからであり、良心の声に耳を傾けることで、彼女は力強く、輝かしく、情熱に満ち、霊感に溢れて立ち上がり、再びその賜物を使うようになるだろう。 しかし、もはや善にも悪にもそれらを用いる自由をもってではなく、ただ神の律法の成就にのみそれらを捧げることであり、それこそが、あなた方をこれほどまでに愛してくださる父に、あなた方が捧げることのできる最高の神への崇拝なのです。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 176

1. この世や肉の誘惑に対して強くあれ。試練があなた方に苦痛をもたらすときはいつでも、私の「第二の時代」の教えを思い出し、私の模範に従いなさい。

2. あなたがたは、どうしてイエスがこの世の誘惑にさらされることがあったのかと私に問う。それに対し、私はこう答える。あなたがたの師の心を悩ませたのは、卑しい誘惑などではなかったのだ。

3. 彼がこの世で持っていた肉体は人間的であり、感受性に富んだものでした。それは、私の霊が人類に私の教えを伝えるために用いた道具でした。彼は、私の霊がそれを明らかにしたため、待ち受ける試練を知っていました。そして、その物質的な側面は、待ち受ける苦痛に苦しんだのです。

4. 私は、その肉体があなた方に人間らしさのしるしを示すことを望んだ。それは、私の苦痛が現実のものであり、人間としての私の犠牲が真実であったことを、あなた方が確信できるようにするためである。

5. もしそうではなかったならば、私の犠牲は人々の目には何の価値も持たなかっただろう。それゆえ、イエスは、厳しい試練に打ち勝つために、彼に命を吹き込んだ私の霊の力を三度呼び求めた。一度目は荒野で、二度目はオリーブ園で、三度目は十字架の上であった。

6. 私が人間となり、あなたがたに私の体と血を委ねることは必要でした。そうして初めて、その体に、人々が与える苦痛が実を結び得るからです。もし私が御霊として来られたとしたら――私があなたがたのためにどのような犠牲を払えたでしょうか。私は何を犠牲にし、あなたがたは私にどのような苦痛を感じさせることができたでしょうか。

7. 神の御霊は不死であり、肉体的な苦痛を知ることはない。しかし、肉体は苦痛に敏感であり、その能力には限界があり、本質的に死すべきものである。それゆえ、私はこの世に御自身を現し、あなたがたに私の真の犠牲を捧げ、あなたがたの救いへの道を指し示すために、その手段を選んだのである。

8. あなたがたが罪人である限り、あの受難を心に留め、あの血を思い起こしなさい。そうして、自分の過ちを悔い改め、清められ、私があなたがたに示した限りない愛の模範に従おうと努めなさい。

9. あなたがたが人間である限り、あの十字架上の私を思い起こしなさい――私が処刑者たちを赦し、祝福し、癒やしたように、あなたがたもまた、困難に満ちた人生の道のりにおいて、自分を傷つける者たちを同様に祝福し、悪を行なった者たちに対して可能な限りの善を行いなさい。 そのように振る舞う者は私の弟子であり、私は真実をもって彼にこう告げる―― ――その者の苦しみは常に束の間である。なぜなら、試練の瞬間に、私が彼に私の力を感じさせるからである。

10. 師の模範を通じて兄弟姉妹を教えようと努める者は、ごくわずかである。この共同体においても、また大多数の宗教共同体においても、教えは言葉によって与えられているが、それには力が欠けている。なぜなら、愛の行いや模範によって裏付けられていないからである。

11. 今、あなた方には、私の教えの解説を聞く機会が与えられている。その教えは、私があなた方の霊に託した使命を果たす準備が整うまで、少しずつあなた方の心を磨き上げていくものである。

12. 私の足跡をたどることを恐れてはならない。なぜなら、私は誰に対しても、私の犠牲と同じことをするよう求めることはないからだ。 また、私の霊が差し出した聖杯を空にしたのは、その肉体だけであったと、あなた方に告げなければならない――他の人間なら、それを飲み干すことはできなかっただろう。なぜなら、私の肉体は、彼を受け入れるためにその胎を捧げた方、すなわちマリアの徳と清らかさによって、命を与えられ、強められたからである。

13. 民よ、黙想しなさい。そして、わたしの教えに耳を傾ける時にあなたがたが浸る、この祝福された静寂を活かしてください。まことに、あなたがたに告げます。その黙想と霊性の瞬間に、わたしの種はあなたがたの心の中で芽吹くのです。

14. 今日、あなたがたは心の中で一致と平安に達し、私の御言葉を伝達者を通じて聞くとき、その出来事に立ち会っていることを自覚した、一つの存在として私の前に現れる。そして、私はあなたがたの霊を受け入れる。 あなたがたが祈りや礼拝の行いにおいて、純粋かつ素朴にわたしに捧げるすべてのものを、わたしは天の父に対する子供たちの正当な捧げ物として受け入れる。

15. あなたがたが申し上げる最も切実な願いは、この世界に平和が訪れ、かつての家父長制の生活が人々に戻ってくることである。しかし、私はあなたがたに告げる。その平和が戻ってくるのは

、私の新しい弟子であるあなたがたが、私があなたがたを訓練しているその新しい世界の礎を築き上げた時であって、それ以前には決してない。

16. あなたがたが、あらゆる隣人を兄弟として見なし、彼らに対する偏見を捨て、彼らの中に私を愛するようになれば、新しい時代の夜明けを目にすることになるだろう。そうすれば、人々の生活は穏やかになり、私は父として認められ、愛されるようになる。

17. この時代のわたしの言葉は、かつてイエスを通してあなたがたに与えたものと同じである。それは、あなたがたがパレスチナの地を旅してわたしに従っていたとき、あなたがたの魂を清めたのと同じ、水晶のように澄んだ流れである。その本質はあなたがたに知られている。その「味わい」を 、決して間違えることはないだろう。なぜなら、その神聖な印があなたがたの霊に刻み込まれているからだ。 そして今、私がこれらの男女を通して自らを現すために降りてきて、あなたがたが彼らの口から発せられる御言葉を聞くとき、それが私からしか発せられないものであると悟り、なぜ私がこの時代の人類にメッセージを伝えるために、別の形を選ばなかったのかと私に問うのです。

18. あなたがたは、あなたがたの中に、わたしに仕えることのできる、非の打ち所のない徳を備えた人はいない、とわたしに言う。モーセも、初代時代の預言者たちも、ペトロやヨハネさえもいない。しかし、まことに、あなたがたに告げる。わたしはあらゆる時代に、徳ある霊たちを遣わしてきた。そして、その中には、謙虚にわたしに仕えてきた者たちがいる。 彼らを愛し、支えてあげなさい。彼らの使命は極めて重大だからです。私は彼らの知性と心を清らかな泉として守ってきました。そして、多くの場合、苦しみこそが彼らを清める最良の手段となってきました。彼らの人生は、かつての私の使徒たちのそれに似ています。私は彼らを祝福します。このように私に従い、私が彼らに与えた務めの真の意味を深く感じ取った者たちは、幸いである。

19. 愛する民よ、わたしはあなたをわたしの王国へ招く。同様に、わたしは地球上のあらゆる国々を、いかなる差別もなく呼びかけている。しかし、すべての者がわたしの声を聞くわけではないことを、わたしは知っている。 人類は自らの灯を消し、闇の中を歩んでいる。しかし、混乱しか感じられないその場所に、私の啓発された者の一人が現れ、周囲に光を放つだろう――それは、見張り、私のしるしを待ち、同胞たちを目覚めさせ、奮い立たせるための呼び声を響かせる、霊的な守護者である。

その使徒たちの愛が、あなたがたの心の中で実り多い種となるよう許しなさい。 彼らが物質的な貧しさの中であなたがたの前に現れても、彼らを見誤ってはならない。彼らの言葉に耳を傾けなさい。彼らは私の名において働き、あなたがたに、今のところまだ知らない権能を授けるためである。彼らはあなたがたに完全な祈りを教え、あなたがたを束縛している物質主義の鎖から解放し、霊的な自由を与え、あなたがたが私のもとへ昇ることができるようにするだろう。

20. わたしに耳を傾けるあなたがたは、わたしの言葉のすべてが成就することを切に待ち望んでいる。あなたがたは、人類がわたしの弟子へと変容する姿を見たいと願い、わたしが困難な使命を帯びて他国へ遣わす者たちの仲間に入れてくれるよう、わたしに願っている。しかし、まことに、あなたがたに告げる。あなたがたを待ち受ける戦いは大きなものであるから、まず自らを鍛えなければならない。

しかし、私があなたがたに語っている使者のすべてが、あなたがたの中にいるわけではなく、また、すべての者が声の媒体を通じて私の言葉を聞いたわけでもない。彼らのうち、非常に多くの者が直感的に語るだろう。なぜなら、私は彼らを霊的に準備してきたからである 。私は、私の光があなたがたのすべての兄弟姉妹に届くよう、彼らを賢明に配置したのだ。

21. 私があなたがたのところへ降りてきたというのに、あなたがたは皆私の子供であるにもかかわらず、どうして私が他の国々を顧みないなどと考えられるだろうか。私の霊は普遍的であり、すべての被造物を包み込んでいるというのに、誰かが私から遠く離れている、あるいは私の外にいるなどと思うのか。 すべてのものは生きており、私から養われている。それゆえ、私の普遍的な光線は地球全体に降り注ぎ、この世界や他の世界においても、御霊は私の影響を受け入れている。なぜなら、私はすべての子供たちを救うために来たからである。

22. 私は、あなたがたがこの時間を無駄にしたり、人生の道に何の痕跡も残さずにこの世を去ったりすることを望まない。むしろ、私があなたがたに託した種を真に育む者となり、この世を去った後も、兄弟姉妹の魂の中でその種が花開くまで、そのために努力し続けてほしいと願っている。

23. わたしはあなたがたをわたしの使命に縛りつけようとはしない。ただ、そうするよう霊感を与えるだけである。なぜなら、あなたがたの自覚的で準備の整った魂から生まれたもの以外の成就

は、わたしが受け入れることはないからだ。わたしの律法の範囲内で自由でありなさい。しかし、従順に慣れるようにしなさい。人間を支配する二つの律法を遵守しなさい。それらは本質的には一つであり、どちらもわたしから発しているのだから。

24. すべての存在のために祈り、私に対するすべての者の調和と理解を切に願いなさい。そして、あなたがたの祈りが、まるで歌のように、歓喜に満ちた賛美歌のように高らかに響き渡り、魂を高揚させ、彼らがその運命の目的地に到達するための道を照らすものとなるように。

25. 私の教えは、人間の本質のあらゆる側面において成長を促すものである。それは心を敏感にし、高潔にし、知性を目覚めさせ、深め、そして魂を完成させ、高揚させる。

26. 私の教えを徹底的に研究し、その正しい実践方法を理解するように努めなさい。そうすることで、あなた方の成長は調和のとれたものとなるでしょう。そうすれば、魂の理想に心を配ることなく、単に知性だけを磨くようなことにはならないでしょう。

27. あなた方の存在が持つあらゆる資質は、私の言葉の中に、無限へと成長し、完成へと至ることができる光に満ちた道を見出すことができる。

28. 私は、あなたがたが私の教えを心に受け入れ、理解するために十分な時間を与えてきた。 その間、かつて子供としてここに来た者の多くは今や青年となり、また青年として来た他の者たちは今や大人となっている。ある者たちはこの道において に成長し、今や私の「働き手」の一員となっている。また、ある者たちは最後の息を引き取り、今や私の選ばれた者たちの仲間入りを果たしている。

29. わたしは、この民の中に確固たる真の信仰が生まれ、その霊においてわたしの業に対する深い認識が得られるよう、十分な時間を与えてきた。わたしの言葉は、あなたがたがもはやこの声を聞くことができなくなり、わたしの臨在を感じ、わたしの霊感を受け取るために、心の奥底に集中しなければならない時へと、あなたがたを備えさせるものである。

30. わたしの教えは、あなたがたの良心に刻まれている。そここそが、わたしの律法を最もよく守り抜く聖櫃である。そうすれば――時が流れ、あなたがたが師と共に過ごしたこの魂の癒やしの時間が遠い過去のものとなったとしても――わたしの言葉の真髄が、愛と知恵に満ち溢れ、命に満ちて、あなたがたの魂の中で響き渡るだろう。

31. 私のすべての教えの中で、あなたがたは、私が絶えず「霊性への到達を目指せ」と語っていることに気づくでしょう。なぜなら、それこそが、この地上であなたがたを際立たせるものだからです。霊性なくしては、あなたがたは隣人に対して、与えるべき証しを示すことはできないでしょう。

32. 私があなたがたの間で私の言葉を終えるその日を恐れてはならない。私の業は滅びることはなく、あなたがたの魂も絶望することはない。私は霊界の谷に、地上で転生し、教会の指導者や預言者となるべき存在たちを準備している――私の言葉によって示された道の上で、あなたがたが一歩前進するよう導く光の存在たちである。

33. 今日、私はあなたがたにこう告げたい。あなたがたがここで、霊界からやって来て、その道を歩むあなたがたを助けてくれる光の存在たちに頼っているのと同様に、霊界の住処の中には、あなたがたのうちの何人かが、私の教えのメッセージを携えてそこへやって来ることを待ち望んでいるところもあるのだ。

今この瞬間、私の声を聞いている者たちのうち、誰がまもなく霊的な使命を果たすために旅立たなければならないのか、あなた方には分かりません。それこそが、多くの心が長い間浄化されなければならなかった理由であり、また、日が経つごとに、私の教えの光によって魂がますます照らされていると感じられる理由なのです。

34. 私は、あなたがたが霊的な軍勢と一つになることを望む。そうして、すべての兄弟姉妹への愛を通じて、生命と真理の道から外れて歩むすべての存在の救いのために働きかけてほしい。

35. この言葉を魂に刻み込んでおきなさい。それは、あなたがたがこの世を去る死の瞬間に、霊的に解放されるための準備となるでしょう。

36. 愛する民よ、これがいかに美しい啓示の時代であったかを悟りなさい――魂を高揚させる光の時代である！ 備えをする者たちは幸いである。彼らは私の光を豊かに受けるからである。

37. しかし、これはまだ時代の始まりに過ぎず、この時代が人類にもたらすすべてのことがあなた方に啓示されたわけではなく、また、あなた方が受け取ったすべてのことを、あなた方が理解したわけでもないことを心に留めておきなさい。

38. これから、この人類が、その精神がこれまで経験したことのないような、驚くべき光のメッセージや霊的な啓示を目撃する日々、年、そして世紀が過ぎていくでしょう。

39. そのような時代はすでに到来しつつある。それゆえ、あなたがたは、後を継ぐ者たちのための道を整えなければならない。善行によってその道を祝福しなければならない。そうすれば、あなたがたは真の神殿の建設に着手したことになる。他の人々が自らの意志でそれを引き継ぎ、その後、さらに多くの人々がやって来て、それを完成させるだろう。

40. 私は、あなたがたが自らの肉と戦い、その反抗心を打ち砕こうとする姿を見てきた。 心に従順と服従を強いるために、心との激しい戦いを繰り広げなければならなかった。その性質は良心の指針に反抗するが、もしあなたがたが祈りの中で忍耐し、注意深くあるならば、その心を霊的な成就における最良の協力者に変えることができるだろう。この戦いは、この時代におけるあなたがたの贖罪の一部である。

41. あなたがたのすべての資質は、あなたがたが創造されたその瞬間から、すでにあなたがたの中に備わっていた。 知性、感受性、理性は、あなたがたが最後の戦いを戦い抜けるよう、あなたがたの魂を照らしてきた。そして、あなたがたが悪に打ち勝ち、魂が肉体を導く舵取りとなったとき、あなたがたは仲間たちのもとへ歩み出し、魂の成長をいかにして達成するかを、輝かしい模範をもって示すことができるようになるだろう。 魂の強さや自制心を誇示することなく、あなたがたは自らの行いを示し、それらは私の律法に対する従順と敬意を明らかにするでしょう。

42. もしあなたがたが、もはや声の伝達者を通じて私の言葉を聞くことができなくなり、かつ、この時代に私が教えたことに従いたいという渇望を魂が感じるならば、私の弟子たちは一人ひとりが、自分に割り当てられたグループを自分の家族と見なし、彼らを教え導かなければならない。

常に慈悲を尽くし、愛と知恵をもって正し、今日、 で築いたような平和の雰囲気を醸し出してください。そうすれば、私の御霊が確かに臨在し、すべての人を鼓舞し、祝福してくださるでしょう。

43. 誰も、その人がどこから来たのか、またなぜわたしを捜しているのかと尋ねてはならない。エリヤが彼らを導き、その時が来たのである。わたしはすでに今日、ここへやって来る者たちを準備しており、わたしが人間の知性を通じてあなたがたに与えたこの言葉を信じる者たちを歓迎している。

44. わたしがあなたがたに教えるのは、あなたがたが地上の「喜び」となり、この苦難の時代に師が人々のもとに戻り、その言

葉を遺産として残した、という良き知らせをもって人々の生活を甘くし、すべての人がそこから養われ、永遠の命を得るためである。

45. 私は、この人類の完全な変革をあなた方に課すわけではない。確信を持って私の言葉を人々の心に伝えなさい。そうすれば、それはあなた方の同胞の間で奇跡を起こすだろう。 彼らが私の教えに耳を傾け、それを解釈することを理解できれば、試練の日々においてどれほどの慰めを受けることか！そして、あなた方は、私と共に過ごしたあの時間――その神聖な本質を自分の中に取り入れ、父からそのすべての優しさと愛を受け取るために、まるで幼子のように感じていたあの時間を、どれほど懐かしく思うことだろう。

46. 今日、人類は耕すべき肥沃な畑である。畑は広大だが、働き手は不足している。 もしあなたがたが働かなければ、どうしてこの世代を私の教えに改心させて、私の前に連れてくることができるだろうか。あなたがたには限られた時間しかなく、やるべきことは山ほどある。今こそ好機である。心の奥底で破壊されてしまった「神殿」を、再び建て直せ！家庭の再建を手助けし、あなたがたの歩む道において、思いと言葉と行いをもって霊性を説き広めよ！

47. 目を覚ましなさい。そうすれば、美徳が人々に戻り、子供たちは父と母との間の強固な絆となり、若者たちは新世代の強固な礎となり、夫と妻は神とその被造物の似姿となり、そして、あなた方を支える守護天使たちと一体となって、皆がわたしとの完全な調和を成し遂げるようになるでしょう。

48. あなたがたの願いはわたしのもとへ届き、わたしが放った光があなたがたの本質を照らしている。あなたがたのすべての行いは今ここにあり、あなたがたは自らの功績を判断することができる。今あなたがたが経験している苦しみは過ぎ去り、平和が全世界に輝き渡るだろう。

49. 戦争で互いに戦っている国々のために祈りなさい。困窮している人々と、パンや衣服を分かち合いなさい。 穀物倉を開き、彼らに食べ物を与えなさい。世界が な苦難の時にある今、兄弟愛を示しなさい。病める者たちに実践的な隣人愛を尽くし、あの世へ旅立たねばならない魂たちを準備させ、悲しみに暮れる者たちの信仰を立て直し、すべての同胞に平和をもたらしなさい。願いなさい。そうすれば、私は人類の間に奇跡を起こすであろう。

50. あなた方の世界は奴隷で満ちている。それゆえ、すべての人間の心には、自由への深い渇望が宿っているのだ。しかし、その責任を霊の法則や人間の法則に求めるのではなく、あなた方自身に求めなければならない。なぜなら、真の法則――それが神聖なも

のであれ人間的なものであれ――は、導き、教え、守り、しかし決して束縛してはならないものだからである。

51. あなたがたが霊において自由ではないのは、神の本質――すなわち、あらゆる被造物の中で何よりも父への愛という法則、そして創造主のもとにおける兄弟姉妹としての互いへの愛――から遠く離れ、宗教的狂信、偶像崇拝、そして迷信の奴隷となってしまったからであることを理解せよ。

52. 同様に、人間社会の法においても、あなたがたは自由ではない。なぜなら、人間社会に正義をもたらすべきであるはずのそれらの法もまた、諸民族の利己心、不正、そして嘘に染まっているからである。

53. 統治者たちや、魂を導く使命を負う者たちも、また私の神性の子供たちである。彼ら双方が適用する法律は、人間的なものでなければならない。それにもかかわらず――彼らは互いにどれほど遠く離れて歩み、生きていることか。

54. 人類はいつになったら、「神のものは神に、皇帝のものは皇帝に」という境地に達するのだろうか。

55. ある者たちは、ただこの世の規範に従うだけで、あらゆる神の律法を無視することに満足している一方で、他の者たちは、心の中ではそれに反発しつつも、様々な宗教団体が定める道に従って魂の高揚を求め、この世の法律への服従を避けている。

56. まことに、わたしはあなたがたに告げる。どちらの者も、その義務を果たしてはいない。

57. 毎日東から昇る王の星を見よ。それは、いかなる被造物をも特別に扱うことなく、すべての人を等しく照らし、温めているではないか。

58. 父のすべての子供たちに対する愛はまさにその通りであり、あなたがたの愛と正義もまたそのようにあるべきである。そうしてこそ、わたしの律法がこのように人々に適用されるのだ。

59. 神聖なるものと、あなたがたの心から生み出されたすべてのものとの間に存在する、完全な調和に気づかないのか。それならば、なぜ神の子である人間同士の間にも、完全な調和が存在し得ないというのか。

60. この呼びかけを聞き、自分が生きるこの「光の時代」を悟る者は幸いである。その者は、魂の向上への道を歩み続けることができるからである。

61. あなたがたは今、私からの言葉を聞くことができる最後の数年を迎えている。その言葉は、あなたがたの人生において、私の知恵の火花のようなものであった。

62. この教えは書物に記録され、真に備えを整え、心に揺るぎない信仰を抱く弟子たちと共に、私が――別れの時が来たとき――この第三の時代に私の声を聞かなかった者たちに残す、生きた証となるであろう。

63. 試練にあっても忠実であり続ける者たちは幸いである。彼らは知恵と平安を得るからである。

64. 誰もが与えられた使命を果たせるように、あなたがたは一つの意志に結ばれ、霊的な教えを受けるために肉の怠惰を捨て、もはや物質的な生活に関わる事柄だけに興味を向けるのではなく、自分の魂についても考えなければならない。

65. わたしこそが永遠の命である。もしあなたがたがそれを得たいと願うなら、ただわたしの律法を遵守すればよい。

66. あなたがたが私の「柵」の中で、私の言葉に耳を傾ける際に抱く敬虔な心は、その後も保ち続けるべきであり、あなたがたの人生には秩序、敬意、規律、謙虚さが備わっていなければならない。

67. わたしはあなたがたの魂と知性、そして心を照らし、あなたがたの人生を正しい軌道へと導く。

68. わたしは、わたしの教えがあなたがたの心に根を下ろし、決してそれを忘れることがないようにしたい。なぜなら、あなたがたは、苦闘の時代にそれがどれほど欠けてしまうかを知らないし、また、この地上にどれだけの期間留まらなければならないのかも知らないからだ。 それゆえ、私の教えに基づいて善を行いなさい。そうすれば、父があなた方を召される時、その呼び声があなた方を不意を突くことなく、善き働き手として活動している最中に迎えられることになるでしょう。

69. まことに、あなたがたに告げる。この教えは、霊性への一歩となるため、この世の道徳を回復させるであろう。それは、人々の心に兄弟愛を呼び覚ますからである。

70. 現在、私は依然として理解されていない。なぜなら、素朴な人々が無知のゆえに私に狂信的な崇拝を捧げている一方で、、学者や権力者と見なされている者たちは、自分たちだけで十分だと主張しているからである。

71. わたしに従う者は、なんと少ないことか！

72. 愛する民よ、私の言葉によって、これからも備えを固めていきなさい。

73. 肉体が眠りに身を委ねるその瞬間、私はあなたがたの心に平安を、あなたがたの家庭に平安を、そしてあなたがたの精神に自由を与える。

74. この恵みを大切にし、わたしの祝福を受けなさい。

わが平安があなたがたと共にありますように！

教え 177

1. 今この瞬間、主の御前に悔い改めと畏れをもってひざまずくこの会衆によって代表されている人類よ。あなたは、愛の負債をどのようにして返済し、父に真に喜ばれることができるのか。

2. それを行う方法を、わたしが告げよう。それは、あなたがたが自らの平安と魂の向上を求めて奮闘することである。そうしてこそ、あなたがたは負債を洗い流し、魂を高められるのだ。

3. 私は、あなたがたの魂の渇きを癒やすための一定の時間を与えます。新しい時代は、約束と啓示に満ちた輝かしい日のように、あなたがたの目の前で幕を開けようとしています。その光をもって、時代はあなたがたにこう告げようとしています。「戦え！」。そして、この言葉には、父の使命が込められています。平和のために、刷新のために、霊性の勝利のために戦いなさい。

4. 私はこれらの言葉をあなたがたの良心に刻み込み、一歩一歩、その言葉が繰り返し響き渡るようにする。

5. 私の愛は、あなたがたが攻略しなければならない都市であることを自覚しなさい。 乗り越えなければならない多くの障害があり、打ち負かさなければならない多くの敵がいる。彼らはあなたたちを阻止するために戦いを仕掛けてくるだろう。しかし、あなたたちがその使い方を心得ていれば、あなたたちの手には目に見えない剣がきらめいている。それは愛の剣である。戦え、その剣で敵を打ち負かせ、決して疑ってはならない。なぜなら、最終的には、あなたたちの愛が父を勝ち取ったゆえに、その都市が陥落するのを見ることになるからだ。

6. わたしは、あなたがたの間で、兄弟愛ともてなしの心にあふれた一つの家族を築きたかった。そうすれば、平和と憐れみを渇望する「旅団」――故郷を失った者たち――が、あなたがたの家に入り、わたしがあなたがたの中に注いだ愛を分かち合うことができるからだ。しかし、あなたがたの準備は遅々として進まなかった。あなたがたは遅れをとってしまい、故郷を失った人々のキャラバンは、自分たちの歩みを導く星がその軌道を止めたのを見て、砂漠で立ち止まってしまった。それゆえ、人々があなたがたを「眠っている」姿で見つけたり、目覚めている時に罪を犯している姿を見たりすることのないようにしたい。そうであれば、あなたがたは私の再臨を証しすることができず、むしろ主を裏切ることになってしまうからだ。

7. わたしは、あなたがたが過ちを悔い改め、人生を再建できるよう、時間を与えている。家族を見捨てて義務に背いた家長は、立ち上がって家庭を再建すべきである。

8. 悪徳に溺れた者たちに加わってしまった者たちは、立ち上がり、精神の意志と力を尽くして肉の弱さを克服し、再び健全な状態 になるまで努力せよ。 この事業の奉仕者であるすべての者は、霊において一つとなり、互いに愛し合い、支え合うべきである。そうすれば、その軌道上で立ち止まり、それによって「砂漠の大キャラバン」を足止めしていた星は、再びその運行を続け、平和の地へと続く道を、その人々の群れに示してくれるだろう。

9. 戦争、死、破壊から逃れてやって来た人々――その心には憎しみや犯罪の記憶が刻まれていた――が、あらゆる家庭に真の愛の聖域が築かれ、あらゆる夫婦関係に私の律法の光が輝き、親が子を愛し、 子供たちが親を愛し敬い、幼い子供たちが優しさと知恵をもって導かれ、年長者が尊重されている――そのような私の律法に対する畏敬の念の表れを目の当たりにして、彼らはこの共同体において、父の慈悲にのみ帰すべき奇跡が起こったと告白するのではないだろうか？

10. おお、民よ、あなたは今日に至るまで頑なで、恩知らずであった！ 私はあなた方から供物を求めたり、不可能なことを要求したりはしなかった。もし私の教えに従うことが時に困難に思えるとしても、それはあなた方の愛の欠如によるものである。愛する者にとって、障害も、深淵も、不可能性も存在しない。なぜなら、愛こそが万物を生かし、万物を動かす神聖な力だからである。

11. おお、人々の群れよ、わが畑へ来なさい。野原は、あなたがたの愛という種を受け入れ、やがてその懐から生まれる甘美な実をもって、あなたがたの労苦に報いることを待ち望んでいる。

12. 兄弟愛の絆でしっかりと団結しなさい。なぜなら、私の民には誘惑が潜んでおり、戦争が、番人が眠っている侵入の隙を待ち構えているからだ。そうして、疫病、飢餓、そして未知の性質を持つ病気が、この国の懐へと侵入してくるのである。

13. わたしは、これらの災難と戦い、これらの苦しみをなくすために、あなたがたに地上の科学を与えた。しかし、わたしはあなたがたに、光の敵すべて、健康と平和を破壊する者すべてが屈服する、それよりも高次の科学を教えた。この科学とは、祈りによって強められる愛の力である。

14. 民よ、この言葉を深く考え、そして、あなたの良心が告げる声に耳を傾けなさい。

15. わが霊は、あなたがたに平安を送っているが、あなたがたはそれを常に保つ術を知らない。いつになったら、 あなたがたのいかなる行動や思考もわたしを遠ざけることなく、心の中にわたしを宿すことを学ぶのだろうか。

16. 私が、あなたがたに心の奥底で私を宿すことを望んでいると告げても、誰も戸惑ってはならない。なぜなら、私は私の光と平安があなたがたの中に宿ることを望んでいるからだ。

17. この日、あなたがたが義務を果たしていないこと、私があなたがたに託し、あなたがたの使命であるこの働きに対する愛が欠けていることを非難しているのは、私の裁きの声である。 今、良心を通じてあなた方に届き、あなた方の心を震わせているのは、神の声である。その声はこう問いかける。「この第三の時代に、私があなた方に啓示し、教えたすべてのことを、あなた方はどうしたのか？」

18. ほんの一瞬、あなたがたは自らの霊に与えられたその責任を自覚する。しかし、その理解は、あなたがたをほんの一瞬貫く光線のようなものに過ぎず、その後、再び弱さの中に沈んでしまう。なぜなら、あなたがたは常に自分たちを未熟で、病んでおり、助けを必要としていると見なしているからだ。しかし実際には、神からの賜物の宝が手の届くところにあるのである。

19. もしあなたがたが私の言葉の中に非難を見いだすとしても、それは愛から生まれたものである。私を不公正だと言ってはならない。もし私が本当に不公正であり、あなたがたが私の中に、あなたがたが言うところの「怒り」を見いだしたならば、私の正義はとっくにあなたがたを滅ぼしていたはずだからである。 しかし、私は自分の業を滅ぼすことはしない。私はあなたがたを成長の道へと導き、その道においてあなたがたが完全さを達成できるようにしているのだ。

20. あなたがたに告げる。たとえ私が、あなたがたがイエスを通して私を知ることができるようにとイエスを遣わしたにもかかわらず、地上ではまだ神についての真の実像は知られていない。理解せよ。もし私が、人間が救いを得られないと知っていたなら、私が常に人間を訪ねてきたような愛をもって、人間のもとへ来ることはなかっただろう。あなたがたの間における私の臨在こそが、あなたがたが私のもとに来るという確かな証拠である。なぜなら、父はすべての子供たちの未来と運命を熟知しているからだ。

21. わたしは、この時代にあなたがたに与えた御言葉が明確に書き記されるよう導く。そうすれば、人類はその書物の中で、こ

れまで理解できなかった多くの教えの説明と、わたしの教えの正しい解釈を見出すことができるだろう。 そうして、その知識から真の畏れが湧き上がるでしょう――それは神の罰に対する恐れではなく、罪によって自らを汚し、創造主を侮辱し、魂を汚したまま、霊化と真の知識の道において一歩も前進することなく、父のもとへの彼方へと帰ることへの悲しみなのです。

22. あなたがたは、父に対して負っている愛の負債を、何をもって償うことができるだろうか。絶えずあなたがたの侮辱や恩知らずを赦してくださるその方に、何をもって報いることができるだろうか。私が教えてあげよう。それは、私の神性にふさわしい行いをなし、互いに仕え、愛し合うことである。

23. 新しい年が目前に迫っている。今まさに終わろうとしているこの一年について、私は自然やその要素に説明を求めるつもりはない。私はあなたがたの良心に働きかけ、あなたがたに問うのだ。あなたがたは自らの使命に関して何をしたのか、そして私が託した時間と賜物をどのように活用したのか、と。

24. 終わりを迎えようとしているこの一年は、あなたがたの闘い、涙、努力、苦労、そして悲しみ、血、廃墟、憎しみについても、私に語りかけてきた。この痛ましい総括を、過ぎ去ろうとしているこの一年は、私の御前に差し出したのである。

25. わたしはあなたがたに新しい年を授ける。それは、あなたがたの目の前の地平線に、未来への希望を灯す一筋の光のように現れている。その光こそが、毎日あなたがたに「戦え！」と語りかける声である。

26. そう、人々よ、平和のために戦い、再生のために戦い、正義のために戦いなさい！

27. この「日」に別れを告げるために、わが言葉が与えてくれる時間はあと4年しかない。この貴重な時間をうまく活用せよ。わが業は1950年に終わることはない。それは永遠に属するものだからであり、その時にあなたがたの使命が終わるわけでもない。むしろ、その時こそあなたがたの闘いは本格的に始まるのだ。なぜなら、わが啓示の期間中、あなたがたはあくまで準備段階にあったに過ぎないからである。

28. 霊的な使命と地上の使命を、一つの律法の下に統合することを理解しなさい。そうしてこそ、あなたがたは父に立派な成果を捧げることができるのだ。

29. わたしは、わたしにふさわしいものをわたしに捧げるよう教えるだけでなく、皇帝にふさわしいものを皇帝に捧げるようも教えている。

30. 世界はまもなくあなたがたのことを知るようになり、あなたがたを通して、人々は私の到来、私の奇跡、そして私の教えを知るようになる。人々はこれらの集会の場を訪れ、あなたがたの生き方を評価するだろう。その中には、権力者、宗派や教会の聖職者、科学者、そして来世を研究する者たちがやって来るだろう。 わが願いは、あなたがたが集会の場において、また 、すなわち家庭の懐において――たとえ完全とは言えなくとも、少なくとも調和、道徳、互いへの敬意、愛、そして霊性を示すことである。

31. 真理を渇望してやって来る者たちは、もしあなたがたの霊的な礼拝の形式の中に狂信を見出し、また私生活において、両親が義務を果たすことを知らなかったために夫婦が別れていたり、子供たちが見捨てられていたりするのを目にしたなら、一体どう思うだろうか。

32. 木の枝に巣を作る鳥たちを見よ。そして、必要であれば、彼らを模範とせよ。結婚によって結ばれた者たちがどのように愛し合うべきか、またどのように子供たちを愛すべきかについて、私に問うてはならない。それらの巣を見上げれば、そこには忠実さと優しさの教訓があることに気づくだろう。もしすべての人々がこのように愛し合えたら、どれほど素晴らしいことか！

33. 目を覚まし、奮闘しなさい。そうすれば、1950年が終わりを迎える時、父にふさわしい実を捧げることができるだろう。なぜなら、その時にあなたがたが備えをしておかなければ、私が去るその瞬間、人々の間に大きな苦痛がもたらされることになるからだ。

34. もしあなたがたが、わたしの言葉がなくなることを耐え忍ぶための準備をしておかなければ――その時、あなたがたにとって、わたしの別れの言葉も、また、わたしの霊界があなたがたに告げる別れの言葉も、どれほど痛ましいものとなることか。

35. 私の霊が、平和と祝福であなた方を満たしてくれたこの日に――あなた方は、私にこれ以上何を願うことができるだろうか。

36. 今、私が*あなた方に*願いを捧げ、あなた方の心の扉を叩き、互いに愛し合うようお願いしているのです。

37. 諸国の平和のために心から祈り、人類の苦しみを深く感じ取りなさい。

38. まことに、わたしがあなたがたに告げる。疫病と死があなたがたの国を取り囲んでいる。あなたがたには、疫病や苦難の侵入を食い止める科学的な手段はない。しかし、祈りを活用しなさい。そうすれば、その中に、これらの不吉な危険と戦うための武器と力を見出すだろう。 祈り、その祈りを善行と結びつけなさい。そうすれば、全能なる主の御前で真の功徳を得ることになる。主は、あなたがたの謙虚さゆえに、世界を驚嘆させるような奇跡を授けてくださるだろう。

39. 自然の力が解き放たれ、それによって裁きの兆しが見えるとき、祈り、冷静さを保ち、自分のために泣くのではなく、他者のために泣け。しかし、あなたを慕う者の涙をぬぐい、その嘆きに耳を傾け、その者に癒しの香油を与えよ。

40. 大いなる愛を注がれる人類よ、私がこの時代に再び戻ってきたのは、第二の時代（ ）に流した私の血をあなた方から取り戻すためだと考えてはならない――いいえ、その生命のエッセンスはあなた方の魂にしっかりと根付いている。その時が来れば、この血はあなた方一人ひとりの内から語りかけるだろう。それまでは、多くの人々が、神の御子が再び戻ってきて、その血を要求するのではないかと待ち望んでいる。 今、私は子供たち一人ひとりの心の中で、神の受難を再び体験している。

41. 人が信仰に目覚める時、私はその人の無垢な心の中に生まれ落ちる。 その人の情欲が解き放たれ、彼を鞭打つとき、私は彼の中で苦しむ。私は、彼の罪、恩知らず、そして高慢という重い十字架を背負う。彼が私を否み、この世以外に主も王もいないと宣言するとき、私は彼の心の中で死ぬ。そこ、彼の存在の最も深く、最も隠された場所に、私は私の墓を見出す。

42. 時折、その心は、まるで遠い反響であるかのように、師の声を聞き取る――それは、自分の道の妨げとならないよう、自らその内から殺そうとしているあの声である。それは、その心を囲む唯物主義の壁を乗り越え、ついにその声を届かせることに成功した、彼の良心の声である。

43. 私が人類のあらゆる心の中に十字架と墓を見出したように――まことに、あなたがたに告げる。すべての者の中に、私が光と栄光に満ちて復活する「第三の日」が訪れるのである。

44. 今日、種を蒔くべき畑は不毛である。時折、あなた方は何らかの形で善を蒔くことによって、自分の人生に価値を与えようとする。 しかしその後、それを諦めてその試みを嘆くことになる。なぜなら、種を蒔くことのできる農地ではなく、石ばかりに遭遇

してしまったからだ。それは、種を蒔く前に、蒔こうとしている畑のことを知らなければならないということを、あなたがたが理解していなかったからである。 その土地を歩き回り、整え、清め、肥沃にしてください。これこそ、わが子らよ、あなたがたはまだ行うことを理解していないのです。それこそが、あなたがたの善意やアイデア、ひらめきがしばしば失敗に終わってきた理由なのです。しかし、だからといって、その闘いを諦めてはならない。むしろ、この時代の真実と光について人々の目を開かせ、目覚めさせることで、人々が気づくように導くことができるのだ。すなわち、人々が「苦難の杯」として飲み干さざるを得ないあらゆる痛みは、雑草を根こそぎ切り取る、正義をもたらす鎌であるということを。 それは、畑を耕し、整える、賢明かつ容赦のない正義なのです。

なぜなら、その後、それは人々、民族、そして国家を目覚めさせ、痛みが すべての過ちを洗い流す必要はもはやなくなるからだ。その代わりに、浄化という同じ目標を達成しようとする者たちの悔い改め、省み、そして再生が残るだろう。 しかし、あなたがたがこれらを成し遂げたとき、この言葉が愛と平和への回帰の歌として、全世界に響き渡る時が来るだろう。

45. 今日、私は、あなたがたがこれから直面するあらゆる事柄に対して理解を示せないでいるのを見ている。なぜなら、人々の間には完全な無知と混乱が蔓延しているからだ。

46. 人々の大部分は自らをキリスト教徒と称しているが、それにもかかわらず、彼らは多くの場合、その生き方や行いによって、その反対であることを証明している。

47. 彼らが善行を為すときは、それを公に広め、自慢する。そして、過ちを犯して悔い改め、私に赦しを請うときでさえ、そのやり方は、彼らが私の赦しとは何であるかさえ理解していないことを証明するようなものである。

48. さあ、この言葉を聞いている民よ、世の人々に告げなさい。わたしの光が再び人々に訪れたことを。とりわけ、人類がまもなくその無気力を振り払うことを、彼らに告げ知らせることもできるのだから。

49. わたしは、あなたがたを罪から救うために、二度と人間の血を捧げることはない。 あの「第二の時代」に流された私の神聖な血が、神聖かつ無限の愛、崇高な赦し、そして永遠の命についてあなたがたに語りかけたのであれば、その血は、あなたがた、すなわちあなたがたの本質に注がれ続け、その痕跡をもってあなたが

たの上向きの発展への道を指し示すことを、一瞬たりともやめたことはないのだと理解すべきである。

50. 誰も、私を人間として待ち望んだり、探し求めたりしてはならない。なぜなら、もし私がその願いを叶える用意があったとしても、そのような顕現は時代にそぐわないからであり、師は決して不完全なことを行わないということを、あなたがたは理解しなければならない。師の教えは常に完全であり、師は完全なるものを教えるからである。

51. 同様に、私が今、あなたがたに対して用いてきたこの啓示の形式が終わりを告げても、私があなたがたに予告したことを果たさないよう私を促すような、いかなる懇願も嘆願も存在しないだろう。この啓示は、その時が来てその役割を終えるため、永遠に終わりを迎えるのである。

52. 私が人間としてあなたがたの間にいた時から、まもなく2000年が経とうとしている。そして、私が愛の証としてあなたがたに遺した血は、今もなお新鮮なままの遺産である。

53. それにもかかわらず、世界は再び私の血を求めている。私はそれを与えよう。しかし、それは肉体を生き返らせる血ではなく、魂に永遠の命を与える血である。私は私の光をもって、人々に命と健康を送る。それは、凍える人類の心にその温もりを届ける太陽のようになるだろう。

54. 私の慈悲は、まるでヒバリが雛を覆う翼のように、すべての人々の上に広がっていく。私の愛は、あなたがたの目がこれほどまでに憧れる青い大空よりも、さらに優しく、美しいものとなるだろう。あなたがたは、まるで魂だけが感じ取ることのできる天のそよ風であるかのように、私の息吹を感じるだろう。 私は「時」であり、「命」であり、また「永遠」でもある。私はあなた方の生涯における「春」であり、「夏」であり、「秋」であり、「冬」であり、人生のこれらの各段階は、神聖なる師が子供たちに与える、実感できる生きた教えである。

55. 神聖な朝露を魂に染み込ませ、魂が永遠の春を体験できるようにしなさい。人生の闘いという灼熱の太陽の下で心が疲れ果てることを許しつつも、その一方で、あなた方の存在の最も奥底にある美徳、信仰、そして愛の花々が、常に新鮮なままであるようにしなさい。

56. なぜあなたがたは悲しんでいるのか。あなたがた自身はそれを知らない。しかし、私はよく知っている。あなたがたが、肉体とともに魂までも病んでしまうことを許してしまったがゆえに、

悲しみに押しつぶされているのだと。情熱や試練の嵐に打ちのめされたり、「冬の雪」に凍えさせられたりすると、あなたがたは生きる希望も意欲もすべて失ってしまう。

57. 私自身の御霊もまた、この人類が絶えず泣いているのを見るたびに悲しみに満ちる。彼らは、この地球が今なお地上の楽園であることを悟り、目覚めようとしないからだ。私は、あなたがたが豊穣と生命に囲まれているにもかかわらず、飢えで死んでいくのを見ている。私が「彼らは目を持っているのに見ない」と言うとき、私が指しているのは、まさにこの人類のことである。

58. 人々は節度も目的もなく科学を追い求め、多くの「奇跡」を発見してきた。 しかし、真の平和、真の健康、そして真の幸福をもたらすあの「奇跡」だけは、地上のあらゆる恵みの中でも発見できなかった。それは、人間がまさに到達しようとしなかった、人間を超えた領域にあるものだからだ。イエスが「互いに愛し合いなさい」と語られたとき、その「神聖な科学」を教えられたのである。

59. この世のものではないイエスの御国を求めなさい。そうすれば、その御国の中で、この地上の生活をより美しく、より軽やかにするための必要な光と平安を見出すでしょう。

60. 今、あなたがたは神の使命を受け取るためにここに集まっている。私は、あなたがたがイエスが残した足跡をたどろうと努めることで、私の律法に従う準備ができているのを見ている。

61. 私があなたがたの間におり続けたのはずいぶん昔のことだが、今もなお、あなたがたが互いに愛し合うようにと、私はあなたがたの心の扉を叩き続けている。

62. 心の中に天の父を迎え入れる準備ができた者は幸いである。なぜなら、その父は、弟子が師のもとにとどまりたいと願うことを念頭に置き、いつでも善を行う機会を与えてくださるからである。

63. あなたがたにとって始まるこの一年に試練に直面したとしても、強くあり、落胆してはならない。そうすれば、あなたがたの精神に宿る力を、周囲の人々に示すことができるだろう。人々は、あなたがたが飲んできた源を知りたがり、そして、自分たちがこれほど遠く離れてしまったその源こそが、わたし、キリストであることを発見するだろう。

64. まことに、あなたがたに告げよう。あらゆる人種や宗教の人々がこの源にやって来るだろう。なぜなら、その時、人々が私

に捧げるあらゆる礼拝の形態の中に霊性が宿り、ついにはすべての人が真理と一致に非常に近づくからである。

65. 弟子たちよ、あなたがたがわたしの正義を感じ、わたしの神聖な御霊の前で謙虚に告白する姿を見た瞬間があった。その時、わたしはあなたがたの罪から目を背け、ただあなたがたが、わたしが愛し、赦すわたしの子供たちであるということだけに目を向けた。こうして、わたしはあなたがたに、隣人を愛し、彼らを赦すことを教えているのだ。

66. 時間を無駄に過ごしてはならない。この世であとどれほど生きられるか、誰にもわからないからだ。それゆえ、わたしはあなたがたに言う。今この時よりもふさわしい時を待って、働き始めるな。より良い時を待ち続けるうちに、収穫も使命の達成もなく、死が突然訪れることのないように。

67. 1950年が近づいている。その年、私はこの啓示に関して、あなたがたに別れを告げるだろう。そして、その別れは、私が「第二の時代」の弟子たちに、別れの時が来たと告げたとき、彼らが感じたのと同じように、あなたがたにも感じられることになるだろう。

68. 彼らが、私の死後に再び私を見ることという慰めを得たのは、霊的生活の真理を彼らの魂に燃えるような熱意をもって刻み込むためであった。しかし、あなたがたのうち、イエスの人間の姿を見る者はごくわずかである。他の者たちは、 、彼を深く感じ取るだろう。そして、それこそが、霊と霊とで私と結びつく方法となるのである。

69. 地球の平和のために目を覚まし、祈りなさい。そうすれば、多くの苦難に終止符が打たれるだろう。なぜなら、そこには新しい世代の種が宿っているからだ。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 178

1. 民よ。新しい年が始まるたびに、私はあなた方から次のような質問を耳にする。「主よ、今年も私たちには試練が訪れるのでしょうか？」それに対し、私はこう答える。人生は絶え間ない試練であるが、あなた方は恐れる必要はない、と。 なぜなら、あなたがたが目を覚まし、祈ることを知っていれば、運命の目的地に到達するまで、償いの道を歩み続けることができるからです。

2. 人々が経験する試練は、彼らが刈り取る実であり、自らの蒔いた種の結果である――その収穫は、時には前年に蒔いた種によるものであり、またある場合には、さらに昔や他の転生で蒔いたものの実である。

3. 新しい年が始まるのか？――それなら、まず種を清め、肥沃な土壌に蒔く適切な時を待つ、善良な種蒔き人たちのようになれ。あなた方もまた、まず心を清め、明日、善行から平和と愛、そして満足という豊かな収穫を得られるようにすべきである。

4. 全被造物が調和のうちに生きているのをご覧になったことはありますか？ 存在するすべてのものにおいて、生き物たちが互いに愛し合っているかのように感じられませんか？ 太陽を見つめてみてください。それはまるで、両腕を広げて、すべての生き物を、生命と愛、光とエネルギーに満ちた抱擁で包み込もうとする父のようではありませんか？ その温かい光線に触れると、花々が咲き誇り、鳥たちがさえずり、生き物たちが動き出し、それによって王たる天体に感謝の愛を捧げている様子を見てください。

5. これは、あなたがたが自然界に存在するあらゆるもの、そしてあらゆる霊的なものと調和すべきであることを示す、美しい一例である。

6. 人々がこれらの教えから、また宇宙を支配する法則への従順を通じて得る理解こそが、彼らの幸福を左右する。ある者は、この地上に幸福など存在しないと考えるが、またある者は、私だけがそれを余すところなく持っていると考えている。しかし、その幸福は、まさにあなた方の魂の平安の中に明らかに現れているのである。

7. さて、愛する民よ、汝の至福は汝自身の中にあることを知れ。そうして、人々にこう教えよ。すなわち、彼らの本質の核心には、彼ら自身の考えでは苦々しさ、憎しみ、恨み、後悔、そして涙しか存在しないと思われる場所にも、何ものにも消し去ることのできない光、すなわち霊の光が存在するのだと。

8. 人類はその歩みを曲がりくねった道へと導いてきた。それは、どの世代も前の世代の過ちを遺産として受け継ぎ、時が過ぎ去るにつれてその誤りを増大させてきたからである。今、この人類は、かつてこの世に蒔いた苦痛の種の実を刈り取っている。同様に、来るべき世代も、あなたがたが今日蒔くものの実を刈り取ることになるだろう。

9. なぜ、あなたがたは、私の教えが示す唯一の正義の道へと、自らの信念、努力、学問、理想、そして願いを向けようとしないのか。人々はいつになったら、私の言葉の真実をようやく悟るのだろうか。

10. わが不変かつ永遠の法は、人々の前に立ち現れ、真の幸福への道を彼らに示している――それは、善を蒔くことで平和の収穫をもたらす畑へと続く道である。

11. 心の奥底で私の呼びかけを感じ取り、神の教えを聞くために急いだ者たちは、祝福されるであろう。その教えの霊的な意味合いによって、彼らの知識は深まるからである。彼らは身内の中で要塞の如くあり、その信仰によって試練を乗り越えることができるだろう。

12. 私は、あなたがたのうちにあるあらゆる悪を取り除き、あなたがたの行いが父の目に喜ばれるようにしたい。

13. このキリストの学校には、ここに来たとき、すべての知恵の師である私にこう言った多くの初心者がいた。「主よ、もしあなたがこの道を教えるキリストであり、私たち一人ひとりの内に、その人が持つ使命と能力を見出されるのであれば――私たちに、あなたのもとへ至るという運命を実現させてください。」

14. そこで、私はあなたがたにその受け継ぐべきものを示し、使命を与え、あなたがたを「働き手」とした。しかし、まことに、あなたがたに告げる。私の子供たちの間に特権階級など存在しない。なぜなら、私に仕えたいという願いを持って近づく者は誰でも、その心に私の恵みを受けるからである。 しかし、同様に、あなたがたに託された賜物をもって成し遂げたすべてのことが、わたしによって裁かれ、あなたがたがわたしの前でその責任を問われる時が来るであろう。

15. 今、私はまだあなたがたに説明を求めるつもりはない。あなたがたは、人生の行いにおいて私の律法を適用しようと努めているが、まだ裁きの宣告に耐えるには未熟だからである。しかし、あなたがた一人ひとりは、私の教えの熱心な守護者でなければならない。この使命を果たすことが、あなたがたがこの世の義務を果た

すことを妨げてはならない。 ― この遺産 を拒んだ者たちを見よ。彼らの中には悲しみと空虚が支配している。しかし、わたしの憐れみは大きく、彼らを赦すことによって現れている。

16. これを果たした者は当然、私の平安を感じるであろう。そして、果たさなかった者には、私はその良心を通じて訪れ、その魂が善行なきまま死の刻に襲われることのないよう、目を覚まさせておく。なぜなら、善行がなければ、その魂は高みへと舞い上がることができないからである。

17. 私の教えを心から心へと伝えていきなさい。あなたがたの同胞がそれを受け入れたとき、ある者は「この言葉には預言が含まれている」と言うだろうし、他の者はそれを取るに足らない教えだと見なすだろう。ある者はそれを進歩的だと評価する一方で、他の者はそれを非常に時代遅れだと考えるだろう。誰もが、それぞれの霊的な理解力と行いの清らかさに応じて、それを解釈するだろう。

18. 謙虚でありなさい。そうしてこそ、あなたがたは人々のための生きた模範となり、わたしの業が認められるようになるのだ。

19. しかし、わたしに耳を傾けている短い間だけ謙虚であるのではなく、人々を改心させることができるよう、生涯を通じて謙虚でありなさい。なぜなら、言葉だけでは人を納得させることはできないからだ。模範を示す準備をし、さらには自ら犠牲を払う覚悟も持て。

20. もしあなたがたがわたしを愛するなら、行って、あなたがたを侮辱した者を赦しなさい。もしあなたがたがわたしを愛するなら、病人の寝床や囚人の牢獄へ行きなさい。彼らを慰め、彼らと共に祈りなさい。そうすれば、あなたがたが心に抱くかもしれないあらゆる高慢は、あなたがたの愛によって打ち砕かれるだろう。

21. わたしの言葉は警鐘である。あなたがたがわたしのそばにいる間は、あなたがたは柔らかな子羊のようだからだ。しかし、日常に戻ると、あなたがたは互いに「引き裂き合い」、互いに赦しを拒んでしまう。

22. 自己満足の時代は終わった。魂のさらなる成長を遂げるためには、停滞状態から抜け出さなければならない。

23. 霊化の白い衣を身にまといなさい。そうすれば、あなたがたが人々にわたしの言葉を語る際、幼子のような無邪気さをもって語ることができるだろう。そうすれば、あなたがたの行いと人生

が自らを物語ってくれるため、わたしの業について語ることをためらうことはなくなるだろう。

24. 伝達者たちを通して語られるわたしの言葉は、その趣旨において同じである。わたしは、それぞれの会衆の理解力と受容力に応じて語りかける。

25. 今日、新しい年が始まったこの最初の数時間のうちに、あなたがたはすでに力を合わせ、闘いを続ける決意を固めた。そう、あなたがたは私にそのことを告げた。あなたがたの決意は、善き種蒔き人として立ち上がり、 準備された畝に種を蒔くこと――その働きの終わりに豊かな収穫をもたらすことを願って。

26. その種とは、あなたがたが同胞たちの心に蒔く、光に満ちた御言葉である。

27. あなたがたは、この世や人々の学識に立ち向かわなければならない。なぜなら、学識を身につけた者たちはあなたがたに戦いを挑んでくるからであり、もしその時にあなたがたが信仰に確固としていなければ、敗者としてその戦いを終えることになるだろう。

28. 私があなたがたの知性を科学で満たしたのは、科学者たちと論争させるためではない。私があなたがたの魂を照らしたのは、高揚と霊感によって「測り知れないもの」へと入り込むためである。 あなたがたがこの時期に受け取ったものを、以前から知っていたなどとは、誰も主張できないだろう。なぜなら、この時期に私が人間の知性を通じてあなたがたに与えた教えの多くは、新たな啓示だからである。

29. あなたがたは、魂やその不死について語る。それは、あなたがたに永遠の命が約束されているからだ。しかし、これらの啓示について語るためには、まずそれを感じ取らなければならない。そうして初めて、あなたがたは私の弟子と名乗ることができるのだ。

30. スピリチュアリストとは、私があなたがたに御言葉を授けるこの集会所に入る者ではない。スピリチュアリストとは、霊的に祈り、いかなる場所からでも霊において高みへと昇りつめる者である。スピリチュアリストとは、自らの魂の完成のために奮闘する者であり、また、他者の苦しみを和らげるために生きる者でもある。

31. 霊性主義者はどこにでも存在し得ることを理解せよ。彼は言葉よりも行いによって見出される。それゆえ、私は常にこう告げている。「愛と謙虚さと慈悲の模範となれ」と。

32. スピリチュアリストと名乗る者すべてが、実際にそうであるとは限らないことを悟りなさい。

33. 私は、新たな律法を授けることなく、あなたがたの宗教的実践と礼拝を簡素化した。

34. 私は、像を用いた私の神性への崇拝が不完全であったこと、そしてあなたがたはあらゆる狂信を捨て去るべきであることを、あなたがたに理解させた。

35. あなたがたの神の力が、あなたがたのもとへ降りてくるために制限されていることを、知らないのか。あなたがたが信じる時、私があなたがたの心に降りてきて、そこに命を与えると、私は言わなかったか。あなたがたの心と魂が清いとき、私があなたがたの中に宿ると、私は教えなかったか。

36. かつては、あなたがたが持っていた発展の程度が低かったため、この「光の時代」をこれほど早く体験することはできなかったでしょう。しかし、 今、あなたがたがこの時代を生き、それについて考えるにつれ、預言の成就を目の当たりにすることは、最も自然なことのように思えてくるのです。

37. 科学者でさえ「奇跡」を発見し、かつては不可能だと思われていた進歩を遂げている。

38. なぜ、それらのすべての奇跡的な業が、主の恵みによるものであると悟ることができないというのか。

39. スピリチュアリズムは人々に教え、それぞれの道を通じてわたしを発見するよう促している。なぜなら、わたしは万物の中に、創造主として、力として、生命として、完全性として、そして調和として現れているからである。 そして、神以外に、宇宙のその調和を維持できる者がいるでしょうか？この神には形がなく、あなたがたは神を限定された形として想像してはなりません。なぜなら、この世を去ったとき、あなたがたは理解することのできない現実と直面することになるからです。

40. 私の教えは単なる認識にとどまらない。それは愛撫であり、また慰めでもある。 私の慈悲は、苦しむ者、涙を流す者、不義に耐える者すべての上に広がっている。それは母と妻を慰め、処女を守り、若者を力づけ、老人を支える。そして、あなた方すべてを待ち受ける、言葉に尽くせない至福への希望の光を灯すのである。

41. この時、わたしはあなたがたに恵みを注ぎ、あなたがたが引き続き光の道を歩み続け、いかなる痛みも敗北も、あなたがたをその道から引き離すほどには強くないようにする。

42. あなたがたの魂の中には、すでに、真の故郷である、あなたがたの父の平和の世界へと至りたいという切なる願いが宿っている。ここで、あなたがたは、人生の闘いの試練の炉の中で、波乱に満ちた運命や試練を通じて、清められてきた。 しかし、私はあなたがたに告げる。不屈の精神と献身をもって、その目的地までたどり着きなさい。なぜなら、もしあなたがたの中に忍耐がなければ、その旅路はさらに長引くことになるからだ。

43. この地上の生涯がどれほど長く続こうとも、それは不滅である霊的な命に比べれば、はかないものであり、つかの間のものに過ぎない。

44. 私があなたがたに約束する命の栄光を予感しなさい。そうすれば、あなたがたがこれほどまでに愛しているその肉体を失うことを恐れることはないだろう。

45. 私は、この地球に住んだすべての人々が、来世において互いを認識し、愛し合い、平和に暮らせるよう配慮する。そうすれば、あなたがたは、時に人間には理解しがたい苦しみや試練を伴う、あなたがたが後に残したこの存在の意味を理解するようになるだろう。

46. 霊的な生活は、あなた方にとって非常に身近なものだ。時には、肉体の目を閉じ、霊の目を開くだけで、その世界の奇跡を垣間見ることができるほどである。

47. あなたがたは「霊的な谷」に非常に近い存在であり、この世界からあの世界へと移るには、ほんの一瞬で十分である。

私は古来より、私の真理を証ししてきた預言者たちを通じて、人々にこれらの啓示について語ってきました。今この時代、私は、私の王国へと通じる唯一の道について、私の憐れみのためにその準備をされた男女たちを通して、あなた方に語っているのです。

48. この人生において、あなたがたは決して独りではないことを悟りなさい。もし霊的な生き方をすれば、霊界をすぐそばに見て、感じることができるでしょう。その世界の真実と栄光が、あなたがたの生活のあらゆる行いに反映されるようにしなさい。

49. 天にまします父に、常に最も純粋な思いのひとときを捧げなさい。そうすれば、揺らぐことなく、あなたがたの霊の光に照らされて、私の霊と直接対話する時を迎えることができるでしょう。それは1950年以降、あなたがたがもはやこの形では私を聞くことができなくなった時です。

50. 高みへと昇らなければ、あなたがたの魂と創造主とのその対話に到達することはできない。わたしのもとへと昇りたいとい

う願いを心に抱き、この地上での残りの人生の一部をわたしに捧げなさい。そうすれば、あなたがたの魂があの世へと移りゆく一歩が軽やかになるだろう。

51. 見よ、あなたがたが私に耳を傾けている間、あなたがたの感覚、心、そして魂がいかに調和しているかを。肉体と魂は、自らの未来について深く思索を巡らせている。 前者は自らの終わりを知り、それを受け入れている。後者は、眼前に広がる果てしない地平線を見つめて喜びを感じている。しかし、あなたがたの完全性の目標であるわたしのもとへ至るために、魂が乗り越えなければならない霊的な距離を、いったい誰が測り得ようか。また、この地上の肉体を離れるその瞬間、永遠の時計が示す時刻を、いったい誰が知り得ようか。

52. 備えを固めて生き、目を覚まし、祈りなさい。功徳を積めば、死への恐怖を抱くことはないだろう。なぜなら、あなたがたの魂が肉体を離れるとき、それは翼を広げ、巣を離れて初めての飛行に挑む若鳥のように、飛ぶ術を知っているからだ。

53. 犠牲を強いられることを考えて悲しむべきではない。物質主義者だけが、この世の快楽を振り返って憧れを抱き、苦しむのである。物質主義者になってはならない。人間としての側面に対して な配慮を怠ることなく、魂に関わる事柄に心を向けていなさい。

54. すべてがあなたがたの慰めのために用意されていることを理解しなさい。この愛の饗宴を食したい者は、わたしの食卓に着き、天使たちと同様にそこから滋養を得なさい。

55. あなたがたは偶然ここにやってきたのではない。わたしの啓示に立ち会うために、わたしによって導かれたのだ。あなたがたのうちの多くは、霊的な生活において死んでいた者としてわたしが出会ったが、わたしの言葉があなたがたをよみがえらせた。今日、あなたがたは命を息づかせ、心には希望が宿っている。 私はすべての人――信仰を持つ者も、信仰を持たない者も――を受け入れます。さまざまな教会や宗派に属する人々に、私はこう言います。「私の言葉を信じる者たちは幸いである。」

56. もしあなたがたが私の霊感を受け取り、それを思考や言葉に表したいと願うなら、自分自身を磨いてください。あなたがたは皆、私の仲介者となることができます。父は御自身の子供たちに理解されたいと願っておられ、それゆえ、霊的な神殿に入るようあなたがたを招いておられるのです。

57. 純粋な心をもってわたしを求めなさい。その際、常に良心の声に耳を傾けなさい。まことに、あなたがたに告げる。そうすれば、あなたがたはまもなくわたしを見出すだろう。 あなたがたの魂が飛び立つ前に、わたしはあなたがたのもとへやって来て、あなたがたに約束したあの平和の住まいへと導いてあげよう。しかし、わたしへと続く道を知っておく必要がある。あなたがたの道は、霊性化へと向かっているのだ。頂上へと登るためには、祈り、努力しなければならない。

私はまだ、地上の諸民族の中に、霊化への聖なる渇望を見出せない。物質主義は、私が定めた限界にはまだ達していない。しかし、この時代の終わりは近い。その後、あなたがたは、功徳によって魂の昇華を成し遂げるために、愛と慈悲の実践へと切望して立ち返ることになるだろう。

58. 罪と概念の混乱を生み出す暗い霧は晴れ去り、真の法がすべての存在を照らすことになる。

59. わたしは、あなたがたがそれを解き明かし、備えができるよう、未来を語る偉大な啓示を授ける。これを同胞たちに証しせよ。しかし、やがて、様々な人種や民族の人々が、無限の彼方においてわたしのしるしを見る時が来る。それはある者にとっては慰めとなり、また、そこにわたしの言葉の成就を見出す者たちにとっては、幸福な成就となるであろう。

60. わたしの教えには、あなたがたが望むことのできるあらゆる霊的な知識が含まれている。あなたがたは自らの魂の中に、成長の道のりで積み重ねてきた経験を見出すだろう。そして、もしあなたがたが準備の仕方を理解していれば、それらは魂の向上への道を見出す助けとなるだろう。

61. あなたがたは祈りを通じて、私のもとへ届く賛美の歌を天へと捧げている。あなたがたは、私の業における自らの闘いを私に捧げ、自分たちが蒔いた種が良質であり、私に喜ばれるものであることを願っている。 私はあなたがたに確言する。あなたがたは私の種を祝福された畑に蒔いている。なぜなら、私があなたがたに与えた恵みは、あなたがただけのものではなく、あなたがたの隣人にも属するものだと知っているからだ。

その努力において、私はあなたがたに犠牲を求めたのではなく、ただ律法を守ることを求めただけである。すなわち、あなたがたが私の子供として生き、私があなたがたに授けた美徳を現すことである。内も外も清らかな器となりなさい。そうすれば、神聖な完全さがあなたがたに豊かに注がれるであろう。

62. 時折、私はあなたがたの中に、自らの運命に対する抗議や不満を見出してきた。あなたがたが地上で送るこの世の生活は、あなたがたを満足させてはいない。しかし、師はこう告げる。魂の真の故郷は来世にあるのだ。忍耐強くあり、試練を勇敢に乗り越え、その期間中は私の律法に従いなさい。 困難な時期を良い時期へと変えるよう努めなさい。そして、戦争や破壊に関する知らせを耳にしたときは、祈りを捧げ、干渉したり、特定の陣営に加わったりしてはならない。これらやその他多くの不吉な出来事は解き放たれ、人類の中で浄化の業を遂行している。しかし、それは魂の益と発展のためである。 霊が繰り広げるこの大いなる戦いの後、より良い地球があなた方を待っており、その時にはあなた方はより高い段階に到達し、苦労から解放されて安らぎを得ることになるでしょう。

63. 霊的な目を開き、あなたがたが生きているこの時代を見つめなさい。そうすれば、人類に大きな試練を予告した、私の「第二の時代」の言葉を確信することができるだろう。

64. すべては、書かれているとおりに成就した。霊的に高みへと立ち上がり、清らかな心で私の教えに従いなさい。そして、この戦いは普遍的なものであり、魂は地上だけでなく、他の存在の次元においても闘っている、と私が告げたことを忘れてはならない。

まだ物質に縛られて生きている、肉体を持たない魂の軍団を、あなたがたの模範をもって助けてあげなさい。彼らが祈りと助けを求めて、あなたがたに近づいてくるのを感じなさい。彼らを拒絶してはならない。彼らが混乱の状態から抜け出せるよう助け、彼らがあなたがたに影響を及ぼす前に、あなたがたの思いやりをもって彼らに影響を与えなさい。 そうすれば、 あなたの愛によって私の教えの光を得る者たちは、深い感謝を込めてあなたの擁護者となり、あなたが使命を果たすのを支えてくれるでしょう。すべては、私の愛と正義の法則の枠組みの中で展開していきます。たとえ異なる霊的次元に住んでいようとも、私の中ですべての人を愛しなさい。また、互いに赦し合いなさい。

65. あなたがたの使命を果たすために、精神の全力を尽くして奮闘しなさい。あなたがたの決断次第で、あなたがたの美徳が表れるようになり、愛の言葉と行いによって信仰を証明することができるようになるでしょう。

66. この時代において、師は第二の時代と同様に弟子たちの前に現れ、彼らの中にこれほど大きな謙虚さと慎み深さを見出すとき、師は彼らに御言葉を聞く恵みを授けるのである。

67. 私の律法に基づいているならば、あらゆる行いは私のもとへ届くことを心に留めておきなさい。

68. わが律法とは、あなたがたがわたしから受け取った良き種であり、あなたがたはそれを隣人の心や子供たちの心に蒔かなければならない。わたしの呼びかけに、信仰の松明のように燃え上がり、わたしの業にとどまり続ける心もあるのだ。

69. あなたがたは、人々の間で私の教えが花開くという崇高な目標に駆り立てられ、苦闘の中でしばしば誘惑に打ち勝ってきた。

70. わたしは、あなたがたの魂をわたしの知恵で照らし、あなたがたが、自分の信仰を分かち合わない者に遭遇したとき、あなたがたが真理を知っているという説得力のある証拠を示し、同時にその者が信じるよう助けることができるようにしたい。

71. 人々は、あなたがたが預言者であると自認しているのか、また霊に対する力を持っているのかと問い、初代時代のエリヤのようにあなたがたを試すだろう。あなたがたは彼らにその証拠を示すことになる。しかし、そのためには、その時にあなたがたが信仰を持ち、わたしの律法を全うし、わたしの御心に従うことが不可欠である。

72. ここに、人間の知性を通じて語る師がおられる。その知性は神の知性の写しであり、私がこの地上に住む最も完全な被造物、すなわち人間に授けた賜物である。私があなたがた一人ひとりの中に現れているというのに、なぜ私がこの形で自らを明らかにすることを疑うのか。 この言葉から放たれる知恵は、私が霊に開く無限の地平であり、それによってあなたがたが真理を認識し、それを通じて至高の幸福を感じることができるようにするためである。

73. この光に目を開く者は、もはや自らの手で作り出した造形物を通してわたしを求めることはできなくなる。なぜなら、その者は、魂の 高揚によって霊感を受け、わたしの神性と対話を交わす者たちの一員となるからである。

74. 人は、高揚の瞬間に肉体から解き放たれることを学ばなければならない。そうしてこそ、その霊があの世に留まる短い時間が、自らを啓発し、強めるために役立つのである。そうしてこそ、人は常に上向きの発展への道を見出し、それをその道を知らない者たちのために示すことができるようになる。わたしは、あなたがたに、これらの啓示を証しする機会を与える。

75. 今日、私はあなたがたに告げる。あなたがたは、*自らの*魂を救うことだけでなく、隣人の魂をも救うよう努めなければなら

ない。それによって、人類は、互いに愛し合うことを教える私の言葉が成就されるのを見るだろう。

76. あなたがたが私に求めることの多くは、私が与えてやる。しかし、もしあなたがたが自分の運命を変えるよう私に求めたとしても――まことに、私はあなたがたに告げる、私はそれを許さないだろう。なぜなら、徳と完全さと愛を語るあなたがたの運命は、私によって定められたものだからである。

77. わたしの畑の働き手となるために創造された者は、その畑に種を蒔かなければならない。そして、その種は信仰と愛と善意でなければならない。

78. 光を求めながらも見出せない、渇きに苦しむ魂たちよ、この泉から飲みなさい。あなたがたの心が知らないこの甘美な平安を感じなさい。そして、それを感じたならば、今まさにあなたがたに語りかけているのが誰であるかを悟りなさい。そうすれば、私がなぜ再び人々のところへ来たのかと問う必要はなくなるだろう。なぜなら、その答えをあなたがたは自らの内に見出すことになるからだ。

79. もしこの世に無知がなく、血が流されることもなく、痛みや悲惨さが存在しなければ、私の霊が、あなたがたの感覚に知覚される形で具現化する理由などなかっただろう。しかし、あなたがたには私が必要なのだ。この時代において、私の愛だけがあなたがたを救うことができると私は知っている。だからこそ、私は来たのだ。

80. もし私があなた方を愛していなかったら――あなた方が自らを滅ぼすことなど、いったい何の意味があるというのか。あなた方の苦しみなど、何の意味があるというのか。しかし、私はあなた方の父である――子供たちの痛みを自らの内に感じる父である。なぜなら、どの子供も父の小さな一部だからだ。だからこそ、私は私の言葉の一つひとつ、そしてインスピレーションの一つひとつの中に、霊にとって命そのものである真理の光をあなた方に与えているのだ。

81. この言葉を耳にすると、あなた方の心臓の鼓動は速まり、大声で私の名を賛美しようとしたほどだった。しかし、 、あなた方の魂を包んだ喜びの高揚を、唇で表現する必要はなかった。なぜなら、私があなた方の声を聞くとき、あなた方が歓喜するのを、私はあらかじめ知っていたからだ。

82. わたしはあなたがたの師である。第二の時代に世界によって犠牲にされたあの者であり、今、人々への変わらぬ愛を胸に再

びやって来た者である。 私は、十字架上の死の苦しみの中で、愛への限りない渇きを感じ、水――それは人間からの同情の表れあるいは証となったはずのもの――の代わりに、軽蔑と嘲笑、そして無知の象徴として、唇に胆汁と酢を注がれた者である。

83. しかし、私は人類を非難するつもりはない。それどころか、私は人類を鼓舞する新たなメッセージをもたらす。それは、魂にとってこれほどまでに不可欠な平安を、人々に実感させるものである。

84. 「私は渇いている」と、私はあの時に言った。「私は渇いている」と、私は再びあなたがたに言う――あなたがたの愛を、あなたがたが私の御霊に近づいていると感じられることを、そしてあなたがたが互いに愛し合うことを、私は渇望しているのだ。

85. あなた方もまた渇いている。痛みがあなた方の心を焼き尽くしており、信仰、希望、慰め、そして平安が、魂と心と知性の渇きを癒やすために、霊的な水の清涼さを切実に必要としているのだ。

86. 力を求めているのか？　それを受け取りなさい。癒しの香油が必要なのか？　それを受け取りなさい。重い問題を抱えているのか？　私はその解決策を授ける。私に自分の貧しさを訴えるのか？　働くための鍵と日々の糧を受け取りなさい。苦しんでいるのか？　泣いて、そして私のマントで涙を拭き、私の愛撫を感じ、新たな力を得て、生き返りなさい。

87. この日から、新しい人生を始めなさい。私はあなたがたの勝利を喜び、あなたがたが障害を乗り越えられるよう助ける。改めて言おう。「私は道であり、真理であり、命である。」

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 179

1. わたしは、選ばれた者たちを通して世界に語りかける。わたしから霊感を受けた者たちは祝福される。彼らの言葉は花開き、雄弁であり、わたしはそこにわたしの知恵と意志を明らかにしたからである。

2. 太古の昔、知性と理性を授かった人間は、知見を得始め、思想を形成し、その主に礼拝を捧げるようになった。 その精神は強まり、多くの経験を経て成長したとき、わたしはアブラハム、イサク、ヤコブを遣わした。彼らを、霊的な大樹の模範であり、その根幹となる者――その血筋が時代を超えて存続し、増え広がり、全世界に及ぶことになる、数多き家族の父たち――とするためである。 そこから、力と権威に満ちた十二部族が生まれ、諸国民に、創造主への真の崇拝を教え、罪を根絶するという使命を伝えることとなった。

私はこの使命をイスラエルの民に委ねた。なぜなら、人類の初期の時代において、多くの初期の困難や、私の律法に対する誤った解釈を目の当たりにしたからである。 私が子供たちに求めた、霊的かつ質素で純粋な礼拝は、偶像崇拝や、目に見える儀式、そして忌まわしい行いに堕してしまいました。私が彼らのそばにいたにもかかわらず、彼らは私を遠くに「感じ」、律法を遵守していると思い込みながら、罪を犯したのです。

私が人類に預言者たちを遣わしたとき、彼らは彼らを見誤り、熱意と真実さに満ちた彼らの言葉を聞いたとき、彼らは私にこう言いました。「主よ、私たちはあなたに従うことはできません。その道はあまりにも遠すぎます。」しかし、愛そのものであり、すべての子供たちに命を吹き込み、共に歩む父は、それでもなお、彼らが自分を受け入れるのを待ち続けていました。

3. 選ばれた民よ、今日、あなたがたは第三の時代に生きており、わたしはあなたがたを、世界を目覚めさせ、導くという同じ使命をもって遣わした。あなたがたが準備を整えれば、その霊感は尽きることなく、1950年以降、あなたがたはわたしの弟子として、自らの言葉を通じて教えを広め、それとともにわたしの意志、啓示、そして慈悲を伝えることになるだろう。 人々へのあなたがたの愛は奇跡を起こし、あなたがたは常に奉仕の姿勢を保ちながら生きるようになるでしょう。しかし、霊性への歩みを踏み出したとしても、まだあなたがたの受容力に達していない同胞たちに対して、優越感を抱いてはなりません。

4. 高みへと舞い上がりなさい。そして、もし魂を救うために降りる必要があるならば、そうしなさい。まるで、羊飼いが、羊が転落した深淵へと降りて行き、それを救い出し、その羊を、自分の群れを成す他の羊たちと に結びつけるように。 良き羊飼いとなり、この教え――すなわち、命であり、高みへの発展であり、栄光である――をもって、隣人の心を育むことを学べ。

5. 決して愛に対して心を閉ざしてはなりません。そうすれば、愛を通して、あなたがたの父の限りない御業を悟ることができるでしょう。

6. 愛する弟子たちよ、隣人の過ちには寛容でありなさい。

7. 隣人の過ちを裁かず、それに対して憤りを抱くことを避ける者たちは幸いである。彼らは心の清らかさを示し、憐れみを実践することを理解しているからである。

8. 裁く権利を持つのは、その方法を知り、さらに真の愛をもって人を正し、教え導くことができる者だけである。人類が現在経験している試練において、私が唯一、裁く権利を持つ者であると告げよう。なぜなら、すべての人々のうち、その権利を持つべき義人など、私は一人も見出せないからである。

9. もしあなたがたが美徳を愛し、他者の過ちを憐れむなら――ひいては、生涯を魂の向上に捧げるならば、真の模範となることができるでしょう。 そして、行い、言葉、そして思いを通じて教え、同胞たちの道を照らすならば、あなたがたは、この地上にいたときに、いかにして完全な裁き手となり得るかを示してくださった神の師に、ますます似ていくことになるでしょう。

10. 私は、大罪を犯した者たち――男女を問わず――が私の御前に来ることを許した。私は、大いなる偽善者たちが私の道に現れることを許し、彼らが私を試したり、問い詰めたり、嘲笑したり、あるいは私を辱めようと試みることを許した。 私は、彼らが私の裁きに耐えられないこと、そして最終的に誰もが私の神聖な臨在を感じるようになることを、よく知っていた。ある場合には、たった一言で人を動かせることもあれば、またある場合には、一瞥や、あるいは単に沈黙だけで十分だった。しかし、あなたがたは知っておくべきだ。私の働きには、謙虚さ、威厳、愛、そして思いやりが込められていたのだ。

11. 謙虚さ、慈愛、そして愛こそが、イエスの正義の本質であった。それにもかかわらず、人類にとって、イエスほど容赦のない裁き主は他にいなかった。真の愛、絶対的な純粋さ、神聖な光に、誰が抗うことができようか。

12. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたがわたしの愛に対抗しうる力などない。敵はみすぼらしく、敵対する勢力は弱く、真理 と正義に立ち向かおうとした武器は、常に脆いものであった。

13. 悪の勢力が神の正義に対して繰り広げてきた戦いは、あなたがたには果てしない紛争のように見えてきた。しかし、永遠という観点から見れば、それはほんの一瞬に過ぎず、あなたがたの魂が未熟であった時代に犯した過ちは、あなたがたの美徳と私の慈愛に満ちた正義によって永遠に消し去られる、小さな汚れのようなものとなるだろう。

14. 水のように透き通った私の言葉を受け入れる者は、もはや渇くことはない。第三の時代に、私があなたがたに与えるこれらの教えの中で私を認める者は、人類に降りかかる大きな試練の中で強くなり、滅びることはない。

15. あなたがたが不意を突かれないよう、私はあなたがたを備えさせている。信仰の炎を燃やし続けなさい。たとえ嵐の風がどれほど唸り、あなたがたの灯を消そうとも、目を覚まし、それを大切に守り続けなさい。そうすれば、あなたがたは暗闇の中に置かれることはない。

16. 今日、世界はもはや、わたしの教えを聞いても微笑むことはない。魂は、自らのすべての行いが裁かれなければならない主の偉大な日を生きていることを知っている。その日、わたしの視線は魂の最も奥底にまで突き刺さるだろう。魂は、自らの収穫が、苦しみをもたらす実を結ぶ悪い種と混ざり合っていることを知っている。 その良心は、神の教えに従わなかったこと、服従と従順の道から逸脱したこと、それゆえにその十字架が極めて重くなっていることを告げている。

わたしはすべての人々に杯を与え、愛と善行でそれを満たすようにと願った。しかし、あなたがたはわたしに苦味と毒しか差し出さない。死の予感に駆られ、その杯を取り除こうとし、解毒剤を探している。しかし、わたしはあなたがたに言う。わたしのところに来なさい。まだ命を取り戻すことはできるのだ。わたしの言葉に耳を傾け、働きなさい。

17. 愛しなさい。憎しみを追い払い、善の道からあなたの歩みを遠ざける古い慣習を捨て去りなさい。あらゆる時代の御言葉をもって、あなたの道を照らしなさい。 魂の奥底にある神聖な遺産を探し求め、モーセを通して与えられたわたしの原則、そしてイエスを通して示されたわたしの言葉と模範を思い起こしなさい。第三

の時代に聖霊としてあなたがたに与えたわたしの啓示を思い起こせば、なぜあなたがたが泣いているのかがわかるだろう。しかし、わたしはあなたがたからその杯を取り除き、わたしの平安を授ける。

18. この時代のわたしの言葉の中に、あなたがたは、イエスがあなたがたに教えたものと同じ本質、シナイ山で十戒としてあなたがたに授けたものと同じ真理を見出すであろう。 わたしに仕えようとする者は皆、まず、わたしの道が、隣人への愛による犠牲と献身の道であることを認識すべきである。しかし、わたしはまた、あなたがたを真の命へと導くために、あなたがたのすべての功績を、あなたがたに帰するであろうと告げる。

19. 善意ある人々よ、私の愛を感じ、私のところに来なさい。顔を上げ、約束を果たして人々のもとに戻ってこられたキリストを見つめなさい。

20. わたしはあなたがたの心の奥深くに入り込み、そこで、祈りの中でわたしに語りかけ、わたしの教えに従い、強くあり、試練の中で冷静さを保つという決意を捧げる、あなたがたの精神の素朴な敬意を受け取ります。

21. この深く心から湧き出る謙虚な祈りへの答えとして、わたしは常にあなたがたと共にいることを約束し、あなたがたが経験するかもしれない困難な時において、この共在を最もはっきりと感じさせてあげよう。

22. この時代の光は、人々の精神を包み込んでいた暗いベールを引き裂き、彼らを束縛し、真の道へと至ることを妨げていた鎖を打ち砕く。 まことに、あなたがたに告げます。私の教えがあらゆる知識分野の探求を禁じているなどと考えてはなりません。なぜなら、あなたがたの関心、賞賛、そして好奇心を呼び覚ますのは、他ならぬ私だからです。そのために、私はあなたがたに思考能力を与えました。それは、その能力が望む方向へと、何ものにも妨げられることなく進むためなのです。 私は、あなたがたが自分の道の途中で目にするものを理解できるよう、知性の光を与えた。それゆえ、私はあなたがたにこう言う。発見し、探究しなさい。しかし、私の神秘に踏み込む際の態度が、敬意と謙虚さに満ちたものであるよう注意しなさい。そうしてこそ、それは真に許されることになるのだ。

23. 私は、人々が書いた書物を知ることを禁じてはいない。しかし、あなたがたは、つまずいたり誤りに陥ったりしないよう、十分な訓練を受けなければならない。 そうすれば、人間がいかにしてその人生と闘いを始め、どこまで到達したのかを知ることにな

るだろう。そして、その準備が整ったならば、あなたがたは私の教えと啓示の泉に向かわなければならない。そうして初めて、私があなたがたに待ち受ける未来と目標を示すことができるのだ。

24. 誰もが、自らの良心が示す通りに備えなさい。闘いの時が訪れることを悟りなさい。その時には、 瞑想するために隠遁所の陰に身を隠すべきではなく、むしろこの世と誘惑に立ち向かい、その闘いから一瞬たりとも逃れてはならないのだ。

25. もしあなたがたが準備をせず、私の教えを深く探求しなければ、明日、人々の間で――たとえ誤りであっても――真実のように見える理論が現れるかもしれない。そして、あなたがたが詐欺師として扱われることは、私の意志ではない。なぜなら、彼らは、この時代に私が来たことが真実ではなかったと証明しようと試みるだろうからである。

26. 自らの力を用いて備えを固めよ。他者の行いを裁くことにその力を浪費してはならない。

27. 私はすでに何度もあなた方に言ってきた。「団結せよ」と。しかし、私が団結について語る時、それは単にあなた方の教会についてだけ言っているのではなく、この言葉が全世界を包含していることを理解してほしい。

28. 私が、何らかの礼拝行為を啓発するために来たのではないことを悟りなさい。第二の時代においても、またこの時代においても、私は、あなたがたが私の崇拝のために定めた集会所において、玉座や名誉の席を求めたことは一度もない。 今日、私はあなたがたにこう告げます。地上の宝や人間の虚栄を私に捧げてはなりません。そうすれば、あなたがたは、荒野でイエスに近づいた誘惑者がしたのと同じことをすることになるからです。すなわち、私の王国のために、彼の王国を差し出すことになるのです。

あなたがたはすでに、わたしの王国がこの世にあるのではないことを知っている。だからこそ、わたしは人間となり、謙虚に生まれ、そのように生きたのだ。それは、天の王国を得るために、この世の力や栄華は必要ないということを、あなたがたに証明するためである。

29. しかし、すべてが私のものだとすでに知っているのに、なぜ私に物質的な富を捧げなければならないのか。私がまだ持っていないもの、すなわち、あなたがたの愛を私に捧げなさい。

30. 私が呼びかけているのは、あなたがたの霊である。それは私の霊の一部であり、私のもとへ戻らなければならないからだ。しかし、それを救うために、私はあなたがたの元へ降りてこなけれ

ばならなかった。今日、あなたがたの霊は、私の懐にたどり着くまで、徳によって高みへと昇らなければならないのである。

31. わが弟子たちよ、あなたがたは、わが恵みを得るために、わが前に喜ばれる思いと行いを自らの内に見出そうとしている。そして、あなたがたの愛と努力を知っている私は、あなたがたが懇願するものを与えてやる。 あなたがたが私に求めるのは地上の富ではなく、儚い喜びよりも、永続する喜びを追い求めているのだ。あなたがたは永遠の命へと続く道を歩んでおり、そこでは闘いの末に安らぎを得るだろう。

32. わたしの言葉に込められた真髄を心ゆくまで味わいなさい。そして、苦痛に襲われたときは、 その苦痛の中に、永遠の命への道を常に照らし示してくれる光を見出すだろうという考えをもって、自らを慰めなさい。まさにこの苦痛こそが、魂が眠りについたり、慢心したりすることを許さず、心を清め、活気づける露のようになるのだ。

33. 私はいつの時代も、永遠の命について、また、魂が歩む終わりのない道について、あなたがたに語ってきた。その道において、魂は成長し、完成へと至り、その主のもとへ到達するのだ。

あなたがたが理解し、従うことのできる模範を持つことができるように、私は「時の中の時」にこの世にやって来た。私はイエスという姿に身を限定し、生まれ、人間として生き、神の律法と人間の律法に従い、この人生の厳しさを味わい、日々の糧を得るために働いた。しかし、こうした義務の履行を超えて、私は世界に愛と柔和のメッセージを伝えた。

34. 説教し、行動する時が来ると、私はこの使命を果たすことに心を捧げた。

35. 魂が肉体よりも重要であることを、すべての人が理解したわけではない。そして、私があなたがたに与えたこの愛の教えについて、あなたがたは私にほとんど実を結ばせてはくれなかった。あなたがたの心はなんと脆いことか！ 多くの者が私を愛していると主張しながら、私の教えの恩恵に気づいていない。

36. 私が弟子たちに、再び人々のところへ戻ると明かしたその時、彼らは私の預言がいつ実現するのかと尋ねた。そこで私は彼らに言った。「目を覚まし、祈りなさい。そうすれば、それを見るだろう。」

多くの者が、私がすぐに来ることを期待していたが、私が裁き主として、すべての人々の道を整えるために来たのは、まさにこの時である。もし彼らが霊的な目を開けば、私が「白い雲」に乗っ

て降りてきて、そこから無数の光線を地上に降り注いでいるのを見ることができるだろう。

37. わたしが光であり、神聖な愛であり、わたしの中に物質的な形など存在しないのだから、いったい誰がわたしの霊の本質を究明できようか。わたしは貧しさの只中にあって、あなたがたの元へやって来た。わたしがあなたがたに教えた徳は、第二の時代に説いたものと同じである。わたしはあなたがたの心をわたしに近づけたいと願っており、あなたがたにわたしの新たな顕現を認識してほしいと願っている。

38. 恐れや勤勉さの欠如から成長せず、メシアの到来を認めずにモーセの律法に従うだけの者たちが多くいる。また、イエスを信じながらも、約束された慰め主の御霊を待ち望んでいなかった者たちもいる。 今、私は三度目に降りてきたが、彼らは私を待ち望んでいなかった。

39. 天使たちはこれらの啓示を告げ知らせ、その呼び声は空間を満たした。あなたがたはそれを認識したか。私の臨在を証しするために、霊界があなたがたのところへやって来たのだ。 書かれていることはすべて成就する。引き起こされた破壊は、人間の傲慢と虚栄を打ち砕き、そうして謙虚になった人間は、わたしを求め、わたしを「父」と呼ぶようになる。わたしを愛しなさい。そうすれば、あなたがたはわたしを知るようになる。そうして、諸国民の平和を求める願いが、あなたがたの心から湧き上がるだろう。

私はあなたがたすべてを愛している。そして、あなたがたがいつか霊的に準備を整えて私のもとに戻ってきたとき、私は人類と契約を結び、父と子らの間に大きな喜びが満ちるだろう。

40. わたしを待ち望んでいた者たちは、人間を通して与えられたわたしの言葉に驚かなかった。 他の人々は、師がこの姿で世に現れるために再臨したことを否定した。しかし、わたしはあなたがたに言う。祈り、探求し、預言を研究し、心の奥底にある良心の声に耳を傾ければ、あなたがたは問われるあらゆる質問に答えることができるようになるだろう。

41. わが民よ、わたしはあなた方を祝福する。わたしはあなた方に命を与え、あなた方を愛しているからこそ、成長の道を歩むよう励ましている。わたしは人間や、より低い次元にいる存在たちに、生きるために必要な要素を与えた。あなた方は皆、わたしの中に生きており、わたしの意志に従っている。「木の一枚の葉でさえ、わたしの意志なしには動かない」と、わたしはあなた方に告げた。 生きるために、あなた方には吸い込む空気、体を温める太陽、

そしてあなた方を養う水や果実がある。しかし、霊を授かったあなた方には、霊的な昇華に必要なすべてを知るために、私の秘められた宝庫に入ることを許そう。 物質的な自然は、今日存在していても明日には消え去るが、あなた方の霊は滅びることはない。なぜなら、私はそれを人間の奉仕者となるよう創造したからであり、その使命を果たした後、それは消え去るからだ。

42. 地球も、植物も、動物も、その神に感謝の捧げ物を捧げている。全被造物は、その法則に頭を垂れ、従っている。森の野生の動物たちは互いに愛し合い、同種の生き物を殺すことはなく、もし殺すとしても、それは養うためである。彼らは伴侶を尊重し、時期尚早に繁殖することはなく、互いを批判することもない。

しかし、あなた方人間は、自由意志と自らの意志を持っているがゆえに、まさにその反対のことをしている。だが、私はあなた方の道を照らすために、良心と律法を与えたのだ。目を覚ましなさい。私の教えの光に目を向けなさい。私のもとに来なければならないというのに――なぜ歩みを遅らせるのか。人生の旅を苦痛なものにしてはならない。 魂がわたしを求め、わたしを愛し、わたしを理解し、祈りと愛の行いの中で強くなり、再び生き返ることを許しなさい。

43. わたしは、あなたがたが熱意をもってわたしの律法を全うできるよう、あなたがたを準備している。そうすることで、あなたがたは隣人を教え導き、彼らの支えとなることができるのだ。

44. わたしは、あなたがたがわたしを父として愛し、わたしの創造の完全な業の中にわたしを見出すことを望んでいる。小川の透き通った水の中、野原の緑の中、頬を撫でる空気の中、星々が散りばめられた大空の中で、わたしを否定してはならない。わたしにそのような痛みを与えてはならない。

45. 見よ、私があなたがたの魂を養うために、いかにして私の創造の力を注ぎ出しているかを。 私は、肉体と魂の両方で癩に冒された者たちを癒やしている。なぜなら、肉体が生きるために食物を必要とするのと同様に、魂もまた霊的な糧を必要とするからだ。魂には愛、父との対話、そして義務の遂行が必要である。この調和の中で、あなたがたは今日この地上で、そして明日、霊的な故郷において、幸せに生きることができるだろう。

46. わたしの愛はあなたがたと共にあります。わたしの霊感は、そのために備えられた被造物たちの知性を通じて言葉へと伝えられます。彼らはわたしの通訳者であり、わたしは彼らの霊的な備えと能力に応じて、自らを現します。あなたがた全員が、わたしの

声を伝える者となり得るのです。 人間は、私の神性の力を受け取るにはあまりにも小さすぎる。しかし、私は、自分自身を理解してもらえるように、また私の言葉が彼らの唇から語られるように、彼らの知性という器官に限定された光線を送っている。私はあなたがたに言う。主の愛と教えを受け取り、知識への渇きを癒やすために、ここへ来なさい。

あなた方のうちには恐れを感じる者もいる。しかし、私は問う。私が常にすべての子供たちのそばにいて、あなた方が心の中に私を宿しているというのに、なぜそのような恐れを抱くのか。

47. あなた方への私の愛は深かった。だからこそ、あなた方が私を大いに必要としているゆえに、私は様々な地域や国々からあなた方を選んだのである。あなた方は私と約束を交わした。それは、かつての時代にあなた方が使命を果たせなかったからであり、あなた方が私から生まれた時のまま、清く純粋な状態で私の元へたどり着けるよう、歩みを速める必要があるからである。

48. あなたがたはまだ完全には至っていないのに、すでに時の完成期に差し掛かっている。私はこの時代、長い間、人間を媒介として語り続けてきた。私はあなたがたにたとえ話を通して語りかけてきた。そして、最初の伝道者たちによって伝えられ、書き記された私の言葉が記された聖書を読むとき、あなたがたは私の忍耐に感嘆し、自らの怠慢に対して痛みを感じるだろう。 人々が集うすべての共同体において、私は命の言葉を豊かに与えてきた。そして、私はあなたがたにこう告げてきた。「自分自身を深く見つめ、そうして隣人を理解しなさい。彼らの痛みを感じ、私があなたがたを愛するように、彼らを愛しなさい。」

49. わたしは、あなたがたの中にあり、かつわたしに属するわたしの霊の一部を取り戻すために、それを切望してやって来た。わたしは宣戦布告をするためにやって来た――しかし、それは人類に対してではなく、罪と悪に対してである。すでにあなたがたの中で激しさを増しているこの戦いにおいて、あなたがたは強くあり続けなければならない。 あなたがたの賜物を活用しなさい。そうすれば、善を行うほどに、それらは増し加わり、尽きることのないものとなるだろう。私があなたがたに「刷新」について語る理由は、私があなたがたを飾った、そして時代を超えて守り続けるべきであった優雅さと純粋さを、あなたがたが失ってしまったからである。

50. わたしは、あなたがたに「雲の中に」現れると告げ、わたしの天使たちも共に来ると語った。これらの預言は果たして成就

しなかったというのか。わたしの霊界は語らず、わたしの言葉のすべてを裏付けなかったというのか。

大きな試練が訪れ、地球を揺るがすだろう。その時、あなたがたが私を裁き手として求めることを私は望まない――父として、師として私を求めなさい。私は、あなたがたが王冠も笏も求めないよう、命と愛と謙遜の真の道を示そう。偉大でありたいと願うなら、謙遜であれ。

51. わたしは、あなたがたが一つになることを望む。なぜなら、1950年を過ぎれば、あなたがたはもはや代弁者たちを通して父の御言葉を聞くことはなくなり、あなたがたの魂はこの道を歩み続けるための励ましを渇望するだろう。そして、あなたがたのうちの多くはペテロのように弱くなり、また他の人々はトマスのように疑うだろう。しかし、誰がヨハネを手本とするだろうか。まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが、あの選ばれた弟子のようにわたしを愛するなら、あなたがたはわたしのすべての栄光を見るだろう。そして、わたしはあなたがたにこう言うだろう。「悲しむ者たちよ、わたしのもとに来なさい。わたしは父であり、すべての子供たちの痛みを感じている。」祈りなさい。そうすれば、あなたがたの十字架を背負うのを助けてくれるキレネ人の存在を、すぐそばに感じるだろう。試練の中で従順であり、強くありなさい。そうすれば、あなたがたの苦しみは軽くなるだろう。

52. わたしは、この国とその住民を、わたしの教えを宣べ伝えるために備えてきた。それは、民が魂を高め、来世において「第二のエルサレム」、すなわち約束された霊的な地を仰ぎ見ることができるようにするためである。そこでは、世の終わりに、民は先祖たちと一つになるのだ。

わが意志は、この国において様々な人種が混ざり合い、戦争や争いに疲れて 私の教えを熟考する場所を求める者たちが安らぎを見出し、霊性を渇望する者たちが、光と慰めをもって満たされる私の霊の啓示を受け、この地上の谷間からすでに、魂が宿り、私の言葉の成就を体験する高次の生命への入り口を垣間見ることができるようにすることである。

53. わたしは、この国に輝きを与える。この国は、霊的に高みへと昇華するだけでなく、物質的にも力を得るだろう。その畑は実り豊かになり、その住民は活力と道徳的な強さを持ち、わたしによって鍛えられた精神は、高揚とわたしの律法への理解の証を示すだろう。

54. そうして、この世の人々がやって来て、あなたがたのところでわたしの業を目の当たりにしたとき、彼らは自分の人生を改善したいという渇望を感じ、その償いを助けてくれる自然な原理を求めるようになるだろう。彼らは律法について深く考え、わたしの言葉を渇望し、その魂は再びわたしと結びつくことになる。 私は密かに、そして愛を込めて彼に語りかけ、彼を道の始まりに立たせる。そして、彼がその道のりを歩み終えたとき、彼は私が待ち受ける山を登るために、上へと向かって歩み始めるだろう。

55. この時代、すべての人が、私があなたがた、すなわち私の弟子たちに語るのと同じ形で、私の言葉を聞くわけではない。しかし、私を求める者は誰でも、私を見出すことを知っておきなさい。私を愛する者一人ひとりの内に、私の霊感がある。あなたがたは、そのことを証ししなければならない。あなたがたが彼らの前で使命の遂行に取りかかったならば、愛と謙遜の模範を示すことによって、彼らのために道を整えなさい。

56. わたしに近づきなさい。霊の目を開き、心でわたしの愛を感じなさい。あなたがたが聞き、感じるすべてのことを、その内面にしっかりと留めておきなさい。そうすれば、明日、わたしの言葉を思い出し、それを解釈するとき、あなたがたは隣人を教え導くことができるでしょう。

57. これらの教訓を見逃してはならない。それらは、今、あなたがたの救いのために私が与える「知恵の書」の一ページである。

58. わたしはあなたがたを受け入れ、あなたがたの中にわたしのすべての子供たちを受け入れる。わたしの知恵は、理解力と心を整えることを知っていたすべての弟子たちの上に降り注ぐ。

59. 私は、あなたがたが人々に対して弱さを感じることのないよう、光と力、平和と愛として、あなたがたの心へとやって来る。

60. あなたがたは忍耐をもって身構えている。なぜなら、世界に兄弟愛と平和を広めるという崇高な使命を果たさなければならないことを知っているからであり、天の父の御心が成就されるよう見守らなければならないことを知っているからである。あなたがたは、まだ成就されていないこの使命を見守る番人のようにならなければならない。

61. わたしの声は、絶え間なく人々を律法の道へと招いている。しかし、この時代に最初にわたしの啓示を受けたあなたがたは、人々の群れがわたしのもとに来る様子を目の当たりにするために

、最後尾に回されたのである。 しかし、あなたがたは最初にわたしを認めた者たちの一人である以上、わたしの教えの場において模範となり、同胞たちにとって支えとなる義務がある。

62. 私は、あなたがたの任務の重大さを前にして、第三の時代の使徒となるための勇気と信仰が、依然として欠けているのを見ている。あなたがたの人生には、今なお弱さ、絶望、そして自己との葛藤の瞬間がある。あらゆる障害を乗り越えなさい。 あなたがたの心は、すでにわたしの業の偉大さを感じ取っている。あなたがたは、わたしの言葉が励みになることを実感した。わたしの教えの中で、あなたがたは誘惑から解放されるために祈ることを学んだ。

63. 師は、あなたがたがこれ以上時間を無駄にすることを望んでいない。人類がいくつかの点で進歩を遂げていることを見てほしい。しかし、私はあなたがたの進歩が完全なものとなり、人間的な生活と霊的な生活が調和することを望んでいる。

64. この人生は、あなたがたの魂が進歩を遂げるための素晴らしい機会です。歩み出し、成長し、発展していってください。創造界のあらゆるものがどのように発展し、変化していくかを見てください。

初め、あなたがたは未熟な状態で、まるで原子のようでした。しかし、私があなたがたに授けた知性のおかげで、やがて自然が持つ物質を手に取り、それを活用するようになったのです。 あなたがたが地球に住み始めた時点で、すでにそこでは、あなたがたを待ち受けていた法則が効力を発揮していた。父はそれ以来、霊的な生活をあなたがたに啓示し、あなたがたを、浄化を得るための闘いの後に休息し、平安を享受するために到達しなければならないあの故郷へと向かう道へと送り出してきたのである。

65. 常に良心の声に耳を傾けなさい。そうすれば、あなたがたが律法を遵守したかどうかを教えてくれるでしょう。

（たとえ話）

66. 聞いてほしい。ある男が、高い山の上にいた。彼は山々や森、そして部族の仲間たちのための食料を求めて常に前進し続けてきた道を熟知していた。 ある日、孤独の只中で、彼はある声を耳にした。「私はあなたを見守っている、人よ。あなたの苦労を見ている。それゆえ、私はあなたのところへやって来る。私は、すべての被造物の中に脈打つ命そのものだからだ。

しかし、よく聞きなさい。立ち上がり、見渡し、お前の仲間たちのところへ行き、お前が聞いたこと、そして感じたが、目には見えなかったことを彼らに伝えなさい。もし彼らが、お前がすでに

信じていることに納得したなら、彼らと共に、一つの民族の萌芽を築き上げなさい。 私が彼らのために用意した土地という約束が成就する道へと、彼らを導きなさい。」 その男は、その声を聞いたとき、心臓が激しく鼓動するのを感じ、自分に語りかけたその者を見上げる勇気さえ持てなかった。まるで天の光が自分の魂を生命力で満たすかのように、未知の力が自分の存在の奥深くに浸透してくるのを感じた。

その声が途絶えると、彼は体の疲れが消え去るのを感じると同時に、魂に重くのしかかる責任の重みも感じた。

その後、彼は自分の仲間のもとへ向かい、起こった出来事を証しした。彼は誠実な人であったため、皆が彼の言葉を信じた。その男は言った。「私が聞いたあの声は、ある道について私に語りかけた。しかし、私が知っている道の中で、それがどれなのかは分からない。 もしかすると、どこかの大都市へと続く道かもしれないし、あるいはブドウ畑が広がる広大な土地へと続く道なのかもしれない。」

ある夜、寝床で休んでいると、彼は感覚ではなく、心の中で澄んだ声を聞いた。「その道は霊にのみ認識されるものだから、お前の目には見えないのだ。それは私の律法の道である。」 その後、彼はその律法の戒めを耳にした。それは、あらゆる被造物よりも神を愛すること、想像や迷信によって生み出された像によって神を崇拝してはならないこと、そして互いに愛し合うことについて語っていた。これこそが道であり、愛と善の道である。

その男が目を覚ますと、これらすべてが自分の霊に与えられた神の啓示であったことを悟った。彼は再び、夢の中で受けた啓示について家族に証しをし、信仰と従順に満ちて、部族の全員を一つにまとめ、その団結によって強大で偉大な民族の礎を築くようにした。

（たとえ話の終わり）

67. 今日、私があなたがたにモーセについて語るこのたとえ話は、まさに私自身のものです。モーセとは、この時代の教会指導者たちに似ているその霊であり、静かに祈り、父と対話し、民を率いて砂漠を長く旅し、そして人々の弱さを目の当たりにして、律法の石板を地面に打ち砕いた、まさにその人物なのです。

68. それ以来、三つの時代が過ぎ去った。そして今日、私はあなたがたに問う。あなたがたのうち、誰がその道を知っているのか。誰が、真に永遠なる御方の声を聞くために備えているのか。かつての兄弟たちがそうしていたように、私にこう言える者はどこに

いるのか。「主よ、もし私の存在を犠牲にすることが、御業の益となるのであれば、御心のままに私をお扱いください。」

69. 今日、私はそのように師に語りかける者を一人も見出せない。この時代に、あなたがたはどのようにして世界に私の言葉を広めていくつもりなのか。 私の愛と誠実さによる御業が認められるためには、あなたがたが団結することが必要です。もしあなたがたが儀式や象徴、あるいは信仰告白によってそれを提示しようとしても、人々の魂を揺さぶることはできないでしょう。それに対して、あなたがたが自らの行いによって愛の模範を示すならば、私の律法は認識され、尊重されることになるでしょう。

70. わたしの言葉を深く学びなさい。その中に、父の御声が聞こえるだろう。その御声は、あなたがたの良心を通じて常に道を指し示し、あなたがたが父のもとで徐々に到達していく完全さを、あなたがたに明らかにしてくれるだろう。

71. あなたがたが人間の身体を研究し、人間の単なる外見に過ぎないその姿を見て驚嘆するように、同様に、魂の考察と研究に深く没頭すべきである。そうして初めて、その偉大さを認識することができるからである。

72. 戦い続けなさい。たとえその戦いが激しいものであっても、わたしの真理を証しすることに疲れてはなりません。たとえ自己犠牲を強いられることになっても、善を行いなさい。あなた方には、同胞を救うという使命があるのです。

73. わたしはあなたがたに、わたしの祝福と赦しを与える。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 180
（第二次世界大戦中に与えられた）

1. 愛する弟子たちよ、あなたがたがわたしの言葉を深く探求し、わたしの教えを理解できるよう、わたしはあなたがたに光を与える。

2. 「働き手」は、豊かな収穫をもたらすという信仰と願いを持って種を蒔かなければならないその畑を、引き続き耕し、耕し続けなければならない。しかし、師はあなたがたにこう告げる。種が腐らないよう、また、あなたがたが自分の土地を耕したのと同じ愛にふさわしい実を常に収穫できるよう、適切な土壌を選ぶよう注意しなさい。

3. あなたがたは皆、「わたしの畑の働き人」となることができる。しかしその前に、この使命を肌で感じ、理解することが必要である。この教えの目的は、無知な者たちの目から闇の目隠しを取り除き、「足の不自由な者」を歩かせることであり、それによって、彼らが仕えるべき唯一の神がわたしであることを彼らに示すことにある。 それゆえ、私はあなたがたに告げる。あなたがたは光に目を向け、かつて無知であったことを謙虚に認めたのだから、私はあなたがたを他の人々の模範として示すために準備しているのだ。私はまた、あなたがたを通して種を蒔き、私の慈悲の実を収穫するであろう。

4. あなたがたの同胞たちは、あなたがたがどのようにしてこの教えを受けたのか、わたしの啓示がどのように行われたのか、そしてなぜあなたがたがこの道を歩むのかと尋ねてくるだろう。どんな質問に対しても、あなたがたは絶対的な真実をもって答えなければならない。なぜなら、もしあなたがたが真理に忠実でなければ、強くなれず、打ち負かされてしまうからだ。そうなれば、種は発芽しない。

5. 私が、あなたがたをこの世から引き離し、私の道に従うようにし、「私の弟子」と呼んだにもかかわらず、あなたがたが空の手で立ち尽くしたり、戦いの終わりに収穫を得られずに終わったりすることを、私は望まない。 試練に耐えるための十分な力、心の平安、そして知識を得るために、わたしの業を研究し、深く探求してそれを擁護する方法を学ばなかったというだけの理由で、あなたがたが失望や苦々しさを味わうことになれば、それは公正ではない。

6. わたしの教えは、あなたがたが理解できるよう、さまざまな形で表現された一つの教訓であり、あなたがたがそれに何かを加える必要はない。しかし、それが律法であるにもかかわらず、わたしはそれをあなたがたに強要しようとはしない。なぜなら、そうすれば、あなたがたは偽善に陥り、 、外見上は従っているふりをしながら、心の中ではそれに背くことになるからだ。

7. 私は、良心が善と悪、正と誤りを区別することができるゆえに、それがあなたがたのあらゆる歩みに常に寄り添うよう、良心をあなたがたの内に宿した。 この光に導かれていれば、あなたがたは欺かれることもなければ、無知だと言われることもないでしょう。霊性主義者が、自らの本質の中に創造主の光を持っているというのに、どうして自分の隣人を欺いたり、自分自身を欺こうとしたりできるでしょうか。

8. かつて、ある裕福な若者がイエスに近づき、こう言った。「先生、私はあなたの教えに従っているから、あなたが約束される御国にふさわしいと信じています。」イエスは彼に尋ねた。

9. 「あなたは律法を守っているか？」すると、その若者は答えた。「はい、主よ。私は断食をし、隣人を親切に扱い、誰にも悪事を働かず、財産の一部を神殿の支援に捧げています。」

すると、イエスは彼にこう言われた。「もしわたしに従いたいなら、持っているものをすべて捨てて、師に従いなさい。」しかし、その若者はこの世であまりにも多くのものを所有していたため、その富を手放すことを拒み、むしろ主から離れることを選んだ。彼は自分の律法を全うしていると思い込んでいたが、実は自分自身を欺いていたのである。

10. 私は何度、あなたがたに言ったことか。「実践的な隣人愛を行いなさい、この美徳を示しなさい。しかし、それを自慢してはならない。そうすれば、それはもはや慈悲ではなくなり、あなたがたは自分自身を欺くことになるからだ！」

11. 弟子たちよ。過ちや間違いを犯したくないのであれば、良心の光に照らして自らの行いを吟味しなさい。もし良心を曇らせるものがあれば、自分自身を徹底的に探求しなさい。そうすれば、その汚点を見つけ出し、それを正すことができるだろう。あなた方の内には、自分自身を映し出し、清らかであるかどうかを見極めることのできる鏡があるのだ。

12. 霊性主義者はその行いによって見極められるべきであり、その行いが清いものであるためには、良心の指針に従って行われ

なければならない。そのように行動する者は、自らを私の弟子と呼ぶにふさわしいと実感するだろう。

13. 誰がわたしを欺くことができようか？――誰もいない。わたしは、あなたがたが*何*をするかによってではなく、それを行う*意図*によってあなたがたを裁く。わたしはあなたがたの良心の中にあり、またその先にもいる。どうして、わたしがあなたがたの行いやその動機を知らないなどと思えるのか。

14. あなたがたの悪行によって私の業が攻撃されないよう、戦いに備えなさい。なぜなら、多くの場合、人類による私の業の承認あるいは不承認は、あなたがたにかかっているからである。

15. しかし、私の業は真理そのものであり、汚れなき清らかさそのものであるのだから、一体何がそれを打ち砕くことができようか。それにもかかわらず、あなたがたは、功徳を積み、魂を高揚させる機会を、見逃してしまうことになるだろう。

16. もし誰かが私の真理を知らないとすれば、それはその人が真理と向き合わず、愛に渇くすべての者の唇に水晶のように澄んだ水を注ぐこの泉から飲まなかったからに他ならない。

17. 私が先祖たち、預言者たち、そして義人たちに啓示した真理は、今日私があなたがたに示しているものと同じである。なぜなら、あなたがたが今日受け取っている私の教えは、あらゆる時代の法であり、それによって私はあなたがたに高みへと向かう道を指し示し、あなたがたが人生の旅を目的地まで続けられるようにしたからである。 私の教えにおいて、真実に基づく説明のないことを、私があなた方に語ったことは一度もありません。しかし、もし*あなたがたが*、それとは異なる、複雑に作り上げられた説明をしたり、私の教えを改変したり、あるいは説明を必要とする人々に誤った解釈を与えたりすれば、悪い収穫をもたらすことになるでしょう。

18. あなたがたは、どのように教えを伝え、どのように語るかに注意を払いなさい。あなたがたは、非常に大きな賜物に対して責任を負っていることを理解しなさい。

19. 私は種子の所有者であり、あなたがたは働き手である。もし誰かが怠けてその任務を果たさないなら――もし誰かが道から逸れるなら、至る所であなたがたを呼んでいる私を責めてはならない。救いを得ようとする者は、ある程度の努力をしなければならないことを悟りなさい。

20. 見よ、私はあなたがたの心に語りかけている。そうして、私を感じ取り、「師よ、私はあなたに従います」と言えるようにするためである。

21. よく聞きなさい。いつの時代も、人類の父は、使徒たちへのメッセージを通じてその愛を明らかにしてきた。あなたがたが今この瞬間まで理解し、感じようと努めてきたこの愛こそが、まさに、これまでずっとあなたがたを慈しんできた愛そのものである。

22. 私は、あなたがたがこの光に満たされることを望む。愛がなければ、あなたがたは私のもとへたどり着くことはできないからだ。この力がなければ、あなたがたは私の栄光を捉えることはできない。

23. わたしの言葉は、あなたがたの心の最も繊細な琴線に触れ、あなたがたが愛に目覚め、次のように理解するようになるためである。すなわち、もしあなたがたがただこの世の富を得るためだけに生き、心と魂がその能力を伸ばすための空間も時間も残していないならば、それらはその成長の過程において開花することはないのだ。

24. 心を驕らせてはならない。なぜなら、心は、万物がそこから生まれ、万物が新たに息吹を吹き込まれる、永遠の炎を象徴しているからである。

25. 霊は、身体を通じて愛を表現するために心を用いる。もしあなたがたが物質の法則に従ってのみ愛するならば、その愛は限られているため、はかないものとなるだろう。しかし、もしあなたがたが霊的に愛するならば、その感情は、永遠であり、完全であり、不変である父の感情に似るものである。

26. すべての生命とすべての被造物は、霊と関係している。なぜなら、霊は永遠の命を持っているからだ。自らを制限してはならない。私を愛し、互いに愛し合いなさい。あなたがたは、「存在」という神の火花を宿しており、その愛には限界がなく、それこそが神そのものだからである。

27. 存在するすべてのものは、その定めにより、創造主への絶え間ない賛美であり、絶え間ない敬意であるのと同様に、あなた方のためにあるのだということを理解しなさい。

28. 私はすべての存在からその実を受け取るが、すべてのものは私から生命を与える力を受け取っている。

29. 私がこれらすべての教えをあなた方に説くのは、あなた方の魂がもはや感覚の囚人とならないためである――すなわち、あなた方が私の教えを広めるために旅立つとき、魂もまた、すべての被造物と同様に、発展の法則に従っていることを人々に知らせるためである。

30. 「発展」――これは、人々が一度魂について考え始めれば、その口に上る言葉となるだろう。なぜなら、それは進歩、上昇、変容、そして完成を意味するからである。

31. 人間はいつになったら、偏見から解放され、形に囚われることも、周囲のあらゆるものを自分よりも偉大だと見なすこともなくなるのだろうか。それは、精神の自由に達した時である。

32. さて、私が常に知恵をもって人々に自らを明らかにしてきたのは、限られた知性によって囚われている魂たちを解放するためであったことを、今や皆さんは理解できるだろう。

33. 今もなお、この時代には、知性が限られ、霊感に欠ける人々が存在する。人間は、その発展の段階からすれば、すでに明晰で聡明な知性を持っているはずであるにもかかわらず、多くの人々は依然として原始的な時代のように考え、生きている。

また、科学の分野で大きな進歩を遂げた者たちもいますが、彼らはその過程で虚栄心と利己心に閉じこもり、知識の頂点に達したと信じ込んでいます。しかし、彼らは霊的な進歩への道において立ち止まってしまっているのです。

34. この時代にわたしに耳を傾け、わたしの教えの中で「霊」という言葉が絶えず繰り返されていることを聞いたあなたがたに、わたしはこう告げる。この言葉が内包する偉大さと光は、人類がいつかそれを理解したとき、人類を震撼させることになるだろう。

35. 今後も、正しく理解された謙遜さによって、この恵みにふさわしい者であり続けなさい。「謙遜」とは、みすぼらしさや物質的な貧しさを意味するものではない。

36. 道徳的な強さを保ちなさい。なぜなら、あなた方はこの人生の苦難を通じて、金床の上の鋼のように鍛え上げられてきたからです。

37. 私は、あなたがたが自らの使命を受け入れているのを見ている。もし過去が苦痛に満ちていたとしても、もはやそれに目を向けるな。それを忘れ、今この瞬間を平和に生きなさい。未来を恐れるな。なぜなら、「明日」とは私そのものだからである。

38. わたしの預言はすべて成就し、この小さな国は人類から「約束の地」と見なされるようになる。わたしは、この国の人々の心に平安が宿り、魂が照らされるよう導く。他国の高位の統治者たちがこの地を訪れ、その懐でインスピレーションを得て、愛をもって統治するようになるだろう。

39. 「イスラエルの失われた部族」たちは、私の慈悲によって備えられたこの地に集い、私の平和を感じるためにやって来るだろう。

40. あなたがたは準備を整えておかなければならない。なぜなら、あなたがたの同胞たちがあなたがたに助けを求めるようになるからだ。いつ、どのように起こるかは分からないが、わたしの言葉は必ず成就する。

41. それゆえ、私はあなたがたに団結するよう求める。そうして、あなたがたの同胞たちが、主の民の懐にたどり着き、そこで私の御心を受け取ることになるのだと実感できるようにするためである。

42. わたしは、未来に起こるすべての出来事をあらかじめあなたがたに知らせる。あの「部族」たちに関しては、わたしの知恵に導かれて、あなたがたが受け継いだ遺産を受け取るためにここへやって来ると告げておく。彼らが偶然ここにやって来るわけではない。しかし、あなたがたが団結してこそ、わたしの言葉が成就するのを見届けることができるのだ。

43. 第二の時代、皇帝がパレスチナを支配していた頃、その地は内部分裂していた。イスラエルの民は異邦人の奴隷であり、暴政のくびきの重荷をその肩に感じていた。

44. まさにその頃、神の御子が人々のところに来られた。

45. その民にはどれほどの苦痛があり、人々の利己心はどれほど大きかったことか！しかし、人々は私の言葉を聞き、それはその相続権を奪われた民のあらゆる傷に、まるで香油のように効いた。私は彼らの愛への渇きを癒やした。それゆえ、私を信じた者たちは言った。「ナザレ人だけが愛することを知っている。」それにもかかわらず、私は誤解された。

人々が私に犠牲を捧げさせたとき、彼らは私にこう尋ねた。「イエスよ、あなたに従った者たちはどこにいるのか？」その瞬間、私はエルサレムを見渡し、こう言った。「まだ種が芽吹く時ではない。しかし、その時が必ず来る。そして、人類はその実を知るようになるだろう。」そして実際――私が去った後、弟子たちは旅立ち、私の言葉を広めていった。

46. 今、わたしはあなたがたに告げる。1950年、わたしの言葉に従わない者たちが現れ、彼らはわたしを再び犠牲の死へと追い込むだろう。その死とは、あなたがた自身の間の不従順と不和そのものである。 その時、私はかつてのようにこう言うだろう。「私

はこの心々に私の種を蒔いた。それは花開き、その実を、聖書に記された私の言葉を知るようになる諸国民が食べるだろう。」

47. この遺産は、あなた方のためのものです。自分の歩む道において、常に善を蒔かなければならないことを忘れないでください。

48. キリスト教世界が、約二千年前ゴルゴタで起こった悲劇を心に刻む日々が近づいている。その時、ある人々は、自らの生き方が良心にかなっているか、あるいは誘惑に直面して弱さを露呈してしまったかを省みるのである。

49. しかし、今、私の言葉を聞いているこの民は、十字架にかけられた方の姿を見つめる必要はないと感じている。なぜなら、カルヴァリーの丘で流されたその血が、今もなお人々の心の中で効力を発揮していることを理解しているからだ。その血は、使命をどのように果たすべきかを人々に示すために「注がれた」のである。霊的な民は、あの劇を再び体験する必要はない。 彼らは、霊的に高みへと昇り、霊の中に存在する栄光を感じ、それを見ることを学んだのだ。トマスのように疑った者には、私はイエスの傷口に指を差し入れ、今もなお新鮮な私の血を見ることを許した。その血は、尽きることのない泉のように、愛と力をもってあらゆる魂へと注ぎ続けているのだ。

50. わたしは、あなたがたに、わたしがあなたがたにこれほど近くにいること、あなたがたの思考の最も秘められた部分さえも知っていること、そして、わたしが遍在するゆえに、あなたがたがいるところならどこにでもいることを告げてきた。わたしは、インスピレーションや光に満ちたアイデアを通じて、あなたがたの知性を照らす光である。

51. 私はあなたがたの中にいます。なぜなら、私はあなたがたに命を吹き込む霊であり、あなたがたを裁く良心だからです。私はあなたがたの感覚の中にも、体の中にもいます。なぜなら、私は全被造物の中にいるからです。

52. あなたがた自身の中、そして周囲のあらゆるものの中に、私をますます感じ取ってください。そうすれば、この世を去る時が来たとき、あなたがたは心からの精神的な生活へと完全に踏み込むことができ、感覚の世界が残すかもしれない印象によって、あなたがたの魂に動揺が生じることもありません。そして、あなたがたは、私が無限の清らかさの源であり、そこから永遠に飲み続けることになる私へと、さらに一歩近づくことになるのです。

53. あなたがたには、この一歩を踏み出すために、あとどれだけの時間があるか分からない。それゆえ、警戒しなさい。誘惑は、あなたがたをつまずかせようとするからだ。私はあなたがたを準備させ、私の慈悲が嵐からあなたがたを救い出す用意ができていることを約束する。 あなたがたが倒れそうになったとき、私は助けの手を差し伸べます。私にとって、より価値のある者も、より価値の低い者も存在しないからです。私は父であり、あなたがたが悔い改めて私のところに来るたびに、私はあなたがたを受け入れ、その功績に応じて報いを与えます。

54. よく考え、自分の人生を振り返りなさい。御霊の光によって照らされなさい。私は、あなたがたの霊的な進歩を明らかにして差し上げよう。

55. わたしの言葉を正しく解釈しなさい。探求すべきはその形式ではなく、そこに込められた意味と、それがあなた方を導く目的であることをよく心に留めておきなさい。わたしの代弁者たちは過ちを犯すことがあるかもしれない。しかし、神から来るものは純粋であり、汚されることはない。

56. わたしは、あなたがたに豊かな収穫をもたらすべき一粒の種を授けた。わたしを模範とし、人生の道において、隣人たちに愛と慈悲を広めなさい。そうすれば、人類はあなたがたが得た信仰と強さを認めるようになるだろう。

57. 最後までわたしに従った者たちが理解し、解釈したように、わたしの業の意味を理解しようと努めなさい。

58. もしあなたがたが、父が訪れて、その中にあなたがたの愛の温もりを感じられるよう、心を聖域として整えたならば、そのときこそ、あなたがたは「ヒバリ」があなたがたのところにいたと、真に言うことができるだろう。私の周りには、男性、女性、そして子供たちがおり、彼らは皆、生命の木に巣くう雛のようだ。

59. あなたがたは絶え間なく旅を続け、ある木々の実を評価するために地中にあるその根を探し求めてきたが、しばしば、その根の中に食い荒らす虫を発見してきた。 その後、あなた方は山や谷で私を探し求めました――父のような、あるいは少なくとも友のような声を聞くことを願って、 その声があなた方を不確実性から解放し、真理の道へと導いてくれることを期待して。今、あなた方は私の言葉を聞き、私があなた方に私の教えを聞くことを許してくれたことに感謝しています。その教えは、あなた方が現在持っているものよりも、より完全な霊的な交わりに備えさせるものです。

今日、私はあなたがたに理解してもらうために、私の光を制限せざるを得ません。しかし、やがて、あなたがたの魂と知性が、私の知恵を直接受け止められる時が来るでしょう。 今日、多くの人々にとっては、心に少しの光と平安があれば十分である――子供たちにとっては優しい愛撫であり、疲れ果てた老人たちにとっては子供たちの慈愛に満ちた眼差しである。それによって、彼らは疲れ果て、悲しみに満ちた心に一筋の光を感じるからだ。しかしその後、すべての人が、自らの人生の道を照らす光を渇望して、歩み出すことになるだろう。

60. もし今、私の多くの子供たちに、私の教えを聞きたいという願いがあるかと尋ねたなら、彼らは自分にはその資格がないと答えるだろう。しかし、私はあなたがたに告げる。私の子供たちのうち、私を聞くにふさわしくない者は一人もいないのだ。 すべての者が私の言葉を必要としている。義人は、神の声を聞くことで心を慰められるためであり、無知な者は、師の教えを通じて学び、魂の成長を遂げるためであり、罪人は、父の御声に耳を傾けることで、悔い改めを通じて自らを新たにするためである。

61. ある声がわたしのもとに届き、こう告げる。「来て、私がこの地上でいかに弱く、私の魂がいかに汚れているかを見てください。あなたが私を愛し、私を赦してくださることを、また、私の暗闇における導き手であり、孤独における支えであることを知っています。どうか私を助けてください。今この時の試練の中で、私は死の苦しみのような痛みを感じているのです。」

62. 誰がこのように私に語りかけるのか。誰がこのように、恵みを渇望して、私への叫びを届けているのか。もしかして、ある心か。いいえ、民よ、それは私が愛そのものであることを忘れていない人類である。人類は自らの不義を悟り、救いを求めているのだ。

63. あなたがたが霊的な故郷を離れ、この地上へと向かったその瞬間から、私はあなたがたの別れを嘆き、涙を流してきた。それ以来、あなたがたの罪を赦してきたのは私の涙と血であり、私のかつてないほど慈愛に満ちた穏やかな声が、あなたがたの人生の旅路において絶えず導きを与えてきた。私の影は、あらゆる道であなたがたに寄り添ってきた。 実のところ、あなた方を恋しく思っていたのは私であり、あなた方ではありませんでした。なぜなら、あなた方が去ったとき、自分たちは強いと感じ、もはや私の助けを必要としないと信じていたからです。あなた方の道は自由意志の道であり、あなた方の感覚は、 周囲にあるあらゆるものを吸い込み、

触れて感じ取るために広がり、再び私へと目を向けるためには、あなた方は深く落ちなければなりませんでした。 その当時でさえ、あなたたちは、かつてその食卓に腰を下ろした父がいたことを思い出した。そこであなたたちは主を呼び求めた。しかし、私はそれ以前にすでにあなたたちを呼び、私の食卓に同席するよう促していたのだ。私は、幼い頃、心に無垢を抱き、道を知らずに去っていく我が子を見送る父のように、あなたたちを探し求めていたのだ。

64. もしあなたがたがわたしの言葉を深く探求すれば、父が、危険と誘惑に満ちたこの世の道を歩むためにあなたがたをこの世に送り出した際、あなたがたがその道で迷子になることを意図していたのではないことを理解するだろう。 なぜなら、それらの道はあらかじめ、あなたがたが魂の発達に必要な教訓をそこで得、欠けていた経験を積み、そして最終的に、光に満ちて私のもとへ戻ってくることができるようにと、そう設計されていたからである。

あなたがたの霊が私から発せられたとき、それはまるで火花のようなものでした。風がその火花を炎へと変え、私のもとへ戻ったとき、あなたがたの光が神性の光と一つになるようにと。

65. わたしは新しい山の頂上から、あなたがたに語りかけている。そこでわたしはあなたがたを待っている。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたが到着するその日、この王国では祝宴が催されるだろう。 あなたがたは苦痛の道をたどってそこへ至り、その過程で自らの過ちを清める――それは私が示した道ではなく、人間が作り出した道である。あなたがたは、私にもその道を歩ませた。しかし、それ以来、犠牲と苦痛の道は、私の血によって栄光に包まれたのである。

66. 無限の彼方から、あなたがたが鐘の音を聞くように、わたしの声の響きを聞きなさい。

67. 今が裁きの時であることを心に留めなさい。まことに、わたしがあなたがたに告げる。あらゆる罪は償われることになる。大地そのものが、人間が大地とその自然界を悪用したことについて、清算を求めるだろう。 破壊されたすべてのものが、あなた方を問いただし、それによって人々に、彼らが創造主によって愛の意図をもって創造されたこと、そして、彼らを滅ぼすことさえできるその唯一の意志こそが、彼らを慈しみ、守り、祝福していることを悟らせるだろう。

68. 魂が冒涜し、破壊したものが、その魂を呼び戻して責任を問おうとしているのに、果たしてその魂は安らかにこの惑星を去ることができるだろうか。 これらは、良心の呵責や物質主義、そ

して私の律法に背いた生活の結果が、まるで暗い霧の塊のように立ち込める世界を自ら作り出さざるを得なかった者たちである。彼らは、その中を苦痛に満ちてさまよい続け、やがて彼らの内に光がと差し込み、自分たちが破壊したすべてのものを再び回復し始めるようになるまで、そうするしかないのだ。

69. 彼らを支えるために、わたしはこう告げる。「見よ、師が再び弟子たちの間にいる。」

70. 今日、私は、一時的に気力を失っている者たちの信仰に火をつけるためにやって来た。

71. 私があなたがたのところに来たとき、私に向かって立ち上がるすべての人々のところにも、私は訪れるであろう。私の愛、私の光は、すべての人々のためのものである。

72. 主の啓示が弟子たちの間に現れるとき、あなたがたは魂に限りない喜びを感じ、たとえその啓示が短いものであっても、満足の表情を浮かべる。

73. 私が語っているのを聞くときに体験するあの平安と喜びを、祈りの中で私を求める時にも感じられるようにしたい。そうすれば、あなたがたがその内なる高揚を得るたびに、その思いは、不毛の野原に降り注ぐ、実りをもたらす露のようになるだろう。

74. 世界が動揺し、混沌の影が諸国を覆い、戦争が人類を揺るがす中、私はこう言う者たちの声を聞く。「神にとって不可能なことなどないのなら、なぜ神は戦争を止め、平和に満ちた新しい世界を創り出さないのか？」しかし、私はあなたがたに告げる。人の内に戦争があるのと同様に、人の内には平和もあるのだ。 すべての人間は、厳格で賢明な良心を持っており、それによって自分にとって有益な道を選ぶことができるのだ。

75. すでに、世界では新たな戦いが勃発している。国全体が、敵を打ち負かすことを目標に戦っている。ある国々は、他民族を征服し奴隷として支配するために優位性を求め、またある国々は、自らがすべての民族の中で最も優れていることを証明するために戦っている。しかし、彼らは盲目であるため、すべての人を待ち受ける深淵に気づいていない。

76. この闇と混乱に満ちた雰囲気の中で、あなたがたの思考を光の一筋のように突き通させなさい。それによって、試練の瞬間に、あなたがたは同胞たちが明晰に考えることができるよう助けることになる。そうしてこそ、あなたがたは私が命じた使命を果たすことになるのだ。

77. 情熱を制御できるよう強くあれ。そうすれば、どちらかの側に肩入れすることはないだろう。あなたの心は、すべての人々に対して思いやりと兄弟愛に燃え上がり、この人類を苦しめている苦しみや苦難に心から共感しなければならない。そうしてこそ、あなたの心は私の心と調和して鼓動するようになるのだ。

あなたがたが行うすべての善行には、その報いがある。それとも、人々の間に平和が訪れることが、あなたがたの祈りに対する報いではないとでも思うのか？

78. 見よ、私があなたがたに求めているのは犠牲ではない。私は、あなたがたを、あの暴れ回る群衆の中で説教するために遣わすわけではない。また、異教徒の手にあなたがたを委ねるわけでもない。今、あなたがたが自分の思考を清め、それによって同胞たちの道を照らすだけで十分である。

79. 戦え、祈れ、見張れ。そうすれば、最も魅力的な姿に身を包んで現れる力を持つ誘惑が、あなたがたの善意を揺るがし、義務の遂行を妨げることを防げるだろう。その誘惑と戦い、打ち負かすことを学べ。眠ってはならない。なぜなら、誘惑は最後まで戦い続けるからだ。

80. あなたがたの戦いは、想像以上に大きなものです。なぜなら、この敵は目に見えないからです。あなたがたはしばしば、あちこちでその敵を探し求めますが、実はその敵は、あなたがた自身の中、すなわちあなたがたの感情や情熱の中に隠されているのです。この戦いにおいて、祈り以上に優れた武器はありません。

81. 父はあなた方に助言を与えてくださった。たとえ説教の内容がそれぞれ異なっていても、その本質、意味、目的は同じである。すなわち、あなた方に私の愛を授け、あなた方に救いをもたらす完全性への道を指し示すことである。

82. 記念の日々には、最も冷酷な心でさえも、わたしの臨在を感じる。無限の彼方では、この新しい時代の到来を告げる神聖な鐘の音が絶え間なく響き渡っている。しかし、この人類の心はなんと耳が遠いことか！

83. やがて人々が目覚め、私の言葉を渇望して駆け寄ってきても、その時すでに手遅れとなっているだろう。なぜなら、私はもはやそこにいないからだ。その時、彼らは私の啓示の証しを受け取るしかなくなる。多くの者は、私が現れた場所を訪ねず、私の声を聞き逃してしまったことを、自ら嘆くことになるだろう。

84. この時代、人類は大きな試練に見舞われる。世界の至る所で嘆きの声が上がる。その理由は、魂たちが、かつて蒔いたもの

の実を刈り取るためにこの地上に降りてきたからである。なぜなら、私の正義から逃れる者は誰一人としていないからだ。 もし私がこれをあなたがたに明らかにせず、あなたがたの行いの実を刈り取らせなければ、私はもはや完全ではないだろう。しかし、私はこのメッセージの光によって、人々を備えさせるのである。 私の再臨の知らせ、そして私が人類に 残した教えは、あらゆる人の耳に届くであろう。私の弟子たちは、病める者たちに癒しの香油を届けるために旅立ち、十字架の重荷に押しつぶされそうな者たちの十字架を担う者となるであろう。― 私が去った後もあなたがたがこれを忘れないよう、私はこの教えをしばしば繰り返している。

85. 強くなれるよう、目を覚まし、祈りなさい。 しかし、主との完全な対話を得て、その喜びを味わえるよう、御霊とともに祈りなさい。祈りの瞬間に霊感によって受け取ったことが現実となったのを見れば、それはあなたがたが師との霊的な対話の瞬間を経験した証拠となるでしょう。

86. わたしを求める方法、祈る方法を、完全なものに磨き上げなさい。心に留めておきなさい。もし、あなたがたの集会所の中で、もはやわたしの言葉が聞こえなくなったら、教会の者たちは、あなたがたを取り戻そうと動き出し、あなたがたを再び引き戻そうとするだろう。 そのとき、あなた方はこの光から目を背け、授かった使命を脇に置き、代わりに儀式の執行に満足するだけになってしまうのだろうか？

87. 私が時折、あなたがたが中傷され、迫害されると語っても、恐れることはない。ただ言っておくが、あなたがたが私の神の律法を全うし、この世の法律に従うならば、恐れることは何もないのだ。

88. 今この時から、あなたがたがこの時代にイエスの言葉を無駄に聞いていたのではないこと、そして――私があなたがたを「弟子」と呼んだとき、あなたがたがその称号を尊厳をもって担うことができることを、すでに証明しなさい。 あなたがたの行動の真実さと純粋さを見れば、最も頑なな者でさえも屈服するだろう。やがて、この世で宗教的な教えや思想間の対立の時代が訪れ、人々が私の霊的な教えの宣教に最も激しく抵抗する時、私があなたがたに授ける奇跡は最大のものとなり、その証拠は世界を震え上がらせるだろう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 181

1. 聴衆の皆さんよ、光のもとへ来なさい。しばらくの間、肉体の目を閉じ、霊の目をもって、あなたがたのもとへ訪れる私の臨在の輝きを見つめなさい。それは、私があなたがたに衣として与えようとする、愛と知恵の神聖な光である。それは、無知、狂信、そして悪意という闇を追い払う光である。

2. あなたがたが肉体の休息と魂の養いに捧げたこの日に、私は教えを授ける。これは、一週間の労苦から休息し、労働の果実を収穫し、歩みを続けるための力を蓄える、第七の日である。

3. この日を、あなたがたの進化の第七段階の象徴として受け止めてほしい――それは、最後の封印が開かれ、長い人生の旅の後にあなたがたが休息を得る段階である。

4. 多くの者は、私の光が、私の言葉が語られる場所だけに降り注ぐと考えている。しかし、真実は、私の霊的な臨在がすべての人々と共にあるということである。それゆえ、私があなたがたに送る光を「普遍の光線」と呼んだのである。なぜなら、その光が声の伝達者を貫くまさにその瞬間、すべての被造物がそれぞれ異なる形でそれを感じるからである。 そう、民よ、私は全能かつ遍在であるゆえ、あらゆる形――それらはすべて霊的なものである――で自らを現すのだ。― あなたがたが第二の時代に私を人間として見たのは、私があなたがたの心に届こうとしたからである。しかし今、あなたがたは私が霊的にやって来るのを「見る」のは、私が照らそうとしているのがあなたがたの魂だからである。

5. あなたがたは私を「救い主」と呼んできたし、これからも「救い主」と呼び続けるだろう。なぜなら、私はあなたがたを悪の道から立ち返らせるからだ。

6. あなた方や人類全体を苦しめる試練を呪ってはならない。それらを神の罰、怒り、あるいは復讐だと言ってはならない。そうすれば、それは冒涜となるからだ。私はあなた方に告げる。まさにこれらの試練こそが、人類を救いの港へとますます近づけているのだ。

7. それらを「正義」や「贖罪」、あるいは「教訓」と呼べば、それは的確かつ正しい表現となる。 怒りや復讐とは、魂の平安、調和、そして完全さからまだ遠く離れた存在に特有の、人間的な情熱に過ぎない。私のすべての業を決定づける、あなた方への私の愛に、下品な「罰」という名や、不名誉な「復讐」という名をつけることは、公正ではない。

8. あなたがたは自らの意志で、茨の道や暗い深淵へと足を踏み入れたこと、そして私の慈愛に満ちた呼びかけにも、良心の声にも耳を傾けなかったことを思い起こしてください。それゆえ、 、痛みがあなたがたを目覚めさせ、立ち止まらせ、正気に戻し、真の道へと立ち返らせるために介入せざるを得なかったのです。

9. あなたがたが自ら望む霊的な状態を自発的に選べるようにするためには、闇の中に痛みが存在し、光の中に平安が宿ることを許す必要があったのです。

10. あなたがたが痛みに打ち負かされ、あらゆる試練が内包する教訓をそこから学ぶ代わりに、ただ泣いたり、罵ったり、あるいは単に苦しみの終わりとして死を待つことに甘んじているのを見る時、 その時、私はあなた方に近づき、愛をもってあなた方の心に語りかけ、慰めと希望を与え、心を強める。そうして、あなた方の心が自らの弱さや信仰の欠如を克服し、試練に打ち勝つことができるようにするためである。なぜなら、その勝利の中にこそ、平和と光、そして真の幸福である霊的な至福があるからだ。

11. 民よ、私が来たのは、あなた方を覆っていた果てしない夜を取り除き、輝きに満ちた新しい一日をあなた方に与えるためである。私の言葉は、あなた方の心の氷を溶かすという奇跡を起こし、その心が霊的なものを感じ取り、あらゆる善のために鼓動し始めるようにする。 私の言葉は、あなたがたの魂が閉じ込められていた牢獄の錠前を開くでしょう。しかし、もう一つの奇跡を起こすのは、あなたがた自身の役目です。すなわち、あなたがたの行いの功徳によって、平安と高みへと至ることです。

12. そうすれば、あなたがたが足を傷つけ、血と涙の跡を残し、苦難の杯を底まで飲み干したあの道は、どれほど遠く感じられることだろう！

13. 私の神聖な願いは、あなた方を救い、光と美と愛に満ちた世界へと導くことである。そこでは、魂の高揚、感情の寛大さ、そして完全性の理想によって、あなた方は喜びに満ちて高揚するだろう。しかし、あなた方はこの神聖な願いの中に、私の父なる愛を見出せないのか？ これをそう理解できない者は、間違いなく盲目であるに違いない。

14. ある者たちは、自分の理性を用いて私を把握し、そのようにして私を理解できると信じ込んでいる。 さらに未熟で物質主義的な者たちは、私を信じるために人間の姿で私を見たいと願うが、彼らの本質には、私を理解し、私の存在を感じ、私を見ることが

できるより高次の感覚があることを考えもしない。しかし、この感覚は、信仰と霊化を通じてのみ現れるのである。

15. 真に高みを目指して努力する弟子たちは、私の霊にどれほどの喜びをもたらしてくれることか。なぜなら、彼らは――世間の目には 取るに足らず愚かに映るかもしれないが――心の中で私の臨在を感じ取り、私の啓示を解釈し、理解することができ、私の御心が彼らに与えてくださるものを受け入れているからである。

16. あなたがたも彼らのようになりなさい。そうすれば、あなたがた全員がわたしを感じ、わたしの恵みを喜び楽しむことができるでしょう。なぜなら、わたしはすべての人々のためにここにいるからです。見よ、わたしの教えによって道を切り開いた後、わたしは今、この時代にわたしの足跡をたどるよう召された若者たちの中にいる、ごく少数の心たちであるあなたがたに目を向けているのです。

17. わたしがあなたがたに授けるこの「光の言葉」は、第三の時代にあなたがたを養う霊的なパンである。わたしの子供たちは皆、信仰の確信の中でこの糧を渇望している――ある者はその外的な形において、またある者はその意味において。わたしはすべての人を愛をもって迎え入れ、すべての人にわたしの恵みを授ける。

18. 私は最後の晩餐の際、使徒たちにこう言った。「このパンを受け取りなさい。それは私の体である。このワインを受け取りなさい。それは私の血である。そして、私が去った後、あなたがたはこの教えを思い出すべきである。」

19. 今、わたしはあなたがたに言う。永遠の命であるわたしの言葉を受け取り、その真意を心に留めなさい。 1950年以降、この言葉がもはや聞かれなくなったとしても、それを思い出し、そこから養いを得なさい。わたしの弟子たちが、わたしの教えによって自らの生活を正し、謙虚にそれを広めたように、あなたがたもまたそうあって、この魂のパンをすべての飢えた者たちに届けなさい。なぜなら、わたしの言葉は滅びることなく、全人類に聞かれるようになると書かれているからである。

20. わたしはあなたがたに言った。「わたしの言葉を聞きなさい。そうすれば、その本質の中に神の恵みのパンを見出すだろう。」また、わたしは言った。「父の愛を求めなさい。そうすれば、地上の生活に必要なものは、その上、あなたがたに与えられるだろう。」

21. この種について、あなたがたはわたしに対して責任を問われることになる。なぜなら、わたしはそれを常にあなたがたに託

してきたからである。誰が、自分の使命を果たし、いかなる欠点もないと断言できようか。

22. 隣人愛を実践することは、あなたがたの使命における最高の務めである。行い、言葉、そして思考そのものにおいても、それを広めなさい。愛を込めて送り出された一つの思いは、あなたがたの隣人に慰めをもたらすからである。

23. わたしは、あなたがたに赦すことを学ぶことを望む。わたしの愛の十字架を背負い、わたしに従うよう、あなたがたを招く。心の中で「主よ、私はあなたの足跡に従いたい」と私に告げる者を、わたしは聞き、受け入れる。

24. しかし同時に、私はあなたがたに問う。この第三の時代に、誰が私を裏切るのだろうか。自らを省みよ。そうすれば、その時が来れば、あなたがたは私に答えることになるだろう。

25. わたしの律法に従わない者、わたしを否む者、いかなる形であれわたしの業を冒涜し、汚す者――その者が、わたしを群衆に引き渡す者となるだろう。その者の行いは、群衆に「彼を十字架につけよ！」と叫ばせるのだ。なぜなら、その者の行いは、人々にこう自問させることになるからだ。「これらが師の弟子たちなのか？ 彼らは、主の御言葉を聞いた者たちなのか？」と自問させることになるのだ。

26. 人々を愛し、善行を公にしないこと。それだけで、第三の時代の使徒となるには十分である。

27. 今日、私はこの世の人々の前に現れており、彼らにこう告げる。「何をもって私を告発するのだ？ 私は真理を語り、善を勧め、再び戻ってくるとの約束を果たした。私は『第二の書』であなたがたに語ったことを否定しない。なぜなら、私は真実さの模範だからだ。」 私は今もなお重い十字架を背負い続けており、私の体を傷つけているのは人間そのものである。

28. かつて神の御子が人々に近づいたが、人々は彼を理解しなかったことを思い出してください。しかし今日、あなたがたはついにわたしを理解することができるのです。

29. 私は今もなお十字架にかけられている。なぜなら、私はあなたがた一人ひとりの姿となり、細かく引き裂かれているからだ。私に言ってみよ。私があなたがたの痛みを感じることができないというのか？ それなのに、なぜ*あなたがたは*私を感じ取れないのか？

30. 私は再び犠牲にされている。この時代、誰が私を十字架につけるのだろうか。誰が私に「さっさと去れ！」と叫ぶのだろうか。

31. 私の眼差しは鋭く、同時に慈愛に満ちている。そこから一筋の涙がこぼれ出ても、それは地面に落ちるのではなく、あなたがたの魂の奥深くに染み込んでいく。私は常にあなたがたと共にいる。この世界は、今もなお私を必要としているのだ。

32. あなたがたが私の思いの聖域に足を踏み入れたとき、あなたがたの間で兄弟愛が感じられる時が来るでしょう。

33. 私がどこから来て、どこへ向かうのか、今のところあなたがたはそこへ行くことはできない。しかし、あなたがたが私の御前に至り、この言葉によって私を認識する日が来るだろう。 その時、あなたがたは、その犠牲によってあなたがたに永遠の命を与えた、死を打ち破った方を見るだろう。なぜなら、私は復活であり、命であり、悲しむすべての魂を訪ねて平安を与える慰めそのものだからである。

34. 私が今、あなたがたに注いでいるこの光は、来るべき世代にとって、平安と道徳の源となるであろう。

35. まことに、私はもう一度あなたがたに告げる。私は、苦しむすべての人々の中で苦しんでいる。人々の愛への飢えと渇きは、私の霊の飢えと渇きでもある。彼らの中で私は苦しみ、彼らの中で私は貫かれるのである。 しかし、わたしの愛はあなたがたにこう告げている。「弟子たちよ、堅く立ちなさい。偽善者やパリサイ人、異教徒たちがあなたがたに近づき、わたしを認めたか、わたしを愛しているかと問うだろう。そのような問いかけに、あなたがたは恐れを抱くであろう。そして、弱さを見せたとき、あの使徒のように『あのガリラヤ人など、一度も知ったことがない』と言うことになるだろう。」

36. あなたがたの報いはこの世にあるのではないことを忘れてはならない。もし私のために傷つけられることがあっても、落胆してはならない。赦し、愛し、私の弟子でありなさい。

37. 私があなたがた自身の中に十字架にかかっているのだから、外見上、十字架の印を付けるようなことはするな。

38. 私の神聖な受難を、異教的あるいは世俗的な祝祭として祝う者たちの良心の中に、私は自らを確かに感じさせ、彼らが悔恨の念を抱き、心が高鳴り、涙を流すように導く。私は彼らの悔い改めを受け入れる。なぜなら、真理に目を開くのに遅すぎることは決してないからだ。

39. 罪を清め、互いに愛し合いなさい。そうして、十字架からイエスの御体を降ろし、あなたがたの心がその聖骸布となるようにしなさい。

40. わたしの約束が成就したことを悟りなさい。「神殿」は破壊されたが、わたしは三日でそれを再建した。今や、主が住まわれる霊的な聖所が築かれたのである。

41. 私はある敬虔な女性に出会い、彼女が泣いているのを見て、「なぜ泣いているのか」と尋ねた。すると彼女は、かつてのようにこう答えた。「師が姿を消してしまったので泣いているのです。私は師の御体を捜しに出かけましたが、そこにはいらっしゃいませんでした。」 そこで私は彼女にこう言った。「上を見上げなさい。師があなたのそばにおられることを悟りなさい。」

42. 「行って、兄弟姉妹たちに集まるよう伝えなさい。師が彼らを驚かせるからである。そして、信仰によってわたしを感じ取ることができる者には、わたしが永遠の命を示すであろう。」

43. 愛する弟子たちよ、今、あなたがたは信仰の眼差しでわたしを見ている。なぜなら、わたしは言葉の本質の中に、人間の霊感の中に姿をとったからだ。しかし、信じられるようになるために、自分の指をわたしの傷跡に差し入れたあのトマスも、わたしは見出している。今日、あなたがたはわたしの体に触れることはできない。なぜなら、わたしは触れることのできない存在だからだ。あなたがたがわたしに触れることのできる時代は、もはや過ぎ去ったのだ。

44. わたしは霊としてあなたがたのところに来た。やがて、あなたがたが心と霊をもってわたしの教えを受け入れる時が来るだろう。物質、誘惑、そして死を に克服したわたしこそ、闇の深淵にまで踏み込み、この世に生きた後、あの世へと旅立った者たちの魂に光をもたらしたのだ。 良心の呵責と自責の鎖に縛られていた彼らに、私は私の栄光の光を見させ、彼らを解放した。なぜなら、私は光の中に住まうが、すべての者にとっての復活であるゆえに、魂が浄化される深淵にも降りていくからである。

45. これらの啓示の忠実な証人となりなさい。それらを心に感じ、敬虔な心で思い起こしなさい。そうして、その種を肥沃な土壌に蒔くことができるように。

46. まことに、あなたがたに告げる。この世代が過ぎ去る前に、わたしの教えは広く知られるようになるであろう。

47. あなたがたは誤解され、非難されるだろう。しかし、わたしはあなたがたに言う。嘲笑を恐れてはならない。肉体の死さえ

も恐れてはならない。わたしがあなたがたと共にいるのだから、誰もあなたがたを殺すことはできない。この争いの後、世界は父との対話による霊的な喜びを知るようになる。 人々は心構えを改め、わたしの教えに従うようになるため、平和が諸国民にもたらされるだろう。忠実な弟子たちよ、わたしがあなたがたに世界を知るための十分な時間と機会を与えてきたことを心に留めておきなさい。あなたがたは、この世界から一体何を期待できるというのか。

48. 物質的な面では弱くとも、あなたがたは霊的には強い。あなたがたは人間の人生の意味を理解し、今や霊的な人生の意味を把握しようとしている。あなたがたのうち、私が与えた賜物を自分の中に感じなかった者がいるだろうか。私を信じなさい。そうすれば、目に見えない世界に入り込み、力を得ることができる。なぜなら、あなたがたは依然として自分自身と戦わなければならないからだ。

49. あなたがたは死んでいたが、私はあなたがたを新しい命へとよみがえらせた。私はあなたがたに私の栄光を現し、私の御言葉の光であなたがたの魂を飾った。この恵みを大切にし、真の命があなたがたのもとに来ていることを感じなさい。

50. さて、あなた方を侮辱したかもしれない人々を赦し、愛しなさい。そして、その侮辱はあなた方に向けられたものではなく、私の子供たち一人ひとりの内に宿る私に向けられたものだと考えなさい。*私が*すべての人を赦しているのに――なぜ*あなた方は*赦せないのか？ それは、肉の利己心と虚栄心のせいだ！ しかし、あなた方の肉体はどこへ行くのか。それは、それを形作った要素と融合する場所へ行くのである。一方、魂は生き残り、肉体の衣を通じて犯したすべての行いに対して責任を問われることになる。その間、 の創造主の無限の光が、その子と愛の抱擁の中で一つになるために、魂を待ち受けているのである。

51. その瞬間、誰がその報いに値する者でありたいと願わないだろうか？

52. 弟子たちよ、私は、あなたがたがこの時に、私が天に昇るのを見送った者たちが体験した喜びを感じてほしいと願う。弟子たちの前で私が顕現したのは、私が犠牲の死を迎える前日に彼らに与えた約束を果たすためであった。当時、私は彼らに魂の命と、肉体の死が何を意味するかを説いた。 彼らは理解できなかったため、私は霊的存在として戻ってきて、彼らに語ったすべてのことを裏付けると告げなければならなかった。その後、すでに霊的存在となって弟子たちの間にいたとき、ある弟子が私のまだ生々しい傷口に

指を当てたので、私は彼らにこう言った。「私は常にあなたがたと共にあり、聖霊の光としてやって来る。」

彼らが師の胸に頭を寄せようとしたとき、イエスの姿は消え去りました。私が彼らに示した私の真実の証しは、すでに十分だったからです。 私は「雲の上」から人々のもとへ戻ると約束した。そして、これらの弟子たちは、霊的な住まいから私の言葉の成就を目の当たりにし、*あなた方もまた*、その約束があなた方の世界で現実となるのを見てきた。これこそが、私がこの時代にあなた方に明らかにした復活である。

53. わたしはあなたがたに、わたしの平安を残す。わたしの教えを守り、それに導かれて、暗い影の中で迷わないようにしなさい。1950年以降、あなたがたはわたしの神聖な霊感の聖所に入り、第二の時代にわたしの使徒たちである兄弟たちがそうであったように、この福音を教えるために旅立つことになる。 あなたがたは、儀式や伝統、虚栄から解放された、わたしの純粋な教えが花開くのを見るだろう。なぜなら、わたしは物質的な教会を望んでいるのではなく、わたしの子供たちの心を望んでいるからだ。その心を、エホバの愛が宿る真の聖所へと変えるために。

54. 今日、あなたがたは私の前に何を差し出すのか。私があなたがたに私の平安を与え、私の愛と優しさを感じさせてあげたというのに、なぜ泣いているのか。― 私の問いに、あなたがたは沈黙している。― 私はあなたがたを恵みで満たしたが、あなたがたはそれを活かす術を知らなかったと感じている。それゆえ、あなたがたの心には痛みがある。しかし、あなたがたが使命を果たすことを妨げているのは、いったい何なのか。 あなたがたが住むこの世界は試練の場であり、あなたがたが清められれば清められるほど、より自由を感じられるようになるでしょう。そうすれば、過去の過ちはもはや あなたがたの魂に重くのしかかることはなくなり、魂はより高い次元へと発展していけるようになるでしょう。

貧しさを恐れてはならない。もし世界があなた方の財産を奪い、所有物を要求してきたなら、それを手放しなさい。そうすれば、あなた方は何も失うことはない。あなた方の平和を奪おうとする者――あなた方の信仰を消し去ろうとする者を恐れなさい。なぜなら、これらの財産は*あなた方の*宝であるだけでなく、あなた方に託された人々のものだからである。 それは、私があなたがたに、そして私があなたがたの世話に託した人々と共に、救いを与えるための手段なのです。

55. 愛情深く無私の母であるマリアの執り成しがわたしのもとへ届き、羊飼いのエリヤは民のことをわたしの心に訴えかけている。神の慈愛と、羊飼い、そしてあなたがたの守護天使たちは、絶え間なくあなたがたのために祈っている。しかし、父であるわたしは、あなたがたの痛みを知り、感じている。そして、わたしの憐れみはあなたがたと共にある。民よ、癒やされよ。そして、人類を救え。 わたしはあなたがたに道を示した。もし平和を望むなら、善意ある人となり、利己心を捨て、心にあるものを分かち合いなさい。

今日、あなたがたは霊において互いに愛し合ってはいないが、やがて、すべての隣人にわたしの現れ、すなわちわたしの神性の姿を見出す時が来る。そして、その愛が痛みを追い払うだろう。

56. あなたがたは皆、わたしのものであることを理解しなさい。あなたがたの救いの代価は、わたしの血によって刻まれた模範、すなわち愛によるわたしの犠牲の死であり、あなたがたは、わたしがあなたがたの魂のために来て、それを「約束の地」の門へと導くために来ていることを認識しなければならない。

わたしの言葉は、定められた時が来るまで、あなたがたを離れることはない。そしてその後、あなたがたが準備を整えたとき、あなたがたやわたしの使徒たちを通じて、さまざまな国々で福音が知られるようになるだろう。わたしの言葉は探究され、やがて研究され、理解されることになる。*2000年頃になると*、人類の霊的な能力が現れ始め、それによってわたしの言葉の証しとなるだろう。

57. 備えなさい。そうすれば、まもなくあなたがたは自らの霊的賜物に気づくでしょう。あなたがたは皆、創造されたその瞬間から、一つの遺産を授かっています。それゆえ、あなたがたは皆、活動し、わたしの「働き手」となることができるのです。

58. 畑は整えられ、種と手入れを待っている。怠けることなく、使命の遂行を始めなさい。時は好都合であり、律法に基づく祈りと活動が、あなたがたの魂を平安で満たすだろう。

59. あなたがたが心を神に向け、神の御子が十字架にかけられるのを見たあの時を思い返してから、ほんのわずかな時間が過ぎたに過ぎない。

60. 私は、それ以来過ぎ去ったこの短い時間が、人類にとって有益であったことを告げるために来た。私は、私の愛を証しするために来た。そして、あらゆる霊、あらゆる心、そしてすべての肉体に私を現すために、あなたがたのすぐそばに寄り添う。なぜなら、今は光の時代、聖霊の時代だからである。

61. 私の教えを基準とし、それを実践しなさい。しかし、それがあなたたちにとって犠牲であるなどと思ってはならない。もしそうであるならば、それはあなたたちの魂が準備を整えておらず、それゆえにそこから喜びを得られていないことを示していることになる。

62. もしあなたがたがイエスに従いたいと願うなら、苦しみを受け入れなければならない。しかし、その苦しみの根底には、隣人の幸福のために苦しみを受けるという幸福感があるだろう。今や、時代は変わり、人類も進化したため、あなたがたの犠牲は血によるものではなく、愛によるものとなる。

63. あなたがたの魂は、私があなたがたの完成の機会として与えたにもかかわらず、あなたがたが活用しなかった人生によって作り出された鎖を、苦労しながら引きずっている。それぞれの生が鎖の一つの環を成している。しかし、もしあなたがたが私のお教えに従って人生を歩み、律法を守るのであれば、もはや苦しむためにこの世に戻ってくることはないだろう。

64. もしあなたがたが、私の言葉を学ばずに時を無駄に過ごせば、すなわち「時」そのものである私が、あなたがたを驚かせることになるだろう。私の業において、あなたがたにふさわしい地位を占められるよう、学びなさい。

65. わたしの神性に関する誤解や意見の相違に終止符を打ちたい。あなたがたは皆、ただひとりの神から生まれたのだということを理解しなさい。

66. わたしは、わたしの懐へと続く唯一の道を、引き続きあなたがたに示している。その道は遠く、険しく、血の跡が残っている。しかし、人生の旅の終わりには、あなたがたは芳しい香りの花と、味わい深い実を見つけるだろう。

67. あなたがたの中には、かつて幸せと平安に満ちていた時代を懐かしむ者もいる。私はあなたがたに言う。嘆いてはならない。私はあなたがたに新たな幸せと平安をもたらした。そして、これらの恵みは永遠に続くのだ。

68. 私が「求めよ、そうすれば与えられる」と言うとき、あなたがたは私に対して地上のものを求めている。しかし、まことに――あなたがたが私に求めるものは、なんとわずかなことか！　何よりもまず、あなたがたの魂の益となるすべてのものを私に求めなさい。 地上に宝を蓄えてはならない。ここには盗人が存在するからだ！　父の御国に宝を蓄えなさい。そこでは、あなたがたの財産

は安全であり、それはあなたがたの魂の喜びと平安に役立つだろう。

69. 地上の宝とは、富、権力、そして虚栄の称号である。霊の宝とは、善行のことである。

70. わたしは、人々が到達した知識や科学を軽んじることはない。それどころか、わたしは彼らの認識能力を啓発し、その行いが高貴で崇高な目的を持つようにする。そうすれば、彼らは確かに真の偉大さに達するからである。

71. 第二の時代において、私は、信仰によって人間が何ができるかを世界に示した。私は死んでいた者を蘇らせ、盲人の目に視力を与え、らい病人を清め、足の不自由な者を歩かせた。

72. 私は、死の淵に立っていた者を癒やし、死から救った人間の科学を祝福する。

73. 今、私は再び、あらゆる科学を超越する私の知恵をあなた方に示すためにやって来た。そして、あなた方に告げる。世界は第三の時代の慰め主を知るようになるだろう。しかし、*あなたがたは*私が再び人々の間にいることを知っているにもかかわらず、私の別れはすでに近づいているというのに、人々は依然として私を待ち続けている。

74. 私が「第二の時代」において語った言葉の中で、私は再びあなたがたの元へ来ること、そして私の霊的な軍勢が私と共に降りてくることを知らせた。しかし、人類は私の言葉の意味を正しく理解せず、解釈も誤っていた。

それゆえ、あらゆる*宗教団体が*自分たちの仲間の中にわたしを待ち望み、この世の目をもってわたしを見ることを期待している。しかし、今このようにわたしを待ち望んでいる者たちは、かつてイエスがメシアであることを否定し、彼を夢想家だと見なした者たちそのものである。

75. あなたがたに信仰がある限り、その道は明るく照らされるだろう。

76. 私はこの時代に、私の神殿を築くために来た。あなたがたが破壊してしまった、あなたがたの心の神殿を、私は「三日間」で再建する。

77. あなたがたは皆、備えを保っており、それによって私にその姿を現している。私の言葉を受け入れるために心を開いたときはいつでも、あなたがたは平安を感じたはずだ。 愛をもってわたしを求め続けた者の中で、わたしと対話したことがない者がいるだろうか。しかし、*あなたがた*がこの慈悲を得たのなら――なぜそれ

を隣人に教えないのか。愛の行いの中に命を見出すなら、利己的にならずに愛しなさい。義務を果たすことで健康がもたらされるなら、たゆまず働きなさい。

78. わたしは、あなたがたがわたしにふさわしい者であることを願っている。あなたがたの家庭に平安があり、一人ひとりが善を育み、促進している姿を見たい。そうして、あなたがたがわたしのもとで生き、兄弟姉妹と一つになれるように。

（たとえ話）

79. 昔、謙虚な師が弟子たちを指導していた。その中には、信仰に満ち溢れ、使命を果たすために今すぐでも旅立ちたいと焦る心を持つ者たちもいた。 師の教えを受けて間もなく、彼らは師に尋ねた。「賢明であり、純粋な愛と魂の解放を教えるあなたよ――教えてください。いつになったら、私たちは父の名において、学んだことを教えに旅立つことができるのでしょうか？」

しかし、師はこう答えました。「おお、弟子たちよ、すでに私の教えを伝えたいと願うのか？　その教えにすでに満足してしまったのか？　危険を恐れないのか、不信仰に怯えないのか？　すでに十分な強さを備えているのか？」

しかし、ある弟子が強く主張した。「あなたは私たちに解毒剤を与えてくださいました。私たちは力強さを感じており、あなたの教えを実践したいのです。」

その師は、慈愛と優しさに満ちて弟子たちを祝福し、権威を授けて、彼らを送り出した。こうして弟子は旅立ち、人々の心を動かし、あの偉大な教えを伝えていく。

多くの人々が彼を訪ね、その言葉を聞くと、彼の教えに改心し、彼に従うようになった。 しかし、その「働き手」は、新たな弟子たちを十分に備えさせた後、彼に従う群衆に向かってこう言った。「最後の教えを受けるためには、私を導いてくださった方の御前に出なければなりません。なぜなら、その師はまもなく去ろうとしており、その知恵をすべてあなた方に遺して行きたいと願っておられるからです。私に従ってくれますか？」

80. 彼らは大群をなしてその師のもとへと向かい、驚いたことに、その師こそが師の中の師、無限の神、すべての被造物の創造主であることを知った。そこで彼らはひざまずき、深い悔い改めを感じ、その魂は師と一つとなり、弟子たちの心には平安が満ち溢れた。

（たとえ話の終わり）

81. 今日、私はあなたがた、私の弟子たちにこう告げる。あなたがたが私のすべての栄光の中にある私を目にする時が来る。その時、地球とその住民は清められ、魂の美徳と美しさが回復される。 苦しみは消え去り、すべてが至福となり、あなた方にとって終わりのない、無限の「日」となるでしょう。この奇跡を目撃したいと思わないのですか？ あなた方の な子供たちが、私の霊と対話し、罪から解放されて平和な世界を築けるようになることを望まないのですか？

82. わたしは、あなたがたがわたしの教えを実践できるように、霊の賜物を与えた。善に堅く立ち続けなさい。あなたがたの決意が固ければ、一見克服不可能なものをも打ち破り、この時代にわたしの到来を信じなかった世界も、わたしを愛し、救われることになる。

83. 民よ、私の啓示が日々ますます霊的なものになっていくのを見れば、あなたは喜ぶだろう。恐れからではなく、愛をもって私のところに来なさい。

84. 強くなれ。試練があなたたちに迫っているのだから、確信を持ってそれを乗り越えなければならない。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 182

1. 自分たちのためよりも、人類のために祈りなさい。人類は、闇と苦難の海に漂う難破船のようなものであり、その混乱の中で、自らを救うために必要な「灯台」を見出せないでいるのだ。

2. わたしを信じ、わたしの戒めに従う者は皆、たとえ「霊的な谷」にいようとも、この世にいようとも、どこにいようとも、救いの箱舟の中にいるのである。 霊的かつ真に愛する者は、わたしのそばにいる。すべての人間は、自らを救うための手段をその内に備えており、それは良心の光と、魂の中に宿る善に対する直感的な知識である。これらは、わたしがあなたがたに授けた資質である。

3. 祈りは、試練の時における心の慰めであり、支えである。強くなるためには、あなたがたは私の律法に一つにならなければならない。そうすれば、たとえ異なる道を歩んでいようとも――霊的な方法で私の教えに従うならば――やがて互いに愛し合い、理解し合うようになるだろう。

4. 私の言葉を聞いた者すべてがそれを信じているわけではなく、私を愛すると主張する者すべてが、本当に私を愛しているわけでもない。あなたがたが私の弟子と名乗るためには、私の律法に従い、私の足跡をたどらなければならない。

5. 私の愛はすべての人に等しく注がれている。私が誰に対しても、光や温もり、そしてパンを拒んだことは一度もないことを、あなたがたは見ていないのか。たとえ魂の試練がどれほど厳しくとも――私の守りは決してあなたがたを離れることはない。

6. わたしを肉体の姿で見たいと願うのか。そうしてわたしを信じ、わたしを身近に感じたいのか。それなら、あなたがたが住むこの地球の本質と生命に深く心を向けてみよ。そうすれば、この地球に属するあらゆる存在の中に、わたしが顕現しているのを見るだろう。

7. わたしはあなたがたすべてに日々の糧を与えた。それにもかかわらず、満腹している者もいれば、空腹の者もいる。それは、あなたがたが自分の労働の果実も、自分の住まいも、他の人々と分かち合っていないからである。

8. 私は、あなたがた全員が私のもとに来られるように、あなたがたを成長の始まりの段階に置いた。あなたがたがこれらの啓示を通して受け取る私の愛は、すべての私の子供たちに向けられている。私のもとに来なさい。心を整えて私を求めなさい。そうすれば

、私はあなたがたと共にいる。あなたがた全員が私の臨在を感じ、私から養われることができる。

9. 偉大な霊的な業は、謙虚さを実践し、魂の清らかさに留意し、あなたがたの唇から発せられる「光の言葉」に心を配ることによって成し遂げられる。しかし、あなたがたの業について語るのではなく、 神の業について語りなさい。そして、あなたがたの努力を裁き、報いることを私に委ねなさい。

10. 世界は大きな災厄に脅かされているのだから、世界の平和のための祈りを忘れてはならない。しかし、私の高き御計画に干渉しようと高を括ってはならない。悪い木々を根こそぎ引き抜き、制度を厳しく懲らしめることを、私に知恵をもって行わせてほしい。

11. あなたがたは祈り、少なくともできるだけ多くの人々を助けるべきである。その時が近づいている。だから、あなたがたが警戒して生き、これらの預言の成就をこの目で見届けることができるよう、私は警告する。

12. 一度わたしの言葉を理解すれば、あなたがたは皆、一つの群れとなるだろう。そして、あなたがたの神であるわたしが、羊飼いとして、あなたがたを永遠の命の泉へと導く。そこでは、もはや渇きを感じることはないだろう。

13. 師はあなたがたの中にいます。そして、私が望むのは、適切な時が来るまで、あなたがたを準備を整えた状態でここに残しておくことです。

14. 世界が一見平穏に見えるこの瞬間に、私はあなたがたに教えを授けている。

15. 人間は物質主義に身を委ねており、神の御子が残した模範について考えるのはほんの一瞬だけであり、すぐにまたこの世での生存競争や、純粋に物質的な生活に関わる事柄へと向き直ってしまう。人間は霊化への準備ができていない。

16. 人間には、イエスの受難を記念する特定の記念日があり、その時になって初めて、心を動かすことができるのだ。

17. しかし、わたしの言葉を聞いたあなたがたは、神聖なる師が与える教えを思い出し、それに従うために、特定の時刻や日などないことを理解している。あなたがたはついに、神の愛と慈悲のその模範に触発されて、隣人のために善行をなすことができるのは、あらゆる瞬間であるということを悟ったのだ。

18. 私は、あなたがたが今学んでいるこの教訓を、周囲の人々に伝えてほしいと願っている。そのためには、ただあなたがたの

心が種を蒔く準備ができているだけでよい。そうすれば、最初の収穫は、喜びと、日々の行いを続けたいという渇望で、あなたがたを満たしてくれるだろう。

19. 私の言葉がすべての子供たちに届いたとき、それは驚嘆する科学者たちにとって、彼らの知性を照らす一筋の光となるだろう。 そして、彼らが神と人間との間に存在する契約、すなわち人間の科学と創造の神秘との関連性を発見した瞬間、彼らは一歩前進することになるだろう。その一歩は、来るべき世代全体にとっての礎となる。なぜなら、その時にはすべてが完全な調和の中で 進んでいくからである。人間も出来事も、立ち止まることなく、完全さへと発展していくことになる。

20. 現在の世紀において、人間の科学は大きな発展を遂げたため、人々はこれを「光の世紀」と呼んだ。しかし、この時代が魂にとっても「光の時代」であることが、彼らには理解されていなかった。彼らは、聖霊が今まさにその御姿を現し、預言の成就としてすべての人々を照らしていることを知らないのである。

21. 偉大な人間の業績の中には、高次の霊的存在たちの影響と働きが存在している。彼らは絶えず知性の器官に作用し、それを照らし出し、それによって、転生した兄弟姉妹たちに未知のものを授け、あるいは啓示している。

22. それゆえ、私はいつの時代も学者や科学者たちにこう告げるであろう。「あなたがたは、自分が理解していることや、行っていることを誇ってはならない。なぜなら、すべて*があなたがたの*業であるわけではないからだ。私があなたがたに語っているあの霊的存在たちにとって、あなたがたはただ道具として奉仕しているだけであることは、どれほど頻繁にあることか！ あなたがたは、自らの発見に到達したことに、しばしば驚いたことがなかったか？」心の中で、自分たちがすでに成し遂げたことを、自分たちだけでは成し得なかった、あるいは不可能なことだったと、何度も認めてきたのではないのか？　その答えはここにあるのだ。なぜそれを自慢するのだ？　あなたたちの仕事は、より高次の存在たちによって導かれていることを理解せよ。彼らのインスピレーションを決して変えようと試みてはならない。なぜなら、それらは常に善に向けられているからだ。

23. 私の教えは限りなく深く、その中には、あらゆる宗教が養われる本質が宿っている。 私の教えにおいて、私は信仰の告白にかかわらず、あなた方をすべての人々の兄弟姉妹とする。決して祈るために独房に閉じこもってはならない。それは、人類から自ら

を切り離し、堕落することを恐れて誘惑から逃げているようなものだからだ。イエスは、あらゆる闘いに立ち向かうようあなた方に教えた。 イエスは、ご自身が真理であり、その真理が――光のように――隠れることはできないことを知っておられました。当時から、私はすでに、私の足跡をたどる方法をあなた方に教えていたのです。

24. 私は裁かれ、中傷されましたが、私の中にいかなる不完全さも発見されることは決してありませんでした。自然は、あなたがたに託された作品として完全であるのですから――私が創造したこの作品の中に、誰が過ちや不完全さを見出すことができるでしょうか。誰がそれに匹敵することができるでしょうか。

25. あなたがたが私の言葉を理解できないときはいつでも、誤りに陥る前に、祈りに身を委ねなさい。なぜなら、私が理性や真実を含まない考えをあなたがたに吹き込むなど、どうして考えられるだろうか。 あなたがたの思考が神聖な輝きに届くよう、心を高揚させなさい。

26. あなたがたは、自分の考えを付け加えることなく、わたしの教えを宣べ伝えるべきである。なぜなら、あなたがたは誰をも欺くことはできないからだ。嘘は遅かれ早かれ、真実によって打ち負かされるのである。

27. もし自分に対して誠実であれば、真理を悟ることができるでしょう。なぜなら、あなたがたが他者を愛し、その眼差しに温かさが宿り、言葉や行いが隣人愛に満ちているとき、自分の中にも、そして周囲の人々の中にも真理を見出すことができるからです。信仰を単純なものとして捉えてはなりません。奇跡は力ずくで実現されるという、根拠のない確信を抱いてはならないのです。 そのような恵みに値する者となるよう、自らを磨かなければならないことを忘れないでください。

28. わたしの言葉に対する揺るぎない信頼と、あなたがたの祈りの力が、信仰を得て偉大な業を成し遂げるための準備となるでしょう。

29. 私は、何世紀にもわたって多くの預言の中に秘められていた神秘について、その光と解明をあなたがたに与える。

30. 光を求めなさい。そうすれば、それはあなた方に与えられるでしょう。私は、あなた方の霊と私の霊との間に交わりが生まれることを望んでいます。

31. 私が言葉の一つひとつに注ぎ出すこの恵みが、私がもはや人間の知性を通じて自らを現さなくなったとき、あなた方を慰め

るものとなるだろう。この恵みによって、あなた方は同胞たちの間で師となるだろう。なぜなら、あなた方は私の律法を守る術を身につけるからである。

32. あなた方を惑わすものは何もない。イデオロギーも教義も、あなた方を道から逸らすことはない。なぜなら、あなたがたが私から学んだすべてのことは、炎のようにあなた方の魂に刻み込まれるからである。

33. あらゆる宗派において、人々に二つの道が提示されている。一つは魂の安息の日への道、もう一つは永遠の罰への道である。人が現実を認識しようと苦心すればするほど、その理性が絡み合う謎に直面するだけである。

34. しかし、学問を学んでいないあなたがた、謙虚な弟子たちは、それとは対照的に、私の霊感と知恵に満ちた言葉を受け取った。それによって、謎のベールは引き裂かれ、あなたがたは、この人生の後、闘争や戦いや試練を経て、あなたがた全員が切望する安らぎと平和が待っていることを知ったのである。

35. この現実をすでに知っているあなたがたは、それを知らない人々にそれを明らかにする術を知っているだろう。

36. あなたがたは、私の意志を告げる預言者となるでしょう。そうすれば、あなたがたの同胞たちは、あなたがたの唇から告げられたことが実現したのを見て、あなたがたが真実を語っていたと確信するでしょう。

37. 平和は諸国にはない。一見、人々の心には穏やかな確信が支配しているように見えるが、戦争が東方（メキシコから見てヨーロッパ）を脅かしている。実際、戦争は勃発し、世界は絶望的な状況に陥るだろう。これは「まもなく」起こる。

38. 私の自然の力が解き放たれ、広大な地域を荒廃させるだろう。科学者たちは新しい惑星を発見し、「星の雨」があなた方の世界を照らすだろう。しかし、これは人類に災害をもたらすものではなく、ただ人々に新しい時代の到来を告げるに過ぎない。

39. 私がこれらの予言をあなた方に告げるのは、それらが実現した際に、あなた方が驚かないようにするためである。

40. あなたがたは、わたしの自然の力とも調和していなければならない。それらは、わたしのしもべであり、わたしの正義の道具でもあるからだ。 世界では大災害が起こり、科学者たちはその原因を自然そのものの中に求め、頭を悩ませることになるだろう。科学者とは、細胞の中に自らの存在を求め、それによって本質、す

なわち「霊の領域」――存在するすべてのものの源であり、唯一の源――を見誤ってしまう者である。

41. あなたがたがまだこの世にいる間、私は多くのことを明らかにしてやる。しかし、あなたがたがこの世の肉体の目を閉じ、精神の目が開かれて無限を仰ぎ見る時、精神の生活にはより大きな明晰さと光が存在することを悟るだろう。意志、知性、理性はあなたがたを離れることはない。それらは精神の生来の能力だからだ。

42. 宗教団体では、悪の力を認め、それを人間の姿に擬人化している。人々は悪に強大な王国を帰属させ、様々な名前を付けている。 人々は、それが近くにあると信じると恐怖を感じるが、誘惑は情熱や弱さに根ざしていること、そして人間の内面には善も悪も共に蠢いていることを理解していない。 ― この時代、世界では悪が優勢であり、あらゆるものに現れる力と権力を生み出している。そして霊界には、不完全で、 に乱れ、悪と復讐に傾きがちな魂の軍団が存在し、その力は人間の悪意と結びついて、悪の王国を形成している。

43. その力は第二の時代にイエスに立ち向かい、その王国を彼に見せた。あらゆるものに敏感なわが肉体は試練にさらされたが、わが霊的な強さはその誘惑に打ち勝った。なぜなら、わたしは世界、肉体、誘惑、そして死に打ち勝つ者とならなければならなかったからである。わたしは、強さの模範を示すために人々のところへ降りてきた師であったからである。

44. イエスは十字架上で最後の息を引き取った後、死者の中からよみがえり、迷える魂たちが留まる闇の深淵へと降りて行き、彼らを光へと導き、その後、御霊において使徒たちの元へ戻り、彼らに御霊のより高き命を目の当たりにさせた。

45. 私はこの時代、あなたがたにこう告げた。「人類の間に存在する地獄という概念に固執してはならない。なぜなら、この世において、あなたがたが戦争や敵意によって作り出した人生以外に地獄は存在せず、来世において、良心が魂にその過ちを突きつける時の後悔以外に火は存在しないからだ。」

46. わたしの教えは、神学者、哲学者、科学者に語りかけるものであり、彼らはわたしの業が尽きることのない啓示の泉であることを発見するだろう。

47. 人間は自らの再生を通じて、自らの地獄を消し去るだろう。そして、その魂が来世へと入るとき、そこには光と調和と恵みしか存在しない。なぜなら、魂の生きる世界には、人間の迷信によってのみ生み出されたようなものは存在し得ないからである。

48. 準備を整え、心を静めなさい。今、あなたがたは私が送る光を受け取ろうとしているのだから。心を開いて、口先だけで私を愛していると言うのではなく、本当に私を愛しなさい。私はあなたがたが私と調和して生きることを望んでいるのだから。 あなたがたの魂の中に宿り、あなたがたによって曇らされてしまったその特質が、再び輝きを取り戻すように努めなさい。私は、あなたがたが私の永遠の賜物の所有者であると自覚し、私について証しをすることを望んでいる。

49. わたしはあなたがたに対して限りない忍耐を示し、あなたがたの認識を待ち続けてきた。それにもかかわらず、あなたがたは今なお、わたしの存在があなたがたの眠りを妨げないようにと、また現実の中で生きたくないと、わたしに言い続けている。 しかし、私が再び来て、選民を奮い立たせ、闇と戦うための武器を与えると、聖書に記されている。人類に光をもたらすよう定められているにもかかわらず、なぜあなたがたは光を軽んじるのか？――まもなく あなたがたは、平和と真実と愛の戦士へと変容するだろう。私があなたがたに送る試練は、あなたがたの心を整え、正しい道へと導くものである。あなたがたは、まもなくその重荷を背負い、「日々の務め」を始める段階に差し掛かっている。他の人々は、霊的な境地に達し、別の生命の次元に住むようになったとき、成就へと旅立つだろう。

50. 私は、師を裏切り、その賜物を偽りの富と引き換えるような弟子を、あなたがたの中に一人たりとも見たくはない。なぜなら、そうなれば私の傷が再び開き、愛する弟子の汚名を洗い流すために、憐れみの水と血が流れ出ることになるからだ。

51. 私の呼びかけに応じて駆けつけてくれたあなたがたは、祝福されよ。あなたがたは、大きな愛の証を受け取り、近づきつつある戦いの時に向けて力を与えられるだろう。あなたがたの苦しみは和らぎ、霊において平安を得るだろう。

52. もしあなたがたがわたしに使命を求めてくるなら、わたしが与える書物を調べなさい。そうすれば、その一言一言の中に、あなたがたの霊が征服すべき世界について語りかける、不変の法則である使命を見出すだろう。 働きの時が来たと感じたとき、あなたがたは驚きと喜びをもって、私があなたがたに託した畑がいかに広大であり、種がいかに豊かであるかを目の当たりにするでしょう。

53. わたしがあなたがたに教えたことが、この時代にわたしの御言葉を聞かない人々に、歪められることなく伝えられることを

望む。 あなたがたの生活の徳の中に、人々を導き、助言し、慰めるために必要なものを見出すでしょう。私はこの時代、人間の心から、かつて私が受け取ることができなかった収穫を受け取る理解を期待しています。それは、あなたがたが、私がおり、すべての私の子供たちを待っている高い山に登るのを助けるためです。

54. 人類よ。私が「第二の時代」に愛の贈り物としてあなたに授けたその種を、あなたはどうしたのか。あなたたちは自らをキリスト教徒と呼んでいるが、実際にはそうではない。なぜなら、私は人間の中に愛も、慈悲も、正義も見出せないからだ。 自覚することなく、あなたがたは別の神を愛し、別の世界を築き上げてしまった。*そこには*、あなたがたの感情、野心、所有物、理想、そして富がある。それらを超えた先には、あなたがたにとって何もない。あなたがたの信仰はどこにあるのか？ 私の教えを実際に実践している姿はどこにあるのか？ あなたがたは、それらを単なる理論の一つとして、頭の中で抱えているに過ぎない。 あなたがたのうち、私が語っていることが誇張だと思っている者はどれほど多いことか、 、そして明日この言葉を知る者たちのうち、どれほど多くの者がこれに憤慨せざるを得なくなることか。

しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。この第三の時代に、エリヤは、*あなたがた*が私を愛していると信じているにもかかわらず、偽りの神を崇拝していることを証明するだろう。もう一度言う。 第一の時代に、イスラエルの民がバアルを崇拝していたとき、神がその預言者に与えた権威をもって、闇に陥り、迷いの道に迷い込んでいたその民を試練にさらしたように――同様に、この時代においても、エリヤは神の光を魂たちに閃かせ、それによってあなたがたの偶像を地面に倒すことになるだろう。 あなたがたの偶像とは何でしょうか？――この世、「肉」、科学、宗教的狂信、悪徳、そして金です。

55. すべての魂の中に光が輝き出れば、あなたがたは、世界や科学が、あなたがたが目指すべき目標でも、最高の完成形でもなく、それらはただ、完全なる御霊である神へと一歩一歩近づいていくために、神があなたがたの道に置かれた手段にすぎないことを理解するだろう。

56. エリヤは先駆者であり、預言者であり、使者である。私は光であり、自らの科学によって世界を動かせると思い込み、万事を成し遂げられると自負する人々に対し、エリヤを通じて改めてその光を証明するつもりである。 しかし、試練の時が訪れ、至る所に荒廃が広がったとき、エリヤは学者や科学者たちにこう告げるだ

ろう。「あなたがたの科学の力を駆使し、解き放たれた自然の要素の猛威を食い止めよ。あなたがたの力を行使し、嵐の激しさを鎮めよ。もしあなたがたがそうするならば、私はあなたがたの力と知恵を認めるであろう。」 しかし、私はあなたがたに、あなたがたの科学を超える力と知識を授けたい。その力とは、祈りの力である。

57. 今こそ、民よ、エリヤの指があなたを指し示し、その声が、新しい弟子たちを通して、祈りの真理と霊化の力を世界に証明するよう、あなたを呼んでいる時である。

58. あなたがたは、霊的な意味で、古代の人々、すなわちイスラエルの民が受けた試練を生き抜くことになる。なぜなら、それらの教訓の真意、すなわち主が御子らに向けて発した呼びかけの真の理由は、いまだ十分に解き明かされていないからである。

59. 確かに、人々は自らの過ちに気づき、神の正義に恐れをなして悔い改めた。しかし、彼らは光がある真実の核心――魂に真の知恵を与える唯一のもの――には到達しなかった。

60. 私はあなたがたに、この「光の時代」において、過去のあらゆる神の啓示が正しく理解され、解釈されるようになると告げた。 なぜなら、人間の魂は、巡礼の旅という広大な砂漠を横断し、経験という数え切れないほどの道を歩んできたことで、霊的なものと接触し、自らの良心と調和し、存在の真の意味を理解するに足る成熟に達したからである。

61. 人間は、眠りから目覚め、立ち上がり、自らの運命として定められた偉大な業を成し遂げようとしている――その業とは、霊にインスピレーションを与えられ、良心に導かれ、感情に反映されるものである。

62. いつの日か、多くのスピリチュアリストたちが団結し、強固な共同体となったとき、彼らの地上での歩みは光の軌跡を残すことになるだろう。それは人類にとって、弟が立ち上がるのを助けるために寛大に手を差し伸べる兄のような存在となるだろう。

63. 私は、あなたがたの心が愛に満ち、性格の荒さが和らぐように、愛に満ちた言葉で語りかけてきた。なぜなら、明日、あなたがたこそが、私の業を同胞たちに知らしめなければならないからだ。しかし、もしあなたがたが、彼らの心の繊細な琴線に触れたいと願うなら、大きな温かさを示し、あらゆる行いにおいて愛と慈悲に満ちていなければならない。

64. 言葉のない祈り――すなわち、思考そのものであり、感覚そのものである祈り――によって、霊と霊とで私とつながることを学びなさい。これこそが、あなた方を私の神聖な臨在に最も近づ

けてくれるものである。 明日、あなたがたはこれらすべての教訓を教えなければならないことを心に留めておきなさい。それゆえ、私の新しい弟子たちは、私の教えによって学んだことを、今から実践することが必要である。 あなたがたが自らの行いによって教え、善き模範をもって説教するとき、人類はあなたがたに倣おうとする気持ちに駆られ、耳が聞こえず命のない偶像を崇拝することをやめ、ついに、霊界にのみ住まわれる、真の、生ける、永遠の神を求めるようになるでしょう。

65. 祈りは、この嵐に翻弄される海で難破した者たちすべてにとっての救命ボートである。なぜなら、正しく祈ることができる者は、力を得て、信仰に満たされるからである。その者はあらゆる試練に打ち勝つことができると感じ、平和の到来を確信を持って待ち望むことができる。

66. 私があなたがたに与えてきた教えの多くは、最大の苦難の時代にあなたがたを脅かす危険について警告することを基礎としている。なぜなら、あなたがたは、常に私の霊的存在たちの軍勢と結ばれている、 の光と平和の軍勢の一員となるべきだからである。

あなたがた一人ひとりのそばには、守護者であり保護者となる、目に見えない存在たちの群れが常に寄り添っている。彼らとあなたがたの双方の使命は、最高の目標、すなわち普遍的な平和を達成するために団結することにある。今日、私はあなたがたに告げる。私のすべての僕たちの間に生まれるこの霊的な調和から、この共同体を無敵のものとする力が生まれるだろう。

67. 霊的に貧しい者たちは霊感に満たされ、話すことや理解することに不器用な者たちも、真理と生命に満ちた言葉の奔流を自由に操ることができるようになるでしょう。

68. 私はすでに、その道にはつまずきの石があるだろうと指摘した。しかし、備えをする者はそれらを避けることができると、私はまた告げる。 今、私が語りかけているこの瞬間にも眠り込んでいる者たちこそが、つまずき、転び、そして最終的には引き返してしまう者たちとなるだろう。彼らは、自分の道の前に現れる岩が乗り越えられないものだと考えてしまうからだ。

69. 祈り、瞑想、喜び、そして高揚感――これらは、予期せぬ出来事に遭遇することがないよう、あなたがたの日常生活に不可欠な要素として取り入れられるべき価値である。

70. 私が過去のあらゆる時代を通じて、繰り返し「目を覚まし、祈りなさい」と告げてきた理由を理解しなさい。

71. 今、私はあなたがたを養うためのパンを差し出している。それは酵母を含まないパンであり、その中には永遠の命が宿っている。

72. 私の教えによってあなた方を恥じ入らせるのではなく、私はあなた方の心を癒やし、魂の重荷を軽くしたいのです。私はあなた方を、私の平和の場所へと招きます。そこで、あなた方は私にすべての罪を告白すべきです。 私はあなたがたの痛みを汲み取り、厳しく裁くことはしません。もしその痛みが良心の呵責によるものであれば、心配する必要はありません。なぜなら、私は、周囲の人々から優しさも理解も得られなかった、まさにそのようなあなたがたを探し求めて来たからです。私はあなたがたを救い、やがて私の元に来られるようにしたいのです。

73. 私は、あなたがたが話すことや私の業を証しすることに不器用さを感じないように、あなたがたの知性と唇を鍛えている。愛を感じれば話すことができ、信仰があれば、私の名において偉大な業を行うことができる。

74. わたしは、あなたがたが自分の人生を書き記すために、真っ白な紙を授ける。その際、良心がはっきりと語りかけるだろう。それによって、 、あなたがたはいつ父を敬い、いつ父に背いたのかを知るようになる。

75. 今日、あなたがたはわたしに願い求めている。しかし——わたしの愛が与えてくれないものなど、何があるというのか。だが、もしあなたがたが過ちの償いとして苦い杯を飲むことになっても、わたしを責めてはならない。あなたがたは選ばれた民であるのだから、なぜわたしがあなたがたに、乳と蜜の杯を飲ませなかったのかと問うてはならない。平安を得るかどうかは、あなたがた次第なのだ。 私は、*あなたがたが*道を選び、自らの功績によって私のもとへ昇りつめることができるよう、自由意志を授けたのだ。なぜ、善良な弟子たちを手本としないのか？なぜ、先祖たちの生き方を歩まないのか？——それは、あなたがたがまだ、行いによって私を栄光に輝かせていないからだ。

76. 与えなさい。あなた方には常に与えるべきものがある。金持ちのけちのような振る舞いをしてはならない。病める者や苦しむ者を、愚かだと見なして追い払ってはならない。飢えた者を軽蔑してはならない。もし彼らの心に寄り添うことができれば、その痛みを悟り、彼らに憐れみを抱くようになるだろう。

わたしは愛をもって、あらゆる苦しみを癒やすための香油をあなたがたに与えた。あなたがたが慈悲を実践するとき、わたしに

似るからといって、批判されることを恐れているのか。わたしについて何も知らない、この不公正で利己的な人類を、一体何を恐れているのか。さあ、来て、わたしの不変の律法に従い、わたしの霊のエッセンスを飲み干し、真理の霊に満たされてほしい。

77. 真理とは、愛と光と正義に満ちた私の王国である――それは、私があなたがたに啓示した律法が教える真理である。真理とは、あなたがたが最終的に偉大で、幸福で、完全で、不滅となるために、私の愛によって示された道しるべである。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 183

1. 弟子たちよ、わたしの言葉を心に留めておきなさい。すでに、さまざまな信仰を持つ人々がこの国に近づきつつあり、彼らはあなたがたに対し、わたしの教えを受けたという証拠を求めることになるからです。

2. わたしは今、あなたがたから苦しみや病を取り除いている。それは、あなたがた自身が慰めることを学び、わたしがあなたがたに対して行っているのと同じように、隣人に対して憐れみを示せるようになるためである。

3. 私の教えは、心を開いてそれを受け入れる者を喜びで満たすだろう。それは、渇いた唇には水晶のように澄んだ水となり、飢えた者にはパンとなり、疲れ果てた魂には安らぎと平和となり、すべての人にとっては励ましと光となる。

4. わたしは、統治者から最も取るに足らない者に至るまで、この民を啓発し、主を慕ってやって来る人々のために、彼らが両腕を広げて迎え入れるようにする。

5. ある者は悔い改めた心で私のところに来るだろうし、ある者は恐れおののいて来るだろう。なぜなら、痛みが彼らの心の奥底を捉え、良心が語りかけ、「すべての魂にとって裁きの時が来た」と告げるからである。しかし、私はすべての人々のために、救いの新たな機会を用意している。 魂は自らのあらゆる能力の確証を受け取り、信仰が呼び覚まされたとき、その信仰を通じて、私がなぜ再び人々のところへ来たのか、そして私がどれほど彼らを愛しているのかを理解するだろう。

6. 私がこの時代の御言葉をもって来るのは、第二の時代に語ったことを消し去るためではない。むしろ、あなたがたがそれを忘れてしまったから思い出させ、理解していなかったから説明するためである。私が明らかにするのは、当時あなたがたに語らなかったこと、そして、あなたがたの魂が成長したこの時代のためにと取っておいたことだけである。

7. 愛と血と涙をもって私の言葉を書き記した者たちは、自らの記憶と霊感に従い、私の意志を忠実に伝えた。しかしその後、他の者たちが現れ、私の言葉は歪められ、その本来の意味は、私の教えには属さないイデオロギーやカルト的な形式の下で失われてしまった。しかし今この時代、光はあらゆるベールを引き裂き、私の真理の純粋さを明らかにしている。

8. わたしは、わたしの業をめぐって互いを誤解したり、不当な議論を交わしたりしないよう、あなたがたに教える。しかし同時に、これらの啓示をもってあなたがたに警告する。偽りの教師や預言者たちが、イスラエルの民の懐にさえ現れるだろう。

9. 今日、わたしの食卓でパンを食べている者の多くは、明日には物質的な繁栄や支配、称賛だけを追い求めるようになるだろう。あなたがたは、惑わされないよう警戒しなければならない。

10. この大義のために見張りを続ける忠実な弟子たちよ、あなたがたの戦いは大きなものとなる。わたしは、この責任を担う百四十四千人を、備えを整えて残しておく。 その中には、私に背を向ける者たち――私の名を用いて「ここに師が立っている」と言う者たち――、渇きを癒やされなかった者たち、そして適切な時に私の声に耳を傾けようとしなかった者たちも含まれている。真理を渇望する者たちは彼らに目を向け、惑わされてしまうだろう。

11. 謙虚さを実践し、隣人に媚びてはならない。また、彼らに媚びられることも許してはならない。あなたたちに善を為そうとする名目で、あなたの虚栄心を煽り、あなたを堕落させる者たちからは背を向けなさい。

12. 誘惑に耳を傾けてはならない。わたしがあなたがたに授けた権威は、霊的な働き、すなわち愛と憐れみの働きのために用いるためのものである。

13. 決して私の教えを利用して富を得てはならない。

14. 民よ、わたしはあなたたちを守り、1950年まで平和のうちにわたしの御言葉を聞くことができるよう、周囲の人々の目からあなたたちを隠してやる。この時代にわたしの到来を信じるがゆえに、もしあなたたちが「引き裂かれる」ようなことがあっても、わたしはあなたたちを擁護する。もしあなたたちが投獄されても、わたしは門を開き、あなたたちは救われるだろう。 ただ一つ言っておく。私の律法を全うし、利益追求や秘密主義に陥ってはならない。病人を癒やすよう呼ばれたら、憐れみを実践し、その行いが霊的なものであるよう心がけなさい。

15. 第二の時代、私が去った後、あなたがたの天の母は残って、私の弟子たちを力づけ、導き続けた。弟子たちは、苦しみと試練を経て、マリアの愛に満ちた心の中に安らぎを見出した。彼女の言葉は彼らを養い続け、神の師に代わって教えを授け続けた彼女に励まされ、彼らはその道を歩み続けた。 そして、マリアが旅立たれたとき、彼らの闘いが始まり、一人ひとりが自分に示された道を歩み始めました。

この第三の時代において、あなた方は心の奥深くにマリアの愛を抱くことになるでしょう。その愛は、あらゆる試練の中であなた方の魂を励まし、力づけてくれるのです。

16. あなたがたは、わたしを感じ、わたしを愛するために、徐々に心を開きつつある。しかし、わたしはあなたがたに言う。わたしの教えに耳を傾け、それに従うことを理解しなさい。わたしだけを愛するのではなく、隣人も愛しなさい。互いに 不当に裁いてはならない。正しいことも不当なこともすべて、わたしの正義に委ねなさい。その理由を知っているのはわたしだけであり、裁く権利があるのはわたしだけだからである。 わたしの律法を全うしなかった者たちよ、わたしはあなたがたをこの道へと招く。そうすれば、あなたがたはまもなくわたしのもとへたどり着くであろう。そして、わたしは彼らにこう告げるだろう。「今、わたしがあなたがたに提示するのは、新しい律法ではない。それは、最初の人間の良心に刻み込み、その後モーセを通して明確かつ正確に明らかにした、あの律法と同じものである。」

17. もしそれが私の律法に基づいていないのであれば、人々の言葉に惑わされてはならない。そうすれば、あなたがたは光の道を進んでいると思い込みながら、実は闇の道へと踏み込んでしまうことになる。大げさな表現は、私が好むものではない。 *私は*常に、あなたがたに率直に語りかけてきた。しかし、もしあなたがたがそれらの言葉の中に真理を見いだすならば、そこから本質的なもの――すなわち、愛、慈悲、そして平和といった、私のものである要素――を取り出し、それを正しく用いて解釈しなさい。

私は、決して嘘をつかない裁き人をあなた方に与えました。それはあなた方自身の中にあります。それは良心です。その声を聞くためには、内面に向き合い、祈り、瞑想しなければなりません。そうすれば、それは真の知恵と高揚をもってあなた方に語りかけるでしょう。

18. 世界はあなた方を失望させた。そして今日、あなた方は、取るに足らない存在たちを通じて、質素な集会室で私の言葉が語られるのを耳にするにつれ、霊的な礼拝のために宮殿を建てる必要はなく、また私の教えを限定したり、物質的な像によって表現したりしてはならないことを悟るだろう。

19. 第三の時代にこの使命を世にもたらすため、あなたがたは再び、力に満ちた光の精霊として転生するよう命じられた。そして、この恵みの賜物のゆえに、あなたがたの同胞たちはあなたがたを誤解した。彼らは、あなたがたの信仰とわたしへの信頼を怪訝な

目で見つめたが、わたしが誰かを特別に優遇したことはなく、*すべての人*を顧み、守っていることを理解していなかったのだ。 しかし、悔い改めの心をもって私のもとに来たあなた方——私はどれほどあなた方に近づいていることか。そして、その悔い改めによって、あなた方は病める者や霊的に貧しい者たちに、私の愛と慈悲の賜物を届けるにふさわしい者となった。あなた方の信仰は語りかけ、弱り果てた者たちをエネルギーで満たし、彼らの魂は新たな命へと高揚するだろう。 この時代、多くの「放蕩息子」たちが私の胸元にやって来るだろう。私は彼らの帰還を祝う祝宴を催し、イスラエルの家族の心は高揚し、さらに多くの心を引き寄せるだろう。

20. もし、私の弟子の一人が、私への献身によって知恵を深めているのを見たら、彼を妬んではならない。むしろ、さらに彼を助けなさい。なぜなら、彼を通して私は奇跡を行うからであり、その恵みはあなたがた全員に及ぶからである。

21. 嫉妬は心を汚し、魂を病ませる。あなたがた全員が向上し、わたしと完全な交わりを持ち、調和のうちに生きることを、わたしは望んでいる。

22. あなたがたの理性を用いて、すべての被造物の定めの中にどれほどの正義が込められているかを理解しなさい。

23. あなたがたは無駄に生きているのではない。たとえ最も些細で奇妙な試練でさえ、わたしが定めた目的があるのだ。

24. わたしの律法について深く考え、それを学びなさい。祈りを通して、あなたがたの魂をわたしのもとへ導きなさい。そうすれば、わたしの言葉を聞くとき、魂はわたしの癒しの力に満たされ、あなたがたの病んだ体を癒すための癒しの香油を受け取ることができるだろう。

25. あなたがたが備えを整えれば、世界は新たな道を歩み始めるだろう。迫り来る戦争は去り、平和が訪れる。しかし、もしあなたがたが悪を行えば、その悪はあなたがた自身の中に反響するだろう。もう一度、私はあなたがたに告げる。「あなたがたが他人を測るその尺度で、あなたがた自身も測られることになる。」

26. さあ、私の言葉という糧を食しなさい。そして、食した後は、飢えた者たちを忘れず、彼らに糧を届けなさい。私の言葉から真髄を汲み取り、それを活用し、自らを強め、兄弟姉妹たちと分かち合いなさい。

27. あなたがたは、この地上の世界から、わたしが約束した平和の地を予感している。あなたがたは絶えず、その「約束の地」の光を見させてほしいと、わたしに願い求めている。 しかし、私

はあなたがたに告げよう。あなたがたはその地から遠く離れてはいない。そこへ至る道を進んでいるのだ。そして、その門を叩くまで、そう長くはかからないだろう。

28. その道こそが私の律法である。もしあなたがたがそれに従うならば、約束の都にたどり着くことを確信してよい。そしてそこでは、私があなたがたに約束したすべてのものを見つけるだろう。この旅路において、勇敢かつ高潔であり、信仰によって照らされ、そうして人生の道を幸福で耐えやすいものにしてほしい。

29. あなたがたは、運命の試練を経験してきた。 人々の利己主義や無情さを感じ、私に魂をさらけ出すとき、時には寒さに震えることもある。しかし、あなたがたは絶望していない。私があなたがたを見守っていること、そしてあなたがたの母であるマリアが、あなたがたが生き抜く夜の中の星であることを知っているから、信頼しているのだ。それゆえ、あなたがたは勇気づけられている。

30. この交わりの瞬間に、あなたがたは、悲しみに満ち、平安を必要としている子供たちの心を、静かに私に委ねてくれます。そして私は、あなたがたを私の恵みの管理者とし、*あなたがたが*それを家族やすべての人々に届け、与えることを学べるようにしたいのです。なぜなら、あなたがたは私の使者であり、隣人のための執り成し人だからです。

31. もしあなたがたが周囲の人々に受け入れられ、彼らがあなたがたの贈り物を受け取るならば、彼らを祝福しなさい。もし彼らが、私が彼らに送るものをどう活用すべきか分からないとしても、同様に彼らを祝福し、彼らの魂を、私が彼らを燃えるような信仰に満ちた心へと変えるまで、限りない忍耐をもってなだめ、目覚めさせることを私に委ねなさい。これが私の御心である。

32. わたしの臨在を信じる者たちよ、ようこそ。また、疑う者たちもようこそ。彼らは自らの魂に駆られてここへやって来たのだから。彼らの中にも、やがて信仰が芽生えるであろう。

33. この時代に、自らの灯をともすために奮闘しない者たちには、災いがある。彼らは滅びてしまうからだ。見よ。この時代は光の時代であるにもかかわらず、至る所で依然として影が支配している。

わたしの言葉によって、わたしが第三の来臨の際に自らを現すためにこの国を選んだことは、あなたがたも知っている。しかし、その理由については知らない。弟子たちに秘密を隠そうとはしない師が、あなたがたにとっては謎であった。あなたがたが質問して

くる人々に確信を持って答えられるよう、知っておくべきことはすべて明らかにしてやろう。

私は、この地球の片隅に住む人々が常に私を求め、愛してきたのを見てきました。彼らの礼拝の仕方は必ずしも完全ではありませんでしたが、私は彼らの意図と愛を、無垢と犠牲と苦痛の花として受け止めてきました。私の神性の祭壇の上には、この香りの満ちた花が常に供えられてきました。あなたがたは、この第三の時代にこの偉大な使命を果たすために準備されてきたのです。 今日、あなたがたは、私があなたがたの中にイスラエルの民を転生させたことを知っている。なぜなら、私がそれをあなたがたに啓示したからである。あなたがたは、あなたがたの本質に宿る種と、あなたがたを導く内なる光が、私がすでに第一の時代にヤコブの家に授けたものと同じであることを知っている。

34. あなたがたは霊においてイスラエル人であり、霊的にアブラハム、イサク、ヤコブの種を宿している。あなたがたは、人類に木陰と実をもたらすであろう、その祝福された木の枝である。

35. それゆえ、私はあなた方を「長子」と呼び、この時代にあなた方を訪ね、あなた方を通じて世界に私の第三の啓示を告げ知らせるのである。――「 の民、イスラエル」が、人類の中で霊的に復活し、人々が真の「肉における復活」を悟ることを、私は望んでいる。

36. そう、弟子たちよ、魂は死なない。その肉体の終わりが訪れたとき、魂はただあの世、すなわち宇宙へと飛び立つだけである。「肉体」もまた滅びるわけではない。それは朽ち果て、「自然の要素」と混ざり合い、そこから私はそれを新たに甦らせ、魂を吹き込むのである。

37. このようにして肉体は復活し、転生した魂たちは人間となって地上に現れる。それと同様に、わたしもイスラエルを地上で新たに復活させる。しかし、わたしはこの世で彼らに土地を与えることもなければ、部族に分けることもない。それどころか、彼らの中に受け継がれてきた分裂を解消するために、そのすべての構成員をひとつの家族とする。 わたしは、ルベンの子ら、ユダの子ら、アシェルとゼブルンの子ら、ナフタリやベニヤミンの子らを結びつけ、夫婦や家族を形成させる。このようにして、わたしはあらゆる分裂を消し去る。なぜなら、それは神に由来するものではないからである。

38. わたし以外に、誰がこれらの業を成し遂げることができるだろうか。主の選民に対し、カナンが永遠の故郷ではなく、あく

までその象徴に過ぎなかったことを納得させるという任務を、誰に委ねることができるだろうか？――それは、ただわたしだけである。なぜなら、あなたがたの魂を別の民族や別の国に隠したのはわたしであり、あなたがたに「*あなたがたこそがそれである*」と告げたのも、わたしだからである。 しかし、私が再びあなた方を遣わしたのは、創世の初めからあなた方に託されていた、この地上で成し遂げるのが極めて困難な大いなる使命を完遂させるためであった。これこそが、あなた方の十字架である。

39. また、あなたがたは、汚れを洗い流し、過ちを償い、負債を返済するために戻ってきたのである。あなたがたは、真の神を知り、律法を持っていた民であるにもかかわらず、かつてのように弱さや偶像崇拝に陥ってはならない。しかし、その苦しみによって、あなたがたは光と平安を求めるようになったのである。

同様に、あの初期の頃、小麦が不足し、それゆえにあなたの国でパンが不足していたとき、あなたは豊かなエジプトへと移住した。その後、ファラオの奴隷として、あなたは旅立ち、砂漠の苦難に立ち向かい、「約束の地」を求めた。それは、あなたが自由を切望していたからである。 現代においても、あなたがたは、この姿のわたしを求めるがゆえに、周囲の人々の嘲笑や怒りに立ち向かってきました。それは、あなたがたの魂が高揚と霊性を渇望しているからです。

40. あなたがたは「放蕩息子」である。その息子は、父の家に戻るたびに、自分を抱きしめるために広げられた父の腕と、祝宴の席に着かせるために用意された食卓に出会うのである。

41. あなたがたは長い旅路に疲れ果てて到着した。魂は汚れ、肉体は衰えていた。しかし、遠くから「町の門」が開かれており、あなたがたが到着するのを待ちわびて、私の愛と教え、そして私の新たな到来の恵みを授けるために用意されているのを見て、驚いたことだろう。

42. 今、かつてあなたがたの祖国であったカナンにおいて、わたしが自らを現すことは、わたしの御心ではなかった。もはやそれはモーセの時代でも、キリストの時代でもないからだ。今や、それは聖霊の時代である。

あなたがたは私の神聖な御言葉を聞いている。まことに、 あなたがたに告げよう。かつてあなたがたの私への信仰に火をつけた「最初の時代」のマナ、そして「第二の時代」に私が食卓であなたがたに差し出し、救いへの道を指し示したあのパンは、今この時代においても私が差し出す糧である。それによって、あなたがたの魂

は永遠の平安と永遠の光を得て、二度と飢えを感じることはないのだ。

43. あなたがたが保っている霊的な純真さを利用し、わたしはあなたがたの中から、わたしの代弁者、新たな預言者、そして弟子たちを選び出している。かつて、この民の中から族長、預言者、使者、そして使徒たちを立ち上がらせたのと同じように。今日、わたしは教えを通じて、あなたがたにわたしの律法を説く。 私は、この時代にどのように祈るべきか、どのように私に仕えるべきか、そして真の人間の兄弟姉妹であり、神の子となるためにどのように生きるべきかを、あなたがたに教えている。

44. そうして、わたしの新しい弟子たちが強くなったとき、わたしの御国から「新しいエルサレム」が人々のもとに降りてくる。そして、その破壊されざる城壁の前で、人間の知性と心から生じた悪、偶像崇拝、偽り、そしてあらゆる闇が粉々に砕かれるであろう。

45. あなたがたの父が、夢を通してヤコブに、その子孫を通じてすべての国々を祝福すると約束されたことを思い起こしなさい。あなたがたがその根源に由来するならば、私の平和をもたらし、それを同胞たちの心に届けることが、あなたがたの使命であることを悟りなさい。

46. 人々よ：この時代には、依然としてモーセの律法に従う者もいれば、キリスト教の時代に合わせて生きる者もいる。誰もが新しい時代の到来を予感したり、それを切望したりしているわけではない。 その理由は、すべての人が同じように前進し、成長しているわけではないからだ。それゆえ、わたしはあなたがたに言う。これらの教えを知り、良い羊飼いや良い種蒔き人のような、立派な働き人となりなさい。 土地を耕す人々を見よ。彼らはわたしの名において種を蒔いている。生育期が順調で、種が実を結べば、彼らは祈りを捧げ、創造主に感謝する。天候が厳しく、種がダメになってしまったとしても、彼らは来年の到来を心待ちにし、 再び同じ熱意をもって種を蒔き、前の種を補い、その実りを何倍にも増やすまで続けるのである。 もしあなたがたがこの時を活かし、希望と信仰に満ちて人々の心に種を蒔きに出かけるならば、私の恵みの露が、私の力によって不毛の畑を肥沃にし、あなたがたが愛と善意をもって蒔いた種は芽吹くであろう。 私はあなたがたの種まきを守り、私の御霊の輝く太陽が穂を黄金色に染め上げ、あなたがたの収穫が、主への賛美と称賛の歌声の中で刈り取られるようにする。

47. この国を見守り、嵐から守っているのは私であることを心に留めなさい。私はこの国を平和のうちに保っている。なぜなら、私の高き御計画において、私はこの国が、この時代に人間的かつ霊的な意味で偉大な使命を果たすよう定めたからである。

48. 混沌は訪れる*であろう*。なぜなら、地上に権力者や帝国が存在する限り、権力争いや敵対関係、戦争も存在し続け、平和は訪れないからである。

49. 人々の間には隣人愛がなく、わたしの律法は守られていない。真の兄弟姉妹も、親も、子も存在しない。それゆえ、混沌が人類を脅かしているのだ。

50. 私がこれを告げるのは、私から悪が生じることは決してないからだ。混沌は、良心に耳を傾けず、邪悪な囁きに導かれてしまった人間の、内面の備えの欠如から生じるのである。 しかし、あなた方は――その硬い心が揺さぶられるために、これらすべての試練が起こるのを待っているのか？――いいえ、わが子らよ、今すぐ祈り、たゆまず働き、功徳を積み、自らを新たにしなさい。これがあなた方の使命である。世界の平和のために「見張れ」、祈りによって私の祝福を引き寄せ、隣人たちの模範として私の律法に忠実であり続けなさい。

51. わたしに従う用意のある者は皆、わたしの教えに与るものであり、弟子と呼ばれることになる。

52. わたしを取り巻く魂の総体は、イスラエルの民の一部を成している。人類における美徳の復活は、彼らの従順にかかっている。今日、わたしは人々へ語りかけるためにこの民をわたしの代弁者として用い、彼らから義務を果たした最初の実を受け取った。

53. あなたがたは、私が自分の業のために戦士として育て上げた最初の者たちである――「大いなる都」の最初の礎石を堅固な大地に据えるために、熱意を持って働かなければならない者たちだ。あなたがたは、私への信仰と信頼を強めなければならない。 私は1950年の最後の日まで、私の代弁者たちを通じて、たゆまず であなたたちに語りかける。その後、あなたたちは人類の中に留まり、あなたたちの権威の証しを示すことになる。

54. わたしは、霊的生活の奥義を探求したいという渇望に駆られ、それを実現できずに苦悩してきた科学者たちを、あなたがたの元へ遣わす。彼らは、あなたがたがこの国に根を下ろし、わたしの啓示を授かり、かつわたしから「油注ぎ」を受けていることを知っているからこそ、あなたがたを訪ねてくるのだ。 彼らはあなたがたの元で、熱心に私の言葉を心に受け入れるでしょう。そして、

あなたがたは、彼らに対してどのように振る舞うべきかを直感的に知るでしょう――高慢にならず、柔和に、私の弟子たちにふさわしい態度で、ペトロが説教したように、あるいはヨハネが語ったように。 あなたがたも同様に、準備を整え、私の助けを渇望して天に目を向けるならば、私はあなたがたを通して語り、彼らの心に届くでしょう。私に仕えた場所や人々を知りたいという渇望から、彼らはあなたがたを訪ねてくるでしょう。しかし、あなたがたは彼らに、私の教えの真髄だけを伝えるようにしなさい。 彼らの多くは改心し、あなたがたの言葉の真理によって、この民の一員となるでしょう。

55. この民の歩んできた道は長いものであった。私は常に、目標を指し示し、律法の守護者となるべき、力強く熱心な霊的存在たちを、その中心へと送り続けてきた。 しかし、三つの時代を通じて試練、苦難、そして闘争によって鍛え上げられてきたこの民――時には強く、時には弱く、ある時は自由で、またある時は囚われ、時には理解されず、その後愛され認められてきた――は、常に私の特権を享受してきた。

56. 正義をもたらしたのは、わたしだけである。あなたがたはカルヴァリーの丘で、最も崇高な愛の証を受け取ったが、それに値するときには、わたしの正義の厳しさもまた受け取ったのである。 あなたがたは、この三つの時代において、わたしを受け入れるよう定められていた。今日、そして第二の時代と同様に、わたしは謙虚な者、相続権を奪われた者、そして正義を渇望する者たちを探し求め、彼らの魂を奮い立たせ、弟子や使徒としての地位に就かせた。

57. あなたがたは、人間が物質的に発展し、自らの知識を誇り、わたしを知らない時代に生きている。人間は自らの霊的な使命を忘れ、自然を軽んじている。その自然とは、私が、人間の身体の生命と活力を与え、魂を高揚させるために、人間の奉仕へと、またその知性の経験の範囲内に置いたものである。 人間は、自分の中に最も大きな価値を持つもの、すなわち私が常に訪れてきた理由そのものである、私に属する自分の魂を認識していない。しかし、地球の様相が変化していくのと同様に、 、人間もまた私を認識するようになるだろう。今日なお物質的なものである人間の理想は、霊的な目標へと変容していく。すべての人間は試練にさらされており、その試練の中で魂は浄化され、屈服していくのである。

58. 1866年以来、人類は新たな時代へと突入し、私はその時代に向けて選ばれた者たちを徐々に準備してきた。この民は使命を

授かり、私は彼らに霊的な賜物を確認した。 私は、すべての被造物に対し、その者が属する部族と、その者特有の使命を明らかにした。私は、聖書に記されている通り、肉体に宿る者たちと霊に宿る者たちという、私の霊的な軍勢を一つに結集させた。

59. 私は、各共同体ごとに代表者がいるように指導者を任命し、民が強くなるために、すべての者が互いに団結すべきであることが私の意志であると彼らに告げた。

60. 私は、私によって訓練された被造物たちに、人間の言葉で人類に私を啓示する「代弁者」としての任務を与え、私の教えが広まるよう、その数を増やした。私は、「働き手」という集団を創り出し、霊界が人間と接触し、癒やしと助言を通じてその慈悲を現すようにした。

61. あらゆる集会所において、指導者の補佐となり、指導者と任務を負う者たちの間の仲介者となり、また民の信頼される代表者とならなければならない者を、「礎石」と呼ぶことが、私の意志であった。

62. 私は預言者を任命し、彼らを訓練した。それは、民が目を覚まし続けられるよう、民によって解釈されるべき啓示を受け取らせるためであった。

63. 私は、記録に携わる者たちに「金のペン」という使命を与えた。私は彼らの知性を鍛え、かつて他の時代にも同様に書物を見守ってきた霊的存在たちを彼らの守護者として遣わし、私の言葉が印刷され、永遠に保存されるようにした。

64. 私は、会衆の秩序を監督する「守護者」を養成し、彼らを「柱」と呼んだ。

65. 私はこれらすべての被造物に啓示を与え、私の霊感はその者たちに注がれている。今、私はこれらの職務を授かった者たちすべてに、その職務が何を意味するのかを理解しているかどうかを問う。

66. 私は、あなたがたの準備のためにさらに三年間を与える。その後、これらの職務は一つに統合され、あなたがたは皆「神の畑の働き人」と呼ばれるようになり、私の言葉を聞かなかった者たちすべてが 、あなたがたに託され、あなたがたが彼らを教え導くことになる。その時、あなたがたはもはや弟子ではなく、師となるのである。

わが平安があなたがたと共にありますように

教え 184

1. 人類よ、あなたは闇へと身を投じてしまった。しかし、今やあなたが光へと昇りつめる時が来た。

2. わたしは、あなたがたを無気力から引きずり出すために、エリヤを遣わす。あなたがたが目を覚ましていなければ、どうしてわたしの臨在を感じることができるだろうか。

3. 私が人間としてあなたがたの世界に来ることを期待してはならない。その教訓は終わったのだ。とはいえ――私は霊としてのみあなたがたと共にいるが、それが、私が今日まで自らを現してきた方法よりも、より高次の啓示の形態であることを、あなたがたに証明してやる。それは、私があなたがたを、過去の人々よりも霊的に優れた存在であると見なしていることの証である。

4. 私があなたがたの中に住むために肉体は必要としないし、私の声が聞こえるようになるために、それが人間の声になることも必ずしも必要ではない。それでもなお、あなたがたは私を、師として、裁き主として、医師として、制限なくあなたがたのそばに迎えることになる。

5. あなたがたの魂には、それを通じて私のメッセージを受け取るための多くの能力と感覚が備わっている。しかし、あなたがたは今日に至るまで、自らの本質に存在するそれらの能力を知らないため、肉体の目で見、耳で聞くことしかできないと信じている。
さて、あなたがたが寝室の静寂の中で私の存在を感じ、祈りの瞬間にインスピレーションの光に満たされるのを感じるとき、私はこの考えがいかに根拠のないものであるかを証明して見せよう。

6. あなたがたは、まだ光を持たない魂である。しかし、私は、インスピレーション、崇高な思想、高潔な感情、そして善行という形で、あなたがたから光の火花が放たれるように導くであろう。

7. あなたがたは、墓の中のラザロのように、霊的な命においては死んでいる。しかし、わたしの呼びかけによって、あなたがたは立ち上がり、わたしに従い、わたしの真理を証しすることになる。

8. 地球上の諸民族を日々震撼させているそれらの出来事は、悔い改め、祈り、記憶、そして清めへとあなた方を呼びかける正義の呼びかけである。しかし、この試練の時は、人々の頑なさと愚かさが和らぎ、彼らがその傲慢さと不敬虔さを捨て去るまで続くであろう。 地上で聞こえるものが常に正義の呼びかけであるとは限らない。なぜなら、後に人類が清められた時には、人々を奮い立たせ

るのは、まったく異なる出来事となるからだ。それらは神聖な霊感や霊的な啓示であり、自然の啓示となるだろう。あるものはあなたがたの魂を完成させるためであり、またあるものはこの世でのあなたがたの人生を豊かにするためである。

9. 人々がより多くの恵みを得ることができるのは、どのような賜物、あるいは美徳によるものか、ご存じでしょうか？――それは隣人愛です。 なぜなら、それは人々の心を高潔にし、魂が隣人に身を捧げる機会を与え、信仰の種を最も多く実らせるものとなるからです。というのも、「野原」や「畑」は、悲惨、苦痛、貧困、そして病に満ちているからです――愛を渇望し、花開くためにただ一粒の種とわずかな雨を待っている畑なのです。

10. 現在、地上でわたしの言葉を説く者たちにとって、罪の蔓延や、敵意や情欲の激しさを食い止めることが不可能に思えるとしても、わたしにとって、人々が善と正義へと立ち返ることは不可能ではなく、困難ですらない。

11. 大いなる民族を統治する者たちを見よ。彼らの法律や教義の力を知っているか。科学者たちが、軽率かつ傲慢に自然の神秘に踏み込んでいる姿を見よ。 まことに、あなたがたに告げる。彼らは、その傲慢さ、能力、そしてすべての知識を携えて、やがて私の前に謙虚にひれ伏すことになるだろう。なぜなら、あらゆる人間の業は、やがてその限界に達し、その時、人々は自らの意思で現実を直視せざるを得なくなり、自らの行いの影響の大きさ、過ちの重さ、そして迷いの程度を認識せざるを得なくなるからである。

12. 私は、彼らがしたことがすべて不完全だと言いたいわけではない――いいえ。しかし、彼らが同胞のためにもたらす善はごくわずかであり、行う善行も極めて少ないため、正義の天秤においてより重くのしかかる不正や悪を、私の律法が裁くほうがよいのである。

13. 人類には、その業を完結させ、神の裁き主が責任を問う際にその裁きに答えるための、わずかな時間がまだ与えられている。

14. その間、わたしの光は前進し、広がり、至る所、そしてあらゆる魂の奥深くまで浸透していく。

15. 私の啓示の時が到来した暁には、私の印を授かった者たちが皆、すでに備えを整え、目を覚まして祈り、私の到来の刻を待ち望み、私があなたがたに啓示するものを聞くために、一つの体、一つの意志を形成しているべきである、というのが私の意志であった。しかし、私はあなたがたの中に真の兄弟愛を見出せなかった。

16. わたしの教えを受けたこの民は、同胞を教育し、彼らを師とすべきである。

17. しかし、まことに、あなたがたに告げる。私は、地上に生きるあなたがただけを啓発するために来たのではなく、あなたがたには知られていない他の生命の世界で道を失ったすべての魂をも呼び寄せたのである。

18. 霊的存在たちが、私の使命を果たすためにどれほど献身的な姿勢を見せてくれたことか！肉体から解放された彼らの魂は、この時代に与えられた任務を果たす準備を整えることが、より容易であった。

19. 長い贖罪の期間を経て、過ちや過失から解放された状態で、私を待ち望んでいた者たちはどれほど多かったことか。 そして、私が『七つの封印の書』のうち、第六の時代に対応する部分を彼らに啓示したとき、彼らの魂は高揚し、その高揚の中で、彼らはあなた方を奮い立たせ、あなた方の道の障害を取り除き、弟子としての名誉ある地位をあなた方に与えたのである。

20. 神の教えを理解するためには、自らを新たにし、律法を深く探求することが必要である。それによって、あなたがたはわたしの言葉を理解するようになり、人間の科学では到達し得ない偉大な啓示を受けることになるだろう。

やがて、人間が頭を垂れ、私があなたがたに求める敬意と愛をもって、その父を愛する日が来るでしょう。

私の啓示は、誰にでも理解できるものである。私は、あなたがたの脳の理解力に合わせて語ってきた。なぜなら、私の知恵のすべてをあなたがたが把握することはできないからだ。私が教えを伝えたこの簡潔な言葉に、あなたがたの知性から生まれたものを何も付け加えてはならない。また、これを他の言語に翻訳する際には、その神聖な意味合いが失われないよう注意せよ。

21. この困難な使命に取り組む際、あなたがたの脳が、私の光をその明瞭さのままに映し出す澄んだ鏡となるよう、準備を整えなさい。

22. わたしのそばで生きなさい。わたしは命であり、すべての被造物の始まりであり、終わりである。わたしが、わたしのような使命をあなた方に託したのは、あなた方を愛しており、あなた方にわたしを手本としてほしいと願っているからである。

23. 人々の心を救い、奇跡を行い、互いに愛し合いなさい。

24. もし、十字架を背負うために必要な信仰と心の強さを自分の中に感じるなら、施設へと赴き、わたしの言葉を伝えなさい。

広大な国々を巡り、海を渡りなさい。わたしがあなたがたに先立って進み、道を整えておく。

25. 警戒しなさい。羊の皮を被った多くの狼があなたがたのところにやって来て、道を外れさせようと惑わそうとするからだ。しかし、目を覚ましていれば、彼らの心の企みを見抜くことができるだろう。

26. もし、苦しんでいる人々があなたの元へやって来て、その涙をぬぐってほしいと願うなら、そうしてあげなさい。あなたの中にあるすべての善を注ぎ出せば、やがて来世において、この世で示したものよりも大きな憐れみを受けることになるだろう。

27. 愛する民よ、あなたの祈りは、かつて最初の時代に神殿からあなたの詩篇が私のもとへ届いたように、私のもとへと昇っていく。しかし、その時代は過ぎ去り、あなたの魂は成長した。エルサレムの偉大な神殿はもはや存在しない。私の言葉が成就し、その物質的な姿からは、石が一つも残らなかったからである。

28. 契約の箱も、祭壇の上の十戒の石板も、もはや存在しない。 あなたがたの霊は、かつて信仰と理解の助けとなり、わたしを礼拝することを教えてくれた形や象徴の向こう側にある真理を求めている。しかし今日、その意味が霊によって理解された以上、それらはもはや正当性を失ったことを、あなたがたの霊は悟っている。それらの象徴は、主が人々に神の教えを解き明かすために用いた、単なる物質的な対象に過ぎなかったのだ。

29. したがって、弟子が基本的な教えを理解するようになったならば、より高次の霊感と、より霊的な礼拝への渇望をもって高みへと昇るために、古い礼拝の形式を忘れてしまわなければならない。

30. 覚えておきなさい。私を体現する何らかの象徴を目の前に置かなければならない限り、あなたがたは神聖な霊と直接つながることはできない。しかし、あなたがた全員が、この「霊から霊への対話」を用いるよう召されていることを認識しなさい。

31. この人生においてあなた方を囲み、包み込むすべてのものは、永遠の命の写しであり、理解できるよう物質的な形や物を通じて説明された深遠な教えである。

32. あなたがたはまだ、その素晴らしい教訓の核心に到達してはいません。そして、人間は、地上での生活をあたかもそれが永遠であるかのように捉えてきたため、繰り返し誤りを犯してきました。 人間は、その外的な形に目を向けるだけで満足し、そこに含

まれる神の啓示――すなわち、全創造物に宿る本質と真理――をすべて拒んできたのである。

33. この「書」がその光を魂の中に残し、最後のページに至るまで理解されたとき、人間は地球を去り、その魂は新たな住処へと旅立つ。そこでは、人間としての生涯の道のりで学んだすべてのことを、 （真に）理解し、活用することになるだろう。そうして初めて、物質世界での生活を通じて明らかにされた多くの教えを、彼は理解できるようになるのだ。

34. あなたがたの師が、これほど深い愛を込めて捧げてくださったこれらの言葉をよく学び、その光によって自らの行いを吟味しなさい。そして、もし自分が立ち止まってしまったと気づいたなら、その原因を深く探り、将来それを避け、成長の道を常に前進し続けられるようにしなさい。

35. 私が地上の民に命じた使命は、偉大であり、かつ極めて繊細なものである。それゆえ、私はあらゆる時代に彼らを訪れ、私の言葉によって彼らを鼓舞し、律法の内容をさらに少しばかり明らかにしてきたのである。

36. 愛と善と正義の律法こそが、私があらゆる時代に彼らに遺してきた霊的な遺産である。教訓を重ねるごとに、私は人類に、その律法がただ一つの戒め、すなわち「愛」に集約されるということを理解させてきた。 命の創造主である父を愛し、父の一部である隣人を愛し、主が創造し、命じられたすべてのものを愛しなさい。

37. 愛は、知恵、偉大さ、力、高揚、そして生命の源であり、始まりであり、種である。これこそが、魂の創造主が示した真の道であり、それによって魂は段階から段階へ、住まいから住まいへと、私への接近をますます強く感じることができるのである。

38. もし人類が、太古の昔から、偶像崇拝的な儀式や宗教的狂信に陥る代わりに、霊的な愛を崇拝の対象としていたならば、今日、人々の恐怖と悲惨によって涙の谷と化してしまったこの世界は、 平和の谷となっていたはずであり、そこへ魂たちは功徳を積むために訪れ、この世の後に、魂がその道のりにおいて到達すべき霊的な住まいへと至ることができたであろう。

39. まことに、わたしはあなたがたに告げる。人類の歴史のどの時代においても、人間がわたしの律法を知ることを欠いたことはなかった。なぜなら、その精神である神聖な火花から、魂の中に光の火花、知性の中に直感、あるいは心の中に予感といったものが、決して欠けたことはなかったからである。 それにもかかわらず

、あなたがたの魂は、目の上に暗い覆いをかけられたまま、あの世へと戻っていった。そして、わたしが告げる。この試練の谷であるこの世での生活が内包する教訓を活かせなかった者は、償いを完遂するため、そして何よりも学ぶために、再びこの世に戻らなければならないのだ。

40. あなたがたが抱いている、地上での人生の意味、魂とは何か、そして霊界とは何かという考えは誤りである。

信者の大多数は、ある程度の正義感を持って生きれば、あるいは人生の最期に犯した過ちを悔い改めれば、自分の魂は確実に天国に行けると考えている。

しかし、人間にとって非常に心地よいこの誤った考えこそが、 、人間が*生涯を通じて*律法を堅実に守り通さない原因となっており、その結果、魂がこの世を去って霊界にたどり着いたとき、自分が想像していたような奇跡を目にすることも、当然の権利だと信じていた至高の至福を感じることもできない場所にたどり着いてしまったことに気づかざるを得なくなるのである。

41. 天国に行けると確信していたのに、その代わりに混乱ばかりを目の当たりにした者たちに、何が起こるのか、皆さんはご存知でしょうか？ 彼らは、肉体という拠り所を失ったため、もはや地上に居場所がなく、また霊的な光の領域が存在する高みへと昇ることもできなかったため、自覚することなく、人間的でもなく、深く霊的でもない世界を自ら作り出してしまったのです。 すると、魂たちは自問し始める。「これが天国なのか？　*これこそが*、長い間地上をさまよった後、神が魂たちのために定めた住まいなのか？」

42. いいえ――と他の者たちは言う――これは、光と愛と清らかさのみが存在しうる「主の懐」ではあり得ない。

43. 次第に、思索と苦痛を経て、魂は理解に至る。魂は神の正義を理解し、自らの精神の光に照らされて過去の行いを振り返り、それらが貧弱で不完全であり、自分が信じていたような報いを受けるに値するものではなかったことに気づくのである。

その後、この内省に基づき、謙虚さが現れ、かつて通ってきた道へと立ち返り、汚点を消し去り、過ちを償い、父なる神の前で真に価値ある行いを行いたいという渇望が生まれる。

44. 人類にこれらの秘密を明らかにし、物質界での生活が、人間が自らの魂のために功徳を積むための機会であることを理解させる必要がある―― その功徳によって、より高い霊性を持つ領域で生きるにふさわしい存在へと高められ、そこで再び功徳ある行い

を行わなければならない。そうして初めて、取り残されることなく、段階から段階へと昇り続けることができるのだ。なぜなら、「父の家には多くの住まいがある」からである。

45. あなたがたは、父の永遠の律法が教えているように、愛によってこの功徳を積むことになる。そうして、あなたがたの魂は、完全性へと至る階段を一段ずつ登り進み、その過程で、天の御国――すなわち、魂の完全性そのものである真の天――へと続く狭い道を学ぶことになる。

46. 平和と愛の道を見出そうとして、わたしのもとに来る者たちよ、ようこそ。わたしはそうした人々を歓迎し、彼らに、霊的な使命が待ち受けていることを悟らせる。

47. 弟子たちよ、あなたがたはわたしと共に戦い、師のそばで働き、そうして山頂へと導く道を歩んでいくことになる。あなたがたは謙虚にわたり、父にこれやあれの賜物を与えてほしいと願うのではなく、父がそれぞれの子供たちのために用意されたものを喜んで受け取るために、わたしのそばに寄り添うのだ。

48. あなたがたは魂の中に光を持ち、さらに、あなたがたの経験を実りあるものにしてきた試練の道をすでに大きく進んできた。それゆえ、称賛され、仕えられたいがために偉くなりたいという虚栄心に、もはや支配されることはない。

49. わたし以外に、魂を統治し、その運命を導くことのできる者がいるだろうか？――誰もいない。それゆえ、支配欲から主の座を奪おうとした者は、自らの性向、好み、権力への執着、そして虚栄心に応じて、自分自身のための王国を築き上げた――それは、物質、低俗な情欲、そして卑しい感情に満ちた王国である。

50. あなたがたは霊を服従させることはできない。なぜなら、霊の中には完全な正義があるからだ。魂においては、清らかさだけが崇高な感情を支配し、善だけが魂を動かす――一言で言えば、魂は真実と善のみを糧とするのである。

51. それゆえ、おお、弟子たちよ――たとえあなたがたが豊かな賜物に恵まれていると感じ、誰もが持っているわけではない財産を所有していることを理解していたとしても、誰に対しても自分の方が上だと思ってはならない。あなたがたが持つすべてのものを、私の大義のために捧げなさい。なぜなら、その大義は愛に満ちているからであり、あなたがたは、その大義に生涯を捧げ、それによって隣人のために役立つべきだからである。

52. あなたがたが築き上げた虚栄の王国を打ち砕きなさい。人間の情欲を制し、愛と光に満ちた、あなたがたの魂の最も内なる

核心を現しなさい。それこそが、あなたがたに知恵を与えるものである。

人生のあらゆる行いにおいて、イエスを模範とするよう努めなさい。*イエスは*、過ちを贖うためでも、父なる神の裁きを受けるためでもなく、この地上に遣わされたのです。今日、再びあなた方に語りかけるキリストは、人々の心の中に降りてきて、そこに愛と正義と真実の御国を築くために来られたのです。 キリストは、人々に物質主義的な教えや不公正な律法をもたらしたわけではありません。人々の貪欲を煽ったり、情欲を助長したりするために来られたのでもありません。キリストは、魂の道徳そのものである「愛」の教えをもたらされたのです。それゆえ、キリストは群衆に向かってこう言われたのです。「わたしの王国はこの世のものではありません。」

53. あなたがたは心の奥底で、偉大な霊的存在たちがどうして反逆し、神に逆らおうとするのか、と私に問いかけている。 それについて、私はこう言おう。私に反旗を翻す者たちは、まだ真の意味で偉大ではない。彼らは、自分の能力の一部を開花させることはできたものの、他の部分の発達を怠ってきた、不完全な霊的存在である。彼らの知性は発達したが、魂の崇高な感情は発達していないのだ。

54. それゆえ、かつて私が「人はパンだけで生きるものではない」と指摘したのです。なぜなら、地球が与える地上の事柄に関する教えに加え、人間が完全に完成するためには、私の教えによってのみ得られる霊の光が必要だからです。

55. 人間よ。何世紀にもわたり、あなた方は地上をさまよい続け、常に情欲という重荷に押しつぶされてきた。しかし、その終わりが来た。すでにあなた方は、霊的な解放の時代に入っている。この時代において、魂は肉体―それは魂の僕となる―を支配し、魂は無限をその住処とするのである。

56. まもなく、あなたがたは、自分たちがどこから来て、どこへ向かうのかを知るようになるだろう。そうして初めて、この世があなた方の生活の中で占めるべき位置を正しく理解し、魂があなた方の存在の中で占めるべき位置を認めることができるようになるのだ。

57. 私が今、あなたがたに与えているこの言葉は、あなたがたに励みを与え、努力を促し、未来に希望の光を見出せるようにするための、預言的な性質を持つものである。

58. この世を歩み、苦しみゆえに涙を流している者たちは、私が彼らを見捨てたなどと思ってはならない。私は彼らの忍耐を試しており、彼らが清めを達成し、それによって私の弟子たちの数を増やすのをただ待っているのだ。

59. 霊化が人々に訪れ、彼らの疑いを払拭し、彼らを確かな道へと立ち返らせ、 の真理の光を彼らに照らし出すだろう。その時、人々はこう言うだろう。「主が『すべての目がわたしを見る』と仰せになったとき、主の御言葉は成就したのだ」と。

60. あなたがたは、この時代の苦痛が極めて大きいことを知らなければならない。なぜなら、人間の魂は今、あなたがたの心が知る由もない負債を償い、長い間あなたがたの中にあった汚れを消し去ろうとしているからである。あなたがたは、自分たちが何者であるか、また、歩んできた長い道のりにおいて、自分の行いがどのようなものであったかを知らない。 しかし今、この啓示を知っているあなたがたは、忍耐と受容の心で身構えなければならない。なぜなら、それこそがあなたがたを高め、浄化を達成する助けとなるからだ。

61. 私は、現時点では、あなたがたが自分の過去を知る必要はないと断言する。あなたがたが、かつて他の時代に過ちを犯し、今それを償わなければならないという直感や予感を持っていれば、それで十分なのである。 その一方で、私はあなたがたに、私の言葉を通じて未来の多くのことを知ってほしいと願っている。この光は、あなたがたの心に、魂と肉体が共に高みへと発展していく、平和と光に満ちた人生に到達するという希望を芽生えさせるからである。なぜなら、肉体と魂の間に調和が支配する時代が来るからだ。

62. わたしの光はあらゆる道を照らし出し、宗派や宗教は、ただ一つの道、ただ一つの法、すなわち神聖なる霊の愛の法を見出すことになる。これこそが、すべての魂を一つに結ぶ、全世界を包み込む教えとなるのだ。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 185

1. あなたがたは、人間の知性を通じて私の教えを聞き取っているにもかかわらず、この教えを授けているのが私の霊であると信じている。それゆえ、私はあなたがたを祝福する。

2. あなたがたは、言葉を伝える者の不完全さを気にかけず、ただ神聖な意味を理解することのみを重視している。このようにして私の言葉を研究する者たちこそが、真理を発見する者たちである。*彼らは*、明日、人々に私の教えを説くために旅立つ弟子たちとなるだろう。彼らは、過去の聖典の解釈において誤りを犯していた者たちに、理解をもたらすことになるだろう。 なぜなら、私の啓示の真理を発見するためには、言葉の物質的な意味に固執するのではなく、真理であり生命そのものである本質である霊的な意味を求めなければならないからである。

3. それゆえ、わたしは、人間の知性を媒介としてわたしの言葉を授け、言葉の外見的な形式にとらわれるのではなく、その核心に深く入り込んで真意を見出すべきであることを示すことで、この民に試練を与え、同時に深い教訓を与えたのである。 この指示によって、この民は、私の以前のメッセージの解釈を求める人々に、あらゆる教え、聖句、あるいはたとえ話の真意――唯一無二の真理――を霊的に見出す方法を説明することができるようになるだろ。

4. 私はこの民の中に、魂と肉体の準備が整えば整うほど、伝達者を通じた私の教えがより豊かで明瞭になることを理解した者たちも見ています。ああ、もしこのすべての人々が、私の恵みにふさわしい者となる方法を真に追求するならば――私の啓示は、なんと偉大で完全なものとなることでしょう！

しかし、私は今なお、多くの心が、私の存在を信じられるようにと、外的な儀式を追い求めているのを見ている。彼らは、自分の魂が自由に高揚することを許すどころか、物質的な祭壇のそばに魂を縛り付け、無益な儀式で魂を散漫にし、慣れ親しんだ伝統によって魂を疲れさせていることに気づいていないのだ。まことに、私はあなたがたに告げる。あなたがたにとって、そのような時代は今や終わったのである。 長い間、あなたがたは教会の輝きに感覚を癒やし、長い間、同胞たちの芸術作品を賞賛してきた。 今、あなたがたはこれらすべてを背後に残さなければならない。そうして初めて、あなたがたの魂は、本来与えられている素晴らしい生命へと至り、祈りの瞬間にその光に満たされ、 の恍惚の中で受け取るあらゆる喜びと霊感とを、その肉体へと伝えられるようになるのだ。

そうして初めて、あなたがたは、この世が神性を表現しようとしてきた形式がいかに貧弱で不器用であったかを自覚するようになるだろう。

5. あなたの魂は幼年期から青年期へと移行した。それゆえ、その人生には変化がもたらされなければならない。

6. かつては、たとえそこに多くの無知や不完全さが含まれていたとしても、私はあなたがたの精神が私に捧げたあらゆる供え物を受け入れていた。しかし今日、私のもとへ届くことができるのは、純粋で、誠実で、真実なものだけである。

7. あなたがたが時折、私に捧げる庭の花々がどれほど美しいか、お分かりでしょうか。まことに、私はあなたがたに告げます。この時代においては、その捧げ物さえも受け取ることはできません。なぜなら、それらの花はあなたがたの業ではなく、私の業だからです。しかし、あなたがたが私に捧げるべきものは、あなたがたの心の霊的な花、すなわち、あなたがたの善行、清らかな祈り、そして美徳なのです。

8. もはや自分自身を欺いてはならない。深く霊的なものであるべきものを、外見的なもので代用しようと試みてはならない。限界を打ち破ることを恐れてはならない。真実に立ち向かうことを恐れてはならない。天国は、勇敢で情熱に満ちた者たちだけのものなのだ。

9. もしあなたがたが、心の中からあらゆる狂信や偶像崇拝を排除し、霊から霊へと祈ることを学んだなら、あなたがたは主の真の祭壇――この世のものではないその祭壇――にたどり着くことになるでしょう。 その祭壇の上で、あなたがたは、善行という捧げ物をささげることができるでしょう。それは、私の目には、あなたがたの庭の花よりも美しいものとなるでしょう。なぜなら、あなたがたの魂の善行は、決して枯れることがないからです。

10. 人々の群れよ。心を開き、私の恵みの露がそこに注ぎ込むようにしなさい。私は、この民が計り知れないほど広大な庭園のようになることを望んでいる。そこでは、思考と心と魂の最も美しい花々が咲き誇り、それらは私が慈しみ、育てていくものとなるのだ。

11. 人々よ：私が御言葉を明らかにするその明快さをもって、祈りの形や捧げ物についてあなたがたに語る時――私があなたがたのこれまでの信仰の確信から引き離すからといって、痛みを感じるか？――「いいえ、師よ」と、あなたがたは私に言う。

12. その理由は、私の言葉の中に、いかなる心にも曖昧さが生じることや、いかなる心も悲しむことを許さない、癒しの薬と光が存在するからである。

13. あなたがたが、人々の目を光へと開こうとする時、同じように彼らに語りかけてほしい。私があなたがたに対して示したのと同じ明快さと、 な愛をもってそうすれば、あなたがたは人々の心に痛みを残すことはなく、むしろ平安と光をもたらすことになるだろう。

14. 神の約束を果たすため、私はこの時代にあなたがたに自らを現した。この言葉の核心に込められた真意において、私は完全にあなたがたと共にあった。この真意を見出した者は、私を感じ取った。一方、私の啓示の表層的な側面を判断することにばかり気を取られていた者たちは、私の真理を見出すことはできなかった。

15. 私の言葉を聞いて深い驚嘆に包まれた者たちがいる一方で、他の人々はほんのわずかな戦慄さえ感じず、私の臨在に気づくことも、*私を*聞いたことにも気づかなかった。

16. かつて私の言葉が、これらの声の媒体を通じて聞かれなくなったとき、この時代の終わりを嘆く多くの心があるだろう。同様に、私を聞いたにもかかわらず、自分たちが持っていた善に気づかず、それを活用する方法を知らなかったために失ってしまった者たちもいるだろう。

17. この言葉が多くの場所で広められる時が来るだろう。 しかし、その時は、この言葉を聞き、理解し、信じた者たちの証しによって成し遂げられる。そして、あなたがたは、私の教えを聞く恵みに恵まれなかった多くの人々が、その言葉が秘める神聖な真意を、自分たちの内なる宝として発見し、確信と信仰に満ちてこう叫ぶのを目撃することになるだろう。 「これは師の言葉だ！」

18. あなたがたは、私のメッセージに心を揺さぶられ、至福のあまり涙を流す周囲の人々を見るだろう。そして、彼らが私の選ばれた者たちの一員ではなかったことを嘆く姿を見るだろう。 その時、あなたがたは、私がこれほど長い間あなたがたと共にいたにもかかわらず、あなたがたの心が、あなたがたの*証し*によってのみ、周囲の人々の心に芽生えるのを見ることになるであろう信仰と愛を示さなかったことを、悔やむことになるだろう。

19. その人々の群れの中に、霊的なものを直感的に捉える人々、霊感を受けた人々、霊と霊との対話を予感する人々、預言者たち、そして霊の賜物と能力を十分に開花させている人々を見出すだろう。

20. あなたがたは、私が世界のすべての民族に私の言葉を与えているとでも思っているのか？――いいえ、この私の新たな啓示においても、過去の時代の啓示と同様である。かつて私はただ一つの民族にのみ自らを現したが、その民族には、 へと旅立ち、福音を広め、私のメッセージの中で受け取った種を蒔くという使命が課されていたのだ。

21. 私の種は、他の国々において、ただ私の使徒たちの証しによってのみ、最大の力で芽吹いたことを思い起こしなさい。

22. 愛する民よ、よく考えてみよ。他の民族がそれらの証言を信じたのは、それを語った者たちが、自分たちの心が許す限りの愛と誠実さを尽くしてそれを行ったからである。 私がこれを告げるのは、もしあなたがたが、世界があなたがたを通して私を信じることを望むならば、あなたがたは、愛と謙遜と霊性と信仰において、あの使徒たちに倣うよう備えなければならないからです。そうすれば、世界はこの教えを真理と見なし、私の言葉は人々にとって聖なるものとなるでしょう。 そうすれば、あなたがたは、人々が私の言葉によって編纂された聖書を熱心に読む姿を見ることになり、すべての民族がそれを知ることができるよう、人々がそれを様々な言語に翻訳していく様子を目の当たりにするでしょう。

23. あなたがたは、この地の人々がこれほど慣れ親しんできたこの御言葉が、それを最も多く耳にしてきた者たちによってこれほど軽んじられてきたにもかかわらず、明日には、地上で多くの苦しみを味わっている人々にとって、まるでオアシスのようになるのを目にすることになるでしょう。 真理と愛と正義への飢えと渇きを抱く者たちの人生において、この言葉がいかに癒しと命、糧と光となるかを、あなたがたは目撃することになるだろう。

24. 長い間、わたしの言葉を聞いてきた男女たちよ、さらにこの働きの中で任務を引き受けてきた者たちよ。わたしの言葉があなたがたの心を動かすことを許し、あなたがたの存在の最も奥底で御霊が語られることを許しなさい。 あなたがたは生命の木の果実を多く食べてきましたが、その種はどうしたのでしょうか。なぜ、あなたがたが蒔くもののすべてが、私が与えた種から生じていないのでしょうか。私は、あなたがたが、私があなたがたの世話に託した種に、自分たちの種を混ぜ合わせているのを見ます。この瞬間に私があなたがたに語っていることを、あなたがたのうち誰が理解していないというのでしょうか。

25. だからといって、あなたがたが行うすべての行いを非難しているわけではない。 私がここで伝えたいのは、あなたがたが

行う善行に、いかなる不誠実さも混ぜてはならない、ということだ。そうすれば、私があなたがたに啓示した通りの私の真理を蒔くことができなくなる。そして明日、あなたがたの魂がその蒔いた種の実を収穫する時が来れば、その魂は当然のことながら、その実がまさに人生の道で蒔いたものそのものであることに気づくことになるだろう。

26. わたしは、すべての被造物の本質である。すべてのものは、わたしの無限の力によって生きている。わたしはあらゆる肉体とあらゆる姿の中にいる。わたしは あなた方一人ひとりの内におるが、わたしを感じ、見出すためには、あなた方が自らを準備し、心を開いて受け入れる姿勢を持つことが必要である。

27. 私はすべての存在にとっての命の息吹である。なぜなら、私は命そのものだからだ。それゆえ、あなたがたがあらゆる行いにおいて私を心に留めていれば、私を崇拝したり、私を身近に感じたりするために、粘土や大理石で私の像を造る必要はないことを、私はあなたがたに理解させた。この誤解は、人類を偶像崇拝へと導くことしか果たさなかった。

28. わたしの言葉によって、あなたがたは父とすべての被造物との間に存在する調和を予感し、わたしがすべての存在を養う本質であり、あなたがたがわたし自身の一部であることを理解する。

29. あなたがたが、人生の意義、魂の使命、そして成長の目的を理解するにつれて、霊的な生活へと踏み込んでいく。そうして、あなたがたが私に与え、私を探し求めてきた形を忘れ、この人類が何世紀にもわたって囚われてきた誤った信仰や誤った観念は、次第に消え去っていく。

30. 魂はその能力に応じて、完全性に達するまでより高い次元へと発展していくことができる。しかし、私は、あなた方の生涯が無益なものとならないよう、常にあなた方の発展の道を支えてきた師である。

31. あなたがたが善意ある人々となるとき、あなたがたの人生は全創造物の完全性と調和するようになる。あなたがたは真の知識の光を得、その行いの実が永遠の平安をもたらすだろう。あなたがたの肉体的な部分は物質であり、それは創造物の中で原子へと分解されていく。

このことはあなたがたも理解しているが、多くの人々にとって、魂の不死の命は理解しがたいものである。彼らは、自分の目に見えるもの、あるいは科学が証明するものしか理解しない。この地上の人生で、あなたがたと共に暮らしていた人々は今どこにいるの

か？――あなたがたにはわからない。せいぜい、彼らが光の世界で暮らしていると想像することしかできない。それについて、師はこう告げる。彼らの多くは、あなたがたの周りにいるのだ。 魂には、父が来世で割り当てた場所を占める能力と、同時に、あなた方の間で任務を遂行する能力の両方がある。霊魂の力はそれほど偉大なのである。

32. あなたがたは、これらの教えをまだ理解していない。しかし、その能力を開花させるためには、私が「第二の時代」にあなたがたに語ったことが、あなたがたの中で成就される必要がある。「人は、私の恵みを得るためには、その純粋さにおいて子供に似なければならない。」

33. しかし、もはや孤独を感じる必要はありません。 人間が成し遂げるあらゆる業には、光の精霊の影響が働いている。霊界は人間の知性器官に作用し、それを導いている。その世界は、あなたがたが肉眼で見る世界よりも、はるかに大きく、美しい。それは光と完全な調和に満ちた世界である。その住人たちは私のそばにいて、私と一体となって、創造物を守り見守っている。

34. しかし、あなたがたはこれらの教えを知り、それを信じているにもかかわらず、この世で愛した人々があの世へと旅立ったことを、依然として嘆き続けることができるだろうか。彼らは今やあなたがたを見守っていることを知っているというのに。なぜ、彼らは今や純粋に霊的な存在であるにもかかわらず、あなたがたは彼らを人間の姿として思い描くのか。

35. 今日、私はあなたがたに、あなたがたが「来世の神秘」と呼ぶものについて語った。

36. これらの教えをあなた方に明らかにできるのは、わたしだけである。人間にはそれができない。なぜなら、彼らは隠された知恵に到達していないからだ。

37. 私が、あなたがたが私の聖域に入り、さらなる教えを聞くことができるよう、準備を整えなければならなかった。なぜなら、あなたがたの魂が高揚するためには、まず感覚に働きかける必要があったと、私は見抜いているからだ。 あなた方の目は、私の臨在を語りかけてくれるような像を求め、耳は、心を地上の心配事から解放してくれる賛美歌の旋律を待ち望んでいた。そして、たとえほんのわずかな瞬間であっても、私を想うためには、お香や花の香りさえもあなた方にとって必要だったのだ。 しかし、これらの典礼の要素はすべて、礼拝に捧げられた教会の内部でしか見つけることができなかったため、教会の外では、あなたがたは私の臨在を理

解することさえ、ましてや感じることさえできなかった。それに対して今日、あなたがたの霊的な備えは、肉体の感覚を発達させるのではなく、魂を目覚めさせ、肉体的な感覚に関わる事柄にもはや注意を払わないようにすることから始まっている。

38. あなた方の目は、もはや神性を象徴する像を探し求めない。あなた方の耳は、世の誘惑をしばらくの間忘れさせてくれるために必要だったあの音色を、もはや渇望しない。あなた方は、礼拝の儀式に参列して初めて、私がその行為と場所においてのみ臨在していると信じられる、という状態を、もはや待っていない。

39. 今日、あなたがたが心から願っている唯一のことは、私の言葉の神聖な意味を受け入れ、感じ、理解できるよう、いかにして自分の心を澄ませ、心を清めるかということである。 、そしてあなたがたは、そのために瞑想と祈り以上に優れた手段はないことを知っている。

40. 今日、あなたがたの目の前に置かれるあらゆるものが、あなたがたを邪魔するだろう。そして、私の言葉という天上のコンサートに比べれば、最高の音楽でさえも、あまりにも貧弱なものに思えるだろう。そして、それらのものは、あなたがたの祈りに役立つどころか、結局は邪魔になるかもしれない。 あなた方は外的なものを何も必要とせず、また望んでもいません。それゆえ、私の啓示を受け取る間、目を閉じることに慣れているのです。なぜなら、魂は、高揚への至高の渇望の中で、物質的なものとのあらゆる接触から解放されたいと願っているからです。

41. かつて、あなたがたが私の神性を称えて築いた祭壇は、あなたがたから遠く離れていました。しかし今日、あなたがたはそれを自らの心の中に築き上げました。 長い間物質的なものであったあなたがたの捧げ物は、今や精神的な表現へと置き換えられた。あなたがたは、私の目には、あなたがたの愛が庭の最も美しい花よりも美しく映ること、そして、あなたがたが隣人に与える許しは、かつてあなたがたが自分の汚れを洗い流すために捧げていた贖罪よりも、私にとってははるかに価値があることを知っているのだ。洗い流そうとしていたものよりも、私にとってははるかに価値があることを、あなたがたは知っている。

42. 私は静寂の中であなたがたの声を聞き取っている。私にとって、あなたがたが唇を動かす必要などない。私は、他の罪人の言葉に耳を傾けるような罪人ではない。私は霊として存在しており、私が聞き取っているのはあなたがたの魂であり、高みへと昇り、私に心を打ち明けようとしているのも、その魂なのだ。

43. この時代、多くの者が私の言葉を聞いたが、そのすべてがそれを真理として受け止めたわけではない。もちろん、誰もがこの教えを理解できる段階に達しているわけではないのだ。 いつの時代にも、召された者は多くいましたが、最終的に選ばれた者はごくわずかでした――その理由を、今日、私はあなた方に改めて思い出させます。それは、時宜を得て理解し、感じ、あるいは信じる者だけが、最後まで留まり、私に従う準備をしている者たちの一員となるからです。

時折、あなたがたは、霊的に非常に進歩しており、私の愛の教えを理解しているかのように見える人々がやってくるのを目にするでしょう。しかしその後、彼らが私の言葉から受け取ったものを真実として受け入れていなかったことがわかります。それは、私を発見できるのは第一に人間の知性ではなく――愛が宿っているならば、それは霊だからです。 この二つを混同してはなりません。一方で、また別の時には、教養がなく、あまりにも物質主義的であるように見える人々が、私の説教にやって来るのを見かけることがあります。彼らについては、私の言葉を感情的に理解できるとは、ほんの少しも期待していなかったにもかかわらず、彼らが明らかに獲得した繊細な感受性と理解力に、 驚かされることでしょう。 その理由は、彼らが外見上、人間的な面では不器用である一方で、内面においては非常に高い精神的な発達を遂げているからである。

44. 信仰を持った者たちが、必ずしも最初の瞬間から信仰に目覚めたわけではない。 ほぼ全員が内面で葛藤していました。私は彼らの心の中に、次のような――あるいは類似した――問いを見出しました。「これは果たして真実なのだろうか？　ここで主の御臨在に出会えるなど、あり得るのだろうか？　長い間不治だと思っていた私の苦しみに、ここで癒やしを見出すなど、あり得るのだろうか？」しかし、奇跡を受けた後も、中にはまだ私にこう尋ねる者もいました。「私を癒やしたのは、果たして*主ご自身*なのでしょうか？」

しかし、私の声を聞いたその最初の瞬間から信じた人も多くいましたし、私の言葉を聞く前からすでにそれを信じていた人さえいました。

45. 多くの人々の心を最も苦しめたのは、私が自らを現したその貧しさ、みすぼらしさであった。なぜなら、彼らは儀式における華やかさや、物質的な教会に見られる贅沢な富に慣れ親しんでいたからである。 しかし、私はあなたがたに告げる。かつて私が自らの質素さを人々の眼前に示すことで、彼らの虚栄心を裁いたのと

同様に、今日も私は偽りの見せびらかしを避け、貧しい人々の中だけでなく、罪人たちの間にも現れようとしたのである。

46. もし人々が明日、落ち着いて私の啓示のあり方を研究し、それを聖書に記された預言と比較し、私が現れ、私の啓示が展開された活動範囲――私が選んだ国、そして私が招いた民――を より詳細に検討すれば、彼らは、すべてが完全に行われ、預言が全体として忠実に成就したという確固たる認識に至るだろう。

47. 今、私は再び人々に語りかける。私の神聖な本質をもって彼らに語りかけるが、その言葉や概念は、彼らの理解力の及ぶ範囲内にあるものである。 しかし、私の言葉の中に神の本質を見出すだけで私を信じる者たちがいる一方で、信じるためには、あなたがたが「奇跡」と呼ぶものを必要とする者たちもいる。それゆえ、私はあなたがたに告げる。あなたがたは、人間には治癒不可能な病人を私のもとに連れてきて、私の力を試そうとした「第二の時代」の人々と同じ民なのだ。

48. 私は、ある者は盲人、ある者は足の不自由な者、多くの者はハンセン病患者、またある者は混乱した霊に取りつかれた者たちに出会う。私はあなたがた全員を癒やす。そして、まことに、あなたがたに告げる。滅びる者は一人もいない。しかし、 、あなたがたは準備を整えておかなければならないことも指摘しておかなければならない。なぜなら、この時代の奇跡は、肉体よりも、むしろあなたがたの高められし魂の中で、私が成し遂げるものだからである。

49. 私があなたがたに復活を知らしめるのは、ラザロだけではない。私は*すべての*「死者」をよみがえらせる。

50. 人々の群れよ、ここにわたしの言葉がある。あなたがたは、わたしを信じることも、信じないことも、愛することも、愛さないことも自由だ。しかし、まことに、あなたがたに告げる。この時は二度と訪れない。これらの知恵の教え、これらの神聖な説教を、この形で聞くことはもうないだろう。1950年以降もわたしの声を聞きたいならば、霊によってあの世へと入り込まなければならない。 私があなたがたに言ったことを思い出せ。「わたしの王国はこの世のものではない。」

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 186

1. 知識を深めるために私に近づくすべての弟子たちを歓迎する。 私の教えの真理を明確に認識しようとするすべての人々に、幸福と至福がありますように。あなたがたは、霊的な目を覆っているベールを引き裂こうとするなら、それは賢明なことです。私の隠された知恵の奥義をより深く探求しようと努力しない者たちは、重い責任を自ら背負うことになるのです。

2. 彼らは、肉体がもたらす快楽に、いつになったらようやく嫌気がさすのだろうか。いつになったら、こうした快楽が、魂の安らぎを味わうことを妨げてきたことに気づくのだろうか。 彼らは罪の王国の臣下であり、情欲の奴隷であり、耳が聞こえず、目が見えず、足が不自由で、ハンセン病を患った者のように、自らの迷いに気づくことなくこの世をさまよっている。ついに自分の魂が病んでいると悟った者でさえ、私の御霊から放たれる光の中に救いの薬を見出そうとはしない。

3. 盲人が盲人を導く――私は、世界の多くの国々、すなわち地上の民のあまりにも多くが、まさにそのようであるのを見る。美徳は弱まり、善き感情は失われてしまった。あらゆる高貴な感情と高揚する思考を吹き込むべき人間の心は、今日や、利己心、悪徳、そして迷いの源となってしまっている。

4. あなたがたを限りなく愛する主が、今日、あなたがたのもとに来て、すべての人間に蔓延する悪と戦うための武器を授けること――それのどこが不思議だというのか。

5. 確かに、私の教えは武器であり、光の剣であり、心に突き刺さり、人間の最も繊細な部分に響くものである。悪を打ち負かす意志こそが、あなたがたに必要なものであり、その魂のための力を、私の言葉が与えるのである。 私があなたがたを勝利者として見たいと願う、最も偉大で高貴な戦いは、あなたがた自身の情欲、利己心、そして肉欲を制するために、自分自身と戦う戦いです。あらゆる機会に、あなたがたの内面でその偉大な戦いが燃え上がるべきです。

6. 一方には善意、理性、正義、そして隣人愛があり、他方には破滅的な人間の情欲が頭をもたげます。しかし、光は闇に打ち勝つでしょう。もしそうならないと私が知っていたなら、私はあなたがたが、魂にとって無益で実りのない戦いに身を投じることを許すことはなかったでしょう。

7. あなたがたが族長たちや預言者たち、あるいは私の使徒たちを思い浮かべる時、彼らを並外れた人間だとは思わないでください。なぜなら、 、彼らも皆、あなたがたが創造されたのと同じ本質から創造されたからです。 しかし、彼らは光の道にとどまり、真理に忠実であり、常に私の律法を遵守し、善に生きるよう努めた人々であった。彼らの意志は弱まることなく、それゆえに、彼らは同胞たちにとって模範となる業を残したのである。

8. 快楽や安楽、あるいは単に日々の糧だけを追い求め、霊の賜物には無関心で、永遠の命を明らかにする真理を受け入れようとしない人々を、あなたがたは認識しているだろうか。やがて、あなたがたは、彼らが真の教会の協力者となるために、熱心に霊的な聖所へと駆け寄る姿を見るだろう。

9. 人々が光を見出すのは、私の神聖な御言葉の中にある。その光は、魂が内に秘める力を用いることを教え、人生という試練の道を確かな足取りで歩むことを教えてくれる。私の光を見る者は、誤った一歩を踏み出すことも、つまずくこともない。

10. あなたがたはわたしの言葉を深く探求しなければならない。そうしなければ、師が明確かつ完全に語った箇所でさえ、謎として見えてしまうからだ。 神には人間に対する秘密などない。問題は、ある時は光へと踏み出そうとせず、またある時は啓示を時期尚早に知りたがるということだ。人間が陥った汚れこそが、すでに理解すべき時が来ているにもかかわらず、私の教えの多くを正しく解釈できなかった原因である。

11. あなたがたは、自分たちの宗教から何を学んだのか。もし、あなたがたの人生が、その宗教が推奨する原則に従うものではなく、またそれを通じてわたしに近づこうともしないのなら、これやあれを信じていると言うことに、何の益があるというのか。

12. もしあなたがたが、神の律法を履行しているかどうかを知りたいのなら、この世で愛の収穫を得ているかどうかを自問してみなさい。

13. 私はこの時代、あなたがたに多くのことを語っている。それは、私があなたがたに私の天の御国を授ける用意ができていることを、あなたがたに理解してもらうためである。しかし、そのためには、あなたがたは自分の霊魂を解放しなければならない。なぜなら、私を受け入れるのはその霊魂だからである。そうすれば、あなたがたは私を見、私を感じることができるだろう。

14. 善意ある人々の間には、平和の盟約が結ばれるべきである。しかし、私はあなたがたに、この盟約を結ぶために、霊的な故

郷にたどり着くまで待つ必要はない、と指摘しておく。 その功徳とは、世界が「小羊の血」を愛の種として受け入れたこの地において、あなたがたが父に感謝の捧げ物と、 な最高の供え物――すなわち、互いに愛し合うことによる従順――を捧げることにあるのだ。

15. 魂の不死を信じなさい。私がこう言うのは、罪の中に留まり続ける者たちにとって、死はその存在を滅ぼし、彼らを永遠の命から締め出し、代わりに永遠に続く罰にさらすものだと信じている者たちがいるからです。

16. そのような考えを信じる者たちは、わたしの啓示のいくつかを誤って解釈し、その真意を曲解している。 もしそれが正しく、また可能であるならば、それは愛と善と正義の敗北を宣言するようなものです。それでは、私が人間となったこと――私の受難、私の死、そして人間としてあなたがたの中に存在したこと――に、一体どのような意味があったというのでしょうか。私が、罪人、病人、奴隷、飢えた者、道に迷った者たちのために来たことを忘れないでください。

17. あなたがたの霊魂は、神の御霊によって授けられた永遠の命を有しており、人間において死ぬのは、魂が昇華するために置き去りにする「外殻」、すなわち肉体だけである。 また、もし魂が罪を抱えているならば、その罪も消え去るのを見ることになるでしょう。そして、無知という暗い覆いは、枯れた果実のように魂から剥がれ落ちるでしょう。しかし、魂は、自ら経験するこれらの「死」のたびに――実際には死ぬことなく――より強くなり、より自覚的になり、より輝き、より清らかになって、高みへと昇っていくのです。

18. あなた方は、人生において、自らの存在全体を支配し、良心や道徳、理性の声を聞くことさえ不可能にしてしまうような、肉体的な情熱を経験したことはありますか？

これは、肉体に宿る悪の獣の誘惑と力に打ち負かされ、魂が深く落ち込んでいた時に起こったことである。

そして、その情熱から自らを解き放ち、その影響を克服したとき、あなたがたは深い幸福感と深い平安を味わったのではないだろうか？

19. この平安と喜びは、魂が肉体に対して勝ち取った勝利に由来する――それは計り知れない闘い、すなわち「血みどろの」内なる戦いを経て勝ち取られた勝利である。 しかし、良心の導きと助言に励まされ、魂が新たな力を得て立ち直っただけで十分であり

、そうして魂は肉の衝動を制し、さらに破滅へと引きずり込まれることから自らを解放したのです。

この葛藤、この自己犠牲、この自分自身との戦いの中で、あなた方は、自分の内側に 住んでいたが、自分の人生そのものではなかった何かが死ぬのを目撃した。それは単なる無意味な情熱に過ぎなかった。

20. それゆえ、理解すべきである。人が良心の導きに従い、自らのすべての行いをより高次の戒律に従わせる時、それはあたかも、その人の内に新たな人間が生まれ出るかのようである――その者にとって、死など存在しないのだ。 なぜなら、その人は肉体を、魂にとって必要な外殻に過ぎないと見なすようになるからだ。そして、魂が真の故郷へと旅立つとき、肉体は大地の懐へと沈み、そこで消え去らなければならないのである。

21. わたしはあなたがたに告げる。いわゆる「永遠の死」など存在しないし、ましてや永遠の贖罪などあり得ない。死ぬのは有害なもの――無益なもの、悪しきもの――だけであり、浄化が達成されれば、贖罪も終わりを告げなければならない。かつて、わたしはあなたがたに、わたしの業において滅びるものは何一つないと告げた。 また、私の子供たちのうち、一人として失われる者はいないとも告げました。さらに、「私は命である。私を信じる者は、決して死ぬことはない」と語ることで、魂の不死をあなたがたに啓示したのです。

22. 愛する民よ。人間の目を閉じ、「雲の上」にいる私の臨在を感じてみよ。あなたがたは人の声を聞くであろう。それは、私が用いて、あなたがたに私の思考の波動を授けるために用いている、声の伝達者が伝える声である。 しかし、あなたがたが霊的に高みへと昇れば、私の霊的な臨在を感じることになるでしょう。ああ、祝福された第三の時代よ、その時代には、すべての目がその主を仰ぎ見ることができるのです！偶像崇拝は打ち砕かれ、人々は真理を完全に知るようになるでしょう。

23. この時代を切り開くために、私はあなたがたの知性を通じて自らを伝えようとした。それは、あなたがたが私をより身近に、より親しみ深く、自分たちの一部であると感じられるようにするためである。第二の時代においても、私は人々の間に生まれ、彼らの傍らで生き、彼らの痛みを分かち合い、彼らの目の前で苦しみを受けることによって、人々に近づいたのである。

24. 今日、多くの人々が私の新たな御言葉によって目覚め、互いに一つの共同体を形成している。その大半は、この地の貧しい

人々――あなたがたが「相続権を奪われた者」と呼ぶ者たち――であるが、彼らは実際には、聖霊があなたがたに授けた賜物のどれ一つとして欠けてはいない。私の教えによって、これらの人々は無気力状態から目覚め、自分たちが内に秘めているすべてのものに気づくようになった。 それにより、彼らの中で魂の開花が始まり、その不器用さは次第に消え去っていった。直感が働き始め、彼らの本質を照らし出し、インスピレーションが彼らの知性を優しく撫で、祈りの最中に予知の賜物が彼らの視界を に照らし、霊的なものから覆いを剥ぎ取り、未来が秘めているものの一部をも彼らに明らかにした。 癒しの賜物――それが単なる言葉によるものであれ、「油注ぎ」によるものであれ、あるいは思考そのものによるものであれ――は、彼女たちの心の奥底から湧き出ており、この働きに従う謙虚な弟子たちには、他にも多くの能力が現れ始めた。

25. その理由は、この世で何も所有していなかった彼らが――父から遺産を受け継いだと感じたとき、その全心と熱意をこの大義の奉仕に捧げ、そうすることで、自らの内面に秘められていた、そして自分たちも知らなかった多くの恵みの賜物を発見したからである。

26. もし人々の心が、ただ地上の富を所有することだけを渇望していたのなら、どうして彼らが自らの霊が持つ賜物を発見できただろうか。

27. もし人々が祈ることを理解していたなら、もし私が心の言葉を知っていること、彼らの魂の必要を理解していること、彼らの最も些細な願いさえも理解していること、そして彼らの考えがどのようなものであれそれを読み解くことができることを悟っていたなら、彼らは創造主へと祈りを捧げていたであろう。 しかし、人間は世俗的であり、神への崇拝と魂の成長を物質化してしまった。では、いかにして人類にその過ちを悟らせるか？――それは、霊的な民を彼らのもとに遣わし、その子らが、私の教えが説くあの高次の道徳の中で生きるようにすることである。

28. 人類は、その科学、罪、戦争、教義、そして唯物主義によって、神の正義に挑んだ。そして、その冒涜が極めて甚大であったため、罰を受けることしか期待できなかった。 しかし、見よ、私がどのようにそれに応えたかを。私は、慰めであり、啓示であり、赦しであり、平和である私の神聖な光を人々に送り、それが彼らを照らし、彼らの成長を助けるようにしたのだ。

29. 人間には、後に飲み干さなければならない、苦味に満ちた杯がある。しかし、まことに、わたしがあなたがたに告げる。この

苦しみを通して、人間は光を受け取るのだ。だが、わたしはあなたがたの心に、優しく降り注ぐ光をもたらす。その光は、愛と真の知恵によって、あなたがたの精神を納得させるであろう。

30. 今まさにこの声を聞いている人々の群れよ――この大きな霊的葛藤の時代に、あなたがたがわたしの光を見るように定められているという考えに、喜びなさい。

31. 眠ってはならない。なぜなら、私はこれらの声の媒体を通してだけあなたたちに語りかけているわけではないからだ。あなたの 魂が安らぎの中にあり、私との対話へと高みへと舞い上がることができるあらゆる瞬間に、私はあなたたちに語りかけているのだ。

32. あなたがたが自分の心を導き手として用いることができるように、まず私がその心を整えることを許しなさい。そうして、その感情を通じて、あなたがたが神聖な霊感を受け取れるようにするためである。

33. あなたがただけがわたしを呼び求めているのではなく、さまざまな宗教に従って、あなたがたの兄弟姉妹たちもそれぞれの神を呼び求めている。わたし、すなわち慰めの御霊は、あなたがたのもとに来るだけでなく、悲しみに満ちたあらゆる心と霊に平安を与える。

34. 人間は、自らの想像の中でイエスの愛の像を創り出し、それをキャンバスに描き出した。創造主の御霊を表現することができなかったため、人間はイエスに人間の姿を与えたのである。

35. あらゆる時代、あらゆる民族、すべての人々から、私は常に彼らの礼拝、全焼のいけにえ、儀式、そして供え物を受け入れてきた。なぜなら、私にとって重要なのは行為そのものではなく、善意だからである。

36. 確かに、人々が私について作り出した肖像は不完全である。しかし、私は彼らが私を認識するその造形物をじっと見つめることに心を留めるのではなく、彼らの企てにおける善意こそが、私の心に届くのである。

37. それにもかかわらず――人類が、この民のように霊化を実践する姿を見るとき、父はどれほど喜ばれることか。この民は、その第一歩を踏み出し始め、その過程で表面的で外見的なものを捨て去り、 あなたがたが本当に心の中にわたしを宿していること、善行をなそうと意図するときにわたしがあなたがたの計画の中にいること、わたしと対話を試みる時にわたしがあなたがたの思いの中にいることを実感するために、表面的なものや外見的なものを脱ぎ

捨てているのをご覧になる時、父はどれほど喜ばれることだろうか。

38. この声を聞いた者が、神の栄光が人間の肉体の貧しさの中に現れていることを、どうして疑うことができようか。神は、魂のない物質であるパンの中に現れることよりも、ご自身の姿と似姿に造られ、被造物の中で最も完全な存在と見なされている人間、すなわちご自身の子供たちを通して現れることの方が、はるかに喜ばれるのではないだろうか。 なぜ、光であり、神聖な御霊である神が、ご自身の姿と似姿に従って創造された、最も恵まれた被造物を通してご自身を現わさないというのか。神が人間の知性という器官を通してご自身を現わすことができるのは、何ら不思議なことではない。しかし、この人類は、その最も神聖な感情を何度も傷つけられてきたため、不信仰で疑心暗鬼になっている。それゆえ、彼らはただ*耳を傾ける*だけで、真に*聞き*取ってはいないのだ。

39. 兄弟愛と高潔さの感情がそこから湧き出るように、人間の心は再び愛の彫刻刀で磨き直されなければならない。

40. 人間の心は、あまりにも硬くなってしまい、他者の痛みや不幸を前にしても無感覚のままである。しかし、人間が自らの成長の道を歩み進めることができるのだ。

41. もし人が、隣人を裁くことに満足してしまうなら、誤った判断を下すだけだろう。しかし、その人を助けようという高潔な意図を持って、その人の苦しみの原因を理解しようと努めるならば、その苦しみの隠された根源が明らかになり、そうして初めて、その苦しみを和らげることができるのだ。

42. 霊的な信仰を欠いているために、自分の人生を耐え難いものにしてしまう人々がどれほど多いことか。彼らは、物理的な世界だけが存在すると考え、霊の存在を疑っている。彼らにとっては、それを証明するものは何もないからだ。こうした悲観的な考えやその他の悲しい考察が、彼らを絶望へと追いやり、さらには死へと駆り立てることさえある。

43. あなたがたが将来の弟子たちに与える最初の教えは、この指導に基づいていなければならない。あなたがたは、彼らに、その成長の道の最初の段階から上へと昇っていく機会を与えなければならない。 父は、その無限の愛と完全な正義によって、すべての魂に、その完成に必要なだけの物質的な生を授けておられること、ある肉体を持つ存在は他の者よりも多くの苦しみを受けること、幸福に満ちた生もあれば、苦しみと贖罪に満ちた生もあることを、彼らに明らかにすべきである。

44. 苦痛も大きな試練も経験せずに生きる地上の住民たちこそが、多くの無知で不満を抱く者たちが私を「不公正」と呼ぶ原因となっているのである。

45. あなたがたの道のりには、こうした事例が十分に多く現れるだろう。そして、あなたがたは、その説明を行うよう召された者となるのだ。人々は、この人生の後に報いまたは罰が確実に待っているのかと、あなたがたに問うだろう。 それに対して、あなたがたはこう答えるべきである。すなわち、魂が霊界で（永遠に）生きるために必要な発展の段階に達しない限り、この地上に転生せざるを得ず、そのたびに、前の生での進歩に応じて、それぞれの地上での生を歩むことになる、と。時には豊かな収穫を得るために、またある場合には、何らかの罪を償うため、あるいは始めた仕事を完遂するために、転生が起こることもある。

46. こうして魂が、地上におけるその運命として定められた道のりをすべて歩み終えたとき、魂は霊的な故郷へと昇りつめることができる。そこでは、永遠の至福、すなわち主の懐へと導く道の続きが待っている。

47. 曖昧な点や不明瞭な点を残してはならない。すべての人を納得させることはできないだろうが、不信仰者たちの疑念を通じてさえも、彼らの考えを知ることで前進し、後に遭遇する他の人々を論争の中で説得できるようになるのだ。

48. まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしの教えは、人類にとって、春の朝に目覚めるようなものであり、野を肥沃にする露のようなものとなるだろう――今日、この世界が死の野であり、枯れ果て、乾ききっている今、なおさらである。

49. 私の名において、すべての人々のところへ行きなさい。私の犠牲はすべての人々のためになされたのだから、誰がイエスという愛に満ちた名を拒むことができようか。

50. あなたがたが今、山のふもとに立ち、師の活力を与える教えを待ち望んでいることを、隣人に感じさせてあげなさい。なぜなら、わたしの言葉は、あなたがたの魂にとっての命だからである。

51. わたしは白いテーブルクロスで食卓を飾り、あなたがたの魂が強められるよう、その上に命の木の果実を載せておいた。

52. 聖霊の光は、あなたがたの魂を闇から解き放つ。あなたがたは道から外れ、迷い、恵みの命から死んでいるからだ。

53. 愛する民よ、あなたは偶像崇拝、不従順、そして恩知らずの道に陥ってしまった。あなたは光から離れ、闇へと向きを変え

、白い衣を脱ぎ捨て、水晶のように澄んだ水の代わりに濁った水を飲み、それによって自らを毒してしまった。

54. わたしは第二の時代に人間となり、あなたがたに愛し、赦すことを教えるために来た。謙遜と柔和の模範を示すために来た。師として、わたしはあなたがたに教えを授けた。しかし、時代は過ぎ去り、あなたがたは誤りに陥ってしまった。

55. ああ、私がすべての人々の中から選んだ民よ！私はあなた方を探し求め、地下墓地であなた方を見つけ、七つの罪を育んでいた荒野であなた方を見つけた。 今日、私は善き羊飼いとして、あらゆる道や小径であなた方を探し求め、深淵から救い出そうとしている。あなた方は私の言葉に耳を傾け、私を感じ取り、魂に欠けていたすべてのものを私から受け取った。私はあなた方に愛の証しを与え、啓示を与え、私の教えの書から豊かに授けてきた。

56. さあ、わが民よ、一歩一歩、山を登りなさい。登っていくうちに、あなたがたは父との交わりを感じ、命の木の果実を味わうことができるだろう。山頂からは、あなたがたの渇きを癒やすために、水晶のように澄んだ水の泉が流れ落ちている。

57. 第三の時代のイスラエルよ。今、あなたがたは、教えを授け、預言する主の声を聞いている。なぜなのか、愛する民よ？——それは、わたしの神聖な恵みによって、あなたがたが今陥っている無気力状態から目覚めるためである。

58. 目を持つ者は見よ。頭脳を持つ者は考えよ。耳を持つ者は、その師の声を聞き取れ。 あなたがたは、私の指が指し示した者たちである——私が命を与えた死者たち——私が視力を取り戻させた盲人たち——私の光で導く迷える者たち、そして私が救命ボートを示した難破者たちである。

59. 嵐に翻弄され、苦難の杯を飲み干して滅びかけていた「放蕩息子」のために、父が用意した祝宴を見よ。

60. わたしを感じ取り、わたしをあなたがたの心に宿らせなさい。そして、第二の時代の弟子たちのように、あなたがたにこう告げよう。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」同様に、この第三の時代においても、わたしはあなたがたにこう告げる。「取って食べなさい。これはわたしの言葉である。」

61. 愛する弟子たちよ、1950年が近づいている。その年、私はこの形であなたがたに語りかけることをやめるだろう。しかし、そのことを念頭に置いて、私はあなたがたに告げる。あなたがたは私の言葉を豊かに受け取ることになり、師のように旅立つべきであ

る。あなたがたは人類にとって灯台のような存在となり、豊かな愛を同胞たちに授けるべきである。

私の平安があなたがたと共にありますように

教え 187

1. さあ、主の食卓で永遠の命のパンを食べなさい。天使たちが祝宴を準備し、あなたがたの父が皆を歓迎してくださっている。食べて、飲んで、しかし、この食事の天上の味わいを深く味わうことを忘れず、私の食卓に着いては食べ、飲み、その後、*誰のもとを*訪れたのかさえ自覚せずに立ち去ってしまうような者たちのようには振る舞ってはならない。

2. 今日、私があなたがたに差し出すパンは、私が「第二の時代」にあなたがたにもたらしたものと同じである。その両方に込められた真意を探求すれば、それが同じものであること――すなわち、私の神聖な愛そのものであることに気づくだろう。

3. 私は、第二の時代にそうであったように、あなた方を救うためにやって来る。そして、私に従おうとするすべての人々に、こう言う。「自分の十字架を背負い、私の足跡に従いなさい。」彼らはよく知っているはずだ。その十字架とは、謙遜、愛、慈悲、放棄、そして犠牲から成るものであることを。 それを担う者は、すでに自分が歩むべき道を知っている。私は、私の道がバラの花で敷き詰められていると告げて、誰をも欺いたことはない。なぜなら、私は兵士たちが愛と信仰をもって私に従うことを望んでいるからだ。

4. 私は、子供たちに私の教えの真理を示した後、私に従う者たちは、人生のあらゆる行いにおいて誠実かつ真摯であるだろうことを知っている。私の忠実な者たちの中には、報酬を受け取る使用人はおらず、ただ熱意に燃える弟子たちと、無私の追随者たちだけがいるだろう。

5. もし誰かがこの働きを誤って解釈し、不純な目的のために利用しようとするならば、その者は自ら「裏切り者」という名を与え、その良心がその者の裁き手となるであろう。

6. あなたがたはすでに、第二期の私の弟子の一人にあって、痛ましく悲しい例を目の当たりにした。それゆえ、それを避け、いかなる理由があっても真似しようと試みてはならない。なぜなら、かつて私の忠実な子供たちの一人であった者が、自分を汚した過ちを隠すために去らなければならないなどということは、正しいことではないからだ―― ユダが、まもなく神の師によって啓示された真理を証しするために命を捧げようとする者たちの間に、もはや一瞬たりとも留まるに値しないと悟り、最後の晩餐の席を離れたのと同じように。

当時、わたしに従った者たちは、わたしの大義への愛からそうしたのだ。 今日、私の教えを渇望してここへやって来るあなたがたにも、同様に私に従ってほしい――しかし、人間の利害や、私の正義に対する誤解に基づく恐れに駆られてではなく。あなたがたの隣人への愛だけが、 、そのようにあなたがたを奮い立たせるものであってほしい。なぜなら、あなたがたは彼らの中にあって、あなたがたの父であり創造主である方を愛し、賛美しているのだから。

7. もし私が、恐怖によってあなた方を納得させたいと望むならば、ただそう願うだけで十分であり、そうすれば自然の力が解き放たれ、それによって私が唯一の全能者であることをあなた方に示すことになるだろう。しかし、私は、謙遜、信仰、そして愛によって得られる功徳が、あなた方一人ひとりの内に蓄積されることを望んでいる。

8. 今や新たな時代が到来しており、それゆえに、あなたがたは今、新たな教えを受け取っているのだ。なぜなら、人類が予想するような過去の出来事は、この時代には繰り返されないからである。もし繰り返されるならば、それはまるで時間が止まり、人類が同じ教訓を繰り返し学んでいるかのようになってしまうだろう。

9. イエスの兵士たち――私があなたがたをそう呼ぶのは、私の大義をあなたがたに託すからです。この真理を確信できるよう、私の教えを深く探求しなさい。そうして信頼を得たならば、再び眠りにつくようなことがあってはなりません。また、神学者たちが質問であなたがたを困惑させてはなりません。とはいえ、私が今日あなたがたに示したことは、何ら秘密を含んでいないのです。 秘密の宝庫が、あなたがたが父をより深く知ることができるよう、あなたがたの霊の前に開かれたのである。もし私が秘密を携えてあなたがたのところに来たとしても、何の意味があるだろうか。あなたがたは、そのような秘密を「啓示」と呼ぶことができるだろうか。

10. わたしは、あなたがたに「真理の御霊」が訪れ、わたしの以前の教えを解き明かすと約束した。そして今、この言葉の中に、この時代に定められたすべてのことを伝え終えたと、あなたがたに告げることができる。

11. わたしの教えに注意深く耳を傾け、それを深く考え抜き、後にそれを実践することで、わたしの弟子であることを理解しなさい。

12. わが子らよ。あなたがたが私の言葉によって私を見分けるように、私もあなたがたの行いによってあなたがたを見分ける。

13. 皆で共に学ぶことで、私の教えをより深く理解できるようになるだろう。この教えは詳細にわたり、光に満ちている。なぜなら、この言葉の中に溢れ出ているのは、父なる神ご自身の愛そのものだからである。それゆえ、良き弟子であることを証明するために、全力を尽くさなければならない。

14. あなたがたの世は砂漠であり、私はそのオアシスである。あなたがたは、私を呼び求め、正義と愛への渇きをすべて私の前にさらけ出した、渇きに苦しむ旅人たちである。私は、清らかで水晶のように澄んだ水として、私の言葉をあなたがたに送った。 時にはマナのようなものでしたが、それは常に、長く厳しい砂漠の横断の旅において、あなたがたの魂を強める糧となってきました。

15. 時が来れば、*あなたがたは*、苦しむ旅人に日陰と水と清涼を与えるオアシスとなるだろう。苦しむ者たちは、あなたがたのもとで心を癒やすことになる。なぜなら、今、私はあなたがたを癒しの香油へと変えているからだ。

16. 今こそ光の時であり、あなたがたは皆、その光に包まれている。この光は、人間に、その内に神性の原子が存在することを悟らせるだろう。それが魂であり、その知性は良心の導きによって、人間を平安へと導くのである。

17. これらの賜物は、人間を苦痛に満ちた償いから解放し、完全なる知恵の領域へと昇華することを可能にするであろう。

18. 時の流れの中で、私は多くの子供たちが、この世が提供する快楽を拒み、人類に霊的な模範と励ましの足跡を残すために、私の律法の道を歩むのを見てきた。 あなた方と同じようにこの地上に暮らし、愛と慰めのメッセージを伝えるためだけにやって来たこれらの存在たち、すなわち人々は、今日、霊界に生き、真の平安を享受している。

19. わたしは、あなたがたにすべての時間をわたしに捧げることを求めてはいない。なぜなら、わたしはあなたがたにこの地上で果たすべき義務と責任を委ねているからだ。しかし、あなたがたがこれほど愛している人間の肉体は、魂の衣、あるいは外殻に過ぎないということを理解しなければならない。それは、あらゆる苦しみが目覚める肉体である。

20. あなたがたは、警戒し祈りを捧げないとき、あなたがたの心が作り出す不完全さや誘惑に、この肉体が満ちてしまうことを許してきたのだ。

21. 私は知っている。あなたがたがこの世にいる限り、心も感覚もこの世に傾いてしまうだろう。しかし、有害で、無意味で、

不道徳なあらゆるものに対して戦いなさい。 修道院に閉じこもり、この世や隣人との交わりを軽んじるよう、私は勧めてはいない。そうすれば、私の神性に対するあなたがたの愛と奉仕は誤解されてしまうからだ。清教徒になろうとして、自然の法則も満たすべきであるという責務を忘れてはならない。

22. 創造主があなた方に課した法則を遵守しなさい。あるものは魂に関わり、あるものは身体に関わる。そして、私が命じるのは、有害なもの、傲慢、そして偽善を拒絶することだけである。

23. ああ、師の教えに耳を傾ける愛する弟子たちよ。私の言葉が、あなたがたの中に眠っていた能力をいかに目覚めさせているか、よく見ておきなさい。

24. あなたがたは、これがすでに、この姿で私があなたがたの間にとどまる最後の瞬間であると言っても過言ではない。これらはかけがえのない 瞬間である。なぜなら、私が去った後にこれを思い返したとき、あなたがたは「主はなんと大きな恵みを私たちに与えてくださったことか！」と言えるからである。

25. それゆえ、愛する弟子たちよ、誘惑に陥らないよう気をつけなさい。自分には関係のない事柄に心を奪われてはならない。あなたがたの中に霊性が映し出されるよう、心を配りなさい。 あなたがたの闘いが激しく、善を行うことが時に困難で苦いものであることは、わたしも知っています。それゆえ、まずあなたがたに、家族を愛し、彼らを赦すことを教え、その後、人類の間に送り出すのです。

26. 疲れてはならない。魂のための働きは決して終わらないからだ。今、あなたがたにとって償いや罰のように見えるものも、高みを目指す魂にとっては、報いとして受け入れられるだろう。なぜなら、魂は愛し、善を蒔くことに決して疲れることはないからだ。

27. 準備の整った心は幸いである。それは、その香りを放つ芳しい薔薇に似ているからだ。わたしのもとへと高みへ昇ることができた人間の思念は幸いである。それは、霊的な美しさを見出すからである。自分の魂を高め方を知る者は、偉大な業を成し遂げ、その知性はより良い世界を理解し、創造するだろう。

28. わたしは、あなたがたが善が支配する世界を築くために旅立つよう、あなたがたを備えさせた。なぜなら、この時代の人々は、その罪によって、人間の心の中に存在し得る最も高貴で至高なるもの――すなわち霊的な愛――の破壊に、何らかの形で加担してきたからである。

29. それほど安楽さを追い求めないでください。未来を安泰にしようと望むその欲求を捨てなさい。もはや不満を抱いてはいけません。この世から何を求め、何を期待しているのですか？ あなた方はすでに栄誉も、楽しみも、称賛の言葉も得てきました。ある者はすでにすべてを手に入れ、ある者は多くのものを得ています。それにもかかわらず、私はあなた方全員が善行を積んでいないのを見出しています。

30. 自分に対して公正であったかどうか、自問してみなさい。あなた方には知性があり、理性があり、自由意志がある。今、私の言葉を聞いているのだから、無知だとは言い切れない。あなた方は、形のない無限の彼方で私を探すことを学んだ。なぜなら、神である私には形などないからだ。

31. 私はあなた方自身の中にいる。なぜ人々は、いつも「天」と呼ぶあの青空の中に私を探そうとするのか。これについても、私はこう言おう。私はその天の彼方にある。謙虚さと敬意をもって私を探し求めよ。そうすれば、私はあなた方が私の知恵の奥深くへと入り込むことを許そう。 しかし、神の力が宿るその場所まで、思考を突き進めた人間が果たして誰がいるだろうか？――誰もいない。なぜなら、 誰も、私のもとへ至る道や梯子を知らないからだ。人間は良心の声に耳を傾けてこなかったからである。

32. 人間は、まだ自らの世界、すなわち地球を知り尽くしてはいない。その性質は、人間にとってまだ多くの驚きを秘めている。そして、あなた方を囲むこの世界のような世界は、他にも数多く存在する。しかし、私の業の一部に過ぎない創造物さえも知られていないというのに――なぜ、科学によって私を知り得ると主張する者たちがいるのだろうか。

33. 私は、いつの日か、私へと続く真の道を歩み、私の神聖な栄光を仰ぐことになる魂に語りかけている。

34. 謙虚で、理解に満ちた人々でありなさい。平和の人々でありなさい。

35. あなたがたは、私の言葉こそがあなたがたの魂にとって唯一の糧であることを知っているからこそ、私に恵みを注いでくれるよう願っている。なぜなら、あなたがたが歩んでいる人生は、時折、あなたがたを躓かせるからだ。 あなたがたの口には苦い味が残っている。それゆえ、私はあなたがたに近づき、私の言葉によって甘美さと優しさを与え、すべてを満たす私の愛をもって、あなたがたの渇きを癒やすのだ。しかし、あなたがたよりもはるかに飢えている人々が無数に存在する。それゆえ、私はあなたがたを私の啓

示の受託者として残し、あなたがたがそうした人々に私の恵みの賜物を分かち合えるようにするのだ。

36. あなたがたは師とならなければならない。しかし、私の最後の教えを一つひとつ、心に刻み込まなければならない。あなたがたはまだ準備ができていない。もし今この瞬間、師が最も進んだ者を呼び出し、自分の席に就き、自分の名において語るように命じたとしても、その者は自分にはその能力がないと感じ、恐怖が消えることもなく、口を開くことさえできないだろう。

37. しかし、1950年を過ぎ、私がこの言葉を撤回した後には、やがてあなたがたもこのように語らざるを得なくなるだろう。その時には、あらゆる恐れを克服し、私の力に依り頼んで、自らの使命の成就に完全に踏み込まなければならない。 それは、これまであなたがたが経験してきた、この時代に私があなたがたに語りかけてきたのと同じような恍惚感とは、もはや全く同じものではなくなるだろう。あなたがたが信仰に満ちて私に向かって心を高め、御霊の声を聞き取ればそれで十分であり、そうすれば、霊感はその知性の中に宿るだろう。

38. あなたがたは、人々の群れに対し、彼らの思考、祈り、そして備えをもってあなたがたを支えるよう導くことになる。そうして、あなたがたの言葉が真に神聖な霊感の伝達者となるよう、注意を払うことになる。

39. （啓示の）形式がいかに変化し、人々がより理解しやすいよう、すべてがより単純になっていくかを見よ。なぜなら、人間は明快さを求めており、自分には不可解だと感じる教訓を解読することに、もはや知性を疲れさせたくないからだ。それゆえ、私は啓示の最後の時期に、あなたがたが過ちを犯さないよう、私の言葉をより理解しやすいものにしているのだ。

40. 第二の時代においても、師は（その教えの）最後の時期に教えをより明確にした。なぜなら、これらの最後の教えは、それまでのすべての教えを理解しやすくするためのものだったからである。

41. あなたがたに告げる。私は、あなたがたのすべての行いが真理の火花となることを望む。なぜなら、私があなたがたに授けた教えは、水晶のように澄んだ水のようなものだからである。人々に、私の業を誤解を招くような形で示してはならない。すべてには納得のいく説明があり、存在意義があるからだ。 あなたがたが伝えるすべてのものにおいて、世に対する恐れがあってはならない。そうすることで、不誠実な教えによって同胞を欺いてきた者たちは

皆、自らの過ちに気づくであろう。そして、善意と十分な備えをもって、人々にわたしの真理、愛、そして平和をもたらす用意のある者たちだけが、わたしの奉仕にとどまることになる。 まことに、あなたがたに告げる。心の中に生える雑草は、実り豊かな畑から取り除かれるであろう。そうして初めて、人類は聖霊の真の御業を認識するようになるのだ。

42. あなたがたは、私の弟子たちが地球上の至る所に散らばっているのを見出すだろう。なぜなら、その生き方において霊的であり、私を崇める者は皆、スピリチュアリストだからである。

43. 人々の精神が、物質主義や伝統、偏見、そして狂信を超越したとき、宗教の統合が訪れるだろう。その時、人々は一つの礼拝において霊的に一つとなるだろう。それは、神と隣人への愛から生まれる善の礼拝である。 これが実現すれば、人類は完成への時代へと踏み出すことになる。それゆえ、私はあなたがたに、善く、誠実な行いを通じて、私の業を示すことを求める。

あなたがたが、これらすべての実現をこの目で見届けることはできなくなるとしても、それを悲しむ必要はない。しかし、あなたがたは間違いなく、平和の王国を築くために自らの種を蒔き、貢献したという満足感を得ることになるだろう——その種は、来るべき世代の心の中で実を結ぶことになるのだ。

44. 私の畑の種蒔き人たちよ、準備を整えなさい。畑は、私の教えという種を受け入れる準備ができているのだから。

45. やがて、あなたがたのもとを訪ねて、海を越えてやって来る大勢の人々を、あなたがたが目にすることがあるだろう。彼らは、師があなたがたを通じて彼らに託したものを求めてやって来るのだ。

この大陸は、兄弟愛と平和をもって彼らを迎え入れるだろう。人種は混ざり合い、人々の習慣や考え方が互いに絡み合うことで、人類の統合が実現する。そして、それは真の、永続的な平和をもたらすだろう。新しい世界が生まれるのだ。あなたがたが現在経験しているこの時代は、そのための準備の段階に過ぎない。 戦いは、時間を稼ぐために長期にわたるものでなければならない。なぜなら、今日支配的な考え方は、一瞬にして消し去ることはできないからだ。あなたがたが経験している世界——それは消え去らなければならない——と、それに取って代わる明日の世界との間には、ある程度の期間が必要である。

46. あなたがたは今なお、闘いの最も厳しい時期にある。それゆえ、私があなたがたを導き、明日の世界を見据えられるように

するために来たのである。私は、あなたがたが決意を実行に移せるよう必要な力を与え、人類を祝福する。

47. あなたがたは祝福されている。なぜなら、あなたがたは至高のものを発見するために知識を深めようとし、霊的な道を歩み始めるにあたり、はっきりと見通したいと願っているからだ。しかし、あなたがたの目を覆っている覆いが取り除かれる準備が整うまでは、私の教えを完全に理解することはできないだろう。

48. 人間は、自らの霊的な未熟さについて自ら責任を負っている。なぜなら、理性と精神に恵まれているにもかかわらず、自分にふさわしい生命の次元へと昇華するための努力を一切しないからである。 人間は自分を放任し、肉体の快楽を貪り、自らの魂を殺し、病に倒れ、「不自由な者」として這うように生きていくが、その苦しみから癒やされたいという願望を微塵も抱いていない。

49. わたしの教えと、犠牲としての死は、ほとんど何の効果も及ぼさなかった。何世紀も経った今、わたしは悲しみに満ちて、盲人が（依然として）盲人を導き、足の不自由な者が麻痺した者を歩かせようとしているのを見ているからだ。 私は、大多数の人々が虚弱であり、ただ弱い存在に過ぎないことを確認している。それは、あなたがたが私が教えたように生こうとしないからである。あなたがたは、情欲に支配され、それが心の中で芽生え、自らを傷つけることを許しているのだ。

50. あなたがたは素晴らしい資質に恵まれているにもかかわらず、それをうまく活用していない。私は、知性と意志を 精神の奉仕に捧げるよう定めた。それは、あなたがたが自らの行いや人生の主人となり、良き立法者となり、精神と肉体の間で繰り広げられるその戦いに勝利し、戦いを制するためである。 これを成し遂げれば、あなた方は、善意を持つ人々の群れを導く立派な預言者となるでしょう。そうすれば、あなた方は自分自身に打ち勝ったことになるため、その戦いを恐れることはなくなるでしょう。あなた方は力強さを感じ、互いを尊敬と愛をもって見つめ合うようになるでしょう――たとえ身分の低い者たち、すなわちあなた方の「小さな兄弟」たちでさえも、その時にはあなた方の友人となるのです。

51. あなたがたが「偉大な人々」と呼ぶ、解放を成し遂げた古代の預言者たちが、単に運命づけられていたからといって強大で高潔であったなどと思ってはならない。彼らがそうであったのは、闘い、平和と愛の真の神殿を築き上げたからである。 しかし、真理を得るために最も努力する者たちでさえ、誤りに陥る危険にさらされている。それでも、彼らの精神的な高みによって、彼らは善と

悪を見分け、あらゆる敵を退け、それによって彼らの中にあった光が勝利することを成し遂げたのである。

52. あなた方の中にあるこの生命の原理――この光は、私の神聖な霊に由来するものであり、すべての人間は、その価値を理解することなく、これを所有している。それゆえ、人間はこの宝を軽んじてきた。そして、不死であるための素晴らしい資質に恵まれているにもかかわらず、自らそれを奪い、自発的に自らを殺し、その力を失ってしまうのである。 私は、人間が自らの過ちの結果を感じ、それを知ることを許している。そうして、その後、自らの努力と経験を通じて尊厳を取り戻し、霊の充足と喜びを求め、はかない喜びを永遠に捨て去ることができるようにするためである。

53. 常に私の律法に従って生きるためには何が必要か。それは、あなたがたの力とエネルギーを駆使し、私の真の弟子として、世界を支配している闇の勢力を打ち負かすために働くことである。

54. わたしは、あなたがたにわたしの真理を理解し、わたしにはあなたがたに対して謎も秘密もないことを悟ってほしい。この時代に備えれば、あなたがたはわたしの神性に対する真の崇拝を実践するに至るだろう。あなたがたは律法に従い、わたしを信じていると言うが、その行いはその反対を物語っている。 今日、あなたがたは私の意志と教えを知り始めたばかりだが、あなたがたが備えを整える日が来るだろう。その時、私はあなたがたに私の栄光を分かち与え、あなたがたと契約を結び、この世に平和が訪れるだろう。

55. その時、あなたがたはわたしを唯一の主として認め、いかなる差別もなく、兄弟姉妹のように互いに愛し合うようになるだろう。しかし、*もし今日*、あなたがたがわたしの真の弟子でありたいと願うなら、強く清いと感じられるために、この地を離れる必要はない。 あなたがたが住むこの世においてさえ、私の約束が現実となるのを見ることになるでしょう。すべてが成就するからです。

56. 食卓は整った。座り、それぞれの席につき、わたしに導かれ、もてなされなさい。わたしと共に「真理のパン」を分かち合い、愛の光に照らされ、あなたがたの神に賛美の歌を歌いなさい。

57. どれほど美しい調和が響き渡っているか、耳を傾けてください。あなたがたの愛の賛歌が天に響き渡り、天使たちの声があなたがたの声と一つとなるように。

58. あなたがたの苦しみをわたしに委ね、悩みをわたしに委ねなさい。もはやそれらに慣れ親しむことをやめてください。

59. あなたがたが今この瞬間、私のそばにいるように、人類もまた私の御心に従って私のもとに来るべきである。私は彼らを待っている。どこへ行こうとも、誠実でありなさい。そうすれば、私の教えが攻撃されることなく、むしろそれがもたらす実りのゆえに、すべての人から認められるようになるだろう。

60. 私の神聖な言葉は、あなたがたの耳に響く以上に、あなたがたの霊の中で響き渡っている。私があなたがたに教えを与えるのは、あなたがたが明日、師となれるようにするためである。 しかし、この教えについて語るためには、その基本原理を知っておく必要がある。その基本原理とは、愛である。さらに、この基本原理を知るだけでは不十分だと、私は告げる――それを身につけ、感じ取らなければならないのだ。もしあなたがたが、隣人に対してその愛を感じたことがなければ、どうして隣人愛について語れるだろうか。

61. 私が教えの中で「愛」という言葉を頻繁に繰り返すのは、私にその資格があるからだ。なぜなら、私は本当にあなた方を愛しているからである。

62. 弟子たちよ、私はあなたがたに、明日にはあなたがたが師となるだろうと告げた。それは、あなたがたが隣人を愛するようになった時に実現する。見よ、私の言葉が、まるで繊細な彫刻刀のように、少しずつあなたがたを磨き上げている――ある時はあなたがたの理解力を、またある時はあなたがたの心の琴線に触れ、あるいはあなたがたの精神に働きかけ、その光があなたがたを照らすように。

63. こうして私は、あなたがたの人間的な部分に対して語りかける。それは、あなたがたの精神に対して、その部分を従順で献身的なものにするためである。なぜなら、真に地上における人間の歩みを導くべきなのは、その精神だからだ。それこそが、そのための力と光を持っているのである。

64. 今日、私は人間が霊的な道において立ち止まっているのを見る。人間は、科学、権力、そして情欲の道を歩み始めた。もし人間が、愛、善、そして真理に近づくことを意味する霊的発展において立ち止まっていなかったならば、果たして同じように戦争という火刑台に火を放っただろうか？

65. 霊性化の時代が到来した。もし人々が私の光を見ることに抵抗すれば、彼らは誤りに陥ることになるだろう。なぜなら、自然そのものが、彼らには理解できないような現象を生み出すようになるからだ。

66. 私の正義を恐れて、あるいは義務感から私に従ってはならない。もしあなたがたが自発的に行わなければ、その行いはどのような価値を持つだろうか？――あなたがたは、自らの功績によってのみ、私のもとに来なければならないことを知っているはずだ。あなたがたはすでにこの世とその喜びを知っているが、それらはあなたがたを弱くし、魂に影を落としたに過ぎない。しかし、あなたがたが地上で縛られ、絶えず必要としている善行や正義の行いまでも、私が奪うのだと誤解してはならない。

67. わたしはあなたがたすべてを愛しており、人種によって区別することはない。しかし、人間が自分自身を霊魂としてではなく、単なる人間としてしか理解していない限り、人は自分より他の人間より優れていると思い込み、不和や戦争が存在し続けるだろう。

68. 愛をその本質とする、わたしの言葉という普遍的な言語は、すべての人々に聞き届けられるであろう。そして、それこそが、人々を互いに、また彼らの父と結びつけるものとなるのだ。

69. おお、民よ、目覚めよ。1950年、すなわち私の言葉がこれらの伝達者たちを通じて終わりを迎える年を境に、あなたたちの戦いが始まるからだ。しかし、あなたたちとあなたたちの子供たち、そしてその後に続く子供たちは、人類の心に私の教えを消えることのないものとして刻み込むべきである。

わが平安があなたがたと共にありますように！

教え 188

1. さあ、愛する弟子たちよ、ここに来なさい。師はここにいる。*あなたがたは*わたしの言葉の意味によってわたしを見分け、*わたしは*あなたがたの行いによってあなたがたを見分ける。

2. この世において、わたしの弟子たちはその行いの清らかさによって見分けられるであろう。そして、彼らが義務を立派に果たしてわたしの御前に来たとき、わたしは彼らにこう告げるであろう。「あなたがたは、わたしが教えたことを実行したから、真にわたしの弟子である。」

3. 霊化を達成するよう努めなさい。それは魂の解放を意味するからだ。愛に満ち、決して誤りのないわたしの律法に従い、それをあなた方の生活の指針としなさい。なぜなら、物質的であれ霊的であれ、あなた方を囲むすべてのものは、わたしの律法の枠組みの中で生きているからである。

4. 創造物の中で完全な作品である人間は、創造主が彼の中に授けた恵みに従って生きるべきである。

5. 私は、あなたがたに、私があなたがたの維持、充足、そして完成のために定めたこの世の義務から背を向けるよう言っているのではない。バランスを保ち、公正であり、魂と肉体に必要なものを与えなさい。

6. わたしは初めから人間を自由な存在として創造したが、その自由は常に良心の光に導かれていた。 それにもかかわらず、人は内なる審判者の声に耳を傾けることなく、律法の道から逸れ、ついには、人間性、慈悲、敬意、そして霊性というあらゆる感情から背を向けた結果、子が父に反旗を翻すような、殺戮と流血に満ちた凶悪な戦争を生み出してしまったのである。

7. 人々は、苦痛に満ちた贖罪の義務を免れるために、とっくに破壊や戦争を避けるべきであった。彼らが私の元へたどり着く前に、善によって自らを清めることに成功しなければ、私は彼らを再びこの涙と血の谷へと送り戻さなければならないことを知れ。なぜなら、完全性とは相反する心で生きる者は、私の元へ来ることはできないからである。

8. この言葉は、いかにして人類に届くのだろうか？――私がかつてそうしてきたのと同じ方法、すなわち使者、預言者、そして弟子たちを通じてである。

9. 私は今、あなたがたを準備している。それは、あなたがたが私の教えと啓示を地球のあらゆる場所に届けるためである。

10. 今日、あなたがたがまだ無名であるとしても、明日には知られるようになるだろう。新しい使徒たちの使命は、この人類の道徳を回復することにある。この戦いは激しいものとなるだろう。

11. 力を得るために、常に祈りなさい。完全さに達するために、精力的に行動しなさい。悪の獣が、千の様々な姿をとって魂を待ち伏せているのだから、警戒しなさい。

12. わたしは、命を与える露の滴のように、わたしの言葉をあなたがたの心に注ぎ込む。しかし、もしあなたがたが、わたしが語るすべてを理解することができたなら――どれほどはっきりとその道が見えることか！ わたしは、平和とわたしの光をあなたがたの思考に注ぎ込む。それを通じてこそ、あなたがたはわたしのもとへ至るのだ。

13. 師が霊的な言葉、すなわち人々を創造主に近づける愛の普遍的な言葉によって与える教えに耳を傾けなさい。

14. わたしの言葉は、あなたがたの魂にとって平和の新たな夜明けの如く、あなたがたの道を照らす一筋の光の如きものである。あなたがたはこの声をすでに何度も耳にしてきたが、次第にその言葉の意味を理解しつつある。

15. わたしは今、全人類の中に自らを顕している。今こそ、全世界が霊化を知り、霊的な交わりの時を迎えるべき時だからである。愛のキリストは今、その子らが救いを得るために、彼らの中に自らを注ぎ出している。

16. 今のこの時代に、あなたがたのように私を直接聞いてはいなくても、あなたがたが目指しているのと同じ目標を追求している人々が大勢います。彼らは、天の父との対話に向けた「霊の闘いの時」が到来したと感じているからです。

第二の時代において、私はあなたがたに、人間が思考による対話を知り、それを開花させ、直感と霊感を通じて私の知恵を受け取るようになる時代が来ることを理解させた。当時、あるパリサイ人が私のところに近づき、こう言った。「もしあなたが神の子であるなら、神がどのようなお方であるかを告げなさい。もしあなたが父から遣わされた者であるなら、父がどのようなお方であるかを告げなさい。」 しかし、私は彼にこう答えました。「御子を知っている者は、御父を知っている。なぜなら、私は御父から来たのだから。」

17. まことに、私は常に人間の中にいた。しかし、私を感じ取るためには、肉体の本能に導かれることなくあることが必要である。人が目覚め、私が彼に啓示したものを探求し始めるとき、彼は

人生の意味と、その内に秘められた使命を悟るだろう。 そうして初めて、人は自分の能力と感覚を御霊の奉仕に捧げたことになるため、もはや痛みや試練を感じることはなくなるのだ。

18. ナザレのイエスの生涯は皆に知られているので、あなたがたには、決して滅びることのない道を歩むための模範がある。「わたしは道であり、真理であり、命である」。わたしは、あなたがたが住む世界の な構造であり、あなたがたが呼吸する空気そのものである。 私は、人間がより高い生命へと昇華し、そこから周囲のすべてを見渡し、理解し、感じることができるように導く力である。なぜなら、この世界は単なる涙の谷であるだけでなく、たとえ一時的であっても、あなたがたが満足、喜び、そして平安を得ることができる場所でもあるからだ。

19. わたしを知れば、あなたがたは自分自身を知るようになる。

20. あなたがたは、人々がこの世を歩み、その過程で常に苦しみによって清められてきた様子を見てきた。これは、あなたがたが、この人生の儚さと魂の不死について語りかける私の光を常に持っていたにもかかわらず、私に近づく術を知らなかったからである。 それゆえ、今日、私は霊的な表現を用いて、あなたがたに語りかける。その際、私が理解されやすいように、あなたがたの人間的な言葉を用いているのである。

21. 聞き手であるあなたがたは理解し、進歩を遂げました。なぜなら、あなたがたはこれらの啓示を聞き、もはや地上の存在の一部、すなわち外的な側面だけでそれを受け止めるのではなく、その本質を渇望して深く探求しているからです。 あなたがたは、もはや私の言葉が響く声の響きを耳で捉えることはなくなりました。なぜなら、私の言葉の神聖な響きが、あなたがたの魂と心の奥底に共鳴したからです。 これは、私の神性のさらなる顕現である。なぜなら、父の「言葉」である私がこのように自らを現すことによって、限られたあなたがたの知性が、父の無限の知性と交信できるようになるからである。

22. わたしの恵みを受け取り、光栄に思うあなたがたの魂は、わたしにこう言います。「主よ、あなたは真の愛の息吹として、私たちの心においでになります。」

23. まことに、あなたがたに告げよう。もしあなたがたがこのようにして、一度でも私の教えを理解し、それに従って生きるならば、天の交響曲を聴くために、虚栄や無意味な快楽を捨て去ることになるため、霊性への高みへと至るのだ。

24. 私があなたがたに示すすべてのことを、深く考えなさい。科学者たちが人間の身体を研究した際、その完全さに驚嘆したことを思い起こしなさい。しかし、この世では儚い存在であるその身体でさえ、これほど驚くべき完全さを備えているのだ。それならば、不死の性質を持つ霊魂の栄光が、どれほど偉大であるか、あなたがたに想像できるだろうか。

25. 海の計り知れない広大さや、あなたがたの惑星の規模にただ驚嘆しなさい。そうすることで、*あなたがたが*これらすべての驚異以上の存在であるという意義を測ることができるだろう。なぜなら、あなたがたは、一瞬にしてそれらの境界を越えて へと運んでくれる魂を持っているからであり、その魂は、清められ、父の御国に住むようになれば、すべての世界が示されることになるからだ。

26. わたしに耳を傾けた者は、自らの起源へと帰ることへの恐れを失う。たとえ自分が創造のただ中のひと粒の原子に過ぎないと自認していたとしても、天の父の子であるからこそ、存在することの内的喜びを感じるのだ。

27. あなたがたがこの世を去るとき、あなたがたは、あらゆる被造物に命を与え続ける露の一滴のようになるだろう。 あなたがたに告げよう。無限にして永遠なる神は、全創造物の中にあり、万物に魂を吹き込む本質そのものである。神は被造物の中に御自身の業のすべての美しさを見出し、御自身の霊感の結実の中に存在する至福を体験される。なぜなら、すべてのものが神を語り、すべてのものが神を賛美し、神に敬意を捧げているからである。

28. 神は、存在するすべてのものの創造主であるゆえに、あらゆる生命の現れの中に存在している。このことを深く考えれば、死など存在しないことを理解するだろう。

29. これが今日の教訓である――私がこれまであなた方に与えてきたすべての教訓と同様に、私の意志に従って、将来の世代への遺産となるあの書物、『第三の聖書』に記されるべき教訓である。

30. 今こそ、あなたがたが一歩前進する「第三の時代」である。象徴を通じてわたしを探し求めていた時代は終わった。今、あなたがたの目の前で新しい時代が始まろうとしているが、それは新しい道ではない。 私は、あなたがたの蒔いた種を破壊するために来たのでもなく、奇妙な言葉であなたがたを混乱させるために来たのでもない。私は、過去の時代に私があなたがたに残した霊的なメ

ッセージを否定せよとは言わない。私はただ、その第二部を未完のまま残していた、すでに始めた教えを継続するだけである。

31. かつてキリストが、神の国の到来を人々に告げるために、人間としての生涯を全うして現れたとき、儀式や典礼を執り行っていた人々を驚かせた。それゆえ、キリストは彼らに対し、伝統に従うために律法を忘れてはならないと告げたのである。 しかしその後、私は言葉と行いによって、あらゆる不必要な礼拝の形式を排し、彼らの心の中に神の律法のみを残した。イエスがモーセの律法を否定したなどと言う者は誰もいない。なぜなら、私は自分の生涯と行い、そして血をもって、あなたがたにその律法を全うするよう教えたからである。 しかし、私はまた、私が来た時代にふさわしく、そしてあなたがたの霊的成長に調和した新しい教えも授けた。これが、私の知恵の偉大な書物の第二部であった。私は、あなたがたの神と隣人への愛が花開くように、 より純粋な祈りの形を教えた。

32. その当時、あなたがたはわたしを「愛」として認識した。わたしは、わたしが来た理由を知らせ、霊的な生活を啓示し、再臨と新しい時代を告げ、その時が来た時に、あなたがたがわたしの第三の教訓、すなわち今日、あなたがたの霊の前に開かれているその書の第三部を受け取れるよう、準備を整えて去ったのである。

33. 私は、戦争の報せや出来事、そして私の到来を予告していた兆しの中にあって、人々の元へ戻ってきた。それにもかかわらず、人々は私を感じ取らなかった。

34. この沈黙、この貧しさ、この地の片隅において、私は今、人間の知性を通じて私の言葉を響かせ、人々を呼び寄せ、彼らを新しい命へと目覚めさせ、私の説得力に満ちた愛に満ちた教えによって彼らを刷新し、彼らの内に眠る能力を呼び覚まし、師に従う道へと彼らを高めようとしている。

35. 私はあなたがたに告げなければならない。この時代、私はあなたがたを、かつてないほど激しい宗教的狂信と偶像崇拝に囚われている姿で目にした。同時に、あなたがたの魂は、かつてないほど美徳に乏しい状態にある。 さて、あなたがたは年々、この啓示を通じてわたしに耳を傾けてきたが、今、わたしは問う。わたしが自分の人生の指針を破壊したと感じる者はいるか。混乱していると感じる者、あるいは自分のキリスト教の信仰が破壊されたと見る者はいるか。まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしは、あなたがたが忘れてしまったり、歪めてしまったりしていた、かつてわたしが明らかにした事柄を、ただ思い出させたに過ぎないのだ

。 人々があなた方から隠していたものを、私は明るみに出し、私の秘められた宝庫に保管されていたものを、あなた方に明らかにした。この時代は、霊的な自由の時代である。人々は自らの霊によって啓発され、確かな道を選ぶことを理解するようになるだろう。

36. わたしの光線と霊的な使者たちは、唯物主義と罪の暗い雲が漂う大気の中を突き抜けてきた。

37. あなたがたは、この瞬間に深く思索し、かつて崇拝していた神以外の神を、実際には崇拝していないことを認めている――聖母マリア、すなわち処女にして万物の母に対して、誰もあなたがたの心の扉を閉ざしてはいないこと――この教えがあなたがたの信仰を強め、霊魂の永遠の命に関する知識を深めたこと、そして「隣人 を自分自身のように愛し、互いに愛し合う」という至高の戒めを、わが言葉の光をもってあなたがたの魂に刻み込んだことを認めている。

38. 私はただ、あなたがたの心から有害なもの――あなたがたの前進を妨げるもの――を取り除くために来たのである。 それゆえ、私は繰り返しあなたがたに告げる。私があなたがたに霊的な自由を与えたのは、あなたがたがいつでも、どこでも私を見出し、感じることができるようにするためであり、この世に答えられないことを尋ねるのではなく、霊的にあなたがたの父に尋ね、その慈悲から霊のパンを受け取るためである。 ですから、もしあなたがたが兄弟という姿に現れた神を傷つけたならば、彼があなたを侮辱した場合は彼を赦し、あるいはあなたが彼を傷つけた場合は彼に赦しを請うべきであり、そうすれば、わたしも*あなたたちを*赦す。なぜなら、あなたがたが侮辱していない者には、あなたがたが他者に加えた悪に対する赦しを与えることはできないからである。

39. 弟子たちよ。あなたがたは、私がこの時代にあなたがたのところに来たことをもはや不思議に思っていないのだから、霊界があなたがたの間で現れていることについても、驚くことはないだろう。

40. 人類の発展の初めから、父は、あの世界、あの生命の存在の証拠であり啓示として、霊的存在たちの顕現を約束しておられた。まことに、わたしがあなたがたに告げる。あの世界は、わたしの意志により、常に人間とつながってきたのである。

あなた方の発展の初期には、その時機がまだ来ていなかったため、私は人間が霊的存在に呼びかけることを禁じた。肉体をまとった者も、肉体を離れた者も、この交信に備えてはいなかったのだ。

41. この第三の時代において、私の到来の先駆者であるエリアスこそ、私が鍵を託した者である。それは、彼が霊的な光の世界の扉を開き、その住人たちが物質世界へアクセスできるようにするためである。それは、私が人間にあの世へ立ち入ることを許し、それによって両者の間に親密さ、調和、そして愛が生まれるようにしたのと同じである。

42. 私の声がこの交信の時期を定める前から、地球上には、禁令を無視して別の種類の交信の先駆者となった、不従順な者、好奇心旺盛な者、そしてせっかちな者たちがいた。その交信においては、私の神性によってそのために定められていなかったため、闇に満ちた混乱した存在たちが現れてしまったのである。

43. わたしの働きは異なる。あなたがたがこれらの教えを受け入れるのに十分な能力と自覚を備えていると判断して初めて、わたしはあなたがたにこの偉大な教え――わたしがこの世に与えた最も偉大な教えの一つ――をもたらした。それは、あなたがたが御霊によって見、問い、理解し、発見することを学ぶためである。 しかし、私がこの新たな地平を開いた際、 、私は、これらの賜物を自慢したり、それを使って商売をしたり、あるいは悪用したりすることを禁じる法則を、あなた方に教えたのである。

あなたがたが私の教えに深く入り込んだこの時期、ある者は恐れを感じ、ある者は不信感を抱き、中には動揺さえした者もいました。また、「霊」という言葉に恐怖を感じる者もいましたが、彼らは、創造主から与えられた、それ自体も霊であるものを自分の中に宿していることを考えもしませんでした。一体誰が、あなたがたにこの恐怖を植え付けたのでしょうか？ 誰があなた方を、霊に対して嫌悪感を抱くように仕向けたのか？　あなた方がこれほどまでに愛しているその肉体は、やがて大地に還る塵に過ぎず、あなた方は霊としてのみ永遠に生き続けるのだということを、考えたことはないのか？　その状態になったとき、あなた方はどうするつもりなのか？　そのとき、自分自身から逃げ出そうとするのか？

44. あなたがたの使命を助けるために、私はあなたがたに学びに必要な時間を与えます。また、生計や苦難を和らげるために、私は霊的な奉仕者たち――真の慈悲と光と平和の天使たち――をあなたがたのもとへ遣わします。 この通信は人間の意志によるものではなく、神の霊感によってなされたものであることを信じてください。

45. この啓示を、人々が自らの意志で作り出すもの――ある者は科学に、ある者は好奇心に、またある者は迷信的な考えに駆られて作り出すもの――と混同してはならない。

46. あなたがたがこれに注意を向ければ、人類においてこの二つの種類の霊感がいかに古くから存在していたかを発見するだろう。最初の人間もまた、光への道を指し示す主の御声のほかに、不従順と傲慢へと駆り立てる別の声も聞いていたのだ。 その当時から、善と悪という二つの力の影響下にある人間の闘いを認識しなさい。人間が当時から自然の法則を知り、霊の光に照らされていると感じるのと同様に、当時から誘惑による試練も感じているのである。

47. 私は、あなたがたの信仰と知識を強めるために、これを告げる。私の霊的な使徒や使者たちに対する敬意を欠くことのないように。なぜなら、もしあなたがたが、彼らが身にまとっている崇高な優雅さを目にすることができたなら、王座の輝きに包まれたソロモンでさえ、これらの奉仕者たちの威厳には及ばなかったと認めるだろうからである。

48. 流血に苦しみ、疫病や飢饉によって命を落としている諸国民は、もしあの平和と の慈悲に満ちた世界が彼らの前に現れ、慰めと愛の声を聞くことができたなら、何と言うだろうか。

49. あなたがたは、これらの存在があなたがたの肉体的あるいは道徳的な病を癒すその力を「フルイダム」と呼んでいる。そして実際、そのフルイダムには癒しの力が宿っている。それは、イエスが盲人の視力を回復させ、足の不自由な者に歩行能力を与え、口がきけない者に言葉を授けたのと同じ力である。イエスはその力によって、ハンセン病患者を癒し、死者をよみがえらせたのである。

50. （あなた方のうち）誰も、清らかなまま私の御前に来ることはできない。しかし、もし誰かが清らかな者として来たとしても、この道を通って汚れなく立ち去ることはできないだろう。

神の御命令によりエリヤが人々にあの世への門を開いたこの時代において、私は人類に、この交信がそれを実践した者たちの不道徳な行為ではなく、この時代の人々に父から授けられた恵みであり、 そして、1950年以降、その恵みが再びあなた方から取り去られた後、霊から霊への対話への道を開く先駆けとなるものである。

51. 後になって欺瞞や誤った導きに陥らないよう、自らを鍛えなさい。なぜなら、私はまだ、それらをあなた方に明らかにするために用意された多くの教訓を持っているからだ。あなた方の想像力が、誤った啓示や霊感を生み出してはならない。天からの光は、

準備の整った人々に降り注ぎ、その人が私の真理をもって隣人に語りかけるようになるためである。

52. 人々が武器や権力争い、敵意を捨て去り、霊的なものへと向かう時が近づいている。そして、大衆の中から、その言葉に耳を傾けられ、その足跡が追われる使徒たちが現れるだろう。これは、イデオロギー、宗教、世界観の戦争が繰り広げられる時代のことである。

53. その戦いは凄まじいものとなり、地上の権力をめぐる争いによって引き起こされたものよりも恐ろしいものとなるだろう。なぜなら、平和は人々の心から消え去り、思考は狂信の闇によって覆われ、良心と理性の声はもはや聞こえなくなるからである。 狂信は根底からかき乱され、その力を倍増させ、教会を建てて自らを誇示するようになる。ある者たちは、その偶像にしがみついて滅びるだろうが、他の者たちは光に目を向け、この深淵から救い出されるだろう。

54. 今日、これらの預言はすべて、あなた方にとっては遠いもののように思えるだろう。しかし、その成就は間近である。人々の目は、偶像や偽りの神々、そして教会の誇りと華やかさ であった巨大な教会堂が、その台座から転落するのを目撃することになるだろう。しかし、嘘をつく者たちを公然と暴くのは、あなた方であってはならない。その任務は、他の者たちが果たすことになる。*あなたがたは*、言葉と心と知性をもって備え、真の愛をもってこの人類の救いのために精神を捧げられるようにしなければならない。

55. 猛威を振るう嵐に直面しても、逃げることも、身を隠すために地下墓地を探すこともしてはならない。むしろ、嵐の真っ只中で冷静さを保たなければならない。そうすれば、人々がその無気力状態から目覚め、さまざまな宗教団体を比較検討し始めるのを見ることになるだろう。 そして、人々があらゆる宗教に人間の不完全さを見出したとき、彼らはこう問うだろう。「スピリチュアリズムとは何なのか？」そのとき、私の使徒たちは、大げさな宣伝や空虚な言葉、いかなる種類の誇示もなしに、この教えの純粋さ、簡素さ、そして光を明らかにすべきである。そうすれば、世界はその真実を確信し、頭を垂れることになるだろう。

56. 激しい論争が起こり、あなたがたは迫害され、中傷されるだろう。至る所で反対に直面し、時には重く、根拠のある反論にも遭遇するだろう。しかし、人々の言葉に動揺してはならない。なぜなら、それらが真理の行いに基づいていないならば、それは単なる空虚な言葉に過ぎないからだ。

57. あなたがたがわたしを信頼し、備えを固めるならば、わたしはあなたがたを見捨てたりはしない。わたしはあなたがたの口を通して語り、あなたがたは、わたしがあなたがたを通して成し遂げる業を自覚するようになるだろう。

58. 人類は、私が期待していた通り――御霊によって――真の道を予感し、私を求め始めるだろう。自分の心の中に父を宿していることを悟る者は皆、即座に、自分の兄弟や隣人に対する敵対者であることをやめるだろう。そうして、赦し、和解、隣人愛、そして兄弟愛がもたらされることになる。

59. そうして初めて、人々はこう言えるようになるだろう。「私たちはイエスを見た。イエスは十字架から降りて、この世にこう告げられた。『あなたがたの贖いのために私が流した血は、もはや流れなくなった。私はここにいる。永遠にあなたがたと共にいる』と。」

60. 民よ、私はこの啓示において、善人も堕落した者も、あらゆる種類の人々――私を愛する者も、私に背を向けた者も――受け入れてきた。なぜなら、皆が私の子供であり、私は皆を等しく愛しており、皆もまた等しく私を愛し、私に仕えるようになるからだ。

61. 今日、私はあなたがたすべてを一つにまとめるためにやって来た。なぜなら、第二の時代に私が流した血だけでは、あなたがたには不十分だったからだ。あなたがたは、私の教えが示した、な兄弟愛と愛の業を成し遂げることができなかったからである。

62. いつになったら、あなたがたは、私の律法を全うすることによってのみ、健康と幸福と命を見出すことができるという確信に至るのだろうか。あなたがたは、物質的な生活には、生き残るために順応しなければならない原則があることを認めている。 しかし、あなたがたは、人間が神性の中に存在する永遠の命の泉を享受できるようになるためには、霊的な世界にも尊重すべき法則があるということを忘れてしまっている。

63. この時代、高慢な者や愚かな者、物質主義に囚われた者や不信仰な者たちは、私を聞*かざるを得なくなるだろう*。そして私は、かつて私の種にとって不毛の地であった彼らの心に、再び種を蒔き、岩の間から花が咲き誇るようになるまで、その種を育てていく。

64. あらゆる魂に対し、それが清められるまで、わたしはわたしの恵みの泉を注ぎ続ける。しかし、それはもはやヨルダン川の水ではなく、わたしの恵みと正義の光である。その光が魂に触れる

と、魂は目覚め、良心の声を聞き取るようになる。その声は、魂を祈り、悔い改め、そして再生へと導くのである。

65. 今、私は「第二の時代」においてあなたがたに約束したことを果たしている。私は、平和と霊性の時代が到来することを、私の言葉を通じてあなたがたに理解させたとき、それを告げていたのだ。 今、あなたがたはこの時代に生きています。この時代には、伝統、儀式、典礼、象徴や像が消え去り、あなたがたの（人間の）精神は、偏見、狂信、偶像崇拝から解放され、その代わりに神への真の崇敬を受け入れるようになっています。

66. もしこの言葉が唯物論者たちの耳に届いたとしても、彼らは私の教えや預言を聞いて、不信仰な笑みを浮かべるだろう。しかし、人々の疑心は、私を傷つけたことは一度もない。

67. 第二の時代、私の教えという「福音」がローマのような大都市や大帝国に伝わったとき、人々は、イエスが貧しいガリラヤ人であり、彼と同じくらい貧しく謙虚な数人の漁師たちが彼に従っていたと知ると、同様に嘲笑した。 彼らの嘲笑は私を傷つけなかった。なぜなら、彼らが私を知らないことを私は知っていたからだ。彼らは、私の力がまさにその謙虚さに根ざしており、多くの人には理解不能に思え、他の人々には実行不可能だと見なされていた、愛と正義に満ちたその言葉の中にこそ、私の力が宿っていることを理解していなかったのだ。

68. 彼らは、イエスがまるで悪人のかのように十字架にかけられて死んだこと、そしてその死が弟子たちや信者たちへの抑止力となるはずだったことを知ったとき、その血が、ごく少数の人々にしか蒔かれていなかった種を実りあるものにする役割を果たすことになるとは、予想もしていなかった。

69. 疑う者たちの間には信仰が生まれ、信者たちの間には自己犠牲の精神が現れ、奴隷や抑圧された者たちの間には希望の光が輝き、至る所で、正義を叫び、愛を語る人々の口から、救い主の神聖な教えが聞かれた。 高次の力が信者たちの魂を包み込み、その溢れ出る力は、もはや人間の力では止めようのない激流のようであった。

70. それは、町から町へ、一帯から一帯へと溢れ出し、谷間へと渦巻き下り、山々へと押し寄せた激流であった。小屋であれ宮殿であれ、その影響が及ばなかった住まいなど一つもなかった。
それは、枯れた野原に注がれた命の川であり、人々の魂を清め、その行いを裁くために人々に訪れた、あなたがたの父の、常に慈愛に満ちた正義であった。その激流が流れを止めたとき、新しい世界が

明るみに出、新しい人類が地上に現れたが、それでもなお、それは同じ人類であった。

71. 新たな教えの光が、彼らを無気力状態から引きずり出し、霊的にさらに前進するのを助けた。それによって、彼らは「神」であり「父」と呼ばれる完全なる存在に、より近づくことができたのである。

それゆえ、懐疑的で唯物論的な人々よ、今、私はこう告げる。 もし、私が人々の間に身を置き、彼らの知性を通じて自らを伝え、私の教えに含まれる教訓について知ったとしても、嘲笑するような笑みを浮かべたり、私の業――今まさに私があなたがたに心に留めておくよう勧めているこの業――における教訓の実現を、人間には不可能なことだと見なしたりしてはならない。 なぜなら、やがてその教えが花開くのを目の当たりにしたとき、それを聞き入れようとしなかったことを後悔することになるからだ。それゆえ、激流の勢いがあなたの扉を揺さぶっているのを感じたら、扉を開けて、その流れを中に入れなさい。 私は保証する。洗い流されるのは不純なものだけである。なぜなら、あなた方の人生にある善きものについては、主は決して手を触れないからだ。

72. こうして、私はあなたがたに、この言葉の真意を深く探求することを学ばなければならないことを理解させようとしている。そうして、あなたがたが私の真理に深く入り込んでいくにつれて、徐々に私の真理を知っていくようになるのだ。 なぜなら、このな思索を通じて、あなたがたは最終的に、かつて与えられた多くの預言が今まさに実現しつつあること、また、真理の御霊、慰めの御霊の到来を告げた私の使徒たちがあなたがたに伝えた多くの預言も同様に実現しつつあることを確信するようになるからです。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 189

1. 人類よ、わたしはあなたたちを一つにまとめるためにやって来る。わたしは、あなたたちを、まるで全世界に散らばった一つの民であるかのように見ており、あなたたちをただ一人の子として見なしたい。ここに、わたしの弟子たちにはまだ知られていない、「いのちの書」の新たな一ページがある。

2. わが民よ。私の代弁者たちを通してその霊を現し、光と預言に満ちた言葉であなた方に語りかけるエリヤは、第一の時代にその力によって世界を驚嘆させた者その人である。また、私が、彼が第二の時代にも人々の間にいたこと――その時には洗礼者ヨハネとして知られていた――をあなた方に明らかにしても、驚いてはならない。 あなたがたに告げるが、このことについて驚いてはならない。なぜなら、私がこれらの教えをあなたがたに明らかにしたのは今日が初めてではなく、それらはすでに書き記されているからである。

3. その証拠として、預言者たちは、エリヤがキリストに先立って来て、主の道を整えるだろうと語っており、その預言は成就した。しかしその後、イエスは、ご自身がこの世に再臨される際には、その前にエリヤが来て、すべてを整えるだろうと説明された。この約束は、必然的にあなたがたの間で成就したのである。

4. もし明日、聖書に深く取り組んできた人々がこの啓示を研究すれば、彼らは、この時代にエリヤの霊が、第二の時代に彼に託されたのと同じ使命――すなわち、後に聖霊の弟子となる者たちを清めることによって、主の道を整えること――を果たすために来たことを確認できるでしょう。

5. 今日、私がここに来たのは、かつて地上にいた頃のように、異教徒たちの嘲笑や迫害の苦しみに耐え、やがて死を遂げなければならなかったあの時代のように、再び苦しむためではない。なぜなら、エリヤの口から、すべての悪を行う者たちへの裁きを告げる預言の言葉が語られたからである。

6. 今日、彼は御霊によって来られた。それゆえ、人の手は彼に触れることも、傷つけることもできない。それにもかかわらず、この地の民は彼に、恩知らずという苦難の杯を飲ませたのである。

7. エリヤは、迷い出た羊たちを愛情を込めて探し求める羊飼いです。時折、彼は九十九匹の羊を再び一つにまとめることに成功しました。 しかし、彼は、自分の群れを構成する羊の数を満たすために、一匹が欠けていることに気づいた。そして、この一匹の子

羊は、岩の裂け目の茨の茂みに迷い込んでしまったのを見て、嘆き悲しむ。それでも、エリヤスは急いでその子羊を探しに出かける。危険から救い出すことに成功したとき、彼の心にはどれほどの喜びが満ち溢れることか。 彼はどれほど深い愛を込めて、その愛しい羊を仲間の群れのもとへ連れ戻したいと願うことか。しかし、羊の囲いへ戻ったとき、他の多くの羊が自由意志の衝動に従って柵を飛び越え、遠くへ去ってしまっていることに気づいたとき、彼の痛みはどれほど大きいことか。

8. エリヤの現存を目撃し、彼が予告した業の開花を目の当たりにした人々の群れは、主が彼らに与えた啓示の研究に最も深く没頭する者たちではないだろう。 明日、この民の証しを研究するだけで満足し、この業が真実であり、主が再び人々の間に来られ、エリヤが再びその先駆者であったことを、確信を持って四方八方に告げ知らせる人々が現れるだろう。

9. 心を静めて、わたしの言葉に耳を傾けなさい。わたしの言葉は、あなたがたを養い、慰めと赦しを与え、あなたがたが勇気づけられ、わたしが与えた使命を果たせるようにするためである。

10. わたしに耳を傾けている間だけ、わたしに従う決意を固めるのではなく、人生のあらゆる瞬間にわたしを感じ取りなさい。

11. 人類が陥っている道徳的・霊的な後進性は、実に甚大である！この時代に、わたしの言葉の恵みと光を受け取った者たちの責任は、なんと大きいことか！

12. 弟子たちよ、師となりなさい。人に対する恐れを心から追い払い、無関心と怠惰から自らを解き放ちなさい。あなたがたが真に天のメッセージの伝達者であることを悟りなさい。今この時代に起きていることすべてについて人々に説明すべきは、まさにあなたがたであり、人類が忘れてしまったわたしの教えの原則を教えるために奮闘しなければならないのも、あなたがたなのです。

13. あなたがたは、私があなたがたに語った通りの形で、ただ私の言葉を人々に伝えるだけではいけない。それを解釈できるよう、自らを鍛えなさい。洗練された雄弁さで人々を驚かせるような言葉を探してはならない。霊の真理を最もよく表現する、素朴な語り口で語れ。

14. いつあなたがた自身が語っているのか、いつ私があなたがたの口を通して語っているのか、どうして分かるだろうか。 ―あなたがたが自分自身を忘れ、兄弟の苦しみを思い、自分自身が取るに足らない存在であり、私の恵みに値しないと感じる時――まさにその瞬間こそ、私の神聖な霊感があなたがたの心に降り注ぐ時で

ある。なぜなら、その瞬間、あなたがたの 全存在は、父と兄弟への愛に満たされるからである。

15. もしあなたがたが私の名において何らかの業を成し遂げるならば、それをうまく活用するようにしなさい。しかし、決して理由もなくそれについて語ることはあってはならない。

16. 私のすべての業には、公正な報いがある。与える者は受け取る。拒む者は、やがて困窮の末に滅びてしまうだろう。私は、あなたがたに、慈悲と愛を礎とする私の教えを理解してほしいと願っている。

17. あなたがたは善に身を捧げなければならない。それがあなたがたの使命である。しかし、あなたがたの肉的な本性がそれに抵抗している限り、あなたがたは私の弟子であるに値しないと感じるだろう。そして、自分よりも優れた者が大勢いるのに、彼らは召されていないのだと思うだろう。 私はあなたがたに告げる。その理由は、あなたがたが最もそれを必要としていたからである。あなたがたの心には平安が欠けており、あなたがたの道は落とし穴だらけであり、あなたがたの足はこの世の泥沼によって汚されていたからだ。

18. 第二期の私の弟子たちも、私が彼らを選んだ時には「義人」ではなかった。しかし、彼らはその行いによって自らにふさわしい者となり、私の教えに従うことによって、より高い霊的段階に達した。私もまた、あなたがたが同様に改心し、ふさわしい者となり、その行いによって高められ、私により近づくことを望んでいる。

19. もし私があなたがたに、「私が教えた多くのことのうち、何を学んだのか」と尋ねたなら、あなたがたは、そのごくわずかなことしか活用していないと認めざるを得ないだろう。しかし、私はあなたがたを裁くのではなく、赦したい。なぜなら、あなたがたの過ちは、全人類の過ちそのものだからである。それゆえ、私があなたがたに語りかける時、私はすべてのわが子たちに語りかけているのだ。

20. わたしはあなた方をわたしの使徒と呼ぶ。あなた方は、隣人に対処する正しい方法を見出さなければならない。説得力のある言葉と行いによって彼らの不信仰を打ち破ることができれば、それはあなた方にとって大きな功徳となるだろう。わたしの教えの目的を決して台無しにしないよう、あなた方の証を完全に伝えるよう心がけてほしい。

21. 霊的なものと物質的なものの間に調和が保たれるよう、常に努めなさい。つまり、神のものは神に、この世のものはこの世に、それぞれ与えることを学ばなければならない。

22. こうして、わたしはわたしの言葉をもって、あなたがたに自らを捧げる。その本質である知恵と、その中に見出されるあらゆる善と完全さを活用し、将来、あなたがたの同胞に対して惜しみなく与えることを理想とするならば、その実現に向けて努めなさい。

23. 今が好機である。この機会を活用せよ。この言葉がもはや聞かれなくなる日が来るからだ。わたしの意志は成就されなければならない。神と人間との間の霊的な対話という時代は、すでに近づいている。その時には、人間の知性という能力は、もはやわたしの意志を伝える媒体や伝達者として必要とされなくなるだろう。

24. 私が光に満ちた御言葉によって自らを明らかにしているこの時代において、私はこの人類に対し、私の教えを正しい方法で伝えることを許した。

25. 今日、私は、師の周りに集う弟子たち一人ひとりが、私の言葉をそれぞれ異なる方法で受け止めているのを見ている。そして、互いに自分の解釈を伝え合うと、議論や批判に陥ってしまう。しかし、私が民に望んでいるのは、考えの一致である。そのためには、隣人愛を持ち、寛容であり、話すのにふさわしい時機を待つ必要がある。

26. 今日、あなたがたは私の教えについて異なる見解を持っているが、最終的には皆、同じ理解と認識に到達するだろう。これはあなたがたの闘いにおいて励みとなる。なぜなら、あなたがたが皆一つに結ばれたとき、より強い力を感じるようになるからだ。

27. 私は常にこう言ってきた。「私の教えや啓示から理論を構築してはならない。そうすることは、私があなた方に授けた真理の力を奪ってしまうからだ。」

28. 私の教えの中に、私があなたがたに語っているその自由を見出しなさい。そうすれば、それを土台として、すべてをより明確に認識することができるだろう。

29. 私があなたがたのところへ訪れるたびに、あなたがたが父との対話をいかにして得るかを教えてきた。 私は、あなたがたが精神を阻害するだけの教えの中に真理を求めることのないよう、自分自身の中に真理を見出すことを教えてきた。人類は幼年期から、精神と人間の知性が、無限が眼前に広がるのを体験してきたこの「光の時代」へと進んできたのである。

30. この時代を照らす光が、すべての人の目に映るためには、あなたがたが宗教的狂信という目隠しを引き裂くことが必要です。 それゆえ、私はモーセに与えた十戒の石板に、次のように記してあなた方に遺した。「いかなる被造物の像も、また物質的なものを、あたかもそれがあなた方の神であるかのように崇拝してはならない。あなた方は、全き心と全き魂をもって、あらゆる被造物よりも神を愛さなければならない。」

31. しかし、あなたがたは私に問う。「なぜ世界は狂信や形式的な礼拝に陥ってしまったのか？」――それは、私の律法に身を捧げた人々が、イエスのように栄誉や祭服、虚栄を拒む代わりに、富や称号、そしてこの世の華やかさ（ ）を受け入れてしまったからであり、それによって彼らは魂からあらゆる自由を奪ってしまったのである。 そして、この精神の混乱の只中であっても、依然として自分たちは誤りがないと感じている者たちがいる。しかし、誤りがないのはただひとり、すなわちあなたがたの天の父だけである。

32. したがって、もしあなたがたが魂の向上を望むならば、知性と霊性をもって人生の闘いに立ち向かい、善意に満ち、心から謙虚な人となりなさい。そうすれば、あなたがたの魂を救いへと導く進歩を遂げることができるでしょう。

33. わたしはあなたがたにわたしの愛を感じさせ、今、あなたがたの道の障害となる岩を取り除き、あなたがたの十字架の重荷を軽くしてあげる。

34. わたしはあなたがたの心の内を見通しており、こう告げます。私の言葉を聞き取り、理解できるよう、知性を磨き、思考力を高め、感情を一つにまとめなさい。

35. 祈り、自らを改めなさい。世界の平和は、あなた方の成長にもかかっているのだから。世界は戦争の脅威にさらされているのだから、祈らなければならない。そして、平和を実現するために努力しなければならない。あなた方は、祈りの力、その影響力、そしてその光を知った民である。

36. 誰もが明るい未来を求めているが、まだそれを見出せていない。それは、人間同士の間に兄弟愛が存在しないからだ。そして、戦争が勃発している国々の暗い光景を目の当たりにすると、地球上のどこかに平和な一角が必ず存在しているに違いないという予感だけが、彼らを勇気づける。その一角こそが、遠くから輝く星のように見られるこの国となるだろう。

37. これこそが、ここにいるこの国民の責任である。彼らは、病人を癒やすためであれ、赦しのしるしとして敵と握手するためであれ、兄弟愛、内面の高揚、そして隣人愛の模範を示すべく、精神的にも肉体的にも備えなければならない。

38. わたしの畑で勤勉に働け。そうすれば、
より大きな美しさをまとっているのを見ることになるだろう。なぜなら、そうしてこそ、あなたがたは自らの存在の意味を見出したことになるからだ。停滞や日常のルーチンに陥る者は、私の律法に従って生きることで人生が内包する栄光を見据えるために、自らの魂を高揚させることを怠っているのだ。

39. 自分自身を観察しなさい。そうすれば、肉の欲望に引きずられて、自分の存在が無益になってしまう時を見抜くことができるだろう。わたしはあなたがたに実を残してほしいと願っているが、その実は、あなたがたの子供たちのための平和の実でなければならない。そうすれば、あなたがたの心は花開き、その実こそがあなたがたの行いとなるからだ。

40. わたしはこの時代の御言葉を、あなたがたを通して世界に知らしめる。その御言葉は、1950年以降に知られるようになるであろう。

41. これらの啓示は全人類に届くであろう。そのために、私は「金の羽根」と呼ぶ者たちを訓練してきた。彼らが私の業に対して熱意を持ち、良心の呼び声に従って働き、私の言葉が文書として残されるようにするためである。これらの書物は、現在の世代だけでなく、未来の世代のためにも定められている。

42. わたしの言葉の尊厳は、いつの時代もそうであったように、その簡潔さとその意味内容に根ざしている。あなたがたがわたしの業について語る際、その言葉も同様にあってほしいと願う。語るのは人間だけでなく、心でもあることを忘れてはならない。行動において清らかさを保ちなさい。

43. あなたがたは、人生の歩みに必要な力、光、そして平安を、あらゆる瞬間に私から授かっている。私の祝福も受け取れ。

44. この第三の時代において、私は全人類を私の弟子とする。これを成し遂げるために、今、私は一人ひとりの人間の中に私の光を注ぎ込んでいる。その後、私は彼らに私の言葉――まさに今日、私があなたがたに与えているその言葉――を届けるであろう。
わが民の証し、記録、そして模範は、国から国へ、民族から民族へと知れ渡り、人々の心を呼び覚まし、良心の光の中で魂を新たに蘇らせるであろう。

45. 今日、多くの人々が目的もなくさまよい歩き、しばしば私にこう尋ねてくる。「主よ、私たちはどこへ向かっているのでしょうか？この人生は私たちをどこへ導くのでしょうか。そして、私たちを待ち受ける目的地とは何なのでしょうか？」

46. このように私に問いかけるのは、恐れに駆られた魂たちである。彼らは、堕落と物質主義が極みに達したこの世界で、苦しみながら生きている。私は彼らに、希望の光として私の光を届ける。そうして、嵐が過ぎ去り、平和が彼らの心に訪れるまで、彼らが目覚め続け、祈り続けられるようにするためである。

47. ここ、この地球の一角において、私は自分の声を響かせている。それは、この啓示のために私が選んだ、悟りを開いた者たちを通じて人間的な形をとって伝えられているのだ。 そして、私がここにいる多くの人々に向けて語りかける際、その言葉の一部を子供たちに捧げ、彼らに徳を強め、これほど多くの心を破滅へと引きずり込んだ堕落の激流から逃れるよう戒める。

48. 私は、これらの被造物たちが、幼少期から、未来が彼らに定めた使命を完全に理解していることを望む。 また、『 』においても、私は若者たちに直接語りかけ、彼らの不確かな人生の道に指針を与えた。なぜなら、私は彼らを荒れ狂う海のただ中に浮かぶ壊れやすい小舟と見なしており、彼らを助けるために、彼らの目の前に私の業を灯台として立て、それが彼らを救いの港へと導くようにしたからである。若者たちこそ、私から最も遠く離れている存在なのだ。

49. 人はまだ子供である限り、祈り、神を想う。人生の山頂を越え、夕日のように沈み始めるときも、同じことが起こる。 しかし、その心がまるで飛び立ちたいと願う鳥のようで、この世の誘惑に触れると肉体が震え、そして自分が強いと感じている間は、人は神の教えから遠ざかってしまう。なぜなら、謙遜、愛、そして犠牲というその教えが、自分の歩み、言葉、思考のすべてを、一歩ごとに非難の的にしてしまうことを望まないからである。

50. 人間の心は、自らの情熱という海で難破しつつあると実感して初めて、救いの港へと導く道を照らす神の灯台を渇望して、その目を天へと向けるのである。

51. 私は、未亡人たちの心の声を聞いた。彼女たちは私にこう言う。「父よ、私たちを見てください。私たちは、木から落ちた葉のように、風に吹き回されているのです。」 ― 私は彼女たちに近づき、彼女たちは一人ではないこと、霊的な旅路を経て別の世界へと旅立ったあの人が、そこから彼女たちを見守り、支え、守って

くれていること、そして、彼に託されたすべての存在のために道を整えるために、ほんの少し先に進んだだけであることを告げた。

52. しかし、もしあなたがたが彼を感じることができないなら、もしあなた方の生活の中で彼の存在が感じられないのであれば、祈りなさい。私に向かって願いを捧げなさい。そうすれば、私はあなたがたに彼の存在を感じられるようにする。ある人にとっては彼は支えとなり、ある人にとっては助け手となり、またある人にとっては、人生の旅路を導き、寄り添う愛情深い旅の仲間となるだろう。

53. 森の野獣たち、空を飛ぶ鳥たち、そして草原の花々が、一瞬たりとも欠けることなく父なる神の愛と命の輝きを受け取っているというのに――あなたがたは、自らの本質の中にわたしの神性の片鱗を宿しているにもかかわらず、私がたった一秒たりとも、神聖な愛の恵みをあなたがたに拒むなどという考えを抱くことなど、どうしてあり得ようか。

54. ある一家の父親が、自分の苦境や悩みを私に打ち明けるために私のもとを訪れた。彼の子供たちは彼の権威を軽んじ、彼に背を向け、父の助言に敵対する者となっている。

55. あなたがたの使命は極めて困難であり、あなたがたの十字架は重いものであることを、私は指摘せざるを得ない。しかし、もしあなたがたが信仰と忍耐をもって苦難の杯を飲み干すことができ、隣人や子供たちを愛することを知っているのであれば、あなたがたは人生の道において私を手本とし、子供たちは滅びることはないだろう。

56. 民よ。もしあなたがたが、わたしの業が全地球に広く知られることを望むならば、わたしの教えに従って生き、あらゆる行いにおいてわたしの教えを実践し、この言葉から流れ出る力によって、あなたがたの家庭を聖なるものとしなさい。 あなたがたの過去は封印された書物であり、今や人生は、あなたがたの目には未知の新たな道として現れていることを理解せよ――それは、あなたがたが最後まで歩み通さなければならない道である。 今日、あなたがたは落ち着いており、私の言葉の中から望むものだけを取り入れ、私の教えを好きな時に利用している。しかし、やがて私がこの民に、私が彼らに教えた言葉の最初の一語から最後の一語に至るまで、その責任を問う時が来るだろう。

57. この国が、長い間、地上で霊的な使命を果たし、人類の中で崇高な運命を全うするよう召されていることを忘れてはならない。もし主の慈悲によって、あなたがたがこの国に住むことが定め

られているのなら、たとえ一粒の種に過ぎないとしても、そこに種を蒔きなさい。しかし、その種は愛と平和と霊性によって構成されていなければならない。 そうすれば、あなたがたの地上の歩みは実りのないものではなくなるだろう。今からすでに、私はあなたがたにこう指摘しておかなければならない。この国の使命がいかに崇高であろうとも、それを「約束の地」や「新しいエルサレム」として捉えてはならない。 誰をも惑わしてはならないし、あなたたち自身も混乱に陥ってはならない。主の弟子たち、すなわちスピリチュアリストたちに対して、父は物質的な財産を遺産として与えることはできなかった。この国の使命は偉大であり、この国は高い発展段階に到達することになっているのだから、その住民たちは、世界に私の臨在を告げ知らせる者たちであり、自らの模範と行いを通じて、私の教えの偉大さと真実を証しする者たちでなければならない。

58. わたしは、あなたがたの間で、あなたがたが世界をも揺るがすことのできる、わたしの啓示の輝かしい痕跡を残しておく。これが、神の啓示によって書き記されたわたしの言葉である。

59. まず、それは物質的な書物に記され、人々はそれを通じて私の秘宝庫に近づき、 において私の知恵に深く入り込むことができるようになる。その後、その真髄が私の弟子たちの心の中に守られたとき、主の民の霊の中に真の書が現れるであろう。

60. 私が声の媒体を通じて御言葉の波動を響かせたとき、私はあなたがたに恵みの賜物を惜しみなく注いだ。私は、私の霊界をあなたがたのもとに遣わし、そこが私のメッセージを説明し、解釈するようにした。私はあなたがたの道を奇跡で彩り、霊的な光景を仰ぎ見るあなたがたの目が驚嘆に満ちることを許した。 しかし、これらの顕現を喜び、これからも喜び続けるのは、あなたたちだけではない。なぜなら、わたしは「すべての目がわたしを見るようになる」と告げてきたからだ。そしてまことに、世界はわたしを見るようになり、霊界もまたその姿を現すだろう。そして、この世におけるこれらすべての顕現は、やがて最も不信仰な心さえも震え上がらせることになるだろう。

61. 人々は、信じることができるようになるために、霊的なものが物質化し、神聖なものが人間化することを切望してやって来た。そして、私はそのうちの何人かにこの恵みを授けた。

62. 人々よ、今こそ時が熟しているのだから、あなたがたが自らの使命を果たせるよう、地球上のあらゆる民族の中であなたがたに与えられた使命を深く認識しなさい。

63. わたしは、あなたがたの心に宿ることができるよう、その心を整えたい。世界もまた、その準備を整えるだろう。 人々の心の中に平和の種が芽生え、地球の隅々までその種を蒔いてきたあなたがたは、自らの働きの成果を目の当たりにしたとき、喜びに満たされるだろう。なぜなら、あなたがたは自らの道のりにおいて師を模範とし、いかにして正しく生きるかを示し、すべての人々のために祈ってきたからである。

64. あらゆる国々で、和解、兄弟愛、そして平和が語られるようになり、これが統一の始まりとなるだろう。

65. わたしはあなたがたを準備し、すでに、安らぎなくさまよう人々、すなわちあなたがたの同胞のもとへ旅立ち、わたしが霊感を受けた啓示として与えた知恵を示し、彼らの疑問に満足のいく答えを与える準備ができているかどうかを尋ねた。 この使命を果たすことが、誰にとっても不可能だとは思わないでほしい。私が与えた知識こそが、あなたがたにその使命を理解させるものであることを悟りなさい。

66. 私の子供たち全員が、あなたがたが「見知らぬ」と呼ぶ地域へ赴く必要はない。多くの場合、彼らが心の中で祈り、心を清めれば十分であり、そうすることで、彼らの霊は、 どのような距離にあっても、隣人たちに現れ、彼らと一つになるのだ。そして、その人々は霊界によって目覚めさせられるだろう。

67. あなたがたは霊界と一体となり、新たな戦争や新たな苦しみを防ぐ防護壁を築かなければならない。 また、暴力を用いて霊的な支配を実現しようとしている者たちのためにも、引き続き祈り続けなさい。人々が、理性や兄弟愛、正義を支配していたのは権力ではなかったと気づいたとき、あなた方は驚き、世界もまた驚嘆することになるでしょう。

68. 表向きは慈善行為を行っているように見せかけながら、心の中では利己心にふけることのないよう気をつけなさい。できる限り多くの善行を為しなさい。ただし、個人的な利益を求めずに。私があなたがたに教えた「愛」という律法に基づいて行いなさい。そうすれば、あなたがたの魂の昇華に向けた功徳を積むことになるでしょう。 私があなたがたに与えたとおりに、私の教えを広めなさい。それは、私がかつて預言者や使徒たちに明らかにしたものと同じである。

69. 物質主義に囚われた人間は、私があらゆる時代に伝えてきた私の言葉を歪曲することに、自分たちの利益を見出してきた。しかし、私の業は完全であり、物質的な言葉に基づいているのでは

ない。 備えなさい。そうすれば、あなたがたは常に私の真理を見出すでしょう。そうすれば、私がいつの時代も寛大にあなたがたに私の「種」を与えてきたこと、そして、あなたがたもまた同じ愛と慈悲をもってそれを伝えていくためであることを、あなたがたは気づくでしょう。

70. 儀式や外見的な形式を用いて誰かを感銘させる必要などない。あなたがたの心の神殿が明らかになり、その中で、あなたがたの隣人たちは、その永遠の光と祭壇を目にするだろう。

71. 今すぐ、わたしを感じ取ることを学べ――善行を行うときも、また、陥ってしまった泥沼から抜け出そうともがいているときも、同様に。

72. わたしは、単純さの中に真理を求めるよう、あなたがたに教えてきた。自ら生み出した複雑な科学の中に真理を求めようとする人間の知性は、なんと貧弱なことか！ 自分の中にわたしを宿しているのに、なぜそれほど遠くにわたしを求めるのか。 自分が父の似姿として創造され、霊、知性、意志といった神聖な資質を授かっていることを、知らない者がいるだろうか？

73. わたしは第二の時代に人々と共に生き、あなたがたのパンと家を分かち合った。しかし、キリストの偉大さは、その謙遜に根ざしている。

74. 私がこれを教えるのは、あなたがたが隣人への愛のために、物質的なものから離れる術を身につけるためである。しかし何よりもまず、 、自らを清めなければならない。なぜなら、あなたがたが発展すべきであるというのは法則だからだ。そして、万物が発展すべきであることが法則であるならば、まだ成就すべき預言に、あなたがたが驚いてはならない。 あなたがたの目に映るものは、すべてが至高の完全な法則によって支配されており、今日あなたがたの魂に起こっていることは、以前には起こり得なかったことであると悟ったとき、初めて喜びで満たされるでしょう。なぜなら、すべては完全さに達するまで、その時期が来て初めて明らかになるからです。

75. 人類の進歩のために奮闘しているのは、この地上だけではない。他の世界からも、霊界は人類の救いと進歩のために尽力している。それゆえ、私はあなたがたに告げる。スピリチュアリズムの種は、あらゆる宗教共同体の懐において実を結ぶであろう。 大きな論争の末、人々が「それは不和をまき散らす新しい宗教だ」と言うならば、あなたはこう答えるべきである。「スピリチュアリズムは教えであり、まさに人類に最初に与えられたものであり、魂を

導いてきた唯一の教えである」と。 しかし、その声は、あなたがたの心の中から、すなわち感情が宿る場所から湧き出るだろう。それは、他者の苦しみのために涙を流すとき、あるいは隣人の喜びに涙を流すときに、明らかに現れるものである。なぜなら、私が常にあなたがたに教えてきたのは、互いに愛し合うことだからである。

76. 私は、人間の知性を通じてあなた方に語りかけている。私の光と恵みがその知性を満たし、言葉となる――それは、私のもとへ至る唯一の道、すなわち、感情の純粋さと謙虚さという道を指し示す言葉である。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 190

1. 民よ、人類よ。この時代、エリヤの存在はすべての人のそばにある。

2. この啓示を喜ぶ人々の群れよ。エリヤの声を聞きなさい。タボル山で私がその使命の重要性を明らかにしたにもかかわらず、人類の意識にはその名がほとんど残っていなかった。しかし、あなたがたはこの啓示を深く探求しようとはしなかった。 今、あなたがたはエリヤの声を聞き、その臨在を感じ、まるで彼の燃えるような戦車の到来を耳にしているかのように思えるでしょう。

3. エリヤは、あなたがたの道を照らすために、私が常にあなたがたに送り続けてきた一筋の光である。あなたがたが道を見出し、あなたがたを父が待ち受ける地点へと近づけてくれる方に従うことができるよう、この地を照らしたのは彼である。彼は、あなたがたが父をよりよく理解できるよう、この時代に説明してきた魂の偉大な秘義の仲介者である。 今日においても、彼は「最初の時代」と同様の使命を果たしている。すなわち、偶像を祭壇から追い払い、世界に真の霊的な神への崇拝を教えることである。

4. エリヤのもとでは、今日の人々がこれほど激しく反対している輪廻転生の法則について、その説明と実証を見出すことができる。また、彼が預言者エリシャの口と知性を通じて霊的に現れたとき、人間の知性による啓示とは何かについて、教えと解明も発見することができる。

5. エリヤがこれまで、どれほど多く、どれほど偉大な教えをあなた方に与えてきたか、また、彼があなた方の霊をいかに導いてきたかを見てください。 彼がいつの時代も、あなたがたには説明しがたい偉大な啓示をどのように明らかにしてきたか、よく見てください。しかし、かつてあなたがたが理解すべきではなかったとされていたそれらの知識のすべては、今、この第三の時代に、すべてをその真の意味で回復するという使命を帯びてやって来る、まさにそのエリヤによって、あなたがたに説明されることになるでしょう。

6. 精神の光が息吹き始めると感じ、「エリヤが来た」と言い、さらに「主の再臨が近づいている」と付け加える、この世のすべての人々に祝福あれ。 ― かつての「第二の時代」のように、人々はヨハネが天の御国の奇跡を預言し語っていることを悟り、「もしかすると、彼はエリヤだろうか」と言ったのと同じように。

7. 偉大なる預言者、先駆者、使徒は、あなたがたの中にいる。しかし今、彼は人間として現れたのではなく、霊界に存在している。そして、彼が自らを現すために用いた光の輝きは、かつて偽りの神々を滅ぼすために用いたものと同じであり、 主の民の心に真の信仰の火を灯すために用いたものと同じである。

8. 魂たちよ、彼に従え！人類よ、彼の言葉に耳を傾けよ！彼は、あなた方を私の懐へと導く羊飼いであり、救いの港へと至る道を照らし、示す灯台である。

9. 時は過ぎ去り、私がもはやこれらの代弁者を通じてあなたがたに語りかけなくなる日が近づいていることを悟りなさい。私の教えを活かした者たちは平安のうちにいるだろう。しかし、この形での私の臨在をむなしく探し求める多くの「孤児」たちが現れるだろう。 しかし、私は去ることはなく、あなたがたのすぐそばにいて、霊から霊へと備えを済ませた者たち一人ひとりを通して語りかけるでしょう。

10. やがて、様々な宗派や宗教団体が主の到来を告げ、すべての前兆が成就し、今こそその時が来たと主張する時が来るだろう。真理を知るあなたがたは、私について知っていることを彼らに伝えるべきである。 1866年以来、私は慰めの御霊として現れ、私の民――すなわち、私が福音を宣べ伝える者たち――を訪ねてきたのだ、おお、人類よ！

11. あなたがたは、――わたしを待ち望んでいたにもかかわらず――先行するしるしを適時に見抜くことができず、直感によって示されたことを理解するのが遅れてしまった者たちに対して、距離を感じてはならない。こうした違いゆえに、自分自身を見誤ってはならない。彼らはわたしの臨在の証人となることはできなかったが、わたしは彼らの魂を照らし、彼らは正しい道を進んでいる。あなたがたは皆、その理想の下で一つになるだろう。

12. わたしの選ばれた者たちは、その木のさまざまな枝に身を置いている。1950年より前に、わたしの啓示に立ち会うためにやって来る者もいれば、時間をかけようとする者もいるだろう。声の媒体を通じてわたしの言葉を聞く者たちは幸いである。彼らは、その声をすでに知っていること、それが人間のものではなく、わたしから発せられたものであることを、自らの内面で感じるだろうから。

13. 私は、あなたがたに、良心に導かれるべきであること、自らを解放し、不完全な礼拝形式や偏見、教義に服従させようとす

る者たちの奴隷に二度とならないようにと告げるためにやって来る。

14. あなたがたは皆、私の「働き手」、すなわち私の教えの使者となることができる。あなたがたの闘いにおいて、孤独を感じることはないだろう。私の懐に抱かれていれば、安全であり、恐れることは何もない。

15. 全被造物の上に立ちながら、その中に脈打つわたしが、わたしの最も愛する被造物である人間を通して語っている。わたしが、軽んじられている者たちや、教育を受けていない者たちを通して自らを現し、悲惨と貧困に満ちた場所で自らを明らかにすることについて、驚いてはならない。 あなたがたにとって宮殿であるものが、私にとってはそうではないことを、私は保証する。それどころか、あなたがたがただ貧困とみすぼらしさしか見出せないような場所であっても、その奥底には真の霊的な輝きが存在している可能性があるのだ。

16. 私がこう言うのは、多くの人が心の中で、「なぜ私は大きなシナゴーグや壮麗な教会の内部で御自身を現さないのか」と疑問を抱いているからだ。当時もまた、多くの人々が、「なぜメシアはシオンの神殿の陰で生まれ、育たなかったのか」と疑問に思っていた。

17. 当時も今も変わらず、私はあなたがたにこう教える。父のもとへ直接届くものは、あなたがたの心の清らかさである。なぜなら、その鼓動の一つひとつが、あなたがたの善行を私に語りかけているからだ。

18. 私が常にどれほど謙虚な姿であなたがたの元へやって来たか、よく見てほしい。私はいつの時代も、玉座も、笏も、宮殿も持たず、常に簡素さと柔和さに包まれてやって来たことを心に留めてほしい。 もし、貧しい人々、社会から疎外された者たち、相続権を奪われた者たちが、私が華やかさと贅沢に囲まれて彼らのところへやってくるのを見たら、彼らは私をどう思うだろうか。彼らは屈辱を感じ、私にふさわしくないと感じるだろう。それに対して、貴族や富める者、この世の権力者たちは、私を自分たちの社会階級や身分にふさわしい神と呼ぶだろう。

19. 世界の貧しい人々が、十字架の重みに耐え、裸足で、息を切らし、血を流しながらの私を目にしたとき、彼らは主の謙虚さに心を打たれ、共感のあまり身震いし、主と一体であると感じる。一方、富裕層――実際にはそうではないにもかかわらず――は、庶民と同じ感情を抱くべきであるにもかかわらず、私の貧しさを理解

することができない。 そして彼らは、私を描いていると称する像を、紫の布や金、絹、そして彼らが宝石と呼ぶもので覆い隠してしまう。彼らがそうするのは、私の教えを忘れてしまったからであり、それゆえ、私の教えと最も対立するものである「虚栄」というもので、私を取り囲もうとしたのである。

20. 改めて言っておくが、私はどの教会に対しても非難しているわけではない。なぜなら、それらはすべて、私において祝福されているからだ。しかし、あなたがたも理解しなければならないのは、私が師として、人間が犯した過ちをその名指しで指摘しなければならないということだ。そうしてこそ、あなたがたはいつかそれらを正すことができるのだ。もし私があなたがたが真理を発見するのを助けなかったとしたら、あなたがたはいつ、自分たちだけでそれを見つけられるというのか。

21. 私の真理が光を生み出し、すべての人、あらゆる宗教共同体、そしてあらゆる民族へと愛が届けられるようにしなさい。私が、*あなたがたの*真理、あるいはあなたがたが真理として定めたものが、私のもとへ届くことを許しているのと同じように。私がすべての人々から受け取っている、このあなたがたの真理とは何なのか。それは、あなたがたの祈り、信仰、そして希望である。

22. 魂が私に向かって立ち上がり、私に語りかけるとき、その魂の中に存在するこの光は、あらゆる闇や嘘から解き放たれ、その魂が内に抱く真実だけを私の前に示すのだ。なぜなら、悪者でさえ、私に懺悔するとき、私を欺こうとすることなく、自らの汚点を私にさらけ出すのだから。

23. 人間には、他者がわたしを求める方法を非難することなく、自らを完成させ、この地上の生活をより良いものにしていく責務がある。あなたがたの行いの真偽を判断できるのは、わたしだけである。

24. 偶像崇拝者からスピリチュアリストに至るまで――彼らは皆、わたしの光と視線の下にある。あなたがたが精神的に未熟だと見なす者から、しばしばその高揚の大きな証しを受けるのと同様に、わたしは、自らをスピリチュアリティの先駆者だと自負する者たちからも、しばしば大きな後退の証しを受けることを、あなたがたに保証することができる。

25. この時代、私を受け入れたのは*ただ一つの*信仰の民だけであり、私はその民に、私の知恵が込められたこの一ページを託した。しかし、私の愛に満ちたこの一ページには、地上に存在するすべての宗教に向けたメッセージが込められている。

26. わたしの光は、神聖で普遍的な夜明けのようにすべての人々を目覚めさせるだろう。そして、人が新しい一日を生き抜くために立ち上がったとき、その感覚は神の近さを体験するだろう。

27. 今、私はあなたがたにこう告げなければならない。天の御国が人々のところへ降りてくるのではなく、むしろ、人の魂こそが、天の父の御国へと昇っていくのである。

28. なぜ、あなたがたはいつも、私が非難をもってあなたがたのもとに来るようなきっかけを作ってしまうのか。私はあなたがたへの愛ゆえに来るのだ。あなたがたの心に痛みを抱えているのを見て、あなたがたを慰めたいからである。なぜなら、私はあなたがたの魂の中に私の平安があることを望んでいるからだ。

29. 時には私はあなたがたに裁き主として現れ、時には父として現れ、そして常に師として現れる。これら三つの現れの中に、あなたがたは神の本質、すなわち「法」「愛」「知恵」という、一つである神の本質を見出す。*これ*こそが、私の霊の中に存在する三位一体である。

30. 目を閉じ、魂を解き放ちなさい。そうすれば、魂は師との結びつきを感じるこの瞬間を深く体験することができるでしょう。魂が主に近づいていると感じられるようにしなさい――まるで、第二の時代に、師の教えを一つも聞き逃さないよう、道や谷、村、川、砂漠を越えて師に従った人々のように。 そうすれば、私が時に、この世の事物を使って霊的な事柄を表現し、それをあなたがたに理解しやすくするために用いる際、比喩的な意味合いを、あなたがたは理解できるようになるだろう。私の言葉が、あなたがたの魂を天の御国へと近づけていくのを、あなたがたは体験することになるだろう。

31. 人々よ、ここへ来なさい。私があなた方を教えよう。それとも、あなた方の生涯を通じて、苦痛が教えを与え続けることを望むのか。

32. 私の農園に来て、兄弟愛の種を畑に蒔きなさい。この働きは、この世のようにあなた方を失望させることはない、と私は保証する。

33. ここには、あなたがたの魂のすぐ目の前に、歩みを進め、決して立ち止まることのないよう招く道がある。なぜなら、その道であなたがたが踏み出す一歩一歩が、魂を、待ち受ける完全なる故郷へと近づけていくからである。

34. 私がこの形であなたがたに教えを授けるために、あなたがたと共に過ごす時間はすでに非常に短くなっている。私は、あな

たがたが功徳を積むことを学び、この最後の数年間、これらの声の媒体を通じて私の言葉が豊かに響き渡ることを望んでいる。

35. 神の啓示が、あなたがたの功徳に対する報いとなるためには、何をなすべきか。それは、あなたがたの信仰、熱意、そして霊性を開花させることである。民の懐には愛が支配し、積極的な隣人愛を実践し、真理を愛さなければならない。

36. まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが、わたしの御心に従って団結しなければ、人類はあなたがたを散らし、その中心から追い出すだろう。なぜなら、あなたがたの生活が、あなたがたが説く教えからかけ離れていると、人々が気づくことになるからだ。

37. もし人々が、どの教会においても神への礼拝の仕方も、わたしの教えを実践する方法もそれぞれ異なっていることに気づいたら、どうなるだろうか。彼らは、あなたがたを導いたのがわたしであったことを理解できなくなるだろう。

38. 私は、この啓示の最後の三年間をあなた方に託し、この民の統一のために尽力するよう求める――それは、霊的な側面と外的な側面の両方を包含する結束である。そうして、あなた方の取り組みが調和と一致に満ちたものとなることで、 、異なる教会や異なる地方にいるあなた方全員が、ただ一人の師――すなわち神――によって教えられたという最良の証拠となるのだ。

39. あなたがた全員が、霊の目をもって人類に迫り来る時代を見通したわけではない。あなたがた全員が、その痛みを感じ取ったわけではない。しかし、私は今、あなたがたと共に数多い民を育て上げ、私を愛し始め、今や人間の心を実りあるものにするために献身することを切望する勤勉な働き手へと変えつつある。

40. わたしの御言葉の種蒔き人たちよ。畑で働く時が来たら、わたしがあなたがたに教えた信仰に満ちて、身を引き締めなさい。嘲笑も侮辱も恐れてはならない。肥沃な土地に種を蒔きなさい。岩の上や流砂の上には蒔いてはならない。そこでは種は実を結ばないからだ。 種が芽を出し、成長する様子は目にするだろうが、実を結ぶことはないだろう。茨や雑草の中に蒔いても、やはり実を結ばない。それゆえ、あなたがたは私の霊感を受けるよう祈らなければならない。そうすれば、準備の整った土地を見極めることができるようになる。土地の所有者である私は、あなたがたに耕作するための広大な土地を与える。 大きな働きへの意欲に満ちていなさい。種を蒔けば、収穫があるだろう。そして、あなたがたが収穫した小麦で、生計を立てるためのパンを焼く日が来るだろう。私が比喩

的な意味で語っていることを心に留めておきなさい。あなたがたは、その収穫を来世になって初めて手にするのかどうか、まだ知らないのだから。

41. 今日、私はあなたがたにこう告げる。私があなたがたに託したこの身体を通じて成し遂げなければならない業は、偉大なものである。この身体はあなたがたの支えであり、あなたがたはそれを賢明に導かなければならない。

42. この世界は、私が予告した疫病や災難に見舞われている。世界は徐々に恐怖を抱き始め、立ち上がろうとし、救いの手や励ましの言葉を求めている。そして、あなたがたこそが救いである。

43. あなたがたは、苦しむ人々の元へ向かうために、他の地域や国へ行くべく、海を渡り、山を越えなければならない。その道を恐れてはならない。予備のズボンなど持ち歩かず、質素な身なりで旅立ちなさい。

44. 私があなたがたにその使命を示したとき、「自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」と告げた。なぜ、この世の安楽を失うことを恐れるのか？――あなたがたは、この世を愛しており、この使命に必要な犠牲や肉体的禁欲を払うことができないと、私に言う。 しかし、私は先回りしてこう言っておく。どんな年齢であれ、 な状況や体調がどうであれ、義務を果たし続けながら、私を愛し、私に仕えることはできるのだ。

45. あなたがたの模範によって世界を変え、邪悪な偏見を取り除き、この世界を涙の谷ではなく、楽園に変えなさい。

46. 私は、あなたがたに地上の使命を果たすための短い時間を与えます。

47. あなたがたは、子供たちに霊性の遺産を残さなければならないことを心に留めておきなさい。なぜなら、その子孫の中から、私が自らを現すことになる祝福された世代が現れるからです。それらの魂の中には、預言者や私の言葉を解釈する者、そして人類に道を指し示す大いなる信仰を持つ者たちがいるでしょう。

48. あなたがたは、わたしの言葉に従って生きたいと願うのか。わたしに耳を傾け、わたしに従おうとするあなたがたを、わたしは祝福する。あなたがたの心は恵みに満ち溢れている。それを求める者すべてに、その恵みを分け与えなさい。

49. この時代、あなたがたは私の教えを受けるためにここに集まってくる――ある者は弟子として、ある者は初心者として、またある者は好奇心に駆られて。しかし、あなたがた全員が、平安と

心の安らぎ、そしてこの時代にふさわしい預言の成就を求めている。

50. 諸宗派や教会において、あなたがたは私の再臨についての完全な確信を見出せなかった。私が使者を遣わし、この喜びの知らせをあなたがたにもたらしたのは、それらの組織の外であった。私は、あらゆる魂を裁き、人類のための新しい生活、新しい霊的秩序の礎を築くために来たのである。 あなたがたが備えを整えれば、この世から「霊的な谷」の完全さを眺めることができるようになるでしょう。そこには、義人の魂――自らの功績によって高みへと昇り、今日、わたしと一つとなって、あなたがたの救いのために働いている者たちの魂――が住んでいるのです。

今日、あなたがたが理解できなかったすべてのことは、この素朴な民の懐の中で悟ることになるでしょう。なぜなら、私の光が注がれ、あなたがたの目を覆っていたベールは引き裂かれたからです。――私は、霊的なものや神聖なものに対して閉ざされていた魂の目について語っているのです。 あなたがたはこの光を取り戻し、わたしに導かれている。これからも目を覚ましていなさい。もしあなたがたが肉体を制御し、魂が柔和さをもってわたしの歩みに従うならば、その光は祝祭の衣のようにあなたがたを包み込み、周囲の人々はあなたがたがわたしの選ばれた者たちの一員であることを悟り、あなたがたは人々から愛され、尊敬されるようになるだろう。

51. あなたがたは善の戦士である。私は、あなたがたが*罪と*戦うことができるよう武器を与えたが、それは同胞と戦うためではない。 私は、人間が罪の中に生まれ、育ち、そして死ぬことを望まない。 自分がこの地上に持ち込んだ祝福された使命を知ることなく。もしあなたがたが私の教えを深く理解すれば、強くなり、無敵となるだろう。あなたがたを陥れるような誘惑は存在せず、そのように備えられたあなたがたは立ち上がり、人間以上の存在――人類の幸福のために現世に降り立った天使となるだろう。

52. 召された者は多く、選ばれた者は少なく、その中でも特権を与えられた者はさらに少ない。しかし、もし彼らが驕り高ぶるならば、彼らには災いが降りかかるだろう。彼らは、私が知恵と恩寵と権力を授け、統治すべき民を託したソロモンのようになってはならない。 しかし、彼がその高潔な精神の証しを示した霊的な偉大さの時期を経て、彼は警戒を怠り、肉に支配されるようになり、愛と正義にインスピレーションを受けた彼のすべての業は、その自己満足的で肉欲的な行いによって覆い隠されてしまった。たとえ私

があなた方を通して大きな恩恵を施しているのを見ても、高慢に陥ってはならない。 もし私が、ある地域や国家を統治するためにあなた方を選び、あなた方が私の導きによって公正な法律を制定したとしても、人間のように驕ってはならない。そのときは、魂を高め、私の前にひれ伏さなければならない。

53. 多くの人々が、わたしが選んだこの地を訪れ、その住民たちを通して映し出されるわたしの光を見出し、あなたがたを知り、第三の時代にわたしの民を教え導くために彼らを一つにまとめたこの地を踏むとき、幸福を感じるだろう。 1950年以降にやって来る者たちは、聖典を求め、わたしの啓示を知れば、わたしの教えから発せられる力を感じ、あなた方を祝福し、わたしを愛するようになるだろう。そのうちの何人が「イスラエルの民」、すなわち14万4千人の「印された者たち」に属し、わたしの命令に従うためにあなた方に加わるだろうか。

54. 今日、諸国は物質主義と方向性の喪失に染まっている。わたしは霊的に彼らに語りかけ、わたしの種は選ばれた者たちの心に蒔かれ、そこから至る所に広められるようになっている。あなたがたは、それぞれの国から、できる限り、すべての人が霊的な道を歩むのを助けるように努めなさい。

55. 今この瞬間、わたしを取り囲む弟子たちの数は少ない。しかし、わたしの言葉は地の果てまで広がっていく。愛に満ちたその言葉は、愛を渇望するすべての人々の心に届くであろう。

56. 今こそ、あなたがたが人類に対して果たすべき使命を知るのにふさわしい時である。私は、あなたがたがこの世で使命を遂行する方法を理解し、物質的な壁の向こう側、すなわち霊的な生命が始まる場所で何が待ち受けているのかを知ることができるよう、を準備してきた。 私は、あなたがたが精神的に成長し、理性では理解できない出来事がなぜ起こるのかを、自らの力で理解できるよう、助けてきました。

57. 魂が肉体と融合している限り、魂は自らの過去世における功徳を認識することも、知ることもできない。しかし今や、魂は自らの生が永遠であり、至高の境地に達しようと努める中で絶え間なく高みへと発展していくものであることを知っている。だが、今日のあなた方は、自分たちがどの高みに達したのかを知らない。

58. 私は、あなたがたが混乱した心と未熟な知性を抱えて人生の旅を始めた時から、ずっと見守ってきた。あなたがたが次第に目覚め、成長し、現実についてより明確な認識を得るようになるまでを見てきた。 私は、あなたがたが逆境や試練、誘惑と闘う姿を

見てきました。そして、あなたがたがより高い段階へと発展し、ついに霊的な生活の価値を見出したとき、私はあなたがたの魂が微笑むのを見ました。その微笑みは、平安と満足、そして希望を表していました。 しかし、私はまた、あなたがたが後退し、この世で汚れにまみれるのを見てきました。その時、あなたがたは嘆き、私の恵みを得るために自らを清めなければなりませんでした。しかし、その転落の中にあっても、あなたがたは一つの光、すなわち経験の光を見出しました。

59. 今や、あなた方にはもはや自分自身を欺くことのない機会が与えられている。なぜなら、真実の明瞭さを覆い隠していた目隠しを、私の光で引き裂き、確かな足取りで前進するための広大な地平線を視界に捉えたからである。

60. その道を照らす光は明瞭である。あなたがたが、地上の快楽や所有物という偽りの輝きに惑わされ、あえて真理に背こうとしない限り、もはや道に迷うことはない。

61. また、私は、あなたがたに「自分自身を信頼して生きよ」と言うことも、あなたがたがあらゆる誘惑の衝動から自由であると言うこともできない。なぜなら、私が今、あなたがたと共に築き上げているものを打ち壊そうと争う力があるからだ――その力は、その邪悪な本質を隠し、魅力に満ちた姿を見せている。 私がこれについて警告するのは、あなたがたが信仰の力によって身を守れるようにするためである。

62. 私が存在するすべてのものを創造した人間としての使命は、真理を悟り、高みへと成長することである。しかし、その道は長く、その道においてあなたがたがすべての能力を に発揮し、私を見、感じ、愛することができるようになるまでには、まだ道のりが残されている。 その道には茨があり、岩だらけであり、あなたがたがその道を選んだ際の力と信仰を試すことになるでしょう。その道を歩み終えたとき、魂は清められるでしょう。

63. もう一つの道は、気まぐれや回り道に満ちた道である。しかし、この道は快楽をもたらし、明らかな魅力を備えているため、あなたがたは人生を楽しんでいるうちに、遅れていることに気づかぬまま、歩みを止めてしまう。しかし、この道を進んでいる最中に死の刻が訪れれば、自分の魂の完成のために何一つ成し遂げていないことに気づき、果てしない苦しみを受けることになるだろう。

64. 私は、人間の目に映る道を一つひとつ挙げていくこともできる。その数は多いため、最もふさわしい道を選ぶことは困難に思える。

65. 魂が地上に宿るためにやって来た際、その発展と完成のための機会として、物質、すなわち人間の身体が与えられた。その驚くべき完全な造りにより、魂は自らの精神的能力に応じて、それを通じて感じ、考え、意志によって動くことができるのである。

66. 魂は、肉体の苦しみによって試練にさらされるのと同様に、肉体の満足にも与っている。しかし、人間という存在もまた、*魂の*喜びや苦しみを受け入れることができる。両者が結びついている限り、それらは一つの存在を成している。

67. 人間の被造物には完全性が備わっている。それゆえ、「御言葉」であるキリストは、あなた方と同じような人間の肉体をもって人となられた。しかし、キリストはご自身の不完全さのために苦しまれたのではなく、深く堕落してしまった人々を、ご自身の苦しみと犠牲、そして御言葉によって高めてくださるために苦しまれたのである。

68. もし魂が全力を尽くしても、肉の頑なさと反抗心を克服できないならば、*魂*と肉を創造された父の慈悲深い愛が助けに来て、善き羊飼いのように、迷い出た羊であるあなた方を救ってくださる。なぜなら、わたしの子供たちのうち、だれ一人として失われてはならないからである。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 191

1. わたしの食卓にあるパンとぶどう酒には、永遠の命の種が宿っている。それを受け取り、食べ、飲みなさい。もはや飢えや渇きのために泣くのはやめなさい。わたしはもはや、あなたがたの嘆きやすすり泣きを聞くつもりはない。 私は、わが子たちの顔に喜びと平安を見たいと願っている。父として、私は愛そのものであり、師として、私は依然として愛である。たとえ私が容赦なき裁き主として現れたとしても、その正義の中にも、私の愛は宿っているのだ。

2. その理由は、わたしの霊の本質が愛であるからだ。その愛の中に、あなたがたの始まりと終わりがある。弟子たちよ、近づきなさい。かつてわたしが人間としてあなたがたの中にいたあの頃のように、師の周りに座りなさい。 イエスであった神聖なる師の愛に満ちた声を、あなたがたの魂が思い出すようにしなさい。私の言葉を聞くために、あなたがたが私に従って、川沿いの草原や川岸、砂漠、そして山へと向かったあの時々のことを、魂が思い出すようにしなさい。

3. あなたがたの魂は、あの師の御言葉を聞くうちに、天の御国へと移された。その師は、地上の形や生き物を用いてたとえ話を紡ぎ出し、人々に天の御国とはどのようなものかを伝えようとしたのである。しかし、信じる者もいれば、疑う者もいた。それでも、すべての心に平安が満ち溢れ、すべての病人は癒やされた。 私は、あなたがたが私のそばにいるとき、まるで人里離れた谷にいるかのように感じてほしいと願っている。集会室の壁や象徴的な物事が、あなたがたの視界から消え去るようにしなさい。そうすれば、あなたがたの魂が私のもとへ昇るのを妨げるものは何もないだろう。

4. 弟子たちよ。私があなた方を「神の民」、すなわち「愛され、選ばれた民」と呼んだからといって、私がこの世の他の共同体たちをそれほど愛していないなどとは決して思ってはならない。いつかすべての人々が私を認識した暁には、私は彼らを一つにまとめ、誰もが等しく愛される霊的な家族を築き上げるだろう。

5. いかなる民族や人種に対しても、霊的に劣っているなどと考えてはならない。 もしあなたがたが自分たちだけが特権階級であると考えるならば、私は真実を告げよう。私が創世の初めからあなたがたに神の啓示や預言を与えたのは、あなたがたが最も愛されているからではなく、あなたがたが人類の中で霊的な意味で「長子

」であるからに他ならない。虚栄心ではなく、責任感を抱くべきであることを悟りなさい。

6. イスラエルの歴史を顧みれば、父がイスラエルに授けた な遺産と恵みを、いかなる時も他の民族と分かち合うことはなかったことがわかるだろう。イスラエルは、わたしの律法と教えが命じたこととは正反対の行いをしたため、その利己心の中に閉じこもり、与えられた賜物を自分たちのためにのみ用いたのだ。

7. この時代において、私は再びあなたがたの魂を整え、それを照らし、あなたがたが自らの使命――すなわち、同胞たちを戒め、祝福し、救うこと――を果たすべき道へと、改めて導くためにしたのだ。

8. まもなく、あなたがたはこの言葉を聞くことはなくなるだろう。しかし、だからといって、私が去ってしまったとか、あなたがたを孤児のように、また成長の道から迷い出た者として一人きりにしたなどとは考えてはならない。私の神聖な御霊は、あなたがたを準備の整った状態で残し、その後も引き続きあなたがたを見守り続けるだろう。神聖な影のように、私はあなたがたの歩みに従う。私はこれからも、あなた方に霊感を与え続け、あなた方の口を通して語り、あなた方を介して病人を癒やし、あなた方の声によって「死者」をよみがえらせ、そしてあなた方が一つになったとき、私はあなた方の内に私の真の聖所を築き上げるであろう。

9. この時代、私は人間の心がかつてないほど不毛であることに気づいた。それは、石だらけの土地、石化した大地であり、雑草やイラクサ、アザミに覆われている。 至る所で雑草や有毒な実をつける木が生い茂っている。水は汚染され、泉は枯れ、井戸は濁り、川はもはや流れていない。庭には花がなく、たとえいくつか見つかったとしても、それらは枯れ果てている。木々には巣も鳥もいない。 疫病がすべてを飲み込み、食い荒らす虫がすべてを破壊している。これこそが、この時代の人類が私の目に映す光景である。しかし、私はあなたがたに種、水、そして農具をもたらすために来たのだ。そうして、あなたがたに割り当てられた畑へ赴き、それを耕すことができるようにするためである。

10. 私があなた方の元を去るのが早すぎるとは言うな。今回、私が「第二の時代」のようにあなた方に語りかけたのは、単なる三年だけではなかったことを心に留めておきなさい。当時、三年あれば、私の奇跡の知らせをユダヤの境界を越えさせ、王国や帝国を震撼させるのに十分だった。この三年の間に、私の弟子たちは師となった。 私は彼らに愛を目覚めさせ、人類は恩知らずであるもの

の、その恩知らずさにもかかわらず高潔さを備えていることを示した。そして、その高潔さこそが、すべての人間が私の神性の子供であるゆえに、その内に宿している神の愛の火花なのである。

11. イエスの教えは、人間の心の最も深い根底を揺さぶった。そこで私は、今もなお住まう神殿を築いた。 しかし、権力、富、世間の名声、そして快楽への欲望に駆られた人間は、生活、慣習、法律、そして な原則を変えてしまった。それゆえ、キリストが地上の民のもとに戻り、彼らを深い眠りから目覚めさせ、再び道を指し示す必要があるのだ。 ここに私はおり、1866年から今日に至るまで、次々と現れた多くの代弁者たちの口を通して、常に同じ言葉、同じ本質、同じ啓示と預言をあなたがたに語り続けてきた。

12. 私が説教をしてきた期間は、3年というものではなかった。あなたがたが最終的にそれを理解できるよう、私の教えを多角的に解説するために、説教の期間を延長する必要があったのだ。 私の弟子たちは、私を愛し、私を信じると公言した後、私の真理の現れや証拠を受け取ったにもかかわらず、どれほど頻繁に私から離れ、私を否定することか。しかし、彼らが破滅に陥ると、嘆き、悔い改め、私にこう言うのだ。「あなたは師です。助けてください」と。 無限の愛と忍耐そのものである私は、その者を抱き上げ、私の元へ引き寄せ、私の食卓の最高の席に座らせ、「あなたは『放蕩息子』だ」と告げる。私は祝宴を開き、その者は喜びに満ちる。そして、皆――師である私を除いて――その者が永遠に悔い改めたと信じるや否や、彼は再び誘惑に陥ってしまう。 私は、多くの者が倒れ、立ち上がり、私のもとへ戻ってくるのを、何度となく見てきた。それこそが、1950年まで、あなたがたへの私の啓示の期間が延長された理由である。それは、あなたがたを一度、二度、三度と迎え入れ、最終的には、人生において力強く歩み続けられるようにするためである。

13. この世が、あなた方に提供できる新たな魅力や体験など、一体何があるというのか。科学があなた方のために用意できる嬉しい驚きなど、一体何があるというのか。あるいは、肉体があなた方に与えてくれる新たな喜びなど、一体何があるというのか。 悪徳と罪の道において、あなたがたに学ぶべきことは何があるというのか。もしあなたがたが新たな満足を渇望し、真の喜びを望み、教えと平安を切望するならば、私の領地へ来なさい。私の道を歩み、私の種を蒔くことを学びなさい。そうすれば、あなたがたが渇望しうるもの以上のものを、きっと見出すだろう。

14. この業を純粋で、完全で、無限であると評価しない者は、真理を認識し、真の知恵の宝庫に近づくために視力を研ぎ澄ませていないからである。その者は非常に未熟であり、私が彼に啓示すべきことを、今なお彼の目の前に示し続けていることを許していないからである。

15. この啓示の最後の三年間が近づいている。それらは、私が「第二の時代」に説教を行ったあの三年間を象徴するものである。

16. 私は改革を行う――私の律法ではなく、あなたがたの礼拝の儀式についてである。私は長い間、あなたがたが自発的にそれを行うのを待っていたが、あなたがたはその一歩を踏み出さなかった。

私は1950年に去ることを皆さんに告げました。その時には、私の声の媒体や霊的才能を持つ者たちの脳は、こうした啓示に対して閉ざされるでしょう。その時には、霊と霊との対話が開始されると、私は皆さんに伝えてきました。しかし、準備をしていない者たちは、一体どうするのでしょうか？ ― 彼らは引き続き私の神聖な光線を呼び求め続けるでしょうが、それはもはや降りてくることはありません。そして、彼らは、私が依然として彼らの知性を通じて現れているかのように語りかけるでしょう。彼らの予言者たちは、私がそこに臨在していると証言し、癒し手たちは恍惚状態に陥り、それは霊界が語っているのだと言うでしょう。 そうして、彼らは私の意志に従った者たちを嘲笑するだろう。彼らは、父なる神からその者たちへの恵みが取り上げられたと言い、大きな混乱が生じるだろう。

17. よく考えてみよ。もし彼らが諸国民への先駆者や使者として旅立ったとしたら――そのとき、あなたがたに何ができるというのか。あなたがたは、誤りと欺瞞だけがまかれた畑に遭遇することになるだろう。まだ時間はある。よく考え、世界があなたがたに問いを投げかけるその時に備えよ。 なぜなら、世界はただ私の言葉を究明するだけでは満足しないだろう――その言葉は常に純粋なままであるからだ――、むしろ、この民の間に実を結んだ実を追い求めるだろう。その後、あなた方の同胞たちは、私の教えと啓示の確証を見出すために、あなた方の生活、行い、そして礼拝の儀式を究明しようとするだろう。

もしあなたがたが、ただ私の言葉を知るだけで救われるのであれば、人類はモーセの時代、律法の啓示によってすでに救われていたはずである。それにもかかわらず、その後、師となったキリス

トが来なければならなかった。 そして今日もなお、私は御霊によってあなたがたのもとに来り、たゆまず語りかけ、あなたがたを救い、私の右の座へと導くものは、愛と謙遜と憐れみの行いであることを、あなたがたに理解させようとしている。 あの時代の私の使徒たちを覚えていないのか。彼らは言葉による証しにとどまらず、その行い、自らの命、そして血をもってそれを確証したではないか。

18. 今日、私が望むのはただ一つ、あなたがたの心の扉が隣人への深い思いやりに満ちて開かれることである。 そうすれば、人類は、私の新しい弟子たちの徳によって、この業が単なるもう一つの教えや新しい理論ではなく、 な人間の空想でも、混乱した知性の産物でもなく、むしろ、太古の昔から神によって人々に示されてきた道の継続であり、それによってイエスの予告と預言が成就するものであることを、天に感謝することができるでしょう。 今、あなたがたに語りかけているのは、第二の時代に働きかけたのと同じキリストその人である。

19. 世界が戦争が差し出す苦難の杯を飲み干そうとしている今、わたしはあなたがたに蜜を与え、あなたがたが地上で甘美な味わいとなるようにする。 もし、人の知性に輝く光が、人類の幸福のために偉大な業を成し遂げさせ、人間の生活を変革し、発展させるのであれば――人々の慣習を変容させ、彼らを霊的な生活へと備えさせる、私の神聖な知恵の光は、いったいどのようなものであろうか。

20. 私の霊からあなたがたへと降り注ぐ神聖な光、すなわち知恵は、あなたがたの理解力に応じてその範囲を限定しつつ、あらゆる闇を追い払う内なる啓示をもたらす。 よく考えてみれば、今日あなたがたが持っているこの真理を、私の言葉を聞くことに費やした時間のおかげで悟る以前には、あなたがたの人生におけるすべてが不確かであり、あなたがたの知性が理解し得なかった多くの謎の解明を得ることなど想像もできなかったと気づくでしょう。

21. 今日、私は人間の知性からその闇を取り除き、人が自らの内に宿す真理を疑うことができないように、そのように人々を導いている。

22. あなた方を打ち負かそうとする疑いや弱さが存在する限り、あなた方の間に真の信仰は生まれません。信仰は感じられるものであり、それは失敗を恐れることなく、ある理想を実現させる原動力です。それは、真実、すなわち道の最終目標を見通すことのできる霊的な視力なのです。

23. 信仰をあなた方の内に根付かせなさい。なぜなら、あなた方全員がそれを持っているわけではないからだ。信仰が燃え上がれば、それはあなた方を待ち伏せている誘惑という敵と戦うことになる。悪を退けるためには、私の言葉の意味の中に、そのための武器を見出すよう心掛けなければならない。 しかし、私の臨在や私の声を確信できない者は、魂が私へと高揚することなく、目にするものや耳にするものを判断してしまう。なぜなら、その者は依然として、感覚を喜ばせる典礼の華やかさを必要としており、それによって、あなたがたが「霊感」や「魂の高揚」と呼ぶものを感じられると信じているからである。

24. わたしは、あなたがたの魂にとって、もはや音楽の音色によって心を動かす必要はないと教える。第二の時代のわたしの弟子たちは、あの世の霊的な平安を感じるまで内面的に高揚したが、その際、彼らの頭上には天の天蓋しかなかった。彼らが高揚したのは、心の中で師の響き渡る声を感知していたからである。

25. この時代において、私は人間の知性を通じて、あなたがたに自らを明らかにすることを喜んだ。私があなたがた自身の知性とあなたがたの言語を用いるこの方法以外に、あなたがたが私を理解できる、これ以上の方法があるだろうか。

26. この教えによって、あなたがたは高みへと至るだろう。なぜなら、万物は発展するように定められているからだ。万物には一つの原理、すなわち「善の力」があることを理解せよ。あなたがたが生きる生活の輪の中で、美徳を開花させよ。あなたがたには、明日の世界を築き上げるための礎を据えるための、わたしの光があるのだ。

27. あなた方には、魂の成長を示す明白な証拠がある。今日、あなた方はかつてのように考えることはできなくなった。あなた方は両親とは異なり、あなた方の子供たちはあなた方とは異なる存在となるだろう。これは避けられないことであり、あなた方を駆り立てるのはより高い力なのだ。 まことに、私はあなたがたに告げます。悪は勝利することはなく、美徳こそが勝利するでしょう。なぜなら、隣人愛を実践する者は利己的ではあり得ず、愛を感じる者は憎むことはできず、光は闇を許さないからです。

28. わたしは、あなたがたが、わたしが示す道を確かな足取りで歩み、子供たちにもその道を歩むよう教え導くことを望んでいる。あなたがたの助言は常に誠実なものであれ。そうすれば、わたしの言葉は、それを必要とする者の心に、時宜を得て届くであろう。

29. 自らの悪徳ゆえに自分自身と闘う者もいるだろう。しかし、彼らは自分の過ちを悟り、隣人を自分の兄弟のように愛するために、わたしの光を必要とするだろう。

30. 民よ、私はあなたがたの先頭に立ち、あなたがたが進み続けられるよう、あらゆる障害を取り除いていく。

31. 愛する民よ、今日、この祝宴に集いなさい。そこでは、あなたがたは、ほんの短い間とはいえ、主の御臨在を喜び楽しむことができる。

32. さあ、来て、私の平安で心を満たしなさい――それは私の中にある平安であり、あなたがたが地上でこれほどまでに欠いているものである。

33. ほんの数人が私の声を聞いてくれれば、それで私には十分である。なぜなら、彼らは明日、その証しを周囲の人々に伝えるからである。もし私がすべての人々に呼びかけを放ったとしても、大多数は世の事に忙殺されているため、駆けつけてはこないだろうと私は知っている。彼らは 、私を拒絶し、善意を持つ人々が私の声を聞きに来ることを妨げてしまうだろう。

34. 私が自らを現す、こうした質素で人里離れた場所において、私は自分の種が芽吹くように導いている。私は素朴な心を持つ人々をグループに集め、彼らが物質主義的な生活の喧騒から離れたところで、愛について、永遠について、魂について、そして真の 人間的・精神的な価値について語りかける。それによって、彼らが感覚ではなく、霊を通じて人生を見つめるようになるのだ。

35. 私はこうした新参者たちを「弟子」と呼ぶ。かつて何も所有したことがなく、隣人からも決して注目されることのなかった彼らは、私から召されたと知ったとき、満足感に満たされ、新たな生へと蘇った。彼らは、隣人の役に立てるとの確信と喜びを胸に、旅立ったのである。 主は彼らの中に御自身の啓示を宿し、愛の道を示してくださったからである。

36. 彼らがイエスの弟子であると名乗るゆえに、彼らを拒絶し、嘲笑する者もいる。しかし、まことに、あなたがたに告げる。たとえ彼らからこの恵みが奪われたとしても、彼らはこれからも私の弟子であり続けるのだ。

37. 人々は、天国があまりにも遠く、はるか上にあるため、私がこれらの小さな子供たちの間に現れることは非常に難しいと信じている。それは、彼らが「天国」とは何か、また「天国」という言葉が何を意味するのかについて、漠然としたイメージしか持っていないからである。 彼らは、「天」とは、宇宙の特定の場所では

なく、すべての魂が到達しなければならない、完全さ、清らかさ、そして光に満ちた魂の状態であることを知らないのだ。

38. 魂が高みへと昇るにつれて、その魂が住む世界、すなわち住処はますます広がっていく。したがって、魂が完全性に達したとき、それは無限を支配し、どこへでも行くことができるようになり、その内なるすべてが光となり、父と、そしてすべての人々と調和するようになる。これこそが魂の天国であり、これこそが魂の天の御国となるのである。

魂が、永遠の平和、知恵、愛することの至福、そして愛されていると知ること以上のものを、さらに何を見出すことができようか。

39. 私が人々の間に住んでいたのは、およそ二千年前的事である。現代の人々にとって、その時代は遥か昔のことのように思えるため、彼らは今や、私の行いの歴史や私の言葉の記憶を、まるで当時私を取り巻いていたすべてが超自然的なものであったかのように、空想のフィルターを通して見ている。 しかし、彼らは知っておくべきである。当時の地球も人々も、 現在のものと同様に、ごく自然なものであったのだ。もしあなたがたが、当時の人々だけが私の臨在の恵みに値すると思っていたなら、それは誤りである。なぜなら、私は常に人の心の中に住み、時折、その人に自らを現しているからだ――それは、あの「第二の時代」のように人間の姿であれ、今日のように霊の形であれ。

40. 人が真理を明確に理解するためには、わたしを知ることが不可欠である。なぜなら、真理を知る者は、良心の声を聞くことができるようになるため、律法の道から迷い出ることはないからである。

41. 真理を知らない者は、真の道を見出せない盲人である。その者は、神から発せられる内なる声を聞き取ることのできない聾者である。それゆえ、私は再びこの世に生まれ、人々に隠されてきた真理を明らかにし、彼らが霊的に置かれている悲しく惨めな状況から立ち上がらせる新たな光を啓示するために来たのである。

42. わたしは、善の道を歩んでわたしのもとへ昇ろうとする、人間の崇高な志を目覚めさせることを知っている。わたしは、真の天国、すなわち新たな「約束の地」の存在を人間に明らかにし、わたしが遠く離れてはいないことを証明してやる――なぜなら、もしわたしが人類から遠く離れていたならば、人間などそもそも存在し得ないからだ。

43. 弟子たちよ、この言葉を心に留めておきなさい。そうすれば、あなたがたは瞑想や思索の中で、わたしの律法に喜びを見出すことができるだろう。

44. わたしこそが愛の源であることを理解しなさい。わたしのもとに来なさい。そうすれば、汝らの思いやりと愛への渇望は満たされるだろう。あらゆる知性を照らすわたしの霊の光を見よ。そして、有益で実り多い人生へと高みを目指しなさい。かつては、汝らは自らの歩みさえ導くことができなかったが、今日では、多くの人々を率いている。

45. 多くの者が深淵へと向かっていたが、彼らは私の声を聞き、引き返し、今日では山を登ろうと奮闘している。今やあなたがたは私の弟子である。だから私はこう告げる。私があなたがたと交わりを結んだ以上、あなたがたがただ一つの意志に結ばれて私のもとに来る時のみ、私はあなたがたを受け入れる。

46. この交わりの中には、理解されていないことが多く、誤った解釈も数多くある。それゆえに分裂や相違が生じているのだ。言っておくが、まだ時間は残されている。私の教えを深く学び、それらの誤りを正し、信者たちの心の奥底から、有害な雑草として芽生えたものをすべて引き抜かなければならない。その責任が最も重いのは、最初に使命を受けた者たちである。なぜなら、彼らは最も長い間、私の言葉を聞いてきたからだ。 最初にやってきた者たちへ、 、私はこう言います。あなたの心を隣人愛で満たし、最後にやってきた者たちをあなたの幼い兄弟姉妹として見なさい。あなたの模範、あなたの生き方、そしてあなたの言葉が、信徒の群れに、私の業の完全さ、偉大さ、そして卓越さを示さなければならないのです。

47. 教会の指導者たちは、わたしの教えと戒めを熱心に学ぶよう努め、教会員たちのために見守り、祈らなければならない。そうしてこそ、民にその声が届き、民が彼らに従い、彼らを預言者として認めるようになるのである。

48. あなたがたが、正義の声を帯びて父が語りかけるのを聞くたびに、心が揺さぶられる。しかしその後、あなたがたの弱さが再びあなたがたを躓かせ、あなたがたは、魂を強くするための「荒野の試練」に陥るのである。

49. 今日、諸国に散らばっているこの民の子供たちは、いつあなた方と一つになるのだろうか。彼らの心は、苦難の中を「約束の地」へと向かう人々の群れからの知らせをただ待ち望んでおり、その知らせを聞けば、立ち上がってその群れに加わろうとしている

のだ。 道は心の中にあるものであり、「約束の地」は魂の平安の中にあるため、彼らが物質的に一つになる必要はない。

50. 誰もがそれぞれの場所で、父からの霊感と兄弟姉妹の思いを受け取り、慰めを感じるようになるだろう。私の新しい「イスラエルの民」は、地球のあらゆる場所に現れ、真の誠実さをもって霊化の教えを説くことになる。

51. 民よ、あなたがたが異なる集会所に集まっているからといって、それが互いに距離を置く理由になるとどうして考えられるのか。無知だけが、主のすべての子供たちを結びつける霊的な絆に気づくことを妨げるのである。

52. あなたがたの霊の賜物を現しなさい。そうすれば、直感と啓示があなたがたの歩みを導き、私があなたがたに託した賜物を冒涜したり汚したりすることはないだろう。

53. この時代は、あなたがたの魂に、父のもとへと昇る新たな機会という神聖な賜物をもたらした。

54. メシアとして来られ、この地上を歩み、その言葉と行いによって人々に救いへの道を示された方――その方が、今日、御霊として来られ、良心を通して正義の声を響かせているのである。

55. 私は多くの人々に呼びかけ、この啓示に立ち会い、この御言葉を聞くよう招いた。しかし、招かれた者すべてが駆けつけたわけではない。

56. わたしに従う人々の群れとは、魂の奥底でここへ来て、力強い大樹の木陰を楽しみ、その後、全世界へと運ぶことになる種を相続として受け取ることを切望した者たちである。彼らは主の声を聞き、主のように種を蒔く者になりたいと願った。 彼らは次第に、明日には父なる家の温もりを離れ、愛や真実、あるいは正義への飢えや渇きに苦しむすべての人々に贈り物を届けることになることを知っている弟子たちとなっていく。

57. わたしはこの民が学者たちの前で臆することのないよう、力強くわたしの言葉を告げた。まことに、あなたがたに告げる。召された学者の多くは、自らの学識によって道を誤ってしまったのである。

58. 行い、言葉、祈り――これこそが、この民が同胞を導くべき使命である。最も慈愛に満ちた母の庇護の下、彼らは、その神聖な慈悲が自分たちから離れることはないという信頼をもって、距離を乗り越えなければならない。

59. あなたがたは、マリアの存在や愛についてしばしば語るでしょうが、それによって人々の心が動かされることはないでしょ

う。 また、マリアの名を宣べ伝え、彼女への信仰を教えるために、拒絶されることもあるでしょう。しかし、心配しないでください。イエスが十字架上で亡くなられたとき、苦痛に苛まれた一人の女性が、十字架の足元で死の淵に立たされていたことを思い出してください。それは、この世のあらゆる苦痛を身に受けた母、マリアでした。あの見物人たちは、その女性の存在に気づいていたでしょうか？いいえ、人々は気づきませんでした。 しかし、時が経つにつれ、その名さえ知られていなかったその女性は、人間的には救い主の母として、霊的には人類の母として見なされるようになった。人々の心の中には、マリアを通して世界に現れたその天の母なる愛のための祭壇が築かれたのである。

60. 井戸から水を汲んで畑に水をやる人のように、人々は私の御言葉の宣教の場にやって来る。誰もが、霊的に養うべき人々、家族、あるいは共同体を抱えており、自分の畑を十分に花咲かせ、実を結ばせることのできる水晶のように澄んだ水は、私のもとでしか見つけることができないと知っているのだ。

61. 師としての私の心は、遠く離れた地域から、ある人々の集団を代表してやって来る使者たちを、感動をもって迎え入れる。私は彼らを通して、それらの心に、私の平和のメッセージと知恵の教えを送る。

62. あなたがたは、最も長く私の言葉を聞いてきた人々の懐の中で私を求めるのが賢明である。彼らは多くのことを学んできたからだ。しかし、私を見つけるために物質的な距離を移動する必要はないことを忘れてはならない。なぜなら、私は至る所にいるからだ。 私の存在を感じるためにあなたがたが乗り越えなければならない唯一の距離は、あなたがたの物質的な束縛と、霊的な富との間に存在する距離である。

63. 平和のうちに、あなたがたの家、故郷、あるいは教会の懐へと戻りなさい。 しかしその前に、熱意と正義、そして活力を身にまといなさい。そうして、あなたがたに属する人々を正しい道へと導き、誰一人としてその行いによってこの教えを貶めることを許さず、また、あなたがたの心の中に癒しの香油を携えて帰り、日々、あなたの慈悲を渇望してあなたの扉を叩く人々の涙を拭うために。あなたの行いを通じて、私の教えが本来あるべき姿――すなわち、愛と赦しと救いの真の源――として現れるよう努めなさい。

64. 自分の過去を振り返り、現在を見つめ直せば、あなたがたは、この使命を果たすために、実際にこの地上に遣わされたのだという確信に至るでしょう。この真実を確信させるのは、人間の言

葉ではなく、私があなたがたの人生の道に送った証拠なのです。これらの教えの真実を確信した上で、あなたがたは、持ちうる限りの熱意と愛を注いで、自らの使命の遂行に専心すべきである。

65. 師はこう告げます。「この業を、たとえそれがどれほど純粋に見えようとも、単なる習慣的な流れに限定してはなりません。また、『主よ、あなたの業はなんと完全なことでしょう』と言ってはなりません。」 なぜなら、あなたがたが見ているものの向こうには、明日あなたがたが到達するであろう、より高次の何かが存在するからだ。こうして、あなたがたは永遠に一つの段階から次の段階へと進んでいくことになるだろう。私の知恵には限界がないため、その限界を垣間見ることは決してないのだ。

66. 立ち止まってはならないが、あまり速く進んではならない。歩みを測り、学びと瞑想によって、その一歩一歩を確かなものとしなさい。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 192

1. 人類が人間の知性という器官を通じて、初めて私の言葉を聞いたその瞬間を記念するこの記念日に、あなたがたを歓迎する。年月が過ぎ、私が用いた者たち、そして私の言葉に耳を傾けた者たちの霊的な理解力が、開花しているのを見る。 彼らはもはや、霊的な意味において「幼子」ではなく、神性の顕現を前にして無知な者でもありません。彼らが得た内なる高揚によって、彼らは、あなたがたの霊的生活を完成させるために、師の光が人類の間に現れることを成し遂げたのです。

2. 人類が陥っていた霊的真理に対する無知は、私の光によって払拭され、人間は、全能者の力が、その子供たちを通じて自らを聞き取り、感じ取れるようにするために、愛の行為という形で自らを制限していたことを理解した。

3. それ以来、人類にとって新たな時代が幕を開けた。今や人々は、この業が内包する恵みによって魂を喜ばせ、活気づけることを妨げる障壁を、もはや見出さない。

4. それ以来、私の弟子たちは皆、罪を犯したまま死ねば永遠の破滅が待っているという誤った信仰や、いかなる汚れもなく死を迎えれば永遠の至福が待っているという誤った信仰から解放された。 あなたがたは目覚め、魂が転生を経て、もはや地上に生きる必要なく霊界で生きるための完全性に達するまで辿る発展の道を予感した。あなたがたは、贖罪の理由と試練の意味を理解した。

5. 私のもとを訪れた罪人たちは、永遠の破滅など存在しないことを悟り、希望と信仰に満ちて、魂の救いのために活動する道へと踏み出した。

6. 霊的な生活とは何かという新たな概念が彼らの心の中に形成され、信仰上は死んでいた者は、その生活のために新たに生まれ変わった。この奇跡は、人間の知性を通じて私が啓示したことによって実現したのである。

7. 当初、私はあなたがたが宗教的な慣習や儀式を維持することを許した。それは、あなたがたの魂がそれらに深く染まり、感覚もそれに慣れ親しんでいたからである。しかし、私の教えがあなたがたの魂に光をもたらすにつれて、それらの儀式や礼拝行為は徐々に消え去っていった。 信仰によって得た奇跡に励まされ、あなたがたは、イエスが「第二の時代」に語った言葉――「信仰は奇跡を起こす」――が現実のものとなることを成し遂げたのである。

8. 私が1866年にあなたがたに授けたものは、モーセがすでにあなたがたに知らせていた律法、そして「独り子」であるイエスが第二の時代にあなたがたに教えた御言葉への想起であった。

9. 現代において、律法がすでに「最初の時代」に宣布されていたことを、あなたがたに改めて思い起こさせる必要があった。

10. あなたがたが私の律法に果たすべき務めには、限界がない。今日はある形で、明日は別の形で、常に隣人のために善を求めなければならない。私の律法は、暴力によって強制される戒めではなく、善を行うよう永遠に呼びかけるものである。 私は善をあなた方に強要することはない。むしろ、それをあなた方の心に吹き込み、それを感じ取れるように導く。そうして、あなた方が善を行うとき、神の律法を成就したのだと実感できるようにするのだ。

11. いつの時代も、人間は自らの知性の中で神の像を創り出し、それに基づいて神を求め、崇拝してきた。しかし、信仰の信念の実践には誤りがあったため、父は使者や使徒――私の神性によって啓発された人々――を選び、それらの誤った観念を正させた。その中には、私が準備した「私の声の伝達者」たちがおり、彼らを通じて、あなたがたに私の光の言葉を聞かせるためである。神聖なメッセージに興味を持って耳を傾けた者もいれば、深く根付いた慣習が否定されていることに気づき、私の使者の呼びかけに反感を抱いた者もいた。

12. 私の神性の使徒たちは皆、嘲笑に耐えなければならず、皆、人間の残酷さと恩知らずさを味わった。どの時代においても、私の先駆者たちは、私が彼らに託したことを説き、実行してきた。それは常に、人類の精神的進歩と調和したものであった。

13. 私は常に、宇宙の創造主としての私の存在をあなた方に明らかにし、この世で平和に生きるための基本条件は愛と慈悲であることを、初めからあなた方に理解させてきた。 そして、あなた方は、自らの本質の中に、肉体とは別の何かが存在することに気づきました。この予感があなた方の心の中で形を成すにつれ、それは魂の存在を明らかにし、この人生の後にも、その魂のための別の人生――すなわち永遠――があるという確信をもたらしました。

14. イエスが人間としてあなたがたの間に住まわれたとき、彼は、あなたがたが再び彼を見出すために歩むべき道を指し示す、常に新しく、かつ永遠に通用する教えをあなたがたに伝えました。そして第三の時代において、あなたがたは再び、今度は聖霊として、人間の知性を通じて、私を聞き取ったのです。

15. 私があなたがたのところへやって来るたびに、私はあなたがたを偽りの神々への崇拝から遠ざけ、真の道へと導いてきた。神の御霊はまことにあなたがたの元に降りてきて、その御言葉が愛の種として、生まれ、成長し、完成していく命であることを世界に示しました。キリストがその御業を終えられたとき、「すべては成し遂げられた」と仰せになりました。つまり、その使命は終わりを迎えたのです。しかし、キリストはそれ以前に、人々の元へ再び戻ってくると約束しておられました。なぜなら、キリストは人々のために、まだ新たな教訓を用意しておられたからです。

16. そして今、師はあなたがたのそばにおられ、新たな教えを啓示し、忘れ去られた教えを思い出させてくださっている。それは、あなたがたが、父の目にも、また隣人の目にも、創造主の真の似姿となるべき霊魂の義務を、常に心に留めておくためである。

17. 私がイエスとして人々の間にいた時代以来、私は常に「兵士」あるいは使徒として来る者たちを遣わしてきた。それは、彼らの行いを通じて私の教えを裏付け、人類が私の教えを歪曲することを防ぐためであった。 しかし、私の言葉を不完全な形で解釈した多くの「耳の聞こえない者」や「目の見えない者」たちは、意見が分かれ、それによって様々な宗派が生まれた。しかし、人々が精神的に分断されてしまっては――どうして私の律法の至高の戒めに従って互いに愛し合うことができるだろうか。

それゆえ、私はあなたがたに告げる。この文明は、人々自身がそれを破壊しているゆえに、単なる見せかけに過ぎないのだ。人類が、私の正義と愛の律法という土台の上に世界を築き上げる限り、平和と霊の光を得ることはできないだろう。その美徳の上にこそ、霊的な面においても、科学においても、道徳においても、真の向上する世界を創造し、形作ることができるのだ。

18. もしあなたがたが、すでに良心の命じるところに従って生活を送ることができていれば、神性は、あなたがたに義務を思い出させるために、物質的な形で現れる必要などないはずである。もしあなたがたが、イエスという完全な人の血が、あなたがたの救いへの道を示すために流されたことをすでに理解していれば、あなたがたはその道を絶えず私を求め続けるだろう。しかし、あなたがたはそうしていない。それでも私はあなたがたを愛しており、私を忘れてしまった者たちを探し求め、彼らのために私の約束を新たにし、天の御国が依然として彼らを待っていることを告げようとしている。 私は、新しい教えも、*新しい*律法も持ち込むわけではありませんが、多くの新しい啓示を確かにもたらします。 しかし、私

が教えるすべてのことは、あなたがたに「互いに愛し合いなさい」と告げる、あの至高の戒めを果たすよう導くためのものです。

19. あなたがたが私の教えに耳を傾け、私から学ぶ時間が長ければ長いほど、あなたがたの霊はますます照らされていくでしょう。そうなれば、あなたがたが自らを欺こうとしても無駄なことです。なぜなら、裁き主である神が、あなたがたに責任を問うからです。あなたがたが悪行を正当化しようとしても無駄です。良心が、あなたがたがそれを正すまで、容赦なく過ちを突きつけてくるからです。 あなた方自身が、あなた方の裁き人となるのだ。なぜなら、私は断罪の判決を下すこともなければ、この世の生涯を終えた後、霊界であなた方がどの場所を占めるかを指定することもないからだ。私はただ、来世のための光と平安を自ら勝ち取るよう、あなた方に促すだけである。同様に、神と人間との間には深い絆があることも、あなた方に示している。たとえ私がどのような存在であるか想像できなくても、私を愛しなさい。 私には形はなく、ただ愛であり、力であり、知恵であり、存在するすべてのものです。しかし、もしあなたがたがこれらのすべての特質を理解できないのであれば、イエスを通して私を見て、私を思い描いてください。そして、イエスがあなたがたにこう言われたことを思い出してください。「御子を知る者は、父を知っているのです。」

20. あなたがたが愛するとき、慈善を行うように駆り立てられるとき、赦さなければならないとき、イエスを思い描いてください。イエスを感じ、イエスがあなたがたの心の中に住まわれることを許してください。そうすれば、あなたがたは、愛において、また、光であるゆえに霊的な形を持たないという点においても、真に父にとっての「隣人」となるでしょう。

21. 愛する者たちよ、私はあなたがたが、自らの過ちという重荷によって疲れ果て、消耗しているのを見ている。あなたがたは、魂と体を癒やす癒しの薬を求めて私に懇願している。しかし、私はあなたがたにこう言う。まず自分自身との戦いを始め、内面を探求し、自分自身を知りなさい。良心の光に照らして自分自身を省み、なぜこの時期に苦しんでいるのかを知りなさい。 そうして、わたしの律法に従うという固い決意に満ちて、悪の芽を根こそぎ引き抜き、健全になることができるのです。雑草は根こそぎ引き抜かれ、火の中に投げ込まれなければなりません。地上に生える雑草とは人間そのものではなく、増殖し、人々の心に侵入してきた罪や無知のことなのです。 しかし、わたしの言葉は人間の魂を照らし、わたしの霊感と啓示は悪の侵入を食い止め、人の心を肥沃な土地へと

変えるであろう。そして、その畑に、わたしは種を蒔き、それが豊かな実を結ぶまで育てるのである。

22. わたしは病人のもとを訪れる医者である。もしあなたがたが苦しむことに疲れ、あなたがたを癒やす憐れみ深い手が見つからないなら、 わたしのもとに来なさい。祈り、わたしと結びつきなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに必要な慰めを与える。私はあなたがたの過去を裁くことはなく、律法を全うする道へと導き、一歩一歩、あなたがたを善意ある人へと変えていく。

23. 自らを改めようと決意しなさい。わたしの前で誓ってはならない。肉は弱く、あなたたちを裏切る可能性があるからだ。

24. 時が厳しいとしても、絶望したり、不平を言ったりしてはならない。嵐に耐え、試練を受け入れなさい。そうすれば、あなたの魂は清められ、完全なる境地に至るだろう。

25. わたしは、人々の権力への欲望に歯止めをかける。破壊には限界があり、預言者たちがあなたがたに語った、人間の誇りが打ち砕かれるその日以降、わたしはすべての被造物にその功績に応じて平和を与え、この世界に新たな夜明けが輝き出すであろう。誰が私の高き御計画を見抜くことができようか。誰が、私があなた方の中に創造したものを破壊しようと敢えてするだろうか。魂は侵すことのできないものである。たとえ肉体が破壊されても、その本質が不死である魂は存続する。そして、霊は法のように、魂が私の元へ至るまで、その歩みを導き続けるだろう。

26. 神の裁きに身を委ねる者は皆、完全性へと導く道を見出すだろう。私はすべての魂の運命を記しており、その始まりと終わりは私の中にある。その道のりの全期間を通じて、彼らには大きな喜びが待ち受けている。魂は次々と戦いを繰り広げるだろうが、そのあらゆる道において私を見出し、私の愛が彼らを強くするだろう。 父は子と離れることはなく、子が神の懐へと帰ったとき、天には祝宴が、この世には喜びが満ちるだろう。その時、師と弟子は一つとなって互いに出会うことができるようになる。

27. まことに、あなたがたに告げる。弟子たちはこの世だけにいるのではない。あの世においても、魂たちはわたしの教えを受け、あなたがたが聞いているのと同じ御言葉を聞いているのだ。その高みと悟りによって師と称される者たちでさえ、神聖なる師の御言葉を聞くために近づいてくる。あなたがたの世界において、各人が持つ魂の成熟度に応じて肉体の性質が異なるのと同様に、霊界においても、完全性へと至る階段には多くの段階がある。

28. あなたがたが、自らの使命をどのように果たすべきかを知るために、私のもとへ聞きに来るのと同様に、光の存在たちもまた、父にますます良く仕えるために、私の言葉を聞く準備を整えている。 それゆえ、私があなたがたに語りかけるときはいつでも、私は天使の群れに囲まれている。その瞬間、彼らは神聖な愛の絆を通じて、あなたがたと一つになるのだ。

29. 「霊的な谷」では、互いに距離を置くことはなく、誰も排除されることはない。すべての人々の間には、大きな引力と深い思いやりが存在する。まさにこれこそが、各国、教会、宗派におけるスピリチュアルな共同体が、人間同士の兄弟愛を実現するに至るまで実践すべきことである。

30. 新しい弟子たちは、宇宙におけるキリストの支配を告げた預言が現実となるのを目撃することになるだろう。

31. 他の世界に暮らす者たちが、そこからわたしに仕え、わたしの命令を受けていることを知れ。彼らは助け手として、また道連れとしてあなたがたの元へやって来て、その力と光をあなたがたの道のりに現すだろう。彼らは預言の賜物を通じて、あなたがたに語りかけるだろう。同様に、あなたがたよりも一歩先を行く将来の世代も、その知性において偉大な霊たちの光を受け取るだろう。

32. わたしがあなたがたに啓示するすべての事柄を通じて、あなたがたの世界で起こるすべてのことが、人間の仕業ではないことを悟りなさい。霊界があなたがたの人生に及ぼす影響を見出すことを理解しなさい。

33. 私の教えは、狂信と無知という目隠し――すなわち、あなたがたが真実を見ることを妨げているその目隠し――を引き裂くのに十分な知識を、あなたがたに与えてきた。

34. 無限の空間が広がる前に、あなたがたの魂を解き放ちなさい。想像力が作り出す形だけに信じ込ませようと、魂を強制してはならない。私の教えからインスピレーションを受け、発見をし、物事を見通せるようにさせなさい。そうしてこそ、魂は知恵を得るのだ。 もしあなたがたが魂の偉大さを望むなら、その開花を助け、狂信によってそれを妨げてはならない。万物は発展し、変化し、完成へと向かう。ただ私の法則のみが不変であり、揺るぎない。それは、常に存在し、完全であるからだ。それは世界の導き手であり、神聖な助言であり、善を鼓舞する光である。

35. 明日、あなたがたは私の霊感のもとで語るだろう。その時が来るまで、霊界は人々の心に浸透し、人類を平和の王国へと導く道を示していくのである。

36. 私の意志は罪人たちを選んだ。なぜなら、義人たちはすでに救われているため、私は彼らを求めなかったからだ。しかし今、私の慈悲があなた方を選んだ。あなた方の生き方を、鏡として、模範として、そして再生の証として、隣人たちに示しなさい。

37. わたしは、あなたがたの魂の中で繰り広げられている葛藤や、あなたがたの心の弱さをよく知っている。そのため、試練に打ち勝つ力を見出せない時もあるのだ。そんな時、あなたがたは師に懇願し、助けを求めて祈り、わたしの賜物や恵みに値しないことを師の前で告白する。

38. それゆえ、わたしはあなたがたに近づき、こう告げたのだ。「わたしの言葉の真髄を飲み干せ。それは、あなたがたを清め、贖う、わたしの血そのものだからである。」

39. 魂たちは、わたしを聞くとき恍惚とし、心は、わたしの言葉の光を受けるとき高鳴り、唇は霊性への最初の表現をたどたどしく口にし始める。それらは、真のいのちのために生まれ変わる新しい弟子たちの姿である。

40. わたしは、あなたがたの哀れさと貧しさ、そして同時に、あなたがたの魂にある大きな謙虚さと服従を見た。そして、その時が来ると、わたしは来て、あなたがたにその嗣業をもたらした。

41. 人々が、わたしの言葉が語られる場所へと集まり始めたとき、わたしが見たのは、ただ見捨てられた心ばかりであった。そして、あなたがたはわたしの言葉を聞いた。その本質は、力強い癒しの香油のように、あなたがたを命へとよみがえらせるという奇跡をもたらした。

42. ただ私の言葉、ただこの教えだけが、あなたがたに、自らの本質の中に魂の存在、その能力、その性質、その使命を探し求めるよう導くことができたのである。

43. 今、あなたがたは自分自身を知り始めている。それによって、人生に対する大きな信頼、私に対する真に確かな信仰、そしてかつては知らなかった平安を、次第に体験しているのだ。

44. あなたがたの魂は、歩むべき道を知っている、というのは正しいことではないでしょうか。これこそが、私があなたがたに教えを授ける際に望んでいたことです。かつて私があなたがたにこう言ったことを思い出してください。「私は道である。この道を歩む者は、決してつまずくことはない。」

45. これらの伝達者たちの知性を通じて私を聞く者たちだけが賢くなるわけではない。いいえ、私は、私の言葉が、もはやこれらの伝達者たちを通じて語られなくなった後も、地球上のあらゆる

場所に届くよう、すべてを準備している。なぜなら、私のメッセージは、人類を構成するすべての民族に向けられているからだ。

46. 病を抱えてここに来て、わが言葉という癒しの香油によって癒やされた人々よ。あなたがたは、ただ自分を苦しめていた病から回復するためだけにここに来たのではないことを理解せよ。わが呼びかけの真の目的 は、あなたがたが同胞に対して果たすべき霊的な使命を明らかにすることだったのだと理解せよ。

47. 平安を取り戻したからといって、ただ喜ぶだけで満足してはならない。慈悲の行いがもたらす喜びを、自分の魂のためにも求めなさい。 あなたがたの証しは、「師が私を癒してくださった」と言うことだけに留まるべきではなく、さらに一歩進んで、隣人に対しても同じことを行うべきです。そうしてこそ、あなたがたは真に私と彼らにふさわしい者となり、あなたがたの父の愛を証しすることになるのです。

48. 苦しむ人々に対して憐れみを感じず、心の中で他者の痛みを共有できない者は、キリストの弟子と名乗るために、私の道において踏み出さなければならない一歩を踏み出していないことになる。

49. わたしは、あなたがたが他者に対して心を硬くし、無関心で、利己的であるのを見出し、そこで、あなたがたにわたしの恵みを注ぎ始め、そうしてあなたがたの心を愛に満ちたものにし、あなたがたの同情心を呼び覚ました。それは、あなたがたが後に他者に注意を向け、自分自身を忘れることができるようにするためである。

50. 今日、世界は、私が、いつの日かその声が至る所で聞こえるようになる民を集めていることを知らない。私は新しい弟子たちを宣教のために遣わす。しかし、それは彼らが準備を整え、戦いに立ち向かうことができるようになり、人々が彼らを黙らせることができなくなったとき、すなわち、彼らがあらかじめ私の真理の決定的な証拠を人々に示したときに初めて起こるだろう。

51. 人類は、私が現在この民に啓示している賜物、すなわち、すべての人間とすべての魂が持つ霊的な賜物について、何も知らない。私の弟子たちがこれらの能力を開花させ、準備を整えたとき、彼らは同胞たちに包括的かつ真実な証しをすることができるだろう。

52. この民は、自らの備えと霊化を達成するために、依然として激しく奮闘しなければならない。彼らには、まだ身にまとわりついている汚れを清めるために、多くの試練を経なければならない

。 しかし、この時代に私が語った言葉は、かつて私が人類に啓示したことが実現したのと同様に、必ず成就するであろう。そして、あなたがたは、霊的な種が、地球上のあらゆる道に、まるで止めようのない水晶のように澄んだ水の川のように――清め、浄化し、あらゆる悪を打ち砕き―― 畑を肥沃にし、あらゆる国々に生命と真理をもたらすのを見ることになるだろう。

53. 私の力に比べれば、人間の力など何の意味があるというのか？ 物質主義的な諸民族の抵抗 が、霊化の無限の力に対して何ができるというのか？ ――何もない！ 私は、人間が権力への欲望の限界まで、そして傲慢の頂点まで至ることを許してきた。それは、父から授けられた自由意志という賜物が真実であることを、人間自身が確信するためである。 しかし、人間がその限界に達したとき、彼は光と愛に目を開き、わが御前にひれ伏すだろう。それは、あなたがたの神が持つ唯一の絶対的な力と唯一の普遍的な知恵に打ち負かされてのことである。

54. 戦いなさい、そして揺るぎなく立ち続けなさい、民よ。まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたがわたしの言葉の成就を目撃することを、わたしが許してやるのだ。

55. 愛する弟子たちよ、あなたがたが過ちを悔い改める時、神の愛がいかに現れるかを感じなさい。その時、わたしの霊は喜んで人々の間に留まるのである。

56. 人間の知性を通じて、あなたがたは、知恵と限りない忍耐をもってあなたがたの不完全さを正してくださった、理解深く慈愛に満ちた父としての私を体験してきたのである。

57. この時期に、私は「霊化」とは何かについて、最も崇高な説明を平易な言葉であなた方に残す。私は、この事業の弟子が、私の父なる愛によって永遠の昔から定められた道を、つまずくことなく歩むことができるよう、あなた方の使命を果たすための最も実践的な方法を教える。

58. スピリチュアリズムは新たな法則を創り出すものではなく、ただ、立ち止まることなく上へと昇り、あらゆる時代の法則に従ってその道を歩む方法を、あなたがたに明らかにするに過ぎない。

59. 魂は本来、清らかである。しかし、この世で不純物に汚染されてしまったならば、自分に課せられたこの使命において勝利を収めるまで、まず自らを浄化しなければならない。

60. 確信を持ってスピリチュアリズムを実践する者は、自分にとって後退を意味すると考えるあらゆるものを、自らから排除す

べきである。なぜなら、わたしの言葉は恐怖によって強要されるべきではなく、その真実と愛を実感させることによって、人を改心させ、納得させるべきだからである。それは、第二の時代におけるキリストの教えも、強要されなかったのと同じである。

61. 今日、師であるキリストはあなたがたにこう告げる。わが言葉によって変容するというあの奇跡は、信仰によってもたらされるのだ。

62. この時代に、誰が私の存在を疑うだろうか。私が万事を成し遂げ得るその作用の可能性を、誰が制限できようか。師が、御自身の傑作であり、霊の面において御自身の像と似姿として創造された人間の被造物を通して、自らを現すことを、誰が妨げられようか。

63. この説明の真意を武器として用い、明日、不信仰者たちにこれらの啓示を説明しなさい。

64. あなたがたは、無知な者たちやこの大義の敵たちからの質問の嵐にさらされることになるだろう。 しかし、心配するな。私はあなた方と共にいる。その前に、私はあなた方に道筋や落とし穴、危険を知らせておく。そうすれば、善と悪を見分ける知識をもって、あなた方をその起源である、あなた方が生まれた父の懐へと連れ戻す正しい道を、常に発見できるようになるだろう。

65. 人間が地上に住むのは、父の御心によるものであり、父によって人は息をし、生きている。そして、あなたがたの主は、この世に生き、善と悪が身に迫ることを許し、謙遜のうちに試練を受けるために、この人間の姿をとられたのである。 私が愛ゆえに人間となり、あなたがたの間で生きるようになったのだから――私がこれほど深く愛し、救いを見出せるよう助けを求めている人間の知性を通じて、自らを明らかにしない理由などあるだろうか。

66. すべての人間は、自分の中に自らの魂が息づいているのを感じ、時折、自分へと手を差し伸べてくれる見えない手を切望する。痛みが心を貫くとき、人は天を仰ぎ、身を委ねたいと願い、心の底から叫び、その声が聞き届けられることを切に願う。 どうして彼は、自分の声が創造主に届き、苦悩に満ちた自分の顔が神に見られているなどと考えられるのだろうか？ どうして彼は、主が自分を知っておられるという考えを抱くことができるのだろうか？ ――それは、彼の魂の中に、父を予感し、知ることのできる能力があり、地上で求めているものが見つからない時に、父に懇願するようになるからだ。もしあなたがたが私の教えを少しずつ理解していくのなら――人間は神そのものの一部であるのだから、神が人間の

性質を通して自らを現すことができると信じるべきではないだろうか？

67. 人間は、どれほど唯物論的であっても、万物を超越する力を直感するものであり、この直感、すなわち私の存在への気づきこそが、これらの啓示が真理、正義、そして愛の原則に従っていることを彼に確信させるのである。

68. 確かに、この奉仕に天賦の才を持つ人間は、これほどデリケートな任務を遂行するのに十分な確信を持っていなければならなかった。 もし彼が、私の神聖な光を受け入れるために、適時に弱さや物質的なものへの傾きを捨て去ることができなかったならば、その啓示は、聴衆が常に望んでいたような外見的な輝きを帯びることはなかっただろう。とはいえ、 の背後には、言語表現の不完全さにもかかわらず、常に神の御霊の本質と真理が存在していたのである。

69. あなたがたが私の言葉を研究する際に、表現の仕方に何らかの違いを見いだしたとしても、それに惑わされてはならない。それは何の意味も持たないからだ。霊感はすべての伝達者に届くものであり、彼らは各自が言語的に到達した完成度に応じて、それに言語的な形を与えるのである。

70. その真意に留まりなさい。それこそが、あなたがたが心に留めるべきものだからである。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 193

1. あなたがたの魂は私の教えを受け入れようとしており、私はそれを歓迎する。

2. 弟子たちよ、目を覚ましていなければならない。人々は、私の業を探求し始めるだろう。その業について、ある者たちは、それが地上の科学に基づいていると考えている。その時、あなたがたは、それを世界を変革する霊的な教えとして広めなければならない。

3. 私が科学の敵として来たわけではない。科学とは知識であり、知見であり、光だからである。むしろ、私の教えはあらゆる人間の認識を超越している。私の業において、私はあなたがたにスピリチュアリズム、すなわち霊的なもの、神聖なものへの認識、物質を超えたより高い生命についての知識を説く。実のところ、私は、人類の幸福のために人々が発展させてきた科学を祝福する。

4. 今こそ、魂や科学について多く語られる時代である。科学は、それを知るために肉体を整える者たちの特権であるだけでなく、神から授かる霊に由来する光そのものである。

5. わたしの神聖な教えは、あなたがたの魂を完成させることを教える、より高次の科学である。さらに、わたしはあなたがたに脳と心を与えた。それは、あなたがたがそこで自らの思考や感情を制御できるようにするためである。

6. 私が今、あなたがたに与えている知識には限界がなく、すべてを包含し、無限である。その中に、あなたがたは霊的な生活と物質的な生活に関する真の知識を見出すだろう。

7. 今や、あなたがたは私の教えを理解し、その奥義に踏み込む能力を備えていると私は見ています。物質に関する科学を通じて、あなたがたは全創造物を支配する法則を知り、それらがあなたがた自身の体の中に凝縮されていることも理解しています。 そして、あなたがたが多くの研究を重ね、かつては謎であった法則を知ったとき、あなたがたはあの世の入り口に立っていることになる。そこでは、あらゆる瞬間にあなたがたとつながろうとしている父の心が、あなたがたを待っている。私の教えを知っているなら、何があなたがたにとって未知のことになり得ようか。

8. それゆえ、私はあなたがたに告げる。私の簡素な教えこそが、この世の学者たちの前でもあなたがたの心が萎縮することを防ぐ、より高い知恵を授けてくれるのだ。

9. 自然やあなた方の人生におけるあらゆる出来事の意義を明らかにするために、科学の書物に頼って問いを投げかける必要はない。あなた方の 理解力を鍛え、心を清め、あなた方の唇からインスピレーションが溢れ出るようにすれば、それで十分である。

10. あなたがたが、私の業の中にありながら、自分たちを劣った存在だと感じ、祈りによって得られる助けを拒むならば、人々はあなたがたを愚かで無知だと言うだろう。

11. よく理解せよ。この時代、私が無知な人々の知性を通じて自らを現すと告げたのは、私の啓示のために、あなたがたが学者や哲学者と呼ぶ者たちを選ばなかったことを明らかにするためであった。とはいえ、私の霊感を通す脳は魂に光を照らし出し、その光こそが知恵である。

12. 改めて言おう。戦いなさい。なぜなら、魂が成長の途上にある限り、誘惑にさらされ続けるからだ。それゆえ、私はあなたがたを教え導き、悪しき性向に打ち勝つ力を与えるのである。 あなたがたの魂が強ければ、それは理性に力を与え、心に確固たる意志を与え、肉の欲望を克服することができるだろう。人に光が欠けていると、その魂は成長しない。そうなると、人生の浮き沈みがその心に強烈な影響を及ぼし、その人は嵐の真っ只中で転覆する船のようになる。

13. 人が霊的に備えが整っていれば、それはあたかも、誘惑の試練に対して破壊不可能な鎧を身に着けているかのようだ。

14. 私がこれらの教えをあなた方に明らかにしたのは、もしあなた方が道で一瞬つまずいたり転んだりしたとしても、その過ちを自覚し、改める道を探せるようにするためである。

15. もしあなたがたが謙虚に振る舞うならば、あなたがたを待ち受ける人生において、魂の豊かさはさらに増していくでしょう。そうすれば、あなたがたは平安を得て、それはあなたがたの存在において最も美しい感覚をもたらしてくれるでしょう。 あなたの魂の中には、父に仕えたいという渇望が湧き上がるでしょう。それは、父が創造されたものを忠実に守る者となり、苦しむ者にとっては慰めとなり、心の平安を持たない者にとっては安らぎとなることによって実現するのです。

16. こうした瞬間に私の存在を告げているのは、私の言葉だけではありません。私を深く感じ取っているのは、あなた方自身の魂なのです。

17. 私はあなた方を歓迎する。ここに、あなた方の心を養い、その感情が魂と調和するように導く、私の言葉の真髄がある。科

学や哲学を知らなくても、あなた方は知恵を得る。あなた方は予見者であり、直感と予言の賜物を持っており、それによって私の霊感を受け取るのだ。

18. 人々が私の律法の下に一つになる前に、戦争の知らせがもたらされるだろう。人類は浄化され、その後、聖霊の御国が到来する。

19. あなたがたの使命は、師が人間の知性を通じて与えた御言葉を解釈することである。私の神聖な教えからあなたがたを切り離すような教義を作ってはならない。なぜなら、その教えこそが、あなたがたすべてを一つに結ぶ普遍的な教えだからである。

20. あなたがたは、私の教えを実践するために、肉体の反抗を屈服させることができるのだと理解しなさい。愛と慈悲を蒔くことによって善を行い、それによってあなたがたの魂に光と進歩をもたらすのだ。

21. 私は、あなたがたに、今聞いたこの言葉の責任者としての役割を託す。あなたがたは、この言葉を、受け取ったのと同じ誠実さをもって、他者に伝えていくべきである。

22. この時代に私が来られたことは、律法の道への新たな招きであり、この言葉の全意味は、かつて私があなたがたに教えた「互いに愛し合いなさい」という人生の指針に集約されている。

23. 試練を受け入れなさい。あなたがたは、恵みを失った民ではなく、何らかの形で常に私の恵みを享受してきた民であることを悟りなさい。

24. 慈愛に満ちた母マリアもまた、人間の知性を通じて、その母なる愛をあなた方に授け、喜びに満ちた勇気をあなた方に満たしてくださいます。そうして、あなた方の人生において、決して落胆に襲われることがないようにするためです。

25. 父の御顔を仰ぐ魂は幸いである。思考の自由を得て、私を求めるために儀式や教義を拒み去ったあなたがたは、幸いである。私の教えがあなたがたの認識力を照らし出し、今やあなたがたは、行い、感情、そして心の清らかさこそが、父を崇め、その律法を全うするための最善の方法であることを知っている。 こうして人は、創造主との完全な対話、すなわち霊的な交わりに至る。そこでは、子が「父よ、あなたの御心を私の中に働かせてください」と言い、父が「わたしがあなたがたを愛するように、互いに愛し合いなさい」と答えることができるのである。 この声は、内面的に高みへと向かうすべての人の霊の中に響き渡るでしょう。この声は、わたしに近づく者の心と魂を形作るでしょう。この一体感は、この人

生において物質を通じて自らを磨き、清め、知恵を得て、その創造主を知るために努力する魂にとって、まるで香油のようなものとなるでしょう。

26. それゆえ、わたしはこの世で学ぶことが、魂を永遠の命へと導く道において、あなた方の助けとなるだろうと告げたのである。 もしあなたがたがこの人生において自らの使命を果たし、その教訓を活かすならば、肉体を離れたとき、あなたがたは花から漂う香りのようになるだろう。なぜなら、あなたがたは人々の心に善を吹き込むことになるからだ。

27. あなたがたの魂の中で主を感じ、主の中に住むという至高の歓びを感じなさい。創造主であるエホバは万物の中に存在しており、私が再び来臨し、人間の知性を通じて自らを現し、引き続き教えを授けているという事実を前にして、この喜びはあなたがたの中でますます増し加わるはずである。 あなたがたの喜びを、私の霊界から溢れ出る喜びと一つに合わせなさい。あの存在たちは、そのメッセージの中で、彼らの世界はあなたがたの世界よりも無限に大きいにもかかわらず、完全なる世界の一粒の原子に過ぎないと伝えている。

28. あなたがたがわたしと共に過ごす時間は、決して無駄にはならない。それはあなたがたの魂のための光である。なぜなら、その魂は師の知恵によって照らされるからである。 もし、あなたがたの存在の根底から、「師よ、私はあなたを信じます。あなたの言葉によって、あなたは私たちの霊に知恵だけでなく、この人生の苦しみに耐えるための力と希望も与えてくださるからです」という声が湧き上がってくるなら――まことに、それはあなたがたの霊が語ったのです。

29. 今日、あなたがたはわたしと語り合い、わたしの教えの霊的な真意に満たされることを学んでいる。

30. この最後の恵みの時において、私はあなたがたに、私の戒めに従うよう強く勧める。私は、人々がお互いに、そしてすべての人々が主と一つになるための、私の愛の遺産をあなたがたに残す。

31. あなたがたの心は私にこう言います。「師よ、1950年以降、私たちは誰にすがればよいのでしょうか？」私はこう答えます。私が遺言としてあなたがたに残し、印刷されることになる私の言葉にすがりなさい。

32. あなたがたは、私の使命を果たすために、あとしばらくの間、この地上にとどまることになる。そして、私が間もなく去る

ことを告げるとき、かつて使徒たちに言ったように、こう告げるだろう。「私が行くところへ、あなたがたは今は行くことができない。しかし、私が今行くその場所へ、あなたがたが行く時が来るだろう。」

33. あなたがたが上昇できるよう助けるために、私の慰めの言葉があなたがたのもとへ降りてくる。その言葉の一つひとつが、あなたがたの心を照らす一筋の光であり、それによって、あなたがたの父にふさわしい、そしてあなたがた自身にふさわしい感情や考えを理解できるようになるのだ。

34. スピリチュアリストは、その言葉によって見分けられる。その言葉は表現は簡潔で素朴だが、その意味は深いものである。

35. スピリチュアリストは、自らの利益を求めず、他者に全身全霊を捧げることを心得ている。この弟子は、人々の心の空虚を埋めるだろう。彼は、周囲の人々が神に対する認識を完成させる手助けをする。実のところ、奉仕し、他者と調和して生きることは容易なことである。

36. この教えの使徒たちは、人々が父や隣人に対して犯した冒涜を贖うために、私に豪華な集会所や教会を捧げる必要はないことを、世に理解させるであろう。

37. 人は、自分が物質よりも精神であるということを知れば、その存在の永遠の部分である「霊魂」という花を、主に捧げるようになるだろう。

38. 敵対する勢力は、霊性の開花に抵抗するだろう。何世紀にもわたって支配的であった、人々が信じて実践してきたものが崩壊することを望まない者たちがいるからだ。

39. 私の神聖な教えは、暴力によって押し付けられるものではなく、また誰にも恐怖を植え付けるものでもない。その説得力、真実性、そして正義によって、穏やかに人々の魂に浸透していくのである。

40. 世界中の至る所で、人々は、彼らが「現象」と呼ぶもの、すなわち創造物すべての発展に固有の現れの原因を探求している。

41. 人類は多くのことを学んできた。今日、地球に住む人類と、過去の時代の人類との間には大きな違いがある。霊的な面においても、あなたがたは大きな進歩を遂げるだろう。それは、あなたがたが今日生きている霊的な後進性と比べれば、驚くべきものとなるだろう。

42. 戦いの時に備えよ。信仰を強め、あなたたちと戦う者たちに立ち向かう覚悟を魂に植え付けよ。今なお、私の言葉はあなたたちと共にあり、最後の後押しと最後の指針を与えている。

43. 私は、あなたがたが最後まで私に従うために、深く確信を持ち、揺るぎない姿勢を保つことを望んでいる。あなたがたの心は私にこう告げている。「師よ、あなたは私たちを疑っているのですか？」しかし、私はあなたがたに言う。私に従うと何度も誓ったではないか。それなのに、試練の瞬間になると、疑いが生じてしまったのではないか？

44. 私はあなた方に条件を課すことも、犠牲を求めることもない。ただ、あなたがたが隣人に対して行う善行は、結局のところ、自分自身に施す恩恵であることを知らせておくだけである。

45. 私の教えを広め、金銭を求めずに、あらゆる可能な善行を行いなさい。誰をも欺いてはならない。もしあなたがたの行いにまだ誠実さが欠けているなら、今こそ改める時である。私、あなたがたの師を信頼しなさい。

46. 時には、あなたがたは、自分たちもこの世の貧しい者であることをよく承知しながら、隣人に仕えることができるよう、わたしの力を懇願することがある。あなたがたは悲惨な状況に恐れを覚え、心が挫けてしまう。そのような瞬間、あなたがたはわたしを信頼していないのだ。

47. 苦しみに包まれると、それが耐え難いものに見えるため、すぐに去ってほしいと願う。その理由は、あなたがたの魂が十分に開花していないため、あなたがたの中に完全さがないからだ。あなたがたは、この試練に値しないと思い込み、その痛みが多くの場合、後に苦しむ者をよりよく理解するための教訓にすぎないということに気づかない。

48. 地上での存在を最大限に活かし、愛と高潔さ、そして忍耐をもって苦しみに耐えなさい。そうして、まさにこの地上で、自らの汚点を清めるのです。そして、痛みが過ぎ去り、再び心に平安が戻ったならば、その平安を喜び、しっかりと守り続けなさい。苦しむその在り方そのものでさえ、あなたがたは模範となり、教訓となる存在でなければならないのです。 私は、スピリチュアリストたちが、言葉は巧みだが行いは非難されるべきであると評価されることを望まない。あなたがたは、常に称賛に値する行いによって、自らの信仰と言葉を裏付けるべきである。

49. あなたがたが私の助けを懇願する時、私はすでに先回りして、あなたがたの道を整えていることを忘れてはならない。

50. 良心に従って行動しなさい。そうすれば、裁きの時が来たとき、自分の行いに責任を負うことができるだろう。私から罰を受けることを恐れる必要はない。私の正義は決して罰を与えることはない。もしそうであれば、私の愛には力がないことになるからだ。 誰もが自分自身を裁く者であり、私は何度、あなた方をあなた方自身から救わなければならなかったことか。なぜなら、あなた方は悪意、利己心、虚栄心という敵を自らの内に抱えているからだ。

51. これらすべてを踏まえて、魂が清められるには、*たった*一つの人生では不十分であることを、あなたがたは理解するだろう。

52. やがて、あなたがたが教師の立場に立てる時が来る。その時、私はあなたがたと共にいて、困難な瞬間にあなたがたを支えてあげよう。

53. あなたがたは心の中で、私にこう言います。「父よ、私たちがあなたのところへ行くことができなかったのに、あなたが私たちのところに来てくださったことを感謝します。」

54. あなたがたの目の前からは、私が御自身を現すために用いている人間は姿を消し、私の啓示という短い時間の中で、あなたがたの魂が受け入れるのは、私の神聖な本質のみが残るのです。

55. あなたがたは、これらの人間の肉体には神聖なものは何一つなく、それらはただ私のメッセージを伝えるための道具に過ぎないことを、よく知っています。だからこそ、あなたがたは、私の臨在を享受するために、あらゆる肉体の影響から離れて、自発的に魂を解き放つのです。

56. 私はしばしば、声の担い手が果たす真の使命について、あなたがたに語っている。それは、彼がその言葉にどれほどの完全性を与えているか、また、その伝達能力にはどのような限界があるのかを、あなたがたに知ってもらうためである。 そうすれば、あなたがたは、*私に*帰すべきもの――すなわち知恵や霊的な意味合い――と、伝達者に帰すべきもの――すなわち彼の入念な準備――を十分に理解した上で、私の啓示の一つひとつを公正に評価することができるでしょう。 そうすることで、私が自らを現すために用いる者たちの不完全さを私に帰したり、逆に、私の霊がその者の助けを借りて伝えた知恵や権威を、その伝達者に帰したりして、誤りに陥ることはないだろう。

57. あなたがたは、この言葉の外面的な形式――それは、私の啓示の道具である伝達者が責任を負う形式である――に関して、

過度に固執してしまう危険にさらされているため、私は今後もたびたびあなたがたに語りかけることになるだろう。

58. もしあなたがたがこれらすべてについて適時に熟考しなければ、あらゆる外的な礼拝行為への傾倒があまりにも強くなり、試練の時が訪れたとき、外見ばかりを重視するその姿勢から抜け出せなくなってしまうだろう。私が語っているこの「試練の時」とは何だろうか。それは、私が伝達者を通じてあなたがたに最後の言葉を授けるその日である。

59. 私がその定められた日付を秘密にしなかったのは、あなたがた全員がその日に備えられるようにするためである。

60. この民は大きく、多くの分派がある。それにもかかわらず、1950年に私の啓示を終えるという私の意志が表明されなかった教会は一つもない。

61. あなたがたは皆、この啓示が永遠に続くわけではないこと、また、私が啓示を始めた当初から、この形での人への啓示は一定期間のみであることを民に伝えてきたことを知っている。

62. 私の言葉が響き渡ったすべての教会で、私が与えたもう一つの啓示は、あなたがたが将来、霊と霊とで私と する、すなわち、人間や象徴、あるいは外的な礼拝形式を介さずに、私とつながるよう定められている、と私が告げたまことである。

63. 大勢の人々を収容できる集会所においても、わずか数人の弟子が集まるささやかな場所においても――大都市においても、地方や小さな村においても、わたしの業の本質は明らかにされた。あなたがたは、霊化への道を確実に歩むことができる。 私は、あらゆる教えを通じてあなた方を力づけてきました。それは、あなたがたが師への従順、謙虚さ、そして愛を証明しなければならない決定的な時が来たとき、必要であれば自らを犠牲にして師に従うことを知り、 長い間、あなた方の原動力となってきたものを手放し、その犠牲が、民全体にとって霊性への道における大きな前進であることを十分に自覚して、師に従うことができるように、私はあなた方を力づけてきました。

64. もしあなたがたがこれらの事前の警告に耳を傾けないならば、現在その重要性を十分に認識していない者たちにとって、それは極めて痛ましい目覚めとなるだろう。その目覚めは、私が去る日そのものかもしれないし、その後の時期かもしれないが、いずれにせよ、それは痛ましいものとなるだろう。

65. 私は、不従順や誤った解釈、あるいは愚行によってあなたがたが陥りかねない試練から、あなたがたを救いたいと願ってい

る。 しかし、私があなたがたに教えたこと、また警告したすべての事柄にもかかわらず、自分こそが私よりも強く、私よりも賢く、私よりも指示を下す資格があると自負し、私が命じたことを故意に従わない者がいるならば、その者はそれによって自らの判決を下し、確定させたことになる。その判決の重さは、その過ちの大きさに比例するであろう。

66. わたしの言葉が最も花開いた場所こそ、最大の責任が課される場所となる。なぜなら、そここそが、わたしの教えが最も強く輝き、わたしの業が最もよく表れた場所だからである。それゆえ、すべての者がわたしの意志を行うように、これらの場所から、他の者たち、すなわち取るに足らない者たちに対する最良の模範が示されなければならない。

67. 遠く離れた場所からやって来る者もいれば、近隣の地域からやって来る者もいるが、皆、あなたがたの心を平安で満たすこの御言葉を渇望している。 私がこの時代に自らを現したことが真実であるかどうかを、人々に尋ねてはならない。私の到来や新たな啓示を知らない者たちが、あなた方に何と言えようか。あなた方の心の奥底には私の言葉があり、あなた方自身の中にその真意を見出すだろう。

68. わたしはあなたがたを呼び、あなたがたを選んだ。それは人間からの命令ではなく、わたしの御心によって、あなたがたをこの 謙虚な場所へと導き、そこでわたしの御言葉を聞くようにしたのだ。はるか昔、わたしはあなたがたに、わたしの教えを聞くよう呼びかけた。なぜなら、この啓示はまもなく終わりを迎えるからである。 早くからここに来て長く活力を得た者もいれば、遅れて来た者もいるが、彼らはその教えをうまく活用するだろう。

69. あなた方をこの道へと導いたのは、偶然ではなかった。あなたがたは、かつて、そして今日、そして永遠に続く神の民であり、わたしだけがあなたがたを見分けられるような衣を与えられた民である。愛する子の昼も夜も守り抜く父であるわたしが、あなたがたのもとに来て、改めて呼びかけ、あなたがたが霊的には、かつて命と真理の道を示された者たちと同じであることを明らかにするために来たのである。

70. この地上の生涯は、あなたがたがそれを活用し、わたしの律法と戒めに従うために与えられた、さらなる機会である。時代は過ぎ去った。今日、わたしは、わたしの神性によって用意された伝達者たちを通じて、あなたがたに呼びかけを行うために来たのである。

71. エリヤは、後に私が用いた知性の器官を通じて霊的に自らを現し、あなたがたはこれらの伝達者たちを通じて、過去の啓示の解釈を受け取ったのである。 最初の伝達者たちの知性を通じて、この道を彼らに従わなければならない者たち、すなわち後にその数を増やし、多くの地域で私の声を響かせた者たちが訓練された。私は彼らを「伝達者」と呼んだのである。

72. 私の言葉が終わりを迎えるまで、あとわずか3年となった今日、私は、至高者の純粋な霊感を受け伝える者たちの心に、自らの良心を深く見つめ直し、この最後の短い期間において、彼らの働きも私の言葉も共に頂点に達しなければならないことを悟るよう願う。そのためには、かつてないほど受容力と準備を整えるべく、犠牲を払うことが必要である。

73. 誘惑が彼らを待ち構えているだろうが、彼らは一人きりではない。なぜなら、私は彼らの右と左に、彼らの歩みを見守る天使たちと光の精霊たちを配置するからである。

74. 今日に至るまで、人類は霊的に、そして直接的にわたしと交わることを理解してこなかった。それゆえ、わたしは常に光の存在たちを遣わし、彼らを通してこの世に語りかけてきた。わたしがモーセや預言者たちの口を通しても人類に語りかけてきたのだから、今さら何に驚いているのか。 あの世にいる多くの存在たちが、 、私にそう懇願している。私は、滅びゆくこの人類に助けをもたらすために、彼らを転生させてこの世へ送り出している。しかし、私は人々にこう告げた。「使者たちはすでに地上にいて、私の遣わされた者たちはすでに定められ、世界中に散らばっている。彼らは皆、私の民の一部であり、自らの勇気と高潔さの証を示さなければならない。」

75. あなたがたは、空の手でも、実を結ばない小麦の穂でも、私のもとへ来ることはないだろう。なぜなら、そうであれば、私を想うことさえも、自分にはふさわしくないと感じてしまうからだ。

76. 世界のさまざまな場所や、さまざまな宗派に属する人々を見よ。彼らは、わたしの光の輝きを待ち望み、わたしの声が彼らに語りかけることを願っている。 彼らの願いと嘆願に耳を傾けなさい。彼らが私の到来を懇願し、私にこう語りかける声を聞きなさい。「父よ、私たちは長い間あなたを待ち望んでいますが、あなたは現れてくれません。私たちはすでに多くの苦しみを味わいましたが、私たちの救い主であるあなたは、私たちを助けに来てはくれませんでした。」

77. 弟子たちよ、眠りから目覚めなさい。そうして、人類が私の御業を知ることができるようにしなさい。そうすれば、私は私を愛する者たちにこう告げよう。「もう少しだけ待ちなさい。まもなく、私があなたがたの心に寄り添っているのを感じられる時が来るからだ。」

78. 弟子たちよ、わたしの言葉に勇気づけられなさい。もし、長い間実りのない畑で苦労した後、一時的に気力を失ったとしても、わたしはあなたたちに休息の時間を与える。その後、あなたたちは大きな生きる勇気を持って再び歩み出すだろう。明るく、そして目を覚まして生きなさい。

79. あなたがたの行いを通じて、人類がわたしの到来を信じるように努めなさい。あなたがたの家を、善と慈善と愛に捧げなさい。しかし、それはそこに住む者たちのためだけではない。 その扉を開き、苦しむ者、病める者、悲しむ者たちがそこに入ってくるようにしなさい。私がこれらの集いの場であなた方を迎え入れたのと同じ慈悲をもって、あなた方もまた、ご自身の家で隣人たちを迎え入れなさい。

80. わたしの言葉を学び、わたしがあなたがたに語ったすべてのことを深く探求しなさい。霊的な事柄に関する知識を得るために、地上の書物を探す必要はない。わたしこそがあなたがたの書物であり、わたしの霊界はその一ページである。それに従いなさい。

私の平安が、あなたがたと共にありますように！

教え 194

1. わたしの愛はあなたがたと共にあります。人生の旅人たちよ、この泉へと近づきなさい。恐れおののく心たちよ、来て、飲みなさい。助けを求めてわたしに向かって差し伸べられる手よ、わたしの恵みを他の人々に伝えなさい。皆、ここで生命の木の木陰に身を休めなさい。

2. 皆が涙を流してやって来るわけではない。ここにいるこの大群衆の中にも、最近受けた恵みに喜び、心の中で私にこう語りかける者たちがいる。「ありがとう、父よ。私たちに対するあなたの憐れみは計り知れない。」

3. あなたがたの中に宿っているのは、永遠の愛の御霊である――かつて別の時代に人間となり、人々の間に住み、彼らを悪徳や罪、そして闇から救い出すために来られた御方である。

4. 私は変わることのない者であり、私にとって時間は過ぎ去ることはない。時間は私の意志に従うものである。それゆえ、私はあなたがたに過去を思い起こさせ、明日あなたがたがどのような存在になるかを告げるのである。

5. 私は、第二の時代に人々の心に刻んだあの言葉、そしてカルヴァリーの丘に残した血の跡――それによって私がこの世での歩みを示した――を、あなたがたに思い起こさせる。

6. わたしの言葉の中には、あなたがたの存在を甘くし、いつの時代もあなたがたの人生における陰鬱な味わいであった苦味を永遠に追い払うことのできる蜜がある。

7. かつて、私がなぜあなた方にこの地球を託したのかを理解できなかったとしても、今やあなた方は自らの使命と役割を悟り、もはや迷うことはなくなるだろう。

8. 停滞を乗り越えなさい。すべての魂の使命は、完全性を達成するまで、絶えず発展し、変容し、再生し続けることである。

9. 私は、あなたがたに新しい時代、すなわち、霊的な怠惰を振り払い、山の頂へと続く道においてさらなる一歩を踏み出すことになる新しい時代を告げた。しかし、新しい時代を告げ、発展と完全化について語るものは、私の言葉だけではない。 あなた方を囲む自然もまた、あなた方が聞こうとも理解しようともしないその言葉によって、これを示している。自然もまた、完全性へと一歩を踏み出す準備を進めているのだ。なぜなら、時が経てば経つほど、その懐にはより高度に発達し、より完全な存在たちが宿るようになるからである。それゆえ、この住処は、そこに住む者たちと調和していなければならない。

10. 自然界や四季、大空、陸地、あるいは海に現れる兆しを、あなたがたは気づいていないのか。あなたがたは盲目であり、私が語っているそれらの兆しを見ることができないのか。あるいは、耳が聞こえず、その呼びかけを聞き取れないのか。 それを知り、古の預言者たちがそうであったように、人類に告げなさい。まもなく、あなたがたの惑星はあらゆる面で激しく揺さぶられることになるからだ。嵐に打ちのめされる木のように、地球は揺さぶられ、木の枝には生命を持つ葉だけが残るだろう。枯れた葉は落ち、旋風によって吹き飛ばされてしまうからだ。

11. あの日々はすべての人々にとって試練となるだろう。そして、祈りと善行の中にのみ、彼らは守りと平安を見出すことができる。

12. もし地上に、救いの扉のような、暗闇の中の灯台のような、混乱の只中にあって平和をもたらすような民が現れたら、どれほど素晴らしいことでしょう！ あなたがたも、その民となることが望みではないだろうか。あなたがたが今受け取っている御言葉には、試練の瞬間に人類の砦となるために必要なすべてが含まれており、教えられているのである。

13. あなたがたの間における私の臨在と、私の御言葉の啓示は、単なる偶然ではありませんでした。これらすべてには意味があり、その意味とは、あなたがたが新しい時代を切り開く声を聞くために召され、愛と信仰に満ちて、受け取ったメッセージを広めるために旅立つことにあるのです。

14. この教えが、その純粋さと真実性をすべて備えて世に広まれば、人々は、砂漠を旅する渇きと疲れに苛まれた旅人がオアシスへと向かうように、この教えへと駆け寄るでしょう。

15. あなたがたは、この教えがすでに地上に顕著な影響を及ぼしているとはまだ言えない。なぜなら、あなたがたは私の神聖なメッセージを受け取ることに満足してきたからである。

16. この民が、私があなたがたに託したすべての光と真意を伴って、この霊的な種を運び広めるために旅立つ前に、まず多くの混乱を経験し、過ちや反抗、冒涜を犯すことになるだろう。

17. 正しい行い、真の礼拝、そして使命の適切な遂行は、第三の時代の弟子たちが私の言葉に正しい解釈を与え、その行いによって私の教えを証しするようになって初めて実現する。

18. この民の間で霊性がまだ定着していないのは、彼らが古い伝統や慣習から自らを解き放つことに至っていないからであり、また、私の霊の教えに外的な行動様式や礼拝の形式を混ぜ合わせることで、人々がこの業の真実性を認識することを妨げているのである。

19. わたしの宝庫には、この民が準備を整えた瞬間に、彼らを通して世界に注ぎ出すための、偉大な奇跡と御業が用意されている。

20. 私は、準備のために十分に長く教え、霊感を与えてきたこの人々の群れが、霊性へと目覚めるのを待っている。今日に至るまで、私が期待する実りは見られない。あなたたちの調和と兄弟愛はどこにあるのか？ 自己利益を一切求めない従順、謙虚さ、そして慈善はどこにあるのか？

21. この民は、世界に霊性を教えることからはどれほど遠く、また、わたしの言葉にふさわしい証人となることからはどれほど遠いことか！

22. 私はあなたがたに、人類の間に魂の渇きと飢えが蔓延しており、このような純粋で明快な教えだけが、その苦悩を和らげ、彼らを救うことができると告げてきた。しかし、もしこの言葉とこの業が、その純粋さを余すところなく示されないのであれば――それを教える者たちは、いったいどのような救いの業を成し遂げることができるというのか。 このため、わたしの啓示がひとたび終われば、わたしはこの民に、瞑想し、祈り、霊性を高め、準備をするための時間を与えるつもりである。そうして、彼らが旅立ち、わたしの言葉の使者となったとき、彼らは果たすべき使命を自覚した弟子となり、その証しは真実なものとなるだろう。

23. この民が世界に伝えるあらゆるメッセージには、慰めが含まれているべきである。そのメッセージの中で、人々は、これまで知られていなかった豊かな資質や能力を秘めた、あらゆる魂が内に抱く神秘を発見するだろう。そのメッセージの中で、人々は、霊から霊への対話を教える啓示を見出すだろう。

24. スピリチュアリズムの良き種蒔き人たちは、決して外見的あるいは物質的なもので際立つことはない。彼らには、見せかけの振る舞いや徽章、あるいは特別な話し方などはない。彼らの行動のすべては、質素で簡素なものとなるだろう。しかし――もし彼らが何かで際立つとすれば、それは彼らの実践的な隣人愛と、その霊性によってである。

25. スピリチュアリズムの真の説教者たちは、雄弁さによってではなく、その言葉の知恵と簡素さによって、そして何よりも、その行いの真実さと生活の正しさによって際立つであろう。

26. 私が地上で、人々の心を捉えるために、外見的に美しい話し方を必要としなかったことを思い起こしなさい。むしろ、私は愛と真実、癒しの力、そして知恵によって人々の心に届くことを知っていたのだ。これこそが、私の意志に従って、あなたがたが心に留め、従うべき模範である。

27. また、私はあなたがたが信仰の実践を物質的な礼拝の場に限定することを望まない。そうすれば、あなたがたは自らの魂を束縛し、永遠を勝ち取るためにその翼を広げることを許さなくなるからだ。

28. 私があなたがたに残し、私が期待する礼拝を捧げるための祭壇とは、いかなる制限もなく、あらゆる宗派、あらゆる教会、

あらゆる分派を超越した「生」そのものである。なぜなら、それは霊的なもの、永遠なるもの、神聖なものに根ざしているからである。

29. 弟子たちよ。あなたがたの多くは、経験に満ちた心を持って老齢に達したにもかかわらず、この時代にわたしの言葉を聞き、わたしの新たな啓示を受け取るにあたり、わたしの知恵の前では、あなたがたはただ幼子に過ぎないことを認めざるを得なかった。

30. あなたがたは、第三の時代の始まりに地上にいて、この形でわたしに耳を傾けなければならなかった。そうして初めて、世界にわたしの教えを説明できる、真理の霊の忠実な証人となることができるのだ。

31. 私が「霊的な光の時代」と呼ぶこの時代は、その始まりにおいて大きな混乱を特徴とするだろう。人々の心には、大きな疑問、深い疑念、不安、そして魂の葛藤が生じるだろう。これらすべては、人間が霊的な生命に目覚めつつあることのしるしとなる。

32. その時、わたしの弟子たち全員が目を覚まし、準備を整えていてほしい。なぜなら、彼らの口から、あらゆる無知を取り除き、あるいは嵐を鎮める言葉が発せられる必要があるからだ。 その時、あなたがたは、霊の教えがいかに速やかに広まっていくかを目の当たりにするだろう。なぜなら、その教えはすべての人の心に響き、まるで水が渇いた者の渇きを癒やすように、痛みを和らげるからである。

33. そうして、人生は変わっていく。宗派、道徳、科学、哲学、あらゆる観念は大きな変容を遂げ、ついに人生の真の意味を悟った人々は、慈悲の成就へと近づこうと努めるようになる。

34. 人間はついに、自分の王国が、愛と正義という私の法則に基づくものであり、またこの世のものではないこと、そして自分の肉体、すなわち人間の外殻は、魂がこの試練と償いの世界を感覚を通じて知覚するための単なる道具にすぎないことを理解するだろう。 人間はついに、この人生が、ただ一つの壮大な教訓に過ぎないことを体験するだろう。その教訓は、生徒たち、すなわちすべての人々が、人生が与える教訓をよりよく理解できるよう、素晴らしい姿やイメージで彩られている。そして、それらを正しく評価することができれば、彼らは の魂の成長を達成し、彼らを強くする闘いの意味を理解するようになるだろう—— 彼らを研ぎ澄ます痛み、彼らを高潔にする苦難、彼らを啓発する知識、そして彼らを高揚させる愛。

35. もしこの現世が唯一の存在であったなら——まことに、私はあなたがたに告げる。私はとっくにそこから苦痛を取り除いていただろう。なぜなら、あなたがたがただ苦難の杯を飲み干すためだけにこの世に生まれてきたとするなら、それは不公正なことだからである。しかし、今日苦しみ、泣いている者たちは、かつて放蕩にふけって享楽を貪ったがゆえに、そうしているのだ。 しかし、この苦しみは彼らを清め、昇華させ、主の御許において、より清らかな姿で喜びを享受するにふさわしい者とするだろう。

36. かつて、私は人々に、この世で誠実さと愛をもって生きることを学ぶよう教えた。今日、私があなたがたに教えるのは、霊性の中で生きることを学び、明日、「霊の谷」で光の存在たちと共に生きる準備をするためである。

37. 人類よ。肉体だけが、魂に対する使命、すなわち魂の道具あるいは器としての役割を果たした後、消滅する運命にある。しかし、その存在の中にあった魂、すなわち知性の光、理性、意志、感情、これらすべては決して死ぬことはなく、死ぬこともできない。なぜなら、それらは、この地上におけるその存在の生命に息吹を与えた不滅の魂の一部だからである。

38. 愛する子供たちよ、さまざまな宗派の道を歩む人々の魂を自分たちの側に引き寄せようとするあなた方に、私はこう告げます。人々を導くには、彼らに考えさせること、彼らに思索を促し、正しい結論を導き出せるよう手助けしなければならないのです。儀式や形式、伝統、外見的なものは、現代人の魂をもはや満たすことはできません。彼らが自分の道を歩む上で安心感を持ち、試練の時にも見捨てられたと感じないようにするためには、光と意味、そして真理を与えることが必要なのです。

39. 私は、あらゆる種類の人々を見ている。彼らは私を信じているにもかかわらず、その信仰は極めて弱く、知識も混乱しているため、人生において、羅針盤のない船のようであり、方向を示す導きの星のない旅人のようであり、あるいは羊飼いのいない羊のようである。

40. わたしは、この教えを、あなたがたの兄弟姉妹のうち、人々の群れの中からわたしが選び出した者たちを通して与えている。彼らの知性を用いて、このメッセージをあなたがたに伝えるためである。

41. 今日、この言葉をめぐって一つの共同体が形成され始めている。都市の片隅で、貧困の陰で、そして質素な生活の静寂の中

で、集会所が門を開き、そこで私は父として、裁き主として、そして師として、私の教えを聞かせている。

42. 将来、多くの人々がこのメッセージに対して抱いてきた無関心、すなわち、私が再び人々の間に現れたという知らせを耳にした際の無関心は、正反対のものへと変わるだろう。そして、この働きに対する他者からの軽蔑は、やがて関心へと変わり、人々は信仰を強める助けとなる証言や記録、証拠を求めて動き出すようになるだろう。

43. わたしは、この時代にわたしの足跡を見出す者たちの心を導く。そして、彼らがわたしの前に立つとき、わたしは彼らにこう告げるだろう。「ようこそ、愛する民よ。心を静め、わたしの言葉に耳を傾けなさい。」

44. 愛こそが、私があらゆる時代にあなたがたに啓示してきたものであり、今日、私の選ばれた者たちの知性を通じてこれを告げ知らせるにあたり、私は他の方法で自らを現すことはできなかった。

45. 今日のこの教えは、あなたがたを、私が第二の時代にイエスを通して与えた教えを理解する道へと導くものである。そうして、あなたがたがその本質を心の中に注意深く守り、必要な時にはいつでもそこからそれを放つことができるようにするためである。

46. この言葉は全世界に響き渡るであろう。なぜなら、すべての人々との私の霊的な対話のために万事が整えられており、人々はそれについて証しをするからである。

47. あなたがたの魂は常にわたしを求め続けてきたが、わたしは決してそれを独りにしたことはない。あなたがたがどこへ足を向けたとしても、どこにいてもわたしはあなたがたと共にあり、わたしの愛があなたがたの歩みを見守ってきた。

48. あらゆる時代を通じて、私はあなた方を訪ね、あなた方の魂が私を認識できることを見てきた。今、魂には、肉の弱さに対して立ち向かい、正しい道とは何か、そしてこの恵みの時代におけるその使命とは何かを肉に理解させるという任務がある。

49. 私はあなた方を呼び、教えを授けてきた。そして、あなた方は、まもなく耳にすることのないこの教え、この言葉を広める者となるだろう。キリストが人間の脳を通じてその言葉を伝えることをやめる時が近づいている。しかし、あなた方の理解力は私の言葉を把握するのに十分鍛えられ、あなた方の魂は私の霊感を受け取る準備が整っているだろう。

50. わたしはあなたがたの霊、すなわちわたしから生まれたその原子に語りかける。それは、わたしから生まれたゆえに、わたしのものであるからだ。かつてわたしが「わたしの王国はこの世のものではない」と言ったように、今、*あなたがたにこう*告げる。「」あなたがたの王国もまた、地上にはない。それは、死すべきもの、変化するもの、そしてあなたがたの理解の及ばないもののすべてを超越した場所にある。

51. 今こそ、すべての魂が目覚め、真の命へと目覚めるべき時である。しかし、それは、私がこの世であなたがたに与えたものを軽んじてよいという意味ではない。あなたがたがこの世に住んでいる限り、その法則に従わなければならないからだ。 私があなた方に求めるのは、一日のうちほんの少しの時間を私に捧げ、あなた方の姉妹である人類のために善行を行うことだけです。

52. 私の祝福があなた方とともにありますように。あなた方を通して、私はすべての子供たちを祝福するからです。

53. すべての教会が集うこの日、あなたがたの魂を休ませてあげなさい。かつて私が弟子たちを選んだあの時代のように――そのとき、私は弟子たちだけでなく、私の言葉を聞きたいと願うすべての人々にも私の言葉を授けた――今この時代においても、私は今日、私に従うべき者たちを選んでいる。しかし、私は、大衆の多くにも私の言葉が聞かれることを許している。 この道はすべての人々のために定められており、わたしのパンも同様である。しかし、すべての人が同時にやって来られるわけではない。ある者は早く、ある者は遅く来るだろう。しかし、決して後ろを振り返ってはならない。

54. 心に聖域を築いた者たちこそ、一歩一歩、師に従う者たちである。

55. 今日、私があなたがたに与え、育てるよう教える種は、あなたがたの父の家から来たものである。それは人々の心の中にふさわしい耕作地を見出すだろう。その前に、私の正義が、あたかも鎌であるかのように、畑を覆っていた雑草を切り払い、種が芽吹けるようにする。 畑は再び実り豊かなものとなり、その上で、あなたがたは、世界も、人も、罪も、情欲も消し去ることのできなかった私の足跡を発見するだろう。私の足跡は時代を超えて残り、永遠に鮮やかに保たれる。

56. 人々は深い無気力状態から目覚め、自らの内面を見つめれば、霊的な自己を発見するだろう。そして、良心の声を聞き取るとき、彼らは私の神聖な足跡を発見し、それを通じて急いで私のも

とへやって来るだろう。 あなたがたは、私の種を世界中に蒔かなければならない。そして、報いを受け取るために私のところに来るときは、たとえ一穂だけであっても、あなたがたの父のもとに来なさい。ただし、その一穂は良質でなければならない。 たとえ何も持ってこなくても、私はあなた方を受け入れる。私は愛であり、慈悲そのものだからだ。しかし、中途半端なまま残した種まきは、後で再び取り上げて、その仕事を完成させなければならないことを忘れないでほしい。その頃には、雑草が 再び畑を覆い尽くしていないか、害虫の被害がそこに入り込んでいないか、あなた方にはわかるだろうか？

57. つまり、私が言いたいのは、私の呼びかけを感じたなら、直ちにそれに従うべきだということだ。そうしてこそ、あなたがたに任務を果たすために私が託した時間を有効に活用できるのだ。これらすべてについてよく考えてみれば、幸福と平和という報いを自ら勝ち取ることもできれば、自らの右手で自らの裁きに署名することもできるのは、他ならぬあなたたち自身であることに気づくだろう。

58. わたしの言葉による裁きがあるにもかかわらず、今、あなたがたに語りかけているのは、愛に満ちた父である。あなたがたの過ちを顧みることなく、すべての人を包み込むように、わたしのマントが広がっているのを見よ。

59. わたしの言葉を深く学びなさい。それは、あなたがたの魂を照らし、良心の声を聞き取れるようにする光である。今こそ、この光がすべての人々に力強く届く、恵みの時である。

60. わたしは、あなたがたが人類の苦しみをわたしの前に差し出すことができるよう、愛をもってあなたがたに寄り添うキリストである。あなたがたこそ、この啓示を信じる者たちだからだ。あなたがたに告げる。わたしはあなたがたの心に住みたいと願っている。

61. この時代、どれほど多くの人間の血が地上に流されてきたことか！ 計り知れない苦痛の中にいるわが子らを見よ。彼らは様々な方法でわたしを求め、呼び求めている。その一方で、心の奥底では、わたしの使者が諸民族や人々に近づき、平和をもたらす時が来たのだと、直感しているのだ。

62. あらゆる宗教共同体は、自らの礼拝の場において、信仰告白の枠組みの中で、あるいは礼拝の形式の中で、私の再臨という奇跡が現実のものとなるのを待ち望んでいる。

63. しかし、*あなたがたに*告げる。あなたがたは私の到来を信じ、私とつながる術を知っており、救われているのだ。あなたがたこそ、この愛のメッセージを同胞たちに伝えるにふさわしい者たちである。

64. 見よ、人々は、自らの法律にも、教会にも、紛争の解決策を見出せず、闇の雰囲気に包まれていると感じている。

65. その痛みには、彼らの歩みを止めさせ、私へと視線を向けさせ、私の声を聞かせるだけの十分な力がある。それは、*あなたがたが*自らの道の途中で立ち止まり、霊の目を開いて、私を新たに仰ぎ見るようになったのと同じである。 しかし今、あなたがたは、すべての人々に――『 』を通じてその才能を高めた者にも、発展の度合いがまだ低い者にも――私の言葉を伝えるという使命を託されている。

66. 福音を聞く者は、最初の瞬間だけ驚くだろう。なぜなら、その後、メシアが「第二の時代」に来る前から、預言者たちによってその到来が予告されていたことを思い出すからである。それは、この時代に私が来ることも予告されていたのと同じである。私自身が、イエスの口を通してそれをあなたがたに告げ、私の到来の証拠として現れる兆しをあなたがたに知らせたのである。

67. すべてが実現した今、人々は確信するだろう。ここに、あらゆる時代にあなた方を照らしてきた聖霊の光がある。なぜなら、神の光は過去にもあり、現在もあり、そして永遠にあるからだ。

68. 私の真理は、狂信、偶像崇拝、そして宗教的熱狂の源である無知と、再び戦っていく。なぜなら、狂信は盲目であり、偶像崇拝は唯物論的であり、熱狂者は偽善的だからである。

69. 私は深淵の底を照らし出し、すべての魂がそこから清らかで悟りを得た状態で立ち上がれるようにする。

70. 永遠において、魂の開花や発展が妨げられることは決してない。なぜなら、あなたがたは皆、完全化の法則に支配されているからである。

71. 魂が時折、その道において前進できなくなることがあるとすれば、それは肉体の影響によるものである。その場合、魂は歩みを速めるか、あるいは新たな転生を通じて、失われた時間を取り戻さなければならない。私があなた方を裁くとき、その裁きは愛から生じるものであり、決して罰として行われるものではないことを悟りなさい。 常に愛し続けなさい。そうすれば、平和のうちに永遠の命へと入っていくでしょう。死が訪れたとしても、あなたの魂

は不安になる必要はありません。死は、墓の穏やかな懐へと沈んでいく肉体に対してのみ訪れるものだからです。

72. 人々の間に、聖霊、すなわち真理の霊の時代が築かれていることを心に留め、平安のうちに霊的な故郷へと向かいなさい。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 195

1. 愛する弟子たちよ、わが教えに耳を傾けなさい。

2. 声の伝達者による霊感を通じて、教えに満ちた私の言葉があなた方に届いている。それを聞くことで、あなた方はそれが作用する力であり、癒やしであり、再生であることを悟り、その本質の中に魂の命を垣間見ているのだ。

3. 師が、あなたがたに囲まれているのを見るだけで満足しているなどと思ってはならない。あなたがたがすべきことがまだ一つあり、それは師を真に喜ばせるものである。それは、あなたがたが師に対して負っている、まだ清算されていないその罪を償うことである。 それは、あなたがたが地上に生きてきたすべての期間を通じて、あなたがたに重くのしかかっていた負債である。それゆえ、あなたがたは私の言葉の優しさの中に、非難を感じるのである。その愛の中に戒めを見出し、その本質の中に法則を見出すのである。

4. あなたがたの理性は、時にこの償いの義務に戸惑い、それに抵抗することがある。それは、その負債を認識できるのは魂だけだからである。しかし、もし魂が地上の快楽に引きずられてしまえば、霊的には社会から疎外された者となってしまうだろう。

5. わたしは、弟子たちが信仰と確信において揺るぎない者となり、わたしの言葉を信じ、わたしに従うと口では言いながら、しかし、足元の砂漠の砂が焼けるように熱く感じると、この世の富を置き去りにすることになると感じて、その道を歩み続けることを恐れるような者たちにはなってはならない。彼らは単なる偽善者であり、まだ弟子とはなっていないのだ。

6. この道がバラの花びらで敷き詰められていると期待してはならない。むしろ、茨に満ちていると期待せよ。それはイエスが歩まれたのと同じ道であり、カルヴァリーの丘の頂上へと続く道である。

7. あなたがたがつまずかないよう、道しるべとなるのは、わたしの言葉である。

8. 今こそ、あらゆる知性と魂が私の光を受け取る時である。各宗派や教義は完全な明瞭さを得るだろう。そして、この言葉を聞いたこともない人々が、霊性への道を歩んでいるのを見て、あなたがたは驚嘆することになるだろう。

9. 世界の平和のために祈りなさい。そして、私の慈悲があなた方を戦争から守ってくれたことを悟りなさい。

10. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたは私の言葉を称賛し、愛してはいるものの、その真価を十分に評価してはいなかった。しかし、明日の世代が到来し、 、そのことに驚き、書き記されるであろう書物に対する深い敬意と畏敬の念に圧倒されることになるだろう。

11. あなたがたは、私が様々な宗教共同体の懐で眠りについているのを見つけた者たちである。それらはすべて同じ目標へと至る道ではあるが、私はもう一度、あなたがたに最も近道を示すことを望んだ。

12. 愛する子供たちよ、一致し、平和のうちに生きなさい。

13. 私が、あなたがたに教えを授けることをやめる時が、ますます近づいている。それは、あなたがたが長い間、人間の知性を通じて受け続けてきた、この美しい教訓である。 あなたがたが何にも驚かされないよう、また、私の業の敵たちが私の証人たちに信仰の無敵の力を目の当たりにし、あなたがたが「一人ではないこと」、私がすべての子供たちのそばにいることを絶対的な確信を持てるように、あなたがたを準備させておくことが私の意志であった。

14. 今日、あなた方の内面からは、働くよう促す力が溢れ出ている。それは、内なる良心があなた方に語りかけているのだ。

15. 物質世界においては、それはあなたがたの行動を規定する法の力である。

16. 霊的な世界においては、それは私の「万物を包み込む愛」という法則であり、それはあなたがたが呼吸する空気の中、あなたがたを取り巻く世界々、そして全被造物の中に現れている。

17. すべてのものは、この法則のリズムに合わせて振動している。低次元の存在たちが生まれ、成長し、再び自然の懐へと還っていくのは、彼らがその法則を知らずとも、その法則の内に生きているからである。

18. しかし、なぜ人間は、霊の光、良心、知性、そして意志を備えているにもかかわらず、私の法則によって示された道からこれほど頻繁に逸れてしまうのだろうか。 その理由は、ある者たちが父を忘れている一方で、他の者たちは、私を人間が思い描いた姿に限定し、私が霊的な本質であり力であり、万物が私の意志に従っていることを忘れて、私について誤った観念を抱いているからである。

人間が善意をもって、神の力が現れている創造物を探求しようとするとき、種子にも注目し、そこに秘められた謎に飛びつく。種子が大地から植物として芽吹くのを見、様々な種類を研究する。

その特性は異なっても、それらはすべて同じ母体、すなわち大地から養分を得ているのである。

19. 種は、生命、増殖、変容、そして発展の象徴である。しかし、これほど小さなものにさえ創造主の姿を見出すことができるのなら――人間や宇宙を眺めたり、魂を研究したりする際には、なおさらそうではないだろうか？

20. あなたがたが神を想像する際に、特定の姿など存在しないことを悟りなさい。私はあらゆるものの中にいる。霊的かつ永遠なるものの中にも、物質的な自然の中にも。私は生命であり、宇宙であり、光である。私は、人間に降りかかるあらゆる悪に対する救済である。

21. 霊的な世界には、魂を苦しめるあらゆる悪に対する解毒剤が存在します。それは、人間が自然界において科学によって肉体の苦痛に対する治療法を見出すのと同じです。よく考えてみれば、さまざまな領域において、父の無限の完全性が明らかにされていることに気づくでしょう。 あなた方の想像力と好奇心は、時にこの世界にとどまらず、他の世界にも人間のような存在がいるのか、そして彼らが地球上のあなた方と同様の生活や発展を遂げているのかと自問することがある。私の教えを学び、実践しなさい。そうすれば、その時が来れば、あなた方は星々の生命の神秘を悟ることになるだろう。 そのベールを自らの功績によって引き裂くのは、人間自身の役目である。人間には、自らの発展の道を歩み続け、やがてその目が私の意志にかなうものを捉えることができるようになり、そして仲間たちの想像の世界を照らし出すことができるようになるという使命がある。 まことに、あなたがたに告げる。転落を経験せずにそこまで昇りつめることは不可能である。一歩一歩、登っていかなければならない。そうでなければ、人間の脳は苦しみ、何も理解できなくなってしまうだろう。

22. それゆえ、私は、あなたがたの成長のリズムに合わせて、その発展がゆっくりと進むことを許してきたのである。

23. 人間は大きな葛藤の中から光を得て、人類の進歩のために新たな発見をする。しかし、人間は、自らの進歩のすべてが自分よりも偉大な何かに起因していること、そして自分の知性の中に、知恵である創造主の光を受け取っていることを忘れてしまう。 あなたがたが知識を深めていく姿を見るのは喜ばしいことだが、まことに、私はあなたがたに告げる。物質よりも魂に、もっと力を注ぐべきである。そのために、私は今、あなたがたに啓示を与える。それは、霊的な存在も、 人間も、あらゆる被造物について、あなた

がたの中に現実的な認識を築き上げ、その簡潔さの中に、より良い人生への道を切り開く知識を含んでいる。

24. その人生は、あなたがたの地上の肉体の目では見ることができないだろう。しかし、あなたがたは、ここで未来を経験することになる人々に、これらの教えを告げ知らせることはできる。

25. 今、あなた方は戦争ばかりを目にし、それが神の罰だと叫んでいる。しかし、私は、父である神は罰を与えないこと、そして、それらの出来事はあなた方自身が引き起こしたために起きているのだと教えたはずである。

26. 自然の猛威は、何によって引き起こされたのか。これらすべては、人々が周囲の自然と調和して生きていないことから生じているのである。

27. 人間は、自らの魂が従うべき発展の道をようやく認識し、その進歩あるいは後退の程度を見極め、真の進歩を達成するための道筋を探さなければならない。人間は、ただ自分のためだけに生きることに満足してはならないこと、また、この世の生活だけを考慮してはならないことを理解しなければならない。

28. そうすれば、人は私の律法――私がモーセ以来人類に与えてきたその律法――を渇望して視線を向けるようになるだろう。そして、そのように探求していくうちに、人々は*私*がこの時代にあなたがたに啓示した教えを認識するに至り、それが万物を包み込むものであることを理解するようになる。

29. わが子らよ、団結せよ。今、あなたがたが得ているこの知識を、身近な人々に広めなさい。ただこの集会所だけで集まるのではなく、野外へ、山々へと出よ。そこで、わたしはあなたがたの中に現れるであろう。

30. あなたがたはこの時代を「光の時代」と呼んでいる。しかし、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、単に人々の発見ゆえにそう呼ぶのではなく、聖霊の光があらゆる知性器官に注がれ、それによって人類に、より高い生命、すなわち霊的な生命へと導く道が開かれたからである。

31. この時代のわたしの言葉は、明日の人間が自らの魂と知性を開花させるために役立つであろう。彼らの理解し、認識する能力は、どれほど偉大なものになることか。

32. それゆえ、私は光の御言葉をもってやって来て、来るべき世代を準備し、あなたがたにもその道を整えるべきであることを告げるのである。

33. この教えを学び、実践しなさい。そうすれば、あなたがたは心に平安を、唇に雄弁さを、言葉に説得力を得るであろう。

34. 師の愛する弟子たちよ、わたしのところに来なさい。

35. 私は再びあなたがたの元へやって来た。あなたがたが準備を整えたいと願っているのを見て、その呼びかけに応えたのだ。

36. 人類は、もはやこの世に属さない者たちを偲ぶために、この数日間を伝統として定めてきた。人間の想像力は、それらの存在が置かれている場所や、彼らを取り巻く生活について、あるイメージを描こうとしてきた。そして、彼らが永遠の平安を享受していることを願うあまり、人々は彼らが父の右座にいて、その恵みを享受していると信じている。 彼らは現実からかけ離れている。それでも、私がそのいのちの多くの真実を明らかにしてきたあなた方は、人々の間で霊的ないのちについて様々な考え方が存在することを認識しつつも、霊においてすべての人と一つとなり、すべての人がその霊的な波動を感じていることを知るだけで満足すべきである。

37. やがて、私が今、あなた方に託しているこの本を、あなた方の周囲の人々の前で開くことができる時が来るだろう。そうして、この知識を心から心へと伝えていくのだ。

38. あらゆる魂の目的は、浄化と完成を経て、神性へと入ることである。そのために、私はあなたがたの道を光で照らし、あなたがたの魂に力を与え、一歩一歩、上へと昇っていけるようにする。 あなたがたがこの地球を去る際に到達している発展の段階に応じて、来世で住むことになる霊的な住まいが決まります。なぜなら、宇宙は魂が完全性へと至るための階段として創造されたからです。

39. もしあなたがたがここで使命を終え、再び戻ってくる必要がなくなれば、あなたの魂は別の世界に住み、そこから人類の平和と進歩を見守り、働きかけることになるでしょう。

40. 一歩一歩、あなた方はその秘められた宝庫へと足を踏み入れていくことになる。そして、魂が自分自身を自覚すればするほど、善への傾きをより強く感じるようになり、それによって神性へとさらに近づくことになる。

41. 空間をさまよい、より高い世界の光に到達しようと奮闘している存在たちは、地上の肉体と地上生活が彼らの中に残した不幸や印象を、今もなお抱え続けている者たちである。 彼らは、霊的な力と物質的な力という、自分たちを引き寄せる二つの力の間に引き裂かれている。それは、彼らが依然としてこの世の快楽への傾きと愛を感じているからである。

42. 祈りを通じて、そうした存在たちに手を差し伸べてください。彼らの光と力だけでは、 彼らが置き去りにしたものに縛りつけている鎖を断ち切るには不十分だからです。 彼らのために祈ってください。しかし、この世と死を乗り越えた者たちについては、心配する必要はありません。彼らは全く異なる世界の一員であり、人生の旅で経験したあらゆることを光へと変容させ、そこからあなた方を鼓舞しています。彼らはあなた方の代弁者であり、守護天使であり、すべての者の幸福のために働く者たちです。彼らを思い出し、愛してください。

43. 霊界には、どこへ向かうべきか、何を考え、何をすべきかさえわからない、膨大な数の存在たちもいます。彼らはごく最近この世を去ったばかりで、まだ眠っている能力や力が目覚めつつあることを感じていないのです。 彼らのために祈ってください。そうすれば、あなたの霊的な声が彼らの魂に響き渡り、彼らを目覚めさせ、イエスがこの世で御言葉と十字架上の御血によってすでに示してくださった道を見つけられるようになるでしょう。

44. しかし、愛する者の喪失を嘆き、この世が悲しみに満ちているこれらの日々であっても、魂の命を知る者にとっては悲しみなどあり得ない。むしろ喜びがある。なぜなら、この世を去った者たちは、肉体を離れることで解放を得て、完全性がもたらす平安へとまた一歩近づいたことを知っているからだ。

45. わたしはあなたがたに言う。完全性への第一歩を踏み出すために、霊界へ急いで入ろうとしてはならない。あなたがたは、この地上にあって、まだ肉体の中にいるうちに、すでにこの完全性を追求しなければならない。 肉体生活の中で、この世において、そしてあなた方を囲む生活の中で、あらゆる苦難や運命の打撃にもかかわらず、魂の進歩のために功徳を積むための尽きることのない機会を見出してください。

46. 肉体とは、魂が一時的にまとう衣に過ぎず、魂は自らの経験や成長、あるいは贖罪の課題のために必要とされる限り、その衣を何度でも着替えるものである。この神の正義の法則をまだ理解していない者は、まだ子供のような生徒に過ぎない。

47. もしあなたがたが輪廻転生の法則に疑いを抱くならば、あなたがたはスピリチュアリストとは言えないだろう。なぜなら、これは私が多くの人々に新たに啓示し、またそれについて予感や直感を持っていた者たちに確認を与えている、根本的な知識だからである。この法則には、光のように明瞭な理屈と正義が宿っている。

48. しかし、この教えを信じ、それを説明しようとする者は、肉体は魂の覆い、あるいは衣であり、この肉体が魂の開花に寄与することを教えるべきである。なぜなら、肉体は魂が自己を表現し、浄化するために必要な手段を提供するからである。魂と肉体との内なる闘い、すなわち善と 悪との闘いは、功徳を積む機会を与える。 肉体の苦しみや満たされない渇望は、魂にとっての浄化であり、一見すると苦い経験ではあるが、やがては悟りへと変わるものである。私は、浄化のために痛みが必要だと言いたいわけではない。私の懐には、痛みを経験することなく、愛によって浄化された存在がどれほど多くいることか！

49. しかし、人間には、魂の救いを得るまで、十字架の重荷を背負って山を登り、苦しむという運命が定められている。それゆえ、あなたがたにこれほど多くの苦しみを味わわせているこの肉体を軽んじてはならない。むしろ、それを愛しなさい。なぜなら、この肉体は弱い「被造物」ではあるが、あなたがたが責任を負うべきものであり、その中にさえも神の力が映し出されているからである。 私が、その身体についてあなた方に説明を求める日が来るまで、それを守り、導きなさい。

私が「自分の体を愛しなさい」と言うとき、私がそれによって何を伝えようとしているのかを理解しなさい。なぜなら、私はあなた方の内に虚栄心や利己心を呼び起こそうとしているのではないからだ。しかし、あなた方の存在の気高く崇高な部分であり、あなた方の父の一部である魂もまた愛しなさい。たとえそれがどれほど汚れていようとも、それを愛しなさい。 たとえ闇に包まれていても、魂は常に、私の神性の火花、すなわち「霊」をその内に宿しているからだ。そして、あらゆる状況にもかかわらず、私がそれぞれの子供たちの中に宿るその瞬間から、魂の中には常に純粋さが存在し続ける。しかし、その光が無視されれば、魂はその反抗心ゆえに成長を見せず、創造主の懐へと至る時を遅らせてしまうだろう。

50. 私の言葉と行いは矛盾しているように見えるかもしれないが、そこにはそのような矛盾は存在しない。私はあなたがたに、神は清らかさと完全さそのものであり、あなたがたの魂は神性に似ている、と告げてきた。 しかし、魂が堕落し、肉の欲望に引きずり込まれてしまうと、その成長が停滞した状態において、父の恵みと臨在が決して魂から離れることはないにもかかわらず、自らを忌まわしい、あるいは不浄であると見なして、創造主との類似性を疑うようになる。ただ、それらがもはや感じられなくなっているだけなのである。

51. あなたがたの魂の未来のために努力しなさい。それならば、なぜ死を恐れる必要があるのか。しかし、後になって過去の過ちを清めたり、負債を返済したりする必要がないよう、未解決のことは何も残さないようにしなさい。

52. 善行を一つもなさない日が一日たりともあってはならない。そうしてこそ、あなたがたは自らの魂のために働くことになるのだ。

53. 運命論者になってはならない。すなわち、自分の運命とは神が人生の道に定めたものそのものであり、 苦しむのはそれが定められているからであり、人生を楽しむのも同様にそれが定められているからだと、その考えを固めてはならない。私は、あなたがたが蒔いたものは必ず刈り取らなければならないと、すでに説得した。 しかし、よく耳を傾けてほしい。なぜなら、時にはその収穫を直ちに刈り取ることもあれば、また別の場合には、あなたがたが蒔いた種を刈り取り、収穫するために、新たな地上の人生へと踏み出すこともあるからだ。私が今言ったことを深く考えれば、私の正義に対する多くの誤った判断や、多くの誤りを取り除くことができるだろう。

54. わたしを理解しなさい。そうすれば、あなたがたの心にいかなる疑いも生じないだろう。わたしが、あなたがたを媒介として人類を教えなければならないことを悟りなさい。しかし、もしあなたがたが、これほど深遠な秘密を人々に説明することはできないと宣言するならば、わたしはあなたがたの口を通してわたしの言葉を告げ知らせるだろう。なぜなら、あなたがたの唇の不器用さが、わたしの業の偉大さを覆い隠してはならないからだ。

55. 自分が歩まなければならない道を理解するようになった魂は、もはやその道から逸れることはない。その魂はこの世を去り、他の世界へと移るかもしれないが、良心が示す道から決して迷うことなくそうするだろう。準備の整っていない魂は、この世においても、また他のいかなる世界においても、危険に遭遇する。 その魂には、光となる知見が欠けており、高みへと昇ることはできず、その結果、その混乱が、人々の中にさえもその有害な影響を及ぼすことになるだろう。これとは対照的に、霊的な高みへと昇りつめることができた者たちは、自らの高揚によって宇宙の導師となり、兄弟姉妹たちにその癒やしの影響を確実に感じさせるのである。

56. 後者たちを模範とし、完全性が理想であるあの世界を目指しなさい。そこでは、愛すること、そしてあなたがたを生み出し

、もはや離れることのない永遠なるお方をより深く知ることが求められるのだ。

57. わたしの恵みはすべての魂に降り注いでいる。しかし、それを受け入れる者もいれば、拒む者もいる。愛を渇望する者は、この渇きを癒やす尽きることのない流れであるわたしから、飲み干せ。

58. 失敗した者は、私へと視線を向け、私の光の輝きを見出し、それに導かれるようにしなさい。裸であると感じる者は、私の赦しと憐れみのマントで身を覆いなさい。 疑いを持つ者は、その知性を鍛えるがよい。なぜなら、私は知恵そのものであり、その知恵によって、私は彼に啓示を与えるからである。悲しみに沈む者は、私に近づきなさい。そこにはすべてが見つかる。そして、 からこの愛の杯を飲んだとき、その者の内に信仰の炎が灯るであろう。

59. 苦しむ者たちの世界のために祈りなさい。そうすれば、一見、破滅していると思われる者たちにも恵みがもたらされるようになるだろう。

60. わたしは「御言葉」である。わたしは御言葉である。わたしに耳を傾けよ。

61. あなたがたは心の奥底で、わたしに数え切れないほどの問いを投げかけている。「主よ、私たちはあなたの御命令に従わなかったのでしょうか？　人類のために善行を尽くさなかったのでしょうか？　あなたを理解するどころか、私たちは誤りを犯してしまったのではないでしょうか。そして、もしかすると他の人々をも誤りに導いてしまうのではないでしょうか？」

62. いいえ、わが子らよ、私はあなたがたを正し、私の教えによってあなたがたが過ちを犯すのを防ぐために、あなたがたの間におるのだ。あなたがたが強くなれば、もはや疑いはなくなるだろう。

63. 霊的な面において、あなたがたはもはや幼子ではありません。なぜなら、あなたがたが地球で生きているのは、今回が初めてではなく、また最初の時代でもないからです。この時期にあなたがたを照らす第六の封印の光は、あなたがたの存在を照らしてきた唯一の光ではありません。 あなたがたは、完全性へと至る長い進化の道のりで成長を遂げた魂である。それゆえ、不安になるのではなく、むしろ主があなたがたの中にいることを喜びとして感じなさい。なぜなら、これはあなたがたが主を理解し、主に従うことができるというしるしだからである。

64. 最初の時代、イスラエルの民は、偶像崇拝と異教がはびこるエジプトに囚われていた。私は、目に見えないアブラハム、イサク、ヤコブの神を信じる民を通じて、私の存在と力の証拠を示すために、私の民がそれらの異教徒の懐で暮らし、増え続けることを許した。

65. 奴隷としての苦しみと苦難が頂点に達したとき、私はイスラエル人の間から、私の恵みによって油注がれ、私の霊感に満ち溢れた一人の男を現わせた。そして、私は彼に命じ、次のように語った。「あなたの民のもとへ行き、彼らを救い出せ。彼らは鎖と屈辱と苦難によって押しつぶされている。 ファラオのくびきから彼らを救い出し、解放し、カナンへと続く道を選んで荒野を導きなさい。なぜなら、この民が、わたしがあなたがたに約束した地に至ったとき、そこでわたしの神性にふさわしい礼拝に専念できるよう、わたしが望んでいるからだ。」この男こそがモーセであった。

66. モーセはどのようにして民をファラオの魔の手から救い出したのか。果たして彼は、民の手に武器を握らせたのだろうか。いいえ、彼の武器は、全能の神への信仰であった。

67. あのファラオが、私の命令であったモーセの願いに逆らったとき、私はその異教徒に対し、たとえ彼の反抗と不信仰がいかに大きかろうとも、私の裁きと力はそれよりもなお大きいことを証明した。 彼は私の声を十回も無視したが、私もまた十回、エジプト人に大いなる災いをもたらし、ついにその首筋を柔らかくし、暴君の頑なな心を屈服させた。

68. モーセは民を率いて出発し、荒野へと進み、シナイ山の麓へと導いた。彼は、そこで主と出会うことになることを知っていたからである。民がモーセの帰還を待つ間、モーセは至高者への祈りに身を捧げ、人類の運命を決定づける律法の石板をエホバから授かった。 この従順なしもべは、その霊においてその神聖な啓示を受け入れ、また、人間生活におけるあらゆる事柄や行為について、自ら律法を制定する準備も整えられたのである。

民は長い間、荒野で苦難と闘いを経た後、その運命の目的地である「約束の地」にたどり着いた。そこで民は家を建て、畑や庭を耕し、家庭を築き、清らかな心で神を崇拝した。 この世に対する義務を果たし、霊の律法に従うことから、彼らは唯一の神への礼拝を確立し、自らの愛と慈悲の証を数多く与えてくださった神にそれを捧げた。

しかし、その霊的な崇拝は、まだ完全さからは程遠いものでした。供物や献金は物質的なものであり、その犠牲は罪のない生き

物の血によってなされていました。また、人間の生活においても、高い道徳と正義に基づいて行動することには至っていませんでした。「目には目を、歯には歯を」という報復の法則が支配していたのです。 また、姦通の現場で捕らえられた女性に対しては、町の外で民衆によって石打ちの刑に処され、死に至らしめるという法律があった。

69. なぜ父は当時、これらすべてを許されたのか？――それは、当時の人々が霊的に最初の歩みを踏み出していたからである。

70. 時は流れた。私は、あなたがたの畑の初穂、収穫の最初の果実、そして祭壇の上で私に捧げられた無垢な犠牲の血を受け取った。

71. その民の伝統は深く根付いていた。しかし、これらすべてが変わらなければならないこと、あの法律やあの礼拝の形式が変革されなければならないことを、誰が彼らに告げただろうか？ それらの形式や慣習を変革させたのは、モーセでもなければ、預言者たちでもなかった。モーセ はただ道を切り開いたに過ぎず、預言者たちはただ説教しただけだった。 約束されたメシア、すなわち神聖なる師こそが、あなた方を眠りから目覚めさせ、モーセが授かった律法の戒めを一つたりとも破ることなく、もはやその時代にふさわしくなくなった伝統や礼拝の形式を取り除き、人類の生活を一変させる光と知恵の新たな時代を切り開いたのである。

72. 私が改革したのは律法そのものではなく、そこから派生したその実践方法に過ぎない。

73. その民の霊的な幼年期は過ぎ去り、彼らは成人期へと足を踏み入れた。そこで私は、あなたがたに未知の糧を与え、無知のベールを引き裂いた。私の言葉のすべては、「互いに愛し合いなさい」という一文に要約される律法であった。

74. しかし、私は聖霊として再び来臨することを、あなたがたに告げ、約束した。なぜなら、あの時代、私はすべてを語らなかったし、私が明らかにした事柄についても、あなたがたはすべてを理解し解釈することができなかったからである。それゆえ、すべてを明らかにするために、真理の御霊があなたがたのところに来る必要があったのだ。

75. 1866年、初めて私の声が人間の知性を通じて聞き取られ、人類にとって新たな時代、すなわち第三の時代が幕を開けた。

76. 人間の魂は、霊的な幼年期から青年期へと移行する。それが完全な成熟に達し、その実が完全に結実するまでには、まだしばらくの時間がかかるだろう。

77. キリストの教えは霊的なものであったが、人々は、精神的な高みが低い魂たちにも理解できるように、その教えを儀式や形式で包み込んだ。

78. あなたがたは、霊の時代、すなわち大いなる啓示の時代に入った。この時代には、あらゆる宗教から物質化、欺瞞、不完全さが消え去り、すべての人間は自らの霊を通じて、完全に霊である自らの神を認識するようになる。この道を通じて、人間は完全な対話という形を見出すことになる。

79. 私がこの姿で初めて現れたその日から、あなたがたはこの業の偉大さを理解しようと努めてきたが、その深遠さにおいても、その目的においても、いまだにそれを認識できてはいない。

80. 誰が、これを理解した、あるいは完全に実現したと断言できようか。誰もいない！ あなたがたは、まだ完全さに達するには程遠い。

81. わたしの律法、わたしの業は、あなたがたが一歩一歩、一段一段と登っていくヤコブの梯子である。そして、高みへ登れば登るほど、あなたがたは父をより近くに見ることになるだろう。

82. 1948年、すなわち私が私の言葉を通じてあなたがたの間におり続ける最後の三年の最初の年が始まるとき、私の意志は、あなたがたが勇気を持って出発し、師が教えたとおりに行動することである。そうすれば、最終的に、 私の別れの日、長い間あなた方を導いてきた師に、高揚感に満ちた愛情あふれる敬意を表したいと願うとき、その敬意があなた方の主にふさわしいものとなるように。

83. そのような準備が整った時、私は世界に向けて呼びかけを行う。なぜなら、その時こそ、あなたがたは言葉と行いによって、私があなたがたと共にあり、自らを現し、あなたがたに語りかけたことを証しできると知っているからだ。

84. あなたがたは、その落とし穴に気づいていないのか。あなたがたの周囲に、一瞬の間、あなたがたを照らす燭台の光――すなわち第六の封印の光――を見ることを妨げる、暗い煙が立ち込めているのを見ないのか。

85. 人間の法律に背いてはならない。言葉と祈り、そして霊的エネルギーによって病人を癒やせ。善行と霊性向上の新たな段階が、あなた方のために幕を開けるであろう。そうすれば、科学者たちはあなた方を嘲笑することはできず、人間の司法はあなた方を裁くことはなく、教会もまた、あなた方が霊的な権威を持っていることを認めざるを得なくなるだろう。

86. あなたがたは、礼拝の儀式に象徴を取り入れてきた。しかし、それらとは決別すべきである。なぜなら、この形式の礼拝は過去のものとなり、現在および未来の礼拝は、霊と霊との対話だからである。

87. 私が人間たちの間から再び現れるという別れの時が近づいている。それは静かに成し遂げられたものの、後になって地球の果てまでその反響が響き渡るだろう。そして、世界が好奇心を抱くようになったとき、人々は神の言葉が聞かれた場所、それを伝えた「使者」たち、そして残された書物を探し出すことになるだろう。

しかし、人々がやって来たとき、あなた方は彼らをどのように迎え入れるつもりですか？その際、不和な姿を見せたり、仲違いしている様子を露わにしたりしてはいけません。不和な家族や、愛のない夫婦、あるいは親に敬意を欠き、言うことを聞かない子供たちの姿を見せてはなりません。 霊的および物質的な義務を果たせていないことによる失望の種を与えてはならない。あなたがたがスピリチュアリストを名乗っているにもかかわらず、精神的な 高揚感のない姿で彼らに遭遇したら、彼らは何を思うだろうか。あなたがたが狂信や偶像崇拝に陥っている姿を見たら、彼らは何を思うだろうか。

88. 民よ、偽預言者、偽キリスト、新しい教会、新しい神の僕たちが現れる時が近づいていることを知れ。それゆえ、目を覚まし、祈り続けよ。

89. 父のすべての命令に従いなさい。父の裁きがあなたがたに非常に近づいていることを悟りなさい。これは脅しでも非難でもなく、単なる指摘に過ぎない。私の裁きは完全であり、愛に満ちていることを心に留めなさい。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 196

1. ここに、常にその神の御名を呼び求め、神を愛していると語る民に御自身を現すために来られた父がおられる。 あなたがたが泣いているのが見えます。頬を多くの涙が流れていますが、それは私の神性への愛からではなく、あなたがたの人生が苦しみで満ちていることによる痛みからです。あなたがたが背負っているのは十字架ではなく、もはや耐えられないほどの重い重荷なのです。その理由は、あなたがたが教えを忘れ、書を閉じ、そこに記された戒めから遠ざかってしまったからです。

2. ああ、この言葉を聞く民よ！諸国が分裂しているだけでなく、あなたがたの間にも分裂がある。1931年に、新しい契約の契約の箱の前で、団結と従順を誓ったことを忘れてしまったのか。あなたがたは、自分の定めや意志を、わたしのものよりも優先させている。 しかし、わたしの業が認識され、わたしの律法が果たされるよう、わたしはあなたがたの伝統や不完全な律法を打ち砕く。わたしは裁きをもって、利己心、高慢、そしてあらゆる悪の種を罰する。 この民の中から「支配者」たちは姿を消し、残るのは弟子たち、すなわち僕たちだけとなる。自らの民の上に立ち、それを抑圧しようとする者にとっては、この地上から取り除かれるほうがましである。

3. 1947年も今や終わりを迎えようとしている。その最後の日、あなたがたは自らの使命を果たすという固い決意を固める必要がある。そうしなければ、あなたがたに道を示してくれるのは、わたしの裁きになってしまうからだ。

4. この教えが明るみに出て、人類がそれを知ることを望まないのか。まことに、あなたがたに告げる。わたしの教えが広まるのを助けるどころか、その道を阻むことに力を注いできた者たちがいる。わたしは人々の心に働きかけ、彼らがこの啓示を認識し、わたしがあなたがたに与え、託したとおりに、それを純粋に受け入れるようにしているのだ。

5. もし誰かが、その木の枝を所有することに同意できないのであれば、それをわたしに返せ。あなたがたがそれを歪んだまま成長させるよりは、わたしがそれを取り戻すほうがよい。父がこう告げるのは、慈善の門を閉ざした教会があり、外では苦しむ人々が泣きじゃくっており、そしてわたしが死者たちを見ているからだ。

6. わが業の僕たちよ、わが戒めを聞き、それに従いなさい。なぜなら、人々はあなたがたの歩みを阻むことはないからだ。あな

たがたが、この神聖な計画――その一部を私があなたがたに託した――を、あらゆる 秘密主義を排して提示するならば、誰もその計画が成就するのを妨げることはできない。これは、私の啓示のこの最後の3年間で、あなたがたが成し遂げることができることである。 1950年には、「頑なな」首を持つ人々がやって来るだろう。彼らは、わが啓示の偉大さと、あなたがたの礼拝行為の純粋さに圧倒され、主の御前にひれ伏すことになる。

その期間は短いものの、あなたがたの神への崇拝を蝕んでいる物質主義、狂信、そしてあらゆる欠陥を取り除くには十分である。 私の教えは霊的なものであるため、あなた方は自らをスピリチュアリストと呼んでいる。しかし、それが何を意味するのか、深く考え、研究したことがあるだろうか？ 言葉でスピリチュアリズムを説きながら、その行いでは正反対のことを大々的に誇示していることが、果たして正しいことだとあなた方には思えるだろうか？

7. 私が今、あなたがたに送っているこの光を活用すれば、あなたがたは私の業がいかに偉大で純粋であるかを目の当たりにするだろう！

8. 民が霊的に高まり、私の戒めに従うかどうかは、各教会を率いる者たちにかかっている。たとえ私の黄金のペンが書き留めなかったとしても、私はこの民の霊の中に、消えることのない文字で私の言葉を刻み残す。しかし、あなたがたが一度、より高い霊的境地に達したとき、私があなたがたの間で行う奇跡を目にしたとき、その目に驚きが宿るだろう。 その時には、私の御言葉が去っていくことを悲しむことはないだろう。なぜなら、あなたがたは私の臨在を身近に感じるようになるからだ。私の声を聞くための伝達者がいなくなることで、あなたがたの霊的賜物はより強く開花し、それによって大きな喜びと信仰が与えられるだろう。なぜなら、霊感、霊的な啓示、預言的な夢、直感において、私を助け手として持つことになるからだ。 あなたがたは、自らの言葉を聞き、病人が癒やされるのを見ることに喜びを見出すでしょう。

9. ますます多くの光と、ますます大きな力を備える霊界は、民の良き守護者であり、忠実な守り手となるでしょう。そうして、私の畑にいるすべての者が、それぞれの使命を果たし、働くことができるようにするためです。私は、肉体にある者とも、肉体から解放された者とも区別することなく、ただ魂だけを見ているのです。

10. これが、この時代にわたしの慈悲によって解かれた第六の封印の光である。わたしはすでにその当時、地上でわたしの戒めに従い、父の御心を全うした唯一の存在である、わたしの神なる御

子イエスをあなたがたに遣わした。 しかし、私が彼を遣わしたのは、彼が人々を弟子とし、彼らが師に従うことによって父を賛美するようにするためであった。私が彼を遣わし、彼はあなたがたに命を与えた。それなのに、あなたがたは彼を私にどのように返したのか？ 今日、私は再びあなたがたのところへやって来る――人間としてではなく、慰めの御霊として。

11. 私の愛に満ちた助けを活かし、光へと完全に目覚め、あなたがたの心が繊細になるようにしなさい。あなたがたの魂が、服従と従順の生活を送り、私の弟子となるようにしなさい。私が今、代弁者たちを通してあなたがたに与えているこの言葉を信じ、その本質を感じ取り、その真理を心に刻み込むよう、自らを磨いていきなさい。

12. 私の言葉があなた方に届くよう、私が用いてきた代弁者たちは、確かに完全な者たちではない。しかし、彼らは私の御旨を実行し、こうしてあなた方の元へ戻るとの私の約束を果たすために、私によって選ばれたのである。 しかし、あなたがたが今日目撃している啓示は、1950年に終わりを告げ、より高次で、より純粋で、より霊的な啓示に道を譲ることになる。それは霊から霊への対話であり、そこで子供は人間や霊的存在を介することなく、天の父と語り合い、いかなる制限もなく御父の霊感を受け取ることができるようになるのだ。

13. 新しい時代へと踏み込む準備を整えている間は、ひとまずこの形で私の声を聞くことに満足しなさい。私の言葉を深く探求し、その意味に心を満たしなさい。魂を高揚させ、私のもとへ至り、渇きが癒されるまで泉から飲み干せるようにしなさい。

14. 私が用いているこの「声の媒体」を判断することに時間を費やすな。また、なぜ彼が選ばれたのかを究明しようともしないでほしい。この困難な使命における彼の出自と使命を知っているのは私だけである。この使命は、ある者にとっては崇高な理想の実現であり、またある者にとっては贖罪であり、極めて大きな試練でもあるのだ。

15. あなたがたは皆、わたしに仕える境地に達し、わたしが与えた時間を活用することができる。あなたがたの任務は、悪を退け、あなたがたの後を継ぐ者たちの道を整え、わたしを愛し、わたしと一つになることを知る人類の礎を築くことである。

16. 私は、あなたがたが成長の道においてさらなる一歩を踏み出せるよう、いつの時代も活動する機会を与えてきた。あなたがたが私に近づくことができるよう、私は教えと高みへ至るための手

段を与えてきた。しかし、人生の道のりに終止符を打ち、「霊的な谷」へと戻った後、自らの生涯を振り返り、それが無意味で何の功績もないものだったと悟った者は、どれほど多いことか。 そこで彼らは、 自らの魂から奪ってしまった尊厳と優雅さを取り戻し、それによって私への使命をより良く果たせるよう、さらなる機会を私に求めた。私は彼らが求めた贈り物を与え、彼らは地上へと戻っていった。

17. 私は、魂が正しい道を選び、あらゆる瞬間に待ち構えている罠や危険から身を守る術を身につけられるよう、知性と意志を授けた。私は、*善と*悪が存在することを許した。それは、人間が私への愛と自分自身への敬意から、悪を打ち負かし、そこから遠ざかるためである。 もし道がただ一つしかなく、あなたがたが、星々や自然の力、あるいはより低次の存在たちがそうしているように、自然法則の力に支えられて無意識のうちに使命を果たしていたとしたら、たとえあなたがたが徳の道を歩んだとしても、何の功績もなかっただろう。 闘いも、努力も、そして魂における経験も存在しないだろう。しかし、私は発展の道を定め、あなた方をその道の始まりに立たせた。それは、あなた方が自らの努力によって高みへと昇り、私のもとへ至ることができる唯一の道であるこの道を、皆が知るようになるためである。

18. わたしの教えを実践し、義務に背くような行いや、悪しき弟子たちのようには振る舞ってはならない。あなたがたは、同胞を導き、今日彼らが直面している多くの苦難を和らげることができる能力と恵みの賜物を内に秘めているのだから、それを彼らから隠してはならない。 あなたがたの魂が、そこで得た経験をもって語らせなさい。そうすれば、この偉大な業の中で、あなたがたにふさわしいものを築き上げることができるだろう。

19. そうすれば、あなたがたは迷い出た羊たちを救い、*私が*その羊飼いであり、羊の群れにその全数を集めるのを助けることになる。このようにして、あなたがたは、魂の昇華を達成するために私が求めた功徳を積むことになる。

20. この日、夜明けの最初の光が差す頃から、多くの魂が、彼らが「自分たちの死者」と呼ぶ者たちのために祈りを捧げている。 あなたがたが彼らを偲び、感謝と愛と敬意の念を抱くことは、実に素晴らしいことだと、私は告げます。しかし、良くないのは、あたかも失った財産であるかのように彼らのために泣くこと、そして彼らを死んだ者と見なしてしまうことです。 なぜなら、もしあなたがたが、彼らのために目に涙を流し、この世を去った者たちの

ために胸を痛めているその瞬間に、彼らを見ることができたなら、彼らを照らす光と、彼らに息吹を与える命に、きっと驚嘆するだろうからである。 そうすれば、あなたはこう叫ぶでしょう。「まことに、生きているのは彼らであり、死んでいるのは私たちの方なのだ」と。

21. 魂が生き、振動し、脈打っていることを忘れ、ただ生命のない肉体を見て涙を流すなど、それはまさに幻想の中に生きているのではないだろうか。

22. また、私はあなた方にこう言わなければならない。 もしあなたがたが、霊界へと旅立った者たちに対して、この伝統に従って一日を捧げる代わりに、常に祈りの絆で結ばれていれば、彼らの目には見えないが実在する存在と、その慈愛に満ちた影響力は、あなたがたの生涯を通じて――苦闘の中にも、試練の中にも、そして愛おしい瞬間の中にも――感じ取られることでしょう。 そして、それらの存在たちもまた、あなた方の高潔な行いや計画に協力する機会を得て、それによってより多くの光を得ることになるでしょう。

23. かつて私はこう言った。「『死者』たちに、彼らの死者を葬らせよ。」もしあなたがたが私の言葉を注意深く、愛を込めて深く掘り下げて考えれば、私がこれを言った際に、どれほどそれだけの理由があったか理解するだろう。

24. 私は、あなたがた全員が心の中に、そして記憶の映像の中に、愛する人たちの最期の姿、その肉体の姿を刻んでいるのを見ている。 幼少期にこの世を去った人については、子供時代の姿として記憶している。この世の衣を脱ぎ捨ててこの世を去ったのが高齢だった人については、老人の姿として記憶している。同様に、痛みに蝕まれた肉体を脱ぎ捨てた人や、苦痛に満ちた死の苦しみの中で息を引き取った人も、その姿のまま永遠にあなたの記憶の中に留まる。 しかし、あなたがたは、肉体と魂との間に存在する違いについて深く考える必要があります。そうすることで、人が死ぬ場所において、魂は新たな生へと生まれ変わり、ある者の目がこの世の光に対して閉じられる一方で、別の者の目は、魂の永遠の命を照らす神聖な光に対して開かれる、という結論にたどり着くことができるのです。

25. かつて私は、人間は生まれつき偶像崇拝的であり、その「死者」への崇拝を通じて、その偶像崇拝の明白な証拠を示していると語った。しかし、私の教えは、あなた方の人生に限りない美しさを放つ夜明けのように現れ、人々が常に足場を失って生きてきた

、無知という長い夜の影を追い払った。 しかし、神聖な星のように無限の彼方へと昇っていくこの光は、あなたがたの魂へと最も美しい光の火花を放ち、確かな歩みをもって、あなたがたを、最終的に皆が上昇的な発展を通じて入ることになるあの生命に参与できるよう導く修練となるでしょう。

26. あなた方はもはや、より良い世界へ旅立った者たちのために、 と痛切に泣く者たちの一員ではなくなるでしょう。また、霊的存在として、残された者たちのために、あるいは生涯を通じて殻として役立ってきたその肉体を離れたがゆえに涙を流す者たちの一員でもなくなるでしょう。

27. 深く愛した肉体の朽ち果てを目の当たりにして、苦しみ、恐れる存在たちがいる。しかし、あなたがたは、その人間の肉体が果たすべき使命の終わりが来たのを見たとき、創造主への感謝の歌を口ずさむ者たちの一員となるべきである。

28. 今日、私はあなたがたのすべての過ちを赦し、同時に、神の「生命の書」の一ページを示す。その教えによって、あなたがたは魂と知性を照らし、それを教えてくださった方にふさわしい行いを行うことができるようになるのだ。

29. あなたがたは今、人類に対して大きな責任を担うこととなる。そして、私から受け取る教えが多ければ多いほど、その責任は大きくなる。なぜなら、あなたがたは、この世界に霊性について語りかけなければならない民だからである。 私は、あなた方の内に、偶像崇拝的な儀式や礼拝行為を排し、単に霊から霊へと、私と対話する完全な方法を、人類の中に残していく。

30. 今、あなたがたの心にあるこの祝福された種は、あなたがたが同胞と分かち合うべき糧となり、また、あなたがたが子孫に遺す霊的な遺産となるであろう。

31. 私が「互いに愛し合いなさい」と言ったとき――それは単に隣人への敬意だけを意味したのではなく、ある世界から別の世界への敬意も含まれていたのだ。しかし今日、私はあなたがたにこう言う。去っていった人々を思うとき、彼らを遠く離れた存在だと感じたり、無感情な存在として想像したりしてはならない。 彼らを愛し、死者としてではなく、生きている者としてのみ思い起こしなさい。なぜなら、彼らは永遠の中に生きており、あなたがたのそばにいるのだから。

32. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたはイスラエルの民である。様々な段階を経て今日に至ったが、創世の初めから課せられてきた使命を果たしたとは言い難い。あなたがたは霊的に

なれていない。なぜなら、あなたがたは、愛する者たちがこの世を去るのを見て、「死者」と混同し、今もなお嘆き悲しんでいるのを、私は耳にしているからだ。

33. それゆえ、この地の住人であるあなたがたに、わたしは光を与える。あなたがたは、あの世へ旅立った者たちよりも、その光を必要としているからだ。*あなたがたは*「死者」であるが、*彼らは*永遠の命の中に生きているからである。

34. あの存在たちには、あなたがたが祈りを捧げる瞬間に、あなたがたに近づくことが私によって許されている。しかし、私はあなたがたに告げる。彼らは今や光の精霊となっているのだから、かつて持っていた人間の姿で彼らを思い出すべきではない。

35. この世の伝統にばかり執着し、この時代にあなたがたに注がれている恵みを軽んじてはならない。よく考えなさい。あなたがたがここで時間を無駄にしている間も、あの世の魂たちはさらに前進し続けているのだ。

36. 魂の解放と高揚のためのこの機会を活かすことができるよう、肉体を制御しなさい。なぜなら、私はあなた方を霊界へと召さなければならないからであり、そのときあなた方は進化の法則に従わなければならず、魂は肉体が地中で朽ち果てていくのを目の当たりにすることになるからだ。

37. もし、混乱に包まれたまま永遠の門戸にたどり着きたくないのであれば、自らの進歩のために奮闘し、この世で功徳を積みなさい。すなわち、私の業から遠ざかっている人々をそれに近づけ、諸国の平和のために祈り、尽力し、隣人たちの間に慈悲と愛を広めなさい。

38. 今もなお、「主よ、もしあなたが全能の神であるなら、その力の証拠を見せてください」と私に言う者がいる。しかし、私はあなたがたに言う。ただ意志するだけで地球を崩壊させることができる方に対して、そのようなことを言うとは、あなたがたはなんと未熟なことか。

39. わたしは、わたしのもとに来るべきであり、わたしの本質を認識しうる魂の中に、その存在を感じさせる。あなたがたの肉体は物質であり、わたしはその弱さを赦している。

40. おお、民よ、自らを清めよ。そうして、魂と肉体を調和させ、自らの功徳によってわたしのもとへと昇りつめることができるようにせよ。人々が様々な教会や宗派の中でわたしを探し求めることを許し、彼らを非難してはならない。なぜなら、あなたたちもまだ完全な行いを成し遂げることはできないのだから。

41. 偶像崇拝者たち、すなわちアロンの子孫や追随者たち、神々の造形者たちは、引き続き、偶像や像という形をとった様々な神々を崇拝させておきなさい。彼らは今、深い眠りから目覚めようとしているのだ。

42. あなたがたの仕事は、内なる神への崇拝こそが父に最も喜ばれるものであることを人々に示すことによって、霊性化の種を蒔くことである。 そうすることで、人々は「見ることで信じる」ことを求めずとも、霊的なものや神聖なものの臨在を感じ取ることができるようになるでしょう。まさに今この瞬間、あなたがたが愛と感謝の念をもって を偲んでいるあの霊的存在たちの臨在を感じたように――彼らは香りのように、あるいはあなたがたをその示す道へと誘う誘惑のように、あなたがたに近づいてきたのです。 それらの存在たちは、もはやこの世の虚栄への渇望を感じることなく人々に近づき、ただ、あなた方を待ち受けるあの生命を手に入れたいという願いを、魂の中に呼び覚ますためだけにそうしているのです。

43. 愛する者を失って涙を流す者たち、すなわち「死者」を悼む者たちは、無知ゆえに物質世界に囚われ、人生の意味を理解しておらず、魂の不死を信じると主張しながらも、その泣き声と悲しみによって、信仰の痕跡すら持っていないことを証明している。なぜなら、彼らは、実際には生きている「死者」を、ただ目に見えないから、あるいは肉体が消え去ったという理由だけで、泣いているのだから。

44. キリストの戒めに従い、平安のうちに留まりなさい。キリストは再びあなたがたにこう言われます。「互いに愛し合いなさい。」

45. わたしのもとに来て力を得よ。恵みの命へとよみがえれ。わたしの弟子となり、福音の使者となれ。 世界は私の臨在を渇望しており、私はあなたがたを通して、私の言葉を世界に届けるつもりだ。そこには、すでに長い間私を待ち望んでいる人々、今こそ私がこの世に現れる時が来て、魂たちを進歩と霊化の道へと導くのだと予感していた人々が存在する。

しかし、私があなた方を遣わす前に、あなた方は自らを清め、鍛え上げなければなりません。苦しみに押しつぶされそうになり、疲れを感じるときは、私があなた方の助け手であり、十字架を背負うのを助け、その重みで倒れないように支えていることを思い出してください。祈り、使命の遂行に専心するならば、あなた方を弱らせるような試練も障害も、もはや存在しなくなるでしょう。 あ

なた方は、唇に微笑みを浮かべ、心に希望を抱いて、その道を歩んでいくでしょう。 未来を恐れることはなく、あなた方に対するあらゆる悪意ある批判や企ては、すべて無に帰するでしょう。たとえ激しい試練に遭ったとしても、私を否定してはなりません。なぜなら、試練の頂点において、あなたがたが私の弟子であることを証しするために、私が奇跡を授けるのが私の御心であるかどうかは、あなた方には分からないからです。

46. 私のたとえ話を聞き、その意味を深く考えなさい。

47. 憐れみを求めて、飢えた者、病める者、裸の者たちからなる群衆が一軒の家に近づいた。 その家の管理人たちは、通りすがりの人々を食卓に もてなすため、絶え間なく準備を進めていた。その土地の所有者であり、主である地主が、祝宴の席の主賓として加わった。時が経つにつれ、困窮している人々は、その家で常に食事と宿を見つけることができた。

48. ある日、その主人は、食卓の上の水が濁っており、料理が健康的で美味しくなく、テーブルクロスが汚れていることに気づいた。 そこで彼は、食卓の準備を担当している者たちを呼び寄せ、こう言った。「お前たちは、そのテーブルクロスを見たか。料理を味見し、その水を飲んだか？」 「はい、ご主人様」と彼らは答えた。

「それなら、この空腹な人々に食事を与える前に、まず自分の子供たちに食べさせてみよ。子供たちがその料理を美味しいと言ったら、それから客たちに振る舞うのだ。」

子供たちはパンや果物、そして食卓に並んでいたものを口にしたが、その味は不快なもので、不満と騒動が起こり、彼らは激しく文句を言った。

そこで、地主は、まだ待っていた人々にこう言った。「木の下へ来なさい。私の庭の果物と美味しい料理を振る舞ってあげよう。」

しかし、使用人たちに彼はこう言った。「汚れたものを清め、あなたがたが失望させた者たちの唇から、その嫌な味を洗い流せ。 私はあなたたちを好ましく思わない。私は、飢え渇く者たちすべてを迎え入れ、彼らに最上の料理と清らかな水を提供するよう命じたのに、あなたたちはそれに従わなかった。あなたたちの働きは、私の心に適わない。」

49. そこで、その土地の主人は自ら祝宴の準備をした。パンは栄養豊富で、果物は健康的で熟しており、水は新鮮で爽やかだった。そして、それを待ちわびていた人々——物乞い、病人、ハンセ

ン病患者――を招き入れ、皆が満腹になり、大きな喜びに包まれた。 やがて彼らは健康を取り戻し、苦しみから解放されると、その荘園に留まることを決めた。彼らは畑を耕し始め、農夫となったが、体力が弱く、その主人の指示に従うことができなかった。彼らは異なる種類の種を混ぜてしまい、収穫物は劣化した。小麦は雑草に覆い尽くされてしまった。 収穫の時期になると、地主がやって来て、彼らにこう言った。「私は客人を迎えるために家の管理だけを任せたはずなのに、一体何をしているのか。あなたがたが蒔いた種は良くない。畑を耕すのは*他の*者たちの役目だ。行って、その土地からアザミや雑草を取り除き、それからまた家の管理に戻りなさい。 井戸は干上がり、パンは力を与えず、果実は苦い。通りすがりの人々に、 私があなたがたにしたのと同じことをしなさい。あなたがたに助けを求める人々を養い、癒やし、隣人の痛みを取り除いたなら、私はあなたがたを私の家で休ませてあげよう。」

（たとえ話の終わり）

50. わが神聖なる御霊は、あなたがたを人生の道に導き、待ち受ける危険から警告するために、この言葉を授ける。

51. あなたがたは「第三の時代」、すなわち霊化の時代に生きています。

52. わたしはあなたがたの心に平安と信仰と希望を与えます。そして、あなたがたがこのメッセージを心に受け入れること、それがわたしの神聖な御心です。

53. あなたがたの悩みを主の前に差し出せ。主はあなたがたを創造された方であり、あなたがたは主のもとへ帰らなければならない。

54. 今こそ、あなたがたは師の御言葉を学ぶべき時であり、また、この崇高な愛と結びつき続けるために、心を一つにして団結すべき時でもある。

55. あなた方一人ひとりに、これまでまだ果たしていない使命がある。

56. 教えから背を向けることなく、愛をもってそれを受け入れなさい。そうすれば、明日、誤りに陥ることはないだろう――その誤りは、あなたがたの魂の進歩を妨げ、迷いの泥沼に沈めてしまうようなものである。

57. 私があなたがたが準備を整えているのを見るとき、私の真理はより鮮明に現れます。しかし、あなたがたはまだ無知であり、私をまだ理解していない者たちです。それでも、私はこうも言い

ます。あなたがたは、霊化への道、すなわち終わりのない道を歩んでいるからこそ、父に最も近い者たちなのです。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 197

1. 師の愛は、その弟子たち、すなわちその子供たちの間に満ち溢れている。神に関して言えば、あなたがたは私の子供であり、師に関して言えば、あなたがたは私の弟子である。

2. 愛する民よ。この創造主なる神、すなわちあなたがたの父は、あなたがたに、善を剣とする、強く、防御力のある魂を遺された。その魂は、魂の中に潜み込み、人の心を養ってきた悪を追い払うまで、戦い続けなければならない。しかし、あなたがたには、人が無知という闇から解放されるための知恵も授けられている。

3. 私が第二の時代に去った後、私の弟子ヨハネは、恍惚状態の中で、あなたがたが現在生きているこの時代――人類が巻き込まれることになる危険、世界を震撼させる災難、人々の間の争いや対立、そしてそれらすべての後に訪れる平和――を垣間見た。 また、その啓示や預言が、全世界に広められるよう、書物として残される方法も彼に啓示された。

4. 私は、私の新しい弟子たちが、それらの啓示の真意と、私が今あなた方に与えている御言葉の本質を知ってほしいと願っている。そうすれば、あなた方はスピリチュアリズムの本質を理解し、闘いの中で揺るぎない姿勢を保つことができるようになるからだ。

5. 教えとは私そのものである。それゆえ、それは汚されてはならない。それは清らかさと純粋さそのものであり、汚されてはならない。同様に、あなたがたの主があなたがたの元へ降りてきて、伝達者を通じて御自身を現わされる際、人間の罪深さに汚されることは決してない。むしろ、主はその者を清めるのである。 なぜなら、真実はこうである。私があなた方に語りかけるための「声の媒体」たちは、善へのある程度の傾向を示しているに過ぎないが、神性との接触を受けるために、*霊的に*無限の領域へと昇華するのだ。そうして彼らは、霊感、啓示、そして神聖な知識を受け取る。また、彼らがまだ非常に未熟であり、準備が不足しているというのも事実である。

6. しかし、わたしは愛の御霊であり、義人だけと対話しようとするわけではない。わたしは、義人は住んでいないが、わたしが完全に愛している子供たちが住んでいる家にも訪れ、彼らを罪と闇から救い出す。なぜなら、彼らはすでに救われている人々よりも、わたしを必要としているからだ。 彼らこそ、私の正義と愛の炎を必要としている人々であり、その炎の中で自らのすべての汚れを洗い流す必要があるのだ。彼らは立ち上がるために、私の力と恵みを

必要としている。それゆえ、私は 彼らの良心に語りかけ、私を体感させるのだ。そうして、その子は、自分自身が父に似ていることに気づき、創造主と一つとなるのである。

7. なぜ人は、神の恵みが罪人たちの間に現れることに驚いているのか。第二の時代に私の言葉を聞いた者たちは、果たして義人だったのか。私の弟子たちでさえ、すでに完全さを達成していたというのか。 いいえ、民よ。私の言葉に耳を傾けた群衆の中には、罪人、根っからの放蕩者、不信仰者がおり、私の使徒たちの間にも、人間としての哀れな側面があった。しかし、彼らは心の中で神性の呼びかけを感じ、私の教えに身を捧げたため、その模範によって人類にさらなる教えを遺し、人々の心にその名を刻み込んだのである。

8. スピリチュアリストは、常にこれらの模範を認め、それに従うべきである。なぜなら、あの弟子たちは、まさに私の種を蒔いた者たちだったからである。

多くの場所で、あなたがたはそれらの使徒たちの肖像を見るだろうが、その像を通じて彼らに祈りを捧げる必要はない。しかし、それらの像そのものからも、彼らへの記憶が決して消えることがないことを知ることができるだろう。彼らを愛し、その徳を模範として受け入れてほしい。私が、あなたがたに「自分の兄弟姉妹の中に私を愛しなさい」と教えたことを思い出してほしい。

9. あなたがたは問う、「真の知恵はどこにあるのか？」と。それに対し、私はこう答える。神の中にある。また別の者が問う、「真の宗教とは何か？」と。すると、師はこう答える。私を愛し、隣人を愛する者は、真理を見出し、律法を全うしたのである。

10. 私は、魂にとって神へと至る道となる宗教が地上に存在することを許してきた。善と愛を教え、慈悲を称えるあらゆる宗教は、光と真理を含んでいるゆえに良いものである。しかし、人々がその中で退廃し、本来善であったものを悪へと変質させてしまうならば、その道は物質主義と罪の下で失われてしまう。

11. それゆえ、私はこの時代に、道であり、生命の真髄であり、法である私の真理を、改めてあなたがたに示す。それは、あなたがたが、形や儀式を超え、あらゆる人間的なものを超えて、灯台であり導きの星であるこの法を求めるためである。このように私を求める者は、スピリチュアリストとなるであろう。

12. 人々は、将来、人類を強くするのはこの言葉であることを目の当たりにするだろう。 明日のスピリチュアリストは、祈るために世や人々から身を隔てる敬虔な信者や修道士であるというこ

とではなく、誘惑と戦う術を知り、たとえ嵐の真っ只中にあっても真理の道を認識できることによって、その正体が明らかになるだろう。 明日のスピリチュアリスト は、万全の備えをした世界に立ち向かうことができるだろう。預言者かつ先見者として、その言葉はこれから起こることを告げ知らせる。彼は、破滅へと転落する危険にさらされている者を救う術を知っている。

13. スピリチュアリティのメッセージは人間の業ではなく、創造主の業であり、魂を統べる永遠の法則である。

14. 私の業を心の奥底で感じ取りなさい。そうすれば、あなたがたは謙虚で控えめでありながらも、偉大さを感じることができるだろう。言葉巧みでなくとも心配する必要はない。なぜなら、私はあなたがたに真理の説得力を与えたからだ。それこそが、私の言葉が必ず実現する理由である。

15. 霊的な面において、私はあなたがたを、どのような教えを信奉していようとも、すべての人々と一つに結びつける。

16. 一見したところ、あなたがたは私よりも先にここへ来たように見えるが、真実を言えば、私はすでに私の食卓であなたがたを待っていたのだ。

17. 私は、あなたがたと共にいるため、あなたがたに教えを授け、あなたがたの苦難の中で慰めるために、私の玉座を離れた。あなたがたもまた、私と共にいるために、故郷の地、家、そして愛する者たちを後に残してきた。

18. あなたがたがこの言葉に比類なき喜びを感じ、それに従うことで平和と調和の秘義を見出したように、多くの民が私のもとに来て、私の言葉を実践するという使命に身を捧げるようになるでしょう。

19. この時代における私の教えは、長い間眠り続けていた人々の魂を呼び覚ます。 私が「第二の時代」に人々に与えた言葉は今もなお生き続けているが、私が教えた通りにそれを実践する者は誰もいない。あなたがたが発展の道のりで決して立ち止まることがないよう、この教えこそが魂の果てしない道であることを確信させるために、私の霊があなたがたのもとに戻ってくる必要があったのだ。

20. 永遠を夢見、真実を愛し、人間生活の貧しさを超越することを切望する者たちこそ、この業に固くすがり、自らの魂に憐れみを持ち、肉体の祝祭の衣装よりも魂の装飾を重んじる者たちとなるだろう。 こうした人々の中に、理解の火花を見出すことができるだろう。彼らは、私の使命が単にあなたがたの痛みを和らげ、病

から解放することにとどまると考える者たちではない。彼らは、私の約束が痛みの解放以上のもの――すなわち永遠の命――を含んでいることを理解 した者たちである。

21. 私の教えの真意は、あなたがたが自ら築き上げた物質主義的な世界を破壊し、その上に精神性の世界を築き上げるよう、あなたがたを鼓舞するものである。そこでは、あなたがたが切望する平和を享受し、今日まであなたがたの存在の深層で眠り続けてきたあらゆる能力が顕現し、発展していくのを見ることができるだろう。

22. 混乱した知性の器官の中に、悟りの光が輝き、憎しみが巣食っていた人々も、和解と悔い改め、そして愛の涙を流すことになるだろう。

23. わたしの呼びかけは、霊的な働きへの招きであり、この働きの中には、すべての人々のための役割がある。わたしのことに取り組むために、物質的な生活からほんの少しの時間を「奪う」ことを、誰も心配してはならない。まことに、あなたがたに告げる。そのことに対して、あなたがたの魂が感謝する時が来るのだ。

24. 「主よ、私はあなたに従う者たちの間に貧困を見ました。しかし、もはやあなたを思い出すことさえなく、あなたの御名さえ口にしない者たちには、豊かさ、娯楽、そして快楽が見られます」などと言ってはならない。

わが民は、こうした事例を、わたしに従う者がこの世で必然的に貧しくなければならないという証拠と見なしてはならない。しかし、わたしはあなたがたに告げる。ここで耳を傾け、人生の一部を善を行うことに費やしている者たちが持つ平安は、あなたがたがそれほど羨む者たちには知られておらず、彼らがどれほどの富を持っていようとも、それを得ることはできないのだ。

25. 世の富と霊の富を同時に所有することを理解している者もいる。一方、霊の富を忘れてしまうために、世の富に恵まれない者もいれば、神の律法は地上の富の敵であると考えて、世の富にしか興味を持たない者もいる。

26. 財産は財産であり続けるが、誰もがそれを正しく用いることを知っているわけではない。また、多くの人が所有しているもののすべてが、私が彼らに与えたものではないことを知っておくべきである。私から受け取ったものを補償として持っている者もいれば、所有するすべてを盗んだ者もいるのだ。

27. 人々が人生において義務を果たしたことの最良の証は、魂の平安であり、硬貨のジャラジャラという音ではない。

28. 私があらゆる方法であなたがたに語りかけることによって、この時代に私に従う者たちの知識を広げている。彼らこそが、たとえそれが時に愚かな、あるいは馬鹿げた質問であったとしても、私が私の言葉の中で答えたのと同じ明快さで、周囲の人々の疑問に答える者となるだろう。

29. 私は、私の言葉を聞いた者たちの記憶の中に、光に満ちた思い出を残したいと願っている。そうすれば、彼らがそれを思い起こすとき、彼らが受けた愛に満ちた教えの余韻が、彼らの心に届くようになるからだ。

30. わたしの啓示の証人たちは、わたしがあなたがたを受け入れたのと同じように、明日の人々の群れを受け入れるよう定められている。

31. あなたがたは、どのようにしてわたしのところへ来たかを覚えているか。あなたがたは打ち負かされ、打ちひしがれた状態でやって来た。あなたがたは、自分たちよりも多くのものを持つ者たちに助けを求めたが、彼らは何も与えてくれなかった。あなたがたは知識を持つ者たちを訪ねたが、彼らは教えを授けてはくれなかった。 病み、疲れ果て、衰弱した自分の体を差し出したが、彼らはあなたたちに健康を取り戻させてはくれなかった。そして、失望があなたたちの心を支配し、人々はあなたたちを兄弟姉妹としてではなく、見知らぬ存在として見なしていたため、人間には慈悲などないのだと確信したとき、あなたたちは信仰と希望を失ってしまった。 あなた方のうちには、悪口を言う者もいれば、ののしる者もいれば、死を願う者さえいた。

32. こうして、あなた方の多くは私のもとへやって来た。そして、私の慈悲の泉こそが、決して枯れることのない唯一のものであり、ただその泉を求めさえすれば、それがあらゆる悲しみに満ちた魂に注がれるのを感じることができるのだと知ったのである。

33. まもなく、あなたがたは、ある一つの民族だけでなく、全人類が自らに失望し、人間的な力や富、あるいは科学のどれ一つとして、自らの疑問に答え、魂に平安を与え、あるいは痛みを和らげるのに十分な力ではないと確信する姿を見るだろう。その時、あなたがたは、彼らが自分たちの世界を超え、人間やその偽りの力を超えたところに、真理の源を求めるのを見るだろう。

34. どれほど多くの人々がわたしを求め、霊から霊へと直接問いかけようか！わたしは彼らに答えるだろう。しかし、どれほど多くの人々があなたがたの道に現れ、あなたがたに問いかけ、光を

求めようか。あなたがたは、わたしの名において彼らを受け入れ、わたしがあなたがたに託したものを彼らに与えなければならない。

35. もしあなたがたが、真に愛と光と霊性をもって隣人に与えるならば――まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたは、彼らの内に父への信仰を燃え立たせるだけでなく、人間に対する信頼、すなわち、神の子らとしてあなたがたの間にあるべきその信頼をも、彼らに取り戻させてくれるだろう。

36. わたしはあなたがたの功績を知っている。 私は、私の御言葉を聞くために世俗の務めを離れた者たち、私と共にいるために何らかの快楽や数時間の休息を犠牲にした者たち、あるいは身内からの批判や噂に耐え、それらすべてを軽んじて、私があなたがたに教えを授けるその瞬間に立ち会っている者たちを見守っている。

37. 彼らに、わたしの祝福と平安がありますように。 私は、自らを完成させようとする者たちの願いを祝福し、知識への飢えと渇きを持つ者たちを祝福する。彼らは、主により近く感じられるよう、自らの生活と行いを変えようとする者たちである。もし彼らが揺るぎなくその道を歩み続ければ、その道の果てにたどり着き、彼らが切に願うものを手に入れるだろう。

38. 主の御心は、信仰を持つ者たちが皆、深い霊的な渇望を抱いて、わたしに耳を傾けるためにここに集まることである。あなたがたが、自分の人生を改善することだけを夢見、過去の不純なものをすべて捨て去ることである。 確かに、あなたがたは皆、この目標を達成しようと努力している。ある者は熱心に、ある者は微々たる努力ではあるが、それでも皆、以前の自分よりも良くなろうと努めている。あなたがたが戦っている戦いを、私が見ていないとでも思っているのか？

39. 依然として、悪徳や情欲、偶像崇拝があなた方を誘惑しようとしている。しかし、あなた方はそのような瞬間に祈りを捧げ、その信仰があなた方をそれらから守ってくれるのだ。 あなたがたの魂は、この啓示の形でわたしを受け入れ、この理解の手段を通じてわたしの声を聞く準備ができています。しかし、その準備は地上でのみ得られたものではなく、魂の成長の全過程を通じて得られたものであり、この時期のわたしの啓示を理解するためには、この世を歩む中で身につけた多くの傾向を捨て去ることが、あなたがたにとって必要でした。

準備をしてこなかった者たちは、この啓示を真理として認めないだろう。 それゆえ、あなたがたは家族の懐に亀裂が生じているのを目にするのです。この理由から、自分の子供を見誤る親たち

。親を裁く立場になる子供たち。かつては理解し合っていた兄弟姉妹が、今ではまるで他人であるかのように互いを見つめ合う 。そして、一方が信じ、もう一方が否定するという理由で、争い、さらには互いに拒絶し合う夫婦たち。

40. このようなことが起こるのも、今回が初めてではない。私が説教していた時代にも、人々は互いに理解し合えなかった。ある者たちは私の言葉を信じ、その真実を固く守り抜くために命を捧げた一方で、他の者たちはそれを欺瞞や虚偽だと断じたのである。

41. もし人々が本当に主を待ち望んでいたなら、彼を心底切望し、待ち望み、呼び求めていた者たちが混乱しなかったように、彼らも混乱することはなかっただろう。

42. わたしはあなたがたに、例外なくすべての人々を、わたしの食卓に着くよう招くべきだと告げた。なぜなら、現時点ではすべての人がわたしを信じているわけではないが、わたしはすべての人に語りかけなければならないからだ。

43. かつて、私は人々の群れのもとへと向かった。彼らに語りかける場所については、私は常に気にかけなかった。私は、神殿の玄関先でも、道中でも、川沿いの湿地でも、海辺でも、あるいは山の頂上でも、彼らに語りかけた。

44. 今日という時代、あなたがたに語りかけるためには「声の媒体」――すなわち、私の光に満たされて、道や小道を通り、広場や都市へと向かい、群衆に私の言葉を伝えることなど到底できないような、取るに足らない被造物――の準備が必要となっている。それゆえ、私はあなたがたを質素な礼拝の場に集め、私の言葉を与えているのである。 *私が*人々のところへ行くのではなく、人々が私を聞くためにここへやって来る。それゆえ、日々私のところへやって来る者たちに、私はこう言う。「あなたがたの仲間たちを、私の木の木陰へと招きなさい。そこなら、彼らは私の声を聞くことができるのだから。」

45. わたしはあなたがたを準備している。今、新たな時代が始まろうとしているからだ。私があなたがたに御言葉を与える場所で、偉大な霊性と高揚の時代が幕を開ける。

46. あと3年間、私は人間の知性を通じてあなたがたに教えを与える。しかし、時は止まることなく過ぎていくため、その3年間はまるで3日のように感じられるだろう。

47. おお、民よ！わが業において、あなたがたにはどれほどの寛容と配慮が与えられてきたことか！しかし、万事には限界があることを、あなたがたに指摘せざるを得ない。父があなたがたに与

えてきたそれらの譲歩も、やがて終わりを迎えなければならない。まもなく、あなたがたは、真の準備とは何を意味するのか、あらゆるものに対して真の敬意を払うことを理解するようになるだろう。

48. わが業は、数ある教えの一つでもなければ、この世にまた一つ増えた宗派でもない。今日、わたしがあなたがたにもたらしたこの啓示こそが、永遠の法である。それにもかかわらず――あなたがたは、霊性と理解の欠如 ゆえに、これにどれほどの儀式を付け加え、どれほどの不誠実さを重ね、ついにはそれを歪めてしまったことか。 あなたがたは、私の教えにどれほどの儀式を取り入れ、そのすべてが私から霊感を受け、命じられたものであると語り、信じてきたことか。

49. 今や、あなたがたの目が開かれ、スピリチュアリズムの真の本質を理解する時が到来しようとしている。 まことに、私はあなたがたに告げる。私の業は、あなたがたがこの世でそう考えてきたあらゆるものよりも聖なるものである。それにもかかわらず、私は、あなたがたが使命を果たす中で犯したあらゆる罪を赦す用意がある。そして、あなたがたの悔い改めによって、あなたがたは新たな、より霊的な人生を始め、私の教えを最も簡素な形で実践し、あなたがたが教えるものが真のスピリチュアリズムとなるようにするのだ。

50. 1866年に、この教えが彼らの間で始まった以来、もし私の新しい弟子たちが、受け取った霊的な本質を活用していたならば――彼らはとっくにこの教えを自分の中に吸収していたはずではないだろうか？

51. あなたがたが、わたしの啓示が完結するのを目撃していなかった限り、誤りに陥り、教えの一部を誤って解釈してしまうのは当然のことでした。たとえ、あなたがたの理解力に合わせて、細部に至るまで説明していたとしてもです。しかし、わたしの言葉があなたがたの間で完全な形を成した今、そうした過ちはもはや正当化できません。

52. あなたがたは、私がこの業をもたらしたのは、一部の人々が置かれている物質的な貧困を解消し、それによってあなたがたが他の人々より優位に立つ手助けをするためだと考えるようになった。 しかし今日、私があなたがたに*霊的な*恵み――慈悲、慰め、癒やし――をもたらしていることに、あなたがたは驚いている。それらは、あなたがたが最大限の無私無欲をもって他者に分け与えるべきものである。

53. 真実はこうである。隣人に対して行った奉仕に対して対価を要求した者は、私が与えたこの業を売ったに過ぎず、私の業のために行ったのではない。裏切りの代償という対価を定めた者は、自分自身のために行ったのである。

54. 私が自由にあなた方に語りかける時間は、あとわずかしか残されていない。そして、私が誰かを厳しく懲らしめたり、その人が犯した過ちに対して過度な償いを強いたりしたと、誰も主張することはできないだろう。なぜなら、私の教えは愛に満ちており、あなた方を正すために私が用いる手段もまた、愛に満ちているからだ。

55. あなたがたに平安と満足をもたらすのは、この世の報酬ではない。それらは、あなたがたが隣人に対して実践する、隣人愛に満ちた義務の遂行に対する報いとして与えられるものである。

56. さらに、善意ある人々でありなさい。もしあなたがたが平和を愛するならば、平和はあなたがたと共に留まるであろう。まことに、わたしがあなたがたに告げる。魂の平和に匹敵する宝など、この世には存在しない。

57. この言葉がもはや聞かれなくなるまで、あとほんのわずかな期間しか残されていないと言えるだろう。あなたがたが福音を広めるために旅立つべき時が、すでに近づいている。 光の時代の全盛期が訪れ、かつて私の使徒たちの上に降り、その一人ひとりの上に「言葉」、すなわちその瞬間に彼らに授けられた言葉の賜物を象徴する火の舌が現れたのと同じように、主の御霊があなたがたの頭上に降りるであろう。

わたしの御心があなたがたにおいて成就されるためには、あなたがたがわたしの教えにとどまることが必要です。もしわたしの業のために屈辱を受けることがあっても、忍耐をもって耐え、赦しなさい。 イエスに目を向けなさい。あの時代、イエスが人間の中で最も大きな屈辱に耐え、反抗することなく、むしろ自分を侮辱した者たちを赦し、愛しておられた様子を見てください。

58. あなたがたに、「左の頬を打たれたら、赦しのしるしとして右の頬も差し出せ」と私が言ったとき、私の教えは単なる言葉にとどまるものではなかった。 この世で過ごした最後の数日間、私は幾度となく、顔や体に鞭打ちや殴打を受けましたが、私の心は怒りに満ちることもなく、私の眼差しに恨みの色を見せることもありませんでした。 私の柔和さ、そして私がその人々を見つめた慈愛は、多くの奇跡と、私だけが目にした多くの回心を呼び起こした

。救い主イエスは、謙遜を通じて魂が高みへと向かう道を、あなたがたに示すために来られたのである。

59. 私が人間として生まれたその時から、神の謙遜は世界に完全に現された――あの寒い夜、心身ともに最も清らかな女性が、喜びに満ちて馬小屋の奥から、その夜、世界の救い主をその胎内に迎え入れるために開かれた唯一の避難所である主に向かって祈った時からである。 私のゆりかごであったその飼い葉桶の中で、私が人々に伝えた愛と謙虚さの教えが始まったのである。

60. 今日、あなたがたは別の時代に生きています。私はあなたがたの元に戻ってきましたが、人間としての姿ではありませんでした。それでも、私は再びあなたがたに謙遜の教えを説きました。この時代、人類を包み込む闇は、イエスが生まれたあの夜の闇よりもさらに漆黒です。 私の再臨の知らせを受けた者たちの心の硬さは、幼子なる神がこの世の光に目を開かれたあの洞窟の岩のようであった。 人々が永遠なるものや霊的なものに対して抱く無関心、そして互いへの愛の欠如は、あの祝福された夜の寒さのようなものである。 そして、この時代に私が自らを現すために用いている知性の器官の頑なさ、彼らの心の荒々しさは、飼い葉桶の硬い藁のようであった。こうして、私はあなたがたの間で再び教えを始めた。しかし、私はあなたがたに問う。私は、あの時と同じように、十字架の上でこの教えを締めくくることになるのだろうか？

61. わたしの足跡を見つめ、それに従いなさい。その道で苦しみ、犠牲、放棄、屈辱に遭遇したなら、イエスに目を向けなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに力を送り、十字架を担う者としてわたしの腕を差し伸べ、あなたがたが自分の十字架を背負うのを助けるであろう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 198

1. 謙遜の心をもってわたしのもとに来る者は、祝福される。

2. 今こそ、私が霊的にも知性的にも準備の整った人々をこの世に残し、彼らが私の到来の真実を証しする時である。

3. わたしの弟子たちが世を巡り、わたしの名によって語り、教えるとき、彼らは心の中に、試練の瞬間にわたしが助けに駆けつけるという信仰と確信を持つであろう。なぜなら、わたしは常に、そしてあらゆる場所で、わたしの愛と臨在の証しを与えてきたからである。

4. もしあなたがたが悲しみに押しつぶされ、信仰によって「聞き届けられる」という確信を持ち、その悲しみに満ちた顔が主に見られていると信じて父に呼びかけるならば、あなたがたは慰めと希望を感じるだろう。それは、主があなたがたの祈りを聞き届けられた時に、主があなたがたに与えてくださる愛撫そのものである。

5. 人生が罠や苦しみで満ちていると感じ、父の慰めを懇願する者がいるとき――その者が私が愛する子であり、私がまさにその者を再び立ち上がらせることができる者である以上、なぜ私がやって来て、その者を力づけてあげないというのか。

6. 神の愛は、あらゆる瞬間に人類へと注がれている。そして、心の奥底で私を深く感じ取った者たちが、その証人である。なぜなら、私は全能であるにもかかわらず、人間に近づき、人間に感じてもらうために、自らを制限しているからである。

7. 誰をも裁いてはならない。さまざまな宗教団体の人々が、それぞれ異なる方法で、あなたたちとはまた違った形で祈っている様子を見てごらん。私は、すべての人々の元へ降りてきて、すべての人の声に耳を傾けていることを、あなたたちに明らかにした。なぜなら、私を求める者から、私は決して身を隠すつもりはないからだ。

それに対して、他の人々は、あなたがたの霊的な祈りの在り方、そして人間の知性を通じて私が伝えた啓示を信じたという理由から、間違いなくあなたがたを非難するでしょう。 この形で私の啓示を受け入れたがゆえに、すでにどれほど多くの者が、彼らからの誹謗中傷や嘲笑の犠牲となっていることか！この民の心に燃える信仰の炎こそが、あなたがたを試練に耐えさせてきたのである。それは、この教えが大きな論争を乗り越えた後、世界中で認められるとあなたがたが信じているからに他ならない。 私の言葉を直接聞き、人々の間で教師となることになるあなた方は、この世にいる間

には、その働きの成果を見ることはないでしょう。なぜなら、種が実を結ぶまでには時間がかかるからです。

8. この人類は、徐々に霊的な思想を受け入れつつある。ひとたび一定の発達段階に達すれば、彼らは、私の啓示や啓示の中に欺瞞などなかったこと、すなわち、師が愛と知恵と慈悲をもって、教養こそないが受容力に富み、私の神性によって照らされた伝達者たちを通して現れたことが真実であったことに気づくだろう。 彼らは確かにまだ不完全ではあったが、私は清らかさそのものであるため、絶えず自らの性向と闘い続ける人々の知性の器を用いてきたのである。

もし人間が、私が信憑性を持つためには、ただ義にかなった完全な人間を通してのみ自らを現すべきだと信じるならば、その者は誤りに陥っている。そして私はその者に問うだろう。「宗教共同体における私の神性の代表者たちは、果たして完全で義にかなった人間たちなのか？」まことに、私はあなたがたに告げる。全世界の彼らのうち、私はただひとりの義人さえ見出さない。 それにもかかわらず、彼らは、かつて私が啓示した御言葉の解釈者である。

9. 私があなたがたに語りかけるための「声の媒体」たちは、私の代表者でもなければ、私のしもべでもない。彼らはただ、私の言葉を伝えるための道具に過ぎない。

10. 私の教えは、あなた方に多くの教訓をもたらしてきた。私は、神に喜ばれるために壮麗な教会を建てる必要はないこと、また、自分と同じような罪人である他者の前で自分の罪を告白する必要もないことを、あなた方に告げてきた。 私を礼拝するためにあなたがたが入ることができる最高の教会は、あなたがた自身の心であり、過ちに対して心からの悔い改めを感じ、自らを改めるために自分自身と闘うとき、あなたがたは私を通して真の赦しを得るのだ。 あなたがたが自分の汚点を洗い流したことの証拠は、あなたがたの魂が感じる平安と、あなたがたの心に溢れ出る喜びである。

11. すべてがわたしとわたしの業において自然なことであるにもかかわらず、なぜ人々は「超自然的」などと言うのか。むしろ、人々の邪悪で不完全な行いこそが「超自然的」なのではないか。なぜなら、彼らがどこから生まれ、どのような性質を持ち、その内に宿しているかを考えれば、彼らが常に善行を行うことこそが自然なはずだからである。 わたしにおいては、すべてに単純かつ深遠な説明があり、何一つ闇の中に残されることはない。あなたがたは、理解できないものや、謎に包まれて見えるものをすべて「超自然的」と呼んでいる。しかし、あなたがたの魂が功徳によって高みへ

と達し、以前は見ることができなかったものを見出し、発見するやいなや、創造のすべてが自然なものであることに気づくであろう。

12. もし数世紀前に、現代において人類が成し遂げる進歩や発見を人々に告げていたならば、科学者たちでさえも疑いを抱き、そのような驚異を「超自然的」なものとして見なしていたであろう。しかし今日、あなたがたは成長し、人類の科学の進歩を段階を追って追体験してきたため、たとえそれらを称賛するとしても、自然な営みとして捉えているのである。

13. まことに、わたしはあなたがたに告げる。明日、人間と神との霊的な対話が地球の至る所に広がる時、人類はこうした啓示に親しむようになるだろう。人類は、わたしが人間の知性を通じて自らを現したのだと信じ、わたしの語ったことを信じ、もはやそのような啓示を不可能なものや超自然的なものとして判断することはなくなるだろう。

14. 明日の人々は、わたしの言葉として残された書物によって、わたしの教えの偉大さと本質を認識するようになるだろう。深遠で測り知れないことを、わたしがどれほど平易に説明したか、真理をどれほど平易に示したか、その簡潔さが、彼らの中に感嘆を呼び起こすだろう。

15. このように、私の言葉は、この知識を渇望してやって来る人々に答えられるよう、あなた方を備えさせるのである。 単純な説明だけでは満足しない人々が、あなた方のところへやって来るだろう。自然や書物を探究することに生涯を費やしてきた科学者たちがやって来て、あなた方にこう問うだろう。「主にはその力があったにもかかわらず、なぜ実体化されず、科学がどのような発見をするかを説明されなかったのか？」

16. その時、あなたがたはこう答えるべきである。「その簡潔さの中に知恵を秘めた神の言葉の核心には、人間が成し遂げるであろうこと、そして人類を待ち受けるものについての説明と預言が込められている。」

17. 弟子たちよ、今日、私はあなたがたにこう告げる。私が啓示の中で教える知恵は、人々の学識に対抗するためにあるのだなどとは決して思ってはならない。もしあなたがたがその道を歩もうとするなら、私は今ここで、あなたがたは成功しないだろうと告げておく。

18. わたしのもとに来るために、学識がある必要はない。魂が高揚していれば十分であり、イエスが「第二の時代」に啓示した通り、そしてわたしが今日あなたがたに与えている通り、すなわち

、単純さと愛に満ちた形で、わたしの言葉を表現すればよいのである。果たして、 は、科学的な学識を啓示しただろうか。果たして、それは現代の人々の科学的な問題を解決しようとしているだろうか。

19. 私はただ霊に語りかけるだけである。私は完全な人生へと導く道を教えたに過ぎず、この使命はあなた方にも課せられている。すなわち、霊に語りかけ、地平線上に「約束の地」のシルエットを示すことである。

20. 私の教えを誠実かつありのままに伝え、人々が探究し、調査し、疑問を投げかけることを許しなさい。私はこれを非難することも、妨げることもない。誰もが、自分にとって可能な方法で真理を見出す道を模索すべきである。

21. 種を蒔きなさい。その種は明日、実を結ぶだろう。その実を収穫するのが将来の世代であるとしても、それは何ら問題ではない。

22. わたしの言葉を学び、その真意を深く掘り下げてほしい。

23. 私は、あなたがたの欠点や罪深さを観察するために来たのではなく、私の教えを伝えるために来たのだ。

24. 「イスラエルの民」は勇気の模範を示すべきである。なぜなら、「イスラエル」こそが人類の「強者」だからである。

25. あなたがたは新たな戒めを受け取る。それによって、大衆はわたしを認識するようになる。

26. （戦争の）恐怖が解き放たれ、「イスラエル」が眠っている間、人々は憐れみを懇願し、私からそれを受け取った。しかし、私の民の準備を通じて、人類がこれを受け取ることを、私は望んでいる。

27. あなたがたは、服従と従順を実践する際、父の模範を心に留めておくべきである。

28. 時が来れば、あなたがたは使命を授かるだろう。あなたがたは異国の地へ赴くことになる。人種による差別は一切行わない。さらに、私はあなたがたに告げる。父がすべての人の心の中で感じられるようになる時が来るのだ。

29. わたしはあなたがたの人間的な虚栄心など見ない。ただ、あなたがたの心と霊がわたしを求め続けてきたことだけを見ている。そして、わたしはあなたがたを、第二の時代におけるイエスのように、模範によって教える「主の使者」として、諸地方へ遣わすであろう。

30. そう、「イスラエル」よ、永遠の命の滋養である私の言葉を伝えなさい。

31. あなたがたの使命は、わたしの使命を果たすために、世界にふさわしいものを与えることである。あなたがたは、第三の時代の光と恵みの所有者だからである。

32. わたしは、愛に満ちて現れ、あなたがたを再び恵みの生活へと高め、正しい道へと導く父である。あなたがた は、第二の時代にわたしに多くのことを求めたが、今、わたしは霊においてあなたがたと共にあり、愛に特徴づけられるわたしの言葉、すなわち「神の言葉」を再び与える。それは、あなたがたがわたしの完全な教えに従い、それを世界に伝えるためである。

33. 私の言葉は極めて繊細な彫刻刀であり、それをもって私はあなたがたの心を磨き上げる。なぜなら、私はあなたがたの心が今なお眠っているのを見ているからだ。

34. これは、師がすべての弟子たちの元へ降りてくる、恵みに満ちた夜明けである。

35. 預言者たちは私の臨在を証し、私の御霊の光を目撃した。

36. 彼らは内面を整え、この世の誘惑から目を閉ざし、その口からは預言的な言葉が語られた。

37. 引き続き自らを磨き続けなさい。もしそうしなければ——まことに、わたしはあなたがたに告げる。石さえも語り出すだろう。

38. しかし、私はまたあなたがたにこう言います。私はあなたがたを強制するつもりはありません。ただ、あなたがたの心から、純粋かつ自然に愛が溢れ出ることを願っているのです。

39. 民よ、身構えなさい。その出所がどこなのかさえ正確には分からないだろうが、さまざまな村や地方から大勢の人々が立ち上がり、集会の場へとやって来るからだ。

40. 祈りの中で立ち上がれ。隣人を助けよ。わたしの言葉を学べ。わたしは、「イスラエル」が戦う術を知らなかったために恥をかくのを見たくはない。いいえ、民よ。一粒、二粒、あるいは三粒の種をわたしの前に捧げよ。しかし、その種は清くなければならない。あなたがたの仕事は、わたしの言葉を正しく理解することである。

41. わたしは慈愛に満ちた父であり、父としてあなたがたのところへやって来る。なぜなら、裁き主として、わたしは容赦がな

いからだ。自らを新たにし、備えよ。そうすれば、あなたがたは常にわたしを父として見ることができるだろう。

42. 大いなる戦いの時が近づいている。あなたがたにはあと三年間、わたしの言葉が残されている。父は、信者たちの群れに教えを授けてから去ろうとしている。しかし、集会所で教会の指導者としてわたしが残すあなたがたは、しっかりと備えなければならない。

43. 理解を深めなさい。そして、この世があなたがたから私の御言葉の命の源を奪い、その真髄が私の神聖な御座へと戻ってしまうことを許してはならない。

44. この世から身を引いて、私の言葉を思い起こしなさい。「かつてのあなたがたは、今日ではもはやあってはならない。そして、今のあなたがたは、明日にはもはやあってはならない」と。自らを新たにしなさい。 、不必要なものや悪いものを拒絶しなさい。私は、偽善者も狂信者も望まない。

45. 第一の時代には、わたしはあなたがたにモーセを遣わした。第二の時代には、ナザレのイエスとしてあなたがたの中にいた。そして今日、あなたがたは聖霊としてわたしを受け入れている。わたしは、「ヤコブの梯子」の上で、あなたがたの魂がわたしの霊の恵みと光を受け取っているのを見ている。

46. あなたがたは皆、一つの民をなしている。あなたがたは皆、私が平和の口づけを与えるただ一人の子である。

47. わたしの言葉を学び、それを大衆に伝えなさい。今や道は整えられたのだから。人々は、この国民のもとへやって来るだろう。彼らに最高の「ご馳走」を与え、良い手本を示しなさい。そうすれば、彼らはあなたがたを聖霊の弟子として認めるだろう。

48. あなたがた一人ひとりの周りには、あなたがたを守る霊的な存在がいます。その時が来れば、その存在は私の前であなたがたのために責任を問われ、あなたがたもその存在のために責任を問われるでしょう。まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが負う責任は大きいのです。

49. 自分の使命を果たすことに熱意と渇望を持ち、一つの理想と唯一の意志の下で団結し続けなさい。あなたがたの心の奥底の鼓動さえも見通す、わたしの正義の前に立ちなさい。

50. 時間は貴重である。あなたがたは、私の使命を果たすために、愛をもって急いで立ち上がらなければならない。ある者はすでに弟子として、またある者は学習者として。

51. 世のものは世に委ね、魂の救いというただ一つの目標を掲げなさい。時が来れば、あなたがたはこの惑星で成し遂げたすべての事柄について、説明を求められることになるからだ。

52. あなた方は無知でも無自覚でもありません。すべてを、その原因を十分に理解した上で行っているのです。

53. わたしは、これから起こる出来事について、あなたがたに警告する。もしあなたがたがもはやわたしの言葉を聞き取れなくなったら、霊と霊とを交わして、わたしと対話すべきである。

54. 今日、わたしはあなたがたが「第二の時代の使徒たち」の模範に従って一つになっているのを見ている。そして、あなたがたが偉大な奇跡を行えるよう、あなたがたに働きかけている。

55. あなた方には大きな力がある。それゆえ、私が御言葉の中で与えた多くのものを、隣人に分け与えなさい。

56. わたしはあなたがたの中にわたしの知恵を注ぎ込んだが、羊の皮を被った飢えた狼が、あなたがたを滅ぼそうと、罪深い考えを吹き込んであなたがたを飲み込もうとしているのを見ている。しかし、 あなたがたの本性が屈服しそうになっているのを見れば、わたしは父として助けに駆けつける。なぜなら、あなたがたが滅びることを望まないからだ。

57. 心の中に父への愛を宿し、わたしに仕えようとする意志を持つ者たちの群れは小さい。しかし、わたしはあなたがたに言う。わたしの律法の中で、あなたがたの魂の成長を成し遂げられるよう、堅く立ち続けなさい。

58. わたしは、あなたがたがこのように一つに結ばれている姿を見たいと願っている。*あなたがたが*父に忠実であるならば、*わたしも*あなたがたに忠実であるからだ。わたしは一瞬たりともあなたがたを見捨てず、「イスラエルの民」には誘惑が及ばないようにする。

59. わたしの言葉を深く探求し、わたしの啓示の時は短いことを理解し、わたしの愛がいかに大きく、わたしがあなたがたの魂に授けた光がいかに大きいかを自覚しなさい。あなたがたは清らかな心でわたしのところに来なければならないことを悟りなさい。

60. 「わたしの王国はこの世のものではない」――それゆえ、わたしがこう言うとき、その意味を理解してほしい。「あなたがたが地上で築き上げたものは、来世において、わたしがあなたがたのために守っておく」と。

61. ここ、この食卓で、私はあなたがた全員を待っている。私の御前においては、人種も、カーストも、血統も消え去る。あな

たがたは皆、等しく私のものであり、あなたがた一人ひとりが、貴重な宝石のような魂を持っており、私が向き合うのは、まさにその魂である。

62. もし知りたいというのなら、ここここそが、私が世界に向けて新たな啓示を行うために定められていた場所であり、ここで、あなたがたは、地上のあらゆる民族の目の前で、私が「雲の上」からやって来るのを見ることになっていたのだ。

63. この言葉を正しく理解しなさい。私が言いたいのは、*私は霊においてすべての人々のところ*へ降りてくるが、すべての人がこの言葉を聞くわけではない、ということだ。かつての時代も同様であった。ある一つの民が私の教えと御業の証人となり、地球上の他の諸民族はその証言に基づいて信じたのである。

64. 今日、私はその民の魂たちを集め、彼らが師の言葉のもとで自らの使命を全うできるようにしている。

65. 私は彼らに地上の王国を約束するのではなく、魂のための永遠の光の王国を約束する。

66. 今なお隣人の苦難を前にして利己心に満ちている彼らの魂も、「明日」には寛大になり、私が彼らに授けた遺産を同胞たちと分かち合うようになるだろう。

67. かつてメシアの到来を地上の王としての到来と期待し、神の謙虚さをもって現れた御姿を見た者たちは、落胆し、戸惑った。あなたがたは、主の御国がこの世のものではないという過去の例をすでに知っているにもかかわらず、私がこのように現れるのを見て、なぜ今日、彼らに倣って戸惑わなければならないのか。

68. わたしは、明日、この形でわたしの声を聞く機会のなかったすべての人々に教えることができるよう、ある民を指導している。今日、わたしの声を聞く者たちは、大きな愛をもって間もなく別れを告げる父の声を聞いている。そして、そのために、父は周囲にいるすべての人々に、父の愛を惜しみなく注いでいるのだ。 それは、彼らに自分のことを覚えていてほしいと願う父の声であり、どの子供も泣きながら残したくはないと願う父の声であり、すべての者がその遺産を享受することを切望する父の声であり、その遺産とは、まさに父の愛そのものである。

69. この民が、差し迫った戦い、すなわちその偉大な霊的な戦いのために必要とするものはすべて、手に入るだろう。なぜなら、主は実りをもたらす雨によって、わたしの種が再び芽吹くようにしてくださるからである。

70. そう、民よ、わたしの名は再びすべての人の口に上り、わたしの心構えはすべての人の心に宿り、わたしの律法はすべての人の良心に現れるであろう。 この神聖な業に参与した者たちは、なんと幸いなことか。この霊的な歓喜が、彼らのすべての苦難と苦しみを償ってくれるからだ。彼らは、この地上でキリストの弟子であり、神聖なる師が育て方を教えてくださった種を、愛情を込めて守り抜いたことを思い出すだろう。

71. おお、民よ、汝らの魂のためにこの平安を勝ち取り、永遠におけるこの場所を手に入れよ。

72. 師である私は、あなたがたの先頭に立ち、あなたがたの魂を導く。それゆえ、私の弟子たちの行いは明瞭でなければならない。そうすれば、あなたがたを見る者たちは、あなたがたを手本とするだろう。

世界は飢えているが、あなた方には人を養うパンがある。私は、かつて使徒たちにしたように、あなた方を準備している。もしあなたがたが彼らのように私に従うならば、あらゆる悪と戦う私の力を感じるだろう。自然のあらゆる力が、あなたがたがその力を活用する方法を知っていれば、あなた方の使命を助けてくれるだろう。

73. 今日、あなたがたは人々の間に欠乏や貧困、肉体の糧を得るための苦悩を目にしている。しかし、*あなたがたは*そうした苦難に遭うことなく生き延びてきた。それは、私があなたがたに平安を授け、あなたがたの時間の一部を私の教えを実践することに捧げることを望んでいるからである。

多くの男女が、戦いに疲れた心を癒やすための安息の地を求めてこの国へと移り住んできます。彼らは、恵みに満ちた祝福された国を見出し、あなたがたは彼らとパンを分かち合い、彼らはここでのびのびと暮らし、ここに家庭を築くことになるでしょう。

74. 民よ、目を覚ませ。私があなたがたに御自身を現すのは、あと3年しか残されていないからだ。今日からすでに、霊と霊とで私を求めよ。あなたがたが孤児のように感じることになる時がすでに近づいているからだ。そして、 、私はあなたがたが試練の中で強くなれることを望んでいる。 その時、霊界はもはや、あなた方に励ましや助言の言葉を与えてはくれないだろう。あなた方は、あの世から響いてくるこの「協奏曲」をもう聞くことはできなくなる。それゆえ、魂を養い続けるためには、自ら高みへと昇華する術を身につける必要があるのだ。

75. 完全なるものに近づきなさい。あなたがたの意志を私の意志と一つにしなさい。魂のためにあらゆる善を求め、この世の富への執着を減らしなさい。 人類は限界に達しており、私はそこで彼らを食い止めるつもりだ。闇は消え去り、「雑草は引き抜かれ、束ねられて火に投げ込まれる」と書かれている通りになる。これらすべてが実現する。 民よ、私はあなたがたをその時に備えさせている。あなたがたが今生きている時代を認識し、同胞たちを目覚めさせるためである。自らを贖おうとする者、祈り、悔い改める者は祝福される。その者は救われるからだ。しかし、そのために拒絶され、傷つけられることがあっても、神の受難におけるイエスを思い出し、彼を手本としなさい。

76. 寛容であり、侮辱を赦しなさい。あなたがたには「敵」があってはならない。もし彼らがあなたがたと戦うなら、愛と光という武器を手に取りなさい。そう振る舞うならば、あなたがたは完全さを獲得し、地上で平和という賜物を受けることになる。私はあなたがたに種を与える。それを植えるのが、あなたがたの務めである。

77. 私が来なければならない時はあらかじめ定められており、この預言は成就した。「人々は罪と物質主義の頂点に達するだろう。戦争は、すべてを破壊する火事のように、国から国へと広がっていく。憎しみと悪意は雑草のように蔓延し、野原を覆い尽くすだろう」と語られていた。

78. 私は、時が経つにつれてあなたがたが私を忘れ、私の言葉があなたがたの心から消え去ってしまうことを知っていた。 それゆえ、私はあなたがたに私の再臨を告げたのである。あの光は覆い隠され、人間の心は、イエスがこの世に生まれたあの夜のように冷たく無感覚になっている。その夜、母は人々の家には宿を見つけることができず、羊飼いや羊の群れが住む田舎の宿屋に身を寄せたのである。

79. 今日、私は人となるための胎を備えてはいない。なぜなら、私は霊として、あなたがたに語りかけるために来たからである。そして、これほどまでに心が硬く、不信仰に満ちた中で、私はあなたがたを見出した。私はあなたがたを選び、あなたがたは私を受け入れるために心を整えた。あなたがたは私の言葉に耳を傾け、その信仰に火が灯ったのである。

80. もしあなたがたがわたしに従いたいと願うなら、わたしの言葉に従いなさい。わたしはあなたがたの十字架を背負うのを助けてあげよう。しかし、今日わたしを信じるこの民が、明日、わた

しを裁き、わたしを十字架につけた者たちのように、わたしを断罪することだけは望まない。今日、あなたがたには、誰が最後まで忠実であり続けるか分からないのだ。 言っておくが、その数はわずかであり、時には孤独を感じることもあるだろう。しかし、彼らの道は開かれており、天使たちが彼らを守り、危険から救い出し、天の牧場へと導いてくれるだろう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 199

1. 聖霊の平安があなたがたと共にありますように。

2. 弟子たちへの試練が近づいているため、私はたゆまずあなたがたに語りかけている。その時、あなたがたが私の業を広める術を身につけてほしいと願っているからだ。私は、あなたがたがその業を常に完全な純粋さと真実をもって示せるよう、その原則をあなたがたに熟知させてきた。

3. わたしの教えは、世界をただ一つの理想の下に一つに結びつけるであろう。そして、この思想、心、そして意志の力の統合が現実のものとなったとき、世界は平和を知り、魂の生き方についてさらに深く理解するようになるだろう。

4. この時代には、世界観や信仰の教えをめぐる争いがある。誰もが自分が正しいと主張する。しかし、この利己主義と私利私欲の争いの中で、果たして誰が正しいのだろうか。果たして誰が真理の所有者なのだろうか。

5. もし、自分たちが完全な道にあり、真理を所有していると信じ、それを誇りに思っている者たちがいるならば――まことに、わたしはあなたがたに告げる。彼らはまだその道を知らないのだ。その道においては謙虚でなければならない。他者の信仰に含まれる真理を認めないというだけで、彼らはもはや謙虚でなくなってしまうのである。 しかし、わたしはすでに「第二の時代」において、あなたがたにこう言った。「心優しく、謙虚な者は幸いである。」

6. 隣人の信仰や確信を非難する者は、救いから遠ざかる。なぜなら、その高慢と軽率さの中で、彼は自分の神に等しくなろうとするからである。

7. 私はあなたがたに、偽善に陥らないよう、ありのままの自分を見せるべきだと言う。誠実であり、魂の完全さを達成するには、まだ多くのものが欠けていることを心に留めなさい。

8. 謙虚な心をもって、自分が受けた恵みの賜物を「自分には不相応なもの」と考える者は、たとえ私がどれほど多くの『自我』を過剰に与えたとしても、決して独善的になることはない。

いつの日か、人々は互いに戦いを繰り広げることになるだろう。その戦いは不均衡なものとなる。なぜなら、ある者たちは地上の権力の力を根拠に要求を突きつける一方で、物質的な貧しさの中にある他の者たちは、愛という武器しか持ち合わせていないからだ。彼らにとって、精神的な遺産以外に祖国と呼べるものはないのだから。

9. わが民よ、あなたがたは知っているだろう。わたしが、あちこちからあなたがたを選び出し、集めて一つに結んだことを。なぜなら、道のようなあらゆる宗派や教会の中には、スピリチュアリスト――すなわち、わたしがこの家族を築き上げた弟子たち――がいるからだ。わたしは彼らを、ある集会所においてではなく、一つの律法、すなわち唯一無二の 愛によって一つに結んだのである。なぜなら、兄弟への愛をもって心が鼓動するのを感じる者は、誰でもこの民の子となるからだ。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたが、スピリチュアリズムについて語る私の言葉が語られるこの集会所に入ったからといって、それだけでスピリチュアリストになるわけではない。あなたがたが隣人に与える愛によって、初めてスピリチュアリストとなるのだ。

10. 何世紀にもわたって存在してきた観念、慣習、誤謬と戦わなければならないという考えに、あなたがたは怯えてはならない。また、あなたがたの数が少ないことなど、あなたがたにとって重要ではない。あなたがたは、私が与えた光が、隷属と無知の鎖を打ち砕くことを知っている。

11. スピリチュアリズムを信じる人々が、霊的な法、道徳的な法、そしてこの世における義務を果たし、その歩みに美徳の足跡を残しているならば、一体誰に非難されるというのか。しかし、私が教えたことではないあらゆるものには警戒しなさい。そうしてこそ、あなたがたが人間の司法によって告発される者とならないように。 今日、私は「第二の時代」と同様に、あなたがたにこう告げる。「神のものは神に、皇帝のものは皇帝に返しなさい。」そうすれば、誰もあなたがたを非難する欠点を見つけることはできないだろう。

12. あなたがたが住む国を統治する法律に従い、他の民族を統治する者たちを尊重しなさい。

13. あなたがたが学び、知恵を得るために、わたしはあなたがたにわたしの言葉を託す。

14. あなたがたは、羊飼いのように、人々の心に福音を伝える使者として旅立ちなさい。

15. まことに、あなたがたに告げる。人類は、あなたがたを通して救われるのだ。

16. 私は一歩一歩、あなた方を愛の道へと導く。それは狭い道ではあるが、あなた方を満足と平安で満たしてくれる道である。

17. 私は、あなたがたが、至高の至福へと続く道を、師の後に続いて歩む姿を見たいと願っている。私から遠ざかる悪の道には従ってはならない。

18. その使命を果たした者たちは、今、私の周りにいる。しかし、私は愛と慈悲の父として、あなたがたのもとに来たのである。それは、新しい一日のほんのわずかな時間を私に捧げるよう、改めてあなたがたに教えるためである。

19. 「働き手」たちよ、1950年の終わりに豊かな収穫を捧げられるよう、努力し、働きなさい。

20. あなたがたが果たすべき使命は困難なものである。ある者は遠く離れた地で、またある者は家族の懐の中で、その使命を果たさなければならない。

21. 私がこの時代にあなたがたに与えた遺産は、かつてあなたがたが持っていたものと同じである。しかし、あなたがたは、はるか昔に私と結んだ愛と善意の契約を破ってしまった。それゆえ、あなたがたにそのことを思い出させるために、私は再びあなたがたの元へ戻らなければならなかったのだ。

22. 人類はすでに極めて堕落した状態に達していることを心に留めなさい。しかし、あなたがたは清い心をもって仕えるべきである。そうすれば、力強さを感じ、混沌の只中であっても安らぎを得られるだろう。教会が要塞の如く、堅固な壁の如く、誰もが一つの強固な環となる、決して断ち切れない鎖の如くあるよう、団結しなさい。

23. 倒れた者を助け起こしなさい。わたしはすべての人に、愛に満ちた助けの手を差し伸べている。しかし、世の誘惑に翻弄され、まだ良心の声に耳を傾けていない者もいる。あなたがたの使命は、彼らに手を差し伸べ、彼らがわたしの愛の足跡をたどるようになるまで、その道のりにおける支えとなることである。

24. わが子らよ、父の教えを守りなさい。そうしてこそ、あなたがたのものが守られるのである。

25. わたしは、あなたがたが地上で困難な使命を果たせるよう、肉体を与えた。おお、魂たちよ、この肉体を愛をもって守りなさい。もしわたしの戒めに従わなければ、あなたがたの苦しみは甚大となるだろう。

26. *あなたがた*は自分の体を導かなければならない。体が、あなたがたを従順の道から遠ざけるようなことがあってはならない。

27. 種を蒔き、それが発芽するように努めなさい。そうして、それが増殖し、父の穀倉へと戻ってくるようにしなさい。

28. 私が望むのは、あなたがたが謙虚である姿である。しかし、あなたがたのうちの多くは、頑なな心で私の助けを懇願してきた。

29. あなたがたが私の衣を身にまとっているのを見る。私は、あなたがたが時代の荒波から身を守るためにそれらを授けたのであり、途中でそれを置き去りにするためではない。

30. 1866年以来、あなたがたは私の新たな愛の啓示をその中に持っています。それなのに、何かが欠けていたというのでしょうか？

31. 忍耐をもって苦難の杯を飲み干した者は幸いである。その痛みは恵みに変わるからである。

32. 聖所を飾り立てなさい。父はかねてより、そこに住まわれることを望んでおられたのだから。

33. あなたがたにふさわしい場所を占めなさい。そうすれば、キリストがあなたがたの中にいることを、すべての人が目にするだろう。

34. あなたがたがわたしの言葉に従い、人々に良い手本を示すこと、それがわたしの御心である。そのために、あなたがたの中にわたしの力を備えよ。わたしはあなたがたに という道を授けた。その道は光に満ちている。わたしの足跡をたどり、山を登りなさい。

35. 私にお金を求めてくる者もいるが、私はあなたがたに言う。初めの時代、あなたがたは地上で大きな富を持っていたが、私の律法に対しては不従順であった。 今日、あなたがたの食卓にはパンが欠けることはないが、あなたがたにとって使命を果たすべき期間は短い。人生の道のりの終わりに、その種を何倍にも増やして私に示せるよう、仲間たちに私の種を伝えることに倦むことなく努めなさい。

36. 地上の住人を恐れるな。わたしの神聖な正義を恐れよ。

37. あなたがたは皆、わたしの子供であり、その時が来れば、皆、わたしのもとに来ることになる。

38. 師に近づきつつあるあなた方を通して、私は、たとえ彼らがどれほど遠くにいると思われても、すべての人に与える。

39. 羊飼いが整えてくれた畑、すなわち人々の心を耕しなさい。

40. 羊飼いは、一匹の羊が悲しげに鳴いているのに気づくと、その羊のもとへ駆け寄り、羊小屋へ連れて行く。

41. 「イスラエル」よ、あなたは厳しい試練にさらされている。しかし、父はあなたがたがそれを乗り越えられるよう、力を与えてくださる。

42. あなたがたが地上で与えられた使命を果たせば、来世では大きな歓喜が待っている。

43. 天国の門は開かれており、そこに住みたいと願うすべての人を招いている。その門は、あなたがたの良心の中にある。

44. 今日、私はあなた方を私の愛の食卓に招き、霊の饗宴を授ける。

45. わが神性の子供たちよ、師の弟子たちよ、わが愛があなたがたに送るこのメッセージの光を、魂の最も奥深くまで浸透させなさい。

46. 疲れて、病んで、魂を悲しみに沈めて私のもとに来る人々よ、ようこそ。

47. わが神聖な光の輝きの中に、ようこそ。その光の中に、あなたは力と癒しと喜びを見出すだろう。

48. なぜ、あなたがたの中には、私がこのように現れることを奇妙に思う者たちがいるのか。

49. 私は、この肉体の中に私がいるとは、あなた方に告げてはいない。いいえ、私はただ、この知性が私の霊感を受け止めているとだけ告げたのだ。私は今、人々に新たなメッセージを与えている。それは、渇いた野原や 、そして庭園にその水を注ぎ出す巨大な泉に例えられるものである。あなた方の知性は、私が私の光を注ぎ込む、私の知恵の宝庫であることを心に留めておきなさい。

50. 私は、愛と温もりに満ちた言葉に私の思いを込めた。それは、あなたがたがその言葉の中に、魂と肉体を癒やす香油を見出せるようにするためである。また、私はあなたがたに、真実の祭壇の上で、影や偶像崇拝、狂信の祭壇の上ではなく、あなたがたの神を礼拝するよう教えた。

51. 私があなたがたにもたらす豊かさを受け取れるよう、身を整えなさい。今日、そのベールが引き裂かれることを許し、私の新しいメッセージの真意のすべてを理解できるようにしなさい。

52. 私は、書物に頼ることなく、ただ霊によってのみ、あなたがたに理解させる。私は、あらゆる啓示の真意を解釈するよう、あなたがたに教えている。そうすれば、あなたがたはもはや偶像崇拝に陥ることはないだろう。なぜなら、あなたがたは象徴に留まる

ことに満足せず、その教えの根底に迫り、その真実を解き明かすことを理解するようになるからだ。

53. あなたがたは、天国の天使たちが永遠に神のコンサートを聴いていると聞いたことがあるだろう。この象徴について考えるとき、天国でも、あなたがたが地上で聴き慣れているような楽曲が聴こえるのだと信じることに注意せよ。 そう考える者は、物質主義という完全な誤謬に陥っている。それに対して、天国の音楽や、それを聴く天使たちの至福について語られるのを耳にしたとき、この神聖なコンサートにおける神との調和を思い浮かべる者は、真理の中にいることになる。

54. しかし、あなた方一人ひとりの魂の中に、この「普遍的なコンサート」の音色が宿っているにもかかわらず、なぜ一部の人々はそう受け止めないのでしょうか。なぜ、この言葉を耳にしても、それを理解できず、感じ取れず、あるいは誤って解釈してしまう人がいるのでしょうか。

55. 愛する子らよ、理解力が乏しい者たちよ――祈りの中で光を求めてください。瞑想の中でわたしに問いかけなさい。なぜなら、あなたがたの問いがどれほど広範なものであっても、わたしは永遠の彼方から答えることを知っているからです。わたしもまた、師と弟子たちの間に真理の光が輝くよう、あなたがたに問いを投げかけるでしょう。

56. 天上の音楽とは、あなたがたの内にある神の臨在であり、あなたがたが真の高み、すなわち霊的な美しさに到達したとき、そのコンサートの真っ只中で、あなたがたの音が響き渡るだろう。これこそが天上の音楽であり、天使たちの歌である。あなたがたがそれをそのように体験し、感じるとき、真理はあなたがたの本質から輝き出し、神があなたがたの内におられることを感じるようになるだろう。 人生は、あなた方に永遠かつ な神聖なコンサートを奏で、その一つひとつの音色の中に、あなた方は啓示を見出すでしょう。あなた方はまだ、それらの美しい音色が完全な調和を成すのを耳にしてはいません――時には愛らしい音色もあれば、力強い音色もあります。もし偶然それらを耳にしたとしても、あなた方には、結びつけることのできない曖昧な音として聞こえるでしょう。 あなた方は、その音に含まれる美しさをまだ完全に自覚していないのだ。魂の中で神のコンサートを聴き取るためには、感覚や情熱、そして物質主義の影をすべて捨て去らなければならない。

57. あなたがたは宇宙からの啓示を受け取っているにもかかわらず、なぜ私とあなたがたとの対話が不可能だと考えるのか。あ

なたがた全員が神の思いに満ちているというのに、どうして私の霊の波動が人間の思考能力を超えて不可能に思えるというのか。 天使たち、世界、宇宙空間、そしてすべての被造物が神で満ち溢れているというのに、神が密かにあなたたちに語りかけることが、どうして不可能だと言えるだろうか。なぜ私があなたたちの魂を掌握してはならないのか、あるいはなぜそれをそのまま放置しなければならないのか。それが実際には不可能であることに、あなたたちは気づいていないのか。

58. よく聞きなさい。私は師であり、この惑星は魂のための学校である。人生と私の教えこそが、完璧な教材そのものである。私が自分の義務を放棄し、生徒たちを忘れるなどということは、本当に信じられるだろうか？

59. 人々よ、私はあなたのために繰り返す。神聖なコンサートの音色があなた方の周りで響き渡っており、その調和を感知するためには、あなた方の魂が高揚することが絶対に必要である。そうでなければ、あなた方は、その音色が、それをしっかりと聞き分けることができる他の人々を待ちながら、宇宙の空間で響き続けることを許してしまうことになるだろう。

60. 私は、あなたがたが霊的なものに対する感受性を身につけ、それによって、これほど多くの涙と苦しみに満ちたこの地上の苦難を和らげてほしいと願っている。

61. 私があなたがたの中に、そしてあなたがたと共にいるという真実を否定する者たちの言葉に耳を傾けてはならない。目を覚まし、今日私があなたがたに聴くことを許した、私の交響曲の一節を聞き取れ。 これまで、あなたがたの耳は、人類の嘆きや戦争の喧騒の反響を聞くことしかできていなかった。それらは、あなたがたの不和と調和の欠如を如実に物語っている。この証拠は、人間生活のあらゆる場面、あらゆる領域で見出すことができる。

62. 兄弟殺しの戦争とイデオロギーの戦争は、その頂点に達した。大も小も、強き者も弱き者も、信者も非信者も、混乱の海を漂っている。 しかし、木の剪定の時が近づいている。まことに、あなたがたに告げる。良い実を結ばない木は、すべて剪定されるであろう。

63. 苦痛と時と真理こそが、雑草を根元から切り落とす容赦なき鎌となる。その雑草は後に、あらゆる誤りが焼き尽くされる「知恵の火」の中に投げ込まれるのである。

64. この混沌の中にも、わたしの愛を疑う者たちがいる。それについて、わたしはこう言おう。この荒れ狂う海の波を鎮めるこ

とができるのはわたしだけであるのに、どうしてわたしがこの世界を見捨てることができるだろうか。

65. あなたがたが暗闇の中にいるときはいつでも、私が助けに駆けつけることを忘れてはならない。なぜなら、私は世の光だからである。

66. 嵐を引き起こしているのは人間たちである。しかし、彼らに平和を築くことを教えるのが、わたしの務めである。そして、まさにそれが、今、わたしの教えを通じて行っていることなのだ。その教えは、いつの時代も、愛と正義の王国から届いたメッセージとして、愛らしく調和に満ちた協奏曲のように、この世に降り注いできたのである。

67. 私はこれからも、あなたがたの心に語りかけ続ける。天もまた、あなたがたの世界にその姿を現そうとしている。あなたがたの知性を通じて、天がそうできるようにしなさい。

68. 創造主とその被造物との分離などあり得ない。キリストと人間との間に距離が生じることはあり得ない。それは、頭のない身体が存在し得ないのと同じであり、惑星のない太陽が存在し得ないのと同じである。

69. もしあなたがたが真理を愛するならば、あなたがたが人生において享受する美しさは偉大なものとなるでしょう。そして、私があなたがたの魂に差し出すその聖なる自由を得たとき、あなたがたは思考力を通じて、天界、宇宙空間、そして諸世界を旅することになるでしょう。

70. 私は、預言者たちによって遥か昔から予告されていたこの苦難の時代に、あなた方を慰める。この時代の私の使者であるロケ・ロハスは、まもなく訪れる試練についてあなた方に語り、私の最初の代弁者を通じて、私は預言が今まさに成就しつつあることをあなた方に知らせた。

あの頃すでに私の声を聞いていた者たちは、師がこう言われたことを思い出すだろう。「見よ、人生は変わり、人類は極めて苦い杯を飲み干すことになる。諸国は互いに軽蔑し合うようになる。親は子を、子は親を認識できなくなるだろう。夫は妻を拒絶し、妻もまた夫に対して不貞を犯すだろう。そして多くの子供たちは、親がいながら孤児のように育つことになる。 蔓延する堕落、そして増大する飢餓と罪の結果として、多くの人々が命を落とすだろう。

71. 見よ、ほんの数年も経たぬうちに、これらすべての不吉な出来事が、荒れ狂う渓流のように、命、家庭、民族、信仰、そして制度を打ち砕くだろう。私は、私の言葉に耳を傾ける者たちに、

この渓流に流されないよう、常に目を覚まし、祈り続けるよう言い続けている。

72. 家族の徳と家庭の平和を守りなさい。最も貧しい人々でさえ、この宝を所有し得ることを見なさい。

人間の家族こそが霊的な家族の具現であることを悟りなさい。その中において、男性は父となり、それによって天の父と真に似通うようになるのである。 慈愛に満ちた母性的な心を持つ女性は、神聖なる母の愛の写しであり、二人が共に築く家族は、創造主の霊的な家族の具現化である。家庭は、両親が自らを磨く用意があるならば、あなたがたが私の律法を全うすることを最もよく学べる神殿である。

73. 親と子の運命は、わたしの中にある。しかし、双方とも、互いの使命や贖罪の義務において、互いに助け合うことが求められるのである。

74. もしすべての親と子が互いに愛し合っていれば、十字架はどれほど軽くなり、この世の生活はどれほど耐えやすいものになることか！ 最も厳しい試練でさえ、愛と理解によって和らげられるだろう。神の御心に対する彼らの服従は、平安という報いをもたらすだろう。

75. 地上における最初の制度は結婚であった。なぜなら、この結びつきは、最初の女と最初の男以来、創造主によって聖別されていたからである。いつの時代においても、わたしの律法と啓示は、この使命の偉大さについてあなたがたに語りかけてきた。

私が地上であなた方と共にいた時、夫婦や家族を訪ねることを喜びとしていた。家庭における私の臨在は、その結びつきを聖別し、その実りを祝福した。私は子供たち、若者たち、大人たちに語りかけ、使用人や一家の主、女中、主婦、そして母親たちに語りかけた。 なぜなら、すべてを回復し、霊的生活の発展段階であるこの世の生き方について新たな光を照らす必要があったからである。わたしの言葉はすべての人に向けられていた。それゆえ、わたしが語るときはいつでも、母親たちは子供たちの手を引いたり、抱きかかえたりして、急いで駆け寄ってきた。 それらの素朴な心を持つ人々が、「御子を知る者は父を知る」と語るイエスの声を聞いたとき、彼らはその言葉の中に 神の声を聞いたと感じ、心の底から師にこう言った。「ハレルヤ、あなたは私たちが待ち望んでいたメシアです！ あなたがその御名によって来られた方を賛美します。」

76. 私の到来によって、今や新しい時代が幕を開けたが、私の言葉の本質は以前と変わらない。それは、あなたがたに忘れ去ら

れたことを思い起こさせ、新たな教えを授け、あなたがたの人生を高め、それを完全性へと近づけるのである。

77. もしあなたがたが私の律法に従って生きていたなら――私がこの姿で現れたのは、私が物質化したからだとでも思うのか。

78. わたしは、かつて蒔いた種を、わたしの言葉によって育んでいる。しかし、この形での語りかけは1950年までとする。それ以降も、わたしは引き続きあなたがたの魂を育むが、その啓示はより繊細で高次なものとなるだろう。今日、わたしは、人々によって踏みにじられてきたいくつかの原則を、あなたがたに思い起こさせるために来た。 今、私は天の助言をもって、再び結婚と家族を祝福する。しかし、あなたがたの霊的な視野を広げ、利己主義に陥ることを防ぐために、私はあなたがたに、この民の中に真の霊的な家族を築き始めるよう教える。その父を、あなたがたは無限の彼方に見出すことになり、そしてこの世においては、あなたがたはすべての隣人を兄弟姉妹として見なすようになるだろう。

79. 親族に対する義務を果たした者は、自分の家や民、さらには自国さえも離れ、言葉と模範をもって私の教えを広めることに、より強い決意と尊厳を感じるとは思わないか。

「家庭や故郷を離れなければならない」と私が告げても、心配する必要はありません。私が、あなたがたが置き去りにするものを守り抜くと約束します。ですから、余分な荷物を持ち歩く必要などないのです。

あなたがたが使命を果たせるよう、私はあらかじめ道や扉、そして人々の心を整えておく。たとえいくつかの楽しみを犠牲にしなければならないとしても、血の犠牲が待っているわけではない。子供の一人が地方へと旅立つ家族は、祝福されるだろう。

私がこれらの未来の事柄について語る理由は、私があなた方に御言葉を授ける期間があと三年しか残されていないからであり、誰もあなた方を惑わさないよう、準備を整えておきたいからです。その時代には、直感という賜物があなた方を導き、どの場所へ、どの道を進むべきかを知らせてくれるでしょう。

弟子たちは独りで歩むわけではない。彼らの上には、彼らを支援するために、光の精霊たちの大軍が共に歩み、すべての者たちの上に、霊的な羊飼いであるエリヤが道を照らし、その羊たちを守ってくれるだろう。私の意志は、あなたがたの行いの中に明らかに現れるだろう。

80. この業を担うのは、あなたたちだけではない。あの世には、あなたたちの後に転生し、あなたたちが蒔いた種を継いでいく

者たちが、すでに待機している。世界は変容していくが、それは一瞬のうちに起こるものではない。

81. 私の言葉を深く考え、それがあなたがたの心の中で光となるようにしなさい。人間たちよ、もしあなたがたが、父の創造において自分たちが占める位置と、与えられた使命を知ったならば、あなたがたの使命は、常に愛し、祝福し続けることであると悟るだろう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 200

1. 天国の門は、その恵みを受け入れようとする者なら誰にでも開かれている。この王国は、人の霊の中に存在する。

2. あなたがたが、私の光のメッセージを受け入れる準備をする時、あなたがたの霊と私の霊の中に祝宴が繰り広げられます。

3. 病に苦しむ人々、悲しみに沈む人々、そして霊的な愛を必要とする人々よ、ようこそ。私のもとで、あなたがたは、これほどまでに欠けていた癒しの香油、光、そして力を見出すことになるでしょう。

4. わたしはあなたがたを愛している。それゆえ、あなたがたの苦しみ、悩み、恐れを取り除き、あなたがたがわたしの愛に包まれ、待ち受ける数々の危険から守られ、守られていると感じられるように、わたしの光を送る。 私の慈悲の泉は、あなたがたの魂と肉体を癒やすために溢れ出ている。しかし、私があなたがたに対して行っていることは、この世界だけでなく、すべての世界においても成し遂げられている。なぜなら、私の慰めの御霊は、私の子供たちが住むすべての生命の世界に降りてきているからである。

5. もしあなたがたが私から養われ、私を受け入れる術を知れば、もはや私を否定することはできず、疑うことも、あなたがたに命を与えたこのパンを軽んじることもなくなるでしょう。そして、あなたがたの存在そのものが、感謝と愛の絶え間ない証となるでしょう。

6. あなたがたは、約束された天国の喜びについて、何か想像を巡らせたことがあるだろうか？——あなたがたは、完全な存在たちの生活がどのようなものか、自分の理性を用いてイメージを膨らませようとし、賛美歌や美しさ、清らかさ、そして愛について語ってきた。しかし今、わたしがあなたがたに告げる。あの世界には、完全な調和が支配しているのだ。

7. あなたがたは、最終的に皆がそのコンサートの一部となり、完全になってわたしのもとに来るとき、その至福に与ることになるのだと知らなければならない。その時、あなたがたはわたしと出会うことになり、わたしはあなたがたがわたしに捧げる栄光の玉座に坐しているであろう。

しかし、その天上の音楽は、あなたがたが自らの内に私の臨在を見出し、私があなたがたをその一部とするために目の前に示す私の業、すなわち私の創造を仰ぎ見て、その美しさに心を奪われるとき、あなたがたの魂の中に響き渡るでしょう。 いつかあなたが

たが私の元にいるとき、最も美しい調和を感知し、最も愛らしい歌声が、あなたがたの霊から私の霊へと昇っていくでしょう。

8. その時、あなたがたがこのように自分の中に私の臨在が輝いているのを感じるとき、あらゆる段階において一つの協奏曲を見出し、あらゆる音色の中に啓示を発見するでしょう。 そして、あなたがたは私にこれほどまでに近づくため、ついには私を、あなたがたの存在の唯一の理由であり、唯一の目的であると見なすようになるでしょう。 私は、旅の最終段階に到達し、自らの功績と、これから待ち受けるものを自覚している旅人を迎えるように、あなた方を迎え入れるでしょう。

9. 民よ、あなたがたはまだこの美しい音色の音楽を耳にしたことがない。それは、あなたがたがまだ自らの魂を脱物質化することができなかったからである。そのコンサートは、あなたがたが到達し得た世界の彼方で響き渡っている。しかし、私はあなたがたがまもなく私の元へたどり着けるよう、道を整えている。

10. なぜ、あなたがたは、人間の知性を通じての私の啓示を難しいと思うのか。 私が常にあなた方の魂とつながっていることを疑っているのか？　創造物が私によって養われ、すべての魂が、同じ木から命を得てその樹液を糧とする木の枝のようなものであるならば――私があなた方の師であり、医者であり、父であるにもかかわらず、どうして私が遠く離れているとか、あなた方の苦しみに対して無関心であるなどと思えるだろうか？

11. 聞きなさい。世界観の戦いが迫っている。肉体を持つ魂も、肉体を持たない魂も、混乱の海の中で激昂している。誰もが、痛みと悪という自らの「収穫」をさらけ出している。誰もが互いに傷つけ、殺し合おうとし、誰もが破壊の業を成し遂げようとしている。しかし、その痛みは彼ら自身にも等しく降りかかっている。

現代において、良い実を結ばない木をすべて切り倒すという使命を帯びた刈り取り人が現れている。この大いなる戦いにおいて、正義と真実のみが勝利を収めるだろう。

多くの教会は消え去り、一部は残ることになる。ある教会では真理が輝き、他の教会では欺瞞だけが提供されるだろう。しかし、正義の鎌は、地上にあるすべての種が裁かれるまで、切り続けていく。

12. その時代、霊的に高まった者たちは、理想と高揚を手にし、その知識が彼らに真の知恵を与えるだろう。あなたがたは、自らを導くために人間の科学を必要としない。なぜなら、私の教えに

よって十分に備えられた魂は、あなたがたが知るべきすべてのことを明らかにしてくれるからである。

13. 法学者、哲学者、そして司祭たちが私のところに来るだろう。私は彼らに答え、私の言葉によって彼らを改心させる。ある者たちは私を理解することができず、混乱するだろう。他の者たちは謙虚に私に赦しを請うだろう。彼らは私から証拠を求めはしない。しかし、私は彼らを愛しており、彼らに私を知ってほしいと願っているから、証拠を与えるつもりだ。

14. 科学者たちが人々に答えられず、彼らの問題や疑念を解消できないとき、彼らは私のところに来るだろう。 その時、彼らは、私が彼らを教え、慰めるために待ち受けていたことを知るだろう。彼らは、この言葉がキリストから来ていることを知るだろう。キリストとは、すべての悲しむ者を慈しむことを知り、すべての人に、この愛に満ちた言葉で語りかける方である――それは、師があなたがたに「互いに愛し合いなさい」という崇高な戒めを教えたのと同じ言葉である。

15. あなたがたは試練の時代に生きており、すでに痛みの嘆きの声が聞こえてきた。しかし、まさにその痛みこそが、あなたがたを清め、神殿の柱となれるようにするための糧となるのだ。そして、あなたがたの後に、新たな使徒たちがやって来るだろう。

16. 私はあなたがたと共にいて、あなたがたを慰め、不屈の精神を与え、償いの道を歩み進めることができるようにします。私は、あなたがたが敵を友とし、その闘いの中で天の御国を勝ち取り、そこであなたがたのすべての行いの実りを得られることを望んでいます。

17. 私がこのように語るのは、あなたがたが心を変え、愛し、祝福することこそがあなたがたの使命だからである。イエスが生きたように、常に父と結びつき、被造物のすべての存在と完全な調和の中で生きなさい。

18. あなたがたが善行を行い、見捨てられた子供を慈しみ、苦しむ者を助け、無防備な存在を守るとき――そのとき、あなたがたの心の奥底で、あなたがたを祝福し、この道を歩み続けるよう励ましてくれる声を聞いたことはありませんか？　それは誰の声でしょうか？　それは良心の声です。 それは、父を模範として歩む子供を称える、父の声なのです。

19. もしあなたがたが、わたしの神性のふさわしい子となり、わたしの栄光の最初の相続人になりたいと願うなら、まず自らを清めなければならない。そして、あなたがたは今や、善行こそが最

良の清めの水であることを知っているはずだ。 私がこのように語るのは、私が私の王国であなた方を待ち望んでいること、あなた方が今日、神へと至る道を進んでいるが、その道のりはまだ長いということを、あなた方に実感してもらうためである。私はあなた方一人ひとりを使徒とし、そしてその使徒たち一人ひとりを師としたいと願っている。

20. 私は、人類が様々な形で神への崇拝を実践していることを認識している。しかし、私は、いかなる宗教団体も重要であるとか重要でないとかは考えていないと、あなたがたに告げる。私はあなたがたに愛を教えた。そして、真理はただ一つしかないのだ。

人類を救わなければならないのは、ある一つの教会や、一人の司祭、あるいは多くの司祭たちだなどとは考えてはならない。あなた方を守り、慰め、そしてあなた方のために命を捧げてまで真理と命の道を教えようとしたほどに深く愛している、その賢明で慈愛に満ちた 羊飼い、すなわち私その人なのだ。

21. 当時の人々は、私の命を奪うことで私を滅ぼし、私の教えを消し去ることができると信じていたが、それによって彼らが成し遂げたのは、犠牲を通じて私にさらなる命とより高い栄光を与えることだけだったということに気づいていなかった。私は十字架の上から、あらゆる時代の使徒たち――すなわち、同じ道を歩んで私に従ったすべての人々――を祝福した。

22. 同様に、現在の時代にわたしを受け入れ、わたしの業を継承する準備をしているあなた方をも、わたしは祝福する。

23. イスラエルよ、疲れ果てた旅人よ、あなたは第三の時代における自分の使命を全うしようと、私の言葉を渇望してここへやって来る。そして、唇には苦味、心には痛みを抱えて、私の元へたどり着くのだ。 あなたたちとあなたたちの子供たちは、危険に満ちた道を歩んできた。そして今日、私の御霊の呼び声を聞き、励ましを受けると確信して、ここに駆け寄ってくるのだ。

24. ある者たちは、私の使命を待ち望みながら謙虚な姿で私の前に現れる。またある者たちは、多くの罪を犯した後、私の御前で悔い改めを感じる。さらに別の者たちは、好奇心から私の教えを吟味し、それを非難するために何らかの誤りを探し出そうとする。私はあなたたちを知っており、愛しており、この日、すべての人を受け入れる。

25. わたしは、謙虚な者たちを用いて、わたしを待ち望む人々の心に、まもなく福音を届けるであろう。 罪を犯した者を、私は水晶のように澄んだ水である私の言葉によって清める。私が彼を

赦し、私の弟子とすることを知れば、彼は悔い改め、二度と罪を犯さなくなるだろう。そして、探求し疑う者には、私が啓示を与え、証拠を示して、真理を悟らせ、私について証しを立てさせる。

26. そうしてあなたがた全員が準備が整ったとき、私は、知性を磨き、弁舌に長けた者たちのところへ、あなたがたを遣わす。しかし、あなたがたは彼らに劣っているとは感じず、また彼らを羨むこともないだろう。なぜなら、私はあなたがたに偉大な霊的な能力を授けたからである。

27. 科学はまもなく立ち止まるだろう。 多くの学者は動揺し、自分たちの知識を無用だと見なすようになるだろう。なぜなら、彼らが得た知識は、魂の安らぎや幸福へと導いてくれなかったからだ。彼らがこの結論に達したとき、彼らはわたしを求め、霊的生活の本質と目的を知りたがり、謙虚にわたしの奥義に踏み込むことを許してほしいと願うだろう。そして、わたしは、わたしの御心に従って、彼らが踏み込むことを許すのだ。

28. わたしに最も従う者たちは、貧しい者たち、相続権を奪われた者たちである。彼らが、わたしの言葉が豊かに授けるこの偉大な霊的知識の宝を受け取ったとき、愛に満ちて、この時代にわたしが世に来られたという証しを世界に広めるために旅立つだろう。ある者は預言者のように現れ、またある者は「言葉」の賜物によって人々の心をつかむだろう。そして、すべての者が人々の間で愛の業を行うことになる。

29. 軽蔑されてきた国々、ぼろをまとった民たちは目覚め、わたしを愛し、人類に奉仕するようになる。彼らの間には、苦しみによって清められた偉大な魂たちがいる。これらの被造物の核心には、わたしの使者たち、すなわち使徒たちが隠されている。 私はすべての国々を呼び集め、まもなく、私の言葉の啓示を理解し、私の先駆者となる者たちが私のもとに来るだろう。

30. イスラエルよ、そこには、私の使命を待ち望み、混沌の中で生きる、あなた方の戦友たちがいる。*彼らが*平和を懇願する一方で、他者たちはその滅亡を要求している。彼らは新たな地平、新たな国々を見たいと切望し、より温暖な他国へ移住して、そこで家を築き、神の律法を全うすることで魂を開花させたいと切に願っている。

31. 人々の宗教的実践における不完全さは、霊性が心の中に浸透し、偽りの偶像に疲れた魂が、わたしの臨在とわたしの言葉を渇望するにつれて、次第に消え去っていくであろう。 彼らは、川のほとりでも、山でも、谷でも、砂漠でも、わたしを呼び求めはし

ないだろう。彼らは魂の奥底でわたしを求め、そこに、わたしを愛する神殿を築き上げるだろう。

32. あなたがたは、この世で権力を握っていた多くの人々が、社会的地位から転落していくのを見るだろう。そして、その状態において、彼らの魂を試金石となるような大きな試練を経た後、彼らは私の教えを渇望し、自らの美徳に基づいて高みへと志を向け、私が人間に授けた賜物の真の価値を知るようになる。 1950年には、あなたがたは多くの予言が成就するのを見ることになるだろう。

33. 枯れた畑のようだった多くの心が実を結ぶだろう。しかし、私が日々導いてきたあなたたちには、こう告げる。準備を整え、私の種を蒔く用意をしておきなさい。

34. その年を過ぎると、「イスラエルの民」の間で争いが生じるだろう。そして、目覚めて祈り続け、私の律法に従って行動し続けてきた者たちだけが、他の人々にとっての守りとなるだろう。

35. わたしがあなたがたに光を与えたのは、あなたがたが確かな歩みを進め、隣人を導くためである。

36. 皆が祝福されますように――今、私の言葉に耳を傾けている人々も、まだ私の教えに縁のない人々も。

37. あなたがたが今まさに経験しているこの時代は、闘争の時代、すなわち霊的な闘争と世界観の闘争の時代である。

38. この指摘は必要なものである。なぜなら、あなたがたは、教えの奥義に絶えず踏み込もうとする者たちの前に立ち向かわなければならないからだ。同様に、あなたがたは、さまざまな信仰を持つ多くの男女の前に立ち、そして、どの教会や宗派にも、善意を持ち、努力を惜しまない人々がいることに気づくだろう。彼らの行いには完全性が宿っているからだ。

39. わたしの恵みはすべての人々のためである。なぜなら、わたしは人間界において、たとえほんの一瞬であっても、すべての人がわたしの神性への愛をもって心を燃やしたのを見てきたからである。

40. 地球の至る所には、今もなお善を行うことに努め、隣人のために役立つ方法を探している人々が散らばっている。まことに、あなたがたに告げる。この決意を持つ者は皆、わたしと共にいるのだ。

41. わたしは、あらゆる場所、あらゆる国、あらゆる大陸に光が現れる時が来る、とあなたがたに告げた。その光は、人間の霊的修養に応じて輝きを放つだろう。しかし、それによって、創造に関する新しく、より的確な概念、すなわち霊性に関する新たな概念

が形成されることになる。このようにして、霊的・精神的な発展の新たな段階が始まるのである。

42. 最終的に、すべての知性ある人々が団結するとき、神性、永遠、そして霊性に対する彼らの認識は明確になるだろう。人々は多くの試練を経験することになる。しかし、それが一度過ぎ去れば、真理はさらに明らかになるだろう。そして、常に水晶のように澄み渡り、純粋なその真理は、すべての人によって理解されるようになる。こうして、霊的な団結が現実のものとなるのだ。

43. 私があなたがたに啓示した教えと、与えた規則は、広く認められるようになるだろう。しかし、あなたがたが伝えるべきなのは、私の言葉の表現方法ではなく、その真意であることを忘れないでほしい。

44. また、あなたがたの礼拝の形式が変化することについて、気にする必要はない。まことに、私があなたがたに告げる。やがて、あなたがたの行いの本質と純粋さだけが父のもとへ届くことを、あなたがたが理解する時が来るのだ。

45. あなた方の仲間の多くが、スピリチュアリズムを深く理解したとき、あなた方がまだ抱いているかもしれない、礼拝への偏執的な執着の最後の残滓さえも捨て去るよう、あなた方に迫ってくるだろう。

46. 私があなたがたに近づき、伝達者を通して御言葉を告げるとき、理解も感情も伴わずにただ耳を傾けている者たちを見出す。また、単なる好奇心に駆られてやって来た者たちもいる。中には、霊界を試そうとした者たちさえいる。 多くの者は、必要な敬意を持って臨んでいない。しかし、彼らの目の前で実証されている超自然的な現象を、どうしてそうやって信じることができるだろうか？もしこの奇跡を、より高い力によるものと見なさなければ、今まさに起こっていることに対して、彼ら自身、合理的な説明をすることができるだろうか？この働きが何であるかについて、彼らに問う者に対して、一体どのような説明ができるというのだろうか？

47. 信仰を持つ者は、これらの場所から祝福された水を持ち帰り、それによって奇跡を起こす。しかし、師はあなたがたに問う。その水の中に、果たして超自然的な力が存在するのだろうか。まことに、あなたがたに告げる。その力は水の中にあるのではなく、あなたがた自身の中、すなわち信仰と、あなたがたの行いの純粋さの中にあるのだ。なぜなら、主は自然や全被造物の中にいるのと同じように、あなたがたの中にもおられるからである。 かつて私が

あなたがたに言ったことを思い出してください。「あなたがたの信仰が、あなたがたを救うのだ」と。

48. わたしこそが、あなたがたの知性に光を与え、あなたがたの感情を動かし、それを善の道へと導く、永遠の奇跡である。しかし、人間は父であるわたしにさらなるものを求め、本来は魂の感受性を通じてのみ知覚すべきものを、目で見、耳で聞き、手で触れて確かめようとした。それでも、愛ゆえに、わたしは子供たちに譲歩した。わたしは彼らを理解し、彼らの求めに応えているからである。

49. それゆえ、この時代において、私は私の霊界があなた方に近づくことを許し、それがあなた方の知性を通じて現れるという賜物を授けた。それは、あなた方全員がこれらの奇跡の実現を直接目撃し、私の存在を信じるためである。

霊的存在たちによる啓示は、私の業を探る者たちによる悪意ある解釈を助長することになるだろう。彼らはそれを武器として用い、あなた方を傷つけ、中傷し、魔術師として断罪するだろう。しかし、その啓示が種を蒔き終えた後、それは消え去るだろう。そうして、あなたがたは、私が授けた賜物が存続し、奇跡が引き続き起こることを体験することになる。なぜなら、その時には、私の教えを助けとして、常に最善の方法で実践的な隣人愛を行おうと努めることで、直感的に自らの歩みを導くようになるからだ。

50. 私の言葉を深く探求し、私があなた方に決まった行動様式を強制しているわけではないことを悟りなさい。

51. あなたがたが守り、人生の道にまき散らすべきなのは、私の愛の本質である。なぜなら、やがては、こうした集いの場さえも必要としなくなる時が来るからだ。私は、あなたがたの道の上で、寝室で、山の中で、あらゆる場所で、自らを現すであろう。 あなたがたの活動範囲は無限であり、隣人愛を実践し、あなたがたがわたしの弟子であることを証明することができる。なぜなら、生活環境は一人ひとり異なるが、それらは常にあなたがたに善を行う機会を与えてくれるからだ。この善は、思考や行動、言葉、さらには視線によっても行うことができる。

52. 良心を、自らの行いの審判者とすることに慣れなさい。そうすれば、良心は、私があなたがたの中に植え付けたすべてを表現するために、どのように働けばよいかを、あなたがたに示してくれるでしょう。

53. もし、私の業に携わる兄弟姉妹たちが、私の啓示の根拠を説明できないのを見たら、立ち上がってそれを説明しなさい。そのために必要な知識は、あなたがたが持っているのです。

54. やがて、私を取り囲むのが信仰の使徒たちだけになる時が来ても、驚いてはならない。私はあなたがたにこう言った。「召される者は多いが、選ばれる者は少ない。」しかし、*これは私*がある者を選び、他の者を拒むからではない。*私は*すべての人を招いている。しかし、ある者たちは私のそばにとどまる一方で、他の者たちは遠ざかっていくのである。

55. 多くの者がやって来たし、これからも私のところへやって来るだろう。しかし、心の中に隣人愛の種を宿している者だけが、ここに残るのだ。

56. この言葉は人間だけに向けられたものではない。全地球に散らばり、ある使命を果たさなければならない霊的な大軍も、これを聞いているのだ。

57. わたしはあなたがたに自由意志を認める。行きたいところへ行きなさい。愛を感じる場所こそが、あなたがたにとって最も心地よい場所だと感じるだろう。もし、ある伝達者を通じて*語られる*わたしの言葉があなたがたを納得させないなら、わたしを完全に感じられる場所でわたしを探しなさい。なぜなら、わたしに従う者は皆、心の中でわたしを感じるべきだからである。

58. 私はあなたがたを互いに和解させ、一つにまとめ、決して分断することはない。私はあなたがたに光を与える。そうすれば、その時が来たとき、あなたがたは真実と虚偽を見分けることができるようになるからだ。

59. わたしは、あなたがたを、父の温もりを求めて駆け寄ってくる幼子たちのように、あるいは、人生の道を導いてくれる知恵を求めてやってくる者たちのように見ている。

60. あなたがたは確かに取るに足らない存在だが、それはあなたがたの弱さによるものであり、私が人生の道のりで様々な形で与えている教訓を活かせなかったからである。

61. 私の名と私の言葉を知る者は、自らを無知だ、取るに足らない、あるいは弱いと呼ぶ権利などない。かつて私は、私の言葉の中で、「私は道であり、真理であり、命である」と告げなかったか？　もしあなたがたがこの愛の道を歩み、私の知恵の光に養われるならば、何が欠けるというのか。人は、生まれた瞬間に泣くのも当然である！ 魂は、すでに「涙の谷」が待ち受けていることを知っているのだ。

62. なぜ、あなたがたはこの「涙の谷」の世界を、平和の地に変えないのか。わたしの教えの真意が、あの美しい目標、「地上の善意ある人々に平和あれ」へと導くことを理解せよ――それは天の恵みと祝福である平和であり、互いに愛し合うという戒めに従うことによって、人々が得ることができる平和である。

63. これこそが、平和を得るための秘訣である。私はこれを世界に啓示し、その王国の門を開く鍵を世界にもたらした。人間はこれをよく知っているが、愛の道を通じて平和や偉大さ、知識を得ようとはしなかった。人間は、自らの想像に基づく世界と、自らの好みに合った平和を構築することを選んだのである。

64. 人間はその業を、神における兄弟愛という土台の上に築かなかったため、その業は無に帰した。それゆえ、今日、その虚栄の世界は崩れ去りつつある。 人間は、科学の進歩を誇り、自らの発見を称える勝利の歌を歌いたいと願っている。しかし、その代わりに、愛を注ぎ込まなかった自らの業の結果を実感したとき、痛みと恐怖、そして後悔の嘆きの声が胸から漏れ出ているのを耳にするのだ。

65. わたしの言葉は、あなたたちにとって苦いものだろう。それはただ真実を告げているだけである。

66. 私の言葉はイラクサではなく、小麦であり、闇ではな、光である。

67. わたしの御心に従えば、あなたがたは泣くことはない。わたしの教えに従って生きれば、あなたがたは幸福を知るだろう。互いに愛し合えば、あなたがたは完全な平安のうちに生きるだろ。

あなたがたに平安がありますように！

教え 201

1. 民よ。真理の霊がすべての魂にその光を注ぐこの時代において、私は、この形で私の声を聞くよう定められた者たちが、集中し、深く思索することを望む。そうして初めて、彼らがこの時代に私があなたがたにもたらした神聖なメッセージを理解することができるからだ。 このメッセージとは、私があなたがたの魂に刻み込む書物であり、人類が太古の昔から受け継いできた律法に対する神聖な解釈であり、「七つの封印の書」が内包する本質そのものである。私は、私の言葉の光によってあなたがたの魂を照らし出すことで、その秘密を少しずつ明らかにしていくのである。

2. 明日、あなたがたが私の教えを理解したとき、戦いが始まる。あなたがたはもはやこの形での私の言葉を持たなくなるが、心の中に私の臨在を感じるようになるだろう。

3. 最初の時代、神はモーセを通じて律法を石に刻まれた。イエスの御言葉は、血をもって人の心に刻まれた。そしてこの時代、私は霊感の光によって、私の啓示をあなたがたの魂に刻み込むであろう。

4. 私が自らを現すための媒体である者たちの不完全さを見て疑念を抱くならば、その不安にとどまってはならない。よく考え、心を落ち着かせ、前進しなさい。なぜなら、私の願いは、あなたがたが私の啓示に含まれる偉大さと真実性を自覚することにあるからだ。

5. この民が、福音宣教のために諸地方、諸部族、村々、さらには諸国へと旅立つには、強靭であり、霊的に高められた状態でなければならない。 今日、あなたがたは、まだ使命が成就する瞬間を切望している無知な子供たちであり、その道中で待ち受ける落とし穴や試練をまだ知らない。しかし、信仰と愛に満ちた者は誰でも、嵐に立ち向かうことができ、自らの痛みには無感覚であっても、人々の苦難に対しては無関心ではないだろう。

6. この時期における私の教えは長期にわたって行われてきた。それは、多くの人々が私の声を聞く機会を与え、それによって、かつて私があなたがたに与えた「罪ある者であれ罪なき者であれ、すべての目が霊的に私を見る」という約束を果たし、そうしてあなたがたの私への希望と信頼を新たに蘇らせるためであった。

7. 私があなたがたに授けるこの御言葉を書き留めることは、私の御心であった。なぜなら、そこには、明日の人々に知られてい

なければならない予言、告知、 メッセージが含まれているからである。あなたがたの記憶は、しばしば裏切ってしまうからだ。

8. わたしの言葉は、世界中の男女からなる啓発された民を育て上げ、その力は彼らの霊性に基づいている。わたしは、この民に、世界における平和、正義、道徳、そして真の信仰の回復を託す。

9. 今日、人類は一見眠っているように見えます。しかし、あなたがたは、ある共同体の人々が私の使者の声を聞いたとき、まるで花が太陽の光の温もりと優しさを受け入れるために花開くかのように、心の扉を開く様子を、本当に驚きをもって目撃することになるでしょう。 今、私の言葉に耳を傾けているあなた方は、すでに、将来、地球全体を覆うほどに増え続けるその民の一員なのです。あなた方の使命は、人々に物質主義を捨て去るよう諭し、魂と魂の対話を説き、大きな試練が彼らの上に迫ったとき、同胞たちを信仰の中に守り抜くことです。

10. この時代に私の言葉を聞いた人々の群れは、明日現れる民のほんの一部に過ぎない。その民の義務は、試練や、彼らを打ちのめすかもしれない嵐にもかかわらず、団結し続けることである。もし彼らが散り散りになってしまえば、戦いは敗北し、それまで彼らを導いてきた星は消え去り、彼らは砂漠の計り知れない孤独の中に迷い込んでしまうだろう。そうなった場合、彼らが私の真理についてどのような証しを立てることができるだろうか。彼らは同胞にどのような模範を示すことができるだろうか。

11. 愛する弟子たちよ、よく考えてほしい。私があなたがたに語りかけるために降りてきて、私の神聖な臨在と御言葉をあなたがたを通して感じられるようにしたのだから、あなたがたの師は偉大な救いの業を企てているに違いない。しかし、私が教え、愛してきたあなたがたは、いかなる形でも私の神聖な教えの力を弱めてはならない。

12. 弟子たちよ、もしあなたがたが霊的な賜物を持とうとするなら、愛と善を行いたいという願いこそが、その願いをあなたがたに抱かせる原動力であるようにしなさい。自分の虚栄心を満たすためだけに、つまり、そうすることで他者より優越感を感じられるからという理由で、私の恵みを求めるな。また、これらの賜物を通じて、高利貸しによって自分の幸福を築こうともしないでほしい。

まことに、あなたがたに告げる。愛が何らかの見返りを期待するや否や、その瞬間から、それはもはや愛ではなくなる。また、施しを行うことが、その見返りとして報酬を得ることを目的とするや否や、それはもはや施しではない。それゆえ、 あなたがたにこ

う指摘する。もしあなたがたがこれらの賜物の一つを望むならば、それを促すものは愛でなければならない。

13. この道に従って私に従おうとする者は皆、自分の心をあらゆる私利私欲、あらゆる利己主義、あらゆる虚栄から解き放たなければならない。清らかな心を持って初めて、私の愛を感じることができるのだ。

14. もし、あなたがたのうちの誰かが善行に励み、苦しむ隣人のために祈りを捧げ、その隣人の痛みを思い、心が悲しみに満ちているのを見出したなら、私の神聖な愛は、その人に私の癒しの香油を一滴授け、その人が求めた奇跡を叶えてあげよう。

15. その瞬間、隣人のために父なる神に執り成しをした子供は、非常に大きな喜びに満たされる。なぜなら、父なる神が、その子供から願い出られたことを、私の恵みを受けた苦しむ者に授けてくださったからである。 一方、人生の道において実践的な隣人愛を尽くす使命を負っている者が、その賜物を利己的な目的のために悪用した場合、その者は自覚することなく父の恵みを自ら奪い去ってしまい、もはや何も与えることができなくなる。そうしてその者は自分自身を欺き、また隣人を欺くことになる。 この悪い「働き手」は、その道のりに小麦の代わりに雑草だけを蒔くことになる。悪しき行いを成し遂げた後、彼には非常に苦い後味、不満、不安が残り、父の慈愛に満ちた御顔の中に、自らの行いを祝福し肯定するあの愛情に満ちた微笑みを見出すこともできず、また、兄弟に対して自らの霊的賜物の影響を実感させることもできなくなる。

16. もし病人が癒やされたり、悲しむ者が慰めを受けたり、あるいは奇跡が起こったりしたとしても、その奇跡はあの「働き手」のおかげではなく、無知のゆえに主の悪い弟子に全幅の信頼を置いていた苦しむ者に対する、父の限りない憐れみによるものであった。 それにもかかわらず、その悪しきしもべは、奇跡が起こると、それを自らの執り成しや霊的賜物のせいにし、その証しを利用して、自分を信頼する人々の数を増やそうとする。そうした者たちには、私の正義が下されなければならない。そうしてこそ、彼らは自分たちを迷わせている歩みを改め、自らの行いの誤りを省み、正しい道へと立ち返ることができるのだ。

17. わが正義による最初の懲らしめを受けた際、自らの過ちを悔い改め、迷いの道を歩むことを断念し、すべての過ちを償うよう努めた者たちは幸いである。彼らはそれによって、 、魂の満足が地上の満足とは比べものにならないことを証明したのである。他の人々は、善行が心に残す平安を軽んじ、お世辞や、一銭という

わずかな報酬を受け入れ、前者が魂を偉大にし、後者が魂を小さくし、卑しめることに、手遅れになって気づいた。

18. 「わたしの畑の働き人」である者は皆、わたしが彼を遣わしたのは、わたしについて証しをするためであることを知らなければならない。しかし、その証しが真実であるためには、彼は自分の行い、隣人愛の行為、善き言葉、そして善き思いによってその証しを裏付けられなければならない。それによって彼は、自分の心が清く保たれるようにし、わたしが彼の中に現れるようにするのだ。

19. かつて私はあなたがたに、「御子を知る者は父を知る」と言った。これは、地上の私の業を通して、あなたがたの父が常にあなたがたに注ぎ続けてきた愛を、あなたがたが認識できることを伝えたかったのだ。今、私はあなたがたに、私の弟子たちの業を通して、私を知ってほしいと告げる。

20. この民が最終的にわたしを理解し、この教えに従って生き、真の愛をもって自らの十字架を受け入れるとき、人々は目覚め、自らの行いに気づき、自分たちを導いているのが真理であることを認めざるを得なくなるだろう。そうして彼らは、わたしの業を神聖な啓示と見なすようになるだろう。また、それを宗教、教義、あるいは世界観と呼ぶようになるだろう。

21. 弟子たちよ、わたしがあなたがたに示した使命が何であるかを、体験し、理解しなさい。あなたがたの責任を心に留め、すべての行いを吟味し、それらがすべてわたしの教えの真理に従うようにしなさい。

22. 多くの団体、修道会、教会において、人々は互いに「兄弟」と呼び合う習慣がある。彼らの口からは「兄弟」という愛情を込めた言葉が語られるが、たいていは心の中でそれを感じることなく口にしている。

23. まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたがこの言葉の意味を深く掘り下げる時間を割くならば、あなたがたがそこから生まれた命の源を発見することができるだろう。 あなたがたは、わたしの神聖な慈愛を理解するだろう。そして、互いに距離を置いて生きてきたこと、見知らぬ者と呼ぶ人々を無関心に見つめてきたこと、そして絶えず互いに傷つけ合ってきたことを思うとき、これらすべてが、あなたがたを悔恨の念で震え上がらせるだろう。

24. 私が人々と共に生きるためにこの世に生まれたのは、あなたがたに「兄弟である」ことを教えるためでした。私はマリアの胎内で肉体をまとい、あなたがたを私の兄弟と呼び、互いにどのように愛し合うべきかを示したのです。 私の教えのすべては、あな

たがたが父を愛し、父を賛美することができる、その神聖で 唯一の律法を、あなたがたの目の前に示すことにあった。互いに愛し合わなければ、どうして私を愛することができるだろうか。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたが私に捧げるすべてのものを、むしろ隣人たちに分け与えるほうがよい。なぜなら、父はすべてをお持ちであるが、あなたがたには何も欠けているからだ。

25. あなたがたの全人生と行いを、わたしの模範に倣って導きなさい。まことに、あなたがたに告げる。そうすれば、あなたがたはあらゆる道においてわたしを賛美し、愛の真の証しを示すことになるだろう。もし人々が、自らの存在を高めという目的のために、あらゆる能力を結集したならば、彼らは自分たちの間にわたしの臨在を完全に感じることになるだろう。 ある者は知識を提供し、ある者は愛を捧げ、またある者は助け合いの精神や学問、インスピレーションを寄せ、さらに別の者はその力を発揮するだろう。そうすれば、あたかも一人の、悟りを開いた、偉大で善良、それゆえに力強い人間によって創造されたかのように、強固で統一された人類が誕生するだろう。これこそが、私が長い間、私の愛の法則を刻み込んできた人間である。

26. その人の心の岩は堅いが、私の言葉という神聖な彫刻刀の鋭さには抗うことはできない。

27. 私は、人類の間に調和の時代が訪れることを告げる。これは、かつて私の預言者たちも、はるか昔にあなた方に告げていたことである。その時、あなた方は、諸国が兄弟のように結ばれ、パンと力と知識を分かち合うのを目にするだろう。 かつては戦争や敵対関係の中でしか生きることを知らなかった場所で、人々が平和を築く姿を、あなたがたは目撃することになるだろう。また、真の人間の医師として、病める人々に慰めをもたらす姿を、あなたがたは目撃することになるだろう。

28. さて、あなたがたは、真実において、まだ私の律法のもとで兄弟姉妹として生きることに成功していないことを、今、悟るだろうか。私がかつて、私の最高の戒めは「互いに愛し合いなさい」であると告げた理由を、理解しているだろうか。

29. 私はこの時代に、その至高の戒めをあなたがたの心から消し去るためでも、別の戒めに置き換えるためでもなく、ここに来たのです。それは揺るぎなく、不変のものです。私がそれをあなたがたに説明するのは、その意味の深さを理解し、その真意――すなわち私の知恵――を悟ってもらうためだけです。

30. この人類は、いつになったら、その律法の成就の中に、彼らがこれほど切実に必要としている平和、今日欠けている健康、そしてこれまで一度も見つけることができなかった幸福があるということを理解するのだろうか。

31. 私は、人々が知らず知らずのうちに、ある一点へと向かっていることを知っている。その点に到達したとき、彼らはついに真理の光に目を向けることになるだろう。

32. これらすべてを語った上で、あなたがたが隣人を「兄弟」と呼ぶときは、その言葉の意味を深く理解し、今日わたしが明らかにした真理を心に感じ取ろうと努めてほしい。

33. 私は父なる愛をもって、あなた方を受け入れます。私の声を聞く者の数は少ないとはいえ、それゆえに、私は愛をもって自らを現すことをやめることはありません。

34. あなたがたの心は私の光に満たされ、それによってあなたがたが抱くかもしれないあらゆる疑いが取り除かれるでしょう。

35. わたしに従う者の数は少ないが、わたしは依然として彼らが力不足であるのを見ている。しかし見よ、わたしの言葉は彼らを、力に満ちた不屈の戦士へと変えるだろう。彼らはいつか、たとえ疲れ、傷ついても、右手に平和と兄弟愛の象徴である旗を掲げながら、目的地にたどり着くことになる。あなたがたの勝利は、多くの人々にあなたがたに従う勇気を与えるに違いない。

36. 自らの使命を悟り、それを果たす者は幸いである。魂がその成長のためには、確固たる決意と力、そして意志を必要とする。これらが欠けていると、進歩は遅くなり、魂は完全になるために多くの地上での生を要することになる。 人々は、魂の完全性への道である私の教えのすべてを知らなければならない。直感だけでは不十分であり、彼らは知識も必要とする。そうして初めて、その道のりで立ち止まることがなくなり、時と機会が持つ真の価値を認識し、もはや霊的に死んだ者ではなくなれるのだ。

37. 生命は、肉体よりもむしろ魂の中に現れるべきである。この世で生きてきた者は数多いが、霊的に生きた者、すなわち、すべての人間に存在する恵み、創造主が人間に宿したその神聖な火花を表現した者は、いかに少ないことか。

38. もし人々が精神の中に透視能力を保つことができれば、それを通じて自らの過去、現在、そして未来を見通すことができるだろう。

39. 精神は、私の『神聖な知恵の書』に似ている。そこにはどれほど多くのことが込められていることか！　精神は絶えず、あ

なた方に何かを明らかにし続けている――時には、あなた方にとって理解しがたいほど深遠な啓示さえも。

40. すべての人間に宿るその光の火花こそが、人間と霊界とを結ぶ絆であり、彼をあの世や父なる神と結びつけるものである。

41. 注意深く観察すれば、すべてのものが永遠の命と結びついていることが理解できるだろう――それは、あなたがたを待ち受けているものであり、毎日、あるいは過ぎゆく一瞬一瞬ごとに、あなたがたが近づいているものである。

42. わたしの畑には、この種を蒔き、育てることを学ぶ労働者、すなわち、澄んだ心と善意に満ちた人々が求められている。なぜなら、わたしの賜物を受けた多くの人々は、「放蕩息子」となり、父のもとでしばらく過ごしただけで、その後は快楽を追い求めてしまったからである。 しかし、わたしの言葉は成就し、彼らは戻ってくるだろう。彼らはその道のりで、わたしの容赦ない正義に直面することになるだろう。だが、もし彼らがわたしのもとに戻ってくるならば、いつものように、慈愛に満ちた父としてわたしに出会うことになるだろう。

43. 人々の群れよ、旅立ちなさい。この業の使者として外へ出て、すべての兄弟たちに福音を伝えなさい。わたしの言葉を信じなさい。そうすれば、あなたがたは奇跡を成し遂げるだろう。この光は、人類を眠りから目覚めさせるだろう。

44. その道を一歩一歩進んでいき、その道を知りなさい。それは、わたしの律法による広大な道である。その道での戦いは絶え間なく続く。時には、非常に苦い杯を飲み干すこともあるだろうが、魂の中で主の平安を味わうとき、無限の満足も経験することになるだろう。

45. わたしが先頭に立ち、道を切り開く。あなたがたは羊のように従順であれば、つまずくことはないだろう。もし、わたしがどこへ導くのかと尋ねるなら、わたしはこう答えるだろう。「魂の至高の至福へと」と。 愛の十字架を肩に担いでいる者が、人生の道で滅びるなどあり得ようか。私が、あなた方に人生のすべての時間を私に捧げることを求めているなどと思わないでほしい。あなた方には、この地上で果たすべき義務があり、それらが聖別されており、あなた方の霊的な使命の一部であることを知っておくべきだ。

46. 私が求めるのは、毎日ほんの短い霊的な祈りだけです。しかし、あなたがたが私に捧げるその瞬間には、あらゆる人間的な卑小さやみすぼらしさから自分を解き放ち、真に私の御前に至り、私の愛撫と平安を享受できるようにしなさい。

47. あなた方一人ひとりは、霊的にそれぞれ異なる使命を果たさなければならない。ある者は、これまで住んできた地域を離れることはなく、またある者は旅立ち、他の国々へと向かうことになる。ある者はその働きを遂行するために家族から離れ、またある者は家族の懐の中でその使命を果たすことになる。

48. ある人々は、師が今この時代に初めて、あなた方に霊的な使命を託したのだと信じている。しかし、彼らは大きな誤りに陥っている。なぜなら、あなた方の魂は、その起源の時点で、自らの発展の道を内なるものに刻み込んで持ち込んできたからである。この時代においても、過去の時代と同様に、私はただ、あなた方の魂がこの地上に来る前に、その父と結んだ契約を思い出させたに過ぎない。

49. 弟子たちよ、愛をもってその使命を受け入れなさい。そうしてこそ、あなたがたの同胞たちが私の足跡をたどるようになるのです。あなたがたには、この種を蒔く者となるために必要なものがすべて備わっていることを自覚しなければなりません。あなたがたの魂と肉体には、試練を乗り越え、戦いに勝利するためのあらゆる能力が備わっているのです。

50. あなたがたの魂は、あなたがたの体の舵取りとなり、あなたがたの精神の光は、あなたがたの道を照らし、肉体の情欲や衝動を制すべきである。そうすれば、あなたがたの使命を果たすことは容易になるだろう。

51. 一人ひとりに託された霊的な種を、増殖させて返さなければならないことを心に留めなさい。それは、わたしの穀物倉に保管されるためである。それによって、あなたがたは、与えられた時間を有効に活用しなければならないことを理解すべきである。

52. 闘いが差し出す苦難の杯を忍耐強く飲み干す者は幸いである。なぜなら、やがてその痛みは幸福へと変わるからである。信仰と勇気に満ちていれば、人々の裁きを恐れることはないだろう。自分自身を恐れなさい。なぜなら、弱さや過ちは、あなた方にとって深刻な結果をもたらす可能性があるからだ。もし、世界を覆う闇によって目が見えなくなってしまったあなたの隣人が、陰険にあなたの心を傷つけたとしても、その人を赦し、私のところに来なさい。そうすれば、私が愛をもってあなたの傷を癒やす。

53. 忍耐をもって十字架の重荷を背負いなさい。そして、この現世での生活と、困難な霊的使命の遂行は、あなたがたにふさわしい御国へと、あなたがたの魂を高め上げるためのものであることを知ってください。

54. あなたがたが地上でその使命を果たすならば、来世においてもそれを果たすことになるでしょう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 202

1. 霊の眼で、あなたがたを父の御許へと導く星を見つめなさい。

2. ここに、救い主がおられます。その御言葉によって、人生の苦難に満ちた巡礼の旅で怯えているあなたがたの魂に必要な、神聖な温もりを届けてくださるのです。

3. 苦しみのゆえにわたしに近づくならば、わたしの愛があなた方を受け入れます。信頼を持ち、この啓示の厳粛な儀式に加わってください。

4. 私はあなたがたのそばにいたい。あなたがたの心のすぐそばにいて、私の存在を確かに感じられるように。この夜の調和と温もりの中で、あなたがたと私が一つとなることを願う。私があなたがたの最初の光であり、神聖な約束であり、あなたがたの魂を完全なものにし、神にふさわしいものとするために尽力する、たゆまぬ師であることを、あなたがたが自覚するように。

5. たとえ一時間だけでも、私はあなたがたと共にいたい。しかし、あなたがたが私から離れることができないような形で。見よ、私はあなたがたを温もり、希望、そして癒しの香油で満たしたい。そして、このような夜に私がこの世に生まれ、私の生涯と模範的な行いを通じて、天の御国へと続く道をあなたがたに示すために来たことを、あなたがたに思い出してほしい。

6. 私のもとに来なさい。そうすれば、あなたがたは心の中でこの言葉の真髄を受け取り、静寂の中から心より湧き出るあなたがたの祈りが、この厳粛な時に天のすべての賛美歌と一つになるでしょう。

7. 皆で祈りなさい。貧しい人々のために、悲しみに暮れる人々のために、囚人のために、病人のために、孤児たちのために祈りなさい。あなたがたの思いが、苦しむ人々に安らぎをもたらし、悲しむ人々を励まし、泣いている人々の涙をぬぐうことができるよう、祈りなさい。

8. たとえどれほど心が硬い者であっても、この瞬間に心を動かされない者は、あなたがたの中に一人もいない。しかし、私はまたこうも言おう。他者を思うためには、自分自身を忘れていなければならない。そうして初めて、この時、彼らとあなたがたと私は、霊的な交わりの中で一つとなるのだ。

9. 私はあなたがたの孤独の中を訪ねてきました。そして、今日の私の教えが終わる時、私は私の臨在の証として、この民にとって忘れがたい香りを残していくでしょう。

10. 悲しみと傷に満ちたあなたがたの心が私に捧げる、しおれた花々を私に集めさせてください。そうすれば、私はそこに信仰と希望の灯を残してまいります。

11. 今日、私の霊が求めているのは、あなたがたの心であり、それによって人類の心の中で新たに復活するのだ。

12. まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたがわたしの言葉を律法とし、わたしの足跡に従い、わたしを手本とするならば、何世紀も前に人間となったとき、あなたがたに不死の種をもたらした神の愛が、あなたがたの心の中で咲き始めよう。

13. あなたがたはこの愛を理解することができなかったので、今、わたし自身が、この愛の根拠を説明するためにやって来たのだ。

14. あなたがたの魂は、私の言葉に耳を傾けながら震え、私にこう言います。「主よ、あの時代、私はあなたと共にいたようです。あなたの言葉は、すべてを思い出させてくれます。師よ、この不確かさから私を解放してくださいますか？」

15. まことに、あなたがたに告げよう。あの時代、霊的存在たちと人間たちは、私がこの世に到来し、働きをなしたことの証人であった。

16. たとえ別の世界に生きていたとしても、あるいは別の体に宿っていたとしても、あなたの魂は同じものである。今日、その魂はかつてとは異なる目で涙を流しているが、その本質は変わらず、その問いもまた同じである。 彼女たちもまた、私に問いかけ、私を垣間見ようとしたり、見つけ出そうとしたりする。そこで私は彼女たちに、恐れる必要はなく、明るく前向きであり、無限の生命とは絶え間ない問いかけそのものであり、神の教えを理解するためには、謙虚で、粘り強く、そして強い信仰心を持つことが必要であることを悟るよう告げる。

17. あなたがたはしばしば、まず大きなことを理解し、その後に小さなことを理解しようとします。しかし、まずは自分自身を知ることから始めなさい。自分自身を深く探求し、自分自身に問いかけなさい。そうすれば、あなたがたは、自らの存在の炎から養われるようになるのを体験するでしょう。なぜなら、神は聖霊の炎をもってそれを灯されたからです。

18. あなたがたはこの教えを漠然としか理解していない。それは、自分の成長段階に応じた認識以上のものを得ることはできないと知っているからだ。しかし、私は保証する。自らの存在の内側、すなわち自らの魂の聖殿の中で私を求めることを知る者たちは、何世紀にもわたって説明を見出せなかった問いに対する答えを、まもなく得ることになるだろう。

19. 人間の中に霊的なものに対する反抗心が存在するならば、その狭量な心が無限を判断できないのは当然のことである。そして、師が父の偉大さについてどれほど語ろうとも、人間はこの真理が内包するものを理解することはできない。

20. 私が今、あなたがたに語っているのは、まさにあなたがたが神について持つべき知識についてである。なぜなら、すべてを把握し、あらゆるもの（ ）の奥底まで入り込み、あなたがたが望むようにそれを認識することなど、あなたがたには到底成し得ないからだ。

21. 神のみが、真に神を知っておられる、と師はあなたがたに告げる。

22. 人々よ、この時、宇宙がその主を迎え、礼拝している深い静寂に気づきなさい。万物は、愛に満ちた献身、崇高な瞑想、そして深い礼拝の中に沈み込んでいる。

23. その理由は、すべての存在と被造物が、私がまさに今、私の言葉を語っていることを知っているからである。それは、イエスの口から発せられたのと同じ言葉であり、人間も自然界もそれに従い、不治の病も退き、死者さえもよみがえったあの言葉である。

24. 準備を整え、高みへと昇ることを知る者たちにとっての、この霊的な祝祭の夜に、あなたがたは、目に見えず、触れることのできない世界において、あなたがたが「天使」と呼ぶ存在たちの臨在と訪れを、感じ取っているのです。 もしあなたがたが、本当に魂を肉体から解き放つ術を知っていたなら、野原も、都市も、家々も、そして宇宙さえも、光と平和と愛の使者である無数の存在たちの天上の輝きに照らされているのを見るだろう。

25. 天は地上に近づきつつあり、その光は、思いを馳せる時間を割く者にも、霊的な真理を忘れてしまった者にも等しく注がれている。

26. ああ、人々よ、喜びなさい。少なくとも今宵だけは喜びなさい。あなたがたには、この平和を永遠に保つことはまだできないのだから。

27. 心の自然な喜びをもって喜びなさい。それは心温かさと善への回帰である。そう、霊の歓喜をもって喜びなさい。それは永遠の啓示である。

28. あなたがたは、ラビがこの世に生誕されたあの夜を偲んで、今宵を「聖なる夜」と呼んでいる。

29. こうした思い出がもたらす神聖な影響のもと、人々は互いに親しみを深め、不在の者を思い出し、互いの傷つけ合いを赦し合い、家族が集まり、友人が互いを訪ね合い、心は希望で満たされる。 誰もが、言葉にはできない何か驚くべき出来事を待ち望んでいるようです――この夜、人々は心の硬さの中に少しの温もりを、そしてある者は物質主義の中に少しの精神性を取り入れるのです。しかし、私はあなた方に問う。この夜だけが、人々から「聖なる」と呼ばれるにふさわしいと、本当に思うのか？ ほんの少しの愛をもって、あなた方の存在のすべての夜と日を「聖なる」ものに変えることはできないだろうか。そうすれば、人生の一瞬一瞬が聖なるものであることを実感できるはずではないか？

30. あなたがたは私にこう言います。「それは、あなたが私たちに愛のメッセージをもたらすためにこの世に来られたあの夜を、私たちが毎年記念する夜です。」 しかし、私はこう答えます。あの時は、「御言葉」が人となったその人が生まれた瞬間を示していたに過ぎませんが、私の霊は当時も、それ以前と同様に、そして今日と同様に、人々に等しく近かったのです。

31. しかし、あなたがたが日々の生活を、律法と真理、そして互いへの愛に完全に捧げるようにはなっていない限りは、せめてこの追憶の夜には、霊的に一つとなるよう努めてほしい。

32. 皆、わたしを求めよ、皆、わたしのところに来なさい。しかし、従順かつ謙虚な心で来なさい。そして、あなたがたの主の慈悲にすべてを委ねなさい。

33. 傲慢や虚栄心を持って来る者は誰もいないように。なぜなら、私はあなたがたに告げる。あなたがたは、助けを必要とする者であり罪人ではあるが、私の赦しの水晶のように澄んだ水で自らの汚名を洗い流す謙虚な者たちとして、私にとってより愛おしいのだ。

34. ああ、もしあなたがたが霊においてわたしと共にここに来て、ここから人類のあらゆる悲惨さを眺めることができたなら！

35. もし、権力者や富める者、そして安楽に囲まれて暮らす者たちが、この夜、わたしと共にいたいと願うなら、わたしは彼ら

を霊において、彼らが見ようとはしない苦しみと貧困の現場へと連れて行くであろう。

36. そうして、私は彼らにこう言うだろう。「ひととき、お祝いの席を離れ、共に、あなたがたの兄弟である貧しい人々が暮らす場所を訪ねよう。ある者にとっては苦悩の、またある者にとっては祝宴のこの祝福された夜を、彼らがどのように過ごしているかを見てみよう。」 「心配はいらない」と私は彼らに言うだろう。「ほんの少しの間だけお願いする。その後、君たちは祝宴と歓楽の場に戻ることができる」。そして、私は彼らを場所から場所へと連れて行き、惨めな寝床で孤独に、希望そのものであった子供たちを戦争によって奪われ、その死を嘆き悲しむ年老いた母親を見せるだろう。

37. この女性は、思い出と祈りだけで生きている。快楽に酔いしれる人々が大勢いる一方で、彼女は苦しみの杯を飲み干している。彼女の魂は、この世を去り、永遠の世界へと入るその時をただ待ち望んでいる。なぜなら、人間に対する彼女の希望は、とっくに消え失せてしまったからだ。

38. その後、私は彼らに、人々の間をさまよい、隣人の命を尊重せず、苦しむ人々を愛することも理解することもない子供たちを見せるだろう。

39. 私は、こうした人々に、子供たちの深く切実な問いを耳にさせるだろう。子供たちは、人間の無知ゆえに、これほど多くの不正、憎悪、利己心、そして残酷さの理由を問いかけているのだ。

40. それから、私は彼らを、病人の息も絶え絶えのうめき声や嘆き声が聞こえる場所へと連れて行くであろう。その病人は、嵐に打ちのめされて枝が折れるように、自らの肉体が崩れ落ちるのを目の当たりにした者たちである。彼らは病者であり、打ち負かされた者たちであり、忘れ去られた者たちである。

41. その後、私は刑務所の門が開かれるよう仕向け、愛、慈悲、光、正義、そして平和の欠如ゆえに、刑務所の闇へと閉じ込められた何千人もの人々を、彼らが目にするようにするだろう。

42. そして、私は彼らに、場所から場所へと、一つの光景として、権力への野心、貪欲、憎しみ、物質主義、そして偽りの権力を振るう支配欲の強い者たちの満たされることのない権力への渇望がもたらした、あらゆる悲惨さと苦痛を目の当たりにさせるだろう——彼らは自分たちを権力者だと自負しているが、実際にはそうではなく、誰に対しても、法的に当然与えられるべきものを所有させることを許さない者たちである。

43. しかし、私は彼らを呼びかけない。彼らの良心の中では私の声が聞こえているにもかかわらず、彼らはそれを聞こうとしないことを知っているからだ。

44. しかし、今、私の声を聞き、苦難や孤独、寒さ、そして孤児となることを経験し、それゆえに正義への渇きと飢えから泣く人々に深く共感している民よ――私のところに来なさい。そして共に、霊において、この世の病める者、悲しむ者、すべての貧しい者、そして忘れ去られた者たちを訪ねよう。

45. さあ、私が自分のマントを広げ、それをあなたがたのマントと一つにして、全人類を慈愛をもって包み込む様子を見てほしい。さあ、泣いている人々に「もう泣かないで、悲しまないで、人生の道しるべとなる光である信仰と希望に目覚めなさい」と語りかける私の霊的な声を聞いてほしい。 まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたが再び真の信仰をもって祈り、「見張る」ならば、人類にとってのこの苦痛の日々は短縮されるでしょう。

46. そう、愛する民よ、ここ、あなたがたがわたしに耳を傾けるために憩っているこの場所から、あなたがたの魂をわたしの住まいへと近づけることができる。そうすれば、人類、すなわちあなたがたの兄弟たちの悲劇をよりよく見、理解し、感じ取ることができるだろう。

47. あの至福に満ちた人々の群れが見えるか。彼らは、戦いの最中に短い休戦を宣言し、私に数分間の祈りと追悼を捧げている兵士たちである。 しかし、彼らの喜びと至福は見せかけに過ぎない。彼らは苦痛を和らげるために食べ、飲んでいるのだ。彼らの心には大きな痛みがある。彼らは苦しんでいる、民よ、彼らは深く苦しんでいる。とりわけ、彼らにとって苦痛そのものであるこの夜にはなおさらだ。あらゆる記憶が棘となり、思い浮かべるあらゆる名前や顔は、傷となる。

48. あなたがたは、悩みを抱えながらも平安を保ち、両親や子供たち、妻たちの顔を見ることができる一方で、彼らは、愛する人々を抱きしめることができないという苦しみ、そして二度と会えないかもしれないという恐怖に耐えなければならないのです。

49. 彼らの多くは、命を奪い、家や町を荒廃させ、痛み、悲しみ、涙をまき散らすたびに苦しんでおり、そして、家族のもとへ、平穏な日々へ、愛する人々の懐へと戻る権利をすべて失ってしまったと信じ込んでいます。

50. 私は、彼らの多くが罪を犯しておらず、心の中に憎しみも破壊の意志も抱いていないことを知っています。彼らが犠牲者で

あり、真の悪の奴隷であり、道具にされていることを知っています。

51. 彼らを救えるのは私だけであり、彼らを保護して包み込むことができるのは私の愛だけである。この世において、彼らは見捨てられている。

52. この試練が何を意味するのか想像することさえできないが、今日、私の言葉によって心の最も繊細な琴線に触れられた民よ――彼らに、慈悲と光に満ちた思いを届けてほしい。 まことに、私はあなたがたに告げる。彼らは、その理由を知らぬまま、力を得て勇気づけられ、祈り、この殺戮の戦争がようやく終わることを願い、耳に轟く戦いの喧騒の代わりに、再び「地上の善意ある人々に平和あれ」という愛に満ちた言葉を聞くようになるだろう。

53. 民よ、祈りなさい。そして、それによって、世界が新たな日の光を待ち望むようにし、人々が私の約束――より良い時代、霊性の高まり、そして幸福について語るその約束――を思い出すようにしなさい。

54. わたしもまた、あなたがたにこう言おう。さあ、今こそ子供たちの心に目を向け、何も持たない者たちを訪ねよう。彼らを見てごらん。彼らは眠っている。そのベッドは極めて硬いが、彼らの夢の中には誰に対しても非難の言葉などないのだ。

55. 今日の食卓にはパンはなかったが、それでも彼らは新しい一日を信じて安らかに眠っている。彼らはぼろ服を着ているが、無垢であるゆえに恥じることはなく、体に暖かさが欠けていても微笑んでいる。彼らは地上の天使たちである。なぜなら、悪意のないその微笑みに、天国の清らかさが映し出されているからだ。

56. ああ、無垢よ！彼らをあなたの最高のマントで包んであげなさい。彼らのものは天の御国なのだから！

57. あなたがたは皆、この夜を「聖なる夜」と呼んでいる。そして、わたしはすべてのわが子らに、祝福の洪水を注ぎ出している。

58. 私があなたがたのものであり、あなたがたが私のものであることを知ってください。私が、あなたがた、すなわち素朴な民の中に生き、貧しさの中で生まれ、茨の中で苦しみ、欠乏の中で死んだことによって、私の愛を証明したことを思い出してください。

59. 私があなた方を理解していないなどとは、決して言えない。なぜなら、私はあなた方の苦しみをただ見てきただけでなく、自らそれを経験してきたからだ。

60. 私はまた、高齢者たちについても語ろう――人生の春をとうに過ぎ、今や冬の寒さを感じている人々についてである。年を重ねるにつれ、彼らには力、活力、健康が欠けていく。仕事は重くのしかかり、手足は不自由になり、もはや彼らに協力を求めることはなくなる。

61. こうして、年老いた人々は他の人々の生きる闘いから締め出され、見捨てられたと感じ、その屈辱に満ちた心は悲しみに沈み、困窮、悲惨、飢え、孤独を知らざるを得なくなる。 私が彼らについて語るのは、彼らもまた、あなたがたの助けと慰めを必要としているからです。民よ、彼らを愛しなさい。そうすれば、あなたがたは霊的な祝宴の大きな食卓に着く権利を得ることになるでしょう。そこで私はあなたがたにこう告げるでしょう。「師に従い、苦しむすべての人々を理解することができたあなたがたは、幸いである。」

62. このようにして、あなたがたの内に思いやりを育み始めなさい。そうすれば、私はあなたがたの手を用いて、それを通して私の祝福を伝えるでしょう。そして、あなたがたは、私があなたがたのものを兄弟に与えるために用いることに、二度と抵抗することはなくなるでしょう。そうして、あなたがたが私に「主よ、私の持つものはすべてあなたのものです」と言うとき、心からそう言えるようになるのです。

63. もしあなたがたがこれまでの人生で、実践的な隣人愛を行ってきたのなら、それを続けてください。しかし、そうでないなら、あなたの戸を叩く最初の困窮者から始めなさい。それが、魂や体の病に苦しむ者であれ、慰めを必要とする心であれ、未亡人であれ、老人であれ、子供であれ。

64. 真に苦しんでいる人々はイエスを体現していることを忘れないでください。イエスは彼ら一人ひとりの内に臨在し、あなたがたに「私は渇いている」と告げに来られるのです。それは、あなたがたが互いに愛し合うことを渇望しておられるのです。

65. 人類が示す大きな苦痛と悲惨の光景を前にして、人々の心が揺さぶられないなどということはあり得るだろうか？ はい、はい、あり得るのだ。私は、苦難に遭っていない者たちが、自分たちが所有する宝物を、神の子供たちである人々よりも、より深い慈愛を込めて見つめているのを見ている。

66. 愛する民よ、君たちはこの短い時間、苦しむ人々を訪ねるために私と共に歩んでくれた。そのことを祝福しよう。私が富める者や権力者たちを忘れているなどと思ってはならない。彼らは一

見、私を必要としていないように見えるが、私は彼らの悲惨さ、苦しみ、そして不運を誰よりもよく知っているからだ。しかし今日、彼らは自分たちがすべてを持っていると信じている。 それならば、彼らの考えによれば、私が病人のキリストであり、社会から疎外された者たちのキリストであり、悲しむ者たちのキリストであるのだから、なぜ私に助けを求める必要があるというのか。彼らは、私が彼らを偽りの輝きから救い出し、真の、そして永遠の至福を与えることが私の使命であることを知らないのだ。

67. あなた方以外に、誰が私の言葉をこれほど深く心に刻み、愛ゆえにその魂を震わせたか、ご存知だろうか。それはマリアである、愛する民よ。創造主の懐に宿る母なる霊であり、その内なる心は永遠にイエスへの記憶と結びついているのだ。

68. 彼女がこの世を歩んだ期間は短かった。とはいえ、私よりも長かった。なぜなら、彼女は私より早く来て、私より遅く去ったからだ。彼女の短くも愛に満ちた言葉は、天からの愛撫そのものだった。

69. 心の中で彼女を感じ、彼女を愛し、霊的に彼女に心を向けてください。 知っておきなさい。あなたがたが慈悲の行いを行うたびに、彼女はあなたがたと共にいる。彼女は、苦しみ、血を流すこの世界の上に、執り成しと母なる愛の外套を広げている。そして、あなたがたの嘆きや悲しみのたびに、心からこう答える声を聞くことができるだろう。「恐れるな、私はここにいる。信頼しなさい。」

70. 民よ、あなたがたはわたしのそばにいた。この祝福された夜、わたしの息吹があなたがたの心に浸透し、すべての苦難を忘れさせてくれた。

71. 救い主の光があなたがたの導き手となり、今日あなたがたが渡ろうとしているこの荒れ狂う海を、あなたがたを導いてくれるよう、祈りなさい。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 203

1. 自らの存在の至高なるものを発見するために、知識を深めようとする者たちよ、ようこそ。

2. はっきりと見ようとする者たちは、幸いであり、至福である。しかし、まことに、あなたがたに告げる。あなたがたの目を覆っている覆いを取り除く努力をするまでは、これを達成することはできない。

3. 人間は二重の罪を犯している。それは、至高の教えを知ることを妨げる目隠しを取り除くための努力を一切行わないというだけでなく、精神的な喜びとは対照的に、肉体的快楽へと誘惑した物質の束縛から自らを解き放っていないからでもある。 それゆえ、人間は情欲の支配下に自らを奴隷とし、まるで健康を取り戻すための努力を何もしない足の不自由な人のように、自らの魂を放置しているのだ。

4. あらゆる分野において、私は大多数の人々が足場を失っているのを見る。どこへ行っても、弱い人間にしか出会わない。 そして、その原因は何か。それは、あなたがたが、自ら陥っている泥沼から抜け出し、物質に縛りつける鎖を打ち立てる怠惰を克服する勇気と十分な意志力を持ち合わせていないからであり、これこそがあらゆる悪徳、あらゆる過ちの根源である。

5. しかし、人間は、自分に与えられた「意志」という力を、決して用おうとはしない。

6. 意志は、無制限の立法者となり、至高の指導者となり、理性に支えられて戦わなければならない――力対力、支配対支配：一方には情熱と欲望があり、他方には理性と意志があり、後者が戦いに勝利し、あなたがたが「解放された」と宣言できるまで。

そうして初めて、あなた方は偉大な預言者、偉大な悟りを得た者、すなわち「超人」となることができるだろう。そうして初めて、あなた方は野生の動物たちと共生し、爬虫類と戯れることができるようになる。まことに、私が言うように、あなた方を重く圧迫している過ちこそが、あなた方の「小さな兄弟たち」を恐れる原因であり、彼らがあなた方を襲う理由でもあるのだ。

しかし、時間をかけて人々を観察すれば、虎よりも獰猛で、コブラよりも多くの毒を持つ人間がいることに気づくでしょう。

7. 古代の預言者たちが奇跡を行えたのは、彼らがそうなるよう定められていたからだと考えてはならない。いいえ、それは彼らが勝利するまで戦い抜き、真の神殿の僕となったからに他ならない

。しかし、まことに、あなたがたに告げる。真理を得るために最も努力する者は、過ちや情欲にさらされるものである。

しかし、あなた方には、あなた方を照らす光、すなわち神聖な力、不滅で清らかな本質、すべてに命を吹き込み、人間を至高の至福へと導く、破壊されざる本質が備わっている。この破壊されざる本質こそが、すべての人間が持つ清らかな要素である。 しかし、人間は地上の快楽によって自らを毒してしまった。それゆえ、この不滅の物質、この不死の存在は、死すべき衣に覆われ、自ら進んで犠牲となったのである。

しかし、それが持つ力によって、死すべき人間の尊厳は徐々に回復され、その人間は不死の果実がもたらす喜びを渇望するようになり、悪しき果実がもたらす堕落した快楽を追い求めることを永遠に断念するようになるでしょう。

8. しかし、これらすべてを達成するために、あなた方には何が必要なのか？――それは、真の神殿の働き手として働くために、自らの力とエネルギーをいかに用いるべきかという知識である。そうしてこそ、勝利を収め、あなたの目を覆っている目隠しを取り除き、はっきりと見通して、誤った一歩を踏み出したり、暗闇の中を手探りでさまよったりすることがなくなるのだ。

9. 私は、あなたがたが「秘密」と呼ぶものについて語った。しかし、あなたがたは、その光のすべてを捉えるために、私の言葉を徹底的に研究しなければならない。

10. 私は、あなたがたにこの偉大な真理を理解してほしい。すなわち、神も自然も、人間にとっての「秘密」など持っていないということだ。 神の教えに対する理解力の欠如こそが、人間を真の律法に従うことを不可能にしてきたのである。それゆえ、人間はあちこちをさまよい、右往左往し、何も理解せず、何も感じず、神が人間の霊の中にあり、常にその益のために働きかけていることを理解できないままである。

11. 真の律法とは、完全さを意味する。なぜなら、ある宗教や別の宗教を実践していると言っても、それがあなた方に何の益があるだろうか。神を信じていると言っても、あなた方の行いや考えが全くその反対を示しているのなら、それがあなた方に何の益があるだろうか。やがて、私があなた方に私の天の御国を授ける日が来る。そのとき、私が父の中にあり、あなたがたが私の中にあり、私があなたがたの中にあることを、あなた方は悟るだろう。 この契約は「平和の契約」と呼ばれるだろう。そうして初めて、律法は成就される。あなたがたは彼を唯一の主として認め、ある者を他の者

より優遇するようなことはなくなる。なぜなら、あなたがたは皆、まるで一人の人間のように、一つの存在のように互いに愛し合うようになるからだ。

しかし、もしあなたがたが望むなら、もしあなたがた、私の愛する者たちが努力を惜しまず、真の神殿の奉仕者になろうとするなら、私たちは今日この平和の契約を結ぶことができる。

この契約を結ぶために、この惑星を離れなければならないなどと思わないでください。いいえ。必要なのは意志です。食卓は整えられています。私はあなたがたを席に着くよう招きます。さあ、席に着きなさい。私に導かれ、仕えさせてください。 私と共に「真理のパン」を口にし、愛の松明で自らを照らし、目を覆っている目隠しを取り払い、情欲の束縛を引き裂き、あなたがたが本来あるべき神の子として、至高の光で自らを照らし出してください。 私はあなた方を招きます。私と共に来てください。私と共に賛美の歌を歌いましょう。「天に栄光あれ、地には平和の契約が結ばれますように。ハレルヤ、主よ、ハレルヤ。」私の恵み深い露、私の慰めを受け取ってください。 あなたがたの苦しみをわたしに委ね、悲しみをわたしに委ね、もはやそれらを思い起こさないでください。わたしと共に歌ってください。「ハレルヤ、主よ、ハレルヤ」。―愛する者たちよ、声を張り上げすぎないでください。わたしはあなたがたと共にいるのですから。

12. もしあなたがたが天のコンサートと調和することができれば、もはや毒された果実を再び口にしようという欲求は微塵も生じないだろう。あなたがたは、不滅の存在を常に自分の中で輝かせ続けるだろう。私の愛する子供たちよ、食卓につきたいか？ 食卓は整えられており、私があなたがたの給仕役となり、導いてあげる。さあ、来なさい。私はあなたがたを待っている。

13. ファリサイ派の人々のようになってはなりません。彼らは、人々に「断食をした」と言わせるために、神殿や会堂で青ざめた顔をして現れますが、その後、その悪意と情欲に手綱を緩めてしまうのです。 いいえ、愛する者たちよ、あなたがたは集会所でも、道でも、そしてご家庭でも、常に清らかな水のように澄み切った存在でありなさい。そうすれば、イエスの教えを攻撃しようとする者たちもそれを見て、あなたがたが公の場でも私生活でも徳の生きた鏡であり、至る所に愛と真実と善を残しているからこそ、私の教えは本当に素晴らしいのだと認めるようになるでしょう。

14. この瞬間、わたしは民を見つめ、その心にわたしの言葉を刻み込むために近づいている。わたしは、これらの声の媒体を通

じて、わたしの啓示の記憶をあなたがたに残す。よく考えてみれば、わたしが一瞬たりとも沈黙していたことはなく、「言葉」であるわたしが、常にあなたがたに語りかけてきたことに気づくだろう。私がさまざまな形で人々に届ける声――それが彼らの理性であれ、精神であれ、心であれ――は、励ましであり、力であり、希望であり、インスピレーションであり、時には裁きの言葉でもある。

15. また、わたしはあなたがたにこう言う。いつの時代も、人々は霊的にわたしを求めてきた――ある者は他の者よりも熱心に。

16. なぜなら、この地上にはすべてがあるわけではないからだ。私が自ら留保している知識や啓示があり、それらは、あなたがたがそれらを求めるときに、私を見出せるようにするためである。わたしは、あなたがたに愛や憐れみを拒んだことは一度もありません。あなたがたがそれを求めたとき、たとえそれが自分たちに良くないことだと分かっていても、あなたがたが自らの過ちに気づくことができるよう、それを与えたほどです。

17. この霊的な啓示と神の言葉の時は、祝宴であり、あなたがたがその料理で満腹になるよう招かれた饗宴であった。「裸」で来た者には、身を覆うにふさわしい衣服が与えられた。

18. 長い旅と苦労の末、あなたがたは巨木の木陰にたどり着くことができた。そこで力を取り戻し、一歩一歩進むたびに正しい道から逸れるよう誘う誘惑の囁きに打ち勝つことを学んだ。こうして、あなたがたは少しずつ、良き弟子となることを学んでいるのだ。

19. 私があなた方に教えを授けた後、あなた方は熱意に満ち、この大義のために引き続き尽力する用意ができているのを見出しています。 あなた方は、この業に内在する純粋さと誠実さをもって、それを広めていくという自らの責任と義務を理解しました。今や、熱意と従順さ、そして愛をもって活動すれば、人々の道から多くのアザミや茨を取り除けることを悟っています。地球のさまざまな場所から、あなた方はこの呼びかけに応え、兵士であり弟子となるために集まってきました。

20. 今日、あなたがたは、わたしへの忠誠を示し、わたしに従い、わたしだけが知るあなたがたの働きの果実をわたしに捧げるためにやって来ました。あなたがたがこれまで誰であったか、今誰であるか、そして明日誰になるかを知っているのは、わたしだけです。 あなたがたは、善行への渇き、愛への渇望、そして愛された

いという願いを抱いてここへやって来た。そして父はあなたがたを受け入れ、その渇きを癒やし、あなたがたを御自分の僕とした。

21. あなたがたは、わたしの神聖な愛を認識し、それを感じ取ったとき、心の中に秘め、世から隠していたすべてのものを、包括的な懺悔の中でわたしに打ち明けた。犯した過ちに対するあなたがたの悔い改めは真実であった。なぜなら、あなたがたの魂は、その前にわたしの光によって照らされていたからである。

22. わたしは、あなたがたが備えを整え、再びわたしに耳を傾ける際、その行いと敬虔さによって、わたしの神性との間に結んだあの愛の契約を尊ぶことを望む。なぜなら、あなたがたは今、わたしを父として体験しているが、わたしは裁き主としてもあなたがたのところに来なければならないからだ。

23. 私は、誰も眠っているところを不意に訪ねるつもりはない。そうすれば、その人は目覚めるのが遅くなり、涙を流さざるを得なくなるからだ。

24. あなたがたがこの御言葉を聞くことができるのは、あと三年だけである。この御言葉は絶えずあなたがたに教え続けてきた。いつになったら、あなたがたは師となるのか。人々の群れを養い続けるために、私の座に就くことができるようになるのか。今日、私の御言葉は目覚めの呼びかけである。なぜなら、今やあなたがたにとって、私の御言葉の頂点の時がすでに訪れているからである。

25. わたしがあなたがたに近づいたのは、あなたがたが霊において一つとなり、使命を果たすという固い決意を持って歩み出し、兄弟のように互いに抱き合うためである。

26. あなたがたは皆等しく、あなたがたの中に主人も、上位者もいないことを理解しなさい。私は、あなたがた全員が私の大義の奉仕者となることを望んでいる。

見よ、わたしの言葉の歴史は、わたしが「金の羽ペン」と呼んだ者たちによって書き記されている。そして、わたしは、後世の人々がこれらの書物を通じて、あなたがたの間にある分裂を見出すことを望まない。あなたがたもまた、これを望まなければならない。あなたがたの行いによって書き記された模範を彼らに残しなさい。そうすれば、あなたがたが自らの信仰の兄弟たちから励ましを得たのと同じように、彼らもまた歩み出すだろう。

27. わたしはすべての人を慈しみ、わたしのマントで覆うために降りてきた。しかし、この人類は依然として無感覚で、耳を貸そうとしない。わたしは奇跡を通して彼らに語りかけたが、彼らは頑ななままであった。わたしは彼らにわたしの正義を感じさせたが

、彼らはわたしの正義から逃げ出した。 私はあなたがたに、その証しを立てるために愛の言葉で語りかけたが、あなたがたは福音を伝えず、また、彼らは自分たちが置かれている時代を予見することもなかった。あなたがたは皆、霊において同じ資質を持っている。しかし、ある者たちを私は使者として備えさせ、他の者たちを、それを受け入れる者となるよう備えさせている。

28. 「働き人」として、常にわたしの御心に従って出かけて行きなさい。備えを整えておきなさい。そうでなければ、たとえわたしの神性によって満たされていたとしても、空の手で戻ってくることになるからだ。

29. 私は、私の完全な業を罪深い者たちの手に委ねた。しかし、それゆえにあなたがたがそれを明らかにできないという理由にはならない。もしあなたがたがそれに値しない者であっても、私の愛があなたがたをそれにふさわしい者とし、互いに愛し合い、互いに救い合うための手段を与えてくれるのだ。

30. 私は全能であるゆえ、私の被造物が困窮することのないよう望んでいる。それゆえ、私は私の宝と財産を罪深い者たちの手に委ねる。そうすれば、彼らもまた心を開き、他の人々に豊かに与えるようになるからだ。

31. 自分の魂の中に持っていたすべてのものを、他者に分け与えることができた者は幸いである。なぜなら、不信仰であった者、利己的であった者、あるいは無知であった者は、自分の中にあったものを認識することさえできなかったからである。信仰ある者となりなさい。そうすれば、あなたがたは「ラザロ」を死からよみがえらせ、盲人の目を開かせることができるだろう。

32. もしあなたがたが、私の言葉にどれほど大きな真理が含まれているかを知りたいのなら、それを試すために従いなさい。しかし、あなたがたが試すのは言葉そのものではなく、あなた自身である。なぜなら、もしあなたがたが、自分の言動を信じていないのなら――他者があなたたちをどうして信じることができるだろうか。 あなたがたは、周囲の人々が自分たちを映し出し、あなたがたがわたしの使者であることを認識できる鏡のようにならなければならない。

33. あなたがたの使命を果たし、それが終われば、あなたがたは大きな、閉ざされた門の前に立つことになるでしょう。その門は、鍵を手にしているあなたがたの手によって開くことができます。その門の向こう側で、私はあなたがたを待っています。 他人の鍵ではその門を開くことはできませんし、第二段階を経ずに、第一

段階から第三段階へと進むこともできません。なぜなら、この七つの段階は、あなたがた全員が歩まなければならない、魂の完成への道を意味しているからです。

34. わたしは、あなたがた全員を一つ心とする。そうして、あなたがたを、一つの意志と一つの理想を持ってこの世に残すためである。

35. 今この瞬間、太古の昔から、あなたがたが正義と高潔さをもって歩み、弱き者たちに手を差し伸べることができるようにと、律法と戒めを与えてきた御方が語っておられる。 しかし、あなたがたの結ぶ実はやせ細っており、私が絶えず差し出してきた、すなわち愛と慈愛と憐れみであるその「パン」の真髄を、まだ味わってはいない。あなたがたは私の啓示を隠し、与えられた賜物を自分たちだけで独占している。 しかし、人々の魂は貧しく、いつの日か、彼らはあなた方にその責任を問うことになるだろう。そして、彼らがあなた方の責任を知ったとき、その厳しい裁きをあなた方が味わうことのないようにと、私は願っている。努力しなさい。そうすれば、私はあなた方の種を何倍にも増やしてやる。

36. あなたがたが肩に非常に重い十字架を背負い、非難や悔い改め、そして裁きがのしかかっているのは事実である。しかし、もしあなたがたが自分の使命を果たさなければ、その責任をさらに強く感じるようになるだろう。

37. 現時点において、福音はすでに広まっているはずであり、わたしの弟子たちの数はもっと多くあるはずだった。あなたがたが癒した病人はどこにいるのか。あなたがたが改心させた罪人はどこにいるのか。わたしがあなたがたに与える使命は、あなたがたの力や能力を超えるものではない。 あなたがたの十字架は私の十字架に似ており、それは放棄と犠牲と愛の十字架である。真の理解をもってそれを背負う者は皆、周囲の人々の無理解によって心を貫かれながらも、私と和解し、自らの行いに満足して私のもとに来るだろう。

38. あなたがたがここに見ている、あなたがたの兄弟である教会の指導者たちの上に、あなたがたの魂を照らし、霊感を与えるエリヤが立っている。 また、あなたがたの神聖な母であるマリアも、その被造物たちを私の前に進め、彼らを私に近づけてくれます。それは、父と子の間に常に交わりが保たれるためです。マリアはあなたがたの絶え間ない執り成し手です。彼女の目には、あなたがたは皆、小さくて繊細な子供たちとして映っています。彼女が深く愛する子供たちが罪を犯すとき、彼女はどれほど多くの涙を流して

いることでしょう。 実のところ、あなたがたは彼女の愛と献身を知らず、その母なる魂を慰めることもできていない。私の正義は、彼女の執り成しによって幾度となく抑えられてきた。しかし、彼女の中に私に反する意志があるなどとは決して思ってはならない。彼女は私の神聖な御霊の一部だからである。マリアは私の慈愛を体現し、母なる愛の模範である。

39. この時代に、祈りと私の教えを正しく実践することによって備える者は皆、解き放たれた自然の猛威から免れるだろう。私はあなたがたに祈るよう求め、あなたがた全員に救われる機会を与える。自然の要素が不従順な者たちの数を浄化し、減らしていく間、あなたがたは「目覚めて働き続け」、同胞のために祈り続けなければならない。

40. 私はこれまで何度も、あなたがたに団結するよう求めてきた。それは、あなたがたが世界に一つの教えを伝えるためである。なぜなら、あなたがたが分裂すれば、大きな試練に直面し、償うべき罪も大きくなるからだ。あなたがたは私の意志と困難な使命を知っているにもかかわらず、私の教えから背を向けてしまったのである。団結し、一つの霊、一つの意志としてあり続けなさい。互いに愛し合いなさい。

41. あなたがたは私の御前にありながら、使命を果たせていないことを恥じている。 あなたがたは善行を伴わず、私があなたがたを飾った恵みの衣を失ってしまった。あなたがたは私の戒めを無視し、私が人間を通じて指示を与えたという理由で、私に不完全さがあると決めつけた。あなたがたは、人間という存在には神の言葉を伝える能力がないと考えている。しかし、今まさに、私の決断が正しいことをあなたがたに証明しているのだ。

人間は私の霊を宿しており、私を理解する能力を持っている。それゆえ、私は人間を私の声の伝達者とし、世界に対して私を伝えるために彼を利用しているのだ。

42. あなたがたは、魂の中に一冊の本を携えている。そこには、あなたがたが地上で経験した様々な転生における行いが記されている。そして、今この裁きの時代において、私はある者たちを贖罪のために遣わし、また別の者たちを困難な任務を果たすために遣わした。 私は、人類の間に浄化と刷新、そして魂の高揚という業を成し遂げるために、数多くの人類の中からあなた方を選び出したのである。

43. 世界は、なぜ私が教育を受けていない者や罪人たちを選んだのかと疑問に思うだろう。私はこう告げる。すべての存在の運

命は、私の中にあるのだ。私は今、あなた方を私の使徒とするために鍛え上げている。そして、その任務が成功裏に遂行されたとき、浄化の時代は終わりを告げるだろう。

44. エリヤは、あなたがたが第六の段階の始まり、すなわち、あらゆる魂に恵みと光をもたらした「解かれた第六の封印」を明確に認識できるよう、あなたがたの理解力を鍛えてきた。あなたがたは、秘密を解き明かし、道を切り開き、あらゆる被造物の中に光を灯した、わが簡潔で分かりやすい御言葉を授かっていた。 多くの預言が成就するのを見てきた。そして、これほど大きな試練に直面して、あなたがたは目覚め、私の教えを実践する準備を整えている。

45. わたしは、1950年までわたしに耳を傾ける恵みをあなたがたに与える。その年の終わりとともに、わたしの言葉を伝える者たちはその役目を終えることになる。わたしは彼ら全員に対し、誤りなく伝えることができ、すべての教会においてわたしの教えが同じ本質を持つよう、その活動において兄弟愛と一貫性を保つようお願いする。なぜなら、あなたがたに語りかけているのはただ一人の師だからである。 世界は福音を待ち望んでおり、このメッセージを世界に伝えるために、あなたがたを選んだのが私の意志であった。

46. あなたがたの国の指導者たちは、その国の中に、人々の間の平和と良好な調和のために祈り、「見守る」という、わたしによって選ばれた信仰の民が存在することを知らない。わたしは彼らを準備し、あなたがたの中に彼らが入り、わたしの啓示とあなたがたの宗教的実践を尊重することを学ぶことを許している。

47. わたしの言葉を正しく解釈し、わたしの戒めに従うよう心がけなさい。人々に無知や狂信の果実を与えてはならない。あなたがたの不完全さを正し、心を繊細なものにしなさい。そうすれば、あなたがたの従順さゆえに、わたしは、あなたがたの同胞の生命と安らぎ、そしてあなたがた自身の生命と安らぎをも破壊しようとする自然の力を食い止めるであろう。

48. あとしばらくの間、わたしはあなたがたにわたしの言葉を授ける。わたしが定めた時が近づいている。その時には、教会の指導者たちも「働き手」たちも、心を一つにしなければならない。わたしを模範としなさい。主が「第二の時代」における御業を成し遂げるために、十字架の苦しみを耐え、その十字架を肩に担いでカルヴァリーの丘へと向かったことを思い起こしなさい。謙虚になり、あなたがたの使命を受け入れなさい。あなたがたの痛みはわたし

に届き、あなたがたの涙はわたしの涙と混じり合う――それは人類のために流される、愛と痛みの涙である。

49. 愛と憐れみの行いを行い、わたしの御心に従って、熱意と正義をもって人々の群れを導きなさい。

50. 1950年が終わった後、あなたがたが私の教えを人々の心に届け、民がすべての国々に散らばっていくよう、備えなさい。私はあなたがたに勇気を与える。なぜなら、あなたがたが私の言葉を聞くこの時が過ぎれば、あなたがたの道は険しくなるからだ。私はあなたがたを祝福する。

51. あなたがたがわたしを歓迎するその瞬間、わたしの平安があなたがたと共にあります。

52. わたしは、この啓示と、長い間あなたがたに与えてきたこの御言葉の、消えることのない記憶をあなたがたに残す。

53. わたしの言葉はあなたがたを飾ったが、決してそれを誇ってはならない。あなたがたがかつて誰であり、今誰であり、そして将来誰になるかを知っているのは、わたしだけである。魂に飢えと渇きを抱いてやってきた者たちは、わたしの言葉を聞いたとき、その渇きを癒やし、今日ではわたしの僕となっている。これらの僕たちは、わたしが第六の封印の光を示した弟子たちである。

54. この日、あなたがたは様々な地域から集まってきた。それは、私の声が至る所で響き渡り、あなたがたを集うよう呼びかけたからである。

55. 私は、あなた方を裁いたり、責任を問うために来たのではない。あなた方の良心と直感が、あなた方の責任と行いの価値を最もよく教えてくれるだろう。

56. 自分たちだけがわたしを愛しているなどと思ってはならない。世界のあらゆる道には、わたしを求め、わたしに従い、わたしを愛する者たちがいる。しかしそれでもなお、わたしはあなたがたがわたしの教えに身を磨き、それによって、不完全な、あるいは不純な方法でわたしを愛している者たちの模範となれるようになってほしいと願っている。 まことに、あなたがたに告げる。全人類の中に、預言の賜物、霊感の賜物、そして（内なる）御言葉の賜物が分散されているのだ。

57. 眠ってはならない。あなたがたがこの形でわたしに耳を傾けることができるのも、あと三年しか残されていないのだから。いつになったら、あなたがたはこの教えの教師となるのか。

58. 今日、わたしがあなたがたを一つに集めたのは、目覚めを促すためであり、真の霊的な愛の理解において一つとなり、わた

しの意志によれば、あなたがたの間には主も従者も存在してはならないことを悟らせるためである。わたしの言葉は書き残されるだろう。しかし、この書物にあなたがたの不完全さが記されることは、わたしの意志ではないことを心に留めておきなさい。

59. まさか、将来の世代に、あなたがたの過ちの歴史を悪い手本として残そうというのか。

60. わたしの業は神聖であり、神的なものである。それにもかかわらず、わたしはそれを罪深い者たちの手に委ねた。なぜなら、罪人たちが互いに愛され、敬われ、主から赦されていると感じるとき、彼らこそが、最大の愛と忠誠と献身をもってわたしに従う者となるからである。

61. さらに言えば、この地上に義人はどこにいるのか。

62. 弟子たちよ、私はあなた方にこう言う。あなた方自身、全力を尽くして善意を尽くしなさい。そうすれば、私は教えによってあなた方を完全な者へと磨き上げ、この世に残して去ることができるのだ。

63. 自分の不器用さを理由に、自分を疑ってはならない。なぜなら、わたしには岩さえも語らせることができるのだから。

64. あなたがたの歩む道、あなたがたの人生には、人間から始まり、神に終わる階段がある。魂が最高の完成度に達し、父なる神の懐そのものにたどり着くまで、その階段を一歩一歩登り続けなさい。

65. エリヤは、この時代にあなたがたの道を照らす灯台のような存在である。彼は試練の中であなたがたを力づけ、これから訪れる試練を告げ知らせる。

66. この瞬間に、御霊に導かれて私の御言葉を聞く「働き手」たちは、祝福される。なぜなら、彼らは自らの道のりで、健康と平和と喜びを蒔くことを知っていた者たちだからである。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 204

1. 民よ、私はあなたたちを受け入れる。私の王国の門は、あなたたちを歓迎し、私の愛を注ぐために開かれている。この瞬間、私は、ある者たちの信仰に従い、また他の者たちの必要に応じて、あなたたちに必要なものを与える。

2. わたしはあなたがたの心の聖所を求め、真理の光、すなわち愛の光をあなたがたに与える。その愛の力こそが、創造物を動かし、その中にあるすべてのものを秩序と調和と均衡の中に保っているのだ。それゆえ、あなたがたが命の神秘を知るよう、わたしはあなたがたに愛することを教える。 寛大な心を持ってください。そうすれば、あなたの愛は、悲しむ人々の心を喜ばせる歌のようになるでしょう。

3. 自分の使命を認識し、それを果たすことは、あなた方の手に委ねられている。あなた方の使命とは、あらゆる苦難や罪に対して魂を勝利させ、あなた方の全存在を高め、あなた方を高潔にし、ふさわしい者とすることである。私は、あなた方が無理強いすることなく、知恵と慈悲をもって、自らの体を制御することを望んでいる。 もし人々が、私の律法を論じる代わりに、愛に満ちた従順をもってそれを果たすならば、彼らはこの世を、最初の人々が不純な思いや行いで汚す前に、その無垢さと従順さの中で楽しんでいたあの楽園のような場所に変えることになるでしょう。

4. もし人間が天の父の御心に従って生きれば、この世界は物質的な恵みと精神的な高揚に満ちた谷となるだろう。人間は自然の力の逆境を嘆くことはないだろう。なぜなら、自然の力やあらゆる被造物と調和して生きるからだ。それは、一人ひとりが一つの音符となる、神聖なコンサートのようなものとなるだろう。 しかし、人間は神の法則に従って生きてはいない。それゆえ、苦痛の囚人となり、自らの奴隷となってしまったのである。 人間は鎖を引きずり、苦しみ、涙を流し、絶望しているが、これらすべてが自らの行いによるものであることに気づいていない。もし、正当な理由のない涙など一つもないということを理解すれば、すぐに救いを得るだろう。

5. まことに、わたしはあなたがたに告げる。人類が被るあらゆる悪からの救済は、人間の手に委ねられている。人は自分自身を癒やすことができるのだ。それゆえ、良心が示す道を歩むならば、あなたがたの魂はわたしのもとへと昇っていくであろうと、わたしは告げる。

6. 永遠に属するあなたがたの魂の益にならないのなら、一体何のためにこの人生を望むのか？――あなたがたは、病や涙、苦痛に満ちたこの世にやって来たくせに、ほんの少しの善意さえあれば、自分の人生を変えられるという事実を知ろうともしない。

7. わたしを真に愛する者は、まずこの世界を抱きしめ、次に全宇宙を抱きしめる賢者となるだろう。全被造物の中に、あなたがたの神の愛が顕現しているのを見よ。それは賢明な行いであり、完全な言葉であり、天の国の鍵である。宇宙の核心である愛は、すべての存在が思考を通じて対話するに至るまで、あなたがたの存在を高めてくれるだろう。

8. 人々よ。一年は365日あるが、その間に、あなたがたはどれほどの慈悲と愛の行いを実践しているのか。困窮する同胞のために何もしないのに、なぜわたしを愛していると言うのか。*わたしが*あなたがたを愛していると告げる時、わたしは真実の行いをもってそれを証明しているのだ。

人々はキリストを愛していると主張しながら、実際には刻一刻と私を傷つけ、私を裁き、自らの内から私の記憶と模範を破壊し、私の行いに従うことを拒んでいる。これらすべてが、いばらの冠と、再びの磔刑に等しいとは、あなたがたは思わないのか？ 私が霊的に、病める者、悲しむ者、貧しい者、囚人たちに寄り添っているとき――なぜ、あなたがたは私をそこへ付き添ってくれなかったのか。なぜ、あなたがたに憐れみを求めている者たちに対して、ほんの少しの憐れみさえも拒むのか。私が、あなたがたが私を再び十字架につけたと言った理由を悟りなさい。愛を拒む者は、私を否認する者だからである。

9. 私は、あなたがたが神の子として、神のように振る舞うべきだと告げた。なぜ、あなたがたは、自らの知的、道徳的、あるいは霊的な創造物によって、父の創造物を美しく彩ることに協力しないのか。

10. 真の神の僕とは、人々のために愛の香油を施し、深い共感にインスピレーションを受けた慈悲を実践する者である。

11. あなたがたによって引き起こされた私の痛みは長く続いており、その痛みは、あなたがたの理解の欠如と愛の欠如に起因している。

12. この第三の時代に、私は再び戻り、「互いに愛し合いなさい」という言葉を愛を込めて繰り返す。

13. 民よ、わが癒しの香油を受け入れる準備をしなさい。受け入れる用意のある者は皆、癒され、弱っている者は皆、力を与え

られるだろう。心に向き合い、魂をわたしへと向け、希望を抱きなさい。わたしは、あなたがたが想像していた以上のものを与える。静寂の中でそれを受け入れなさい。静寂の中で、わたしはあなたがたに与えるのだから。 わたしは、愛する羊たちよ、あなたがたの希望の太陽である。しかし、わたしがあなたがたに与えるのと同様に、あなたがたも与えなさい。心を狭くしてはならない。何かを与えるとき、それによって子供たちから奪うことになることを考えてはならない。なぜなら、与えることがあなたがたにとって重荷となるならば、与えないほうがよいからである。

14. 隣人の生き方を非難してはならない。そうすれば、あなたがたの唇だけでなく、心までも汚してしまうことになるからだ。しかし、あなたがたは*自らの*あらゆる行いを戒め、良心の声に耳を傾ける用意をしておかなければならない。

15. より清らかな生活を送りなさい。そうして、神のすべての子供たちとの調和に近づけば、あなたがたは、それほど切に渇望しているあの平安を感じ始めるだろう。

16. まことに、師はこう告げる。この朝の祈りから、三つの時代――それは象徴的に、私がまだあなたがたに私の言葉を授けることとなる三年間を表している――との比較が現実のものとなった。それゆえ、私の光があなたがたの理解力を解き放ち、あなたがたの魂に浸透した今、私の教えはより深遠なものとなるだろう。

17. あなたがたはもはや、原始的な状態において、それに従うための霊的法則についての完全な知識を持っていなかった「第一の時代」の人々ではありません。父から遣わされた預言者たちが、神の存在を証しすることが必要でした。 彼らは皆、ただ一つの神聖な存在について語った。こうして、生ける真の神への信仰が人類の中に形成され始めたのである。主への愛に満ちたアブラハム、試練における不屈の精神を持つヤコブ、そして霊感と律法を持ったモーセは、人々を通じて神への認識を確固たるものにし、さらに深めていった。

18. あの人々は、ある時代の先駆者であった。同様に、あなた方もまた、別の時代、すなわち霊化の時代の先駆者とならなければならない。

19. 「第一の時代」を象徴するこの1948年、あなたがたはわたしの言葉の中で、その時代に関連する多くの教えを知るようになるだろう。あなたがたは、イスラエルの歴史の意義を悟るだろう。イスラエルは、「第一の時代」に救われ、「第二の時代」に霊的に贖われた唯一の民ではなかったのだ。その信仰の民は、あらゆる人

種の心の中に見出すことができる。 また、あらゆる宗教共同体の中にもイスラエルを見出すことができる。なぜなら、その民は全人類に模範と教訓を与えるための道具として選ばれたからである。それゆえ、あなたがたが霊的に属しているイスラエルの歴史は、すべての人に知られなければならないと、私は告げる。その歴史には、私が「第一の時代」の人々に与えた偉大な啓示が込められているからである。

20. あの時代に、被造物すべてよりも純粋な愛をもって主を愛したアブラハムのような偉大な人物がいることを知れば、皆さんは驚かれることでしょう。その人物の生涯と行いを深く考えてみれば、彼の信仰、力、従順さ、そして愛こそが、イスラエルの木の真の根幹であることを発見するでしょう。

21. 当時、自然の力を神として崇め、不浄な儀式を捧げていた偶像崇拝者や異教徒の民がいた。その時、アブラハムが現れ、主から授かった啓示――それは真理と正義の光であった――を人々に伝えた。 しかし、人々は心が硬く、不信仰であったため、この族長を試練にさらした。彼はあらゆる罠や迫害をくぐり抜け、彼らを善の教えへと改心させ、ついには、アブラハムの神を、目には見えないが、いつの時代も生きておられる神として認めるに至らせたのである。

22. 人間の間で、こうした霊的な闘いがどれほど長く続いてきたか、よく見てみよ。しかし、それらの後には常に真理の光が輝いてきたことを悟れ。

23. 私が御言葉によって、あなたがたの人生を困難にしているのではなく、むしろあなたがたの礼拝や儀式を簡素にしているのだということを理解しなさい。 私は、私に喜ばれるために、この世の富を軽んじたり、義務を怠ったりする必要はないと、あなたがたに教えている。なぜなら、あなたがたが肉体の中にいる限り、人間の必要に縛られているからだ。しかし、私はまた、あなたがたが、魂の益となるよう律法を遵守しつつ、この世に由来するものさえも自ら用いるべきだと教えている。そのように生きれば、あなたがたは私の律法を全うすることになる。

24. 最初の時代においてさえ、私はあなたがたに、私の民のもとへの私の到来の先駆者でもある、霊的な牧者を導き手として与えました。あなたがたはこれらの教えを完全に理解しておらず、無知ゆえに、自然の力や黄金の子牛を崇拝するという誤った崇拝に陥ってしまいました。

25. 真理の神は、私があなた方に富を注ぎ、知性に光を照らし、あるいはこの世を治める能力を与えたときなど、常にあなた方の存在の中に現れてきたのである。

26. かつて、あなたがたは支配者であり、豊かさに満ちて暮らしていたが、利己心と虚栄心に惑わされ、庶民を召使いや奴隷にしてしまった。それでも、私はあなたがたを赦し、父として訪れ、倒れた者を立ち上がらせ、すべての人を祝福した。 私は、あなたがたが私に求めたすべてのものを与えたので、あなたがたにとってのしもべとなってきました。しかし、私は、あなたがたが、時の初めから私が託してきた使命を果たすために立ち上がるその時を、辛抱強く待ち続けてきました。

27. わたしは正義そのものである。それにもかかわらず、わたしはあなたがたを罰したりはしない。あなたがたがわたしを十字架につけたことさえ、わたしはあなたがたに責任を問わなかったのだから。それゆえ、あなたがたの苦難と苦しみは、ただあなたがたを清めることのみを目的としている。 あなたがたが私の律法に背いたことこそが、あなたがたにとって、浄化、償い、そして魂の清らかさの本来の状態への回復を必要としているのです。しかし、あなたがたは、進歩と魂の救いへと続く確かな道を歩んでいるのです。

しかし、あなたがたは自らの使命と、今生きているこの時代を自覚しなければならない。なぜなら、人類の幸福のために何をしたか、私の律法がすでに世界に知られているか、そして私の業が進展したかを良心に問うならば、良心は「いいえ」と答えるだろうからである。

28. さて、私があなた方に語りかけている今、あなた方は私の言葉に慣れてきている。信仰を見出すために、私が単純で教養のない心を選び、彼らを通して自らを明らかにしてきたことを悟りなさい。 それにもかかわらず、あなたがたは疑い、さらには、あなたがたに語りかけているのは人間であるという見解に至ってしまった。それゆえ、私は、私が自らを現す人々を、恍惚状態ではなく平常の状態で観察することをあなたがたに許した。そうすることで、あなたがたが彼らの無教養さと無知を確信できるようにするためである。

私はあなたがたに謙遜と慈悲を教え、あなたがたを準備させ、私の民の中に任務を割り当ててきた。しかし、すでにその任務を受けた者の多くは、傲慢になり、自らを支配者とし、第一の座に就こうとしている。

29. 第一の者は私だけである。しかし、私はあなたがたを屈辱にさらすことも、私の奴隷にすることもない。むしろ、あなたがたに欠けているものはすべて、あなたがたの手に委ねる。私は父であり、あなたがたの苦しみに対して無関心ではいられない。私は神であり、あなたがたを闇の中に置き去りにすることはできない。それゆえ、私があなたがたのもとに現れるのは、あなたがたが私を認識し、自分が誰のもとにいるのか、誰の声を聞いているのかを知ることができるようにするためである。

30. あなたがたは一致の模範を示してこなかった。それゆえ、教会や宗派の間に兄弟愛と調和が欠けているのを目の当たりにしている。それらの対立や争いは、優越への欲望を煽り、新たな「戦い」への準備を進めているのである。

31. あなたがたは、まだわたしの律法を全うすることができていない。この道は光に満ちているが、あなたがたはしばしば闇の中を歩んできた。あなたがたは絶えず師の愛を受けているにもかかわらず、依然として偽善を煽り立てている。 あなたがたは絶えず道徳と美徳について教えを受けているが、それでもなお、あなたがたの中には悪行や悪意のある考えが存在している。それゆえ、後に来た者たちは、私の弟子たちに不誠実さを見出し、嘲笑するのだ。同様に、科学者たちも、私の啓示に立ち会っても、人間の知性を通じて私の普遍的な光が顕現していることを信じようとしない。 あなたがたは、「ラザロ」を墓からよみがえらせ、盲人の視力を回復させ、足の不自由な者に歩行能力を取り戻させるなど、大きな権威の証しを示さなければならない――これらはすべて、この時代に私があなたがたの間に来られたことを信じるために、人間が見なければならない証しである。

32. 魂がその使命を果たす上での障害となり、私の意志に逆らっているのは、あなた方の肉体である。しかし、私はあなた方の魂に剣を与えた。それは、魂が自らの肉体の情欲との戦いに勝利し、功徳を積むためである。なぜなら、不従順な肉体は、魂にとって贖罪の場、あるいは試金石となるからである。

33. それゆえ、私はあなたがたを助けるために来たのだ。私はあなたがたの救い主であり、「約束の地」を知り、そこに住む機会をあなたがたに与えている。

34. わたしがあなたがたに与えた時間を活用しなさい。あなたがたは、わたしがあなたがたを呼ぶ時がいつなのか知らない。物質主義から解放され、実践的な隣人愛を尽くし、真の使徒となりな

さい。そうすれば、わたしはあなたがたを通じて、人々に神の慈悲の力を明らかにするであろう。

35. 大きな試練があなた方を待っている。備えよ！　明日になって、「教えられていなかった」などと言うことを、私は望まない。また、あなた方が計り知れない力を手にしているにもかかわらず、堕落したり、苦しみに喘いだりする姿を見ることも望まない。これほど多くの愛をあなた方に与え、私の祝宴の席で食事とワインを味わわせてくれた私が、その後、あなた方が悲惨と苦しみの鎖を引きずっている姿を見たくはないのだ。

36. もしあなたがたが使命を果たさなければ、痛ましい未来を自ら招くことになり、第一の者となるどころか、最後の一人であるかのように感じるようになるだろう。あなたがたは、愛する人々が命を落とすのを目の当たりにし、日々の糧が不足していくのを見ることになるだろう。 戦争は、あなたがたから愛する者たちを奪い去り、私が自分の光と平和で幸せにするために選んだこの地球が、無実の血で染まっていくのを目にすることになるだろう。あなたがたは異邦人のくびきを感じ、彼らの奴隷となり、真の道から遠ざかってしまうだろう。そうなれば、もはや私の声を聞くことはできなくなる。

37. わたし、創造主は、あなたがたに強要したり、わたしの律法を押し付けたりはしない。わたしは、あなたがたにその律法に従うことと、謙虚さを求めるために、この世に降りてきたのである。

38. 民よ、あなたがたが善意をもって私の言葉を聞くときはいつでも、平安があなたがたにあるように。

39. わたしは、あなたがたの心の庭を育て、天の水を注ぐ神聖な園丁であり、この地上の甚だしい苦しみの上に、神の愛の一滴を注ぎました。 私は、父の御国へと続く道をあなた方に示す――その道では、決して終わりを迎えることはなく、常に前進し、新たな栄光を知ることになるだろう。

40. 今日、わたしの言葉はあなた方を磨き上げ、形を与えてくれる。わたしは内なる人、すなわち魂を鍛え上げる。自らを磨き、美しい形を身につけることを学べ。わたしはあなた方の働きを祝福し、それによってあなた方がこの世における偉大な使命の成就を成し遂げられるようにする。

41. わたしはあなたがたの師であるが、わたしを父から切り離された存在と見なしてはならない。なぜなら、わたしこそが父だからである。御子と聖霊との間に違いはない。聖霊は唯一であり、

それがまさにわたしだからである。あらゆる時代のわたしの啓示の中に、多様で異なる教えを通してあなたがたに現れてきた唯一の神を見出せ――それは、多くのページを持ち、多くの愛の教訓が記された一冊の本のようなものである。

42. あなたがたの行いによって私の御名を聖別しなさい。そうすれば、無知と罪の闇からあなたがたを解放する、その光を自分たちの内に見出すことになるでしょう。

43. 民よ、あなたがたは、わたしの言葉によって形作られる前の自分たちのあり方について、これに同意するだろうか。かつては、今はもはや行わない多くの行いができる存在だったことを覚えているだろうか。あなたがたは、今日の自分の人生を、過去の生活と比較することはできない。 かつて、あなたがたは、存在を照らし、そこに希望を灯す光もなく、ただ孤独な旅人として道を歩んでいた。今日、あなたがたはイエスの弟子であり、その愛の泉で渇きを癒やし、傷を洗い清めた。私の愛は、あなたがたの中に刺さった棘を引き抜き、もしあなたがたの十字架に釘が打たれていても、私も同様にそれを引き抜いてあげよう。

44. わたしは、この世とすべての世界の光である。あなたがたには、この光に身を包んでほしいと願っている。わたしの言葉は癒しの香油である。それを聞いたら、それによって自分を癒やしなさい。なぜ、あなたがたは、自分の中に神を宿しているにもかかわらず、病に伏し、苦しみ、泣いているのか。自分自身を省み、正すべきことはすべて正しなさい。清めるべきものはすべて清めなさい。 わたしはあなたがたにこう言った。「器を内側からも外側からも清めなさい。」つまり、あなたがたの内的存在が、意志と霊感において、あなたがたの肉体的な、あるいは人間的な存在の部分と調和しているということである。

45. わたしはあなたがたの内的生活――人々の前では隠し、他者には見えないが、わたしからは隠すことのできないその生活――を形作っている。 その外見を、目に見える側面があなたの魂を忠実に映し出すような形で整えなさい。そうすれば、あなたの行いは誠実で真実なものとなるでしょう。これが、世の人々が一方の顔だけを見せ、もう一方を隠している理由なのです。

46. あなたはすでに自分の傷を点検し、私が与えた香油で治療したか。もし私の香油の効能に疑いがあるなら、改めて治療しなさい。しかし、もし信じるなら、その治療薬を使うのをやめなさい。そうすれば、私の愛がそれを癒やすのを見るだろう。そして、あなたがそれを探しても、もはやそこにはないだろう。 他の人々に

は、信仰と祈り、そして思考の力によって健康を取り戻すことを許そう。数多くの霊的存在たちがやって来て、その力とエネルギーを一つにまとめ、あなた方を治療し、癒やすだろう。

47. スピリチュアリストは言う。「人生とはなんと美しいことか！」と。一方、未開の人、唯物論者は言う。「人生とはなんと苦く、悲しく、そして暗いものか！」と。――内面の高揚を持たない人は、あらゆるものに躓き、あらゆるものに傷つけられる。内面が高揚している人は、道のりの逆境にさえ気づかない。 高潔な心を持つ人々が他者に関わる際、彼らはその美徳を称え、過ちを容赦する。決して非難したり、断罪したりはしない。それに対し、低俗な心を持つ者たちは、他者を非難し、中傷し、その過ちを公にし、それに喜びを見出す。

48. 他人を非難し、他人の事柄に干渉する者たちよ、私は問う。他人の罪を自分の罪に加えることで、自分の罪の重さを軽くしようとしているのか？ *もし自分の*罪の重荷から解放されないのであれば――なぜ他人の罪をそれに加えるのか？ なぜ、他者の内面に、自分を豊かにしてくれる精神的な価値を見出す代わりに、自ら汚れを背負い、自分を重荷に縛りつけることを選ぶのか？

49. 「わたしの父の家には多くの住まいがある」とありますが、高い霊的領域に住む者たちは、人々がその重荷から解放されるよう助けたり、あるいはその重荷を背負うのを助けたりします。しかし、彼らを非難したり、その悲惨さを喜んだりすることはありません。

50. ある日にはあなたがたが冒涜するのを、また別の日には悔い改めるのを見てきた。私の啓示を否定するのを、その後その真実を証言するのを目にしてきた。ある日には中傷するのを、また別の日には、あなたがたが中傷した者を擁護するのを目にしてきた。過ちを正すことは良いことだが、再び悪に陥らず、正すべき過ちそのものが生じないようであれば、なお良いことである。ある日には、それを必要としない者に愛の贈り物を与えるのを見、またある日には、真に貧しい者に対してそれを拒むのを見た。しかし、私はあなた方を非難したり裁いたりすることはない。 私が教えの光によってあなた方を照らすのは、再び罪を犯さないようにするためである。しかし、私はまた、あなた方が時に助け合い、高潔で、慈善に満ち、思いやりのある姿を見せたことも告げておく。それらの功績は、私によって常に認められ、評価されてきた。だが、あなた方の心の中には、すでに雑草よりも小麦の方が多くあるべきである。

51. 心や魂の奥底で内面を高めたいという渇望を感じることなく、ただ機械的に唇を動かして祈ってはならない。言葉を発することなく、心で感じながら祈りなさい。かつてあなたがたが偽りの誓いを立て、不必要に誓いを立てていたのと同じくらい容易に、今こそ真実を語らなければならない。

52. 他人のものを自分のものにしてはならない。他人のものを奪った者は、苦痛と恥を伴ってそれを返さなければならない。私は誰をも告発しないが、私の言葉のうち、自分に当てはまる部分を、誰もが心に留めてほしいと願っている。

53. あなたがたが、無知と未熟さと物質主義の闇の中を歩んでいた頃に犯した行いについては、私はあなたがたを非難したり、責任を問ったりはしない。 しかし、今日、私の律法とは何かを完全に理解した上で、禁じられたことや不正なことに固執するならば、あなた方は自分の行いについて、あなた方の良心の中で容赦なく姿を現す神の前で責任を問われることになるだろう。

54. あなたがたは皆、わたしの種であり、師はそれを刈り取る。良き種の中に雑草が生えてきても、わたしはそれを愛をもって受け入れ、黄金の小麦へと変える。わたしは、あなたがたの心の中に雑草や汚れ、罪、敵意が芽生えるのを見ているが、それでもなお、あなたがたを受け入れ、愛している。 私はこの種を慈しみ、太陽の下で小麦のように輝くようになるまで、それを清めていきます。

55. 私の愛の力が、あなた方を救い出すことができないとでも思うのか。私があなた方を清めた後、私はあなた方を私の庭に蒔き、そこであなた方は新たな花を咲かせ、新たな実を結ぶことになる。あなた方をふさわしい者とすることは、私の神聖な業の一部である。

56. 私の愛は、あなた方を祝福し、赦し、私の御言葉を聞くにふさわしい者とする。

57. わたしの言葉こそが道である。わたしは、あなたがたの歩みが常に善と正義の道にとどまるよう、太古の昔からすでにあなたがたにわたしの律法を教えてきた。

58. この教えは、私がかつてあなたがたに与えたものと同じである――すなわち、愛の教えである。

59. あなたがたの霊魂は、創造主の完全なる愛の子です。あなたがたが持つ、感情の源であるその器官、すなわち心は、愛の象徴です。

60. それゆえ、愛を注ぎなさい。人々はそれを切実に必要としているからです。人々の心には飢えがあり、魂の萎縮があり、生への渇望があるのです。

61. ここで私の言葉を聞いた人々の群れよ、あなたがたは「命のパン」によって力づけられ、養われてきたのだから、疲れた魂や心にも糧を与えることができるのだ。

62. 誤った信仰や誤った考えに出くわしたときは、私の光をもたらすべきである。しかし、決して私の教えを暴力で押し付けてはならない。富める者と貧しい者とを区別して、異なる扱いをしてはならない。そうすれば、彼らの苦しみの根底に、倒れてうめき声を上げている一人の兄弟の姿が見えるだろう。 その痛みに心を動かされたあなたがたは、その苦しみを和らげる方法を探すだろう。あなたがたの思いやりは、裸同然の人々を覆うだろう。あなたがたは、平安を持たない者に安らぎを与えるだろう。あなたがたは、暗闇の中で道に迷って歩む者の道しるべとなる星のようになるだろう。このようにしてあなたがたが使命を果たすとき、あなたがたは、私が「師」と呼ぶにふさわしい者となるだろう。

63. 私の教えは、新たな人々の群れを集めるために集会所を建設することを必要としない。私の意志は、人々の心によって築かれる普遍的な神殿を建立することにある。

64. 第二の時代にイエスが示した模範に従いなさい。イエスは御言葉を宣べ伝えるために集会所を選ばず、むしろ野原を教えやたとえ話を語るのにふさわしい場所として選んだのである。

65. しかし、人々の無知や苦痛を利用して商売をしようとする者が、集会所を利用するのであれば、その者は私の光を享受することはできず、またスピリチュアリストを名乗ることも許されない。

66. あなたがたは戦わなければならない。そして、その戦いの場は至る所にある――自宅でも、肉体労働の現場でも、あるいは旅の途中でも。

67. そこで、適切な瞬間に、あなたがたは準備を整え、私の霊感のもとで語らなければならない。その言葉を聞く者が、自分の良心を通じて誰が語りかけているのかを知ることなく。

68. 人々がその慣習を一瞬にして忘れるなどとは期待してはならない。また、誰かに「迷い人」と呼ばれても驚いてはならない。第二の時代における私の教えも、多くの人々には誤りと思われたが、その後、それは至高の真理として受け入れられたのである。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 205

1. 私の教えの真髄を心に受け止め、魂を静め、知性と心を安らぎへと導きなさい。

2. 師の平安に深く浸っていると感じられるような心持ちで、わたしに近づきなさい。

3. あなたがたがここに来たように、遠く離れた国々から兄弟姉妹たちがやってくるのを見るでしょう。彼らは皆、このメッセージの光を切望しているからです。

4. 私はすべての人に、後に魂のための教えを理解できるよう準備するための最初の教訓を与える。

5. その言葉を深く考え、一文一文を注意深く読み、常にその真意、すなわち私の教えの真髄を探し求めなさい。あなた方人間こそが私の律法に従わなければならないのであり、私の律法をあなた方の思い込みや気まぐれに合わせて変えてはならないということを理解しなさい。

6. もし私が、あなたがたが私の教えを私の意志ではなく、*あなたがたの*意志に従って人生に適用することを許したならば、まことに、あなたがたは決して霊的な停滞から抜け出すことはなく、魂の発展、開花、そして完成を許すことも決してないだろう。

7. そこには、それぞれの宗教において怠惰になってしまい、もはや光へと一歩も踏み出そうとしない人々が見られる。彼らは、神の律法が命じることに従うのではなく、神話を誤った教えで律法を埋め尽くすことで、律法を自らの意志に従わせようとしたからである。

8. この時代の多くの人々が、あらゆる宗教から自らを解き放ち、霊によってわたしを求め、自らの存在の最も奥底で感じているあらゆる資質、賜物、能力を開花させることができるようになることは、必要であった。

9. 彼らこそが、永遠の命について語るメッセージを受け入れることができた者たちである。

10. わたしは、あなたがたが歩んでいた様々な脇道から引き離し、わたしの啓示が輝き、わたしのメッセージが響き渡るこの道へと導かなければならなかった。なぜなら、わたしはあなたがたが、より高い霊的高みから人生を見つめる者たちの一員となることを望んでいるからだ。

11. 魂のない肉体とは何だろうか？――それは、魂のない細胞の集合体に過ぎない。魂は肉体の命であるが、そのどちらもまた、神から発しているのだ。

12. すべてが神から発しているのだから、神があなた方の内におられるということを、一度でも考えたことがあるだろうか？しかし、なぜ神はあなた方の内におられ、何のためにいるのだろうか？　もしかして、自らを現すことなく、ただそこに留まるためだろうか？　もしそうなら、神は神ではない。なぜなら、神は現れ、語り、啓発し、その存在を感じさせ、至る所で自らを明らかにされるからだ。 ですから、神があなた方の内にいるのは、メッセージを伝えずに隠れたままでいるためだなどとは考えないでください。神が、何の思いも持たずにあなた方の内にいるなどとは考えないでください。神はあなた方を通して、完全に御自身を現そうとされていることを知ってください。

13. もし私が、「なぜ神はあなた方の内におられるのか」と尋ねたとしたら、あなた方は私に答えることができるだろうか。なぜ神は、すべてであるにもかかわらず、あなたがたが「魂」と呼ぶもの、すなわちあなたがたの存在のその一部の中にいるのでしょうか？なぜ神は、あなたがたが御自身の啓示のための従順な道具となることを望まれるのでしょうか？弟子たちよ、まだ私に答えることはできません。なぜなら、誰もあなたがたを内省へと導いてこなかったからです。それゆえ、あなたがたは、どのような点で父を啓示しているのか、またなぜ自分の行いを通して父を表現しているのかを知らないのです。 しかし、もしあなたがたが愛をもって私の教えの研究と実践に専心するならば、まもなくこれらや、さらに深い問いにも答えられるようになることを疑ってはならない。そして、ひとたびこの知識の光を得れば、父がなぜ、そしてどのような目的で、その子供たち一人ひとりの内に宿っているのか、真実として知るようになるだろう。

14. 神は存在しないと主張する者もいれば、その存在を信じると公言しながらも、それに関心を寄せない者もいる。しかし、自分の中に神を宿していることに気づいていないため、どちらの者も、神なしでは生きられないことを知らないのである。

15. もし皆さんがこの真理を一度知り、自分たちがその神聖な本質の霊的な子であると心から信じるようになれば、自分の魂の中に宿る神が、自分を通してどの程度まで現れ出させたのか、としばしば自問することになるでしょう。

16. 時は流れ、あなた方は長い道のりを歩み、いつの日か立ち止まって、主があなた方を通して成し遂げられた御業を驚嘆の念をもって見つめることになるでしょう。その時、あなた方は、御父の御心を自らに実現させた師、イエスを思い出すことになるでしょう。

17. あなた方に命を与えた神が、その命を用いてご自身を顕現させようとしておられることを、いつ理解するのでしょうか。ここにあるメッセージの一つだけで、それまで到達していた場所よりもはるかに遠くを見通し、理解できるようになることが、いかに多いかを考えてみてください。 そして、この理解こそが、あなたがたに奇跡を行う力を与えるのです。なぜなら、あなたがたは自分自身を知ることになり、それゆえに、霊的な遺産をどのように活用すべきかを理解できるようになるからです。

18. 愛する弟子たちよ、あなたがたは愛を与え、善を行い、魂を込めて与えることを学ばなければならない。私はあなたがたに告げる。この世に自らの魂の力を現し、その知識の泉から汲み取って他者に捧げる者は、父の御心を成し遂げるのである。

19. あなたがたは、自分の中に宿るあらゆる能力と力を知らなければならない。そうして初めて、あなたがたの存在の本質が顕現し始めるのだ。そうすれば、人生の問題を解決することがいかに容易であるか、そして、高みへと向かう闘いがどれほど穏やかで優しいものであるかを、あなたがたは体験することになるだろう。

20. 悲惨、苦痛、そして病気は、祈りによってそれらを追い払う御霊の力によって消え去るでしょう。

21. わたしを受け入れる準備を整えなさい。主と対話し得る心構えができるよう、魂を準備するひとときを頻繁に持ちなさい。

22. もしあなたがたが、自分たちの内面に神を真に宿していると信じるならば――病が襲ったり、誘惑によって倒れたりすることなどあり得るだろうか。どうして、この弱々しい肉体の力が、あなたがたを支配しうるだろうか。

23. わたしがあなたがたを自由にし、強くするのは、あなたがたが世と肉に打ち勝つためである。なぜなら、わたしがあなたがたを導き、父との完全な対話へと近づけるからである。

24. あなたがたが、この知性の器官を通じて得ているものによって、すでに完全な対話を持っているなどとは考えてはならない。また、時折あなたがたの知性を照らす単なる直感でもない。あなたがたが到達しうる最も高次で、最も深い対話は、決してあなたがたの肉体を通じて行われることはない。

25. 弟子たちよ、肉体は単なる器に過ぎない。しかし、その内部には「香りの小瓶」があり、その香水、すなわちエッセンスこそが魂である。 その香りは部屋全体を芳しく満たすことができるにもかかわらず、その香水が閉じ込められているのは間違っていると思いませんか？その「部屋」は、今日はあなたの家であり、明日は世界となり、やがては果てしない宇宙となるでしょう。

26. 人々よ：あなたがたの内なる神殿を開き、その中にこの言葉が含む真髄を受け入れなさい。 もしあなたがたが外側に留まり、自らの聖域に入る努力をしなければ、やがては私の声を聞こうとせず、遠ざかってしまい、来た時に背負っていた重荷――苦難、病気、失望という重荷を、そのまま肩に背負い続けることになるだろう。

27. すでに、何よりもまず魂の中に存在する内なる神殿に入ることで、わたしに耳を傾ける準備をしている人々から学びなさい。彼らは、わたしの愛のメッセージによって力を得て、癒やされているのだ。

28. あなた方には、顔を上げ、希望に満ちた微笑みを浮かべ、恐れも不信感もなく未来をまっすぐに見つめるための信仰が欠けている。なぜなら、未来には私がいるからだ。

29. あなたがたは、ただそう考えるだけで、どれほど頻繁に病に伏していることか。なぜなら、一歩一歩進むたびに、運命が自分を追いかけ、苦痛が待ち構えていると思い込んでいるからだ。そうして、あなたがたは思考を通じて闇の力を引き寄せ、それによって物質的な生活と霊的な昇華の道を覆い隠してしまうのである。

しかし、私はここ、あなた方のそばにいて、人生、真実、永遠、そして完全な平和への信仰を新たに燃え上がらせるとともに、光を惹き寄せることをあなた方に教えるためにいるのだ。

30. 弟子たちよ、神の計画は、かつてそうであったように、今も、そしてこれからも、あなた方を完全なものにすることである。しかし、もし神があなた方の成長のために「完全性」という概念を授けてくださったのなら――なぜ、父があなた方の本質に、また神が創造されたすべてのものに宿らせたこの真理の光を、覆い隠そうとするのか。人間は宇宙に似ており、宇宙は人間に似ていることを知れ。 宇宙は、主の子たちの偉大な住まいである。しかし、その中には、あなたがたが完全になるために通り抜けなければならない多くの生息地があり、人間の魂こそが、あなたがたの主が住まわれるべき聖所なのである。

31. もしあなたがたがわたしの言葉を理解すれば、すぐにこう言うようになるでしょう。「父よ、今日こそ、わたしの内なる神殿の門を開いてください。そうすれば、命と健康、知恵と力であるあなたの本質が、わたしの内に浸透するでしょう。」

32. あなたがたに告げる。もしあなたがたがこのようにわたしに語りかけるならば、それは実現するであろう。なぜなら、魂がその使命を受け入れたからである。そうすれば、あなたがたは、わたしがあなたがたを通して、また、あなたがたの肉体――取るに足らないものながら、その造りにおいては偉大さを秘めている――を通して、自らを現すのを見るであろう。

33. 今日、あなたがたはこの世界に暮らしているが、明日は地球の彼方にある別の世界に暮らすことになる。そして、どの世界においても、あなたがたは自らの完成に必要なものを活用するだろう。

34. どこに行っても、あなたがたは兄弟姉妹に出会うだろう。なぜなら、宇宙は生き物で満ちており、そのすべてが神の子だからである。

35. 太陽、星々、世界、自然界、あらゆる種類の存在、原子、力、最高位の天使から名も知れぬ這う生き物に至るまで、すべてが絶対的存在の子であり、すべては彼に由来する。あなたがたは、所有者のいない富など存在しないことを知っている。そして、この宇宙の富の所有者は神である。

36. さて、弟子たちよ、私はあなた方に問う。あなたがたが病んでいるなどということはあり得るだろうか？この教えは、あなたがたを自由で幸せにするためにあるというのに、あなたがたが悲しんでいるなどということはあり得るだろうか？

37. 私があなたがたにもたらした啓示を理解するには、霊的な啓発が必要であり、それを与えられるのは、魂の師である私だけである。

38. もしあなたがたが、これまで魂というよりも肉体として自分自身を感じてきたのであれば、今、私はあなたがたに、肉体よりも魂であること、そしてそう感じることを教えよう。これこそが、贖いであり、救いであり、平安である。

39. 時折、あなたがたは、なぜこの時代において、過去の人々よりも多くの苦しみを味わわなければならないのか、また、かつては持っていなかった霊的な使命を果たすために、なぜここに来なければならなかったのかと自問することがある。 しかし、私はあなたがたに告げよう。善と光の道を霊的に歩み、神聖な山の頂上に

到達するというこの使命は、常にあなたがたの魂の中にあったのだ。そして一方で、現在の生において、古い負債――完結しなかった行いや、果たしきれなかった使命――が積み重なっているのだ。

40. 新しい人生の意味を理解できない者は、わたしの正義に反抗し、その贖罪の義務を罰だと捉えるだろう。それに対して、新しい存在において、負債を返済し、汚れを洗い流す機会を認識する者は、主の御名を賛美するであろう。

41. あなたがたはまだ幼子であり、幼子として誠実でなければならない。祈りの中で些細なことを私に願うことを恥じてはならない。重要なのは、あなたがたが祈り、私があなたがたに霊感を与え、導くことである。

42. 祈りなさい。わたしの言葉を用い、それらが広める信仰と力によって、人々を強め、癒やしなさい。

43. 明日、あなたがたの祈りがもはや病を癒やすためではなく、父との対話を楽しむためのもとなったとき、あなたがたの魂は、理性には知られざる領域をさまようことになる。ある者たちにはあなたがたの光をもたらし、ある者たちからはメッセージを持ち帰り、またある者たちからは、魂への励ましと喜びを受け取るだろう。

44. あなたがたの中にいる神は、あなたがたの魂と肉体がそれを伝える術を知っているならば、あなたがたの口を通してそのメッセージを告げられるだろう。

45. 「どうして神が人間を通して語ることができるのか」と、あなたがたは疑問に思うかもしれない。しかし、わたしはあなたがたに言う。かつて、「御言葉」は、神の御言葉を語ることのために、人間となったのである。知恵の現れである「御言葉」は肉体をまとい、その肉体こそが人間イエスであった。

46. 「御言葉」が語られた方の弟子であるあなたがたが、なぜ魂や、さらには肉体そのものを通じて、これを明らかにしないというのか。

47. 今日、あなたがたはまだ弟子であり、私の教えを常に理解できるとは限りません。しかし、まずは心と想いを込めて神に語りかけてください。そうすれば、神はあなたがたの存在の最も奥底で答えてくださいます。あなたがたの魂に語りかける神のメッセージは、明瞭で、賢明で、愛に満ちた声であり、あなたがたはそれを徐々に発見し、やがてそれに慣れていくことでしょう。

48. まず初めに、祈りを通じて受け取るメッセージについて深く考えることが必要です。そうすることで、あなたがたは、父か

ら与えられたメッセージを真に認識し、決して、迷いのある自分の魂からの声や考え、思い、さらには啓示と混同することがなくなるでしょう。 静寂と瞑想の中でこそ、それぞれのメッセージがあなたのもとへ届く道筋を見極めることができるのです。

49. 自分の魂がどのような霊的な領域へと入り込み、光のどの高みまで舞い上がることができるのか、それを言い表せる人間などいるだろうか？――誰もいない。 それゆえ、祈りや神との交わり、霊的な黙想の道を熟知していない者は、しばしば誤った道に迷い込んでしまう。なぜなら、光に向かって進む代わりに、暗い領域へと踏み込み、そこから悪しき霊感や誤ったメッセージを受け取ってしまうからである。

50. 努力し、霊の永遠の光へと導く知識――すなわち、あなたがたの起源であり、目的地である場所へと至る知識――を得ようと試みなさい。

51. 私の言葉は健康の奔流をもたらす。あなたがたがそれを受け入れる準備を整えれば、健康を取り戻すだろう。そのようにして健康を得ることができれば、あなたがたは御霊によって癒されたことを証明することになる。

52. 願い求め、祈り、わたしに呼びかけなさい。そうすれば、わたしはさらに何人かをあなたがたのもとに導くであろう。

53. すべての兄弟姉妹――今ここにいる者も、いない者も、目に見える者も、見えない者も――と一つの家族を成すことによって、あなた方の生活をますます調和のとれたものにしてください。

54. そうすれば、互いに愛し合うという神の戒めに従うことから生まれる、かつて経験したことのない内なる平安を味わうことになるでしょう。

55. 愛する「働き手」たちよ。私は、あなたがたが熱心に畑を耕し、土を整え、そこに種を蒔いているのを見ている。その種は明日、実を結び、あなたがたの労苦に報いてくれるだろう。種を選び、土を掘り起こしなさい。なぜなら、あなたがたは今、私がこのようにあなたがたの間で御自身を現す最後の三年のうち、最初の年を迎えようとしているからだ。 残された時間は短く、準備には急がなければならない。なぜなら、私はあなた方を弱い子供たちとしてではなく、すでに師となる寸前まで進んだ、熟達した弟子たちとして残したいからである。

56. 私が去った後、あなたがたは、言葉と行いを通じて私の教えをどのように解釈するかの責任を担うことになる。人々は、あなたがたの行いと生き方によって、私の教えを評価するだろう。

57. 私の霊感は、あなた方から決して失われることはない。それによって、あなた方は、いつ語らなければならないか、また何を語らなければならないかを悟るだろう。 明確で、正確かつ簡潔な言葉で、私があなたがたに啓示した来世の存在を伝え、そうして真の愛をもって同胞のために霊的な道を切り拓きなさい。そして、常に言葉を行動と模範によって裏付けなさい。

58. 次第に、あなたがたは他者の苦しみを自分のことのように感じるようになる。その理由は、あなたがたの魂が、わたしの教えに満たされるにつれて高まり、距離を乗り越え、来世の神秘へと入り込み、そこですべての存在の起源がただ一つであることを発見するからである。それは「父」であり、その中において、あなたがたは皆、兄弟姉妹なのである。

59. しかし、私の業において進歩のきっかけを得たのは、あなたがたの魂だけではない。あなたがたが、自分の中に霊的なインスピレーションがますます強まっているのを感じ、かつてははっきりと認識できなかったあらゆる事柄への理解が深まり、謎が解き明かされていくことに気づいたとき、あなたがたの知的能力もまた開花したのである。

60. もしあなたがたが、霊の世界に完全に踏み込み、そこに含まれるすべてのものを理解し、感じ取ることに成功しないのであれば、それはあなたがたが依然として物質の圧力やこの世の影響にさらされているからである。

私はあなた方に多くのことを啓示してきましたが、まことに、私はあなた方に告げます。人間は、この地上にいる限り、自分たちを待ち受ける世界がどのようなものか、そこで魂がどのように生きているか、神性の御前にあってどのような至福を体験するか、そして不完全さに満ちた者がどのようにして浄化を受けるのか、決して理解することはできないのです。

61. もし人間の知性が、来世における清らかな魂の歓喜を理解できたとしたら、その至福は、人間が持つような限界を持つことになってしまうだろう。それゆえ、私はあなたがたに、ここからそれを理解することはできないが、予感することはできる、と告げるのである。

62. 同様に、良心が魂をわたしの神性の御前に引き出すとき、その魂が経験する苦痛の強さを、あなたがたは想像することさえできない。 それゆえ、私は常にこう告げている。「備えを固め、魂を高めよ。魂には、知っておくべき教えが啓示されるからだ。」魂と理性の間に真の一致がなければならないことを悟りなさい。そ

うしてこそ、あなたがたはすでにこの世において、その真理の片鱗を捉えることができるのだ。

63. わたしは、あなたがたの知性が成長し、無限の中にそれが必要とする光を求めることを許してきた。あなたがた自身が自分の道を選べるよう、わたしは自由意志を授けた。しかし、わたしはあなたがたの意志よりも、わたしの戒めを優先させた。 その律法の中に、あなたがたは正しい道を見出すことができ、その中に、自らの行いを清めるための知恵を見出すでしょう。もしこの道に従いたくないのであれば、そこから背を向ける自由はあります。しかし、もはや自分自身を欺くことはできなくなり、良心が絶えずあなたに語りかけることになるでしょう。

たとえあなたがたが――すでに地上の肉体を脱ぎ捨てて――私の御前に立ったとしても、その内なる良心の審判者があなたがたを裁き、どの清めの道を歩むべきかを告げるだろう。その正義の光は、あなたがたの中にあり、善を愛し、悪を拒むよう教える神ご自身の一部である。

64. この準備の年月において、あなたがたは私の教えを学ぶことに専念すべきである。なぜなら、あなたがたの言葉を必要としている心は数多くあるからだ。あまりにも多くの堕落に人々は嫌気がさしており、*霊的な*生き方への渇望があるのだ。

65. この事業の弟子たちは、霊的な糧を生み出し、人類がこれまで抱いてきた誤った考えを正し、あなたがたが生きるこの時代の「福音」を伝え、この時代がもたらす世界観と生活のさらなる発展を告げ、階級、 宗派、宗教、人種を問わず人々に奉仕し、あらゆる精神的・肉体的な必要に応えていく。これらの弟子たちは、難破した者の船を照らす灯台となり、夜の中を方向を見失ってさまよう者を救う星となるだろう。

66. 彼らは、自らの行いを世に知らしめるために、石造りの教会を建てたり、祭壇を築いたりすることはない。彼らは、愛の力によって互いに結ばれた人々の心そのものを石として、偉大な*精神*の大聖堂を築き上げるのである。

67. この過去3年間の私の教えに注意深く耳を傾けなさい。なぜなら、これらの教えを学ぶ弟子たちは、1950年以降、教師となるからである。 あなたがたが私の意志に従って団結し、真に私のもとへと昇るべきその時、私はあなたがたを私の霊感の光で照らし、あなたがたが偉大かつ根本的な業を成し遂げられるようにする。しかし、その準備をしておきなさい。なぜなら、私が定めた時が来れば、私はもはや「声の伝達者」を用いることはなくなるからだ。

68. 師との直接の対話の時期に備える私の子供たち一人ひとりの内に、私の光が輝き渡るだろう。しかし、私の業を売りさばき、商人となる者たちの内には、その光は宿らない。 1950年にわたしの言葉が終わる時、あなたがたがその道を歩み続けるための方法を理解できるよう、準備をしておきなさい。なぜなら――よく聞きなさい！――十分に準備をしていない者たちは皆、混乱に陥ることになるからだ。

69. 愛する民よ、私の意志に従って、あなたがたが人々に私の言葉を伝えるべき方法を理解しなさい。――失敗しないために、人類が何世紀にもわたって持ってきた習慣を、一瞬にして変えようと企ててはならない。 あなたがたが私の教えを伝えれば、人々は自分たちがどのような迷いの中で生きてきたかを理解するでしょう。私の教えが持つ説得力が、彼らの理解力を照らし出し、真理が認識されることになるでしょう。そうすれば、かつて彼らの目には誤りとして映っていたものが、限りない光の中で輝きを放つようになるでしょう。

70. わが子らよ、わたしはあなたがたのそばにいて、あなたがたの心に触れ、わたしが永遠に住むことのできる場所を、あなたがたの心の中に用意してもらおうとしたのである。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 206

1. あなたがたに対するわたしの憐れみは、わたしの愛から湧き出て、すべての存在へと絶え間なく注がれている。わたしの愛は、常にあなたがたを祝福し、赦し、あなたがたが成長の道を歩み、わたしに近づき、わたしの子供であることを自覚するにふさわしい者となるよう助けてくれる。

2. わたしは、あなたがたが自らの行いをそれに従わせるために、わたしの律法を授けた。これこそが、太古の昔からわたしがあなたがたのために示してきた道であり、あなたがたが自らの行いを築き上げるべき基盤、土台である。この律法は、あなたがたに必要な原則を示してくれるだろう。なぜなら、そこにはわたしの賢明な戒めが込められているからである。

3. 今日、私があなたがたに教えるこの言葉は、私が太古の昔から与えてきた教えの続きであり、それは始まりも終わりもないため、決して途絶えることはない。そして、あなたがたの魂が成長するにつれて、私の賢明な教え、すなわちあなたがたを完全なものにしようとする私の願いを、ますます深く理解するようになるだろう。

4. 私は、あなたがたが最もふさわしい方法で私を愛し、また私の啓示を受け入れ、それを正しく解釈できるようになるために、最高度の霊化をあなたがたに授ける。

5. あなたがたが私の言葉を学び、その真意を汲み取ることを理解すれば、力を得て、完全に満たされた気持ちになるでしょう。その時、あなたがたは、この時代に私が来られたことを知らない全人類に愛を込めて語りかけ、同情の念があなたがたの全存在を満たすことになるでしょう。 あなたがたは、私があなたがたに語ったことを明らかにするために、隣人たちに心を向け、私があなたがたに残したすべての富を、あたかもそれがあなたがたの手にある聖なる財産であるかのように、彼らに与えることになるでしょう。

6. 人類は、一歩前進するために光を必要としています。すべての被造物の中には、信仰に支えられた、生命への渇望、真理の認識への渇望、そして旅の行き先を知りたいという渇望が存在します。私は、準備を整え、困難な使命の中で、彼らの礼拝行為に見出すあらゆる過ちを慈愛をもって正すことを心得ている者たちを通じて、彼らを導きます。 あなたがたはこの使命に着手し、私を手本として努めなさい。苦しみを和らげようとする努力において、貧富の区別をしてはならない。自分の信仰を押し付けたり、誰かに自分の

認識を受け入れるよう強要したりしてはならない。私の再臨をめぐって分裂してはならず、過去の聖書を持っている者たちが、私の最後の教えを知らない、あるいは受け入れようとしないからといって、彼らと争ってはならない。

7. 闇に光をもたらし、人々の心に平安を与え、わたしを待ち望んでいた者たちの焦りを和らげなさい。同胞を助けなさい。そうすれば、わたしはあなたがたの家族と財産を見守ってあげよう。

8. このように行動するとき、あなたがたは人々の魂の中に、永遠に存続し、私が常に人々、すなわち私の深く愛する子供たちに対して期待してきた礼拝が執り行われる神殿を築き上げるであろう。

9. あなたがたの行いが誠実であるよう心がけなさい。常に真実を語り、わたしの弟子となりなさい。この言葉をもって、わたしは来るべき時代の人々、すなわち、わたしに従い、わたしを手本としたいと願うすべての人々に語りかける。

10. 1950年が過ぎたら、祈ったり、わたしの言葉を学んだりするために特定の場所を求める必要はない。そのための場所として、家でも、屋外でも、あるいは生計を立てている場所でもよい。私の十二人の弟子たちを模範としなさい。彼らは、どこにいても神殿を見出す術を知っていた。なぜなら、彼らは自分自身の内、すなわち魂の中に神殿を持っていたからであり、彼らの行いにおける偉大さと崇高さは、彼らの高揚と私との交わりに基づいていたからである。

11. 地上に苦しみがある限り、悲惨がある限り、マリアの執り成しは一瞬たりとも止むことはなく、彼女の御霊はすべての被造物の命を照らし続けるであろう。

12. あなたがたは、私を呼び求めた心の住まいを私に捧げ、私は直ちにその待ち合わせの場所へと駆けつけた。

13. 私の道において、あなたがたは、この地上ではかつて経験したことのない心の平安を味わった。舌を喜ばせる甘美さを求めて、あなたがたは多くの道を歩み、ついに私の言葉という蜜を見出したのである。

14. 幼少期から青年期を経て、成熟した年齢に至るまで、あなたがたは道を踏み外し、霧の塊が歩みを阻んでいたため、たゆまず正しい道を探し求めてきた。しかし、わたしの霊の光があなたがたの前に現れ、その日はあなたがたの復活の日であり、それはあなたがたの誕生の日と同じくらい重要な日であった。

15. あなたがたが初めて私の言葉を聞いたその日を忘れないでください。それは、あなたがたが光の命へと立ち返った瞬間だったからです。

16. あなたがたは切実な思いを抱いてやって来て、私の言葉を求めました。ある者は謙虚に、ある者は高慢に、しかし皆、私の臨在の力に引き寄せられていました。あなたがたは私のもとに来ざるを*得なかったのです*。 あなた方を待ち受けていたものは、実に多くありました！しかし、私の愛撫を軽んじ、私に背を向け、不確かな道へと踏み出した者たちがいる一方で、私の言葉に喜びを見出し、私の御業への奉仕に身を捧げるために、私のそばにとどまった者たちもいました。

17. わたしはすべての子供たちの中に、殺人者の心の中さえにもいる。わたしは誰からも離れることはなく、自分こそが最もふさわしくないと思う者にこそ、最も近くにいるのだ。

18. ここに集まった者たちは、倒れた者たちのために祈るよう求められている。しかし、彼らを裁いてはならない。彼らもまた、やがて光を得るからである。

19. あなたがたが彼らの模範とならずに、人間が自発的に改心することを期待してはならない。あなたがたに寄生植物のようになってほしくないのだ。

20. あなたがたは、わたしが与えた「言葉」の賜物によって、人々の奔放な歩みを食い止めなければならない。わたしは、水やりと手入れを必要とする繊細な植物のように、人々をあなたがたに託す。なぜなら、人々はあらゆる道からわたしのもとへやって来るだろうし、刑務所からさえも、わたしの弟子となるために人々がやって来るからだ。 しかし、もしあなたがたが今日、その使命を果たさなければ、あなたがたは再びこの世に戻らなければならないだろう。道端に取り残した「死者」を生き返らせるために――あなたがたは、見過ごしてしまった病人を癒やすために戻らなければならないだろう。あなたがたは、気にかけなかった飢えた者に差し出すパンを、必死に探し求めなければならないだろう。 しかし、今、義務を果たすことで贖罪できるというのに、なぜこれほど痛ましい贖罪を求めるのか。

21. 人間の科学は偉大だが、科学者の魂は眠りについており、人々が死んでいくのを放置している。それゆえ、私はあなたがたの手に癒しの香油を授けたのだ。あなたがたが人々の医師となり、助け合いと愛の模範を示すためである。

22. 世界では疫病が流行し、人類の大部分がそれによって滅びることになる。それらは未知の、また稀な病気であり、科学はそれらに対して無力である。

23. 全世界から雑草が取り除かれる。わが裁きは、利己心、憎しみ、飽くことのない権力への欲望を一掃する。大規模な自然現象が現れるだろう。

24. 諸国は荒廃し、広大な地域が消え去るだろう。それは、あなたがたの心に響く警鐘となるだろう。

25. 道は整えられた。私はあなたがたの導き手であり、あなたがたの人生の道から決して離れることはない。

26. 祝福されたイスラエルの民よ。主の御前にようこそ――この地で、柔和かつ謙遜にあなたがたのそばに留まられるその主の御前に。しかし、私が現れるのは物質的な場所ではない。住まいはあなたがたの心の中にある。それは目に見えないものであり、あなたがたが魂を高揚させた瞬間に、私に捧げるその場所である。

27. わたしは、あなたがたがわたしの言葉を渇望していることを知っている。その言葉がなければ、わたしの民であるあなたがたはどうなってしまうだろうか。あなたがたがわたしを必要としていることをわたしは知っている。そして、あなたがたを力づけるために、わたしはたゆまず訪れている。わたしの言葉は、あなたがたに助言を与え、高めてくれる――この清らかで光に満ちた言葉は、人の手によって書かれたどの書物にも見出すことはできない。

28. わたしを聞いた科学者たちは、この言葉が他のいかなる言葉とも比べものにならないことを、あなたたちの前では認めようとはしない。しかし、心の奥底では、彼らはそれを悟っている。

29. 私はこの道を通じて、あなたがたに、これまで地上では見つけることができなかった魂の平安を感じさせてきた。あなたがたは多くの道を歩んできた。 無知なハチドリのように、花から花へと多くの蜜の源を試してきたが、あなたがたの味覚にとってこれほど甘いものはなかった。しかし、あなたがたの唇の上で蜜となったこの言葉は、かつて味わったあらゆる種類の味を消し去ったのである。

30. あなたがたは絶えず正しい道を探し求め、さまざまな道を見出してきた。闇と戦ってきたが、その速い歩みは次第に遅くなり、疲れ果ててしまった。

31. しかし、私の神聖なる御霊の光があなた方のために輝き、あなた方の霊と魂にとって忘れがたいあの日は、あの世の記憶の書に記録されている。そこでは、あなた方は霊の目をもって、地上

で行ったすべての行いと、師から聞いたすべての言葉を読み返さなければならない。あの日は、あなた方の魂にとって、恵みの生への復活の日であった。

32. あなたがたの中には、成功者としてここに来た者もいれば、困窮者として来た者もいた。どちらの者にとっても、その時は定められていた。あなたがたは、愛を込めて待ち受け、歓迎し、霊的な生へと復活させてくださった父のもとへ来なければならなかった。

33. あなたがたは、わたしの言葉によって喜びに満たされ、自分たちを包む肉体という物質が、わたしの祝福された御業に全身全霊を捧げることを妨げていると感じている。 しかし、あなたは従順である――弟子たちは私の高き御旨に干渉することを許されず、弟子は献身的で従順であるべきであり、この物質的な肉体を通じて、光の道だけでなく、嘘と闇の小道も知ることになるのだと知っているからである。

あなたがたは、力強い大樹の木陰で、安らぎの果実を味わい、争いの種を取り除くことになるでしょう。緑豊かなヤシの木陰で息抜きをし、その葉が毛虫に食い荒らされたり、猛禽類がそこに巣を作ったりしないよう見守るのです。

34. 私は、あなたがたがあらゆる種類の蜂蜜の味を知り、最終的に自分の味覚に最も合うものを選べるように、あなたがたの道を任せてきた。私は、あなたがたに両極端を体験させたのは、私の神聖な原子の息吹に導かれて、物事を区別し、常に善へと傾くことができるようにするためである。

35. 師はあなたがたにこう告げた。「あなたがたが閉ざされていると見なし、『死』と呼ぶあの扉の向こうには、命がある。」その命こそが、私である。死とは、あなた方の目を盲目にし、私の傍らで生きることを許さない誘惑がもたらすものである。しかし、あなた方には誘惑から自らを解放するための強力な武器がある。それは祈りである。それは、あなた方に強さを感じさせ、私の神性に近づけ、魂の成長の道において、私と共に歩むことを可能にする武器である。

36. わたし、父は、愛と赦しの懐から誰一人として拒んだことはない。誘惑に惑わされ、深淵へと転落した者たちでさえもだ。わたしは誰一人として呪ったことはない。地上においても、「霊的な谷」においても、守られることのない存在などいない。 あなたがたのうち、誰が罪人であり、わたしの慈悲を受けるに値しないという理由で、わたしの懐から追い出されることがあろうか。わたし

は、良心の声による呼びかけに耳を傾けなかったために、わたしの神聖な御霊の光を受け入れることができなかった、頑なな罪人の心の中にさえも、生きておるのだ。 あなたがたは、私がその者の悪行の連鎖のために、彼から距離を置いたと思うのか？　いいえ、決してそうではない。私はすべての被造物の父であり、私の子供たちを一人たりとも拒むことはない。私は愛そのものであり、慈愛に満ちた父として、私の民である誰一人として見捨てたりはしない。

37. 迷い出た者のために祈り、私の御霊の光がその魂を照らし、彼が目を覚まし、誘惑の束縛を断ち切り、彼を盲目にしてきた闇を追い払うよう願うのは、あなたがたの役目である。

38. しかし、イスラエルは眠り込んでしまった。イスラエルは、人々が自らの功績によって再生を得ることを期待している。イスラエルは、本来あるべき立場を占めていない。なぜなら、他者にとっての模範となることが、その使命だからである。

39. しかし、民よ、わたしはあなたに言う。わたしは誰に、わたしの律法を託したのか。まさか、頑なな罪人たちの手に委ねたというのか。律法はあなたたちの手の中にあるのだ。 では、なぜ私の戒めがまだ守られていないのか、その責任は誰にあるのか？——イスラエルよ！しかし、それ以上に、私はあなたがたに問う。なぜあなたがたは、自分たちの実りを、この地上の寄生植物にしてしまったのか？なぜ、私があなたがたに与えた使命を果たすために、旅立たなかったのか？ なぜ、罪人が抑制のないままその道を歩み続けることを許しているのか。なぜ、わたしがあなたたちに託した「言葉」という賜物をもって、彼をわたしに近づけ、わたしの名において彼に語りかけないのか。闇が人の目を盲目にし続けることを望んでいるのか。あなたたちの仲介によって、闇が取り除かれなければならないことを知らないのか。

40. 「立ち上がれ、民よ」と父はあなたがたに告げる。行って、倒れた者を立ち上がらせなさい。わたしは人類に新たな使命を授ける。あらゆる国、その統治者たち、そして住民一人ひとりに、偉大かつ新たな使命を与えるのだ。

41. あなたたちの間に、大きな現象が起こるだろう。 季節は変わるだろう。冬は厳しくなり、春がいつ来るのか、あなたたちは分からなくなるだろう。なぜなら、*人々が*その時期を定めてしまったからだ。しかし、誰がわたしの意志に逆らえるというのか？ 雨は抑えられ、あなたたちの畑には降り注がないだろう。それゆえ、民よ、備えよ。あなたたちの間に混沌の時代が近づいており、イスラエルはその戦いを倍増させなければならないのだ。

42. あなたたちの間には平和が満ちている。その平和を守り抜け！　この平和をあなたたちの心から追い出してはならない。この国民はわたしによって選ばれたものであり、それが侵害されることはわたしの御心ではない。しかし、備えをしておきなさい。あなたたちが霊的な使命を果たすことによって、この国民と人類は光を受けることになるのだから。

43. イスラエルよ、私はここにいる！ あなたがたは、私を見ることはできなくとも、ただ私の声だけを聞いている。しかし、天の鐘の音を聞くことに満足しなさい。

44. わたしは、あなたがたの呼び声に従って、あなたがたが夜を過ごす寝床の隅へと向かう。あなたがたの苦しみのどれ一つとして、わたしが見過ごすことはない。そして、わたしは、あなたがたの肉体と魂の益となるものをすべて与えてあげよう。

45. わたしは、あなたがたを破滅へと導くような偽りの富は与えない。しかし、わたしはあなたがたを救い、この世の生涯の後に、わたしの右の座へと引き上げたいと願っている。

46. 魂のための富をわたしに求めなさい。そうすれば、わたしはそれをあなたに与える。魂を裸のままにしておきながら、肉体を飾ってはならない。

47. 最初の二つの時代に人々に与えられたわたしの律法は、いまだに守られていない。それゆえ、わたしはあなたがたを贖うために、再びあなたがたのところに来ているのだ。

48. 1866年以来、この国では、泉から湧き出る水晶のように澄んだ水が、魂の渇きを癒すために注がれている。ここで、私は、私の深く愛する子供たちの石のような心を和らげるために立ち止まる。

49. ああ、もし皆が私のもとに集まって、私の声を聞いてくれたら！しかし、中には――私の声を聞いたにもかかわらず――主の光の道を歩む代わりに、がれきだらけのでこぼこした道を選ぶことを好む者もいる。しかし、これこそが、不感謝で不従順な、永遠の命のパンではなく、この世の苦いパンを好んで食べる、あなたがたの兄弟なのである。

50. わたしが「放蕩息子」を待ち望むキリストであることを知っており、わたしのもとにとどまるあなたがたは、幸いである。

51. あなたがたの父は、その教え――狂信を許さず、神の律法と人間の法律を完全に果たすよう導く、その霊的な教え――によって、あなたがたを教え導くために来られた。

52. わたしは、わたしの赦しを得るために、あなたがたの体を傷つけたり、死に至らせたりするよう教えたのではない。わたしがあなたがたから受け入れる唯一の悔い改めとは、たとえ心に痛みを伴うことがあっても、有害なものや悪いものを断つことである。あなたがたがそう行動したときはいつでも、あなたがたの心はわたしの御霊の平安を感じ取ってきた。

53. 私がこのようにあなた方に語りかけるのは、あなた方の魂が本来あるべき世界とは別の、この地の塵の上を這いずり回ることを望まないからである。

54. この人生の後に何が待ち受けているか、知っているか。あなたの魂はどこへ行くのか。ただこう言っておく。目を覚まし、祈りなさい。学び、行動しなさい。あなた方はこの世の旅人であるが、まもなくその旅は終わり、私により近づくことになる。

55. 三つの時代において、私は人類への啓示の異なる形を選んできた。第一の時代には、モーセを通して、あなたがたの歩みを自由と光へと導いた。第二の時代には、私が人間となり、「御言葉」が人間となり、この世に救いの道しるべを残した。 今日、私は「白い雲」に乗って、平和の虹としてやって来て、こう告げます。「聖霊の光を渇望して、私のところに来なさい。」私は、あなたがたが新たな時代を待ってから歩み出すことを望みません。なぜなら、来るべき時代は、より大きな苦痛と、より厳しい試練をもたらすからです。

56. 今、私は『第三の聖書』を残します。あなたがたがそれを学び、それに従うためです。なぜなら、1950年がすでに近づいているからです。

57. もしあなたがたが私の教えを活かせなければ、師が「さようなら」と告げるのを聞いたとき、激しく泣くことになるだろう。まさか、それを待っているのか？疫病や飢饉が蔓延し、悲しみと苦痛があなたがたの家庭に忍び込むまで待つつもりなのか？

58. 私は、あなたがたが団結し、力強くある姿を残して去りたい。互いを誤解することなく、愛し合いなさい。そうすれば、平和は全世界に広がるだろう。

59. 明日、あなたがたのうち、誰が海を渡り、山を越え、遠い国へと足を踏み入れるのだろうか。誰が、諸国民に私の言葉を伝えるために、家族や子供たちを離れなければならないのだろうか。

60. 目を覚まし、祈りなさい。なぜなら、1950年*以前でさえ*、あなたがたは私が与えたパンを独り占めして食べていたからだ。あなたがたは、その食事の残りを隠すために手を握りしめ、喉の渇

いた人々のことを考えもせずに水を隠してきた。しかし、状況は変わっていく。私があなたがたに私の言葉を授けるこの最後の三年間を経て、あなたがたは師として立ち上がり、新参者たちを指導することになるだろう。

多くの不完全さを清め、清らかな者となり、教会や宗派の模範となれるようにしなさい。準備をしなさい。今、私の声を聞いている者の多くは、私に背を向けることになるからだ。また、他の者たちは立ち去り、自分の意志に従うだろう。あなたがたの中には、私を裏切り、引き渡し、売り渡す者がいる。

61. 私の言葉を深く学びなさい。そうすれば、明日になって、「彼はただ語った人間であって、あなたがたの神ではなかった」などと言わずに済むだろう。しかし、私のようにあなたがたに語りかけることのできる者が、いったい誰がいるというのか。私のように、民を変革し、刷新する力を持つ人間が、いったい誰がいるというのか。

62. まもなく、あなたがたはこの声を聞くことはなくなるだろう。しかし、1866年から1950年まで私があなたがたと共にいたこと、そして多くの者が私の声を聞いたものの、そのうちの何人かは私の言葉を心から追い出したことを、あなたがたは記憶にとどめておくであろう。私と共にいたあなたがたは、永遠に父のもとにいることになる。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 207

1. あなたがたは、私の存在を感じるために、もはや私を象徴するいかなる図像も必要としない。これは、あなたがたが霊化に向けて踏み出した一歩である。

2. あなたがたの目の前には、果てしなく広がる野原が広がっており、そこでは、終わりのないほど次々と教えを学び続けることができる。なぜなら、人間として生きるこの一生だけでは、すべてを理解するには不十分だからである。

3. あなたがたが私の声を聞いて以来、周囲の光景はどれほど変わったことか！ あなたがたの目を覆っていたベールは引き裂かれ、もはや目を閉じることはできなくなった。なぜなら、光を見た者の中で、再び闇の中にいたいと思う者がいるだろうか。

4. あなたがたは、私に対して抱く感嘆、感謝、そして愛を、もはや心の中で押し殺すことはできず、霊的な祈りや行動を通じて、それを私に示している。 あなたがたはすでに、暗記した、作為的で選りすぐられた言葉ばかりの祈りを忘れてしまった。それらは、あなたがたの知性が理解することも、心が感じることもなかったものだ。当時、あなたがたには、自分の神に語りかけるのにふさわしい表現方法などなかったのだ。

5. 今日、あなたがたが周囲の人々の苦難や悲惨、あるいは痛みに直面したとき、心の奥底から憐れみと愛の感情が湧き上がってくるのを感じるでしょう。それこそが、隣人のために善を願うあなたがたの想いを最もよく表現する言葉なのです。

6. あなたはかねてより、自分自身を崇拝するための神殿を築いてきました。他の人々に対して行使できる力と支配力を自覚し、自分自身を称賛してきました。あなたは自分自身を愛し、自分は強く、力強い存在だと考えていました。

7. 私は、あなた方のこの傲慢さを打ち砕き、この世におけるあなた方の無意味さを認識させることによって、謙虚さを感じさせるようにした。 私は、あなた方の内には、あなた方の価値と力の源泉となる何かがあり、それゆえにあなた方が虚栄心に駆られることはないこと、そしてその「何か」こそがあなた方の霊であることを明らかにしました。その偉大さは、あなた方が肉体の存在の中で感じる自己顕示欲とはかけ離れています。なぜなら、霊は神の一部であり、あらゆる物質的なものの上に立っているからです。これこそが、私が人間に与えた真の偉大さなのです。 しかし、あなたがたは、その光が弱まらないよう努めなければなりません。そうして

こそ、成長の道において功績によって昇華を達成することができるのです。

8. かつて、あなた方の生活が情欲に支配されていた頃、あなた方の霊は鎖で縛られ、抑圧されていると感じていた。今、あなた方はこれらの情欲を制御することを学んでいる。なぜなら、私の弟子たちの心には、誇りも、利己心も、憎しみも入り込む余地がないからだ。 今や、あなた方の精神は、行動や思考、そして人生のあらゆる歩みを導き始めており、この服従は、犯した過ちを清めるために自ら進んで受け入れる贖罪のようなものです。

9. こうして、霊は善においてますます力を得ていく。そして、そのようにして人間としての旅路の終わりに達したとき、その栄光は極めて大きくなり、この世を去る際には、傲慢の痕跡も苦難の兆しも一切残すことなく、完全に霊の世界へと入っていくことになる。

10. この謙虚さと高揚をもって来世に到る者は、この地上に残してきた苦難を忘れることはできないだろう。そして、その者は、弱者、病人、そして道に迷った者たちの守護者となり、保護者となるために、再びこの地へと戻ってくるのである。

11. 善を行うことによって、あなたがたの精神の賜物を開花させなさい。まことに、わたしはあなたがたに告げる。霊性への歩みと十分な備えを保つ者の前では、災難も疫病も病気も退くであろう。これは、その者がそれを誇りに思うためではない。なぜなら、その者は肉体の力によってそれを成し遂げたのではなく、謙虚さによって力を得る精神によって成し遂げたからである。

12. わたしと一つとなり、わたしの御言葉を聞きなさい。

13. この世界は救いを必要としている。善意を持ち、立ち上がって私の教えを擁護する人々を必要としている。

14. 今は、人間が自らの霊的な状況を十分に認識していない時代である。

15. 私の言葉を聞いて目覚めた人々の数は、私の啓示を知らない人々に比べれば、ごくわずかである。直感的に霊的な存在の近さと臨在を感じる者も、ごく一部にはいる。

16. 人々は救いの手と救いの言葉を必要としている。その手と声は、迷える者たちを救う霊的な知識を、多大な努力をもって伝える、わたしの新しい弟子たちのものである。

17. 試練の時が近づいている。わたしは、あなたがたが、わたしが予告したすべてのことを経験する力と勇気を持つように、あなたがたを鍛えてきた。この対立の中で、人々は、国家間の戦争や

世界観の対立の原因が、キリストの教えに対する理解の欠如と疎外感にあることを理解するようになるだろう。 もしキリストの教えが守られていれば、世界は調和に満ちていたはずだからである。しかし、愛の代わりに利己主義が支配しているならば――どうして知性に明晰さが、人生の行いに霊性が宿り得ようか。このような状況下で、霊が肉の反抗に打ち勝ち、その本質を明らかにすることなど、どうして可能だろうか。

18. 今日、人々は、自分たちを至る所で取り巻く悲惨さを解消するどころか、そこから自分たちに最大の利益を引き出そうとしている。

なぜ人々は、精神にふさわしい、より純粋な感情や志をもたらしてくれる理想を追い求めて、高みへと発展しなかったのだろうか？それは、彼らが、この世の目に見えるもの、すなわち自らの苦難や地上の快楽、そして物質主義的な科学の先を見ようとしなかったからである。 彼らは、この世で与えられた時間を、できるだけ多くの富と快楽を得るために費やし、活用してきた――肉体が滅びれば、自分たちにとってすべてが終わりだと考えていたからだ。

人間は、高みへと発展し、自らを神の子と見なす代わりに、無知な傲慢さゆえに、より低次の存在の段階へと堕ちていく。そして、その精神が神性や霊的な生命から語りかけると、神の正義への恐怖に支配され、その内なる声を黙らせ、そうした警告について「無駄に」考えることを避けることを選ぶのである。

彼は、自らの存在についても、また精神的・肉体的な状態についても、深く考えたことがない。このように生き、考える限り、彼が塵であり、惨めな存在である以外に、どうしてそうではないと言えるだろうか。

19. それゆえ、わたしはあなたがたに教える。見よ、わたしの言葉を聞く者たちは、その心の中に別の観念を抱き、魂の持つあのより高い生命について深く思索する。それは、人間の中に、すなわちわたしの神聖な恵みという、より高きものが存在することを理解すれば、この地上の生活においてすでに生き始めることができるのである。

20. これによって、万物を支配する法則、すなわち力が、神そのものであることが分かるだろう。神の力と知恵は、神の完全性を映し出す自然の中に現れているのである。 もし人類が、その父の偉大さを認識し、認め、父を崇拝するためにその像を作る必要はないことを理解し、一見取るに足らないように見える被造物の中にも父を見出すことができるようになれば、人類は正しい道を進み、

すべての被造物に内在する神の知恵と力を認識する道へと歩み出すことになるでしょう。 このようにして、私の教えを受ける者たちは、その理解力がさらなる地平へと開かれるにつれて、ますます霊的な存在へと変容していくでしょう。彼らを閉じ込めていた壁は、彼らの目の前で崩れ落ち、彼らは次々と教えを探求し、理解することができる世界を見出すことになるでしょう。

21. しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたが学んだことは、わたしの御心であるすべてを理解するには、まだ不十分である。あなたがたはこの広大な道を、まだ長い間歩み続けなければならない。しかし、わたしはまた、あなたがたにこう告げる。無知のベールを引き裂くことができたその瞬間から、もはや後戻りはできないのだ。 この天上の歌声を一度でも耳にした者は、もはや私の霊感に耳を閉ざすことはできず、その唇も主を賛美することをやめることはないだろう。

22. 今日、あなたがたは、心の底から湧き上がる、その都度異なる祈りを捧げることができるようになった。つい最近まで、あなたがたは、理性や書物から生まれた作為的な言葉を紡いでいた。今や、あなたがたの祈りにはもはや限界がない。なぜなら、真の信仰をもって内面的に高揚するたびに、あなたがたは戦いにますます近づいているのを感じるからだ。 それゆえ、自分や他者の苦しみの中においても、また感謝を捧げる際にも、唇に載せる言葉の代わりに、魂に寄り添い、それを主の御前に運び上げるのは、霊感そのものである。今日、主の栄光を賛美するのは、もはやあなたの唇ではなく、今やあなたの全存在が、主の慈愛を証ししているのである。

23. 自分自身を知り、過ちを発見したら、それを正しなさい。すべての魂が到達しなければならない場所へと戻るという希望をもって、自らを励ましなさい。その渇望をもって、自分自身とも戦いなさい。あなたがたが霊的な性質において優れていることを、自分自身に証明しなさい。情欲や悪しき傾向があなたを支配しようとしたとき、それを克服できることを、自分自身に証明しなさい。

24. しかし、かつてあなたがたが肉体の快楽のために生き、自らを崇拝するための神殿を築き、永遠に強く力強いと自負していたあの時代の遺産は、精神的・物質的価値が何を意味するのかという真の認識によって取り除かれるであろう。

25. 自分の強さや精神的な価値に対する確信が、虚栄心の根拠であってはなりません。なぜなら、精神的な偉大さは、この世の偉大さとは大きく異なるからです。

26. 精神とは、光の火花であり、愛の種であり、生命の萌芽である。

27. 偉大さを手に入れようとして、ただこの世の野心に手綱を緩めてしまったとき、あなたがたがいかに誤った道を進んだかを悟りなさい。

28. 皆さんは今、徐々に霊性を理解しつつあります。それゆえ、与えられたこの人生の終わりを迎えるとき、皆さんの魂は光と悟りと恵みに満ちることになるでしょう。

29. では、あなたがたは、自分たちが生きているこの時代を正しく理解しているだろうか。

30. 諸国民の代表者たちが、民族間の紛争を解決するために集まる際、彼らを力強く支えられるよう祈りなさい。彼らは解決策について、それぞれ異なる考えを持っているとでも思うのか？ いいえ、民よ、彼らは錯覚している――内面において、良心においては、彼らは一致しているのだ。彼らを自らの信念を無視させてしまうのは、物質的な利害関係に他ならない。 もし誰もが良心に従って行動すれば、あらゆる紛争の解決はどれほど容易なことでしょう。そうすれば、世界は平和になるでしょう。諸国民の運命を導く者たちは、自らの偉大さを考えるどころか、すべての人の幸福を思うようになるでしょう。しかし、そのような兆しは全く見られず、不信感によって人々は常に警戒を怠りません。

31. 改めてあなたがたに告げる。もし世界が私の道に立ち返り、私の教えに従うならば、その問題は解決され、平和に暮らすことになるだろう。

32. この日、私の普遍的な光線が、あなたがたの魂に降り注ぎ、永遠の命のパンであなたがたを養う。あなたがたを呼び寄せたのは、私の声である。

私は、あなたがたの中に、最も後に来た者たちを見出しています。彼らを、私の言葉によって活力を得るよう招きます。 ある者は不信仰であり、ある者は偶像崇拝者であり、ある者は柔和な羊のように囲いへとやって来るが、またある者は顔に偽善の仮面を被っている。彼らは私の存在を疑い、心の中では私の教えを嘲笑している。なぜなら、創造主が人間の知性を通じて自らを現すなど、彼らにとってはあり得ないことだからである。

33. もし現れているのが真の神でなかったなら、神は私があなたがたに与える証拠を示したり、徳の道を教えたりすることはなかっただろう。信じない者は、深く考えなかったがゆえにそうしているのだ。その心は閉ざされており、暗闇の中にいるのである。

34. その声は、あなた方にこう告げている。「私は真の神、父、命、そして光である。私は、この姿で自らを現すために降りてきた。それは、あなたがたが真理を理解し、その深淵を探求することを妨げている、迷い、過ち、そして低俗な情欲を取り除くためである。」

35. あなたがたは私の祝宴に招かれているのだから、私は誰をも他者に密告することはない。あなたがたの霊の中に宿る私の光を通して、私はあなたがたの魂に語りかけ、その魂を揺さぶり、目覚めさせるのだ。

36. 私は、あなたがたが「第二の時代」に裁いたあのキリストそのものである。しかし、時代は私の意志によって区切られてきたのである。

37. あの時、あなたがたがわたしを十字架へと導いたとき、わたしはあなたがたへの愛ゆえに、自らの血の最後の一滴までも流した。その際、あなたがたはメシアをその理由を十分に承知の上で裁いたにもかかわらず、わたしはあなたがたを、自分が何をしているのかわからない無実の人であるかのように見せかけた。しかし、わたしはあなたがたを、師に従い、人類の間にわたしの教えを広めた十二人の男たちの世話に委ねて去った。

38. 今日、私はあなたがたの中に、かつて「彼を十字架につけよ！彼は魔術師だ！」と声を張り上げて叫んでいた者たちを見出す。彼らは、私が施した恵みをそのように見誤っていたのだ。

39. 時代は過ぎ去り、あなたがたの魂は、私の御心に従ってこの国に住むことになった。それは、あなたがたが「神の言葉」、すなわち愛と命の言葉を、これまでとは異なる形で受け止めるためである。

40. 見よ、わたしはここ、あなたがたのそばにいる！ あなたがたがわたしを受け入れてくれるよう、わたしはあなたがたの心に呼びかける。わたしは、深く愛するあなたがたの魂を慕って、この地へ降りてきたのだ。なぜなら、あなたがたは自らの魂を罪に縛りつけ、その光を曇らせてしまったからである。

41. あなたがたの知性が輝いたとしても、それは隣人を愛するためではなかった。なぜなら、あなたがたの愛は、安楽と物質的な満足に満ちた生活の中で、衰えてしまったからである。

42. あなたがたは、魂の永遠の命を忘れ、ついにはこの世で自分たちを神だと見なしてしまう。あなたがたは、私が人間同士の流血を阻止しないのを見て、次第に私の存在や私の正義を疑うよう

になる。しかし、私が裁き人として容赦なく、過ちの贖罪と浄化を苦痛を通じて許していることを理解していないのだ。

43. 心を開きなさい！魂を高めなさい！あなたがたに語りかけているその声が、常に愛と慈悲と完全さについて語ってきた声そのものであると、魂に告げさせなさい。 第三の時代が、あなた方を不意に襲った！　第二の時代のように、私を人間として見たいと願ってはならない！　私が「雲の上から」来ると告げたことを思い出せ。私の神聖な御霊があなた方の元へ降りてくる。それゆえ、私は完全性の階段から、その声を伝える者へと私の光線を注ぎ下ろし、こうしてこの世の汚れの中にあっても、私の声そのものが聞こえるようになるのだ。

44. 私の言葉を聞くのは、あなたたちだけではない。「言葉」である私は、この地球全体に私の光を注いでいる。しかし、もしあなたがたが皆に、あの世から降りてくる声を聞いたかと尋ねたとしても、彼らは「いいえ」と答えるだろう。なぜだろうか？

それは、人々が罪と狂信に包まれ、良心から発せられる呼びかけに耳を傾けることなく、この世の道を耳が聞こえないまま歩んでいるからである。

45. 1866年以来、私はあなたがたに、あなたがたの魂の救いとなり、全地球上で完全な平和を得るための道を指し示す私の言葉を授けてきた。

46. 私は、あなたがたの魂に、主に対する罪を償うための困難な使命を託した。私は今、雑草を引き抜き、それを束ねて火の中に投げ込み、灰になるまで焼き尽くそうとしている。なぜなら、やがて光が輝き、私の教えは世界中で認められるようになるからだ。

47. 人間は新たな教えや新たな法律を打ち立てるだろうが、もはや人間の意志ではなく、わたしの意志が成されることになる。そうして、平和と調和、そして兄弟愛が訪れる。心はもはや憎しみによって養われることはなく、殺意に満ちた手ももはや上げられることはない。しかし、これらすべてが実現するために、わたしはまず、あなた方を清める。 あなた方のうち何人かは、霊界の谷からこれらの預言が成就するのを見ることになるだろう。そして、引き続きこの地上に暮らす者たちは、1950年以降の新しい世代に、その証しを伝えることになるだろう。

48. 人々よ。あなたがたがわたしのもとへ至るために、わたしが示した道はただ一つである。その道は光によって示されている。その道には、命と祈りがある。 それは魂の道である。あなたがたがこの道を歩むならば、滅びることはない。この道を歩むならば

、世界に霊の教えを宣べ伝え、わたしの啓示を証しし、完全な祈りを通してわたしのもとに来るよう、同胞たちに教えよ。

49. 民よ、私がオリーブ園で、父に人類の赦しを懇願した際、あなたがたに示したあの祈りの模範を思い出せ。イエスの肉体は天の父の前にひれ伏したが、単なる像の前ではなかった。そして私は、人類に遺したその天に向かって言葉を捧げたのである。

50. 再び、私はあなたがたの上に私の慈悲を注ぎ、愛を込めてあなたがたを抱きしめる。 人生の旅人よ、弟子たちよ、そして幼き学び手たちよ。今日は、師の声が降りてきて、あなた方を慈しむ恵みの日である。私は厳しい裁き人としてではなく、公正な父として現れ、私の言葉をもって、あなた方が迷い出てしまった、私が敷いた道へと導く。

51. あなたがたは皆、戦士である。私は、意気消沈してやって来る者もいるのを見ている。勝利を収めた者もいれば、まだ勝利の歌を歌い始めていない者もいる。あなたがたはまだこの戦いの真っ只中にあり、その結末を知らない。あなたがたが種を蒔かなければならない、そしてまだ知らないその畑は、非常に広大である。しかし、あなたがたには種が豊かにあり、それを蒔くことができるだろう。

52. ある者たちは、自らの使命を果たすことに献身的で力強い一方で、他の者たちは疲労に襲われ、力尽きてしまう。彼らは、すべてを見通す目があり、すべてを聞き取る耳があり、すべてを書き留める手があることを知っているにもかかわらず、そうなるのだ。あなたがたが今日生きているこの貴重な時間を無駄に過ごしていること、そして明日には、光のないまま、もはや目を開くことはできなくなることを肝に銘じておきなさい。 その時、あなたがたはわたしの言葉を聞こうとしなかったがゆえに、魂は悲しみに満ちて立ち上がるだろう。あなたがたの魂は、今この時のようにわたしに耳を傾けたいという計り知れない渇望に駆られるだろう。しかし、あなたがたに届くのは、良心の声という厳しい声だけであり、それはあなたがたを震え上がらせるだろう。

それゆえ、今日、私はあなたがたにこう告げる。私の言葉から遠ざかってはならない。私の教えに耳を塞いではならない。この教えを、聖なる文書のようにその真意を深く受け止めよ。あなたがたは私の前でその責任を問われることになるのだから。それはすなわち、律法そのものだからである。

53. わが教えの偉大さを理解することにおける民の盲目さは、彼らの罪と苦しみによる結果である。

54. わたしがあなたがたに与えるこの真髄は、魂にとっての命であり、悲しみに沈むあらゆる精神にとっての癒やしである。それは、不毛の野に降り注ぐ露のようだ。

55. もしあなたがたがまだ良い実を収穫できていないのなら、その理由を良心に問いかけてみよ。そうすれば、良心はこう答えるだろう。「良い結果を得るためには、働き、目を覚ましていなければならない」と。 その地に良い模範を蒔き、徳を蒔き、私があなたがたの魂に与えた能力を現しなさい。魂から邪悪な情欲を剥ぎ取り、善行でそれを覆いなさい。そうすれば、あなたがたは地上で私の真の子となり、私の神性の体現者となるでしょう。

56. わたしはお一人お一人に、わたしの三位一体・マリア的霊的事業を広める責任を課した。この事業は人類の間で議論を呼ぶことになり、人々の考え方に革命をもたらし、この事業の始まりを理解できず、ましてやその最終目標を理解することなど到底できない者たちを、すべて混乱させることになるだろう。

57. わたしの種を蒔く者たちは眠り込んでおり、清く純粋であるはずのわたしの業を広めようとはしない。彼らは、自分たちの悪しき行いをその業に混ぜてしまったことを自覚しているからだ。世界がこの啓示によって私の言葉を聞くことができる時間は、もはやわずかしか残されていない。もしあなたがたが眠り続けるならば、明日、心には痛みと苦しみを抱くことになるだろう。しかし、あなたがたを裁くのは父ではなく、あなたがたの良心である。

58. あなたがたがこれらの糧を味わえる時間は、あとわずかしか残されていない。1950年の終わりに、誰がわたしの元にいるだろうか。あなたがたのうち、誰が収穫の豊かな小麦を提示できるだろうか。

59. 世界は深い無気力の中に眠り、あなたがたが来て、それを生き返らせるのを待っている。あなたがたは、まだ「死者」のもとへ向かう旅に出ていない。それは、わたしへの信頼が欠けているからだ。あなたがたは人々から何を恐れているのか。彼らの司法を恐れているのか、それとも死を恐れているのか。わたしは、あなたがたを死から解放すると告げたではないか。 私があなたがたに永遠の命を与えたことを忘れないでください。

60. 私は「永遠の御言葉」であるゆえ、あなたがたに語りかけることに疲れを知らない。私の御言葉は、石のような心を削り、滑らかにする彫刻刀であり、そこから私は水晶のように澄んだ水を湧き出させるのだ。

61. この苦痛と悲劇の時代に、私はあなたがたに私を模範としてほしいと願っている。しかし、私を全幅の信頼を寄せてくれれば、あなたがたの周囲の人々もスピリチュアリズムの輝きを知ることができるだろう。私と同じように行動すればよいのだ。不安になることはない。十字架の重荷は、あなたがたの力の及ばないものではない。

62. 民よ、あなたがたの大きな試練の代償として、あなたがたにはわたしの言葉がある。あなたがたは、わたしの業のゆえに、身内から誤解され、軽蔑されてきた。あなたがたのうち、どれほど多くの者が、この世の放蕩や快楽に身を委ね、そのたびに魂を退化させてしまったことか。あらゆる放蕩が、魂への一撃であったのだ。しかし、結局のところ、誰があなたがたをその道から引き離したのか？――あなたがたの師である。 ― あなたがたは私の愛を理解し、そのことに感謝している。なぜなら、あなたがたの犠牲に対する報いとして、私があなたがたに語りかけていることを知っているからだ。

63. あなたがたは、自分の過去を知る目などないだろうと信じていた。しかし、私はここにいて、あなたがたが私の存在と臨在を疑うことのないよう、あなたがたの人生の書物を読み解いている。

64. この時代、私はあなたがたを私の弟子たちの座に据えた。それは、第二の時代に私が使徒たちを私の周りに集めたのと同じである。

65. わが言葉は、わが足跡が残した道へとあなた方を導く。あなた方はすでに長い間旅を続けてきたが、それでもなお、あなた方の唇からは勝利の叫びは上がっていない。あなた方はまだ戦いの真っ只中にあり、人生の旅の終着点にたどり着いて初めて、報いを受けることになる。ある者は力強く、ある者は疲れ果てている。私は、あなたがたがそこで思索にふけることができるよう、休息の時間を与える。今こそ、誰も無駄にしてはならない貴重な時だからである。

66. わたしの教えを軽んじてはならず、わたしの声に耳を塞いではならない。この言葉を聞き、その真意を悟りなさい。その偉大さを認識できるよう、心を澄ませ、心を清めなさい。 この言葉の中にこそ、あなたがたの魂に命を与えるものが宿っている。これは、私が乾いた野原に降り注ぐ露であり、あなたがたが人類にもたらすべき種である。私の子供たちの中には、種を蒔いても実を結べ

なかった者がいたが、それは種が清くなかったからである。良き種を蒔き、良き実を待ち望め。

67. あなたがたの使命の遂行を常に妨げてきた、人々に対する恐れを心から追い払いなさい。魂が裸になるまであらゆる汚れから解放し、それから善行の光でそれを覆い始めなさい。そうすれば、あなたがたは内面から、私の律法を広めるにふさわしいと実感するようになるだろう。私の教えを説き、人々にそれを探求させなさい。 私の業に踏み込むとき、彼らはその始まりを見出すこともなければ、その終わりを見ることもないだろう。

68. 私の教えは極めて純粋であるため、人々の前で何一つ謝罪したり、恥じたりする必要はない。もしそれでも恥じるべきことがあるとすれば、それはあなたがたが教えに何かを付け加えたからか、あるいはあなたがたの生き方が、教えていることと一致していないからに他ならない。 しばしば、人々に気づかれずにやり過ごしたいと思うだろう。しかし、それは不可能である。なぜなら、私はあなたがたを遣わしたのは、善行の模範をもってこの福音を伝えるためだからである。

69. 世界は、思いがけず自分たちにとって新しい時代が幕を開けたことに気づき、これらのことについて語れる者たちに助けを求めるようになるだろう。しかし、もしあなたがたが眠り込んでしまったら――そのとき、どれほどの苦痛を伴って目覚めることになろうか！

70. この御言葉を聞くために、あなたたちに残されているのは「ほんの一瞬」だけである。終わりが来たとき、誰がわたしのそばにいるだろうか。誰が、わたしがあなたたちに与えたとおりに、わたしの律法を純粋に守り抜くだろうか。

71. それからは、あなたがたは気丈に立ち上がり、その崇高な使命を果たさなければならないことを心に留めておきなさい。あなたがたは死を恐れてはならない。なぜなら、私はあなたがたに、死はあなたがたに送られることはない、と告げるからである。しかし、あなたがたは、自分自身の内に抱えている誘惑に致命的な一撃を与え、倒れることのないようにしなければならない。良き弟子は、他の人々に弱さや情欲を克服するよう教えるために、まず自らを克服することを学ばなければならない。

72. 私があなたがたに語りかけるその簡潔さに気づかないのか。まことに、あなたがたに告げる。それは、第二の時代に現れたものと同じである。その時代、私は人間に等しくなるために自らを

制限し、私の言葉と模範によって人間を高め、神に似た者となるように導いたのである。

73. あなたがたは私の道具となりなさい。しかし、私が人々の心に届くのを妨げる障害となっては決してならない。なぜ、あなたがたは私と同じようにできることを疑うのか。あなたがたは教えを正しく理解していない。あなたがたは私の子供であるのだから、きっと父から似たようなものを受け継いでいるはずだ。そして、あなたがたの父は善なる方である。

74. あなたがたは、あらゆる運命の試練を乗り越えて、神聖なる師の足跡をたどるために、霊界からこの地上に降りてきたのである。 そして今、私があなた方を通して自らを現しているこの時、あなた方は私を聞き取るために、持っているものすべてを置き去りにしている。まさか、あなた方の放棄や犠牲が、私によって報われないとでも思っているのか。毎日一歩ずつ前進できるよう、あなた方の使命の最終目標を、一日たりとも忘れるな。

75. あなたがたは*私に*何も与えることはないのだと心に留めておきなさい。あなたがたが成し遂げたことはすべて、あなたがた自身のものとなる。

76. なぜ私は身をかがめ、時には最も深い深淵にまで降りて、あなた方を救うのか？――それは、私があなた方を愛しているからだ。

77. この教えこそが、あなたがたにとって、祖国へ帰るための基礎であり、短く確かな道である。それは霊化の教えである。もしあなたがたがこれを理解すれば――そのとき、あなたがたの思い、言葉、そして行いには、どれほどの光が満ちるだろう！ 口先だけで「自分はスピリチュアリストだ」と繰り返してはならない。一度真にそうとなれば、それを大々的に宣伝する必要などなくなるのだ。

78. 私が今、あなたがたの心と魂に与えているこれらの教えについて、よく考えてください。明日、あなたがたは、周囲の人々にこれを教えるために、そこでその教えを探さなければならないでしょう。

私の平安があなた方とともにありますように！

目次

教え 175	**節番号**
スピリチュアリズムと利己的な唯物論との戦い	4
神は正しく用いられた科学を祝福される	8
神の正義は輪廻転生を認める	11
神はその正義において、 人間の邪悪さに対して限界を設ける	15
精神が高まれば、苦しみは消え去る	16
死、永遠の破滅、そして地獄はどこにあるのか？	17
すべての魂は神の魂の一部である	22
霊的なものは時間の外側に存在する	27
墓地における唯物論と狂信	29
著作、言葉、そして祈り	36
三つの遺言が一つに結ばれて	49
「黄金の子牛」	55
幕屋と契約の箱	56
ダビデとソロモンの教訓	62
御霊による新しいイスラエル	68
今まさに成就しつつある預言	70
自由意志と良心	76
教え 176	**節番号**
イエスの限りない愛の模範	1
世界平和のための条件	15
使徒たちの働き	18
調和のとれた発展	25
霊界における使命の遂行	33
大きな霊的啓示の時が近づいている	38
世界は奴隷で溢れている	50
教え 177	**節番号**
平和と精神的向上をめぐる闘い	1
神には怒りなど存在しない	19
神は罰を与えない	21
試練や闘いにおける祈りと心の平安	39
浄化の益	44
多くの人が自分たちをクリスチャンと呼んでいる	46
神からのあらゆる啓示には終わりがある	50
霊から霊への伝達	68

教え 178	**節番号**
蒔いたものは刈り取る	2
人間の中にある霊	7
成就への準備	14
真のスピリチュアリスト	30
神にはいかなる形もない	39
霊的生活に関する啓示	45
霊的な戦いは普遍的なものである	64
霊的なコミュニケーション	72
霊的昇華に関する啓示	74
教え 179	**節番号**
霊的イスラエルの永遠の使命	1
試練の時代における備えと信仰	15
霊は肉に先立つ	35
預言された第三の来臨	36
私たちの霊は神の霊の一部である	49
霊的および物質的な面におけるメキシコの準備	52
この地上での人生を	64
教え 180	**節番号**
良心の光は弟子の導き手である	1
「裕福な若者たち」	8
進化の法則	29
霊的な言葉を理解しなければならない	34
メキシコに関する予言	38
ゴルゴタのドラマに関する教え	48
この世を去るための準備	52
魂の受肉の意味	63
情熱を制御できれば、 どちらかの側に立つ危険にさらされることはない	77
1950年以降	84
教え 181	**節番号**
普遍的な光線の遍在性	1
神には、怒りも、罰も、復讐も存在しない	6
神性を発見するのは理性ではなく、霊性である	14
パンとワインの意義	18
行い、言葉、そして思いにおける慈悲	22
復活と命	33

雲に乗って主が再び来られるという約束は この時代における復活である	52
2000年頃における霊的賜物の顕現	56
あらゆる転生は、天国への階段を形作る	63
主の新たな到来	74
教え 182	**節番号**
良心や直感は、自らを救うための手段である	1
実践するための決まった時間は存在しない 神の模範	16
物質科学と霊界の知恵	19
決して自分自身を牢獄に閉じ込めてはならない	23
予言	34
霊界	40
悪の王国	42
地獄の意味	45
人類は真の意味でキリスト教的ではない	54
かつてと現在のエリヤ	56
神の光への目覚め	60
言葉なき祈り	64
霊的存在たちの間の調和の力	66
真実	77
教え 183	**節番号**
混乱に先立つ弟子たちの準備	1
神の言葉が歪められた	7
運命には正義がある	22
メキシコの偉大な使命	33
精神におけるイスラエルの再生	34
復活に関する説明	35
「放蕩息子」（E1:61） xxx	40
聖霊の時代	42
人間の罪によって混沌が訪れる	48
教え 184	**節番号**
神の正義、あるいは人間の愚かさ	4
私たちには未知の領域に存在する霊的存在たちも、 もまた、	17
この言葉を翻訳するにあたっては、神聖な本質を 精神的な付加物なしに保持されなければならない	20
真実は形や象徴を超越している	28

愛とは、精神がその創造主へと至る道である	38
天と地に関する誤った考え	40
ある領域から次の領域への精神の発達	44
精神と物質の調和に向けて	55
教え 185	**節番号**
精神を自由に高揚させる能力	1
第三の時代における世界への御言葉の普及	17
精神が発展するにつれて、誤った概念は消え去っていく	29
私たちの霊的な兄弟姉妹たちが私たちを取り囲んでいる	33
物質化を伴わない霊的な崇拝	37
人間の知性を 精神と混同してはならない	43
成就した予言	46
教え 186	**節番号**
光と闇の壮絶な戦い	4
霊の不死性に関する解説	15
良心はインスピレーションの源である	20
第三の時代の顕現	22
罰の代わりに光と赦し	28
スピリチュアリティへの一歩	37
進化の道	43
輪廻転生は霊的進歩に合致する	45
教え 187	**節番号**
忠実な後継者たち	3
精神と物質の関係	19
精神は愛することに決して疲れることはない	26
より良い世界を築くには？	27
神と出会えるのは精神だけである	31
明晰さと真実こそが、スピリチュアリストを際立たせる	39
未来の平和に関する予言	45
人間は自らの 精神的未熟さに対して責任を負う	48
良心の重要性	63
自らの功績によって、私たちは神のもとへ至る	66
教え 188	**節番号**
御霊は道を選ぶ完全な自由を享受している	6
輪廻転生は償いの手段である	7

霊的な再認識	16
死など存在しない	28
第三の聖書	29
霊的存在のあり方	39
スピリチュアリズムの危険性	42
すべての霊は永遠である	43
恐ろしいイデオロギー戦争に関する予言	52
神の法と人間の法	62
光、正義、そして 父の愛の力強い流れ	69
教え 189	**節番号**
先駆者エリアス	2
弟子の責任	11
スピリチュアリズム、その正しい理解	25
神のみが誤りない	31
メキシコとその責任	36
子どもたちと若者への呼びかけ	47
メキシコの使命	57
『命の書』	58
新たな戦争を防ぐ方法	67
発展の法則	74
教え 190	**節番号**
エリヤスの重要性	1
1866年から1950年までの神からの啓示	10
いわゆる「富裕層」の虚栄心	18
「天国」への精神の高揚	27
善のために転生した天使たち	51
ソロモンの悪い手本	52
霊の命は永遠である	57
物質的な誘惑の力は存在する	61
精神と身体の関係	65
教え 191	**節番号**
精神の発展と高揚に向けた準備	1
不従順による混乱、1950年以降	16
第三の時代の業の意義	18
霊的な姿は信仰を強める	22
善の力は万物の原理である	26
悪は永遠ではない	27

天の意義	37
霊的な賜物	52
研鑽と瞑想	66
教え 192	**節番号**
9月1日	1
永遠の破滅という誤った信仰	4
霊の存在と永遠	13
分派や分裂の起源	17
新しい教義はないが、新たな啓示はある	18
神の霊も、人間の霊も、いかなる形も持たない	19
霊界の影響	31
霊の道	34
人間の傲慢と神の知恵	53
第三の時代の顕現に関する説明	63
教え 193	**節番号**
スピリチュアリズムは世界を変革する	2
直感の賜物	9
目標は、霊において完全な世界である	27
スピリチュアリストの特徴	34
霊的進歩を妨げようとする者たち	38
精神の試練と進歩	41
神は罰を与えない。誰もが自分自身を裁く者である	50
1950年の重要性	60
声の担い手	71
神の使者たちはこの世で活動している	74
教え 194	**節番号**
霊的存在の目的と使命	7
人類を驚かせる新たな時代の到来	9
人々の間では、スピリチュアリティはまだ明確に定義されていない	16
スピリチュアリズムには物質的な限界はない	23
霊的な光の時代	31
概念は変容していく	33
輪廻転生の理由	35
人間の精神は原子であり、創造主の所有物である	50
予兆は実現した	66
精神は常に完成へと向かう	70
教え 195	**節番号**
神の言葉はあらゆる存在を照らす	2

全被造物は、 神の法則のリズムに合わせて	17
全能者の遍在性	20
霊的な成長は知性を啓発する	21
自然現象が荒れ狂う原因	26
霊界	36
霊界の住まい	38
輪廻転生の法則	46
肉体も精神も、それぞれに重要な役割がある	49
運命の意義	53
初期の使徒モーセ	65
メシアの新たな教え	71
1866年以降の聖霊の啓示	75
教え　196	**節番号**
僕たちへの呼びかけ	2
人間の限界を超えた直接的なコミュニケーション	12
霊は戦いに備えている	17
死者とは誰なのか？	20
死者は死者に葬らせよ	23
偶像崇拝者たちは目覚めるだろう	41
教え 197	**節番号**
『黙示録』は、私たちが今日生きている時代を明らかにしている	3
真のスピリチュアリスト	11
貧困と富の意味	24
準備不足による分裂	39
真のスピリチュアリズム	49
許しの重要性と謙虚さ	58
教え 198	**節番号**
神の御業は全世界に知られるようになる	3
この時代のための教訓	10
創造のすべては自然なものだ	11
知性ではなく、精神の知恵	17
霊的イスラエルへの呼びかけ	24
預言者たちの使命	35
第三の時代のコミュニケーション	59
真の弟子の権能	72
病気に関する法則と限界	75
成就した預言	77

教え 199	節番号
人類こそが平和の基盤である	3
光は鎖を断ち切る	10
精神は身体の導き手である	25
1866年から1950年までの顕現に関する説明	48
概念の解説	52
天上のコンサート	53
兄弟殺しとなる宗教戦争	62
神性における不可能性	68
第三の時代の成就した予言	70
家族	72
結婚	75
大使	79
教え 200	**節番号**
霊界の意味	1
第三時代のイスラエル	23
貧しい者たちと相続権を奪われた者たちの使命	28
精神的発展の新たな時代	41
力は信仰と人間の清らかさに宿る	47
平和への道	62
教え 201	**節番号**
三つの時代のメッセージ	1
霊的な民が湧き出る	8
神にある兄弟姉妹たち	22
賜物の結びつきは、無敵の力をもたらす	25
国家間の調和	27
精神を鍛えるには強さが必要だ	36
この世での義務は、精神的な使命の一部である	45
精神とその創造主との結びつき	48
教え　202	**節番号**
クリスマスイブ	1
不死の種	12
無限の前での問答	16
霊的な真理	25
慈悲	62
教え 203	**節番号**
意志と理性によって、闇の覆いは取り除かれる	1
律法は成就する	11
成就の計画	25

マリアは神の御霊の一部である	38
神の御霊の代弁者	41
霊におけるイスラエル	45
教え 204	**節番号**
その人物こそが楽園を地獄に変えてしまう	4
神の愛こそが天国の鍵である	7
三つの時代の意義	16
神の正義は決して罰を与えない	27
神はただひとりしか存在しない	41
高潔な心と卑しい心	47
真理を知ることは責任を伴う	53
心は宇宙の神殿の一部である	63
教え 205	**節番号**
神の御心が成就され、人間の意志が成就されないように	5
精神を不必要なものから解放すること	8
神は我らの中にいる	12
肉体と精神	25
多様な霊的な住まい	30
人間を通じた神の顕現	45
スピリチュアリティによる健康と光	50
教え 206	**節番号**
完全性への道はすでに示されている	1
誰もが光に到達するだろう	18
精神的な責任	20
予言	22
無力な存在などいない	36
神に受け入れられる唯一の悔い改め	52
人類に対する神の三つの啓示	55
教え 207	**節番号**
霊の真の価値	7
人間の精神的・物質的な状況	14
スピリチュアリティは壁を取り払い、視野を広げる	20
スピリチュアリズムは世界的に認められるようになるだろう	46

メキシコにおける神の教え 1866-1950
参考文献

ライヒル出版社、D-56329 ザンクト・ゴア、電話：+49 (0)6741 1720
『真の生命の書』第I巻、第II巻、第III巻、第IV巻、第V巻、第VI巻
『第三の聖書』（スペイン語、英語、フランス語版も）
『メキシコの神の啓示』（概要）
人生に関する神の啓示
第三の時代のための予言

『人生のための書籍サービス』、マンフレッド・ベーゼ、Kirchweg 5、D-88521 エルティンゲン
電話：+49 (0)7371 929 66 42、Eメール：manfredbaese@gmx.de
神の愛――私たちの人生とあらゆる存在の起源、本質、そして目的
『El Amor Divino』―私たちの人生とあらゆる存在の起源、本質、そして目的
『真の生命の書』第VII、VIII、IX、X、XI、XII巻
『第三の聖書』

ユニコン財団、D-88709 メースブルク
電話：+49 (0)7532 808162、Eメール：info@unicon-stiftung.de
『真の生命の書』入門（無料）

アソシアシオン・デ・エストゥディオス・エスピリチュアレス・ヴィダ・ベルデラ A.C.
Orinoco N° 54 Interior 5, Col. Zacahuitzco, 03550 メキシコシティ
『真の生命の書』、第I巻～第XII巻
『第三の聖書』
およびメキシコのこれらの神の啓示に関するその他の書籍

ウェブサイト

www.drei-offenbarungen.net
www.reichl-verlag.de
www.unicon-stiftung.de
www.drittes-testament.de
www.drittetestament.wordpress.com（多言語対応）
www.tercera-era.net（スペイン語）
www.144000.net（多言語対応）